

年 報

Annual Report 2019

社会医療法人 愛 仁 会
社会福祉法人 愛 和 会

AIJINKAI

Ajinkai Healthcare Corporation
since 1958

年報

Annual report 2019 目次

I. 巻頭言

II. はじめに・理念・沿革

III. 施設概況

a. 千船病院

b. 介護老人保健施設ユーアイ

c. カーム尼崎健診プラザ

d. 介護付有料老人ホームスローライフおかじま

e. 尼崎だいもつ病院

f. 介護老人保健施設だいもつ

g. 高槻病院

h. 愛仁会リハビリテーション病院

i. しんあい病院

j. しんあいクリニック

k. 介護老人保健施設ケーアイ

l. 介護老人保健施設しんあい

m. 社会福祉法人愛和会（高槻地区）

n. 愛仁会総合健康センター

o. 愛仁会看護助産専門学校

p. 明石医療センター

q. 明石医療センター附属看護専門学校

r. 井上病院

s. 井上病院附属診療所

t. 井上診療所

u. 介護老人保健施設ひまわり

v. 介護老人保健施設つくも

w. 社会福祉法人愛和会（宝塚地区）

x. 社会福祉法人愛和会（豊中地区）

y. 愛仁会本部

IV. 統計総括

V. 業績集

I . 卷頭言

(動画は[こちら](#))

Ⅱ．はじめに・理念・沿革

はじめに

本年報は2019年4月1日から2020年3月31日までの法人活動を対象とした業績報告である。

社会医療法人愛仁会 理念

1. 広く社会のためにより良い医療サービスを提供し、健康で豊かな生活の増進に貢献する。
2. 法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る。
4. 医療人としての使命を自覚し、学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共にする。

モットー

●貢献 ●創意 ●協調

沿革

1958年11月 1日	医療法人設立認可	4月 1日	中後勝先生 会長就任
1959年 1月11日	医療法人愛仁会千船診療所発足		根岸宏邦先生 理事長就任
1966年 5月 1日	千船病院開院 (94床)		千船病院 厚生労働省臨床研修指定病院に認可
1971年 5月 2日	千船病院増築竣工開院 (191床)		職員共済会「親愛会」発足
1977年 6月10日	本部事務局発足		高槻病院 東館開設
11月 1日	高槻病院竣工開院 (180床)	8月 4日	高槻病院 総合周産期母子医療センター棟開設
1980年 4月 1日	愛仁会看護専門学校開校	10月 1日	高槻病院 総合周産期母子医療センター棟開設
1982年 4月 1日	高槻病院新築移転開院 (302床)		
7月 1日	千船病院新築移転開院 (292床)	2002年 1月10日	社会福祉法人豊中愛和会設立
1983年 4月 1日	理学診療科病院開院 (186床)	5月13日	中後会長 勲四等瑞宝章受章
1984年 9月 1日	杏和総合医学研究所設立	2003年 4月 1日	社会福祉法人豊中愛和会 総合福祉施設
1985年 3月23日	竹中普久先生名誉理事長就任		ローズコミュニティ・緑地開設
4月 1日	中後勝先生理事長就任	4月22日	本部保健福祉事業部 ISO9001取得
1987年 3月18日	特定医療法人認可	9月 9日	根岸理事長 救急医療功労者厚生労働大臣賞受賞
8月 1日	高槻病院増築竣工開院 (477床)		
1989年 4月 1日	愛仁会新理念制定	12月15日	高槻病院 病院機能評価更新認定
1991年 4月 1日	本部事務局を愛仁会本部と名称変更	2004年 2月 1日	高槻病院, 愛仁会リハビリテーション病院
1995年 8月 1日	介護老人保健施設「ユアアイ」竣工 (入所100名)		電子カルテシステム導入
1996年 8月 1日	訪問看護ステーション「ほほえみ」設立	2月16日	千船病院 病院機能評価更新認定
8月 1日	千船病院 開放型病院認可	4月 1日	高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設
1997年 4月 1日	愛仁会看護助産専門学校に改称 (助産学科新設)		杏和総合医学研究所 滅菌センター開設
4月 1日	高槻病院 厚生省臨床研修指定病院に認可	7月 1日	千船病院附属千船クリニック開院
5月13日	中後理事長「藍綬褒章」受章		千船病院, 千船病院附属千船クリニック
9月 1日	介護老人保健施設「ケーアイ」竣工 (入所100名)		電子カルテシステム導入
12月 1日	高槻病院 開放型病院認可	7月24日	愛仁会リハビリテーション病院
1998年 2月 1日	訪問看護ステーション「スマイル」設立		日本リハビリテーション医学会研修病院認定
2月 9日	千船病院 病院機能評価認定証交付	12月 1日	愛仁会千船在宅サービスセンター設立
4月 1日	在宅介護支援センター「ケーアイ」設立	2005年 5月15日	愛仁会リハビリテーション病院
5月19日	高槻病院 病院機能評価認定証交付		病院機能評価更新認定
1999年 1月26日	高槻病院 救急告示病院に認可	7月30日	千船病院 全館改修工事終了
4月 1日	理学診療科病院, 愛仁会リハビリテーション病院に名称変更	8月31日	特別医療法人認可
10月28日	社会福祉法人愛和会設立認可	12月28日	高槻病院 地域医療支援病院認定
2000年 4月 1日	ヘルパーステーションユアアイ, ケーアイ活動開始	2006年 2月17日	根岸理事長, 山門常務理事
5月15日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価認定証交付		大阪府知事賞受賞
10月 1日	社会福祉法人愛和会 複合福祉施設開設	2月20日	愛仁会リハビリテーション病院
2001年 1月26日	あいわ診療所開院		病院機能評価付加機能(リハビリテーション機能)評価認定
		4月 1日	高槻北地域包括支援センター, 緑地地域包括支援センター設立
		4月20日	本部 ISO9001取得
		6月 1日	千船病院 7対1看護 承認
			千船病院・高槻病院 NICU 増床

	7月 1日	ケアプランセンターケーアイ開設	5月19日	豊中愛和会 創立10周年記念行事開催	
	7月29日	千船病院 人間ドック機能評価認定	6月 1日	医療法人社団 明石医療センター, 医療法人仁愛会 田畑胃腸病院と合併	
2007年	4月 1日	根岸宏邦先生 会長就任 筒泉正春先生 理事長就任	8月29日	第1回愛仁会グループリハビリテーション部門 学術大会開催	
	9月29日	第1回 介護福祉施設合同業務改善成果 発表会開催	2013年	1月 1日	おかじま病院開院, 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま開設
	10月 1日	愛仁会リハビリテーション病院 増床 (225床)	1月18日	千船病院 病院機能評価 Ver. 6認定	
	11月 8日	高槻病院 人間ドック機能評価認定	2月13日	第1回 愛仁会・神戸大学・フィリピン大学フ ィリピン総合病院国際会議開催	
	11月14日	千船病院 地域周産期母子医療センター 認定	3月21日	医療法人社団 明石医療センター 特定医療 法人 承認	
2008年	1月29日	千船病院 卒後臨床研修評価認定	4月 1日	社会福祉法人愛和会, 社会福祉法人豊中愛和会 を社会福祉法人愛和会として合併	
	2月 9日	千船病院 病院機能評価更新認定	4月 6日	愛仁会看護助産専門学校 新校舎移転, 看護学科2クラス定員80名に	
	4月 1日	愛仁会総合健康センター開設 長尾地域包括支援センター設立	6月 7日	「第41回日本小児神経外科学会」(於 大阪) 高槻病院 山崎麻美副院長を大会長として高 槻病院で運営を担当	
	4月11日	千船病院 消化器内視鏡センター開設	7月 1日	高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」, 愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園	
	5月 1日	愛仁会総合健康センター附属デイサービスセ ンター開設	7月27日	明石医療センター南館オープン 許可病床数382床に増床	
	5月18日	高槻病院 病院機能評価更新認定	10月 1日	カーム尼崎健診プラザ開設	
	8月 2日	高槻病院 WHO・ユニセフ「赤ちゃんに やさしい病院 (BFH)」認定	2014年	4月 1日	医療法人進愛会と合併 カーム尼崎健診プラザ健診事業開始
	10月 5日	愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大 会開催 (なみはやドーム)	8月 1日	宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設	
	11月 1日	愛仁会グループ創立50周年記念行事開催	10月 1日	社会福祉法人ますみ会を承継	
2009年	1月 1日	特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人 愛仁会に移行	10月27日	高槻病院 新病院Ⅰ期棟 開設	
	3月30日	千船病院バースセンターリニューアル オープン	11月 1日	明石医療センターNICU 稼動	
	4月 1日	千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設 ユアアイデイサービスセンターなごみ開設 愛仁会本部学術部に国際課設置	12月 1日	高槻病院 PICU 開設	
	5月31日	社会福祉法人豊中愛和会 多機能型事業所あ すなる あすなる麺, モンド・セレクション 2009金賞受賞 (2010年, 2011年と3年連続金賞 受賞)	2015年	1月 1日	明石医療センター 社会医療法人認可
	10月 2日	「第11回フォーラム 医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当	1月 7日	明石医療センター泌尿器科外来開設	
	11月16日	社会医療法人愛仁会 中期事業計画策定	3月31日	筒泉正春先生 理事長退任	
	12月 4日	明石医療センター 病院機能評価 Ver. 6認定	4月 1日	内藤嘉之先生 理事長就任	
2010年	3月 5日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定	7月 3日	高槻病院不整脈センター開設	
	4月 1日	社会福祉法人豊中愛和会 ローズコミュニティ・豊中南開設	2016年	1月 4日	社会福祉法人愛和会 (宝塚地区) にあいわ結愛 ガーデン開設
	5月 8日	愛仁会看護助産専門学校 創立30周年記念 行事開催	4月 1日	社会医療法人愛仁会, 社会医療法人明石医療 センターと合併 尼崎だいまつ病院開設	
	6月 5日	第1回愛仁会フォーラム開催	10月23日	「第44回国際小児神経外科学会 (ISPN2016)」(於 神戸) 高槻病院 山崎麻美副院長を大会長とし て開催	
	10月17日	社会福祉法人愛和会 10周年記念を祝う会 開催	2017年	2月 4日	第1回愛仁会学術大会開催
	11月 6日	「第20回日本新生児看護学会学術集会」 (於 神戸) 高槻病院で運営を担当	4月 1日	社会福祉法人ますみ会と合併	
2011年	1月 7日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価 (リハビリテーション付加機能) 更新認定	5月 8日	高槻病院 新病院Ⅱ期棟 開設	
	1月30日	第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催	6月 1日	介護老人保健施設だいまつ, レジリエンスだいま つ開設	
	3月18日	フィリピン大学, フィリピン総合病院との 人材交流プログラム開始	7月 1日	千船病院 新築移転 開院	
	4月 1日	医療法人社団明石医療センター設立	7月20日	「第67回日本病院学会」(於 神戸) 内藤嘉之理事長を大会長として開催	
	7月 1日	愛仁会リハビリテーション病院 新築移転 (MUSE たかつき) 開院	2018年	2月24日	「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学 術集会」(於 大阪) 愛仁会リハビリテーション 病院 吉田和也院長を大会長として開催
	9月 1日	ケアプランセンター愛仁会富田開設	3月31日	おかじま病院 閉院, 杏和総合医学研究所 閉所	
	10月25日	第3回 日中韓看護学会参加 (於 ソウル)	6月 1日	高槻病院新築Ⅲ期工事竣工 グランドオープン	
2012年	1月 1日	ヘルパーステーション愛仁会富田開設	8月	愛仁会地域ケアセンターに在宅事業 (千船地区) を集約移転	
	5月 1日	千船クリニック 千船病院へ統合	2019年	4月1日	特定医療法人蒼龍会と合併 社会福祉法人愛和会 宝塚地区 Waiwai コミュニティあいわ開設
			6月1日	あいわクリニック開設	

Ⅲ. 施設概況



千船病院

〒555-0034
大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
URL: <https://www.chibune.ajinkai.or.jp/>



理念・基本方針

<理念>

- ・千船病院（千船クリニック）は医療を通じて社会に貢献します

<基本方針>

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・開放型病院としての役割と自覚し効率の良い地域医療を提供します

施設概要

- 病床数/292床 ■診療科目/21科
- 病院機能/大阪府がん診療拠点病院, 救急告示病院, 開放型病院, 日本医療機能評価機構認定病院, 厚生労働省臨床研修指定病院, 卒後臨床研修評価機構認定病院, 地域周産期母子医療センター, 大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所実施機関, 外国人患者受入地域拠点病院
- 特殊診療機能/バースセンター, 院内助産院, 消化器内視鏡センター, ICU, MFICU, NICU, GCU, 画像診断センター (MRI, CT, RI), 人工透析, リハビリテーションセンター

2019年度総括

新病院と移転の際に新規導入した機器, システムの費用を回収していくためには 292 床という限られたベッドを

最大限に活用して収益を上げなければならず, 病床を満床に近い状態で稼働させている現状では入院単価アップが喫緊の課題であった. そのため, 2019 年度事業計画の最大の課題は地域医療支援病院の認可, 総合入院体制加算 2 の取得が必達すべき課題であった.

地域医療支援病院認可に向けて, 地域医療部を中心に緻密な計画の下, 各部署の協力を得ながら調整し, 3 月 10 日に認可を受けることができた. 今後入院単価アップに繋がると期待している. 総合入院体制加算 2 の取得については, 算定要件として精神疾患診療体制加算の算定件数と悪性腫瘍手術の件数をクリアすることが課題であった. 精神疾患診療体制加算の算定については年間 20 件という目標を達成できたが, 悪性腫瘍手術においては, 年間 400 件という目標を達成できず課題が残る結果となった.

2019 年度の活動実績は, 入院医業収入 74 億円 (前年比 103%), 外来医業収入 29 億円 (前年比 105%) と入院・外来収入の伸びも加わり, 合計 103 億円 (前年比 105%) と過去最高の実績を上げることができた. 平均在院日数も 9.1 日と診療内容も充実してきたと言える. 新病院の機能活用という点では, 分娩件数アップ, 手術室稼働アップ, da Vinci 稼働アップも重要課題としていた. 分娩については 10 月から 24 時間無痛分娩を開始し, 年間 1,895 件の分娩数を達成し, 大阪府下 1 位の分娩数を実現した. 手術室稼働率も平均 64.3%と活発な活動となり, da Vinci 稼働も泌尿器科疾患・婦人科疾患合わせて 65 件と過去最高の実績となり, その全ての活動の結果が 2019 年度の実績に反映している.

2019 年度全体を俯瞰してみると, 何と言っても念願で

あった地域医療支援病院の認可を得ることができ、病院全体として有意義な活動ができた1年であった。

2019 年度活動状況

- 4月 医師辞令交付式、主任副主任辞令交付式、期首全集、新卒辞令交付式、新入職員研修、新入職員歓迎会、新入職研修医注射研修、千船病院学術講演会
- 5月 看護の日イベント—親子で病院探検隊—、千船病院学術講演会、業務改善リーダー研修、すみれの会（認知症お悩み相談会）
- 6月 第2・3回 ALSO プロバイダーコース in 千船、レジナビフェア 2019（専攻医向け）、職員ワクチン接種、佃中学校職場体験、ICLS コース、愛仁会小児科専門研修プログラム高槻・千船合同講演会、千船病院学術講演会
- 7月 特別全集、第2回 JALA カテゴリーA 講習会、レジナビフェア 2019（医学生向け）、職員ワクチン接種、J-MELS 講習、クリニカルパス大会、千船病院移転記念パーティー、1日看護師体験
- 8月 キャンサーボード、令和元年度病院立入検査、院内感染対策研修会
- 9月 院内感染対策研修会、産婦人科病診連携の会（1階講堂）・懇親会、阪神病理検討会、業務改善フレッシュマン研修、医療安全管理研修会
- 10月 医療安全管理研修会、千船病院医科歯科連携事業「周術期等における口腔機能管理」研修会、ISLS コース、キャンサーボード、上半期業務改善表彰式
- 11月 健康相談会、千船病院学術講演会、外国人患者対応研修会、職員インフルエンザ予防接種、千船病院地域連携協議会・懇親会、業務改善フレッシュマン研修、千船病院・千船クリニック在宅連携会議、J-CIEMELS コース
- 12月 CPC・キャンサーボード、千の船総会、千船病院忘年会、新生児Sコース（新生児蘇生法普及事業スキルアップコース）、認知症サポーター養成講座、院内コンサート、院内感染対策研修会、業務改善フレッシュマン研修、卒後臨床研修評価訪問調査（JCEP）、納会

- 1月 健康相談会（イオンモール大阪ドームシティ）、臨床研修実習開始式（神戸大学）、院内感染対策研修会、阪神病理検討会、千船病院学術講演会、CPC・キャンサーボード
- 2月 ISLS コース、INARS コース、健康相談会、医療安全管理研修会、MCLS コース、ICLS コース、千船病院学術講演会、ALSO コース、クリニカルパス大会、CPC
- 3月 臨床研修修了式

2020 年度に向けて

地域医療支援病院、地域周産期母子医療センターは大きな幹とし、2020年度の目標は大阪府指定のがん診療拠点病院という幹を太くすることである。病院9階には外来化学療法室を12床設けているため、がんで悩んでいる地域の患者が少しでも自宅に近い場所でがん医療を受けられるように、呼吸器内科の再開や最新医療器具を導入し、がん疾患の手術件数も増加させていきたいと考えている。また、この7月より神戸大学眼科学教室の全面的支援により、常勤医による未熟網膜症なども治療できるようになるため、地域医療により一層貢献していきたい。2024年以降適用される医師の時間労働規制に対して、2024年までの時間軸とその時間ごとの目標を提示して対応していくために、タスクシフト・タスクシェア委員会を立ち上げている。労務管理を徹底し、少ない労働力で、これまでと同等の成果をあげるためには、多職種の連携・協働、チーム医療の推進が重要となる。単に労働時間を短縮するだけでなく、生産性の向上を目指して、医療従事者から「働き方」で選ばれる病院を目指す。最後に新型コロナウイルスの感染爆発が近いと叫ばれる中、職員の生活・健康を守り、地域医療支援病院としての役割を果たしていきたい。

循環器内科

■スタッフ紹介

2019年度は4月に高橋典子専攻医が着任し、更に11月に明石医療センターから足立和正部長が赴任した。この2人に尾崎正憲副院長、板垣毅主任部長、濱田晶子医長、松森佳子医員、栗本浩行専攻医と合わせて常勤医7人の体制となった。

■診療内容

循環器内科では、虚血性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、二次性高血圧、不整脈疾患、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症など循環器疾患一般について幅広く診療を行っている。外来診療では非侵襲的検査と必要に応じて侵襲的検査を組み合わせを行い、医学的根拠に基づいて治療方針を決定している。入院診療ではカテーテルによる心血管インターベンションに力を入れている。虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI）、末梢動脈に対する血管内治療（EVT）、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術、静脈血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置などが施行可能である。また急性心不全、重症心不全症例に対してICU/CCUでの集中治療が可能である。原発性アルドステロン症については局所的な副腎静脈採血（AVS）を行うことで原発巣の局在診断が可能となっており、泌尿器科との連携で根治術へと繋げることが可能となっている。近年、画像診断として心臓MRIが注目されているが当科でも遅延造影、T1mapの撮像が可能であり非侵襲的

な診断補助手段として活用するようになり次第に件数が増えている。

教育面では、毎週定期的に病棟カンファレンス、英文論文抄読会、心エコーカンファレンス、アンギオカンファレンスを行い、研修医にも積極的に参加を促し、抄読会は英語論文の読解力を向上し、最新の循環器系研究の知識を得る場としている。

■2019年度のトピックス・実績

明石医療センターから赴任した足立部長は、カテーテルアブレーション治療において国内有数の実績を残しており、今後千船病院でのアブレーション症例が増えることが期待される。心不全で入院した患者を対象として、多職種による心不全教室を始めた。

主な診療実績：冠動脈造影検査 141件、PCI 103件、EVT 11件、アブレーション 8件、ペースメーカー植え込み 20件、IVCフィルター4件、AVS 3件、心臓リハビリテーション 152例など

主な学術実績：第126回日本循環器学会近畿地方会において症例報告を行った。

■今後の展望

虚血性心疾患、心不全、不整脈などの心疾患をトータルで診療し、24時間のオンコール体制を維持して救急患者を積極的に受け入れていく。慢性心不全の地域連携パスの策定、完成を目指す。

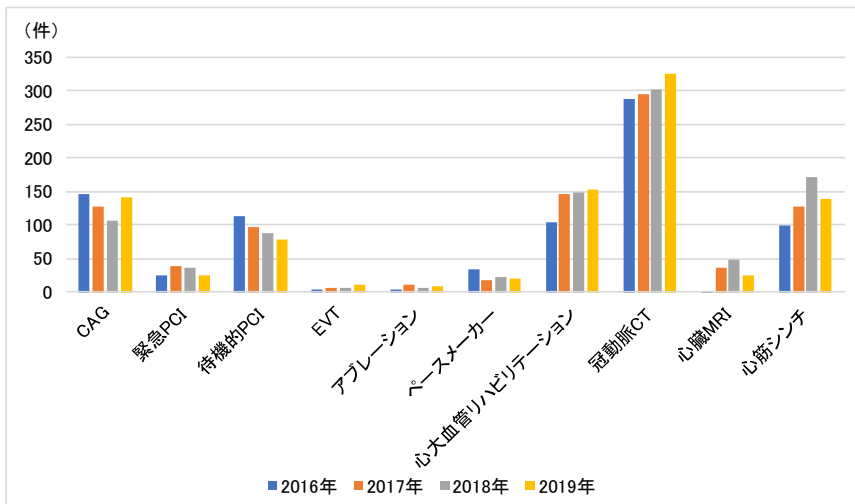


図. 診療実績

糖尿病内分泌内科（肥満・糖尿病内分泌センター）

■スタッフ紹介

高橋哲也（主任部長，1989年卒）

中島進介（医長，2008年卒）

佐藤洋幸（医員，2013年卒）

大島令子（専攻医，2017年卒）

■診療内容

2019年度の専門外来の診療体制であるが、高橋3単位、中島3単位、佐藤3単位を担当し、神戸大学糖尿病内分泌内科より4名の非常勤医師が派遣され、佐々木医師が1単位、松山医師2単位、山本医師が1単位、鈴木医師が1単位を担当した。甲状腺エコーについては引き続き井上病院大野副院長が隔週で1単位を担当いただいた。また療養支援外来を糖尿病認定看護師の田中友香看護師が週1単位を担当した。

また、肥満・糖尿病内分泌センターとして、減量外来（糖尿病・減量外科 北濱医長，4単位担当）での患者は遠方からの受診も多く、高橋・中島が随時糖尿病内分泌内科での併診対応を行った。

病棟においては糖尿病（1型・2型・妊娠糖尿病）及び高度肥満症の教育入院，内分泌検査入院，外科系周術期，化学療法，ステロイド療法時などの血糖管理を中心に一般内科の対応も行った。当院のNST活動についても引き続き、栄養管理科，薬剤科，理学療法科でチームを構成し週1回のNST回診を行った。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度実績は外来糖尿病患者数1,742名，教育入院136名と前年より若干の増加となり，内分泌疾患においても主に外来となるが，甲状腺疾患610名，副甲状腺疾患17名，下垂体疾患49名，副腎疾患61名となっていた。減量外来では術後も含め延べ患者1,572名，初診数は開業医紹介と合わせて115名，年間手術件数合計82件で順調な結果であった。

当科及び減量糖尿病外科と共同して学術活動を行い論文発表1件，学会発表10件となった。

また，毎年高槻病院と合同で行っている妊娠・糖尿病セ

ミナーでもBariatric/metabolic surgeryについて取り上げるなど，肥満・糖尿病領域において当院から精力的に情報発信を行った。

■今後の展望

減量手術はMetabolic surgeryとして特に高度肥満を伴う内科的治療に抵抗性の糖尿病を始めとする代謝異常に対して極めて有効な治療法として世界的に認められている。本邦においても減量手術の立ち上げを行う施設が増加しつつあるが，当院では今年も合計88件と西日本で最多手術件数となった。今年4月から重症糖尿病に関してはBMI 32.5以上が手術適応となったが，今後のMetabolic surgeryの方向性としては，既に欧米のガイドラインでも指摘されているように特にアジア人種においてはより低いBMIの患者でも有効であり，わが国の肥満症治療学会においてもより低いBMIの患者に対するMetabolic surgeryの適応拡大を押し進める動きがある。私たちの方向性・目標も千船病院からこれらに対するエビデンス・情報を発信し，少しでも多くの患者がより早い段階で治療を受けられるようこの動きを押し進めていくことである。

2020年度から肥満・糖尿病センター長を当科の高橋から減量・糖尿病外科北濱に交代することとなった。これまで以上に両科及び栄養管理科・リハビリテーション科を始め各科が協力しセンターの運営をはかり，術前・周術期・術後及び長期的なフォローについて患者サポートを充実し，患者が効果的で安全な医療を安心して受けられるようにしたい。

2020年度4月からの当科の体制としては神戸大学糖尿病内分泌内科医局人事異動により淀川キリスト教病院より佐々木百合子医師が佐藤医師に代わり赴任となる。大島医師が4月から産休となるが，3人体制は維持できることとなった。

引き続き地域連携，大学との連携を深め，これまでの糖尿病内分泌領域の診療，研修医教育の質向上とともに，学会，研究会などを通じて関西の主要病院へ“安全で安心な減量手術が行える施設”としてアピールをより進めていきたい。

肥満・糖尿病内分泌センター（減量・糖尿病外科）

■スタッフ紹介

北濱誠一（医長、2002年卒）

■診療内容

2019年度の外来診療体制では、月曜日午前の減量術後外来、午後の減量外来、金曜日の外科・北濱外来枠の4単位を北濱が担当したが、金曜日枠の95%程度が減量若しくはGERD患者であり、実質4単位が減量・GERD関連の外来となった。

BMIが35以上の高度肥満症の場合には全例に2次性肥満のスクリーニングを行い、糖尿病もある患者については糖尿病内分泌内科併診とし、遠方の患者や頻回の通院が困難な場合、特殊な疾患を伴う場合には糖尿病内分泌内科と連携し積極的に検査教育入院を行った。

減量・糖尿病外科、糖尿病内分泌内科、栄養管理科、リハビリテーション科のコアメンバー、減量コーディネーターによる減量カンファレンスを週1回行っている。

■2019年度のトピックス・実績

減量・糖尿病手術件数は82件（前年比130%）、肥満を伴わないGERDに対する手術件数は9件と順調に増加した。減量外来では減量コーディネーター、外来事務部及び看護師の良好な連携により、術後も含め延べ患者数1,572名の診察が可能となった。

減量コーディネーターの廣野は減量初診から術後に至るまで一貫して減量チームとの橋渡し役を担いながら、患者主体のサポートグループを企画運営し、減量患者の教育・満足度向上に大きく貢献した。

学会活動では、国際学会で3題の発表を行い、当院での減量外科治療の安全性（術後出血、縫合不全など緊急手術を要する重篤な合併症ゼロ）及び国内で先駆けて行っている単吻合スリーブバイパス術の良好な成績と、栄養科から術後の栄養学的評価を発表した。消化器内科とも連携し周術期に絶大なサポートをいただいております。高度肥満にまつわるGERD、NASHについて報告いただいた。

今年から肥満症についての2大会である日本肥満学会・日本肥満症治療学会が同時開催されることになったが、シンポジストとして招聘され当院における肥満外科手術120例の良好な治療成績を報告した。また、国内ではまだ体系だった患者会について十分に経験のある施設がほとんどないため、第11回肥満症総合治療セミナーでの講師を要請され、当院における患者会の取り組みについて全国の初期導入施設に向けてweb配信を行った。2020年に国際ニュース週刊誌Newsweekのよい病院ランキング1位となった聖路加国際病院から減量外科治療の導入にあた

り協力要請があり、チームビルディングの方法と注意点について講演を行った。看護部からも減量外来における看護師の役割について看護学会で報告いただき、今年度は当院での減量・糖尿病外科（+GERD）治療にまつわる発表は合計20件となった。

和文論文は2篇で、当院での減量カンファレンスの様子の詳細を報告したものと、もう一篇は2018年に肥満症治療学会の優秀演題セッションに選ばれた佐々木PTにより、今度は日本人高度肥満患者における6分間歩行の基準値が示された。

英語論文については昨年度に引き続き当院のスリーブ術にまつわる2本目の英語論文が投稿中で、基礎研究の分野となるが、神戸大学循環器内科教室との共同で、スリーブ術前後の血漿のメタボローム解析について報告を行った。その他に進行中のプロジェクトとして神戸大学糖尿病・内分泌内科と肥満手術前後の血漿脂質メディエーターの変化についての研究、神戸大学循環器内科と腸内細菌の研究、全国の肥満外科治療認定施設とともに減量手術の費用対効果に関する多施設共同研究を行っている。

■今後の展望

当院における減量・糖尿病外科の立ち上げから早いもので満4年が経過した。欧米では古くからBariatric Surgeryという分野が確立しており、本邦で減量・糖尿病外科と明言しているのは当院が2施設目であるが、現在糖尿病に対する外科治療としても急速に普及しつつあり施行施設数は2019年に初めて60施設を超えた。

今年度から糖尿病外科治療における手術適応のBMIが35から32.5へと僅かに引き下げられたが、その条件が以前として厳しく、関係3学会が合同で外科治療の適応について現在検討を行っている。まさに今この領域が日本でも急速に拡大しつつある中で、当院では様々な角度から見た術前後の詳細なデータが既に蓄積されており、今後の手術適応拡大の一助としたい。

今年度は神戸大学、聖路加国際病院より減量外科治療導入に対するチームビルディングと手術指導の依頼があるもコロナ禍で延期となっているが、本邦における減量・糖尿病外科治療の指導的立場を確立し、減量手術が安全に、より一般的に行われるようにサポートを行う予定である。2020年は近畿肥満外科治療研究会の当番世話人、国立循環器病センターとの連携も開始し、院内では、泌尿器科と合同で肥満と膀胱症状の関わりについて前向き研究を行う予定があり、臨床面では減量外科フェローを1名獲得し、更なる手術件数の増加に取り組みたい。

消化器内科

■スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）

- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
- 日本消化器病学会指導医・専門医
- 日本肝臓学会認定肝臓専門医
- 日本膵臓学会指導医

那賀川 峻（2007年卒）

- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本膵臓学会指導医

吉安孝介（2011年卒）

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医

板東正貴（2012年卒）

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医

羽鳥広隆（2013年卒）

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会専門医

名方勇介（2015年卒）

- 日本内科学会認定医

南條 望（2017年卒）

西川浩介（2017年卒）

■診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括にあたり、他常勤医の技術指導・診療支援も行っている。また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部放射線技師との連携をとりながら、内視鏡センターの運営・統括を行っている。那賀川は消化器内科医長として、船津とともに後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ、学会発表の指導にも尽力している。吉安・板東・羽鳥は一連の消化器内視鏡技術を習得し、通常検査業務を主力としてこなしつつ、より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる。名方・南條・西川は後期レジデント

トとして日々消化器内科疾患の検査・診療において研鑽を積んでいる。診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後消化器専門外来を開設し、検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い、月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている。胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている。休日夜間診療は、オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している。紹介患者に関しては、全て消化器科専門医が初療にあたり、緊急を要する症例に対しては、救急外来にて迅速な診断・処置を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度は卒後6年目以上のスタッフが1人欠員となったが、消化器内科志望の後期研修医が2名加わっている。内視鏡検査件数及び入院患者数は前年度数の維持に留まっている。学会活動は、日本消化器内視鏡学会近畿支部例会パネルディスカッション1題、日本消化器病学会Young investigator session 2題、日本内科学会近畿地方会一般演題1題の発表を行っている。年2回の愛仁会消化器カンファレンスは継続しており、愛仁会グループでの消化器診療のレベルアップを図っている。

■今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査、超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで、地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく。また症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより、紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい。

表. 内視鏡検査実績

		(単位:件)	
上部消化管内視鏡検査総数	3,721	胆膵関連検査総数	318
胃癌検診	98	造影のみ	104
超音波内視鏡	254	EST	130
ポリープ切除	8	採石術	64
粘膜下層剥離術	39	砕石術	11
止血術	50	EBD/EMS	15
食道静脈瘤治療	30	膵管ステント	5
胃腸造設	40	EUS下ドレナージ	4
消化管ステント・拡張術	27	PTGBA/PTGBD	42
下部消化管内視鏡検査総数	2,083		
ポリープ切除	766		
粘膜下層剥離術	6		
止血術	33		
ステント・拡張術	12		

脳 卒 中 内 科

■スタッフ紹介

主任部長 瀧本 裕 (1997年卒)

日本内科学会内科認定医・総合内科専門医

厚労省認定認知症サポート医

日本認知症予防学会専門医

日本救急医学会認定 infection control doctor

日本プライマリ・ケア連合学会近畿地区代議員

■診療内容

①外来

毎週火曜日午後（もの忘れ外来）、水曜日午前（脳卒中外来）、木曜日午後（脳卒中外来）の枠を担当している。

②入院

主に脳梗塞の診療をしているが、めまいやしびれ、中枢神経感染症の治療にあたることも多く、救急部、耳鼻科、脳神経外科と共同診療することもある。西淀川区脳卒中地域連携パスを早い時期から導入しており、回復期リハビリ病院転院へのシームレスな運用に力を入れている。当院と後送病院の担当者（医師、リハ科、MSW）にて3か月に1度、定例会議を開き、地域医療・他職種連携を行っている。

③嚥下造影（VF）検査・嚥下回診

リハ科（言語聴覚士）と協同し、毎週水曜日にVF検査を行っている。近隣の施設（介護老人保健施設など）からの依頼が増加している。また、嚥下チームを組織し、隔週木曜日には入院患者を対象にした嚥下回診を行っている。

今後はVE検査を用いた回診方法を検討中である。

④もの忘れ外来

言語聴覚士による神経心理検査とVSRAD（脳MRIによる海馬傍回体積測定）、SPECT（脳血流IMP）などを行い、認知症診断を行っている。当院はSPECTが施行可能な点で非常に有利な環境であり、特にレビー小体型認知症の鑑別が容易である。認知症専門チームで診療することから、疾患そのものだけでなく、福祉サービス導入などの環境調整もきめ細かくサポートしている。このように、当科はハード面・ソフト面からも認知症診療に絶対的な自信がある。最近、初診患者が急増していることがそれを物語っている。さらに、瀧本は認知症サポート医として大阪市

認知症短期集中支援チーム（通称：陽だまり）の主要メンバーとして関わっており、行政面でも活躍の場を広げている。

⑤認知症サポートチーム（DST）

認知症による行動・心理症状やせん妄の発症により、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者に対し、専門知識を有した多職種（医師、認定看護師、リハビリ科、薬剤師、栄養士、MSW）がチームとなり、週1回（火曜日）病棟ラウンドを行っている。急性期病院としては国内でも有数の院内デイケア（通称：福ちゃん）を週1回行っている。また、認知症に悩む本人や介護者のための相談会（通称：すみれの会）を月1回開催し、地域医療に貢献している。

■2019年度の特ピックス・実績

①2019年度の実績を表に示す。

②DST活動を院内に留まらず、エリア単位で行った。

③院内デイケア、認知症相談会を継続して実施した。

■今後の展望

①脳卒中診療の件数を伸ばす。

②「認知症診療に強い千船病院」として地域医療に貢献する。

③「認知症疾患医療センター」開設への準備をする。

④嚥下回診に嚥下内視鏡（VE）検査を導入する。

表. 実績

	症例	件数
脳梗塞 (入院)	アテローム性脳血栓症	15件
	ラクナ梗塞	27件
	脳塞栓症	12件
	TIA	22件
	分類不能	8件
認知症 (外来)	アルツハイマー型	80件
	脳血管性	18件
	レビー小体型	10件
	前頭側頭葉変性型	4件
	分類不能	12件

腎臓内科

■スタッフ紹介

金 鐘一：日本透析医学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本病院総合診療医学会専門医，千船クリニック所長

中西昌平：日本透析医学会専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医

服部英明：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医，日本内科学会認定医

宇高千恵：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医，日本内科学会認定医・総合内科専門医

高木泰尚：後期研修医

■診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常，AKI，慢性腎不全，急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている。今年度は腎生検数が増加した。血液透析室では入院患者の血液透析と，腹膜透析血液透析併用患者の血液透析，腹水濃縮還流などを行っている。ICU と隣接している利点を生かし，重症患者はICUにて血液透析を行っている。

腎センター外来では，血尿など境界領域の紹介例，腎移植患者やドナー，内シャント造設準備中の患者などの診療を腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている。紹介患者数，腎移植外来数とも増加傾向である。

金所長と服部医長により透析患者の内シャント不全に対する経皮的血管形成術（PTA）を行っている。

また腎センター専属ナースにて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている。腎看護外来（腎不全保存期の患者の生活指導，透析療法選択，透析導入のサポート，腎移植の紹介）や腹膜透析患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

当院で腹膜透析中の患者に腎移植を2019年9月に行った。当院では3例目である。腹膜透析から腎移植への流れを構築していきたい。今年度の腹膜透析の新規導入は2件だった。

日本透析医学会にて「難治性ネフローゼ症候群により末

期腎不全に至った維持透析患者の大量腹水貯留に対し腹水濾過濃縮再灌流療法が著効した1例」を服部英明が，腎臓学会西部会にて「両側経皮的腎動脈形成術後に出現した尿蛋白，腎機能低下に対し，ARB が奏功した一例」を高木泰尚が発表した。

■今後の展望

昨年度から内シャント造設術は泌尿器科樋口副院長と血管外科松尾部長の2名体制となったため手術までの待機時間が少なくなった。人工血管，日帰り手術にも対応できるようになっている。千船病院での通院維持透析患者は，腹膜透析離脱後に腹膜炎の予防・管理が必要な患者又は血液透析と腹膜透析併用の患者に限っていた。今後は千船クリニックの移転を見据え，千船病院でも通院の維持透析患者を増やしていく予定である。

来年度は腎臓学会・透析医学会の専門医である齊藤医師が新たに加わり，専門医5名を含む6名体制となり，更なる診療の充実が期待される。

表 1. 入院実績

	(単位:件)	
	2018年	2019年
CKDとその合併症	30	49
腎炎・ネフローゼ症候群	20	22
電解質異常	40	29
教育入院	2	1
膠原病	1	4
血管炎とその合併症	10	3
血液透析導入	33	26
血液透析の合併症	46	47
腹膜透析導入	2	2
腹膜透析の合併症	8	2
腎生検	7	19
PET検査	3	3
PTA	53	59
うちシャント造設術	32	32
腹膜透析カテーテル留置	1	2

表 2. 血液透析実績

	2017年度	2018年度	2019年度
総透析回数(回)	879	1,310	1,450
透析回数月平均(回)	97.7	109.2	120.8
導入患者数(人)	14	33	26
死亡患者数(人)	5	3	10

	2017年度	2018年度	2019年度
持続血液濾過(回)	0	23	18
エンドトキシン吸着療法(回)	1	4	2
血漿交換(回)	0	0	0
腹水濾過濃縮再静注療法(回)	8	34	29

総合内科

■スタッフ紹介

二宮幸三

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本循環器学会 専門医・指導医

日本動脈硬化学会 動脈硬化専門医・指導医

日本病院総合診療医学会 認定医

藤田芳正

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本腎臓学会 専門医

ICD

依藤兼太郎

日本内科学会 認定内科医

2018年度で井上真希医師が退職し、2019年度始めより新たに専攻医の依藤兼太郎医師が着任した。

■診療内容

2017年度より総合内科部門が立ち上がり、3年目を迎えた。従来の外来診療に加え入院診療も行っている。

総合内科外来は、午前中は2診体制、午後は1診体制で行っている。主として各内科系の若手医師が対応している。また、別枠で総合内科専門外来を藤田医師が行っている。診療内容は主に初診を受け持ち、必要により専門診療科に振り分けている。当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている。

■2019年度のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は、21,152人で、1日平均87.0人であった。入院患者数は、年間221人であり、疾患別にみると呼吸器系疾患90人(41%)、循環器系疾患31人(14%)、内分泌・栄養及び代謝疾患19人(9%)、新生物14人(7%)、損傷・中毒など外因の影響13人(6%)、腎尿路生殖器系の疾患13人(6%)、その他41人(17%)であり、多岐に渡った。

また新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が大阪市内でも2月下旬から急激に見受けられるようになったため、3月11日より一般外来と分離した発熱外来(後に臨時外来と名称変更)を始めた。この外来の開設により発熱患者を一手に引き受けるようになった。

学会活動については、日本内科学会に2演題発表した。

また、若手医師の教育については、藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1~2回定期的な勉強会を行っている。

■今後の展望

今後も入院患者は高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたいが、しばらく、新型コロナウイルス感染症に重点を置く予定である。

また、初期研修医など若手医師の教育・育成も引き続き当科で行い、更に実習やカンファレンスを継続する予定である。

外 科

■スタッフ紹介

2019年は岡田が4月で退職、従来の向井、山元、北濱、三原、桃野、松尾（血管外科）に後期研修医の松下が加わり新たな7名体制となった。また10月からは済生会病院から大浦が加入し8名体制となった。

■活動目標

新しく赴任した大浦は日本内視鏡外科学会の技術認定医であり、更なる鏡視下手術の増加強化を目標とした。

■活動内容及びトピックス

手術の内容としては呼吸器外科16例、血管外科94例、乳腺43例、消化器一般593例、小児外科28例と多岐にわたり相変わらずのよろず外科である。

松尾の赴任により下肢静脈瘤手術を中心とした血管外科手術症例数は増加した。約1/3が日帰り手術症例であった。

内視鏡手術は上述の技術認定である大浦の赴任があり、新しい術式として超低位の直腸癌に対する肛門機能温存を目指した腹腔鏡下の経肛門的全直腸間膜切除術を導入した。

肥満減量手術は順調に症例を積み重ね西日本でトップの症例数を維持し、その地位を揺るぎないものにしつつあり、肥満手術導入を考えている大学病院を含めていくつかの施設から見学や協力の依頼が来ている。

学会活動に関しても、減量外科を中心に国際学会2回、3件の発表、9件の全国学会発表を行ったが、著書がなかったのが課題である。

■次年度方針・抱負又は将来展望

やはり病院新築の効果は大きく、外科医増員に伴い手術症例は、鏡視下手術症例が増加し手術点数も過去最高を記録した。

一方残念ながら、救急手術症例数は減少したままであり、増加傾向は見られない。

救急症例の積極的な受け入れ体制の強化と、症例数の増加は課題である。

今後は課題であった先進医療の減量手術としてのバイパス手術の施設認定、軌道に乗り始めた逆流性食道炎の手術症例数の増加が目標である。

新専門医制度が始まり、当院で高槻病院プログラムでの後期研修を始めた松下が体調不良のため離脱したのが残念であるが、今後も後期研修医の確保に努めていきたい。

年度末は covid-19 のため不要不急の手術を控えざるを得ない状態であり、症例が減少した。

先行きは不透明ではあるが、できる限り早い状態で covid-19 と共存しながら手術が運用できるよう、また内視鏡技術認定医の赴任で一步前進した外科領域でのダビンチ手術の運用を目指し更に環境整備を整えたい。

表. 4年間の手術症例数の推移

(単位:例)

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	頭頸部	小児外科	合計
2016年 NCD登録症例数	13	3	545	50	21	25	657
2017年度 NCD登録症例数	17	4	419	46	137	27	650
2018年度 NCD登録症例数	14	5	498	70	132	34	753
2019年度 NCD登録症例数	16	94	467	43	126	28	774

画像診断科

■スタッフ紹介

常勤医師 主任部長 田中 豊
部長 前田哲雄

非常勤医師 放射線科医師 2名(毎週土曜日あるいは日曜日に交代で読影)

■診療体制

2017年は田中 豊部長, 前田哲雄部長の常勤医師2名と非常勤医師2名の診療体制になった。

■活動内容

I. 読影

MRI, CT, RI, 消化管透視などの読影を行っている。
ドック胃透視・胸部の読影。

II. 血管造影, IVR

肝癌のTAEや婦人科疾患のUAEなどのIVRを行っている。

III. カンファレンス

外科・放射線科・検査科・放射線技師とで毎週金曜日にマンモグラフィカンファレンスを行っている。

産婦人科・放射線科・病理診断科とは毎週火曜日に婦人科病理カンファレンスを行っている。

■今後の展望

新病院移転後, CT と MRI 装置が各々2台体制になった。MRI 検査は30件の予約検査枠を設け対応している。CT・MRI等の検査も以前と同様に全ての時間帯に緊急検査に対応している。1日の検査数増加に伴う予約待ちの短縮や緊急検査などに対応できるようになった。また, 新たに心臓MRI検査をルーチンで撮像している。

オープン検査に関しては, 病診連携を強化し, 地域の画像センターとしての役割を果たしていけるように努力している。CT・MRIは以前と同様に土曜日にオープン検査のために対応している。

表1. 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	読影 血管造影	読影	読影	読影	読影 血管造影
午後	読影	読影	読影	読影	読影

表2. 過去3年の主な検査件数

(単位:件)

検査名	年度	総件数
MRI	2019年	6,671
	2018年	6,343
	2017年	6,022
CT	2019年	13,972
	2018年	13,809
	2017年	13,372
腹部血管造影検査	2019年	28
	2018年	34
	2017年	20
核医学検査	2019年	581
	2018年	611
	2017年	544

病理診断科

■スタッフ紹介

医師：

主任部長 名方保夫

(病理専門医, 1980年卒, 2004年7月着任)

部長 八十嶋 仁

(病理専門医, 1979年卒, 2014年4月着任)

医長 渡邊隆弘

(病理専門医, 2009年卒, 2019年4月着任)

臨床検査技師：常勤5名

伏見翔一郎 (国際細胞検査士),

佐藤 圭 (国際細胞検査士),

木下佳乃 (細胞検査士),

玉岡紗矢佳 (国際細胞検査士),

井上弘規 (細胞検査士)

■診療体制及び活動目標

病理診断科(病理検査室)の主たる業務は、病理組織診断、術中迅速病理組織診断、細胞診断、術中迅速細胞診断及び病理解剖である。各項目の2019年度実績は、表1～3を参照。病理組織診は、生検及び手術標本診断に分類される。生検では腫瘍性か非腫瘍性か及び良性か悪性かの判定が、今後の患者の治療方針決定に重要である。手術標本診断は、腫瘍(特に悪性)において重要であり、その組織型の最終診断、切除標本における深達度、脈管侵襲の有無、切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが、今後の治療方針決定の一助となり得る。術中迅速病理診断は、良性あるいは悪性の判定、リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本作製診断し、術中における治療方針決定の一助となり得るが、凍結標本での判定であるので、確診が困難な場合もあり得る。さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は、組織診断との併用や、組織採取が困難な部位(穿刺細胞診)あるいは体腔液診断に重要な場合が多い。病理解剖は、医師の卒前及び卒後の医学教育や今後の臨床医学の発展に多大の貢献をもたらすものであり、当科の業務としては、極めて重要な位置付けにある。

なお、CPCは、原則として月に1度、午後5時30分より開催され、活発な議論も展開され、特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている。

■活動内容及びトピックス

毎週火曜日に婦人科、放射線科、病理診断科合同カンファレンスが開催されており、細胞検査士も参加している。また、2019年度から毎月第2金曜日に兵庫医科大学病院病理診断科が主催する阪神病理症例検討会を当院で開催しており、阪神間から幅広く集まった病理医による勉強会を通じた診療能力の研鑽や交流が行われている。

■今後の展望

病理診断科(病理検査室)の業務は、臨床各診療科、臨床検査部門、事務部門、看護部門の支援協力により2019年度は比較的円滑に遂行された。

なお、2020年4月には、兵庫医科大学病院病理診断科(廣田誠一主任教授)から吉田 誠先生に非常勤医師として着任していただく予定である。更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される。

当院では、医師数の増加に伴い、病理組織・細胞診断数の増加が予想されるので、迅速かつ正確な病理組織診断、病理細胞診断が遂行されるよう、臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい。

今後は田中智洋検査科科长の下、臨床検査部門とも密に連携しながら、迅速な業務の遂行に努めたい。

最後に、卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために、病理解剖を御承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに、多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい。

表 1. 病理組織診断・術中迅速診断件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病理組織診断	461	434	427	486	440	411	455	434	395	411	350	402
術中迅速組織	9	7	2	5	4	6	8	4	3	3	1	4
術中迅速細胞診	1	0	2	3	0	1	0	1	1	0	0	0

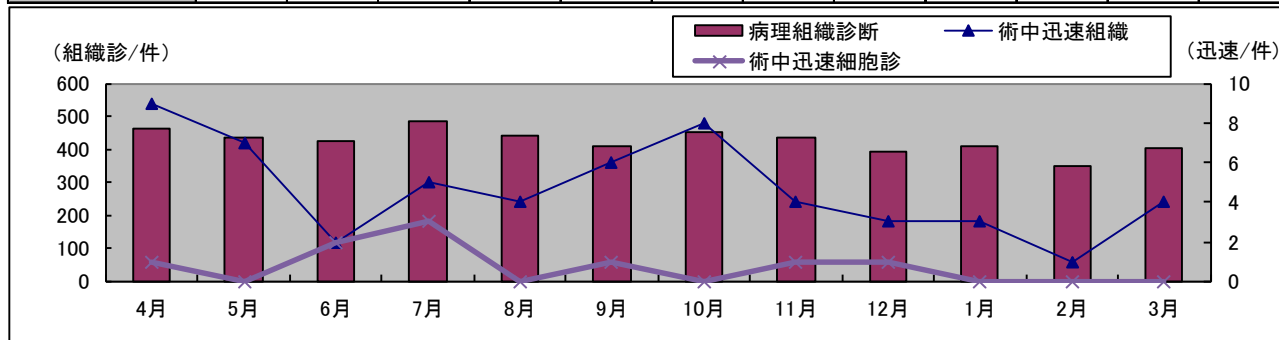


表 2. 細胞診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
細胞診件数	496	531	479	472	471	445	511	504	496	464	411	476
陽性数	50	40	32	43	39	35	51	50	44	43	30	40
陽性率	10.1%	7.5%	6.7%	9.1%	8.3%	7.9%	10.0%	9.9%	8.9%	9.3%	7.3%	8.4%

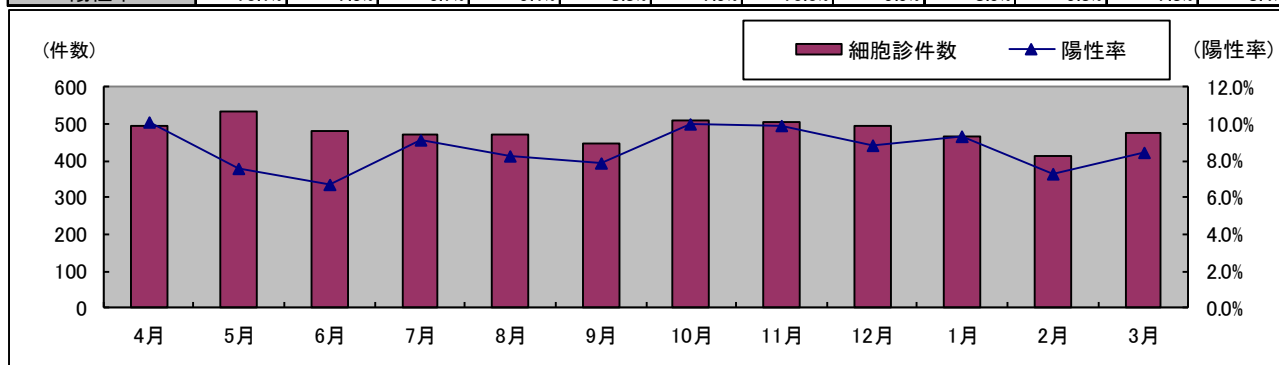
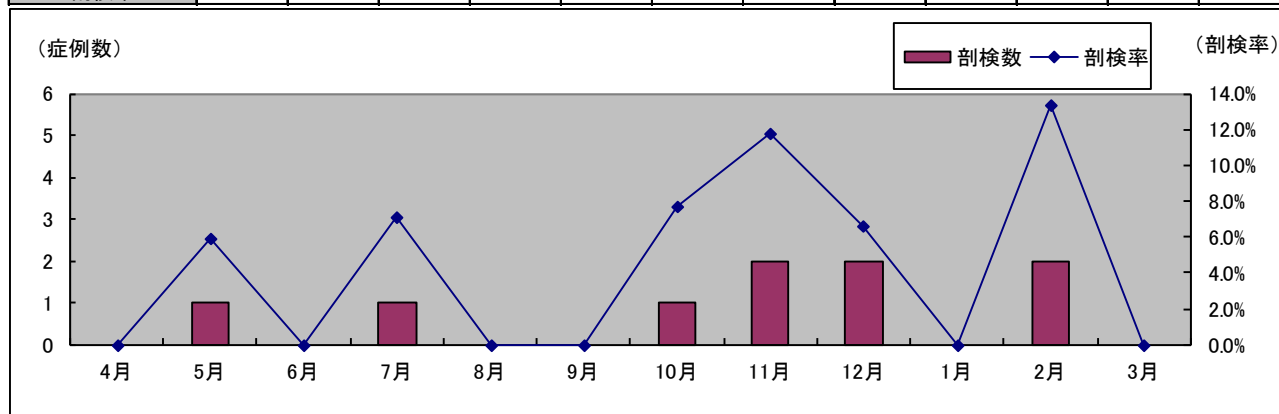


表 3. 病理解剖数と剖検率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
剖検数	0	1	0	1	0	0	1	2	2	0	2	0
剖検率	0.0%	5.9%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	7.7%	11.8%	6.7%	0.0%	13.3%	0.0%



小 児 科

■スタッフ紹介

2019年の人事異動では、当院で初期研修を行った山本香織医師、川村 葵医師、済生会泉尾病院で初期研修を行った福田拓弥医師が当院の小児科後期研修プログラムにて、また兵庫医科大学病院のプログラムでの研修として武田紗季医師と、姫路赤十字病院に勤務していた井上翔太医師が、4月にスタッフとして加わった。高寺明弘医師が加古川中央市民病院へ、五條あい医師が日本パプテスト病院へ異動された。岩田康平医師、荻野加菜医師、谷口公啓医師は、各自の小児科後期研修プログラムに沿い、関連施設での研修のため、異動された。2019年度のスタッフは、吉井勝彦（1984年卒）、西野昌光（1978年卒）、下村真由美（1988年卒）、牟禮岳男（2002年卒）、水野洋介（2006年卒）、藤坂方葉（2009年卒）、榎本真由子（2011年卒）、甲斐智彦（2013年卒）、古林真佐美（2013年卒）、井上翔太（2013年卒）、住吉倫卓（2014年卒）、東口素子（2014年卒）、角谷哲基（2016年卒）、河野一誠（2016年卒）、武田紗季（2016年卒）、山本香織（2017年卒）、福田拓弥（2017年卒）、川村 葵（2017年卒）の18名であった。

■診療内容

（外来診療）

午前是一般診察を行い、午後は一般診察に併行して、予防接種、乳児健診、神経外来、発達外来、腎外来、アレルギー外来、心臓外来、内分泌代謝外来などの特殊専門外来を実施した。神経外来は牟禮医師が、腎外来は下村医師が地域の小児神経、小児腎疾患で悩んでおられる児・家族に対応した。アレルギー外来は西野医師、下村医師により、精力的に展開した。心臓外来は、国立循環器病研究センター医師を招聘し、診療を行った。内分泌代謝外来では、兵庫医科大学小児科学教室の竹島泰弘教授による診療を行った。本年もシナジス外来、家族への感染症情報提供を継続した。表1に月別一日平均外来数、表2に月別時間外来総患者数を示す。

（新生児センター）

当院の分娩数は過去3年間、1,575、1,717、1,862例と、近隣の分娩施設の閉鎖に伴い、徐々に増加を認めている。新生児センターへの入院数もそれを反映して879、1,023、

1,074例と増加傾向だった。近年、大阪府のNICU病床数は過剰状態であり、大阪府下の各病院の1,500g未満の極低出生体重児の収容数は減少傾向にあるが、当院では30、38、26例と昨年と同数であった。2,500g未満の低出生体重児も、209、233、229例と増加が横這いとなっていた。死亡例は4例であった。1例目は、Potter症候群の低出生体重児で肺高血圧症・腎不全で日齢3に死亡した。2例目は、長期破水による肺低形成を呈した低出生体重児で日齢15に死亡した。3例目は、超低出生体重児として出生された児で、壊死性腸炎の結果、短腸症候群を来し、栄養不全のため、生後4か月で死亡した。4例目は、18トリソミーの双胎児であり、先天性心疾患に伴う肺高血圧で生後11か月に死亡した。死亡例については症例検討会を行い、臨床経過や治療についてスタッフ間で意見を共有した。表3に2019年度の新生児センターの保育成績を示す。地域周産期医療の啓蒙活動として、近隣の産科施設も参加可能な新生児蘇生講習会を定期的に行った。

（一般病棟）

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す。入院数は過去3年間693、766、734例であった。外来、救急搬送、紹介として入院経路を過去3年間で比較したが、一昨年度 vs 昨年度 vs 本年度では、外来407（59%）vs 425（55%）vs 446（61%）、救急搬送126（18%）vs 167（22%）vs 152（21%）、紹介160（23%）vs 174（23%）vs 136（19%）だった。昨年と比べて、入院経路は同様の傾向だった。新築移転した2017年7月より日曜日、祝日も含め、1年通して一般当直を配置できるようになったことで救急搬送での入院が増加傾向であったが、本年度の2月頃より新型コロナウイルスの流行が始まり、外来受診や紹介数の減少を認め始めている。今後も感染症の動向に注意して診療を行っていく。本年度は、死亡症例は居なかった。

（レスパイト事業）

大阪市より依頼があり、2019年4月より大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所事業の実施機関として、重症児の短期入所対応を開始した。2020年3月現在、当院フォローアップ中の患者を含め、合計3名の患者が登録されており、2019年度は延べ16名の短期入所を受け入れた。

■活動内容

神戸大学医学部5年次、6年次、兵庫医科大学6年次の病院実習を本年も受け入れた。病院実習の経験から初期研修病院で当院を選択する学生も多く、今後も丁寧な対応を行っていく。また、当院は新専門医制度での小児科専門研修プログラムの基幹病院に認定されており、小児科専攻医1年目、2年目の医師を各3名ずつ受け入れた。後期研修医が小児科を専攻する場合、小児科専門医を取得することは勿論であるが、その後は subspeciality としての専門医取得も推奨している。当院で取得できる subspeciality 分野として、新生児領域の他、アレルギー領域の研修教育施設や小児神経領域の研修関連施設（研修認定施設 神戸大学附属病院の関連施設）の認定を取得し、将来の subspeciality を考えることのできる環境を作っている。臨床カンファランスでは、死亡例も含めリアルタイムでの症例検討を行っているが、前方視的な臨床研究検討も行う学会活動に繋げていきたい。本年度も、日本小児科学会、日本小児科学会兵庫県地方会、日本周産期新生児医学会、日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った。地域での小児医療の研鑽として、西淀小児科懇話会で話題提供を行った。

■カンファランス

周産期検討会 火曜日 午後5時30分～
症例検討会 木、金曜日 午前8時30分～9時

■今後の展望

小児科研修を志す初期研修医も多く、症例確保が重要な課題となるため、スタッフ数を維持し、精力的な医療活動を行っていきたい。小児科の研修施設として、教育にあたる指導医の充実を図ることも重要である。加えて、小児科専門研修プログラムでは、論文の作成が必須であるため、学術活動の幅を広げていくことが必要と考えられる。

一方、スタッフが多くなれば、医療的知識だけでなく、スタッフ間の意思疎通の不備も見られてくる。回診時に、患者情報の共有を徹底し、スタッフ全員が同様の方針を確認できるよう配慮していく。新病院、特に NICU は患児の治療のみならず、その家族のケアまで包括する Family centered care の概念を取り入れて設計した。ハード面の充実のみでなく、心を通わせたソフト面も重視し、信頼してもらえる医療を提供していきたい。

表 1. 月別一日平均外来患者数 (2019年4月～2020年3月)

(単位:名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
92	93	94	95	86	95	84	88	104	94	88	65

表 2. 月別時間外外来患者数 (2019年4月～2020年3月)

(単位:名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
148	197	167	172	164	142	128	114	173	227	163	86

表 3. 新生児センター入院数 (2019年4月～2020年3月)

(単位:件)

出生体重(g)	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率(%)
～499	3	3	2	0	3	2	0	0
500～999	7	7	4	0	7	2	1	14.3
1,000～1,499	16	16	6	0	12	1	1	6.3
1,500～1,999	45	45	8	0	19	1	2	4.4
2,000～2,499	158	155	15	3	22	1	0	0
2,500～	845	832	12	13	53	3	0	0
計	1,074	1,058	47	16	116	10	4	0.4

整形外科・関節センター

■スタッフ紹介

常勤医師

- ・松田 茂 (1997年卒 リハビリテーション科部長)
- ・鄭 克真 (2002年卒 整形外科部長, 関節センター長)
- ・蓑田正也 (2007年卒 医長)
- ・田中秀弥 (2015年卒 後期レジデント)

※2019年4月1日～2020年3月31日

非常勤医師

- ・仲野春樹 (1998年卒 大阪医科大学リハビリテーション科)

それぞれの専門分野をいかして専門外来診療を設定し、地域医療に尽力している。後期レジデントは十分な臨床の経験と知識・技術を研鑽できるような環境を整備し、臨床研究と発表を行うように指導している。

■診療内容

①外来診療

初診を含め全て予約制としている。2018年5月より紹介患者専用予約枠を確保し、地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている。紹介患者数も順調に増加している。また、2017年4月より各スタッフの専門性を活用し、従来行っていた水曜日午後の関節センター(鄭医師)の専門外来に加え、月曜日午後の小児整形外科(蓑田医師)、金曜日午後のリウマチ専門外来(松田医師)を行い地域への浸透が進みつつある。

②手術

2015年に年間600件を超え、この2019年度で初めて700件を超えた。また、人工関節手術に関して2013年よりナビゲーションシステムの導入以降、継続して精度の高い手術を提供している。

③病棟診療

主に7階西病棟を利用し、毎日医師1～4名による回診を行っている。病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている。担当する理学療法士と定期的なディスカッションを行い、患者個別の治療計画を立てている。

■2019年度のトピックス・実績

①人工関節手術

ナビゲーションシステムの利用により術中の様々な条件でのデータ収集が可能となり、臨床研究と学会発表に繋がっている。2017年に年間100件を超え、以降も少しずつ増加している(2011年:64件, 2013年:92件, 2015年:97件, 2017年:103件, 2018年:130件, 2019年:134件)。また、看護師(病棟, 手術室, 外来), 理学/作業療法士, 地域医療科スタッフら数多くのコメディカルの協力の下、手術患者向けのしおりを作成し活用している。さらに、人工関節置換術後患者で構成する患者会(健歩の会)では、年に2回バス旅行などのレクリエーションを行っており、手術だけでなく術後のケアにも注力し満足度向上に努めている。そのため会を重ねるごとに応募者数も増加し好評を得ている。また、地域医師会での講演を始め市民公開講座を積極的に開催することで、人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している。

②大腿骨近位部骨折に対する多職種連携

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく、「骨折を有している高齢患者の一疾患」とあるという概念の下、2017年より多職種連携アプローチに取り組んできた。整形外科医だけでなく救急医から麻酔科医、また、循環器内科・糖尿病内科・脳卒中内科を中心に各内科医による医師連携、そして看護部、リハビリテーション部、薬剤部、栄養管理科、MSWなどのコメディカル、更にはNSTやDSTによるサポートにより患者への包括的なアプローチを目標に多職種連携パスを構築した。2018年度より本格始動し、手術待機平均日数の短縮、入院日数の短縮を実感している。大腿骨近位部骨折のガイドラインによると、至適な手術時期は可及的早期、全身状態に問題なければ入院後48時間以内と推奨されている。しかし、日本整形外科学会の2013年施設調査によると入院後平均待機日数は 4.42 ± 6.29 日で、48時間以内に手術対応が可能である医療機関にも限りがあるのが現状である。当科で2019年1月～12月に施行した大腿骨近位部骨折手術症例の126件の平均待機日数は 1.45 ± 3.11 日と短縮していた。うち、73%の92例は24時間以内に、85%の108例は48時間以内に手術加療を実施できていた。

※下記に 2019 年度の手術実績（表）を掲載する。

③研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として、「スキルアッププログラム」と称し当科主導で研修医の指導を月に 1 度行っている。診療材料メーカー協力の下、豚皮を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで初期研修医の技術向上の一助となるだけでなくコミュニケーションの向上となるよう努めている。

■今後の展望

①大腿骨近位部骨折における地域連携パスの拡充

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉えることを根底に多職種連携パスを導入することにより、当院でのスムーズな治療が実現しつつある。一方で、大腿骨近位部骨折患者はその診断がついた時点でその根底には骨粗鬆症が存在する。すなわち当院での骨折に対する加療と併行した骨粗鬆症治療の開始と継続が、対側の近位部骨折や他の骨粗鬆症性骨折を予防するために大変重要となる。そのためには地域近隣医療機関との連携、病診・病病連携の強化、すなわち地域連携が不可欠である。この地域連携パスを開始すべく、2019 年に近隣のリハビリ病院、かかりつけ医などの医療機関の先生方、看護師、MSW と検討協議を重ねてきた。骨粗鬆症加療連携はもちろん、術後の日常生活動作など必要な情報を連携

する医療機関へ提供できるようなパスを目指し、2019 年度末に近畿厚生局への申請を経て、2020 年度より開始する運びとなった。今後、より改善と拡充を目指していきたい。

②近隣医療機関との連携強化

当院でのナビゲーションを用いた人工関節手術は年々その数が増加している。これは偏に近隣医療機関への定期的な訪問や、まさに病診連携の賜物と考えている。昨年度より『e-casebook』という近隣医療機関と気軽にコンタクトをとることができる ICT を用いた病診連携システムを構築した。これにより紹介前の患者に関する相談や情報の共有が可能となった。今後、科を超えた患者の紹介・逆紹介が更に積極的に行えることを確信している。

加えて、大阪市内での病病連携の拡充を目指す。勤務医学会や症例検討会、病診連携会などを経て所属する大学や医局の垣根を越えた連携を構築していくことを目指す。

③初期研修医、後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより、当科としての魅力を存分にアピールしリクルートも積極的に行っていく。慢性期疾患を基礎として、急性期疾患に十分対応できるように、更なる人員増加を目指す。その上で学術活動を支援し、大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい。

表. 2019 年度手術実績

(単位:件)

手術名		件数	
関節センター手術	人工関節置換術 (134)	TKA(人工膝関節)	110
		THA(人工股関節)	24
	関節鏡視下手術, スポーツ手術		39
大腿骨近位部骨折(HF) (142)	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	49
		骨折観血的手術	30
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術	63
外傷手術(HF以外)		334	
リウマチ		2	
小児		31	
その他		56	
合計		738	

リハビリテーション科（診療部）

■スタッフ紹介

リハビリテーション科

主任部長 松田 茂

リハビリテーション科

科長 神谷亮平

主任 村田尚寛

主任 安西直人

副主任 井上健太

副主任 氏内康友

<理学療法士> 17名

<作業療法士> 5名

<言語療法士> 5名

<訪問担当> 4名

■診療内容

1) 入院患者のリハビリテーション

2) 外来患者のリハビリテーション

3) 訪問リハビリテーション

4) 多職種連携（チーム医療）の実施

緩和ケアチーム・認知症ケアチーム・嚥下回診

退院支援チーム・栄養サポートチーム

■2019年度のトピックス・実績

1) 急性期病院のリハビリテーションとして高齢者患者の増加に伴い、人工関節置換術・大腿骨近位部骨折にクリニカルパスを運用し運動器リハビリテーション、循環器内科・呼吸器内科との連携の上、心臓リハビリテーション・呼吸器リハビリテーションを、脳卒中内科・脳神経外科と連携の下、脳血管リハビリテーションを行っている。退院後必要なケースにつき外来リハビリテーションや訪問リハビリテーションを行い、急性期から在宅へのニーズに対応できるように取り組んでいる。

2) 脳卒中内科と連携の上、認知症患者に対するリハビリテーション、院内デイケアを行っている。

3) 心大血管リハビリテーション料とがん患者リハビリテーション料の加算算定可能となった。

4) 実績については技術部リハビリテーション科参照

■今後の展望

1) がん患者リハビリテーション料の加算算定可能となっているが、今後更にスタッフに研修を受けていただき体制の充実を図っていきたい。

2) 急性期病院として早期退院へ向けての早期介入を含めた取り組みが必要とされ、理学療法・作業療法・言語知覚療法の多職種を含めたチームとしての医療活動をより発展させたい。

脳神経外科

■スタッフ紹介

部長	朝田雅博（1973年卒） 日本脳神経外科学会専門医
医長	立林洸太郎（2008年卒） 日本脳神経外科学会専門医，日本脳血管内治療学会専門医
医長	榑原史啓（2006年卒） 日本脳神経外科学会専門医，脳卒中学会専門医 （2020年4月1日着任予定）

■診療内容

2019年度末の人事異動で立林洸太郎先生が退職し、2020年4月から榑原史啓先生が常勤医として当科に赴任予定で、引き続き脳神経外科の常勤医は2人体制となる。現在、兵庫医科大学脳神経外科からの応援を得て、当直は週3日（火・水・木曜日）行っており、専門外来についてはそれぞれ、脊椎外科を陰山博人先生（火曜日）、小児脳神経外科・脳腫瘍を阪本大輔先生（水曜日）に、出向で担当していただいている。急性期脳主幹動脈閉塞症例については、大学との連携で drip & ship システムを確立している（2019年度の搬送は4例）。また脊椎手術症例については、専門外来を通じて大学に紹介している。

■2019年度のトピックス・実績

2018年度末の諏訪英行先生の退職に伴い、脊椎手術症例を全例兵庫医科大学へ紹介したため、手術件数が大幅に減少した。

2019年度の手術件数は48件であった。うち脳血管内手術は14例で、動脈瘤コイル塞栓術が2例、頸動脈ステント留置術が6例であった。

■今後の展望

西淀川区唯一の総合病院脳神経外科として、外来診療及び救急医療を通じ、患者一人ひとりに対して質が高く優しい医療を提供し、地域医療に貢献していく。また、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、t-PA 静注療法を含む急性期診療を行える一次脳卒中センターとしての認定を受けられるよう、院外では引き続き兵庫医科大学脳神経外科と緊密に連携を取り、院内では他の診療科や看護師、リハビリスタッフといった多くの職種と円滑なチームワークを形成し、脳卒中診療体制を整えていく。

当科で初期研修を積んだ先生方が兵庫医科大学脳神経外科に入局しており、今後も大学と連携しながら、若手の先生方の勧誘を行っていく。また、今後彼らが当科のスタッフとして本院に戻りたいと思えるような、やりがいのある職場を作っていきたい。

表. 2019年度実績

		(単位:件)
		2019年度
脳血管障害	脳内出血	4
	くも膜下出血	0
	未破裂脳動脈瘤	0
	頸動脈内膜剥離術	0
	バイパス術	1
	血管内手術	14
脳腫瘍	髄膜腫	1
	膠芽腫	2
	海綿状血管腫	1
脊髄脊椎	頸椎前方除圧術	0
	頸椎椎弓形成術	0
	腰椎椎間板ヘルニア	0
	腰椎部分椎弓切除術	0
	腰椎固定術	0
機能外科	水頭症	9
	神経血管減圧術	0
	末梢神経減圧術	0
頭部外傷	急性硬膜下出血	2
	急性硬膜外出血	1
	慢性硬膜下血腫	12
	頭蓋形成術	0
その他		1
合計		48

救急診療部

■スタッフ紹介

主任部長：林 敏雅

救急科専門医

医長：山下公子

救急科専門医

産婦人科専門医， 社会医学系専門医

日本 DMAT 隊員， JICA 国際緊急援助隊隊員

■診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった。2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された。同年4月からは救急医2名による診療体制となったが、2016年には再び救急医1名となり、2018年より救急医2名による診療となった。院内にはもう1名、救急専門医がおり、院内の常勤の救急専門医は3名となる。主たる診療は、日勤帯の救急搬送、外傷、一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応、院内の急変への対応も行っている。ER方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療、若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

救急医が2名となり、安定して救急搬送の受け入れが可能となっていたが、昨年より搬送件数はやや減少している。

年度末には新型コロナウイルスの流行、非常事態宣言に伴う不要不急の外出を控える通達が出たことで、大阪市全体での救急搬送件数の大幅な減少が見られた。当院でも同様に搬送件数の減少が見られてはいるが、内科医師を主とする病院全体としての強力な協力体制により搬送件数の減少は軽度に抑えられた。自己来院患者数は移転して以来、減少傾向であったが、今年度も新型コロナウイルスの流行の影響もあり、更なる減少傾向を認めた。

新型コロナウイルスが流行した1～3月はここには提示していないが入院率も上昇しており、二次の救急病院として適切な受け入れができていたと思われる。

■今後の展望

一般外来での受診と異なり、救急での受診はまさに緊急の受診であり、多くの受診を望むことは不適切なことではあるが、地域のニーズに合わせて、今後も積極的な受け入れを行っていききたい。

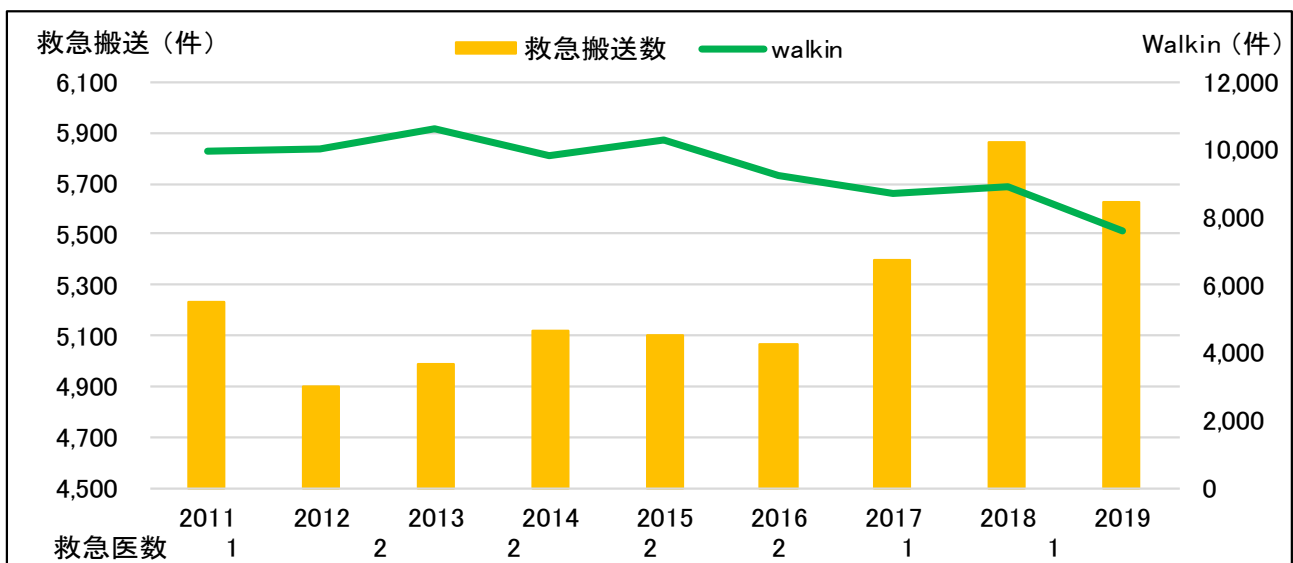


図. 救急センター受け入れ件数

泌尿器科

■スタッフ紹介

常勤医師 川口理作（1979年卒，部長）
 樋口喜英（1997年卒，副院長）
 楊 東益（2009年卒，医長）
 新開康弘（2013年卒，専攻医）

非常勤医師 新開裕佳子

■診療内容

腹腔鏡手術数は少しずつ増加している。副腎腫瘍，腎盂尿管癌・腎癌に対する根治手術，尿管摘除は例年通りであった。腎部分切除は4症例あった。小児泌尿器領域では院内紹介と周辺開業医からの紹介も増えている。生体腎移植手術は年に0～2症例行っている。移植を含めた腎代替療法の相談は増えている。ロボット支援前立腺手術は症例数の確保に努めるとともに手術合併症も少なく丁寧に実施している。近隣からの尿路結石や感染症，排尿障害への対応は素早く丁寧に対応しており，治療結果は良好である。

■2019年度のトピックス・実績

接触式前立腺レーザー蒸散術は，周術期の合併症は少なく，新規手術として安全性を確保しながら治療を行っている。初期経験を泌尿器内視鏡学会において報告した。

ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を，2019年7月から開始した。患者の身体的負担も少なく合併症も認めず症例を重ねている。

ロボット支援下前立腺全摘術は，安全に症例を重ねており，今年度は22例であった。

生体腎移植は，2019年1月に次いで9月に実施，拒絶反応も認めず移植腎機能も良好で安定している。2016年11月に施行した当院初の生体腎移植は，BKウイルス腎症を呈したが治療により腎機能は回復。当院で移植が始まり3年経過，3症例の腎機能は良好である。

経尿道的尿管結石除去術（TUL）は，レーザーが常備されたことで適したタイミングで治療が行われている。2019年はTULだけで88例であった。体外衝撃波結石破碎術（ESWL）は極端に減少している。

小児泌尿器科領域の様々な疾患への対応は，保存的治療に加え手術治療も積極的に行っている。

（表：主要手術実績）

■今後の展望

- ・適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加。
- ・ロボット支援手術（ダヴィンチ Xi）実施症例数の増加。
- ・ロボット支援下腎悪性腫瘍手術の継続実施。
- ・腎センターの有効な活用による腎不全診療の質の向上。
- ・レーザー前立腺蒸散術の手術件数増加。
- ・尿路結石に対するレーザー治療の利便性の向上。
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術の実施。

表. 主要手術実績

（単位：件）

手術症例数	2019年度
移植用腎採取術（鏡視下）	1
生体腎移植術	1
腹膜透析カテーテル留置	2
腹腔鏡下副腎摘出術	3
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	10
腹腔鏡下腎部分切除術	2
ロボット支援下腹腔鏡下腎部分切除術	3
膀胱全摘・尿路変向術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術	45
ロボット支援下前立腺全摘除術	22
経尿道的前立腺レーザー蒸散術	25
体外衝撃波破碎術	10
経尿道的尿管碎石術	78
経尿道的膀胱結石碎石術	13
陰嚢水腫根治術	10
停留精巣固定術	5
精巣捻転手術	1
膀胱尿管逆流手術	1
尿道下裂形成手術	2

皮膚科

■スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

■診療内容

外来診療：

- ・皮膚科一般
- ・病棟依頼診察
- ・褥瘡回診
- ・小手術

・ダーモスコープによる非侵襲的検査・診断

・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方

入院診療：

・带状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡等

集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している。

■今後の展望

外来・入院診療の質・量ともに向上するよう努めたい。

表. 外来診療体制

	月	火	水	木	金
午前	松本	松本	松本	松本	松本
午後	松本	検査・外来手術	褥瘡委員会 (第3水曜日)	褥瘡回診	松本

産婦人科

■スタッフ紹介

本山 覚 1977 年卒, 名誉院長

・専門: 婦人科腫瘍, 周産期, 性感染症, 女性漢方

吉田茂樹 1990 年卒, 副院長・部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医,
骨盤臓器脱, 周産期, 日本がん治療認定医機構・
がん治療認定医, 同機構・暫定指導医

岡田十三 1994 年卒, 周産期センター長・主任部長

・専門: 周産期, 産婦人科, 産婦人科救急, 子宮鏡手術

村越 誉 1996 年卒, 先端医療分野主任部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 周産期, 胎児超音波検査,
子宮筋腫, 内視鏡技術認定医, がん治療認定医

稲垣美恵子 1997 年卒, 女性科主任部長

・専門: 生殖内分泌, 内視鏡技術認定医, 周産期,
日本頭痛学会認定専門医, がん治療認定医

安田立子 1998 年卒, 産科主任部長

・専門: 周産期, 婦人科一般, 骨盤臓器脱, 腹腔鏡手術,
マンモグラフィ読影, がん治療認定医

大木規義 1998 年卒, 婦人科主任部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医, 周産期,
がん治療認定医

以下 専門: 周産期, 婦人科一般

山崎 亮 2015 年卒, 医長

細川雅代 2014 年卒, 医員

太田真見子 2015 年卒, 医員 近畿大学出向

京本 萌 2015 年卒, 医員
国立循環器病研究センター出向

加嶋洋子 2016 年卒, 医員

佐藤華子 2016 年卒, 医員 近畿大学からの出向

佐伯信一朗 2016 年卒, 医員 兵庫医科大学からの出向

小川紋奈 2017 年卒, 医員 済生会吹田病院出向

嶋村卓人 2017 年卒, 医員 済生会吹田病院出向

田邊 文 2017 年卒, 医員

田中美喜歩 2017 年卒, 医員 明石医療センター出向

北井沙和 2017 年卒, 医員 明石医療センター出向

北口智美 2017 年卒, 医員

中川公平 2017 年卒, 医員 明石医療センター出向

杉野孝子 2017 年卒, 医員 六甲アイランド病院出向

荻本圭祐 2018 年卒, 医員 淀川キリスト教病院出向

小倉直子 2018 年卒, 医員 産休

河谷春那 2018 年卒, 医員 育休

北 采加 2018 年卒, 医員 高槻病院出向

三木玲奈 2018 年卒, 医員

■診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の後期研修医 10 名 (明石医療センター 2 名, 高槻病院 1 名, 六甲アイランド病院 1 名, 済生会吹田病院 1 名, 淀川キリスト教病院 1 名, 近畿大学 1 名, 国立循環器 1 名, 産休 1 名, 育休 1 名) を除き, 産婦人科医師 17 名 (名誉院長 1 名・部長 6 名, 医長 1 名, 医員 1 名, 後期研修医 8 名) の体制で, 産科・婦人科の全領域をカバーしている (図 1)。大阪府地域周産期母子医療センター指定により, 活発に同センター運営を行い母体搬送に対応するとともに, 大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて産婦人科一次救急 (年間 1,138 台) の半数を超える 655 台の救急車を受け入れ, 地域産婦人科救急の要として日々努力している。

■2019 年度のトピックス・実績

尼崎総合医療センター開院の影響を受け, 一昨年度一時的に減少していた分娩件数は急速に回復し, 2017 年度, 1,618 件, 2018 年度 1,755 件, 2019 年度 1,895 件と連続して過去最高分娩件数を達成し (図 2), それに伴い産科手術実績 (手術点数) も増加した (図 3)。特に 2019 年度は分娩取り扱い数ではこれまで一位であった小阪産病院を抜き, 大阪府下分娩件数 1 位を達成した (表 1)。10 月より 24 時間対応の無痛分娩を開始し, 今後更なる分娩数の増加を目指す。

一方, 婦人科の手術実績は本年度も更に増加し, 手術点数ベースで過去最高の実績 (産婦人科で手術点数 4,000 万点, 手術件数 1,301 件, とともに前年度比 106%) を達成した (図 3)。4 名の産婦人科内視鏡技術認定医が中心となり, 鏡視下手術件数 (493 件, 大阪府下 4 位) が今期も増加したこと, 婦人科悪性腫瘍手術件数 (58 件, 近畿圏 27 位: 手術数でわかるいい病院 2020 参照) が増加したことが大きく寄与したものと考え (図 3)。

特に婦人科領域においては、より先進的な医療への取り組みを継続している。da Vinci Xiを用いた婦人科ロボット手術件数は大阪市立総合医療センターについて大阪府下第2位、全国第10位（表2）となり、また、子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術で「先進医療」の施設認定を取得したが、本申請は全国で7施設目になる。

また当院産婦人科は、『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており、2019年新たに8名の後期研修医の採用を決定した（全国11位・表3）。これら多数の後期研修医採用を背景に、明石医療センターに2名、高槻病院に1名の後期研修医を派遣し、両病院の産婦人科運営をサポートしている。

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており、これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている。

■今後の展望

2019年度大阪府下分娩取り扱い件数1位を獲得したが、24時間対応可能な無痛分娩の導入により、大阪における無痛分娩のメッカとなることを目指し、年間分娩数2,000を最終目標に、分娩数増加を目指す。

一方婦人科領域では、4名の内視鏡技術認定医を中心に、最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に行い、今後更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる。



図1. スタッフ写真

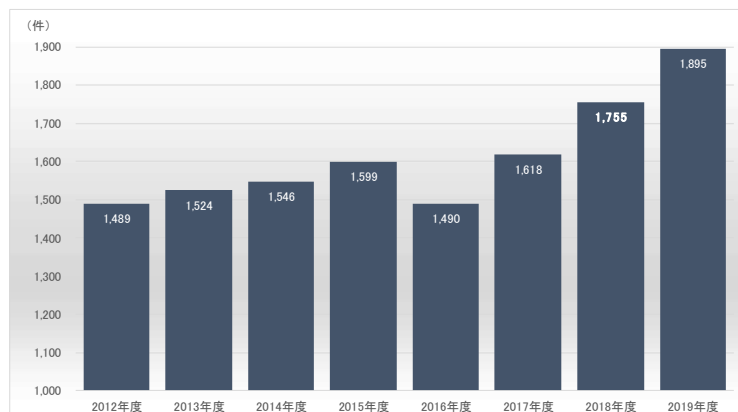


図2. 千船病院産婦人科・分娩件数・年次推移

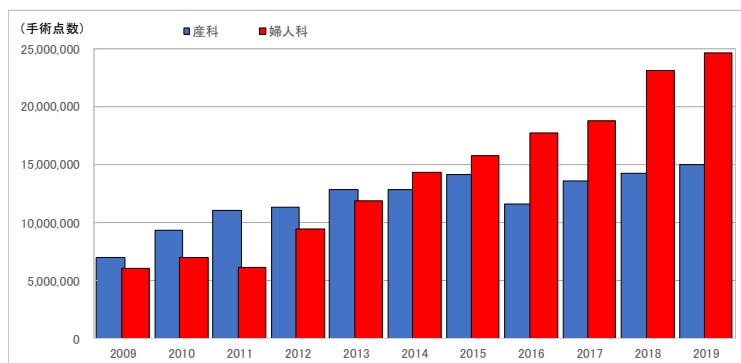


図3. 千船病院産婦人科・手術実績（手術点数）の年次推移

表 1. 2019 年度 大阪府下分娩施設別 年間分娩数順位 (全 59 施設)

(単位:件)

	施設名	件数
1位	千船病院	1,895
2位	小阪産病院	1,736
3位	大阪母子医療センター	1,715
4位	大阪急性期・総合医療センター	1,183
5位	高槻病院	1,160
6位	浜田病院	1,130
7位	ベルランド総合病院	1,117
8位	府中病院	1,043
9位	愛染橋病院	1,040
10位	箕面レディースクリニック	1,019

表 2. 婦人科 da Vinci Xi 手術実施件数/全国順位 (全 58 施設)

(単位:件)

	施設名	件数
1位	倉敷成人病センター	209
2位	豊橋市民病院	118
3位	大阪市立総合医療センター	92
4位	東京女子医科大学附属病院	72
5位	山梨県立中央病院	67
6位	三重大学病院	67
7位	石川県立中央病院	63
8位	東京医科大学附属病院	56
9位	藤田医科大学病院	50
10位	千船病院	49
11位	滋賀医科大学医学部附属病院	39
12位	滋賀県立総合医療センター	37
13位	済生会横浜東部病院	35
14位	順天堂大学医学部附属順天堂医院	30

表 3. 新専門医制度 2019 年採用決定産婦人科後期研修医数/全国順位 (専門医機構 HP より抜粋)

(単位:人)

	基幹施設名	都道府県	採用者数	定員数	充足率
1位	東京大学医学部附属病院	東京都	19	30	63%
2位	昭和大学病院	東京都	17	17	100%
3位	九州大学病院	福岡県	15	20	75%
4位	筑波大学附属病院	茨城県	13	15	87%
5位	大阪大学医学部附属病院	大阪府	13	18	72%
6位	慶應義塾大学病院	東京都	12	15	80%
7位	三重大学医学部附属病院	三重県	11	10	110%
8位	京都大学医学部附属病院	京都府	10	26	38%
9位	東北大学病院	宮城県	9	20	45%
10位	名古屋大学医学部附属病院	愛知県	9	25	36%
11位	社会医療法人愛仁会千船病院	大阪府	8	8	100%
	札幌医科大学附属病院	北海道	8	10	80%
	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都	8	20	40%
	東京女子医科大学病院	東京都	8	10	80%
	鹿児島大学病院	鹿児島県	8	15	53%

眼 科

■スタッフ紹介

非常勤医師 6名

■診療内容

一般外来 月～金曜日午前，火，木，金曜日午後

手術 月曜日午後

(眼科一般外来，未熟児網膜症外来（小児外来）など)

■2019年度のトピックス・実績

非常勤医師6名体制で外来診療に対応いただき，また手術も積極的に行っていただいた。

手術の実績は，「白内障手術」が72件と前年に比べ倍

増の実績を収めることができた。非常勤医師の先生方の頑張りに非常に感謝している。

■今後の展望

神戸大学医学部眼科学教室の支援もあり，2020年7月に常勤医師が1名着任することとなった。非常勤医師の先生方とは引き続き良好な関係を維持していきたい。また，当院眼科の特徴である未熟児網膜症の治療，ロボット支援手術（ダヴィンチ）の術前検査，減量外来に関わる糖尿病性網膜症の増加への対応についても，滞りなく対応していきたい。

耳鼻咽喉科

■スタッフ紹介

常勤医師 伊集院隆宏
奥西真帆
軈津匡宏
非常勤医師 原田倫子

■診療体制

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）。

■活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない。伊集院、軈津が外来及び病棟、手術等の診療を、奥西は外来診療を主に行っている。原田医師は水曜日午前中の外来診察のみ担当

ただいている。

近年好酸球性副鼻腔炎症例が多く、副鼻腔手術の適応に躊躇することが多くなっていたが、今年1月に副鼻腔ナビゲーションシステムを導入していただいた。手術の安全性が飛躍的に上がり、積極的に副鼻腔手術を行っていかうとした矢先コロナウイルスの流行のため当科手術の延期を余儀なくされていたが、流行状況も落ち着いてきており、学会の指針や世間の動向を踏まえ手術再開の時期を検討中である。

■今後の展望

引き続き近隣の開業医及び高次機能病院とのより丁寧な病診連携を行っていきたいと考えている。

表1. 外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	原田・手術	伊集院	奥西
	奥西	奥西		奥西	軈津
午後	検査・外来手術 (完全予約制) 補聴器外来	検査・外来手術 (完全予約制) 補聴器外来	手術	検査・外来手術 (完全予約制)	検査・外来手術 (完全予約制)

表2. 手術状況（2019年4月1日～2020年3月31日）

手術名		例数	手術名		例数
耳科領域	鼓膜チューブ留置	11	喉頭・気管・食道領域	喉頭良性腫瘍摘出術	1
	その他	3		音声機能改善手術	1
鼻・副鼻腔領域	鼻中隔矯正術	2		気管切開術	1
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	8		その他	1
	下鼻甲介手術	4	顔面・頸部領域	甲状腺良性腫瘍摘出術	1
	鼻副鼻腔良性腫瘍手術	1		耳下腺良性腫瘍摘出術	2
	その他	0		頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	0
口腔・咽頭領域	口蓋扁桃摘出術(アデノイド切除術含む)	97	その他(リンパ節生検含む)	1	
	軟口蓋形成術	2	合計(件)	145	
	舌、口腔・咽頭腫瘍切除術	9			
	その他	0			

麻 酔 科

■スタッフ紹介

1. 常勤医

主任部長 上北郁男（2002年卒，専門医・指導医）

部長 河野克彬（1967年卒，専門医・指導医）

部長 魚川礼子（1998年卒，専門医・指導医）

医長 角 千里（2005年卒，専門医・指導医）

医長 星野和夫（2007年卒，専門医・指導医）

医長 大山泰幸（2008年卒，専門医）

医員 金岡由起（2014年卒）

大阪医科大学麻酔科専門研修プログラム

清水定典（2016年卒，専攻医）

2020年4月1日着任予定

2. 非常勤医

八木俊浩（認定医）

3. 臨床研修

初期研修医：

1年次 9名

石村颯貴，小林基子，稲月あさひ，岩橋怜子，

田丸瑞希，安藤悠子，好木康明，国本一輝，

尾上雲花

2年次 2名

黒川 晟，山田真唯子

■診療内容

月曜日から金曜日，周術期管理（術前，術中，術後）及びICU管理を施行.

月曜日から金曜日，麻酔科外来（術前）を施行.

火曜日，オンライン相談，及びDVDにて無痛分娩教室を施行.

木曜日，無痛分娩外来を施行.

無痛分娩（PIBを用いた硬膜外注入法）を随時施行.

ペインクリニック外来を水曜日午後15時に施行.

月曜日から金曜日朝，麻酔科医，手術室看護師，臨床工学士合同の術前カンファレンス.

■2019年度のトピックス・実績

（学会発表）

上北郁男，金岡由起：腹腔鏡下子宮筋腫核出術における子宮筋層局所注入バソプレシン量と経皮的動脈血酸素飽和度低下についての検討：日本臨床麻酔学会第39回大会，軽井沢町，2019年11月7～9日

金岡由起，大山泰幸，星野和夫，魚川礼子，河野克彬，上北郁男：硬膜穿刺後に頭蓋内硬膜下血腫を発症した帝王切開術の麻酔経験：日本臨床麻酔学会第39回大会，軽井沢町，2019年11月7～9日

安藤悠子，上北郁男：大腿骨近位部骨折に対して準緊急手術を行うことができなかった社会的要因の検討：第32回日本老年麻酔学会，倉敷市，2020年2月8～9日

石村颯貴，上北郁男：大腿骨近位部骨折に対して準緊急手術を行うことができなかった医学的要因の検討：第32回日本老年麻酔学会，倉敷市，2020年2月8～9日

魚川礼子：リフレッシュャーコース「妊婦と抗凝固」講演：日本麻酔科学会第66回学術集会，神戸市，2019年5月30日～6月1日

魚川礼子：麻酔科専攻医の分娩時硬膜外鎮痛経験可能実数調査：横断研究 共同演者：日本麻酔科学会第66回学術集会，神戸市，2019年5月30日～6月1日

魚川礼子：先天性アンチトロンビンⅢ欠損症における硬膜外麻酔の経験，日本麻酔科学会第65回関西支部学術集会，大阪市，2019年9月14日

角 千里：プロポフォールはミトコンドリアの電子伝達系を介して代謝を解糖系にシフトさせ細胞死を誘導する：日本麻酔科学会第66回学術集会，神戸市，2019年5月30日～6月1日

（論文）

角 千里：プロポフォールはミトコンドリアの電子伝達系を介して代謝を解糖系にシフトさせ細胞死を誘導する，麻酔，68（増刊），S225-230，克誠堂出版，2019

角 千里：Cancerous phenotypes associated with hypoxia-inducible factors are not influenced by the volatile anesthetic isoflurane in renal cell carcinoma. PLoS One. 14(4): e0215072, 2019

（著書（執筆））

魚川礼子：産科麻酔の疑問 Q&A60 分担執筆
角 千里：産科麻酔の疑問 Q&A60 分担執筆
角 千里：一歩進んだ麻酔管理 常識は常に真実か？ 分担執筆
(啓蒙活動)
魚川礼子：4月14日 日本産婦人科学会(名古屋)硬膜外鎮痛急変対応コース カテゴリーB 講演・インストラクター
魚川礼子：7月6日 千船病院 無痛分娩安全講習会開催 カテゴリーB 講師
魚川礼子：10月14日 無痛分娩安全講習会(開催地大阪大学)
魚川礼子：11月23日 無痛分娩安全講習会(開催地東京) カテゴリーB 講師
魚川礼子：8月10日 メディカ出版 講演 産科麻酔講演

魚川礼子：11月9日 メディカ出版 講演 産科麻酔講演
魚川礼子：2月7日 メディカ出版 講演 産科麻酔講演
魚川礼子：日本麻酔科学会産科麻酔 ワーキンググループ
魚川礼子：日本母体救命システム カテゴリーD ワーキンググループ

■今後の展望

手術室運営の更なる効率化を行い、手術件数の増加を図りたい。他科との連携をより深め ICU の稼働率を上昇させていきたい。

手術室業務に限らず緩和ケア、ペイン領域の充実を目指していく。院内で横断的に貢献できる麻酔科医を養成していきたい。無痛分娩センターを開設し 24 時間対応となったことで、より質の高い鎮痛の提供と件数増加、また産科麻酔教育の充実を図っていきたい。

千船クリニック（CKD センター）

■スタッフ紹介

金 鐘一：日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本透析医学会専門医・指導医，日本病院総合診療医学会専門医，千船クリニック所長

非常勤医師

神戸大学医学部附属病院腎臓内科医師他，計 5 名

■診療内容

透析室

- ・対象：慢性腎臓病（CKD）の初期から末期（透析患者）
- ・診察室（2 室）：主として透析未導入の慢性腎臓病
- ・透析ベッド 40 床＋隔離用個室 3 床：4 クールの血液透析治療（血液透析濾過治療を含む）
- ・看護師外来：透析治療法選択時の情報提供，食事療法の食材等説明

■2019 年度のトピックス・実績

①維持透析患者（血液透析 HD）：維持透析患者数は 2020 年 3 月末で HD（含 HDF）130 名（前年 130），年間総 HD 回数 20,350 回（外来 19,408）で前年比 4.9%増となっている。

②栄養指導：栄養科の協力で，維持透析患者のベッドサイド栄養指導を継続。

③研究報告（論文，学会・研究会報告）

・第 64 回日本透析医学会（2019 年 6 月）

「台風被害による停電を経験して 施設間連携を考える」
井伊貴史

「Cinacalcet から Evocalcet への切替後の血清 Ca 濃度の推移」 金 鐘一

ワークショップ「血液透析患者の亜鉛欠乏診療の問題点」

金 鐘一

・愛仁会医学研究誌 50 巻

「病院移転にともなう透析通信システム Future Net Web への移行」 中島僚太

■今後の展望

当クリニックは開業 11 年を迎えた。

2017 年の千船病院の移転時に，運用上のデメリットと患者の利便性を勘案して当クリニックは千船駅周辺に残ることを選択した。結果として，2019 年度はクリニック開設以来最高の償却前利益を達成し，本院移転後の 3 年間で償却前利益の累計は 4 億 9 千万となった。

この成果は，千船駅残留に伴い日々生じた諸問題を一つ一つ丁寧に解決してくれたクリニックスタッフ，また直接収益の発生しない諸々の業務を担ってくれた千船病院の多くの職員の支えがあってこそこの成果である。

2019 年から当エリアの在宅診療が千船クリニックに一本化された。

今後，在宅診療の需要の増加と，透析患者数の増加が予想されている。地域に根ざした医療提供を継続するためには，住民から選ばれる医療の提供と収益構造の安定化を図る必要がある。

新興感染症により新たな問題が突きつけられているが，それらの問題を一つずつ解決し，慢性透析医療と在宅診療という患者の生活を支える医療の発展を今後も目指す。

故に諸侯の謀を知らざる者は，予め交わること能わず
山林險阻沮沢の形を知らざる者は，軍を行くこと能わず
郷導を用いざる者は，地の利を得ること能わず
孫子「九地篇」

勝負には正確な情報が必要である

文責 金 鐘一

愛仁会地域ケアセンター 在宅医療部

■スタッフ紹介

主任部長 北 智之
医長 石村恵美

■診療内容

独力では通院困難な方に対して訪問診療を行い、疾患の診療や医療機器の管理などを通して、家で過ごすための種々のサポートを行っている。

原疾患としては各種がん、認知症、末期心不全、非代償性肝硬変、末期腎不全、脳梗塞後遺症、神経難病、褥瘡等多岐に渡っており、医療機器管理や処置として人工呼吸器、尿道カテーテル、胃瘻、経鼻胃管、ポートとポンプを使用した中心静脈栄養、重度褥瘡処置（デブリドマンを含む）など幅広く行っている。また、在宅療養支援病院として、24時間365日体制で緊急往診に対応している。

特に在宅看取りに力を入れており、看取りに至るまでのプロセスを大切に、家で過ごせてよかったと思っていただけの心の通った寄り添う医療を心掛けている。

■2019年度のトピックス・実績

訪問診療件数：3,300、往診件数：187、
緊急往診件数：46、夜間往診件数：16、
休日・深夜往診件数：17、看取り患者数：43、
新規患者数：79

在宅医療では比較的ハードルの高い、オピオイドの持続皮下注射も積極的に実施しており、そこを評価する在宅緩和ケア充実診療所加算の要件を新たに満たし、在支診として現状可能な、最高点数の施設基準を満たすことができた。

■今後の展望

在宅医療は今後ますます需要が増えていくことが予想される。患者数が増えたとしても質を落とさず、きめ細かい対応を24時間365日続けるために、理念をしっかりと共有した意識の高いスタッフを確保し、教育体制やカンファレンス等を充実させ、いきいきと、one teamとして和を尊びつつ働くことのできる環境作りに取り組む必要がある。

同時に、法人内外の機関や施設との関係強化を一層進め（多職種連携）、ICTの積極的な活用、人材の柔軟な活用、在宅医療の形に適したシステム作りなど、非効率な在宅医療の中において様々な工夫を凝らし、病気ではなく人・家族・地域をみるという在宅医療の奥深さを追求していきたい。

看護部

■スタッフ紹介

看護職員数 432名

〈内訳〉 看護師 304名 助産師 83名

准看護師 7名 離職率 10.4% 平均年齢 32.8歳

看護助手 41名 離職率 13.2% 平均年齢 48.8歳

■2019年度のトピックス・実績

1. 地域で求められる医療体制充実の看護力の強化

1) 外国人対応の推進

2019年度の外国人患者は入院延べ患者数1,007名、外来延べ患者数2,630名であり、年々患者層は多様化している。2019年5月31日付には「大阪府外国人患者受け入れ地域拠点医療機関」に認定された。

看護部は3名が日本国際看護師の認定を受け、職員向けに外国人患者対応の講習を実施した。

2) 24時間無痛分娩の開始

2019年10月より無痛分娩の対応が24時間となった。2019年の上半期6か月の無痛分娩は60件、下半期は116件となった。麻酔科医師と産科病棟の助産師との連携で夜間、休日においても合併症を含むトラブルなく実施できている。

3) 地域住民の小学生と保護者向けの病院探検隊の実施

看護副主任会主催で5月11日、12月21日の2回実施し、地域の32家族、88名の参加が得られた。疾患をもつ児童の参加もあり、「この機会をもつことで大変勇気づけられた」との感謝のお手紙も頂いた。当院を知っていただく良い機会となった。

2. 垣根を超えた新たな看護補完体制の構築

2019年度当初より手術室看護師の離職が相次いだ（離職率25.6%/年）。急性期病院として手術機能を死守するため、5月よりICU・MFICUスタッフが手術看護トレーニングを開始した。周手術期看護の体制再構築、補完体制の実施により、上半期手術件数は1,668件、下半期は1,713件と手術件数は増加、年間手術件数も前年度比106%と手術に対応することができた。

周手術期看護体制再構築では、手術室、ICU、MFICUが新体制に果敢にチャレンジした。また診療部、臨床工学科等、病院全体の支援も多大であり、何とか状況を打開する糸口を見出すことができた。体制構築は道半ばである。

引き続き取り組みを進めたい。

また周産期分野では、NICU、GCUスタッフが6階東病棟、7階東病棟、小児科・産科外来への応援を開始した。新生児期～小児期、成人期看護も学び、組織横断的な応援体制を実施した。

3. クリニカルラダーによる看護実践力強化

クリニカルラダーの内容の再整理を実施。看護実践力は日本看護協会の原案を基に、「知識、技術の量の評価」から「質の評価」への転換を行い、看護実践そのものを臨床現場で育み、確認する形式とした。また組織的役割遂行能力、自己教育・研究能力は愛仁会の「仁」の理念を重視し、互いを尊重し成長しあうことを支援する行動目標とした。研修は主にオンデマンドを活用し知識の充実をはかった。集合研修では組織的役割遂行能力向上のための「リーダーシップ・メンバーシップ」及び「ISBARC」の集合研修を行った。

4. ヘルシーワークプレイスの実践

上半期の重症度、医療・看護必要度が33.6%から下半期には34.5%に上がった。部署を超え、繁忙度に応じた補完体制・応援体制に取り組み、部署平均の超過勤務時間は122.9時間から102.8時間と減少できた。「忙しいと仕方がない」という意識を変革し、部署間の相互の補完や業務のムダを省く努力を重ねた結果と考える。

看護科長会では①働き方改革、②SDGsについて学んだ。ヘルシーワークプレイスの中でも「感染症から職員を守る」は、COVID-19対策に直結し、ゾーニング、PPE着脱、標準予防策、職員配置、病床配置などの具体策に繋がった。

■今後の展望

垣根を超えた看護補完体制の構築では、周手術期看護体制の再構築を行った。

今後は手術室、ICUの一体化、MFICUを含めたグレードAへの体制構築、周産期分野の補完体制の強化、成人系も含めた、柔軟な補完体制を進めていく。

また再整理されたクリニカルラダーは、認定評価会を実施し制度を早急に軌道に乗せる。

ヘルシーワークプレイスのために、更に業務を見直し、集中と選択によりメリハリをつけた看護実践に繋げる。

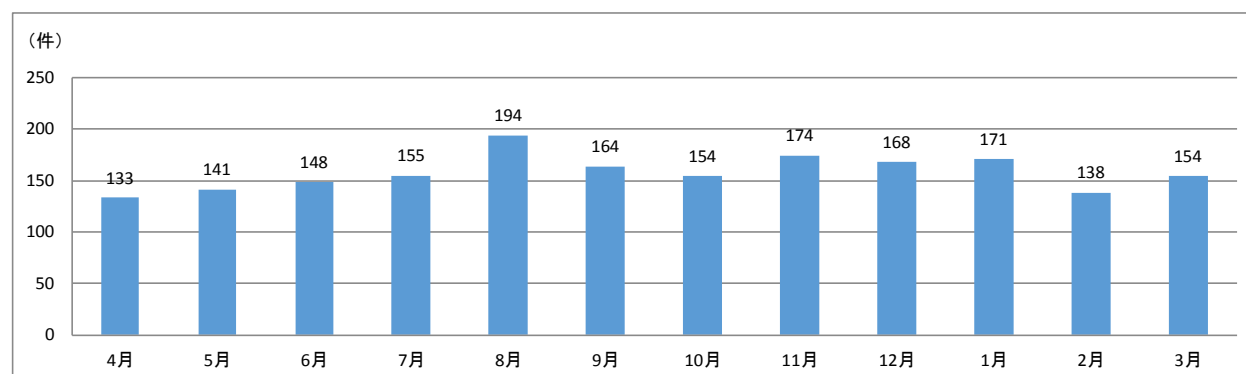
表 1. 各看護単位の状況

病棟	病床稼働率	平均在院日数	65歳以上割合	総入院数 (1日平均)	総退院数 (1日平均)	死亡患者数 (月平均)
8F東	100.7 %	10.8 日	84.2 %	1,014 人 (2.8)	1,097 人 (3.0)	60 人 (5.0)
8F西	99.9 %	8.0 日	72.0 %	1,428 人 (3.9)	1,414 人 (3.9)	37 人 (3.1)
7F東	97.1 %	10.9 日	71.2 %	1,097 人 (3.0)	1,101 人 (3.0)	40 人 (3.3)
7F西	101.3 %	11.6 日	73.7 %	909 人 (2.5)	967 人 (2.6)	11 人 (0.9)
6F東	87.0 %	4.2 日	7.3 %	1,178 人 (3.2)	1,099 人 (3.0)	0 人 (0.0)
6F西	97.3 %	6.7 日	42.2 %	1,461 人 (4.0)	1,405 人 (3.8)	23 人 (1.9)
MFIGU	76.8 %	8.2 日	0.0 %	177 人 (0.5)	15 人 (0.0)	0 人 (0.0)
GCU	108.8 %	5.0 日	0.0 %	651 人 (1.8)	923 人 (2.5)	0 人 (0.0)
NICU	87.3 %	10.1 日	0.0 %	446 人 (1.2)	97 人 (0.3)	4 人 (0.3)
ICU	62.4 %	1.6 日	59.4 %	121 人 (0.3)	29 人 (0.1)	17 人 (1.4)
産科	105.1 %	5.8 日	0.0 %	1,866 人 (5.1)	2,234 人 (6.1)	0 人 (0.0)
	総分娩室	一般経膣	帝王切開	院内助産		その他
	1,894 件	990 件	518 件	経膣分娩 336 件	帝王切開 16 件	子宮内胎児死亡 34 件
手術室	手術台稼働率			手術件数(前年比)		
	平均 62.4% (前年 61.2%)			総数	時間内緊急	時間外緊急
				3,381件 (+216件) 前年比:107%	304件 (+20件) 前年比:115%	238件 (-16件) 前年比:93.7%
救急	総来院患者数					
	総数	13,248人				
	救急搬送	5,624人				
外来	総来院患者数(1日平均)		化学療法 外来患者数		採血患者数(1日平均)	
	213,928人 (887.7)		1,260人		42,753人 (177.4)	
院内透析	透析回数(月平均)			導入患者数		
	1,450件 (120.8)			27人		

図表 1. 月別分娩件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
分娩件数(死産込み)	133	141	148	155	194	164	154	174	168	171	138	154	1,894 (前年比+122件)



薬 剤 科

■スタッフ紹介

(科長) 木村真策

(副主任) 鶴崎 亮, 久保智士

三原瑞貴, 石田あい, 岡 紗智子, 高本早希, 今市沙有美, 土本寛子, 北村悠里子, 片江 蘭, 上原優里, 富永紗菜恵, 原田千菜美, 芦澤穂波, 兼保 薫, 宮城 景, 青木美沙, 生藤可奈, 長井梨紗, 安場麻里, 迫田美和子, 小山晃弘, 樫本美久, 寺島優花

■業務内容

後発品も約 85%の使用率となり、微調整を行いながらコントロールができています。11月より薬剤師の2病棟3名制を実施し、退院時の指導アップ、退院時薬剤サマリの充実を行うようになった。特に退院時薬剤サマリは2020年度診療報酬改定でも重要視されており、今後の地域連携にも必要不可欠と考える。

■2019年度のトピックス・実績

職員の異動・退職も例年同様見られたが、その中でも、抗菌化学療法認定薬剤師, 認定実務実習指導薬剤師などの資格認定の取得者も生み出した。学会発表も4題行え、スキルアップが図れたと考えられる。また、NST 専門療養士の外部研修に1名参加し、今後、資格取得の予定である。

■今後の展望

昨年同様、入院患者中心の薬剤管理指導と、退院時薬剤サマリを活用した地域連携の強化を図っていききたい。また、薬剤師外来を活用し、化学療法・自己注射指導・吸入指導など薬剤師の能力をいかした活動を行っていききたい。また、若い薬剤師が多いためスキルアップの機会を増やし、資格認定や学会発表が増やせるような環境作りを行っていききたい。

表 1. 薬剤指導管理料・退院時薬剤指導管理料算定件数

(単位:件)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導料	852	857	948	1028	842	879	927	1,019	1,031	1,040	1,057	1,118
退院時	133	114	122	143	151	113	113	333	377	328	345	365

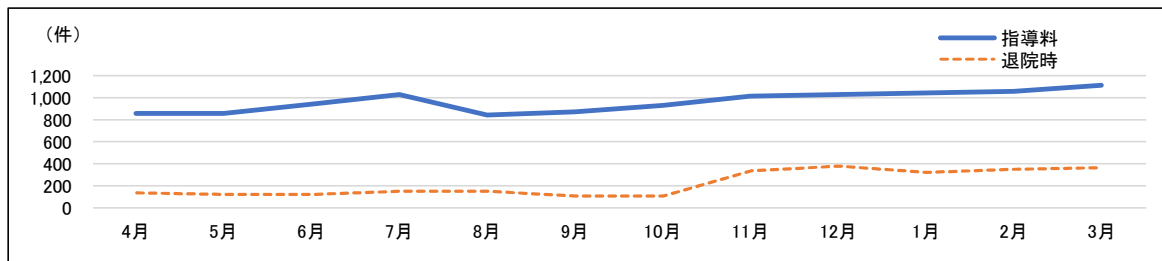
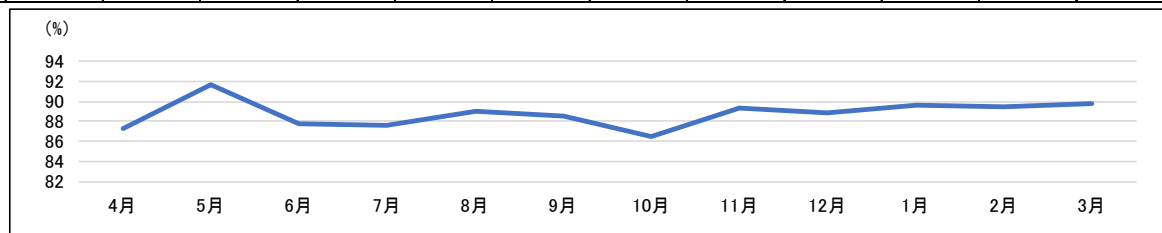


表 2. 後発品使用率

(単位:%)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
使用率	87.2	91.7	87.7	87.6	89	88.5	86.5	89.3	88.8	89.6	89.5	89.7



放射線科

■スタッフ紹介

- (科長) 田中寛人
 (主任) 目黒雅一・久保伸平
 (副主任) 坪田 明・田中大也
 (科員) 藤野隆夫・中村亮太・三島彩子
 品川 諭・橋本和樹・城本勇輝
 伊東直博・田村正和・尾崎 笑
 上津千明・金元梨胡・森 大地
 伊藤祐斗・佐伯奏海・郷司柚芽
 中本光一・平井 翠

■業務内容

- ①一般撮影 (X線発生装置3台・FPDポータブル撮影装置3台・乳房撮影装置1台)
 ②造影検査 (X線TV装置2台・アンギオ装置1台)
 ③マルチスライスCT (320列・80列) 2台
 ④MRI装置 (3.0T・1.5T) 2台
 ⑤RI検査装置 1台
 ⑥骨塩定量装置 1台
 ⑦外科用イメージ 3台
 ⑧超音波検査

■2019年度のトピックス・実績

CT, MRIは2台体制となり各科のニーズに 대응やすくなった。

地域病院への訪問活動とPRを積極的に行ったことでMRI検査件数の増加に繋がった。乳房MRI, 子宮卵巣MRIや心臓MRIの撮像に力を入れている。特に全身DWIBSを試みている。

表は近年3年度分の年度別検査件数の比較表である。

CT検査は前年比101% (163件増)であったが、MRI検査は前年比105% (328件増)と順調に増加している。骨塩定量検査や内視鏡検査等の検査件数も順調に増加している。

■今後の展望

2020年度は、医療被ばくの適正な管理や放射線機器の安全利用の管理体制を構築していく。

それぞれの分野での専門教育を充実させ、放射線科全体のレベルアップに取り組んでいきたい。

表. 年間検査件数実績比較表 (2017年度～2019年度)

検査名	年度	総件数
一般撮影	2019年	30,010
	2018年	31,097
	2017年	31,142
ポータブル撮影	2019年	8,235
	2018年	7,739
	2017年	6,447
乳房撮影	2019年	997
	2018年	1,097
	2017年	1,037
消化管造影	2019年	385
	2018年	390
	2017年	249
その他造影検査	2019年	1,233
	2018年	1,085
	2017年	845
CT	2019年	13,972
	2018年	13,809
	2017年	13,372

(単位:件)

検査名	年度	総件数
MRI	2019年	6,671
	2018年	6,343
	2017年	6,022
骨塩定量検査	2019年	1,349
	2018年	1,054
	2017年	998
心臓カテーテル検査	2019年	288
	2018年	295
	2017年	314
血管造影検査	2019年	119
	2018年	122
	2017年	137
核医学検査	2019年	579
	2018年	611
	2017年	544
内視鏡検査	2019年	5,708
	2018年	5,368
	2017年	5,324

臨床工学科

■スタッフ紹介

臨床工学技士 合計 12 名

科 長：稔野益男

手術心カテ担当主任：田口友和

血液浄化 ME 担当主任：木下 亮

OP 担当主任：沖田新一

副主任：田村 悠，八上政大

科 員：吉村健悟，井伊貴史，中島将太，中島僚太，
平井宏和，杉永里美

■業務内容

臨床工学科の業務内容詳細を下記に記す。

【血液浄化業務】

1. 血液透析業務

入院患者中心に血液透析を行っている。ベッド数は個室 2 床を含む 10 床である。近隣の透析施設から透析患者の手術、検査、透析合併症の治療など、様々な状態の患者の血液透析に対応し、地域の透析基幹病院の役割を担っている。また透析患者の救急も 24 時間体制で対応している。表 1 に当院透析患者の状況を示す。

2. その他の血液浄化業務

その他、緊急血液透析、持続緩徐式血液濾過透析療法、血漿交換療法、エンドトキシン吸着療法、腹水濾過濃縮療法、ECUM 療法など、主に ICU 内で施行している。表 2 に急性血液浄化実績を示す。

【ME 業務】

1. ME 機器管理業務

ME 機器管理システムにて一元管理を行っている。中央管理機器にアクティブタグを設置し、所在確認と点検情報・使用状況をタブレット端末にて感知、管理を行っている。

2. 中央管理業務

輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器の中央管理を行っている。人工呼吸器アナライザーにて人工呼吸器始業前点検を行い、回路交換、回路管理、トラブルや修理に対応している。当院における成人用人工呼吸器は ICU 以外の病棟はレンタルにて対応しており、点検管理を行っている。輸液・シリンジポンプは、使用後の機器の清掃、ポン

プチェッカーでの保守点検を実施している。また稼働率の把握に努め、ポンプの提供に役立っている。ME 機器修理も科内処理若しくは院外業者修理への対応を行っている。表 3 に科内修理の状況を示す。

3. 医療機器安全管理業務

医療機器を新規購入した際に使用部署向けに勉強会の随時開催と、新人看護師研修を実施した。

また、業者による修理完了報告書の管理、定期点検を計画通り行うなど、医療安全に関わる業務を遂行した。医療機器に関するアクシデントにおいて、機器の操作履歴の確認、調査なども医療安全管理者の依頼の下で行った。

【NICU 業務】

NICU でも ME 機器管理業務と同様に ME 機器管理システムにて点検管理業務を行っている。保育器、小児用人工呼吸器などが重点管理機器となっており、定期点検の計画と実施、日常点検の実施などを管理している。また人工呼吸器の回路交換、回路のセッティング、NICU 内の ME 機器のトラブル対処、修理なども行っている。NO 療法も、回路の組み立てと機器の使用前点検などの対応を 24 時間体制（オンコール）で行っている。

【OP 室業務】

手術支援ロボット da Vinci Xi を使用した OP や腹腔鏡や胸腔鏡、関節鏡などカメラを使用する OP、デモ機器を使用する OP を中心に臨床技術提供を行っている。また麻酔器、高低体温維持装置など OP 室内の ME 機器の点検準備、またナビゲーションシステムやセルサーバ使用の OP にも立ち会っている。OP 業務実績を表 4 に記す。

【循環器カテーテル業務】

アンギオ（血管造影）部門では、心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・四肢動脈形成術・シャント血管形成術などに従事し、これらの検査・治療時に使用する様々な ME 機器の保守点検・操作を行っている。必要に応じて清潔介助業務も行っている。今期より腹部アンギオ、脳アンギオの立会いも実施している。またペースメーカーの植え込み OP の立会い、テンポラリーの対応、ペースメーカー外来やペースメーカー患者の OP、MRI 検査時のペースメーカープログラマーの操作、ホームモニタリングシステムにも対応している（表 5）。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の実績を表1～5に記す。

船クリニックにてローテーションや、研修などの人材育成を行っていく予定である。また各業務についても医療機器の進歩に合わせ、病院のニーズを踏まえ業務の拡大を考えていきたい。

■今後の展望

以前と同様に千船地区臨床工学科として千船病院と千

表 1. 透析業務実績

	2018年度	2019年度
総透析回数(回)	1,310	1,450
透析回数月平均(回)	109.2	121
導入患者数(名)	29	26
死亡患者数(名)	3	10

表 2. 急性血液浄化実績

	2018年度	2019年度
持続血液濾過(回)	23	18
エンドトキシン吸着療法(回)	4	2
血漿交換(回)	0	0
腹水濾過濃縮再静注療法(回)	34	29

表 3. ME 機器管理業務実績

	2018年度	2019年度
ME機器修理依頼件数(件)	578	699
ME機器修理依頼件数月平均(件)	48.2	58
当科処理件数(件)	425	458
当科処理件数月平均(件)	35.4	38
科内修理率(%)	73.5	65.6
ME機器保守・点検件数(件)	20,153	24,193
ME機器保守・点検件数月平均(件)	1,679.4	2,016.0

表 4. OP 室業務実績

	2018年度	2019年度
OP立ち会い件数(件)	1,394	1,429
OP立ち会い件数月平均(件)	116.2	119.0
ME機器保守・点検件数(件)	2,813	3,051
ME機器保守・点検月平均件数(件)	234.1	254.3
ナビゲーションOP件数(件)	133	136
da Vinci OP件数(件)	41	60

表 5. カテ室・ペースメーカー業務実績

	2018年度	2019年度
CAG件数(件)	226	202
PCI件数(件)	127	108
体外式PM(件)	21	13
埋込式PM(件)	19	20
下肢AG・PTA・フィルター(件)	38	31
ペースメーカー外来(件)	288	266
シャントPTA(件)	68	68
PCPS(件)	2	3

検査科

■スタッフ紹介

【臨床検査技師 31名】

科長	: 田中智洋
主任	: 田中 誠・岡本寛之・伏見翔一郎
副主任	: 佐藤 圭・武市恵里
科員	: 新保由紀・三輪絢美・坪井直美 糸井未来・畑 愛香理・伊藤友里 井手口小智子・関口絢子 木下佳乃・井上弘規・玉岡紗矢佳 近藤理香・荒木憲一・神崎七海 福井 颯・田澤友美・竹一舞香 竹谷 愛・竹中裕哉・西木里帆 梅野一宏・中村江美・永井和哉 西谷美乃里・問屋実希

《各種学会等認定取得者》

細胞検査士	: 5名
国際細胞検査士	: 3名
認定病理検査技師	: 1名
超音波検査士	
循環器領域	: 4名
消化器領域	: 2名
産婦人科領域	: 1名
二級臨床検査士	
循環生理学	: 1名
血液学	: 1名
微生物学	: 1名
病理学	: 3名

【眼科スタッフ 2名】

ORT	: 谷口麻里
OMA	: 小川順子

■業務内容

当院検査科は「専門技術と人間性の研磨に努め、迅速かつ正確なデータを提供し、患者様により良い医療を受けていただけるような臨床支援を目指します」を理念としている。

1. 検体検査部門

生化学・血液・尿一般・輸血・免疫検査・細菌検査を担当しており、24時間・365日検査が行われている。日勤帯

では生化学、血液項目をはじめ、感染症、腫瘍マーカー、甲状腺関連項目も60分以内に報告している。また、今年度より結核を早期発見するための遺伝子検査を導入した。

2. 生理検査部門

生体から得られる情報を解析する部門である生理検査部門では、心電図検査、肺機能検査、脳波、心臓超音波検査・腹部超音波検査・頸動脈超音波検査・下肢静脈超音波検査・乳腺超音波検査・甲状腺超音波検査・胎児超音波検査を主たる業務としている。

3. 病理検査部門

身体から採取された細胞や組織を顕微鏡で観察して病气、特に悪性腫瘍の診断を行う検査で、悪性腫瘍では、どの程度のレベルまで進行しているかまで診断される。また、生前の診断や治療の検証、同じ病気の方の今後の医療に役立てるために病理解剖も行っている。

■2019年度の特ピックス・実績

2019年度の実績を表に記す。

部門別主な項目の検査件数より2019年度の実績件数は、前年度対比101%であり、院内実施項目は年々増大している。今年度は手術件数増加に伴い輸血関連検査の増加が目立つ。生体検査においても超音波検査要員の教育が順調に進んでおり通常の予約、当日の緊急検査への対応も可能となっている。病理検査では免疫染色が増加傾向である。

今期、検査科では1. 臨床検査技能評価ガイドラインを見直し人材育成に役立つ充実した内容と利用法を確認する。2. スタッフ個人の教育訓練計画を管理し、自主性を重視した目標設定を行う。そして、思考力や行動力を養うことで、人材育成の強化を図る。この2点を大きな目標にした。

■今後の展望

近年、感染対策、栄養管理等の様々な現場でチーム医療が実践されている。当院検査科も臨床検査技師としてチーム医療に参画し、その能力をいかしながら他職種との連携をとっていきたい。例えば栄養サポートチームのメンバーとして測定値の解釈に関してアドバイスをを行うなど、様々な業種に介入していくことを考えている。

表. 2019年度部門別主な項目の検査件数と前年度比

(単位：件)

項目名		2019年度	2018年度	前年比	項目名		2019年度	2018年度	前年比
生化学	総蛋白	52,737	52,436	101%	尿・細菌・免疫	尿沈渣	21,721	21,765	100%
	アルブミン	55,644	56,147	99%		尿一般	51,189	49,358	104%
	尿素窒素	63,510	63,597	100%		尿中レジアネラ抗原	355	295	120%
	クレアチニン	64,765	64,667	100%		尿中肺炎球菌	386	310	125%
	尿酸	37,915	38,087	100%		細菌塗抹	1,822	1,627	112%
	中性脂肪	19,674	19,034	103%		インフルエンザ抗原	2,883	2,813	102%
	HDL-cho	19,180	18,270	105%		プロカルシトニン	3,681	3,675	100%
	LDL-cho	18,019	16,981	106%		甲状腺ホルモン	5,228	4,870	107%
	T-CHO	18,946	18,708	101%		CA19-9	3,168	3,135	101%
	血糖	61,761	61,103	101%		CEA	3,895	3,857	101%
	HbA1c	18,917	17,892	106%	生体検査	心電図	8,760	8,690	101%
	GOT	63,827	64,455	99%		UCG	3,299	3,295	100%
	GPT	64,326	64,765	99%		頸動脈エコー	440	346	127%
	γ-GTP	47,921	48,762	98%		乳腺エコー	965	1,062	91%
	T-BIL	52,824	52,491	101%		腹部エコー	1,365	1,410	97%
	ALP	52,298	51,602	101%		産科エコー (4Dエコー含む)	17,355	15,711	110%
	CPK	57,364	57,498	100%		肺機能	2,991	3,130	96%
	アミラーゼ	42,147	42,125	100%		脳波	171	212	81%
	CRP(定量)	59,999	59,668	101%		標準聴力	1,745	1,873	93%
	血液・凝固	検血一般	83,906	75,039		112%	病理	病理組織診断	5,106
血液像(鏡検法)		1,913	5,631	34%	免疫染色	1,136		1,024	111%
PT		11,840	11,916	99%	細胞診断	5,756		5,802	99%
APTT		9,770	9,699	101%	術中迅速病理組織診断	56		55	102%
Dダイマー	4,815	4,628	104%	術中迅速細胞診断	9	6		150%	
輸血	ABO血液型	8,818	7,904	112%	病理解剖	9		17	53%
	交差試験	468	382	123%	合計	1,142,806	1,128,307	101%	
	コンピュータクロスマッチ	1,446	1,103	131%					
不規則抗体	4,565	4,368	105%						

2019年度 抗酸菌検査

結核菌群核酸検出	391 件
MAC核酸検出	376 件

栄養管理科

■スタッフ紹介

<直 営>

管理栄養士 7名 (NST 専門療法士 2名, 病態栄養専門管理栄養士 1名, 糖尿病療養指導士 2名)

<委 託>

管理栄養士 3名・栄養士 3名 調理師 5名・パート調理員 14名

■業務内容

病院管理栄養士は栄養管理, 委託スタッフは給食管理を中心とし, 協力し合って業務にあたっている。

食数は表1に示したとおりである。一般食比率は32%, 特別食加算比率は27%となっている。

病院管理栄養士は, 栄養管理実施計画の入院時評価約30件/日・再評価約35件/日を実施し, 外来・入院患者に対しては, 個別(表2)・集団(表3)ともに幅広く実施している。

NST 活動は, 新規12件/月・継続15件/月に対してサポートを行っている。

学会は第37回日本肥満症治療学会学術集会において『脳梗塞による高次機能障害を伴う高度肥満患者に対しスリーブ術を施行した一例』, 国際肥満代謝障害外科連盟世界会議(IFSO)と第23回日本病態栄養学会年次学術集会において『腹腔鏡下スリーブ術後における蛋白質摂取量と体組成変化』について演題発表を行った。

■2019年度のトピックス・実績

チーム医療への参画としてNSTや糖尿病カンファレンス, 嚥下回診, 緩和ケアラウンド, 認知症ケアラウンド, 減量外科カンファレンスに参加している。

集団教室では, 糖尿病教室以外にも, 2月から心不全教室が開始され, メンバーの一員として携わり集団栄養相談・指導を開始した。

業務改善で取り組んだ『入院の栄養指導件数を増加させよう』では, 訪床・ミールラウンドで患者対応を行うだけでなく, 退院後も継続し食事療法を行えるようにベッドサイド栄養指導へと繋げることができた。

産後食の食事内容を見直し, 12月から『グッドサポート』によるディナーコースへと内容を変更して提供を開始し, 好評を得ている。

■今後の展望

診療報酬改定により連携充実加算が新設されたことに伴い, 外来化学療法患者への栄養指導も介入していきたい。

外来栄養指導において, 栄養食事指導の効果を高め, 継続的なフォローアップを行っていくために, 情報通信機器などを活用していきたい。

表1. 食事提供実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
入院患者食	一般食	6,222	5,831	6,142	6,462	7,626	6,449	6,396	7,195	6,869	6,582	6,357	6,524	6,555
	特設非加算食	8,109	8,386	8,469	9,477	8,220	8,600	8,416	8,395	7,738	7,936	7,722	7,796	8,272
	特別加算食	4,968	5,518	5,638	5,524	5,688	4,987	5,492	5,048	5,574	5,488	6,165	5,903	5,499
入院外食	付添食	78	101	172	119	93	143	38	45	55	66	75	27	84
	その他	711	777	750	760	777	733	774	758	785	780	744	777	761
月間合計		20,088	20,613	21,171	22,342	22,404	20,912	21,116	21,441	21,021	20,852	21,063	21,027	21,171

(単位:食)

表2. 個別栄養指導実施(月平均)

種別	糖尿病		脂質異常症		心臓・高血圧		消化器疾患		腎疾患		肥満		その他		透析 クリニック	訪床	計
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院			
内訳	84	28	16	2	10	18	1	4	11	6	100	11	1	8	34	49	382
計	112		18		28		5		17		111		9				

(単位:件)

表3. 集団栄養指導実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数(回)	5	4	5	5	6	5	5	6	5	5	6	4
参加延べ人数(名)	32	17	39	26	21	29	31	36	18	29	33	10

リハビリテーション科

■スタッフ紹介

【理学療法士】

神谷亮平 北浦重孝 村田尚寛 井上健太
氏内康友 福里 環 鹿田麻理香 成原智子
山本恵造 佐々木宏樹（12月退職）増田純輝
佐伯静香 野村真央 乙骨麻美 佐々木 愛
丸石善久（10月 尼崎だいもつ病院へ異動）
椎葉勇生（10月 尼崎だいもつ病院より異動）
小宗英貴 松尾 舞 水野雄太 橋口鈴香
南山智弘

【作業療法士】

安西直人 中西ひかる 水野紀恵 藤山美佳
村上智美

【言語聴覚士】

加納瑞恵 廣木沙織 森重杏美 岩本舞子
岡田有弥子

■業務内容

1. 理学療法業務

当院の理学療法の対象は、整形外科疾患が最も多い。その他では、脳血管疾患を中心とした脳外科疾患、内科では糖尿病、慢性呼吸不全、急性心筋梗塞後、外科では術後の呼吸器リハやADLの改善にも取り組んでいる。

退院に際しては、患者が円滑に日常生活を送れるよう退院時指導を行っており、引き続きリハビリテーションが必要な患者には、外来にてフォローを行っている。

2. 作業療法業務

入院患者では、主に脳血管疾患の急性期、上肢骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。また、長期臥床後の廃用症候群などについても退院に向けてのADL訓練に積極的に介入している。

外来患者では主に手の骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。

3. 言語療法業務

言語療法は、主に内科、脳神経外科からの依頼を下に失語症・構音障害・音声障害・嚥下障害などの言語聴覚療法を行っている。

また、嚥下回診や、物忘れ外来、外来小児の言語発達検査等にも取り組んでいる。

4. 訪問リハビリテーション

訪問看護ステーションほほえみから訪問リハビリテーションを行っている。

また、当院を退院された患者で必要なケースについては訪問リハビリテーションと連携し、退院後スムーズに在宅生活を送れるように取り組んでいる。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度活動実績を表示する（表1～3）。

2019年度より作業療法士の心大血管リハビリテーション料の算定が開始された。また12月にがんのリハビリテーション研修会が修了したスタッフによるがん患者リハビリテーション料の算定が可能となった。

学会発表も積極的に行っており、第37回日本肥満症治療学会学術集会、第25回日本心臓リハビリテーション学術集会、第20回認知症ケア学会大会、第50回日本人工関節学会にて演題発表を行った。また臨床チーム（整形外科・肥満糖尿病・認知症・心大血管・ウィメンズヘルス）を立ち上げ当院でのエビデンスの確立や研究発表に取り組んだ。

■今後の展望

急性期病院のリハビリテーション科の役割として、今まで以上に早期介入、早期退院への取り組みが必要とされている。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動と臨床チームをより発展させ、早期退院や退院後の生活の安定に繋げていきたい。また、急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるよう、それぞれの専門性を高め、技術の向上に努める。

表 1. リハビリテーション科活動実績

(単位:単位)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	4,597	5,037	4,909	5,309	5,168	4,761	5,095	4,714	4,363	4,384	3,836	4,253	56,426
作業療法	1,150	1,351	1,597	1,743	1,733	1,487	1,775	1,608	1,620	1,489	1,421	1,612	18,586
言語療法	1,392	1,474	1,560	1,527	1,334	1,261	1,478	1,427	1,344	1,037	872	1,078	15,784
合計	7,139	7,862	8,066	8,579	8,235	7,509	8,348	7,749	7,327	6,910	6,129	6,943	90,796

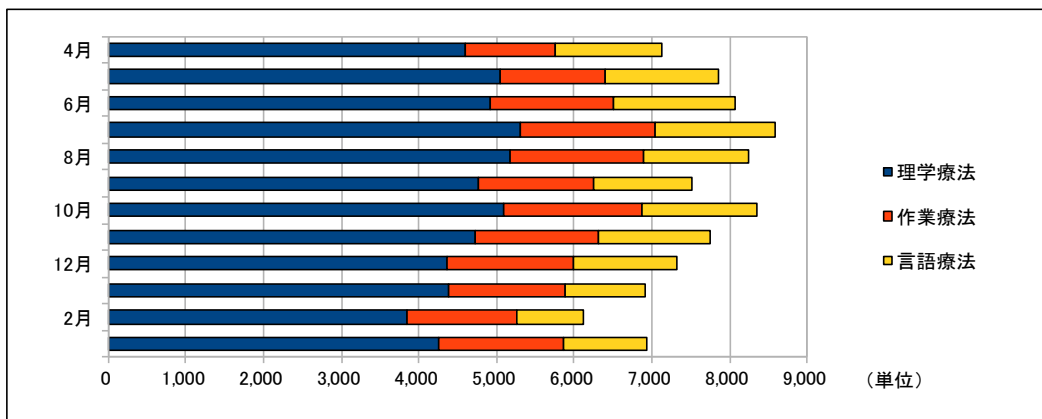


表 2. 疾患別リハビリテーション内訳

(単位:件)

	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	15,647	4,042	9,556	5,522	1,760	56
作業療法	3,232	3,012	4,258	1,971	381	24
言語療法	-	3,382	6,594	-	-	3

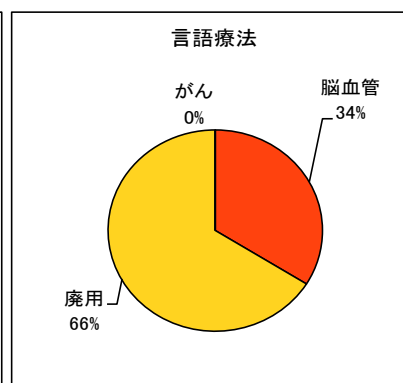
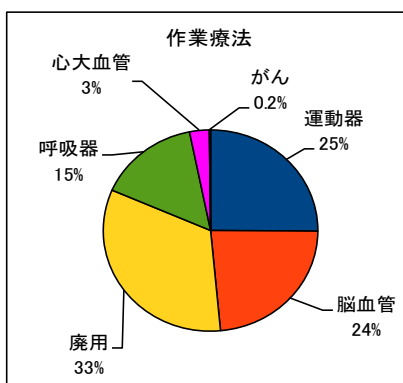
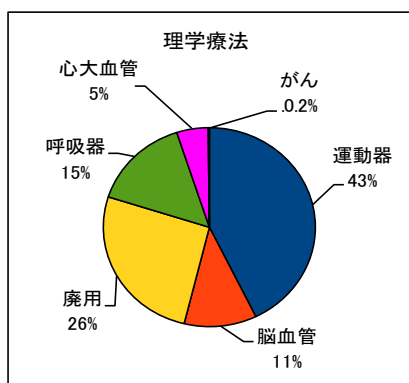
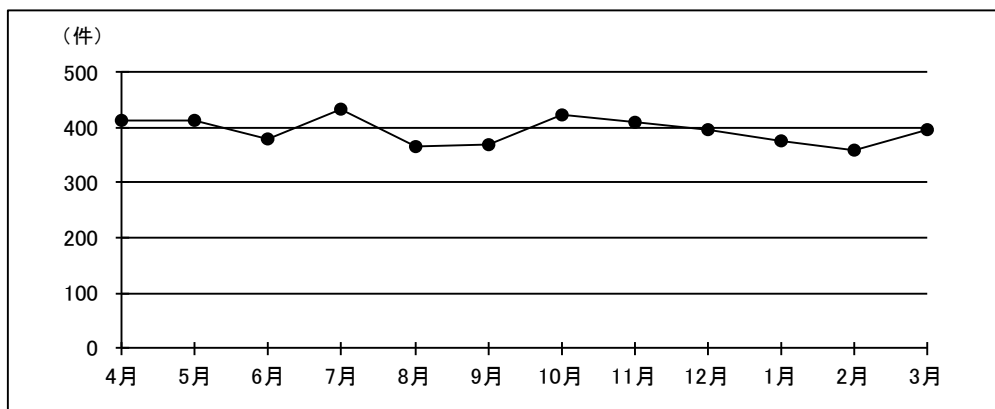


表 3. 訪問リハビリテーション活動実績

(単位:件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
412	414	378	433	367	370	423	410	395	375	358	395	4,730



保 育 科

■スタッフ紹介

保育士：堀越千都 森川亜希子 木崎美由妃
 川原みどり 西川喜子 大槻一葉
 野呂瀬幸代 藪内理恵子 宮崎美奈歩
 奈須彩耶加（10月～） 林 美奈子（～5月）

■業務内容

保育科は、院内保育「ひよっこ保育園」として、愛仁会グループの施設に勤務する医師・看護師などの乳幼児を預かり、保育を行っている。保育士の人員体制は10名を基本とし、ローテーションにより夜間保育にも対応している。

0歳から就学前までの乳幼児へ充実した保育プログラムを実施し、個性を尊重しながら成長発達を促している。家族と長時間離れて過ごす子どもたちが「家庭的な雰囲気の中で安心して生活する」ことができるように、安心・安全な環境作りに配慮した保育園を目指すことを大切に、日々の保育を実践した。

■2019年度のトピックス・実績

2018年度は、次のような取り組みを行った。

①かるがも組（0, 1歳）かもめ組（2～6歳）の2クラスに分かれて保育を行い、わらべうたや伝承遊び、リトミック、造形遊び、戸外遊び等様々な活動を取り入れ、年齢に

合わせた保育を実施した。また、保育所保育指針を職員に配布し、職員ミーティング時に保育内容の確認・伝達を行い、指針に沿った保育の実践ができた。

②夜間保育の人員配置の見直しを行った。看護部の協力を得て、夜間保育可能日を集約することにより、大阪市の指導に準じた適正人員配置を行うことができた。

③愛仁会グループ内保育園合同で事故防止及び事故発生時対応マニュアルを作成した。また、災害発生時（地震、火災、水害、不審者）対応マニュアルを作成、職員周知を行った。毎月避難訓練を行うことで、安全に子どもを避難誘導できるようにするとともに、子どもたちにも防災意識を高めることができるように努めた。

④新型コロナウイルス感染症による小学校・幼稚園・保育園の休校・休園で、仕事に支障が出る職員の幼児や児童を臨時保育で受け入れた。

■今後の展望

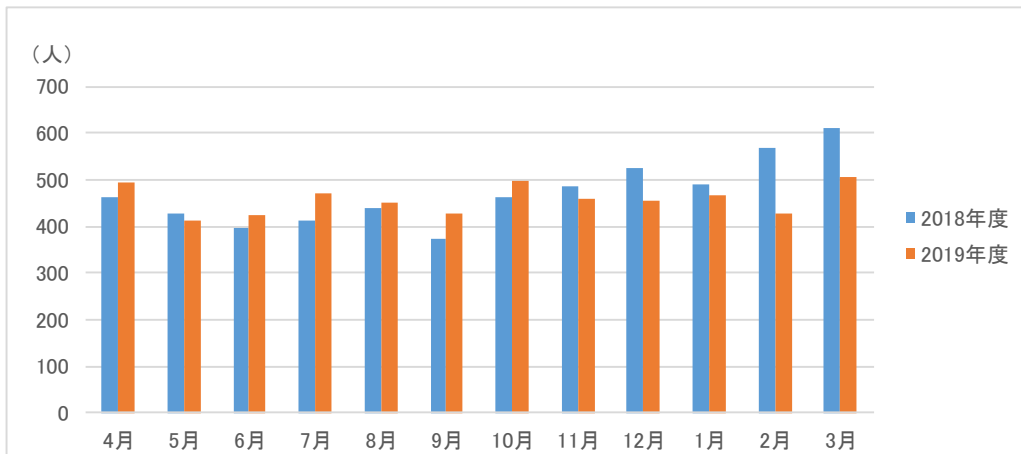
・昨年度作成した事故防止及び事故発生時対応マニュアルを4月より運用する。修正点があるかどうか確認し、より現場で活用しやすいマニュアルに改善していく。

・保育所保育指針に沿った子どもの自発性を尊重する保育を行うために、専門研修にも積極的に参加して保育士の資質向上に努め、更に安心・安全な保育環境を作っていく。

表. 各月の利用児童数

(単位:人)

利用児童数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2018年度	462	429	397	411	439	372	462	487	525	489	567	611	5,651
2019年度	495	412	425	471	451	426	498	458	453	465	426	507	5,487



地域医療科

■スタッフ紹介

科長 中根裕輝
 副主任 田中弘治（地域担当）
 科員 栗山はるみ，森島怜子，星野美佳，阪本佳奈
 本田真弥（2019.5～），宇佐見愛，田中玲衣
 （2019.10～），佐々木健輔
 永井重松（救急救命士），落合正行

- ⑧紹介患者の緊急対応（救急，母体，新生児搬送等の救急搬送の受け入れ）
- ⑨千船クリニック，ユーアイ，尼崎だいもつ病院，カーム尼崎健診プラザ等の法人グループからの患者の受診・入院受け入れ相談窓口
- ⑩地域医療連携システム「a.i net」事務局
- ⑪西淀川区医師会「に～よん医療ネット協議会」事務局

■業務内容

地域医療科の紹介窓口では，受付・予約・患者案内など，紹介患者に係る全ての業務のほか，救急患者の転入院相談や転院搬送先の検索など緊急に対応する窓口としての役割も担っている。その他，紹介・逆紹介の推進等，地域の医師会や行政との連携窓口としても活動している。

（主な業務）

- ①紹介患者受け入れ（受付，診察・検査予約）
- ②紹介・逆紹介における問い合わせや手配（医療機関の検索，受診予約，転院受け入れ先の検索等）
- ③地域連携協議会の開催
- ④登録医への共同診療促進
- ⑤医療従事者への研修会等及び患者会の企画・開催
- ⑥紹介患者に関する活動報告，データ分析
- ⑦登録医向け，患者向けの広報誌作成・配布

■2019年度のトピックス・実績

地域担当による医療機関への訪問活動を積極的に実施した。特に医師同行による訪問を重視した活動を実施した。（2019年度：延べ訪問医療機関数 320 施設，うち医師同行による訪問医療機関数 178 施設）。

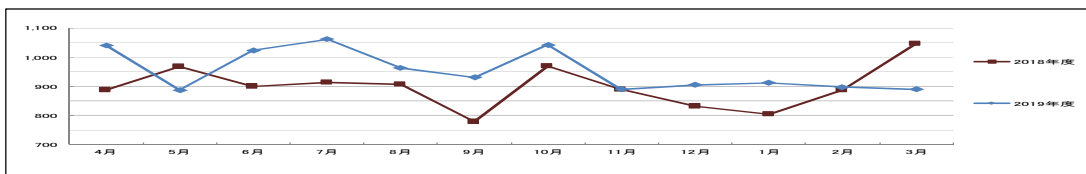
2019年度は，目標としていた地域医療支援病院の承認を実現化した。

■今後の展望

地域医療科では，紹介・逆紹介の推進，救急隊への渉外活動を通して手術症例や重症症例などを積極的に受け入れていきたい。また，病院の提供できる機能を連携医療機関へアピールしながら，地域でのニーズをしっかりと捉え，地域と調和のとれた活動を行っていきたい。

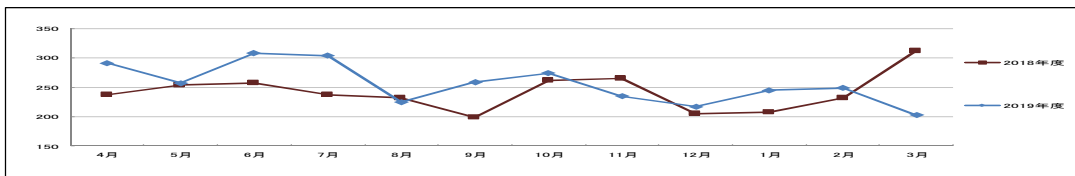
図表 1. 紹介件数

紹介件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	月平均
2018年度	888	968	899	913	906	778	970	890	831	803	887	1,046	10,779		898.3
2019年度	1,041	887	1,024	1,062	963	931	1,042	890	905	912	897	890	11,444	106.2%	953.7



図表 2. オープン検査件数

オープン検査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	月平均
2018年度	237	254	257	237	232	199	262	265	205	208	232	312	2,900		241.7
2019年度	291	257	308	304	225	259	274	235	217	245	249	203	3,067	105.8%	255.6



地域医療部 入退院支援センター

■スタッフ紹介

科 長：大中湖月（西淀川区医師会在宅医療・
介護連携相談支援コーディネーター）

主 任：出路直子（患者さま相談窓口担当）
西川絢子（病床管理担当）

副主任：永田香織（退院支援調整担当）

入院支援看護師：永見洋子 平尾裕実
田中幸果 佐藤和美

退院支援調整看護師：家田真理子

科員：大田千絵（2020年2月～）

■業務内容

・入院支援看護師は、予約入院患者（図1）に対し事務員、薬剤師、管理栄養士等とともに安全かつ安心に入院・退院が送れるよう取り組んでいる。

・退院支援調整看護師は、病棟専任退院支援員として、退院困難患者・家族の意向を踏まえて院内多職種カンファレンスをMSWと協働しながら行い、地域のサービス担当者と連携し患者支援をしている（図2）。

・患者相談窓口担当は、当院に来院する患者・家族の病気になる医学的な質問や生活上及び入院上の不安に対し、迅速できめ細やかな患者対応ができるよう取り組んでいる。そして医療事故予防対策委員会メンバーと毎週1回カンファレンスを開催し、相談内容から抽出した問題や課題を報告し検討している（図3）。

窓口設置に伴う「患者サポート体制充実加算（70点）」は今年度9,230件であった。

■2019年度のトピックス・実績

昨年より取り組んでいる「入院前カンファレンス」は定着し、支援の質向上に繋がるよう努めている。それと同時に確実に入退院部門での連携ができ、入退院支援加算の増加にも繋がった（図4、表1）。

- 第13回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会
「入退院支援センターにおける入院前カンファレンス導入の効果」発表延期（新型コロナウイルス感染拡大防止）
- 日総研 地域連携入退院と在宅支援 2020年3・4月号執筆 「入院前カンファレンスから始まる情報共有と継続ケア」
- 大阪府看護協会 退院支援強化研修ファシリテーター
- 区内主任介護支援専門員へ「退院支援研修」主催
- 区内介護支援専門員へ「医療と介護の連携」講師

■今後の展望

昨今は急性期病院だけでは完結しない医療・生活・社会的問題を抱える患者の支援が必要とされる。入院前から入院中、入院後も継続的な在宅療養支援が院内外多職種で取り組めるよう地域循環型支援の仕組みができるよう発信したい。

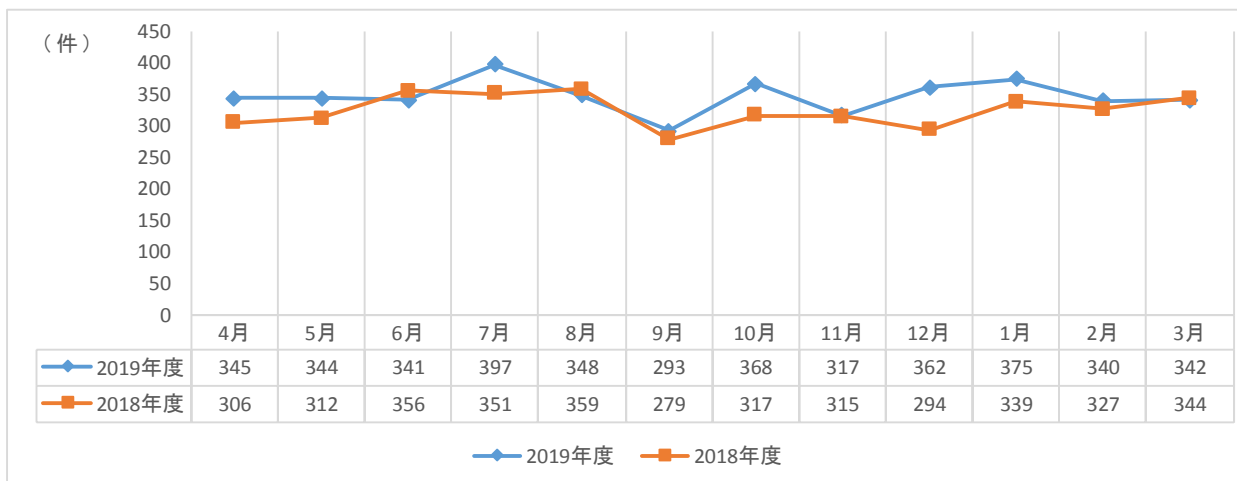


図1. 入院支援患者数の推移

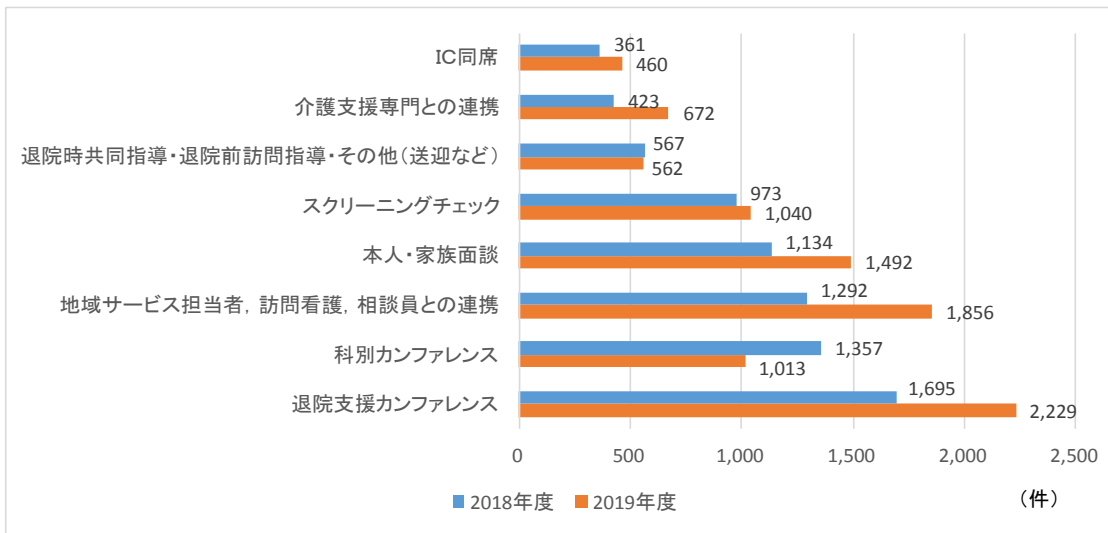


図 2. 退院調整看護師 2 名の活動状況

相談内訳(重複あり)	件数
医療に関して	3,879
社会制度等に関して	25
医療費に関して	74
その他(苦情・患者依頼等)	132

2019年度
患者サポート体制加算(70点) 9,230件

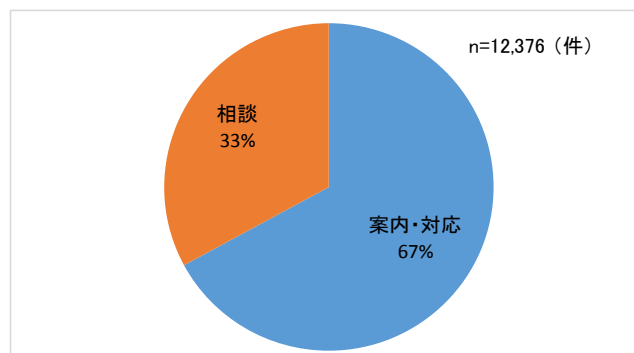


図 3. 患者相談窓口での相談と内容

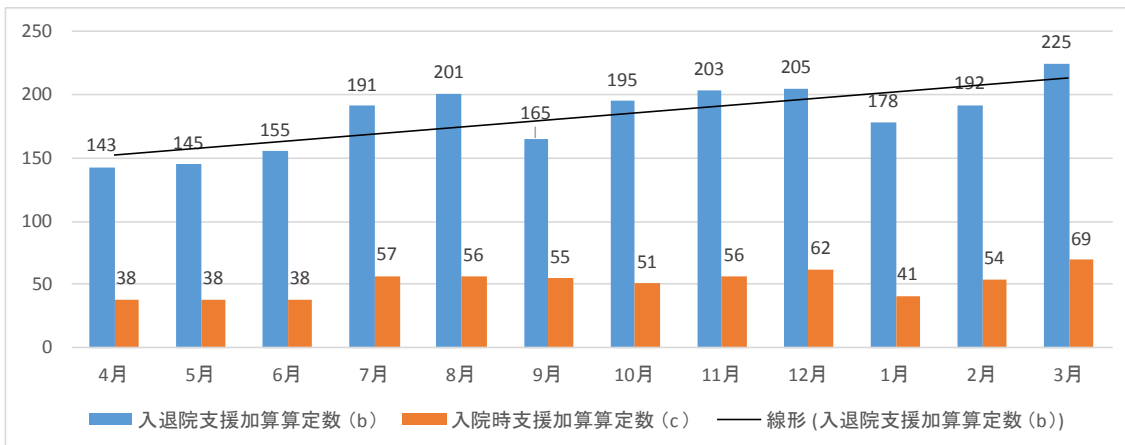


図 4. 2019 年度 入院時支援加算と入退院支援加算の算定動向

表 1. 2019 年度 総退院数からの入退院支援加算 1 の算定割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
総退院患者数 (a)	826	807	830	920	952	836	849	847	946	856	777	902	10,348
入退院支援加算算定数 (b)	143	145	155	191	201	165	195	203	205	178	192	225	2,198
総退院患者からの入退院支援加算算定割合 (b÷a)	17%	18%	19%	21%	21%	20%	23%	24%	22%	21%	25%	25%	21%
入院時支援加算算定数 (c)	38	38	38	57	56	55	51	56	62	41	54	69	615
入退院支援加算からの入院時支援加算算定割合 (c÷b)	27%	26%	25%	30%	28%	33%	26%	28%	30%	23%	28%	31%	28%

医療福祉相談科

■スタッフ紹介

- 主任 齊藤りさ (社会福祉士・精神保健福祉士)
副主任 藪 青良 (社会福祉士)
高木快枝 (社会福祉士)
武本典子 (社会福祉士・精神保健福祉士)
木曾綾乃 (社会福祉士)

■業務内容

- ①心理・社会的問題を持つ患者家族に対する相談援助
- ②社会資源の収集と調整
- ③入退院支援
 - 転院調整
 - 在宅医療への調整
 - 施設入所への調整など
- ④介護保険等に関する支援全般
- ⑤自立支援医療に関する相談支援
- ⑥がん相談支援業務
(がんに係る様々な相談業務)
- ⑦小児虐待・高齢者虐待・DV相談支援
- ⑧チーム医療
(緩和ケア・認知症ケア・虐待・人工関節)
- ⑨大阪市重症心身障がい児医療型短期入所受入支援
- ⑩その他院内ボランティア活動の援助

■2019年度のトピックス・実績

医療福祉相談科は社会福祉士の資格を持った5名のソーシャルワーカーが入院・外来を問わず、様々な心理的・社会的問題を持つ患者や家族の相談支援を行っている。また、がん相談支援センターでは当院かかりつけの患者だけでなく、他院かかりつけのがん患者やその家族の相談支援も行っている。

2019年度は入退院支援部門において、入院前より介入・入院時支援加算を算定できる体制を整えたことで、入院患者介入終了件数が前年比155%増(表1)、退院支援加算は前年比165%増(表2)となった。また、外来での相談件数は375件と前年比216%増であった(表3)。がん相談支援センターの入院・外来を合わせた相談件数はほぼ横ばいであったが、外来患者相談の割合が大きくなっている(表4)。支援内容では2019年度より虐待防止委員会が立ち上がり、病院全体で虐待(疑いを含む)発見・発生時に早期から対応するための体制整備に取り組んだことにより、小児・高齢者虐待又はDV相談に介入した件数が23件あった(表5)。

■今後の展望

今年度は昨年に引き続き外来患者を中心とした相談支援件数を増加させる体制を整えたい。さらに小児虐待・高齢者虐待においては、発見した時の早急な連絡、発生時の早期対応・早期介入が病院全体で行えるための体制整備が必要である。そのためには一昨年から取り組んでいる社会資源・制度についての定期的な勉強会やケース検討会を通じて、ソーシャルワーカー一人ひとりが個人の能力・質の向上に努めていく。

表 1. 入院患者介入件数

	2019年度	2018年度
総介入件数	3,720件	1,737件
介入終了件数	2,547件	1,638件
次年度へ繰り越し件数	92件	99件

表 2. 退院支援加算

	2019年度	2018年度
退院支援加算1・600点	2,198件	1,331件
入院時支援加算1・200点	615件	169件
退院支援加算3・1,200点	24件	35件
地域連携診療計画加算・300点	7件	12件
介護指導連携指導料・400点	183件	246件
退院時共同指導料・400点	87件	70件
多機関共同指導加算・2,000点	32件	23件

表 3. 外来患者相談件数

	2019年度	2018年度
面談相談件数	375件	174件
電話相談件数	1,324件	

表 4. がん相談支援センター相談件数

	2019年度	2018年度
入院	390件	432件
外来	136件	89件

表 5. 支援内容

	2019年度	2018年度
介護保険申請補助	150件	77件
介護保険主治医意見書作成補助	1,026件	898件
自立支援医療意見書作成補助	17件	15件
新規ケアマネージャー等紹介	39件	49件
身体障がい者手帳申請補助	26件	85件
慢性特定疾患申請補助	3件	5件
更生医療申請補助	14件	39件
障がい年金申請補助	1件	2件
傷病手当申請補助	6件	4件
生活保護申請(行路申請含む)補助	26件	12件
成年後見申請(安心サポート含む)補助	4件	3件
新規施設等入所支援	23件	40件
退院前自宅訪問同行	7件	11件
訪問診療・訪問看護等手配	19件	12件
未受診妊婦等介入	34件	25件
小児虐待対応	16件	7件
高齢者虐待対応	3件	
DV相談対応	4件	

感染管理室

■スタッフ紹介

感染担当副院長：向井友一郎（医師）

総合内科：藤田芳正（医師）

感染管理室：高橋 文（看護師）

薬剤科：鶴崎 亮（薬剤師）他 4 名

検査科：梅野一宏（検査技師）他 3 名

■業務内容

- 1) 病院内の定期的な巡回
- 2) 病院感染に関する情報収集，調査，分析及び対応
- 3) 感染対策に対する教育，啓発及び情報提供
- 4) サーベイランスの実践と職員へのフィードバック
- 5) 感染対策マニュアルの作成，更新，実践に関する評価
- 6) 抗菌薬適正使用のための指導
- 7) 感染症のコンサルテーション

■2019 年度のトピックス・実績

- 1) COVID-19 の世界的流行に伴い，臨時外来開設や入院患者への面会制限，職員健康管理，PPE 着脱訓練等，院内感染防止に向けた対応を行った。
- 2) 各種会議の開催
 - ①AST ラウンド：毎週水曜日 10 時～
 - ②ICT 環境ラウンド：毎週木曜日 15 時～
 - ③院内感染防止対策委員会：毎月第 4 木曜日 8 時～
 - ④地域連携カンファレンス（井上病院，名取病院）：5 月 21 日，8 月 20 日，11 月 20 日，2 月 18 日
 - ⑤感染防止対策地域連携加算 1-1 相互ラウンド
井上病院：12 月 3 日（於井上病院），12 月 5 日（於千船病院）

3) 法定研修（感染管理）

①8 月 29 日「グラム染色」（講師：総合内科 藤田芳正部長，検査科 梅野一宏検査技師）

②12 月 19 日「ワクチン・予防接種」（講師：大阪労災病院小児科 川村尚久部長）

5) サーベイランス

①MRSA 院内発生率：0.57‰（2019 年度 0.56‰）

②手指消毒剤使用状況：1 日 1 患者当たり 10.58mL（2019 年度 8.51mL）

4) 広域抗菌薬，抗 MRSA 薬の使用状況（入院）

カルバペネム 4.12%，第 4 世代セフェム 0%，広域ペニシリン 2.65%，ニューキノロン 0.14%，抗 MRSA 薬 1.30%

5) 血液培養採取状況

採取セット数 3,778 セット，複数セット採取率 68.8%，陽性率 8.6%，コンタミネーション率 1.8%

■今後の展望

- 1) COVID-19 患者受け入れに伴う院内感染・クラスター発生を徹底的に予防する。
- 2) AST 活動を充実させ，抗菌薬の適正使用と，耐性菌院内発生の低減を目指す。
- 3) 手指衛生遵守率を向上させ，院内感染発生の低減を目指す。
- 4) 感染制御に関する情報を積極的に発信し，職員一人ひとりが感染管理に興味を持てるようにする。
- 5) 血液培養採取セット数を，5,000 セットまで増やす。
- 6) 外国人の積極的受け入れ開始準備として，インバウンド感染症対策の構築を目指す。

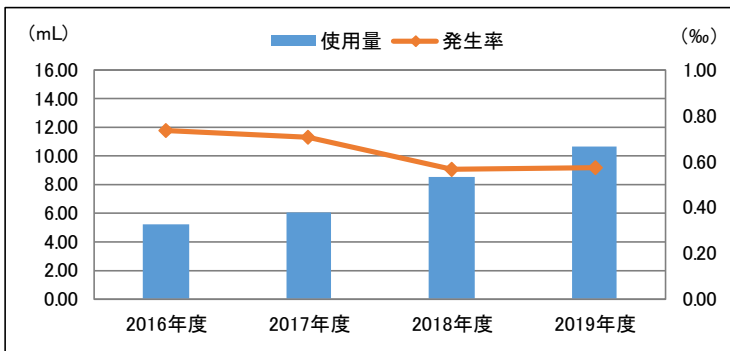


図 1. 1 日 1 患者当たり手指消毒剤使用量と MRSA 新規発生率の推移

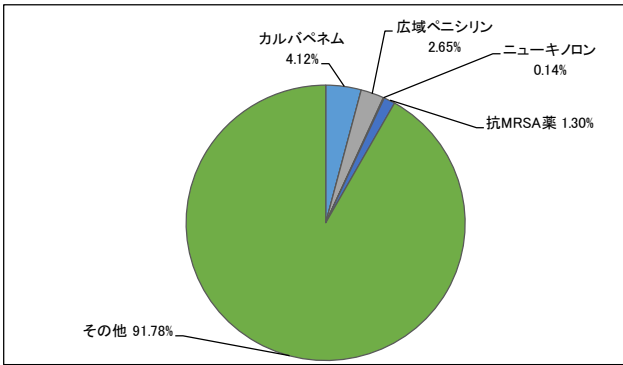


図 2. 抗菌薬使用状況

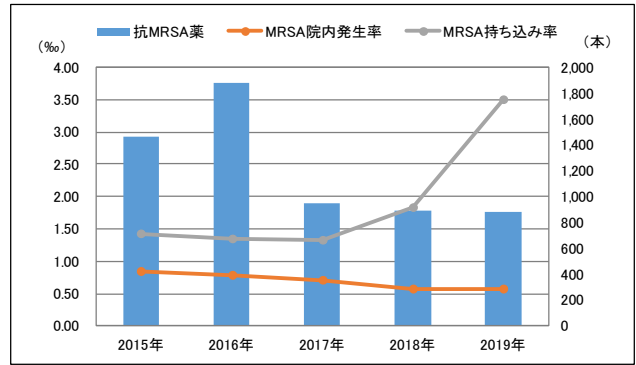


図 3. MRSA 発生率と抗 MRSA 薬使用量推移

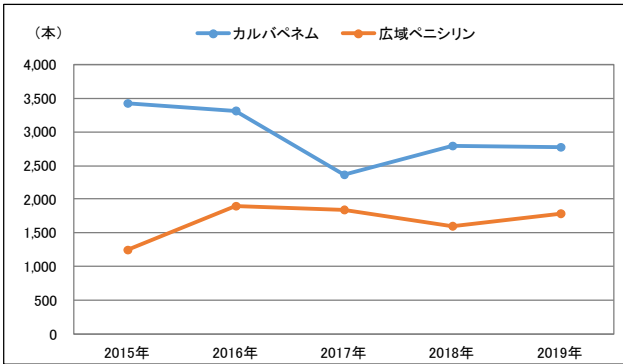


図 4-1. 広域抗菌薬使用量推移

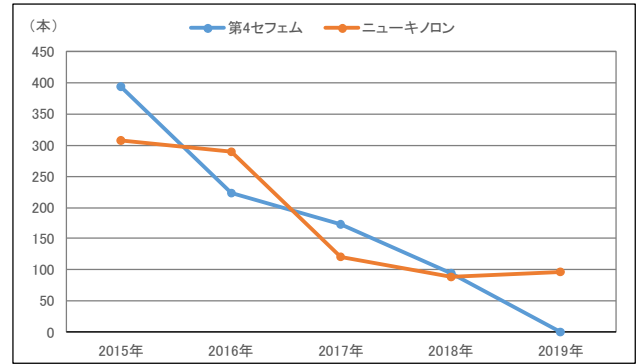


図 4-2. 広域抗菌薬使用量推移

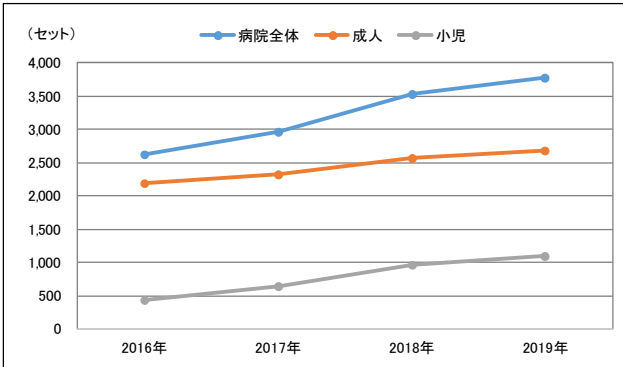


図 5. 血培採取セット数

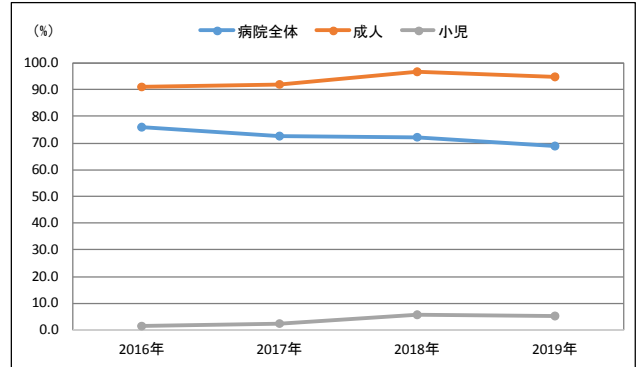


図 6. 血培複数セット採取率

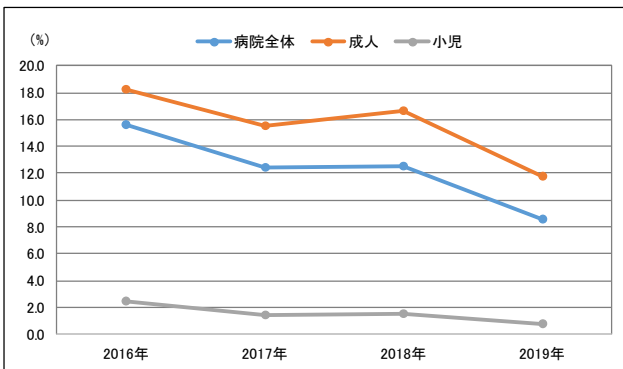


図 7. 血培陽性率

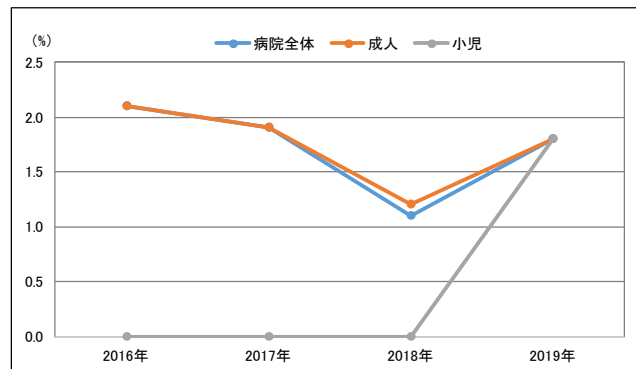


図 8. 血培コンタミネーション率

医療安全管理室

■スタッフ紹介

医療安全担当センター長：岡田十三（医師）

医療安全管理室長：久保順子（看護師）

医薬品安全管理責任者：木村真策（薬剤師）

医療機器安全管理責任者：稔野益男（臨床工学技士）

■業務内容

1. 安全管理体制の構築

1) 医療事故予防対策委員会の開催 12回

2) 医療安全マニュアルの改訂

3) 看護部安全管理委員会の開催 12回

4) 医療安全ラウンドの実施 18部署

看護部：13部署 技術部：3部署 事務部：2部署

5) 医療安全地域連携ラウンドの実施：井上病院

6) 患者相談窓口との連携：苦情対応

2. 職員への教育・研修の実施

1) 全職員対象医療安全研修

第1回：意外と知らない病院の常識 part.2

1. きちんと知っておきたい静脈血栓症

2. 続・MRIとは？

3. 医療ガスを安全に使用するために

第2回：医療安全に関する話題

名古屋大学医学部附属病院

医療の質・安全管理部 長尾能雅先生

※新型コロナウイルス感染拡大のため中止

2) 参加型医療安全研修

医療機器研修：輸液ポンプ・シリンジポンプ・

人工呼吸器・離床センサー等

3) 部門別医療安全研修

診療部：研修医研修（入職時・ヒヤリハット報告）

看護部：ラダーレベル研修（注射技術，KYT）

事務部・技術部：入職時研修

3. 医療事故を予防するための情報収集，分析，

対策立案，フィードバック，評価

1) 医療安全情報の発信

医療安全管理室からのお知らせ 7回

千船病院医療安全情報 9回

2) 事例の分析，対策立案，フィードバック，評価

対応検討会 4事例

4. 医療事故への対応

インシデント・アクシデント発生時報告体制の見直し

■2019年度のトピックス・実績

・SBARを用いたコミュニケーションスキルの向上を目指し，産科病棟の助産師対象に「SBAR ミニワークショップ」14回開催し，データの可視化によりSBARに対する行動変容に繋がったことを，第14回医療の質・安全学会が学術集会（京都国際会議場）で久保室長が発表を行った。

・医療安全強化月間（8月）に部・科別で安全活動を掲げ，ポスターを作成した。さらに作成したポスターと活動実績を掲示し，職員の投票にて優秀チームを決定し，表彰した。

・診療報酬改定により医療安全対策加算における医療安全対策地域連携加算が新設されたことから，病院間のコミュニケーション及び情報の共有を図り，医療事故防止の創意工夫を学ぶ目的で相互ラウンドを実施した。第三者的な視点で双方を点検することで医療安全の強化，改善に繋がった。

・患者相談窓口寄せられた意見の中で，医療安全上の問題点を抽出し，関係部署へ情報提供することで現場に応じた対策が検討できるように「患者さま相談窓口における各部署への検討依頼用紙」を作成した。関係部署と問題点を共有することができ，PDCAサイクルを視覚的に確認することができ，改善に繋がった。

■今後の展望

・SBARを用いたコミュニケーションスキルの向上のためのワークショップを継続して実施すること，水平展開していきたい。

・医療安全強化月間の取り組みは，個々の安全行動の振り返りと各部・各科におけるチームワークの強化，更に院内全体で情報を共有し刺激し合う機会となった。医療安全行動を身近に感じることで職員自身が日々意識した安全行動がとれるよう支援していきたい。

・医療安全対策地域連携による相互ラウンドを積み重ねていくことで，効果的・効率的な相互ラウンドが実施でき，自施設の医療安全対策を強化していきたい。

表 1. ヒヤリハット, インシデント, アクシデント報告件数

(単位:件)

種別	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリハット	2018	106	117	171	171	120	101	140	148	129	116	86	79	1,484
	2019	130	134	151	140	113	134	98	135	92	86	116	87	1,416
インシデント	2018	57	44	71	70	83	31	43	64	43	55	48	40	649
	2019	47	58	71	49	43	46	55	51	37	38	31	42	568
アクシデント	2018	2	2	1	3	1	0	1	1	2	2	2	2	19
	2019	0	1	1	0	2	0	4	1	0	0	0	2	11

表 2. レベル別報告件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0レベル	130	134	151	140	113	134	98	135	92	86	140	87	1,440
1レベル	27	34	47	32	29	31	32	29	24	21	16	27	349
2レベル	9	17	14	10	7	13	14	13	8	8	13	10	136
3aレベル	11	7	10	7	7	2	9	9	5	9	2	5	83
3bレベル		1	1	0	2		4	1	0	0	0	2	11
4レベル													0
5レベル													0
計	177	193	223	189	158	180	157	187	129	124	171	131	2,019

表 3. 部署別報告件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医事科	6	6	18	6	4	0	0	0	2	2	2	0	46
受付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域医療科	0	0	0	1	4	0	2	0	0	0	0	1	8
入退院支援センター	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4
管理科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	34	56	34	34	42	24	30	68	46	26	18	20	432
放射線科	2	10	6	8	0	10	4	4	6	6	0	2	58
臨床工学科	6	2	8	8	0	6	2	6	0	4	4	4	50
薬剤科	2	10	0	5	14	6	4	6	8	0	2	2	59
栄養管理科	4	6	8	6	4	4	2	4	2	2	2	4	48
検査科	2	4	0	2	2	4	4	10	2	4	0	2	36
医師	12	4	14	2	2	6	2	4	2	4	4	2	58
研修医	12	16	0	0	22	15	12	16	16	15	15	16	155
医療安全・感染制御室	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
手術室・中材	0	0	6	8	6	0	4	2	0	2	6	8	42
外来	8	4	8	8	12	6	8	6	2	6	0	4	72
救急センター	4	4	2	2	8	0	0	0	0	0	0	0	20
ICU	0	2	2	3	2	0	0	0	2	2	2	2	17
産科病棟	26	20	14	8	20	2	2	4	4	2	0	4	106
MFICU	8	2	2	8	2	18	18	16	4	10	10	4	102
院内助産・産科外来	0	4	0	1	4	0	2	0	2	4	8	4	29
NICU	20	25	14	26	10	2	0	2	0	0	0	0	99
GCU	15	25	0	1	30	30	29	24	32	27	25	29	267
6階西病棟	16	15	31	17	6	6	8	13	15	6	12	4	149
6階東病棟	13	28	26	30	11	14	8	8	4	9	11	10	172
7階西病棟	8	8	14	8	6	8	14	16	0	6	12	13	113
7階東病棟	12	10	12	4	2	10	24	12	2	6	36	8	138
8階西病棟	30	16	19	20	8	6	6	10	14	26	8	10	173
8階東病棟	19	26	56	34	21	27	38	17	25	16	20	28	327
化学療法室	0	0	0	0	0	52	16	34	20	25	32	22	201
リソースナース室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護部長室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千船クリニック	12	4	8	4	2	0	0	0	0	0	0	0	30
計	271	307	306	254	244	256	239	284	210	210	229	203	3,013

院内学術講演会活動報告 (期間：2019年4月～2020年3月)

開催月日	テーマ	講師	出席人数	主催・共催
4月11日	感染症に関するレクチャー 『感染症診療10の法則』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	20	院内感染防止対策委員会
4月16日	感染症に関するレクチャー 『結核診療基礎知識・結核画像のあれこれ』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	17	院内感染防止対策委員会
4月17日	感染症に関するレクチャー 『結核診療基礎知識・結核画像のあれこれ』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	10	院内感染防止対策委員会
4月18日	『G20 OSAKA SUMMIT 2019 大阪サミット開催に向けて～テロの脅威について～』	大阪府 西淀川警察署：警部補 中西勝彦	102	教育研修委員会
5月14日	感染症に関するレクチャー 『グラム染色について』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13	院内感染防止対策委員会
5月16日	『抗がん剤の取り扱いと曝露対策』 『たばこの曝露対策』	千船病院： 技術部 薬剤科 原田千葉美 診療部 腎センター長兼腎臓内科 主任部長 中西昌平	75	がん治療委員会 薬剤科 労働安全衛生委員会 教育研修委員会
5月23日	感染症に関するレクチャー 『抗菌薬総論』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	12	院内感染防止対策委員会
5月30日	感染症に関するレクチャー 『ペニシリン系薬・アミノグリコシド薬』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	17	院内感染防止対策委員会
6月13日	感染症に関するレクチャー 『セフェム系薬・カルバペネム系薬、AZT』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	16	院内感染防止対策委員会
6月20日	感染症に関するレクチャー 『マクロライド・キノロン・テトラサイクリン系』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	15	院内感染防止対策委員会
6月27日	『重症度、医療・看護必要度研修 ～正しい評価を行うために～』	千船病院： 7階東棟看護課 科長 奈良崎由香 医事科 科長 清水香織	102	保険診療対策委員会 看護部 臨床研修管理委員会 教育研修委員会
7月11日	感染症に関するレクチャー 『ホスミン、ST合剤、GLDM、メトロニダゾール』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13	院内感染防止対策委員会
7月18日	感染症に関するレクチャー 『感染症における検査の有用性と限界』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	14	院内感染防止対策委員会
7月25日	『クリニカルパスって何？～アウトカムとパス分析～』 『パスを使いこなすために～基本から応用まで～』 『よりよいパス進化に向けた取り組み』 『クリニカルパスと術後感染予防抗菌薬』	千船病院： 診療部 消化器内視鏡センター長 船津英司 看護部 8階東棟看護課 科長 若松 舞 技術部 薬剤科 副主任 久保智士	70	クリニカルパス委員会 薬剤科 教育研修委員会
8月8日	感染症に関するレクチャー 『結核・非結核性抗酸菌症の最新の診療』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	10	院内感染防止対策委員会
8月22日	感染症に関するレクチャー 『呼吸器感染症①』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	17	院内感染防止対策委員会
8月29日 (9月4日、 9月5日、 9月6日)	『グラム染色について』	千船病院：診療部 総合内科 部長 藤田芳正 技術部 検査科 梅野一宏	577	院内感染防止対策委員会 教育研修委員会
9月26日 (10月1日、 10月3日、 10月4日)	『意外と知らない病院の常識 PART. 2』	コヴィディエンジャパン株式会社 千船病院 技術部 放射線科 科長 田中寛人 近畿医療設備株式会社 岩佐氏	606	医療ガス安全管理委員会 医療事故予防対策委員会 教育研修委員会
9月27日	感染症に関するレクチャー 『呼吸器感染症②』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	10	院内感染防止対策委員会
10月10日	感染症に関するレクチャー 『尿路感染症』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13	院内感染防止対策委員会
10月17日	『褥瘡対策の実際』 『今さら聞けない抗認知症薬と眠剤の使い方』	千船病院： リソースナース室 主任 北野智美 (皮膚・排泄ケア認定看護師) 診療部 脳卒中内科 主任部長 瀧本 裕 (認知症サポート医・日本認知症予防学会専門医)	86	褥瘡対策委員会 認知症ケア管理委員会 教育研修委員会

開催月日	テーマ	講師	出席人数	主催・共催
10月31日	感染症に関するレクチャー 『急性消化管感染症』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	10	院内感染防止対策委員会
11月8日	『認知症の方への対応 これて解決！ ～明日からの勤務ですぐ使える～』	医療法人マックスール異病院 介護老人保健施設 元・介護部長 平野亨子先生	112	認知症ケア管理委員会
11月21日	『当院の保険診療はどうなっているか？』 『個人情報の取り扱いと安全管理』	千船病院 事務部 医事科 科長 清水香織 事務部 次長 大谷はるか	74	保険診療対策委員会 診療情報管理委員会 教育研修委員会
11月22日	感染症に関するレクチャー 『インフルエンザ』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	15	院内感染防止対策委員会
11月27日	『外国人患者対応に向けての研修会』	千船病院:MFICU看護科 高橋温子 GCU看護科 藤井久美子 救急・内視鏡センター 看護科 神田めぐみ	48	看護部 外国人患者受入体制整備WG 教育研修委員会
11月28日	感染症に関するレクチャー 『肝胆膵の感染症』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	6	院内感染防止対策委員会
12月17日	感染症に関するレクチャー 『MRSA感染症の診療』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	15	院内感染防止対策委員会
12月19日 (1月8日、1 月9日、 1月10日)	『ワクチンと予防接種』	大阪労災病院 小児科部長 兼 感染制御チームリーダー 川村尚久	556	院内感染防止対策委員会 教育研修委員会
1月16日	『アドバンス・ケア・プランニングの理念と実際』	大阪市立総合医療センター 緩和医療科部長兼緩和ケアセンター長 多田羅竜平	69	倫理委員会・教育研修委員会
1月30日	『あなたのその言動、患者さんから見られています！』 ～当院の「ご意見箱」から読み解く“病院のサービス”とは～	千船病院 診療部 脳神経外科主任部長 サービス向上対策委員会委員長 瀧本 裕	48	サービス向上対策委員会・教育研修委 員会
1月31日	感染症に関するレクチャー 『ノロ感染症・好中球減少時発熱(FN)の診療』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	11	院内感染防止対策委員会
2月6日	『経腸栄養分野 誤接続防止コネクタについて』	ニプロ株式会社	56	医療安全管理室・教育研修委員会
2月13日	『子供の虐待対応と医療の課題 ～早期発見から親子の支援の仕組み～』	NPO法人児童虐待防止協会 企画専門員 神田真知子	83	虐待防止委員会・教育研修教育研 修委員会
2月17日	感染症に関するレクチャー 『循環器疾患の感染症・新型コロナウイルスについて』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	11	院内感染防止対策委員会
2月20日	第1部:「クリニカルバス分析、バス活動報告について」 第2部:「入退院支援センターでの患者用バスの利用について」 第3部:「病院ダッシュボードデータによるXバス分析」	第1部:看護部各部署バス委員 第2部:入退院支援センター 平尾裕実 第3部:医療情報部 副主任 段野香苗	71	クリニカルバス委員会・教育研修委員 会
3月6日	感染症に関するレクチャー 『薬剤耐性菌・新型コロナウイルスについて』	千船病院:総合内科 部長 藤田芳正	15	院内感染防止対策委員会

愛仁会地域ケアセンター

■スタッフ紹介

訪問診療：

医師 北 智之, 石村恵美

看護師 2名, 事務 2名, 診療アシスタント 1名

訪問看護ステーションほほえみ：

看護師 17名, 理学療法士 4名,

作業療法士 1名 (千船病院兼務),

言語聴覚士 1名 (千船病院兼務), 介護補助員 1名,

事務 2名

ケアプランセンターちぶね：介護支援専門員 8名

ケアプランセンター千船病院：介護支援専門員 2名

ヘルパーステーションちぶね：介護福祉士 6名

総合相談窓口アイ：看護師 1名

■業務内容

「私たちは在宅医療と介護を通じ、希望する場所で、患者さまとご家族が安心して有意義に過ごせる地域社会を目指します」という理念の下、各職種の専門性をいかし、緊密な連携を通して、自宅で過ごすことを望む人への包括的なサポートを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

訪問診療は在宅緩和ケア充実診療所加算の要件を満たし、また、訪問看護や介護事業所との連携強化によって他の医療機関との差別化に成功した。訪問看護は、機能強化型訪問看護ステーションとして、小児、難病等の重度利用者受入体制強化を図った。ヘルパーステーションちぶねは14年ぶりに大阪市の実地指導を受審し、ケアプランセンターちぶねも事業者調査を受審したが、両事業所とも大きな指導対象となる事項はなかった。

■今後の展望

引き続き、西淀川区における地域包括ケアシステムの構築を目指した多職種の連携を実践していく。不確実性が増す社会で、在宅サービスに求められる要望は大きくなっており、一層のスピード感を持って対応する体制構築が急務である。中でも、在宅看取りと介護予防は重要であり、人生の最終段階をいかに有意義に過ごしていただくかという視点に加え、介護が必要とされない状態を維持することを大切に、質・量ともに充実した寄り添うケアを展開していきたい。

そのためにも、新卒訪問看護師の採用や、介護支援専門員及び訪問介護員の専門性の向上を目指し、行政とも協力しながら地域づくりを行いたい。

表 1. 訪問診療実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
外来患者数(名)	137	312	244	214	211	197	236	349	325	324	330	332	267.6	3,211
医業収入(円)	4,222,990	4,760,492	4,641,010	5,638,630	4,635,310	3,843,968	3,801,172	5,366,084	9,171,571	8,583,816	9,379,170	9,522,325	6,130,545	73,566,538

2019年11月よりだいもつ病院訪問診療と統合

表 2. 訪問看護実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
延人数(名)	1,522	1,628	1,599	1,631	1,566	1,433	1,574	1,604	1,545	1,499	1,454	1,573	1,552.3	18,628
件数(件)	200	201	203	203	197	196	203	204	204	202	197	194	200.3	2,404
収入(円)	14,480,503	15,365,211	15,253,288	15,463,702	15,058,855	13,659,507	15,030,655	15,292,835	14,984,176	14,564,070	14,054,915	15,184,357	14,866,006	178,392,074

表 3. ケアプランセンターちぶね実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数(件)	270	274	277	270	275	273	269	260	229	209	192	189	248.9	2,987
収入(円)	3,903,042	4,064,031	4,065,147	4,062,755	4,172,509	4,164,772	4,151,893	3,998,951	3,524,869	3,219,699	2,981,572	2,954,912	3,772,013	45,264,152

表 4. ヘルパーステーションちぶね実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数(件)	793	843	765	838	820	805	828	742	702	692	677	742	770.6	9,247
収入(円)	2,815,052	2,931,377	2,734,957	2,903,989	2,838,581	2,646,200	2,796,369	2,634,349	2,593,211	2,534,758	2,438,897	2,630,433	2,708,181	32,498,173

表 5. ケアプランセンター千船病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数(件)	81	77	78	81	82	82	84	77	89	94	90	93	84.0	1,008
収入(円)	856,304	847,147	822,616	836,737	850,481	850,126	889,953	806,459	994,944	1,042,954	1,000,796	1,043,924	903,537	10,842,441



介護老人保健施設 ユーアイ

〒555-0001
大阪市西淀川区佃 2 丁目 2 番 58 号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/yuai/>

理念

介護を必要とする高齢者が、その人らしく尊厳ある生活を実現できるよう支援します

施設概要

■入所者定員/100名（ショートステイ含む）

■通所者定員/55名

2019 年度総括

在宅復帰強化型老健施設として、超強化型老健の算定要件を堅持、1年を通して安定した施設運営ができた。

千船病院ともスムーズな連携ができており、医療必要度の高い入所者層にとっては、医療の質が高い高機能急性期病院が後方に存在することは大きな安心となっている。

入所は、計画的な在宅復帰支援を行いながら入所利用者数を確保した。結果、延べ利用者数 35,973 名（前年比 100.7%）、1 日平均利用者数 98.3 名（前年+0.5 名）、収入 562,750 千円（前年比 103.6%）とした。

通所リハビリテーションは、延べ利用者数 14,606 名（前年比 106.2%）、1 日平均利用者数 47.1 名（前年+2.5 名）、収入 168,832 千円（前年比 109.3%）とした。年度当初より利用好調で利用定員 50 名を超える申し込みが続いたため定員 55 名に変更（9 月 1 日付）した。

2020 年 1 月よりベトナム技能実習生 2 名を受け入れた。現場での指導がスムーズに行えるように指導担当者の調整や、指導の振り返りを行い、日本語学習のサポートができる体制を作った。

2019 年度活動状況

- 4 月 新入職員・異動者歓迎会、お花見、ゆうゆう学校（毎月開催）、ふれあい書道&サロン及び絵手紙ボランティア（4 月～1 月まで毎月開催）
- 5 月 バラ公園遠足、西栄寺こころ塾
- 6 月 佃幼稚園交流会、通所リハビリ遠足、防災訓練、計画停電
- 7 月 全集、認知症サポーター養成講座、西栄寺バンド、大老協事例発表会
- 8 月 ユーアイ夏祭り、佃公園盆踊り
- 9 月 西栄寺バンド、通所リハ夏祭り、介護予防教室、佃自治会敬老祝賀会
- 10 月 家族会、外出支援（遠足）、合唱コンサート
- 11 月 全老健全国大会（大分）、ユーアイ居酒屋、リハビリメイク、施設見学会
- 12 月 佃幼稚園クリスマス交流会、褒賞発表会・忘年会、防災訓練
- 1 月 入所者初詣・新年会、新年互礼会、大老協懇話会
- 2 月 節分行事、お相撲さんとのふれあい
- 3 月 ユーアイ運動会

2020 年度に向けて

現在以上の活動と職員のモチベーション向上のためには、業務の効率化が必須であり、そのためには人員配置の適正化、業務内容の見直しとともに ICT の活用、施設のレイアウト変更（老朽化している設備の更新を含め）を検討していく。

介護老人保健施設 ユーアイ

■スタッフ紹介

医師 1 名, 看護・介護職員 70.9 名, 施設ケアマネ 2 名, 理学・作業・言語療法士 10 名, 薬剤師 1 名, 管理栄養士 1 名, 支援相談員 3 名, 事務職員等 7.8 名であった。

■2019 年度のトピックス・実績

在宅復帰強化型老健施設として, 超強化型老健の算定要件を堅持, 1 年を通して安定した施設運営ができた。

千船病院ともスムーズな連携ができており, 医療必要度の高い入所者層にとっては, 医療の質が高い高機能急性期病院が後方に存在することは大きな安心となっている。

老健入所は, 計画的な在宅復帰支援を行いながら入所利用者を確保した。結果, 延べ利用者数 35,973 名 (前年比 100.7%), 1 日平均利用者数 98.3 名 (前年+0.5 名), 収入 562,750 千円 (前年比 103.6%) とした。

介護度平均は入所 3.60 (前年 3.56), 短期入所 3.31 (前年 3.28) で増加した。

入所経路は千船病院 57 名, その他医療機関 30 名, 老健 5 名, 家庭 686 名であった。退所経路は千船病院 60 名, その他医療機関 5 名, 老健 2 名, 特養 13 名, 家庭 684 名, 死亡 12 名であった。リハビリ関係の加算は短期集中リハビリ加算 4,711 件 (前年比 197.5%), 認知症短期集中リハビリ加算 2,391 件 (前年比 112.8%), 短期入所者に対する個別リハ加算 2,168 件 (前年比 119.8%) と大きく件数を伸ばすことができた。

通所リハビリテーションは, 延べ利用者数 14,606 名 (前年比 106.2%), 1 日平均利用者数 47.1 名 (前年+2.5 名), 収入 168,832 千円 (前年比 109.3%) とした。年度当初より好調で定員 50 名を超える利用申し込みが続いたため定員 55 名に変更 (9 月 1 日付届出) した。

1 月よりベトナム人技能実習生 2 名を受け入れた。現場での指導がスムーズに行えるように指導担当者の調整や, 指導の振り返りを行い, 日本語学習のサポートができる体制を作った。また, 月 1 回の指導者ミーティングを実施し, タイムリーに課題に対応した。3 月末現在, 実習生 2 名は, 現場にも適応し, 介護技術, 日本語習得に努力をし, 着実に身に付いていっている。今後も仕事の環境を整えながら必要な資格を取得できるようにサポートしていく。

介護職員の安全文化の醸成としては, インシデント件数は昨年と大きく変わらないが, レベル 3 のインシデント・誤薬のインシデントの発生が増加した。新規入所者やリスクの高い利用者も増えてきているため, スタッフ間の情報収集・共有, 環境設定などが重要である。安全ラウンドチェックでは, 普段気づかないことにも気付くことができ, その場で改善もできた。

また, 送迎中により安全な運転を心掛けるよう, 全車両にドライブレコーダーの取り付けを行った。

<大規模災害 (地震・津波) への対応>

計画停電実施 (6 月): 利用者の混乱もなくスムーズに実施することができた。

防災ラウンド実施 (6 月): 転倒防止のため棚の固定を確認した。

防災メール連絡訓練の実施 (5 月・7 月・10 月・12 月・2 月): 職員全員からの返信があるまで実施した。

宝塚愛和会地区の福祉避難所開設訓練参加 (1 月): ユーアイから 9 名の職員が参加した。

防災訓練実施 (3 月): 地震・津波想定で利用者も参加し, 担架による避難訓練を実施した。

<インフルエンザ感染予防対策>

インフルエンザワクチンについて, 昨年度の爆発的発症を考慮し, 11 月より入所者及び職員への予防接種施注を開始, 12 月には全入所者, 全スタッフが予防接種を完了させた。早期の予防接種, 環境消毒・勤務者の手指消毒の徹底 (コンパクトサイズの消毒液を携帯), スタッフへもタミフルの予防投与を実施した。インフルエンザ感染人数 (12~2 月) は利用者 5 名, 職員 8 名であった。

<新型コロナウイルス感染予防対策>

2 月 25 日より入所者への面会制限と最低限の受診と外出のみとした。

■今後の展望

現在以上の活動と職員のモチベーション向上のためには, 業務の効率化が必須であり, そのためには人員配置の適正化, 業務内容の見直しとともに ICT の活用, 施設のレイアウト変更を検討する。

ユーアイデイサービスセンターなごみ

■スタッフ紹介

管理者兼介護職員 1 名，看護師 2 名，介護職員 8.2 名，
事務職員 1 名，生活相談員 1 名

■業務内容

年間の延べ利用者数 8,383 名（前年比 102.2%，以下同じ），1 日平均利用者数 27.0 名（101.5%），平均単価 9,771 円（107.1%），収入は 81,839 千円（109.5%）であった。

利用体験者が 36 名中，契約者数は 33 名（91.6%）と体験者をほぼ契約・利用に繋げることができた。2 月後半からコロナウィルスに対する感染予防のため，利用を休まれる方が増加したものの，前年度よりは平均利用者数が増えた。

契約者 33 名の内訳はケアプランセンターちぶね 10 名，ケアプランセンター千船病院 2 名，ケアプランセンターだいもつ 1 名，愛仁会以外は 20 名であった。

■今後の展望

来期からは，利用者のアセスメントを様々な視点や多職種との意見交換から行い，よりきめ細やかなケアの実施に繋げていきたい。また，更なる営業活動を行うことにより，新規利用者の獲得を目指す。



カーム尼崎 健診プラザ

〒660-0861

尼崎市御園町 54 番地 カーム尼崎 2 階

URL: http://www.ajjinkai.or.jp/calm_amagasaki/

理念・基本方針

<理念>

私たちは皆さまの健康づくりをサポートします

<基本方針>

1. 精度の高い健診を提供する。
2. 検査結果の十分な説明と指導を行う。
3. 受診者の権利を尊重し、個人情報を守る。
4. 快適な受診環境を提供する。

施設概要

- ・ 日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 労災保険二次健康診断等給付認定診療所
- ・ マンモグラフィ健診施設認定

2019 年度総括

今年度は、協会けんぽ加入企業との契約を増やすために、日本年金機構から事業者名簿を入手し、8月と2月にDM発送を行った。その結果、8企業（97万円）の新規顧客を獲得した。

巡回健診から撤退する近隣医療施設より顧客紹介があり、株式会社合同製鐵等の契約に成功した。

利用者数は 28,099 人（前年比 105.3%）、総収入は 485,576 千円（前年比 109.2%）と増加した。

2019 年度活動状況

- 4月 健康だより発刊
- 5月 所内勉強会、自衛消防訓練、合同倫理研修会

- 6月 ISO9001 内部監査、感染対策委員会「スタンダードブリーション」
- 7月 健康だより発刊、日本人間ドック学会学術大会参加、安全管理委員会「急変時対応訓練」
- 8月 ISO9001 外部監査、安全管理委員会「検査を安全に受けていただくために」、DM 発送
- 9月 上半期業務改善活動成果発表会
- 10月 健康だより発刊、感染対策委員会「感染症対策」、マンモサンデー実施（参加者 58 人）
- 11月 自衛消防訓練
- 12月 企業懇談会、健康センター・カーム尼崎合同忘年会、所内勉強会
- 1月 健康だより発刊
- 2月 安全管理委員会「危険物管理」、所内勉強会、DM 発送、FMS 導入
- 3月 ISO9001 内部監査、下半期業務改善活動成果発表会、品質管理委員会「事例検討」、倫理委員会「ダイバーシティについて」

2020 年度に向けて

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月の巡回健診が中止・延期となっており、施設内健診の予約キャンセルも増えてきている。しっかりとした感染症対策を行い、利用者確保に尽力する。

健診システムが稼働して6年が経過した。2021年3月にはシステムのサポートが終了することが決まっているため、新たなシステムを導入する必要がある。

カーム尼崎健診プラザ

■スタッフ紹介

医師 1 名
 健診科 看護師 9 名（パート 8 名を含む）
 臨床検査技師 7 名（パート 1 名を含む）
 診療放射線技師 10 名（パート 7 名を含む）
 保健師 4 名
 情報科 事務員 11 名（パート 5 名を含む）
 管理科 事務員 2 名

■業務内容

当施設は阪神尼崎駅すぐの好立地に男女別で受診可能な健康診断専門施設として開設し、6 年を迎えた。人間ドックや尼崎市・伊丹市住民健診、近隣の企業健診を主に実施している。

■2019 年度のトピックス・実績

ISO9001 取得に向けマニュアル等の整備を行い、8 月に取得する事ができた。前年度と同様、特定保健指導の実施に力を入れ、前年比 145%増を達成した。検査室業務の経費圧縮と効率化のため、FMS を導入した。

■今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3 月の巡回健診が中止・延期となっており、施設内健診の予約キャンセルも増えてきている。しっかりとした感染症対策を行い、利用者確保に尽力する。

健診システムが稼働して 6 年が経過した。2021 年 3 月にはシステムのサポートが終了することが決まっているため、新たなシステムを導入する必要がある。

表. 健診種類別実績

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年比	
施設内	人間ドック	2019	人数(人)	119	177	221	238	326	286	470	515	496	260	230	173	3,511	112.0%
			収入(千円)	7,144	9,471	11,794	11,823	14,614	13,944	20,555	22,624	21,878	13,195	10,588	8,954	166,584	111.0%
		2018	人数(人)	73	168	174	212	251	226	450	460	450	211	225	235	3,135	132.1%
			収入(千円)	4,598	8,640	9,004	10,952	11,634	10,778	19,768	20,223	20,349	11,299	10,672	12,182	150,099	120.6%
	一般健診	2019	人数(人)	732	792	911	1,056	900	931	1,071	1,030	954	871	917	869	11,034	103.8%
			収入(千円)	10,090	12,197	14,771	16,440	12,590	14,845	15,332	14,195	12,868	12,721	13,017	11,091	160,157	106.4%
		2018	人数(人)	681	793	853	948	916	846	1,046	1,298	902	720	774	853	10,630	107.1%
			収入(千円)	9,706	12,856	12,853	14,086	12,690	12,852	13,731	15,801	12,222	10,411	12,263	11,109	150,580	109.9%
	協会けんぽ健診	2019	人数(人)	259	359	477	494	337	329	395	343	249	293	303	331	4,169	121.5%
			収入(千円)	5,639	7,814	10,123	10,327	6,822	6,582	7,897	7,472	5,154	6,344	6,270	6,696	87,139	119.2%
		2018	人数(人)	234	370	459	457	278	212	288	252	167	184	241	290	3,432	107.8%
			収入(千円)	5,266	8,061	9,999	9,843	5,863	4,316	5,849	5,527	3,589	3,647	5,003	6,337	73,100	105.6%
特定健診	2019	人数(人)	30	44	54	61	51	43	69	43	66	101	104	146	812	105.0%	
		収入(千円)	354	660	851	984	873	656	1,235	620	963	1,538	1,651	2,376	12,760	107.6%	
	2018	人数(人)	11	54	42	51	46	39	72	73	67	79	96	143	773	100.8%	
		収入(千円)	191	866	632	817	640	621	1,193	1,080	1,101	1,239	1,438	2,046	11,864	104.4%	
特定保健指導	2019	人数(人)	65	79	85	94	67	64	66	63	63	66	76	89	877	139.2%	
		収入(千円)	883	1,205	1,194	1,469	1,142	1,169	1,137	1,149	1,209	1,099	1,081	1,053	13,790	145.3%	
	2018	人数(人)	41	59	54	75	29	46	68	46	31	41	68	72	630	151.8%	
		収入(千円)	535	786	656	1,045	688	742	1,075	813	593	681	920	955	9,489	162.0%	
出張健診	2019	人数(人)	578	1,074	1,311	1,010	983	540	558	478	294	344	522	0	7,692	95.4%	
		収入(千円)	3,533	5,855	7,171	6,069	6,400	3,247	3,196	2,629	1,637	2,054	3,217	66	45,075	91.5%	
	2018	人数(人)	983	1,058	1,677	629	1,281	459	418	656	322	259	244	73	8,059	161.5%	
		収入(千円)	5,872	6,097	9,139	4,194	8,485	2,822	2,513	3,841	2,081	1,552	1,488	1,188	49,272	157.7%	
二次検査	2019	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	4	25.0%	
		収入(千円)	0	0	0	0	0	14	22	11	0	0	22	0	69	28.3%	
	2018	人数(人)	1	2	3	4	1	0	0	3	0	2	0	0	16	200.0%	
		収入(千円)	17	34	67	53	1	0	0	49	0	24	0	0	245	170.1%	
合計	2019	人数(人)	1,783	2,525	3,059	2,953	2,664	2,194	2,630	2,473	2,122	1,935	2,153	1,608	28,099	105.3%	
		収入(千円)	27,642	37,202	45,905	47,112	42,441	40,457	49,375	48,700	43,708	36,950	35,846	30,236	485,576	109.2%	
	2018	人数(人)	2,024	2,504	3,262	2,376	2,802	1,828	2,342	2,788	1,939	1,496	1,648	1,666	26,675	123.2%	
		収入(千円)	26,310	37,344	42,354	40,793	40,006	32,135	44,132	47,339	39,940	28,854	31,787	33,820	444,814	117.3%	



介護付有料老人ホーム スローライフ おかじま

〒551-0021

大阪市大正区南恩加島 5 丁目 4 番 5 号

URL: http://www.ajinkai.or.jp/slowlife_okajima/

理念

「地域に必要とされる介護サービスを提供し、貢献します」
大阪市内という利便性に富んだ地でありながら、海を身近に感じる豊かな環境。そして、確かな運営理念と充実した看護・介護体制のもとで送るゆとりとやすらぎに満ちた暮らしを提供する。

また、併設するデイサービスセンター、ケアプランセンター、ヘルパーステーションでも家庭的できめ細やかなケアに努めていく。

2019 年度総括

2019 年 4 月期首には入居者数は 57 名（前年度 54 名）であった。新入居者 11 名、退去者は死亡・転居を含めて 14 名で、うち看取りは 5 名であった。2019 年度平均入居者数は 56.5 名（前年度 52.7 名）であった。入居者の平均年齢も 87.8 歳と高齢で年間入院延数 810 名、年度 1 日平均 2.2 名が入院されていたことになる。施設で 5 名がお亡くなりになった。死亡原因は老衰である。

2016 年 4 月からショートステイの受け入れを行った。2019 年度はショート利用者が 225 名（前年度 423 名）あり、前年度は 3 名が入居に繋がったが今年度は 0 名だった。

2019 年度は介護福祉士による喀痰吸引等の研修受講者はなく、資格取得者は合計 9 名（うち 1 名ヘルパーステーション）となった。

2019 年度活動状況

- 4 月 期首全集、お花見（東京インテリアで軽食）
- 5 月 消防訓練、ホテル鑑賞会
- 6 月 スローライフ運営懇談会
- 7 月 賞与全集
- 8 月 花火大会
- 9 月 スローライフおかじま秋の文化祭
- 10 月 秋の遠足（イオン大阪ドームで昼食・お買物）、秋の外食（回転寿司）
- 11 月 消防訓練
- 12 月 下半期褒賞・忘年会、クリスマス会、南恩キャンドルナイト会（外出）
- 1 月 年始全集、初詣、書初め、鏡開き（ぜんざい）
- 2 月 節分（豆まき）、バレンタイン（チョコレートフォンデュ）
- 3 月 ひな祭り、屋台寿司

2020 年度に向けて

有料老人ホームは、大阪府済生会泉尾病院から新規入居の紹介が 6 名あった。入居者及び家族の満足度向上のため 2019 年度も引き続き外出（外食）の機会を増やし、行事・レクリエーション等の充実を図ろうとしたが、後半はコロナ禍で中止した。24 時間看護師常駐体制のため、医療度の高い入居者も増加し、施設での看取りの希望も多くなってきた。胃ろう等医行為受講修了者は 9 名となり、今後は介護職員の喀痰吸引等も家族・入居者の理解・同意の下実施したい。入居者状況、空床があれば体験利用できるよう事業所全体で情報を共有し、常に待機者を確保し入居者の安定を図りたい。デイサービスは各事業所と連携強化し、新規利用者獲得を図る。

介護付有料老人ホーム スローライフおかじま

■スタッフ紹介

- ・有料老人ホーム
管理者 1 名, 看護師 7 名, 介護福祉士 19 名
介護員 7 名, 生活相談員 1 名, ケアマネジャー 1 名
理学療法士 1 名, 事務員 4 名
- ・デイサービスセンターおかじま
生活相談員 2 名, 介護福祉士 2 名, 介護員 1 名
看護師 2 名, ドライバー 2 名, 事務員 1 名
- ・ケアプランセンターおかじま
主任ケアマネジャー 2 名, ケアマネジャー 1 名
- ・ヘルパーステーション
介護福祉士 3 名, 登録ヘルパー 6 名

■業務内容

- ・有料老人ホーム（特定施設）
入居定員：60 名
介護給付算定に係る体制等状況：
個別機能訓練体制加算，夜間看護体制加算，看取り介護加算，サービス提供体制強化加算Ⅰ，退院・退所時連携加算（2019.10～）
- ・デイサービスセンターおかじま（通所介護）
利用定員：30 名
介護給付算定に係る体制等状況：
入浴介助サービス提供体制加算，個別機能訓練体制加算Ⅰ・Ⅱ，サービス提供体制強化加算Ⅰ。
サービス提供時間：月～土曜日，8：30～17：00
- ・ケアプランセンターおかじま
介護給付算定に係る体制等状況：特定事業所加算Ⅲ
サービス提供時間：月～土曜日，8：30～17：00
- ・ヘルパーステーション
身体介護，生活援助，自費サービス
サービス提供時間：月～土曜日，8：00～18：00

■2019 年度のトピックス・実績

【有料老人ホーム】

2016 年 4 月よりショートステイを開始。グループ内老健つくもや近隣の居宅支援事業所を訪問し，地域のケアマネへの周知活動の結果，ショートステイ利用が 47 名，月

平均 4.7 名いたが，入居には繋がらなかった。

新入居者 11 名，退去者は死亡・転居を含めて 14 名と，退去数が入居数を上回り，2020 年 3 月末には 54 名となる。2019 年度平均入居者数は 56.5 名（前年度 52.7 名）であった。死亡者数 12 名のうち 8 名が施設で 4 名が病院であった。死亡原因は老衰であった。

【デイサービス】

2018 年 4 月，地域密着型通所介護から利用者定員を 30 名の通常規模とした。機能訓練指導員（作業療法士）1 名と看護師 2 名体制の強みをいかし，機能訓練プログラムの充実を図り利用者獲得に向けて取り組んだが，延べ利用者数 7,183 名となり前年度対比 95%であった。2019 年は新規 23 件解約 56 件で要介護者の解約（施設入所・入院）があり，新規は要介護が多かった。

【ケアプランセンター】

主任ケアマネ 2 名を含む 3 名のケアマネを配置。特定事業所加算Ⅲを算定している。2019 年度の新規ケース獲得数は，介護 17 名，予防 4 名で前年度を下回った。原因としては，介護を中心に新規ケースの受け入れを行ったことで，予防の新規ケースが減ったこと，ケアマネ 1 名の平均が 38 名前後で推移したことで，積極的な新規利用者の受け入れができなかったことである。前年度から引き続き，介護の利用者より支援の利用者の方が多い状態が続いており，年度末時点で要介護者が 69 名，要支援者が 74 名となっている。

【ヘルパーステーション】

2019 年は訪問介護の実績が昨年度より増加した。2019 年 4 月の利用者登録数は 38 名，1 か月延べ人数 412 名であった。2019 年 7 月登録数は 37 名，1 か月延べ人数 535 名で過去最高となった。有料老人ホームの自費サービスが毎月 8～18 万円（月平均 10 万円）ある。

■今後の展望

有料老人ホームは，病院が隣接，24 時間看護師・介護士常駐を強みとしてきた。2018 年 3 月末に隣接するおかじま病院が閉院した。2013 年 1 月の事業譲渡時もしばらく見学者が来ない状況があった。これまで新規入居の紹介先は口コミが多く，入居者及び家族の満足度向上のため，

特に外出（外食）の機会を増やし、行事・レクリエーション等の充実を図るようにしてきた。おかじま病院閉院後、千船クリニックから訪問診療が開始となった。訪問診療によりこれまで以上に安心感があることを刷新したパンフレットを持参し、広報・営業活動を行う。入居者状況・空床があれば体験利用できるように事業所全体で情報を共有し、ショート利用から入居へと繋げるように地域のケアマネに営業展開してきたが、新型コロナウイルス感染の影響で、面会制限の中、見学者やショートが困難になった。今後も満床状態を目指し入居者の安定確保を図りたい。

デイサービスは病院閉院時、通所リハの利用者をデイサービスに移行し4月から定員を18名から30名とした。デイサービスは1日平均利用者27名を目標としていたが、平均利用者23.2名にとどまった。今後利用者を維持していくには、各事業所と連携を強化し、新規利用者獲得を図る。曜日による登録者数の偏りがあるため利用者の均一化

を図る。デイサービスから有料老人ホームのショート利用へ繋げ、入居へと流れを作る。

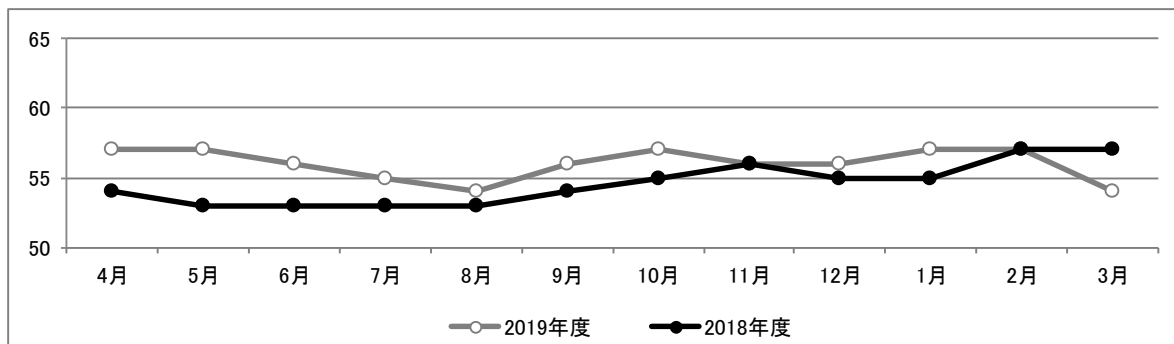
ケアプランセンターは昨年度に引き続き、地域の医療機関、介護保険事業所、地域包括支援センターとの関係性の強化を図ることで、新規の相談を1件でも多く受けて新規利用者の獲得に努める。要介護より要支援の利用者の方が多い状態が続いているため、できる限り要介護の利用者を中心に獲得する。新規の利用者については、自事業所のサービス利用に繋げることで、事業所全体のプラスとなるように取り組んでいく。

ヘルパーステーションは、事業所内での情報共有の徹底を図り新規獲得に繋げる。事例を通してケアの質の向上を図りサービス提供責任者の育成をする。限られた人材の効果的活用を行う。今後は新規利用者獲得のため、営業活動を強化する。

図表1. 有料老人ホーム入居者数

(単位:名)

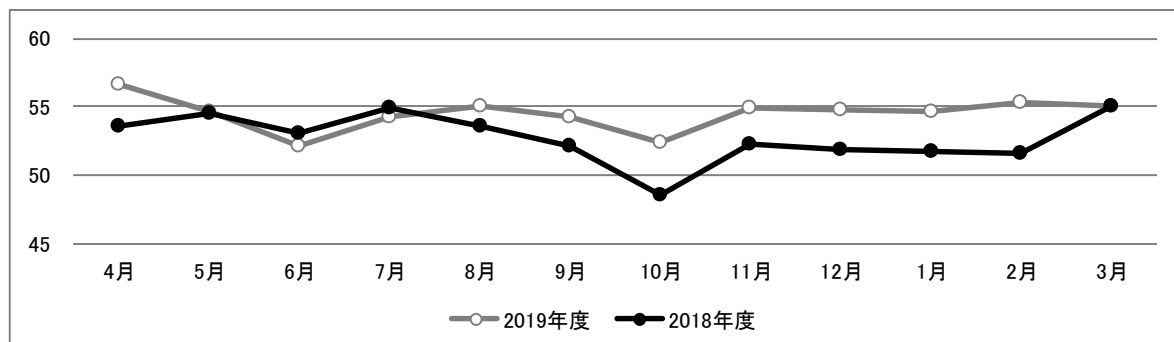
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	54	53	53	53	53	54	55	56	55	55	57	57
2019年度	57	57	56	55	54	56	57	56	56	57	57	54



図表2. 有料老人ホーム平均利用者数

(単位:名)

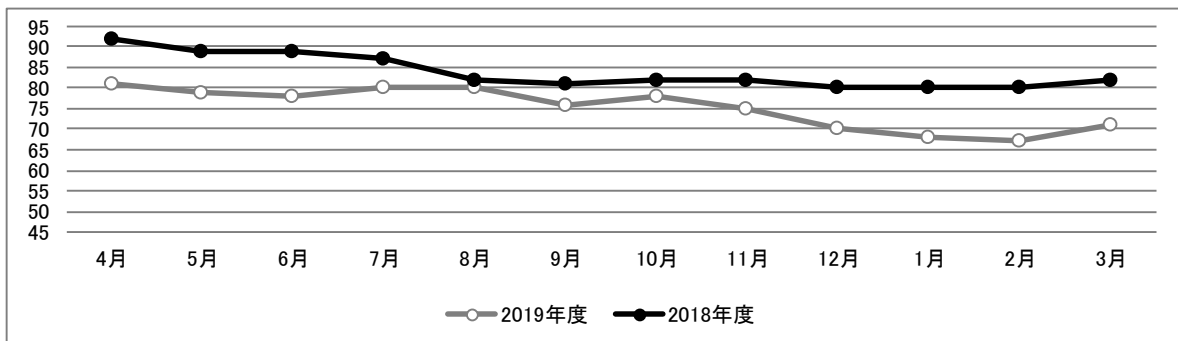
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	53.6	54.5	53.0	54.9	53.6	52.1	48.5	52.3	51.8	51.7	51.6	55.0
2019年度	56.6	54.6	52.1	54.3	55.0	54.2	52.4	54.9	54.8	54.7	55.3	55.1



図表 3. デイサービス利用実人数

(単位:名)

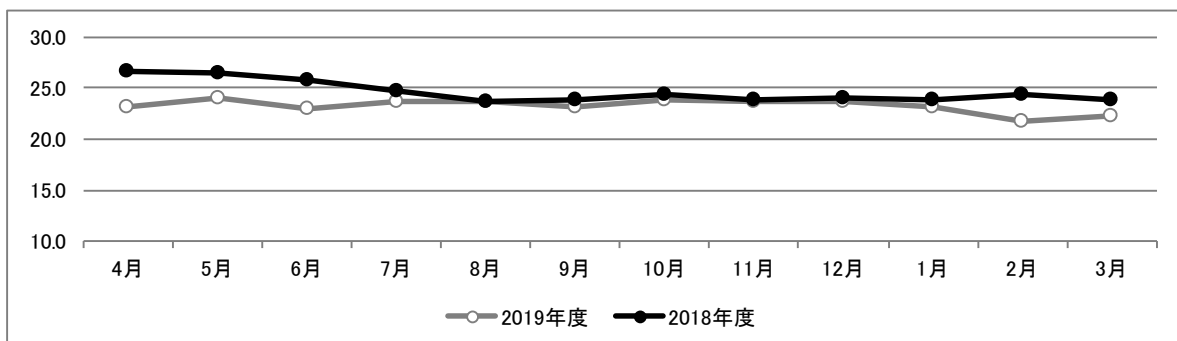
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	92	89	89	87	82	81	82	82	80	80	80	82
2019年度	81	79	78	80	80	76	78	75	70	68	67	71



図表 4. デイサービス平均利用者数

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	26.6	26.5	25.7	24.8	23.6	23.8	24.3	23.8	24.0	23.9	24.3	23.9
2019年度	23.1	24.1	22.9	23.7	23.7	23.2	23.9	23.6	23.6	23.1	21.8	22.2





尼崎 だいもつ病院

〒660-0828

尼崎市東大物町1丁目1番1号

URL: <https://amagasaki-daimotsu.ajinkai.or.jp/>

理念・基本方針

<理念>

住み慣れた地でいつまでも自分らしく生き活きと

<基本方針>

- ・私たちは、患者さま・利用者さまに安全で質の高い医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまと情報の共有をはかり、患者さま・利用者さまが納得される医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまにふさわしい尊厳ある生活が過ごせるよう、プライバシーや人権を尊重した医療、介護、サービスに努めます。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまが住み慣れた地域の中で切れ目のない医療、介護、サービスが受けられるよう努めます。
- ・私たちは、専門職としての誇りを持ち、自己研鑽に励み医療、介護、サービスの向上に努めます。

施設概要

- 病床数/199床
- 診療科目/9科
- 病院機能/回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、障がい者病棟

2019年度総括

2019年4月から回復期病棟を90床から110床フル運用となり、病院全体で199床となった。当初の目標より早い段階で満床となり、入院部門は最終的に前年を大幅に上

回る収入を確保した。開設後4年目を迎え、地域との連携もより密になり、安定して入院患者数を確保できた。結果として、前年比115%の収入となった。外来部門は、期の途中で訪問診療が千船クリニックに一本化したため、前年比83%の収入で終わった。しかし、地域包括ケア推進センターが前年比124.8%と大幅に飛躍したことで、全体での前年比は114.2%。その結果として、開設後初めて経常利益が黒字となった。

2019年度活動状況

- 4月 2019年度入社式、新入職員研修会、期首全集、役職者辞令交付式、自治体病院事務長育成塾(2020年3月まで)、愛仁会グループ消化器カンファレンス、リハ技術部学生実習(神戸学院大学)、2019年度事務部期首講演会
- 5月 兵庫県介護老人保健施設大会、大阪滋慶学園就職フェア、会計監査(むこねっと補助金)、高槻病院からの研修医受け入れ、第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会プレセミナー、医療・介護マネジメントセミナー、消防避難訓練、2019年度第1回途中入職者研修会、感染対策講習会
- 6月 高槻病院からの研修医受け入れ、理学療法科実習(神戸学院大学)、第56回日本リハビリテーション医学会学習集会、療養病床研究会セミナー、医療安全管理全体研修会、作業療法学会実習(神戸学院大学)、愛仁会看護助産専門学校実習、認知症サポーター養成講座、第143回定時社員総会
- 7月 高槻病院からの研修医受け入れ、2019年上半期

- 褒賞発表式, 老健実地指導, FIM 講習会「フォローアップ研修」, 第 4 回愛仁会グループ整形外科勉強会, ふれあい看護体験, 2019 年度第 2 回途中入職者研修会, 岡山県病院協会見学会, 第 5 回地域包括ケア病棟研究大会
- 8 月 第 69 回日本病院学会, 第 1 回愛仁会グループ臨地実習指導者研修会, 理学療法科実習 (神戸学院大学), 第 10 回愛仁会グループ外科勉強会, 六甲アイランド病院来院 (見学等), 感染対策 1-2 連携 (安藤病院), 看護部インターンシップ, リハビリテーション部門就職フェア, 社会福祉士実習 (大阪府立大学), 理学療法士実習 (鳥取市医療看護専門学校), 感染対策講習会, 認定看護管理者セカンドレベル教育課程実習 (藍野大学), 第 23 回日本看護管理学会学術集会, 作業療法士実習 (関西福祉科学大学, 大和大学, 大阪府立大学), 言語聴覚士実習 (大阪医療技術専門学校)
- 9 月 歯科衛生士実習 (新大阪歯科衛生士専門学校), 園田学園大学看護実習, 回復期リハビリテーション病棟協会研修会, 尼崎総合医療センターからの研修医受け入れ, 在宅看護実習, 消防避難訓練 (新館), 認知症サポーター養成講座, 神戸大学看護科実習, 近畿ブロック介護老人保健施設大会, 2019 年度「新人看護職員臨床研修」教育担当者研修, 藍野短期大学看護実習
- 10 月 園田学園大学看護実習, 作業療法士実習 (藍野大学, 森ノ宮医療大学), 2019 年度愛仁会グループ看護・介護管理者研修, 第 5 回愛仁会グループ臨床研修医セミナー, 神戸大学看護実習
- 11 月 2019 年度永年勤続表彰式, リハビリテーション部門主任・副主任研修, 兵庫医科大学医学生実習, 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 東阪神民間病院協会研修会, 大阪医科大学病院長連絡会, 全国介護老人保健施設記念大会, 消防避難訓練, むこねっと担当者連絡協議会, 2019 年秋季社員協議会, 愛仁会グループ消化器カンファレンス
- 12 月 兵庫県民間病院協会年末研修会, 愛仁会グループ予算編成実務担当者会議, 外部会計監査, 医療安全管理者養成講習会アドバンスコース, 神戸大学看護実習, 随時対応型訪問介護看護充実支援研修, クリスマスコンサート, 尼崎総合医療センター研修医受け入れ, だいもつエリア下半期褒賞発表式・忘年会, 尼崎保健所医療監視
- 1 月 尼崎市訪問看護連絡会・研修会, 近畿厚生局適時調査, 愛仁会グループ予算調整会議, 平成リハビリテーション専門学校作業療法学科実習, BLS 研修会, 関西総合リハビリテーション専門学校作業療法学科実習
- 2 月 森ノ宮医療大学作業療法科実習, 2019 年度愛仁会グループ事務部長・事務長研修会, TQM 業務改善アドバイザー研修, 第 10 回愛仁会臨床検査部門研修会, 大阪電子通信大学理学療法科実習
- 3 月 外部会計監査, HITO 病院来院 (見学等), 勤怠管理システム説明会, 給与改定説明会 (管理職)

2020 年度に向けて

2020 年度は尼崎だいもつ病院が開設して 5 年目となる。そのような中, 本年度は下記の 3 つを重点項目とする。

1. 診療報酬改定へのスピーディな対応
2. 働き方改革への対応
3. 内部体制の強化

特に内部体制の強化は, 開設 5 年目を迎えるにあたり, 足元を固めなおす意味においても非常に重要である。会計監査に代表される外部監査に耐え得るには, 医療の質・経営の質の前提となる組織の質を強化する必要がある。今年度は開設当初の原点も再確認し, 昨年以上の利益確保を目指す。

診療部総括（病棟，外来）

■スタッフ紹介

松森良信（リハビリテーション科，消化器内科，院長），竹中和弘（呼吸器内科），加東 武（リハビリテーション科，整形外科），小牟禮 修（神経内科），中村道三（神経内科），大東陽治（リハビリテーション科），飯野莉和（リハビリテーション科），前野良人（総合診療科），荒川鉄雄（循環器内科），中田秀史（リハビリテーション科），山鳥嘉樹（循環器内科），嶋 聡子（リハビリテーション科）で診療活動を行った。

■診療内容

回復期病院として初めて 199 床満床（3 階障害者病棟 29 床，4 階地域包括ケア病棟 60 床，5 階回復期病棟 55 床，6 階回復期病棟 55 床）で運用。急性期を脱しても，まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して，多職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し，心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した。

入院相談外来以外に，内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，糖尿病内分泌内科，神経内科，泌尿器科を標榜し，午前診を中心に毎日 2～3 診体制で外来診療を行った。千船病院小児科の支援の下シナジス外来も継続し，ボトックス外来も開始した。

訪問診療は北 智之医師，石村恵美医師が千船クリニックに移動となった後も継続していたが，10 月を持って一旦終了し，千船クリニックに統合した。

■2019 年度のトピックス・実績

6 階回復期病棟がフルオープンとなり，4 年目にして完全な形で運用が始まった。GW 開けには 199 床満床を達成し，回復期リハビリ病棟 1，地域包括ケア病棟 1，障害者病棟の施設基準を堅持することができた。2019 年 1 月から心臓リハビリテーションを開始し入院患者確保に貢献した。中村医師赴任に伴い音楽療法を導入し認知症患者診療に一役を担った。

12 月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症の全世界への拡大の影響を受け，我が国でも感染者の増加を認め，当院でも対策を行ったが，3 月末に濃厚接触患者がそうと認知されない間に転院されたり，面会制限中にもかかわらず，発症前の感染家族と無断で接触していた入院患者の発生など感染管理の困難さを痛感した。

1 年間の退院患者は 1,367 名であった。平均在院日数は，障害者病棟は 60.7 日，地域包括ケア病棟は 38.3 日，回復

期リハビリ病棟は 5 階 62.8 日，6 階 67.3 日であった（表 1）。

病床稼働率は稼働病棟 199 床に対して，平均 198.8 名，99.9%であった。

主病名の ICD-10 による疾患大分類では，3 階障害者病棟では，パーキンソン病（37 名），ALS（27 名），脊髄小脳変性症（11 名），進行性核上性麻痺（9 名），多系統萎縮症（9 名）などの神経難病が 109 名/172 名と大部分を占めた。4 階地域包括ケア病棟では，回復期病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害，感染症治療後の廃用症候群の患者が多く，整形外科疾患が 133 名（22.9%）を占めた。5 階，6 階回復期病棟では，脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が 244 名（40.6%），大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷，中毒及びその他の外因の影響が 206（34.3%），人工関節置換術を中心とした健康状態の影響要因が 72 名（12%）と脳血管疾患比率が減少し整形外科疾患の比率が増加した（表 2）。

紹介元は病院設立の経緯もあり，尼崎総合医療センターが 43.2%を占めたが，50%を割り比率は低下してきている。尼崎市内の他病院が 27.1%，兵庫県内（尼崎市外）の病院が 10.4%と増加傾向にあり開院 4 年目で地域に根付いてきた証と考える（表 3）。

退院時の転帰は自宅退院が 70.7%，病状悪化による急性期病院，療養病院など他病院への転院は 15.0%，施設入所が 12.6%で例年と大きな変化はなかった。31 名（2.3%）の患者がお亡くなりになった（表 4）。

診療報酬から計算した在宅復帰率は，回復期病棟で 86.7%，88.3%，地域包括ケア病棟では強化型老健，慢性期病院強化型が在宅復帰の対象から外れたため 70%維持に苦労したが，75.3%であり，いずれも診療報酬上の施設基準を満たした（表 5）。

外来診療は予約制とし，入院患者の退院時はかかりつけ医へ逆紹介することを原則とした。急性症状以外での受診は紹介状持参患者に限っており，1 日当たりの受診患者（訪問診療を含む）は平均 30.2 名であった。

■今後の展望

新型コロナウイルス感染症の拡大の中，院内でのアウトブレイク発生を防ぎながら，2020 年度診療報酬改定により厳しくなった地域包括ケア病棟 1 の施設基準，回復期リハビリ病棟 1 の施設基準を堅持しつつ満床に近い利用を達成する。

表 1. 病棟別・退院患者数, 平均在院日数

病棟名	退院患者(名)	平均在院(日)
3階障害者病棟	175	60.7
4階地域包括病棟	586	38.3
5階回復期リハ病棟	331	62.8
6階回復期リハ病棟	275	67.3
総計	1,367	57.3

表 2. 疾患大分類 (ICD-10) 別・病棟別退院患者数

(単位:名)

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
I. 感染症及び寄生虫症	1	13	1	0	15
II. 新生物	16	45	1	2	64
III. 血液及び造血器の疾患	0	3	0	0	3
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	1	24	0	1	26
V. 精神及び行動の障害	0	4	0	0	4
VI. 神経系の疾患	112	76	2	5	195
VII. 眼及び付属器疾患	0	0	0	0	0
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	0	1	0	0	1
IX. 循環器系の疾患	11	96	130	114	351
X. 呼吸器系の疾患	4	57	0	0	61
XI. 消化器系の疾患	0	32	0	0	32
XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	0	11	0	0	11
XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	6	35	38	28	107
XIV. 泌尿器系の疾患	1	26	0	0	27
XV. 妊娠, 分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	0	0	0	0	0
XVIII. 症状, 徴候, 異常検査所見	3	13	0	0	16
XIX. 損傷, 中毒, 外因の影響	13	130	115	91	349
XX. 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
XXI. 健康状態への影響要因	4	15	42	30	91
総計	172	581	329	271	1,353

表 3. 紹介元医療機関 (入院患者)

紹介元医療機関	紹介数	
尼崎総合医療センター・難病センター	600名	43.2%
(うち 尼崎総合医療センター)	543名	39.1%
(うち 難病センター)	57名	4.1%
尼崎市	376名	27.1%
兵庫県(尼崎市外)	144名	10.4%
大阪府	174名	12.5%
他都道府県	6名	0.4%
当院外来	20名	1.4%
ケアプランセンターだいもつ	37名	2.7%
だいもつ訪問診療	31名	2.2%
合計	1,388名	

表 4. 退院時の転帰

	退院数	
自宅退院	959名	70.2%
転院	205名	15.0%
うち 尼崎総合医療センター	73名	5.3%
転所	172名	12.6%
うち 老健施設	115名	8.4%
死亡退院	31名	2.3%

表 5. 在宅復帰率

		3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
①	対象退院患者数	175名	586名	331名	275名	1,367名
1	居宅(自宅・特養・サ高住等)	112名	436名	258名	210名	1,016名
	再掲: 自宅	97名	379名	232名	193名	9,001名
	再掲: 特別養護老人ホーム	2名	2名	5名	3名	12名
	再掲: 有料老人ホーム	7名	23名	8名	7名	45名
	再掲: サービス付き高齢者住宅	4名	25名	11名	5名	45名
	再計: 他	2名	7名	2名	2名	13名
	2 老健	4名	51名	38名	22名	115名
3 転院	急性期病院	33名	50名	21名	30名	134名
	慢性期病院	19名	28名	13名	6名	66名
	慢性期強化型病院	0名	1名	1名	3名	5名
	転棟	4名	1名	1名	2名	8名
(参照)	死亡	7名	20名	0名	4名	31名
②	①のうち, 退院先が居宅等であった	112名	436名	258名	210名	1,016名
③	在宅復帰率対象患者	168名	566名	310名	241名	1,285名
④	居宅等復帰率(%) $100 \times ②/③$	66.7%	77.0%	83.2%	87.1%	79.1%

看護部

■スタッフ紹介

内訳：看護師	115名（うち認定看護師2名）
准看護師	2名
看護助手	29名
看護職員数	146名

（2019年4月1日現在）

看護職員勤務状況について、平均超過勤務時間（4.14時間/人/月）、平均有給休暇取得（12.2日/人/年）であり、離職率は看護師6.1%（前年度8.8%）、看護助手30.8%（前年度33.3%）と減少した。

■業務内容

2019年度看護部目標と活動実績

1. 安心・安全な質の高い看護・介護の提供
2. 多職種との連携強化による退院支援
3. 看護・介護職の教育体制の充実
4. 働きやすい職場環境作り
5. だいもつ地区の経営参画

【主な実施項目】

1. 病棟管理

- ・病床利用率：98.3%（199床稼働）

<各病棟の概況>

- ・障がい者病棟：障害比率81.2%
- ・地域包括ケア病棟：在宅からの入院16.3%、看護必要度（A項目）24.8%、在宅復帰率77.1%
- ・回復期リハビリテーション病棟：日常生活機能評価10点以上39.3%、退院時の日常生活機能評価4点以上改善72.2%、在宅復帰率75.4%であり、要件を全て維持できていた。

2. 教育体制

愛仁会キャリアラダーの整備に伴い、主任・副主任もラダー対象となった。受講率は、ラダーⅡ46%（前年度28.3%）ラダーⅢ34%（前年度28.5%）ラダーⅣ77%であり、受講率は増加している。今年度のラダー認定はラダーⅡ1名が承認された。看護研究への取り組みにおいては、6題院内発表を行い、前年度の演題も積極的に関連する学会発表へと繋がっている。また、看護管理者教育においては、教育

管理・人材育成の能力を高めるために、年間計画を立案し機会教育及び集合研修（3回）を行った。

3. 多職種との連携強化による退院支援

全病棟で、毎朝多職種カンファレンスを開催し、入院時、月に1回1症例ごと多職種カンファレンスを実施し継続できている。また、看-看連携委員会では患者指導用パンフレットの種類を追加作成し活用できている。

■2019年度のトピックス・実績

1. 働きやすい職場環境作り

看護師が生涯にわたって安心して働き続けられる環境づくりの一環である、長期休暇（5日以上10日以内）を100%取得することができた。有給休暇取得数は看護師11.3日/人/年（前年度6.05日/人/年）、看護助手は13.1日/人/年（前年度7.21日/人/年）と前年度より多く取得している。一方、時間外勤務は看護師3.5時間/人/月（前年度+1.3時間）と増加している。

2. 認知症ケア加算Ⅰへ変更

認知症ケア加算ⅡからⅠへ変更となった。入院患者の高齢化に伴い潜在的認知症患者の増加が予測され、質の高い認知症看護が行えるよう、全職員対象に認知症サポート養成講座を開催し420名中305名（73%）が受講した。

3. 看護・介護職の教育体制の充実

eラーニングを用い、統一した教育設備の整備がなされた。特に看護助手においては、勤務時間内に受講できるような仕組みを整えた。

■今後の展望

開院5年目となるが、高い病床利用率を維持しており、今後も継続して維持していくためにも医療チームの連携強化を図るとともに各病棟の機能を発揮し、それぞれの役割を果たしていきたい。また、安心・安全な質の高い看護の提供では、「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド」に基づき、より具体的にそれぞれの業務内容を見直し、看護師と准看護師の協働、看護職と看護補助者の協働に看護部全体で取り組みたい。

理学療法科

■スタッフ紹介

2019年度理学療法科は4月に10名の新入職員、1月に2名の中途採用職員を迎え、計50名の理学療法士が活動した。

■業務内容

理学療法科では、関節可動域運動、伸張運動、筋力増強運動等の運動療法や、ホットパックや低周波刺激などの物理療法と併せて、病棟生活が自立できるように起き上がりや立ち上がり、歩行などの基本動作練習を行っている。また退院後の生活を想定した外出練習や生活環境を調整するための退院前訪問指導などの院外活動も行っている。また長下肢装具や免荷式歩行装置、ロボットなどを使用した歩行練習を積極的に行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の理学療法科の実績として単位提供数の月ごとの推移、病棟ごとの処方件数を下記に示す。

総提供単位数は184,241単位、また疾患別リハビリテーション料の処方件数は昨年度と同様に病棟ごとに特徴が表れた。2019年1月に開設された心臓リハビリテーションも本格的に始動し、外来256件、入院627件の運動療法を行った。

■今後の展望

回復期リハビリテーション病棟の110床がフルオープンした。各病棟の特色をいかしながら、患者一人ひとりの生活に寄り添った質の高いリハビリテーションを提供できるように体制を整え、活動していきたい。

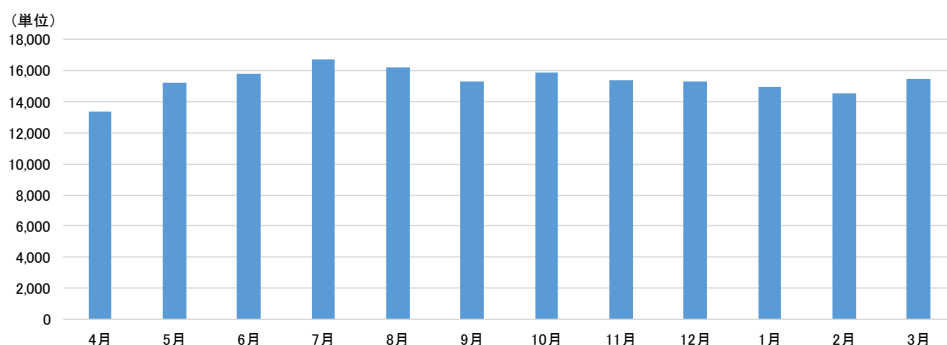


図. 理学療法単位数 (月別)

表. 理学療法処方件数

(単位:件)

算定区分	回復期リハビリテーション病棟	%	地域包括ケア病棟	%	障がい者病棟	%	計	%
脳血管疾患等リハビリテーション料	300	48%	78	16%	137	83%	515	41%
廃用症候群リハビリテーション料	1	0%	210	44%	14	8%	225	18%
運動器疾患リハビリテーション料	319	51%	159	34%	11	7%	489	39%
呼吸器疾患リハビリテーション料	0	0%	19	4%	2	1%	21	2%
心大血管リハビリテーション料	0	0%	8	2%	1	1%	9	1%
計	620	100%	474	100%	165	100%	1,259	100%

作業療法科

■スタッフ紹介

2019年度、作業療法科は4月に新入職員7名を迎え、計32名で活動した。

■業務内容

作業療法の内容として神経筋再教育、筋力増強、関節可動域改善、協調性改善や患者の日常生活における食事、排泄、家事動作等の生活行為に焦点を当て、動作能力の向上を目的に作業活動を用いた訓練や、病棟訓練等を実施している。いずれも在宅復帰が目標であり、積極的に進めていくために入院時訪問、退院前訪問指導を実施している。入院時訪問は主に尼崎市内を対象に、住宅・生活環境を調査し、その情報をもとに訓練、動作指導を行っている。退院前訪問指導は自宅環境整備、生活の場での日常生活動作指導を患者、家族に実施し、介護支援専門員などの地域スタッフとも連携を取りながら行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度は、「認知症」、「上肢機能」、「地域リハ」の3本柱を軸に、認知症評価の拡充（MOCA-J等）及び認知症サポーター・キャラバンメイトの養成、回復期病棟における電気刺激療法の標準化、尼崎PTOTST連絡会を通じて尼崎市事業（自立支援型地域ケア会議等）への参画を行った。

作業療法科の2019年度、月別作業療法実施単位数、月別訪問件数を下記の表に示す。総単位93,691単位、入院時訪問件数14件、年間退院前訪問件数81件であった。

■今後の展望

2020年度は、「根拠に基づいた作業療法の実践（EBOT）～評価・治療の標準化～」をスローガンに、各病棟（障害者病棟、地域包括ケア病棟、回復期病棟）における作業療法の機能強化及び評価・治療の標準化に努めていきたい。

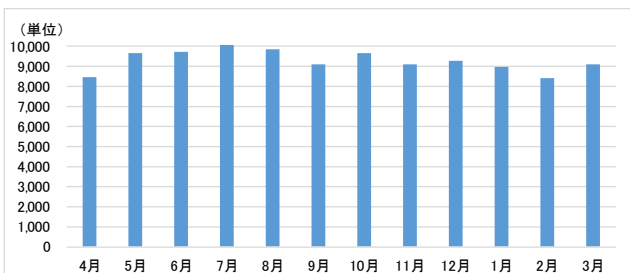


図1. 作業療法単位数（月別）

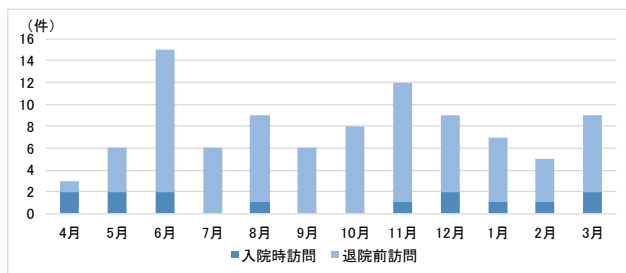


図2. 月別訪問件数（月別）

表. 作業療法処方件数

算定区分	回復期リハビリテーション病棟		地域包括ケア病棟		障がい者病棟		計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
脳血管疾患等リハビリテーション料	300	48%	57	23%	110	80%	467	46%
廃用症候群リハビリテーション料	1	0%	94	37%	14	10%	109	11%
運動器疾患リハビリテーション料	319	51%	100	40%	11	8%	430	43%
呼吸器疾患リハビリテーション料	0	0%	0	0%	2	1%	2	0%
心大血管リハビリテーション料	0	0%	0	0%	1	1%	1	0%
計	620	100%	251	100%	137	100%	1,008	100%

(単位:件)

言語療法科

■スタッフ紹介

14名（2019年3月現在）

赤土 令, 柴田鮎美, 松尾智絵, 矢代 豪, 田上優子,
波多野泰子, 網本祐美, 谷 早彩, 池内洋子, 遠藤頌子,
瀬崎加絵, 昇光太郎, 吉岡雄生, 川口芽以

■業務内容

言語療法では、脳血管疾患、中枢神経疾患、廃用症候群などにより、摂食嚥下機能やコミュニケーション能力に障がいを受けた患者を対象に、直接・間接摂食嚥下訓練などの各種訓練を行っている。また各種スクリーニングや嚥下内視鏡検査（VE）、嚥下造影検査（VF）を行うことで患者の摂食嚥下機能を評価し、適切な食形態を栄養管理科と協力して提供している。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の言語療法科実績として、単位提供数の月ごとの推移、病棟ごとの処方件数を下記に示す。

処方件数は前年度比より大きな変化なかったが、疾患別

リハビリテーション料の処方件数で、廃用症候群の処方件数が昨年度の2倍と増加がみられた。

総提供単位数は55,898単位、VE件数は29件、VF件数は123件であった。

■今後の展望

2020年度診療報酬改定で、回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム指数はより高い数値となり、質の高いリハビリテーション医療の提供が求められている。

当科は来期18名のスタッフ在籍となるが、その半数が1～3年目の経験の浅いスタッフである。質の高いリハビリテーション医療の提供には教育体制の充実が必須となる。

昨年度に引き続き、経験の浅いスタッフが専門的な知識を得られる場となる、勉強会や研修会を継続して行うとともに、中堅層以上のスタッフが新しい知識・技術を身につけ、それを科全体で共有し、患者により質の高いリハビリテーション医療を提供していくことが必要と考える。

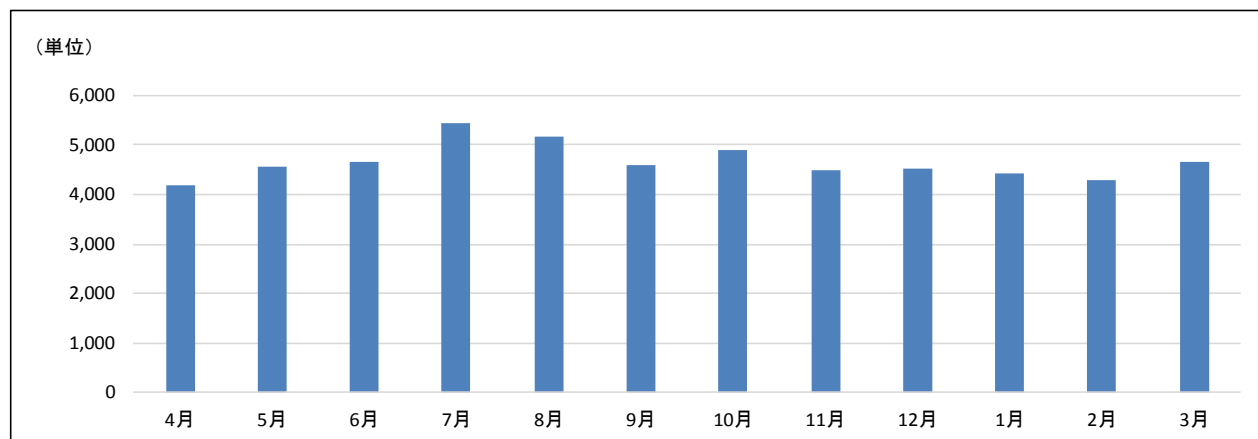


図. 言語療法単位数（月別）

表. 言語療法処方件数

算定区分	回復期リハビリテーション病棟 (件数)	%	地域包括ケア病棟 (件数)	%	障がい者病棟 (件数)	%	計 (件数)	%
脳血管疾患等リハビリテーション料	274	99.6%	31	62.0%	129	94.2%	434	93.9%
廃用症候群リハビリテーション料	1	0.4%	19	38.0%	8	5.8%	28	6.1%
計	275	100%	50	100%	137	100%	462	100%

教育研修科

■スタッフ紹介

主任：岡部由美加（理学療法士）

■業務内容

リハ技術部全体に関する教育研修計画を企画実施し、横断的な教育を実施する。また、他部門と連携した教育研修も請け負う。

・Off-JT

①新入職員研修（表1）

千船エリアの療法士の新入職員（25名）全員を対象とし、療法士として必要なリハビリテーション概論、各職種理解などを含めた基礎分野の研修を行った。

②2年次研修（表2）（千船エリア合同研修）

療法士として基本的に身に付けておくべき事項についての研修を行った。また、後方連携研修として退院患者の現況調査と振り返りの研修を行い、他施設連携に対する理解を深めた。症例検討会を行い、評価・治療・退院支援などの一連の関わりを振り返り、発表する機会を設けた。

③3年次研修（表3）（千船エリア合同研修）

療法士として3年目に身に付けておくべき基本的事項と指導的役割を含む内容の研修を実施した。また、2年次研修の症例検討会にて、指導的立場での意見交換や司会進行などの役割を経験する機会を設けた。

④プリセプター研修（表4）

新入職員の指導担当者を対象とし、指導者としての役割についての研修を実施した。

⑤リーダー研修（表5）

各病棟のリーダーを対象とし、役割についての研修を実施した。

・OJT

カンファレンスや退院前訪問検討会への参加、患者診療場面の併診を通し、Off-JTでの知識を活用できているかの確認と指導を行った。

■2019年度のトピックス・実績

①新入職員に対し、目標管理シートを活用した毎月の行動目標管理を行う取り組みを実施し、年度末に目標達成度に対する振り返り研修を行った。

②2019年度より、各病棟に配属されている療法士の各科のリーダーを対象にリーダー研修を開催し、リーダー論及びチームマネジメントに対する講義及び現状の課題に対するグループディスカッションを行った。

■今後の展望

各年次・役割に応じたOff-JTの体制は整ったため、今後は更なる質の向上を目指す。また、リハ技術部各科や、教育リンクセラピストと連携を密にし、リハビリテーション専門職種としての更なる発展を支援する。

表 1. 新入職員研修

日時	教育研修内容	日時	教育研修内容
2019年4月5日(金)	オリエンテーション	2019年5月15日(水)	急性期・回復期・生活期のリハ医療について
2019年4月8日(月)	施設基準・診療報酬・回復期リハ病棟 地域包括ケア病棟・障害者病棟について	2019年5月22日(水)	医療安全について③
2019年4月9日(火)	リハビリテーションとは	2019年5月29日(水)	リスク管理について① 基礎
2019年4月10日(水)	医療安全について①	2019年6月12日(水)	栄養管理について リハビリテーション栄養・褥瘡について
2019年4月11日(木)	感染予防について①	2019年6月26日(水)	チーム医療について
2019年4月12日(金)	リハビリテーション医について	2019年7月10日(水)	入院時訪問・退院前訪問指導について
2019年4月15日(月)	理学療法について 作業療法について	2019年7月24日(水)	車椅子について
2019年4月16日(火)	言語聴覚療法について リハビリテーション看護について	2019年8月7日(水)	接遇②
2019年4月17日(水)	MSWIについて	2019年8月21日(水)	接遇③
2019年4月18日(木)	接遇①	2019年9月11日(水)	リスク管理について② 応用
2019年4月19日(金)	診療業務手順について	2019年9月25日(水)	6か月の振り返り
2019年4月19日(金)	リフレッシュ研修	2019年10月9日(水)	脳画像と歩行能力
2019年4月22日(月)	OJTの模擬:入院時合同評価 OJTの模擬:初回カンファレンス	2019年10月23日(水)	自立支援
2019年4月23日(火)	OJTの模擬:2か月目カンファレンス OJTの模擬:退院時カンファレンス	2019年11月13日(水)	摂食・嚥下
	教育ガイドラインについて 教育研修科について	2019年11月27日(水)	感染予防について②
2019年4月24日(水)	FIM(総論)(移動)(セルフケア)について	2019年12月11日(水)	介護保険制度
2019年4月25日(木)	FIM(認知)について	2020年1月23, 24日(木, 金)	BLS研修
2019年4月26日(金)	起居移乗動作について	2020年1月15日(水)	急性期・回復期のリハ医療について
2019年5月7日(火)	医療安全について②	2020年2月12日(水)	生活期のリハ医療について
2019年5月8日(水)	評価について	2020年3月11日(水)	1年間の振り返り

表 2. 2 年次研修

日時	教育研修内容
2019年5月24日(金)	リハビリテーションの理解 目標設定について 後方連携について
2019年7月19日(金)	接遇・倫理・医療安全
2019年9月6日(金)	自立支援
2019年10月18日(金)	連携
2019年11月18日(月) 2019年12月6日(金) 2019年12月20日(金)	症例検討会(全3回中、2回出席) (発表+1回聴講出席)
2020年2月21日(金)	症例報告会 ～後方連携について～
2020年3月6日(金)	教育ガイドラインを用いた自己評価 (振り返り研修)

表 4. プリセプター研修

日時	教育研修内容
2019年4月2日(火)	プリセプターの役割と目標設定
2019年9月27日(木)	接遇 ～信頼される医療職になるには～

表 6. 看護部研修

日時	教育研修内容
2019年5月13日(月)	起居・移乗動作について(新人対象)

表 3. 3 年次研修

日時	教育研修内容
2019年6月7日(金)	3年次の目標確認 基本的概念のフォローアップ
2019年8月2日(金)	接遇・倫理
2019年9月20日(金)	自立支援について
2019年11月8日(金)	地域連携について
2019年11月18日(月) 2019年12月6日(金) 2019年12月20日(金)	2年目症例報告会への参加 (1人2回出席にて調整)
2020年2月7日(金)	生涯学習・自己研鑽・研究について 教育ガイドラインを用いた自己評価

表 5. リーダー研修

日時	教育研修内容
2019年5月13日(月)	病棟リーダーの役割・目標設定
2019年10月28日(月)	リーダー目標の進捗・グループワーク

薬 剤 科

■スタッフ紹介

科長：ソディ保子

主任：山本里香 副主任：大西暁枝

弓場優佳, 森あさひ, 小田彩加 (5月退職)

薬剤事務：桑江順子, 砂井義美 (10月転属)

■業務内容

調剤・監査業務, 服薬カートのセット業務, 注射薬調剤業務を行い, 処方監査, 服薬管理指導業務, 病棟配置薬管理, 病棟の麻薬管理などを実施している。

敷地内併設の老健に, 持参薬の確認業務や一包化調剤後服薬カートにセットして医薬品供給を行っている。

チーム回診は, NST 回診, 褥瘡回診, ICT・AST 回診, 皮膚科回診, 糖尿病回診, 緩和回診に参加している。

DI ニュースは 7 回発行した。

■2019 年度のトピックス・実績

【トピックス】

院内フォーミュラリとして PPI, 糖尿病薬 (DPP4 剤・グリニド剤), 抗インフルエンザ薬を検討した。

糖尿病薬は推奨薬を DI ニュースにて院内伝達をし, 抗インフルエンザ薬は手順書を作成し医局会へ提案した。

ベンゾジアゼピン受容体作動薬の処方箋発行患者数の動向を毎月確認し薬事委員会に報告した。

薬剤師が少なく業務に支障が出ていたため, 厚労省からの通知に則り事務系職員を採用, 業務の拡大を順次行った。現在は納品発注関連業務, 薬剤統計処理, 配薬カートセット, 錠剤ピッキング業務, 持参薬報告の作成を実施している。

【病・薬連携】

12 月 尼崎市薬剤師会研修会「精神疾患について」

講師：かやはらクリニック 栢原尚之先生

尼崎薬剤師会との共催の研修会を症例検討会形式で行った。精神疾患患者への問診や診断, 指導方法等を教授い

ただき, またフォーミュラリに繋がる考え方も指導いただき好評であった。

【学会発表】

日本医療薬学会年会 1 題, 日本薬剤師会学術大会 1 題, 日本病院学会 1 題, 日本病院薬剤師会近畿学術大会 2 題。

【調剤業務関連実績】

処方箋枚数：2,618 枚/月 (前年度比 114.2%)

うち, 老健処方箋枚数：188 枚/月

注射箋枚数：509 枚/月 (前年度比 81.0%)

うち, 老健注射箋枚数：5 枚/月 (前年度比 125.0%)

院内採用薬：490 品目 (年度末時点, 前年度比 109.8%)

患者限定薬依頼件数：422 件 (前年度比 68.1%)

201 品目 (内訳: 内用外用薬 187 品目, 注射薬 14 品目)

後発薬利用率：94.1%, カットオフ値 61.8% (月平均)

後発医薬品使用体制加算 I を算定。

一般名処方加算算定率：92.7% (月平均)

【薬剤管理指導業務関連実績】

持参薬鑑別報告は, 1,407 件/年 1 日平均 5.8 件あった。

薬剤管理指導は, 1,176 件/年 (前年度比 116.8%) あった。

退院時薬剤情報管理料は, 1,046 件あり退院患者の 84.4% に算定していた。

■今後の展望

昨年度, 患者限定薬等頻用しない場合や高薬価薬は, 他施設等からの分譲買いを利用して, 不動産の発生をなくすように努力していたが, 廃棄薬剤費の増加がみられた。管理手順や方法を再検討し, データ等を活用した在庫管理を確立したい。今まで患者指導が必要最小限の実施であったが, 2020 年度診療報酬改定に伴う算定の増加と残業を少なくするための業務改善に取り組みたい。

また, 科内の症例検討会やポリファーマシー勉強会を実施し, 各自が学会発表できるような薬学的テーマを持ちながら日常業務を行える体制や支援作りを目標にしている。

表. 調剤業務等実績

(単位: 件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2,577	2,440	2,417	2,724	2,789	2,588	2,842	2,609	2,907	2,571	2,301	2,661
(6)	(18)	(19)	(24)	(29)	(11)	(0)	(3)	(57)	(6)	(6)	(15)
662	694	483	548	573	514	517	496	510	392	281	445

放射線科

■スタッフ紹介

【診療放射線技師】

(科長) 山田友也

(主任) 秋葉秀樹

(科員) 有浦諒太

■業務内容

開院4年目でだいもつ病院199床フルオープンとなり、検査件数も徐々に増加傾向である。放射線科業務内容は一般撮影、X線ポータブル撮影、超音波検査、CT検査、嚥下造影などの撮影業務、他院画像情報の入出力、画像閲覧環境整備や読影環境の整備及び管理、入院患者に対するMRI検査予約手配などを行っている。

一般撮影では入院時の呼吸器、整形領域の撮影や急変時の撮影を行っている。CT撮影では中枢神経領域（主に頭部）、脊柱・呼吸器・消化器領域及び急変時の撮影を行っている。超音波検査では腹部は放射線科で対応し、心・血管関連は検査科が施行している。嚥下造影では外科用Cアームを用い検査を行い検査後動画編集ソフトにて編集を行い、電子カルテから嚥下造影の動画閲覧を可能としている。

また、病棟との業務連携活動として、可能な範囲内で検査の送迎を行いワークシェアの取り組みを行っている。

教育活動としては2年目を迎えた有浦技師に対し、CT読影の基礎や一般撮影の撮り方と見方について講習を行い、1年目に引き続き技師の基礎教育を行った。なお、千船病院放射線科のご協力を得て、新人研修として週1回の千船病院への派遣を行い実践的な教育活動も行っている。

■2019年度のトピックス・実績

検査実績として一般撮影では外来月間平均件数66件、対前年比114%、入院月間平均件数130件、対前年比105%、CT撮影では外来月間平均件数24件、対前年比115%、入院月間平均件数44件、前年比89%であり、一般撮影、CT撮影において外来での撮影件数の増加が認められた。

上半期は第5回放射線科合同研修会をだいもつ病院主催で行い、各施設の研究発表の成果や各種講義、本部学術人材開発グループのご協力を経て懇親会を開催でき盛況であった。その他上半期には法人放射線部門の各施設代表者との連携会及び教育協議会を開催し放射線科の今後の発展のための話し合いを行った。今後の法人全体の放射線技師育成と交流のため精進したいと考える。下半期には来期から発足予定である放射線部門協議会準備のため、臨床検査部門協議会の見学や放射線技師会主催のマネージメント研修を受講し協議会運用のための基盤作りを行った。また、兵庫県放射線技師会主催の研修会に『膝のポジショニングと読影に役立つ機能解剖』の演題で当院放射線技師が講師として研修を行った。だいもつ病院読影業務に関しては高槻病院所属放射線科医による読影が行われており診療機能向上に多大なご支援をいただいている。

■今後の展望

今後は放射線部門協議会の発足並びにだいもつ病院安定稼働のために注力したいと考える。

表. 放射線科活動実績

(単位:件)

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
一般撮影	外来	66	59	70	72	74	71	72	58	65	64	58	64	793
	入院	123	120	115	139	133	137	143	155	143	137	117	105	1,567
CT	外来	20	26	21	24	30	29	24	21	26	27	16	26	290
	入院	52	39	38	28	46	31	45	55	52	54	46	50	536
TV	外来	1	2	3	5	4	2	2	1	4	3	0	1	28
	入院	1	1	4	3	2	4	3	6	5	4	10	3	46
エコー	外来	6	7	3	2	3	9	5	6	5	1	6	4	57
	入院	12	7	12	6	8	10	14	8	9	8	17	9	120

検査科

■スタッフ紹介

臨床検査技師 常勤 2名

早苗 広人

岡田 稚加

■業務内容

検体検査・生理検査を行っており、チーム医療においては ICT ラウンド、心臓リハビリテーションに参加している。

■2019年度のトピックス・実績

入院患者増加による看護師の業務負担減に資するためのタスクシフトとともに、検査結果早期報告のためのター

ンアラウンドタイムの短縮にも寄与する目的で、入院時採血を行う取り組みを計画した。2018年度から何度かワーキンググループが集まり、対象患者・手順等をマニュアル化し、早期の開始を望んでいたが、採血手順・手技確認など患者に不利益がかからないようにしっかりと準備し、2019年6月から回復期病棟で開始した。下半期には3階、4階病棟への対象患者拡大を行い、全病棟での対応ができるようになった。大きなインシデントもなく、入院患者の30%（261件）の採血に対応した。

■今後の展望

時代の変化に対応した内部体制の強化に努め、分析能力の向上を目指す。

表. 院内実施検査件数

(単位:件)

		月平均件数	累積件数	前年比
検体検査	末梢血液一般	388	4,658	102%
	HbA1c	249	2,997	119%
	総蛋白	336	4,035	103%
	アルブミン	339	4,071	105%
	Na	382	4,595	103%
	K	383	4,596	103%
	AST	331	3,973	101%
	ALT	331	3,974	101%
	血液ガス分析	4	50	89%
	ABO血液型	90	1,090	102%
	尿一般	197	2,365	100%
	尿沈渣(鏡検法)	180	2,171	100%
生理検査	心電図(12誘導)	124	1,498	109%
	心臓超音波	5	64	88%
	下肢静脈超音波	4	53	156%

表 2. 栄養管理計画書（新規・継続）

(単位:件)

栄養管理計画書作成件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計	比率
栄養管理計画(新規)	124	112	111	118	124	109	121	132	116	106	94	109	1,376	19%
栄養管理計画(継続)	392	431	376	457	453	478	530	516	530	479	603	482	5,727	81%
合計	516	543	487	575	577	587	651	648	646	585	697	591	7,103	100%

表 3. 嚥下検査食作成件数

(単位:件)

嚥下検査食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計	比率
VF検査食	0	0	6	0	16	12	9	8	12	7	11	9	90	78%
VE検査食	0	0	6	0	1	2	4	3	4	2	0	3	25	22%
合計	0	0	12	0	17	14	13	11	16	9	11	12	115	100%

表 4. カンファレンス参加実績

(単位:件)

カンファレンス件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計	比率
糖尿病カンファレンス	41	46	40	52	86	62	46	40	52	45	45	35	590	23%
嚥下カンファレンス	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8	0%
カンファレンス	113	118	112	125	127	134	127	124	132	127	113	138	1,490	58%
NST回診	20	14	16	16	14	11	22	9	26	23	15	10	196	8%
褥瘡回診	23	34	31	16	32	28	22	17	17	20	17	20	277	11%
合計	197	212	199	209	259	243	217	190	227	215	190	203	2,561	100%

表 5. 訪床件数と栄養指導件数

(単位:件)

栄養相談(情報)件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計	比率
訪床件数	360	289	341	345	385	331	361	374	380	299	319	340	4,124	91%
栄養相談(入院初回)	6	12	5	8	17	9	22	15	12	17	16	43	182	4%
栄養相談(入院2回目以降)	0	0	12	3	0	7	0	1	0	1	0	8	32	1%
栄養相談(外来初回)	0	1	1	1	6	2	2	5	1	1	1	2	23	1%
栄養相談(外来2回目以降)	1	0	1	3	2	4	1	0	1	2	2	3	20	0%
集団指導	0	0	0	0	70	2	40	0	0	0	43	0	155	3%
合計	367	302	360	360	480	355	426	395	394	320	381	396	4,536	100%

表 6. 併設する老健施設の食数実績

(単位:件)

栄養相談(情報)件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
ミールラウンド	22	34	26	32	22	16	16	22	22	15	12	15	254
老健入居選考会議	8	14	11	17	3	11	20	12	16	15	11	13	151
老健サービス担当者会議	24	31	25	30	25	31	30	35	22	33	33	32	351
認知症ラウンド	18	32	16	2	7	0	2	0	9	3	10	7	106
経口維持加算	36	39	28	27	28	26	23	18	17	18	17	13	290
経口移行加算	2	4	4	4	3	1	1	1	1	0	1	1	23
栄養ケアマネジメント													約1,200件

地域包括ケア推進センター

■スタッフ紹介

- センター長 1名
- ・地域医療連携室
看護師 2名, 社会福祉士 7名, 事務員 1名
- ・通所リハビリテーション
セラピスト 3名, 社会福祉士 1名, 介護福祉士 9名
介護員 4名
- ・訪問看護ステーション
看護師 9名, セラピスト 5名, 介護員 1名
事務員 1名
- ・ケアプランセンター
主任介護支援専門員 4名, 介護支援専門員 3名
- ・ヘルパーステーション
介護福祉士 6名, 介護員 5名, 事務員 1名

■業務内容

地域におけるリハビリテーション病院としての役割を果たし在宅介護事業との連携を図り、地域包括ケアシステムの推進に力を入れている。地域医療連携室では入院相談から退院後まで全患者介入、退院後に利用する在宅サービスは特に尼崎市南東部エリアの利用者が安心して在宅生活が送れるように、スムーズな調整が行えるよう業務を果たしている。

■2019年度のトピックス・実績

地域医療連携室は4月に回復期病棟55床がようやく全棟開棟となり199床の病院となったため常に満床を目指しているが、特に地域包括ケア病棟の算定要件遵守が大変で在宅からの入院、在宅への退院が確実にできる患者の獲得に苦労した。4つの介護事業は利用者の増加で全体の収入は前年比125%、予算達成率109%となった。通所リハ

ビリテーションは下半期から定員を50名に増員し対収入前年比132%、予算対比117%と好調だった。訪問看護ステーションは今年度も看護師の出入りがあり、年間1万件を超える訪問は確保できたが予算対比99%と唯一予算割れした。ケアプランセンターは一旦特定事業所加算Ⅱになったがすぐに加算Ⅰに戻せた。ケアマネジャー1人当たりのプラン数も40件近くを保つことができ、地域への知名度も上がり依頼も多方面からとなった。ヘルパーステーションはこれまでになく順調に推移し前年比148%、予算対比127%であった。特定事業所加算Ⅱの算定も継続できた。

■今後の展望

一番の課題は人材育成であり、センター存続のため、医療・介護両方がこなせる人員の問題解決が急務である。

- ・地域医療連携室
報酬改定により、更に前方支援・後方支援ともに算定要件が厳しくなるが、入退院支援加算を継続していく。
- ・通所リハビリテーション
来期より大規模事業所減算となるため、土曜日の開所に対して適正な職員配置を行う。介護福祉士2名は確保している。
- ・訪問看護ステーション
看護師を2名増員予定。法人初の新卒受け入れのため教育をきちんと行い、機能強化型Ⅰの算定を目指す。
- ・ケアプランセンター
4月より1名増員予定である。加算Ⅳの算定が可能になるため、継続できるようにターミナルケア加算を注視していく。
- ・ヘルパーステーション
訪問件数増加により増員予定だが、人員確保が喫緊の課題である。特定事業所加算は継続する。

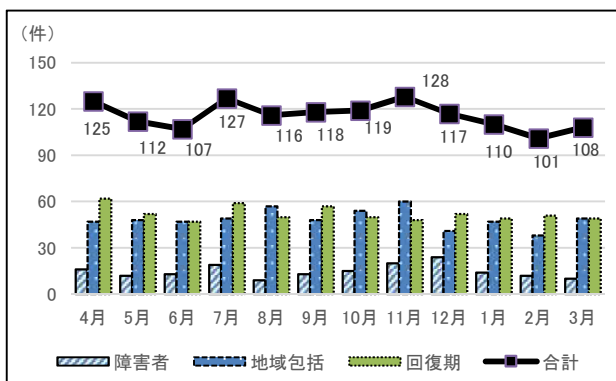


図1. 病棟別入院相談件数

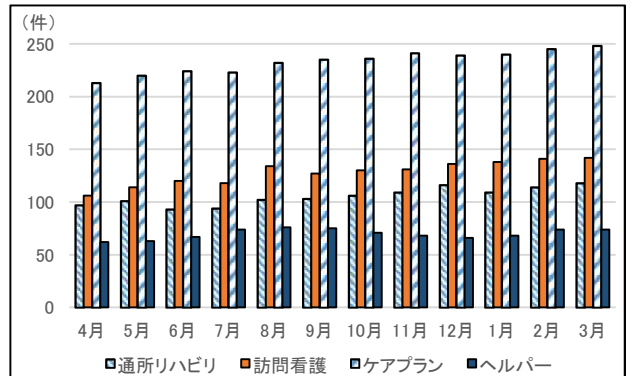


図2. 介護事業契約件数

医療安全管理室

■スタッフ紹介

医療安全担当診療部長：加東 武

医療安全管理者：坂本陽子

医薬品安全管理責任者：ソディ保子

■業務内容

1. 医療安全管理委員会開催：毎月1回
2. 院内ラウンド：第1回目2019年7月2日，
2回目2020年2月4日，看護部委員会にて2回実施
3. 医療安全管理マニュアル作成・修正
新規：4項目，修正：11項目
看護部：転倒転落アセスメント評価の判断基準作成
薬剤課と看護部との取り決め事項改訂
4. 院内医療安全教育の実施①新人看護師2回 ②新人セラピスト1回 ③中途採用者5回
5. 医療安全推進週間：2019年11月18日～24日
6. 第三者機関監査への対応：2019年12月19日（木）
尼崎健康福祉事務所立入調査
適時調査 2020年1月15日（水）近畿厚生局
7. 医療安全臨時会議開催①2019年6月5日（水）『5月21日入院患者の吸引中に左鼻腔より吸引チューブが出てきた事案に対する、今後の対処方法について検討』
②2019年8月26日（月）『患者家族からの申し入れに対する対策会議』
8. インシデント事例検討会：退院前訪問時の患者持参物紛失に関してRCAによる分析 2020年3月
9. 学会参加①医療安全認定臨床コミュニケーター実習研修2019（医療安全管理者）②国際医療リスクマネジメント学会（看護部安全管理委員）③阪神南医療安全研修会（看護部安全管理委員）④医療安全に関するシンポジウム（管理課科長）⑤第21回全国抑制廃止研究会（前医療安全管理者）⑥医療安全管理者養成講習会

10. 院内全体研修①第1回2019年6月14日『暴言暴力発生時の対応』本部渉外担当部長（法人内警察 OB）講義（最終受講者率100%）
②第2回2019年12月14日『医薬品安全管理について』『スキンケア』アルケア株式会社担当者より講義、『輸血療法について』（最終受講率100%）
11. 医療安全地域連携会議：1-1 連携・1-2 連携とも当院にて2019年9月30日（月）会議開催
兵庫県立尼崎総合医療センターへ訪問：2019年11月27日・安藤病院への訪問を2019年11月22日に実施
訪問にて相互評価・意見交換及びラウンド実施

■2019年度のトピックス・実績

1. 院内ラウンド：コインランドリー乾燥機内のフィルター掃除方法を業者より説明を各病棟職員へ行い、定期的に掃除が実施される。リハビリ室緊急コール受信機電池切れのため、半年ごとの確認点検となる。
2. 医療安全推進週間：取り組みテーマ「指差し呼称確認」期間中のインシデント発生0件も3か月評価にて、患者誤認によるインシデントが4件発生
3. 医療安全臨時会議①入院患者の吸引中、左鼻腔より吸引チューブが発見された事案に関する検討会
②患者家族からの申し入れに対する対策会議
4. 医療安全ニュースの発行：1/2か月、臨時発行1回

■今後の展望

2019年度に改訂した医療安全管理マニュアルの周知と評価を行う。インシデント分析結果や注意喚起を、医療安全ニュースを用いて発行し安全文化の醸成を図っていく。

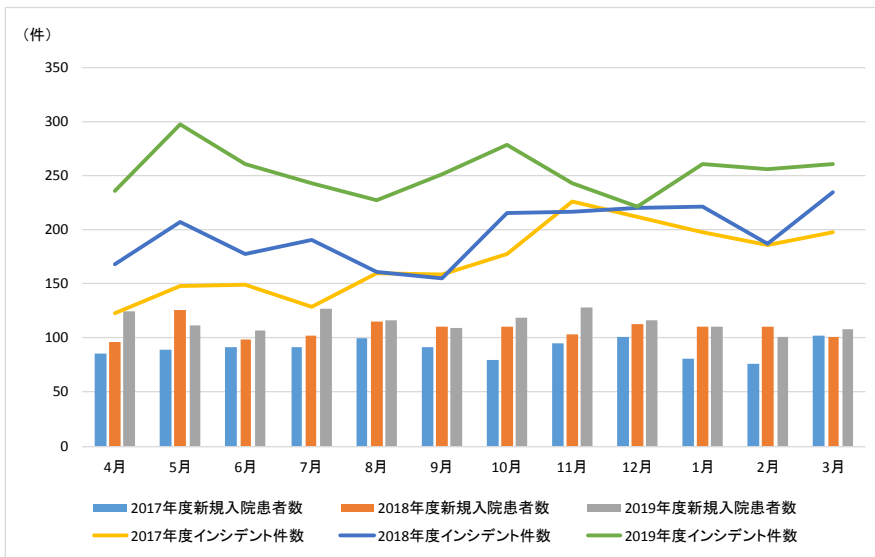


図 1. 2017 年度～2019 年度新規入院患者とインシデント比較

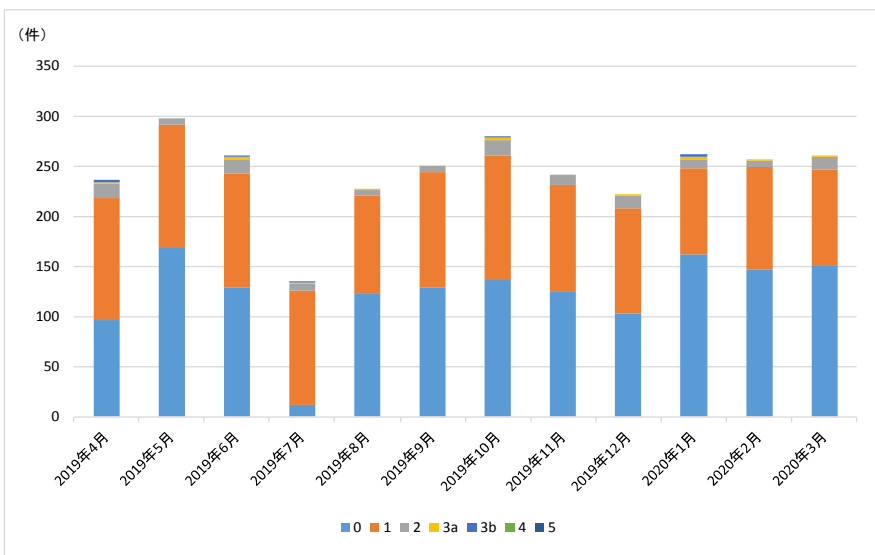


図 2. 2019 年度インシデントレベル別比較

表 1. 2018 年度, 2019 年度転倒転落病棟別転倒率 (転倒転落レベル 1 以上)

障害病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度転倒率(%)	15.494	8.303	4.889	9.09	7.015	4.618	4.571	3.601	6.88	4.613	4.287	5.82	6.598
2019年度転倒率(%)	2.38	2.33	5.841	7.963	6.734	14.492	5.834	6.218	6.841	4.6029	8.433	6.76	6.536

地域包括ケア病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度転倒率(%)	13.03	2.87	6.214	9.486	8.653	5.694	7.107	4.618	3.882	5.861	3.367	5.485	6.672
2019年度転倒率(%)	5.08	0.54	7.323	3.852	5.002	2.375	4.417	3.486	5.47	2.248	4.129	4.93	4.071

回復期病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度転倒率(%)	4.644	5.882	4.065	5.359	3.582	4.71	3.199	4.761	3.521	6.298	3.296	6.373	4.641
2019年度転倒率(%)	10.1	5.37	8.223	4.436	4.429	5.999	5	5.383	6.5	4.116	5.347	4.125	5.752

感染対策室

■スタッフ紹介

感染担当副院長：竹中和弘（医師）

感染対策室室長：長友美緒（感染管理認定看護師）

薬剤科担当：ソディ保子（薬剤師）

検査科担当：早苗広人（臨床検査技師）

■業務内容

- 1) 感染管理システムの構築
- 2) 院内サーベイランスの計画・実施・評価
- 3) 感染予防策の実施
- 4) コンサルテーション
- 5) 感染管理教育と訓練
- 6) 職業感染対策の計画・実施
- 7) ファシリティマネージメント
- 8) 抗菌薬適正使用支援

■2019年度のトピックス・実績

・各種会議の開催・参加

院内感染対策委員会

毎月第2火曜日 16時～ 12回

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）回診

毎週火曜日 14時～ 52回

臨時開催 2回

感染対策チーム（ICT）回診

毎週火曜日 14時30分～ 52回

臨時開催 2回

看護部感染管理委員会

毎月第2木曜日 14時～ 12回

感染対策加算合同カンファレンス

1-1 連携相互チェック

6月21日 尼崎だいもつ病院

7月26日 兵庫県立尼崎総合医療センター

1-2 連携カンファレンス 安藤病院 計4回

8月6日・10月8日・12月17日・2月18日

・手指衛生サーベイランス

前年度の平均値を目標値に定め手指衛生遵守の教育・指導を行った。昨年度の課題であったアルコール製剤の個人携帯を推進した。結果、直接観察での遵守率は61%から66%に上昇したが、1患者1日あたりの回数が5.63回となり目標を僅かに達成できなかった（図1）。WHOが推奨する5つのタイミングを踏まえた手指衛生を指導していく。

・カテーテル関連尿路感染（CAUTI）

2016年度の開院時から、CAUTIの早期発見・予防に努め、感染率は低下傾向である（図2）。開院4年間の2標準偏差をアウトブレイク基準と定め、引き続き予防行動を中心に管理方法の向上を目指す。

・感染対策講習会

講義型・実践型・DVD上映会に分け開催し（表1）全職員が2回以上、平均2.57回の参加があった。2020年1月外来看護師・医事科職員を対象に「新型コロナウイルスに関連した肺炎に備えた訓練」を臨時開催し、発熱者への対応やN95マスクの着用訓練を行った。

・新型コロナウイルス感染症対策

2020年2月からマスク安定供給のために使用枚数を制限、次亜塩素酸ナトリウムによる環境の一斉消毒を開始した。3月からは面会制限のほか、来院者が院内に長時間留まらないよう地域交流スペースの整備を行った。

■今後の展望

新型コロナウイルス感染症への対応として①次亜塩素酸ナトリウム消毒による環境整備強化②手指衛生の遵守③个人防护具適正使用の徹底、に取り組んでいく。感染対策講習会は昨年と同等の内容・回数を確保しつつ密閉・密集・密接を防ぐ新しい方法で実施できるよう調整が必要である。また、医療関係者は感染者に曝露する機会が多いだけでなく、一旦感染すると自身が集団感染の原因となり得る。職員の安全と健康を守るため、体調不良時の就業制限等を策定し実施する。

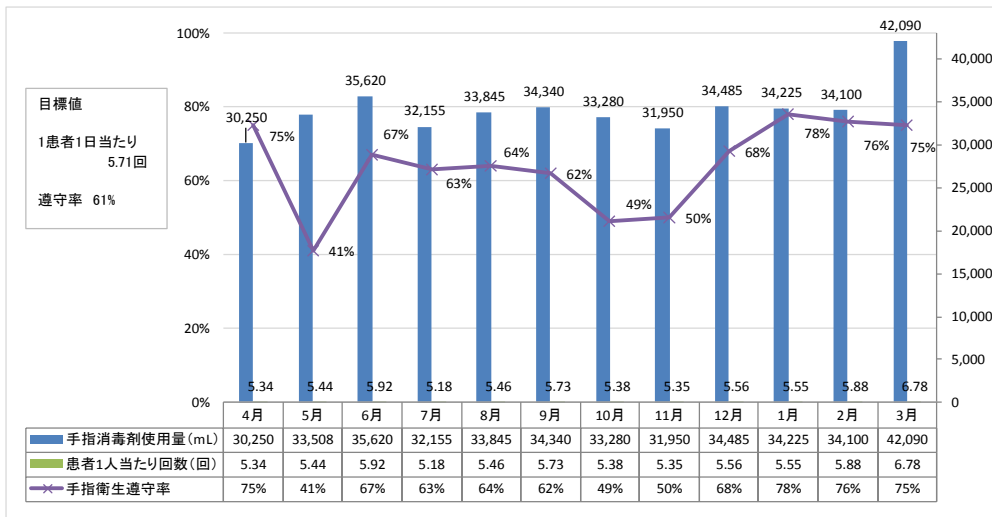


図 1. 2019 年度手指衛生サーベイランス結果

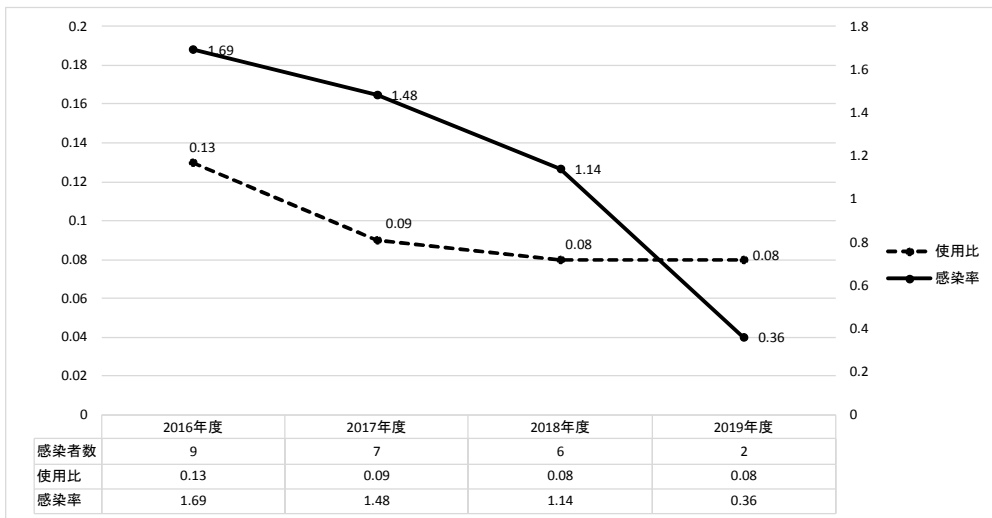


図 2. CAUTI 発生状況推移

表 1. 2019 年度感染対策講習会

日程	テーマ	講師	参加人数
4月15日	<講義型>'18年度報告・'19年度目標	竹中和弘・長友美緒	106
4月22日～26日	<実践型>正しい手袋・エプロン・マスクの着用	長友美緒	212
5月31日	<講義型>血液培養・抗菌薬治療	竹中和弘・早苗広人	42
6月10日～14日	<実践型>手指衛生	長友美緒	205
8月9日	<講義型>抗菌薬適正使用・血培採取手順・手指衛生講習会報告	ソディ保子・山本翔也・長友美緒	136
8月20日～28日	<実践型>吐物処理～これって食中毒？に備える～	長友美緒	150
9月20日～10月4日	DVD上映会「抗菌薬適正使用・血培採取手順・手指衛生講習会報告」		75
11月1日	<講義型>インフルエンザ・感染性胃腸炎	竹中和弘・長友美緒	61
11月21日～28日	DVD上映会「インフルエンザ・感染性胃腸炎」		29
1月27日～28日	新型コロナウイルスに関連した肺炎に備えた訓練	武田正嗣・長友美緒	43
2月14日	<講義型>結核	竹中和弘	27
随時	<実践型>災害時の感染対策	長友美緒	31



介護老人保健施設 だいもつ

〒660-0828

尼崎市東大物町1丁目1番1号

URL:

<https://amagasaki-daimotsu.ajinkai.or.jp/kaigoroujin/>

理念・基本方針

<理念>

住み慣れた地でいつまでも自分らしく生き活きと

<基本方針>

- ・私たちは、患者さま・利用者さまに安全で質の高い医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまと情報の共有をはかり、患者さま・利用者さまが納得される医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまにふさわしい尊厳ある生活が過ごせるよう、プライバシーや人権を尊重した医療、介護、サービスに努めます。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまが住み慣れた地域の中で切れ目のない医療、介護、サービスが受けられるよう努めます。
- ・私たちは、専門職としての誇りを持ち、自己研鑽に励み医療、介護、サービスの向上に努めます。

施設概要

■入所者定員/100名（ショートステイ含む）

2019年度総括

5月からセラピストがシフト制を導入し、祝日及び7月からは土曜日にもリハビリを実施できる体制を構築できた。リハビリを強化していることをアピールした営業が行えたこと、介護職員確保に関しても大きな変動がなく安定していること、相談員が地域との連携ができていことな

どから目標としていた1日平均入所者数97.1名を確保できた。また当施設のユニットケア型の個室であることや小集団のケアのメリットが浸透し、リハビリも含め利用者・利用者家族、居宅ケアマネから高い評価をいただいた。

2019年度活動状況

4月	桜どら焼き作り
5月	音楽療法、クレープ作り、たこやき作り
6月	ベビークラス作り
7月	夏祭り、フルーツパフェ作り
8月	流しソーメン
9月	おはぎ作り
10月	運動会、スイートポテト作り
11月	フラワーアレンジメント、焼きそば作り
12月	クリスマスコンサート、ケーキのデコレーション
1月	初詣
2月	節分、新年会
3月	桜どら焼き作り

2020年度に向けて

今後も高い稼働率を維持しつつ、超強化型老健を維持しなければならない。新規利用者獲得を継続しつつ、在宅に復帰への取り組みとして利用者によりよい生活が送れるよう支援する。そのために専門職が連携した入退居訪問を強化する。また、介護施設の職員は質の高いケアを提供するために、eラーニングを活用した研修をはじめ各職種が研修を受講して資格取得を行い知識を促進していく。

介護老人保健施設 だいもつ

■スタッフ紹介

今期期首の人員配置は、施設長(医師)1名、科長1名、看護師9名、介護職50名、理学療法士4名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、薬剤師1名、管理栄養士1名、支援相談員2名、ケアマネージャー1名、事務3名であった。期中の異動者は、理学療法士1名、作業療法士1名、中途退職者は4名であった。

■業務内容

入居平均人数は97.1名/日で経過しており、稼働率は97%であった。ロング入退居総数はそれぞれ162名・166名であった。入居経路は、在宅からの入居32%、尼崎だいもつ病院など病院からの入居60%、他老健からの入居2%、有料などの施設からの入居が6%であった。退居経路は、在宅38%、有料などの施設31%であり、特養16%、入院6%、他老健2%であった。入居者の状態に応じてターミナルケアにも積極的に取り組み、年間9名の看取りを行った。平均介護度はロング3.36、ショート3.66と介護度はショートの方が重い。平均入居期間は4.8か月であり、要介護4又は5の割合は、52.8%である。

■2019年度のトピックス・実績

5月からセラピストがシフト制で祝日及び7月からは土曜日にもリハビリを実施できる体制を構築でき、リハビリの強化をアピールした営業活動ができた。言語聴覚士を中心とした多職種のミールラウンドも効果的であり入居者・家族の満足度が高く、経口移行は、13名中8名が移行、2名が一部移行、不可が1名であった。

ポリファーマシーを防ぐための取り組みにも積極的に取り組んでいる。2019年4月1日から2020年3月末までの入退居者156名において薬剤種類数は入居時6.4種類より4.9種類へと1.5種類減薬。薬剤費は1日平均401円から238円へ163円減少し昨年度4月から新設されたかかりつけ医連携薬剤調整加算(入居時にかかりつけ医と薬剤調整についてFAXで意見交換を行い、退居時は、薬剤調整の経過など診療内容の報告を行い、かかりつけ医との連携を行う)は、4月から2020年3月末までの退居者

156名中63名(4割)にこの加算を算定することができた。重度化する現状の中で、老健のケアを充実させるために看護と介護が協働し、認知症ケアの向上を図るために認知症チーム会を新たに発足、事例を共有し各ユニットに水平展開ができるようになった。認知症関連の外部研修には認知症介護実践者研修2名や認知症介護実践リーダー研修1名が受講した。8月からは各ユニットにユニットリーダーの配置を行い2名が研修に参加。ユニットごとのケアの評価を行いケアの質を上げる取り組みを行っている。毎月、行事食やおやつレクを実施しているが、特に7月の夏まつりは、入居者、家族、近隣のサ高住の入居者が参加できるように計画して実施している。多くの参加があり毎年盛況であるが、新たに取り入れた音楽療法も好評であった。経営的な面においては、老健でも単独の運営会を定期的開催し全職種が経営に参加するという取り組みも始めた。超強化型老健の要件維持のための認識も共有できた。エリアの特殊性として、尼崎だいもつ病院との連携の強化は高まり、職員の各種安全や感染などの研修だけではなく、入居者へのCSなどだいもつ地区全体で取り組むことができている。

■今後の展望

2019年度の在宅復帰率は、年間平均70.4%であった。1日平均利用者数を95名に設定の目標継続は必要であり、超強化型老健を維持しなければならない。そのために老健運営会の内容を充実させ、全職種が経営に関わるという認識を高めていく。在宅復帰への取り組みとして利用者がよい生活を送れるようにセラピストのみでなく、各専門職種が特長を発揮し連携した支援を行うよう入退居訪問を強化する。各職種がeラーニングを活用した研修等を受講しキャリアアップを行うとともに、新人の教育にも携わり、質の高い看護・介護の提供ができるように取り組む。施設も4年目になり、働く職員の離職率も低く安定し、相談員も地域との連携ができてきた。当施設が全室ユニットケア型の個室であること、小集団ケアのメリットが浸透してきており、利用者からも高い評価をいただいている。今後もこの評価を下げることなく、施設として質の向上を目指す。



高槻病院

〒569-1192

高槻市古曽部町1丁目3番13号

URL: <https://www.takatsuki.aijinkai.or.jp/>



理念・基本方針

<理念>

患者さまの満足する医療

<基本方針>

- ・急性期病院として、診療機能の高度化・専門化を図り、常に医療サービス内容の充実に努める
- ・地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携、救急医療の提供、地域医療従事者の資質向上のための研修など、地域における医療の確保のために支援を行う
- ・総合周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療施設等と連携を図り、母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療等の周産期医療を提供する
- ・臨床研修病院として、医師の人格涵養、診断能力修得の指導に努め、優秀な医師を輩出する
- ・市民病的役割を果たすため、市民の健康診査、健康教育等、保健事業の推進に積極的に関わり、生活習慣病の発症予防等に寄与する

施設概要

■病床数/477床 ■診療科目/29科

■病院機能/厚生労働省臨床研修指定病院、地域医療支援病院、開放型病院、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、救急告示病院、日本医療機能評価機構認定病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、BFH（赤ちゃん

にやさしい病院）、認定病院（WHO ユニセフ）、大阪府がん診療拠点病院、大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関、外国人患者受入れ医療機関認証（JMIP）

■特殊診療機能/周産期母子センター（MFICU・NICU・GCU）、リハビリテーションセンター、血液浄化センター、院内助産センター、放射線治療センター、救急センター、ICU・PICU・手術センター、関節センター、内視鏡センター、不整脈センター、心臓・大血管センター、がん診療支援センター、臨床研究センター、臨床研修センター、イメージングリサーチセンター

2019年度総括

4月に外傷を始め幅広い範囲をカバーする急性期外科を立ち上げ、昨年度、認可された小児救命救急センターのチームと従来からの救急総合診療科で総合救急医療センターを発足させた。小児から成人、軽症から重症までの受け入れを基本コンセプトに救急搬送数は8,300件（前年比110.1%）と大きく増加した。また、3月には篤志家からの寄付をもとにした大阪府からの補助金により高機能救急車が納車された。

手術件数は、不整脈内科のアブレーション416件（前年比115.2%）、心臓血管外科の開心術115件（前年比109.5%）、再生医療（脂肪組織由来再生幹細胞治療）51件（前年比115.9%）のほか、脳神経外科、小児脳外科、整形外科、眼科、形成外科などが前年を大きく上回る活動をした結果、全体で6,025件（前年比103.8%）と増加した。

2016年度から双方向研修を開始しているタイ王国サミティヴェート病院とは、昨年度に調印した新たな協定書に基づき、今年度より医師と看護師がタイに滞在して技術交流とともに現地の日本人患者とタイが提供する医療との隙間、特に文化の違いを埋めることを中心に活躍している。また、5月に三島圏域では、当院を含む2病院、大阪府全域で22病院となる大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関に選定されたことを受け、国際診療支援室を立ち上げ、秋ごろより外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の受審準備を開始、2月17日、18日の2日間の訪問調査が行われ、2020年4月7日付で認証された。

3月27日付で「科学研究費補助金取扱規程第2条第4項に規定する研究機関」として文部科学省より指定を受けた。実際に申請するためには、申請する研究者も臨床研究センターも体制を強化する必要があるが、これにより文部科学省の「科学研究費助成事業」に申請することができるようになった。

2019年度活動状況

- 4月 期首全集、新入職員歓迎会、関西大学初等部エピソード講習会、第36回市民公開講座、ベトナムドンア大学来訪
- 5月 院長講演会、Catheter Ablation Course for AF 市民公開講座、第11回 Catheter Ablation Course for AF、バンコク病院来訪、春のロビーコンサート、臨床研究研修会
- 6月 サミティヴェート病院 日本人医療センター開院式、災害訓練、第38回市民公開講座、SBS 予防教育プログラム
- 7月 特別全集、新人対象消防訓練、医療安全研修会、感染防止対策研修会、医科歯科連携研修会、NST 研修会、実践医学統計セミナー、レジナビフェア 2019、Shinka MANAGEMENT (オーストラリア) 来訪、アイオワ大学学生来訪、ゼブランズ病院 (韓国) 来訪、第39回市民公開講座、地域住民研修会
- 8月 臨床研修医採用試験・面接、第40回市民公開講座、リンリンフィル小児病棟ミニコンサート、救急隊勉強会、医科歯科連携研修会
- 9月 医科歯科連携研修会、BEAMS 研修会、業務改善成果発表会、第16回技術部臨床研修発表会、近畿厚

- 生局適時調査、第41回市民公開講座
- 10月 実践医学統計セミナー、第3回呼吸ケアチーム勉強会、保健所立入検査、第5回総合周産期母子医療センター懇話会、第1回 CLoCMiP レベル認証研修会、第46回二次救命処置コース、Sotos 症候群家族の会、第42回市民公開講座
- 11月 永年勤続表彰式、地域医療研修会、感染防止対策研修会、がん患者サロン、地域医療連携検討会・開放型登録医懇親会、第43回市民公開講座
- 12月 倫理研修会、忘年会、事務部長講演会、医療安全研修会、摂食嚥下研修会、第44・45回市民公開講座、納会
- 1月 がん患者サロン、高槻市立第二中学校救命講習会、医科歯科連携研修会、第46回市民公開講座
- 2月 第5回周産期看護セミナー、第46回二次救命処置コース、関西大学中等部がん教育講演会、高槻市立第六中学校救命講習会、災害医療訓練、看護研究発表会、外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) 訪問調査
- 3月 第17回技術部臨床研究発表会、事務部長講演会、業務改善成果発表会、第44・45回市民公開講座、口腔ケア研修会、臨床研修修了式、RIFCR 研修会

2020年度に向けて

今年度は小児・妊産婦を含めて、更なる救急搬送の受け入れ増加が予想される。成人領域では外傷への対応を強化する。小児領域では年度末に納車された救急車も活用し、近隣の京都乙訓郡や宇治方面、滋賀県からの重症患者の受け入れを更に強化する。周産期領域では高リスク妊婦の受け入れ増加に伴い、難渋するケースもあるが、スタッフへの支援体制を整え対応していく。また、今まで以上に地域連携を重視して紹介患者の受け入れをスムーズに行い、地域への貢献を図る。あわせて、私たちの取り組みを地域の皆様によく理解していただくために広報活動にも力を入れる。

がん診療においては入職した待望の放射線治療医により、がん診療体制の再構築と充実を図る。手術数の増加はもちろん化学療法・放射線療法に力を入れ、この分野のメディカルスタッフの充実を図り、診療実績向上を目指す。糖尿病診療においては糖尿病・内分泌内科の医師を4名体

制へと増員, 増え続ける複雑な疾患背景の高齢者救急に対応するため, 総合救急医療センターの ER 医師を 2 名増員, 体制強化を図る. また, 法人外の施設と顔の見える連携構築を促進, 入退院支援室をより強化してベッドコントロールと連動した一元的病床管理を徹底, 高い病床稼働率を維持しながら病態に応じた DPC 入院期間 II 期以内の退院, 転院を行う.

JMIP の認証, サミティヴェート病院との事業提携, ベトナムの看護学生実習の受け入れ, ミャンマーの医療関係者との交流を通じて, 更なる体制整備, 国際化を進める. フレイル・認知症・重症患者に対応できる人材の育成を進める.

働き方改革への対応においては単に超勤を減らすことが目的ではなく, 効果的な診療活動の発展を図るために創意工夫を凝らし, ICT の導入で勤怠管理の合理化を行う. 救急対応能力の強化と働き方改革を並行して行うために, コメディカル部門のシフト勤務体制の整備とともに, 医師の効率的な当直体制への移行を目指し, まずは医師の正確な勤務実態の把握に取り掛かる.

総合内科

■スタッフ紹介（2020年4月1日現在）

主任部長：筒泉貴彦

医長：濱田 治，笹木 晋，世戸博之

医員：井上聖也，恒光綾子，花篤弘一

専攻医：廣田功平，鶴田慧司郎

看護師：向井拓也，高石絵美，小林達也

■診療内容

外来：総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており、種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている。病態や疾病に合わせて総合内科での対応を継続して行うか、あるいは専門医の評価及び加療が必要であるかを判断する。再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ、あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している。いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返しするようにしており、急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している。すなわち開業医からのご紹介に対しては依頼内容に対して真摯に対応し、問題が解決したら患者をお返しすることで高槻市の中核病院としての役割を果たすことを目指している。

入院：一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている。高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎、尿路感染症、複数の病態が関与する食欲不振や衰弱（Failure to thrive）症例が多いが、不明熱、多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している。基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており、必要に応じて専門科と協力の上診療を行う。予定入院とは異なり、緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている。入院チームは科内3チームで構成されており、日替わりで入院の対応を行っている。各チームは1名の指導医、2名の後期研修医、初期研修医1～2名及び診療看護師で構成されている。診

療看護師も診療に関与しており、看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている。初年度に引き続き、高齢患者の種々の病態の対応を行っていることに加えて非高齢患者の重症例や膠原病疾患の頻度も増加してきている。2018年度より整形外科疾患であり大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を、当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている。欧米ではOrthopedic Co-Management（OCM）と呼ばれており、整形外科の病態以外の種々の内科疾患、周術期管理、安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている。高齢患者のニーズに即しているためか、1年を通じた入院患者数は1,000名以上と昨年度より大幅に増加しており、昨年度同様、他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている。

教育：若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく、毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション、看護師勉強会において尽力している。

■2020年度のトピックス・実績

訪問診療：高齢社会に伴い外来受診が困難な症例、終の棲家として自宅を選択するも依然として医療のニーズがある症例に対して総合内科主体の訪問診療を8月より開始する。社会の変化に医療体系自体が柔軟に変化していくことで医療のニーズを継続的に充足することを目指す。

■今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される。高槻病院、訪問診療での診療を継続的に行っていき、社会への貢献を行う。また総合内科のニーズや功績、臨床研究を通じて発表することも引き続き積極的に行っていく。

救急総合診療科

■スタッフ紹介

稲本真也（1992年卒 主任部長）
 村井 隆（1999年卒 医長）（2019年10月退職）
 増田 茂（1998年卒 医長）（2020年4月着任予定）
 豊嶋千絵（2013年卒 医員）（2020年5月着任予定）

■診療内容

当科は2019年度に発足した総合救急医療センターの内科部門として、平日日勤帯の救急診療を行っている。ER方式で軽症から重症まで幅広い患者の受け入れを行っており、入院が必要な場合は当該診療科に治療を依頼している。

■2019年度のトピックス・実績

総合救急医療センターが発足した今年度は、地域の高齢化の進展もあり救急車受入件数が当院発足以来最多となり、内科系の患者も救急車搬送、walk-inともに増加した

（図1）. 近隣の診療所からの紹介患者数も増加している。年度途中で当科医師1名の退職があり人員不足となったが、急性期外科の多大なご協力を得て断らない救急を実践することができた。

■今後の展望

2020年度から新たに増田、豊嶋の2名の医師を迎え、診療体制を強化するとともに内科系救急としての専門性を深めていきたい。新型コロナウイルス感染症の流行により全国的に医療需要が急減している。高槻市を含む三島医療圏も例外ではなく、2020年度は5月時点で当院への救急搬送数も大幅に減少した。救急隊の出動件数そのものが減少する中で現状の打破は容易ではないが、地域の医療機関との一層の連携、救急隊との関係の強化を通じて、これまで以上に地域に根差した信頼される救急医療を提供していきたいと考えている。

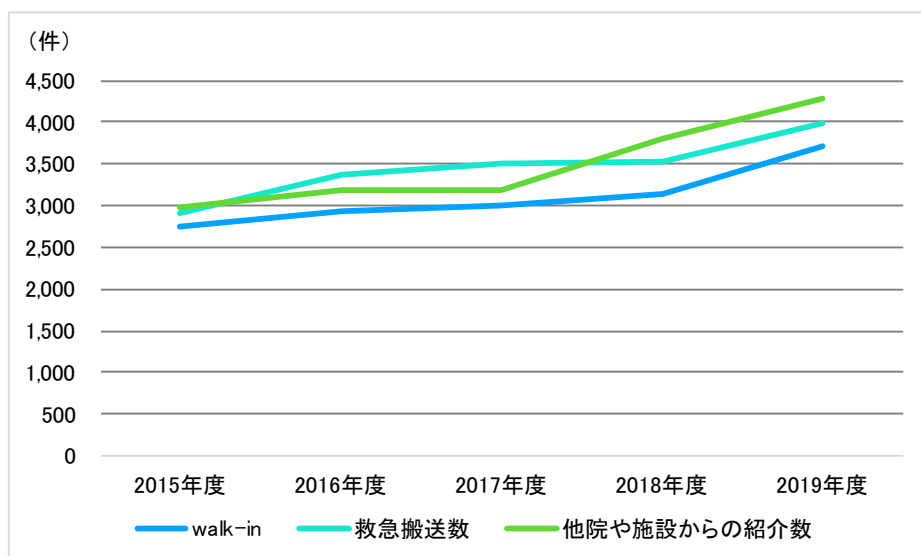


図1. 内科系救急患者の受け入れ状況

急性期外科

■スタッフ紹介

主任部長：秋元 寛（1983年卒）（2019年4月着任）

日本外科学会専門医・指導医

日本救急医学会専門医・指導医

日本外傷学会専門医

日本 Acute Care Surgery 学会認定外科医

医 長：橋高弘忠（2003年卒）（2019年4月着任）

日本外科学会専門医

日本救急医学会専門医

日本外傷学会専門医

日本 Acute Care Surgery 学会認定外科医

■診療内容

「急性期外科（Acute Care surgery）」は、外傷外科、緊急外科、外科的集中治療を専門分野とする、外科学の新しい分野の1つである。当院では2019年4月より急性期外科を立ち上げたが、平日日勤帯の救急センターで主に外科系救急症例を担当している。また、初期研修医の外科救急症例の診療サポートを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年4月から平日日勤帯のみの診療であったので、扱った症例数は352例に留まった。まだまだ急性期外科の知名度は低く、更に2019年12月中国武漢より始まった新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年2月以降救急搬送件数が激減し、症例が伸び悩んだ。

■今後の展望

2019年4月から総合救急医療センターが発足し、当科は小児救命救急センター、総合救急診療科とともにあらゆる救急症例に対応すべく体制を整えていきたい。また、消化器外科、心臓血管外科など他の外科系診療科と連携し、外傷も含め幅広い緊急手術に対応していきたい。

総合救急医療センター

■スタッフ紹介

センター長：秋元 寛（1983年卒）（2019年4月着任）
 主任部長（副院長）：稲本真也（1992年卒）（2019年4月着任）
 医長：村井 隆（1999年卒）
 医長：橋高弘忠（2003年卒）（2019年4月着任）
 医長：増田 茂（2000年卒）（2020年4月着任予定）
 医員：豊島千絵（2012年卒）（2020年5月着任予定）
 初期研修医：2名

■診療内容

2018年「小児救急医療センター」の指定を受け、2019年4月より救急科指導医を含めた3名の常勤医師が着任した。これを機会に従来の救急センターを更に充実させ、小児救命救急センター、総合救急診療科、急性期外科を3本柱に、小児から高齢者まで内因性、外因性を問わず幅広い救急医療を提供できるように「総合救急医療センター」と改名した。平日日勤帯の救急搬送、ウォークイン患者の対応に加え、初期研修医の研修診療サポートを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2018年の大阪北部地震に続いて、2019年秋の大型で強い台風の被害など、今年度も自然災害に悩まされた。さらに追い討ちをかけるように、2019年12月中国武漢に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で、当院でも高槻市保健所の要請により2020年2月13日より当センター内に帰国者・接触者外来を設置した。一方で、日本国内における新型コロナウイルス感染拡大に伴い救急搬送件数は2020年2月以降大幅に減少した。

2019年度の救急搬送件数は8,562件で昨年度の7,985件を大きく上回った。救急搬送不応需率は1%前後で、搬送依頼のあった症例はほぼ全例受け入れている。ただウォークイン、救急搬送とも65歳以上の高齢者が増加しており、地元医師会、地域の医療機関とともに今後の高齢者救急対策を真剣に考えなければならない時期に来ている。

■今後の展望

2019年度から総合救急医療センターが発足し、「全ての患者に最良に医療を」提供できるように努めている。今後は地域の医療機関と更なる連携を取りながら、信頼され、託される総合救急医療センターとして地域医療に貢献していきたい。

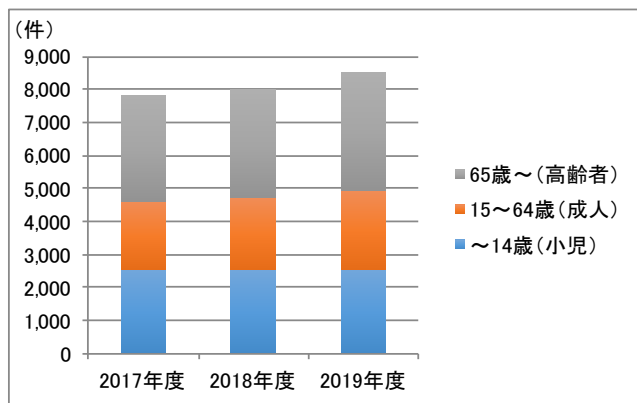


図1. 年齢別救急搬送件数

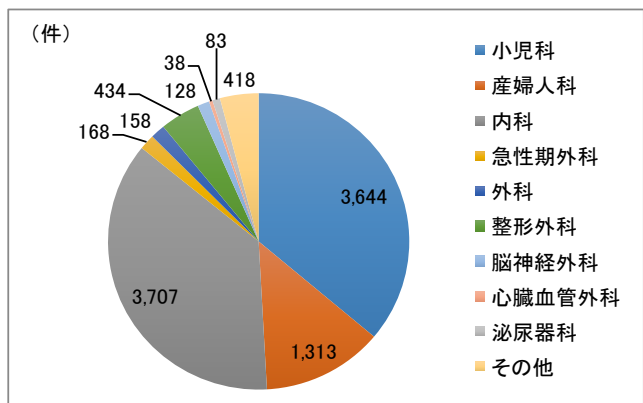


図2. 診療科別救急搬送件数

呼吸器内科

■スタッフ紹介

船田泰弘 (1995年卒, 主任部長)
 上領 博 (1999年卒, 医長)
 中村美保 (2002年卒, 医長)
 梅谷俊介 (2009年卒, 医長)
 小濱みずき (2013年卒, 専攻医)
 山田 潤 (2014年卒, 専攻医)
 福井崇文 (2014年卒, 専攻医)
 山岡貴志 (2016年卒, 専攻医)

■診療内容

肺炎, 喘息, COPDなどのcommon diseaseを始め, 肺癌の集学的治療, 重症呼吸不全患者の集学的治療, チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている。中村は緩和ケアチーム, 上領は感染制御チーム (ICT), 梅谷は人工呼吸器サポートチーム (RST) と栄養サポートチーム (NST) の中心的役割を担い診療科横断的に活動している。

■2019年度のトピックス・実績

屋根瓦方式のチーム制 (2チーム制) で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行った。

今年度の入院患者数は延べ 893 名 (昨年度 789 名) であった。入院患者の内訳は, 肺炎・気管支肺炎 145, 誤嚥性肺炎 36, 結核 7, 肺膿瘍 8, 胸部悪性腫瘍 237 (非小細胞肺癌 170, 小細胞肺癌 63, 悪性胸膜中皮腫 3, 胸腺癌 1), 気管支喘息 37, COPD 増悪 41, 間質性肺疾患 75, 気胸 46, 血痰・喀血 1, 胸水貯留 18, 膿胸 14 などであった。肺癌と肺炎 (誤嚥性肺炎含む) で過半数を占める点は昨年までと同様であるが, 胸部悪性腫瘍が更に増加し, 間質性肺疾患が増加傾向であった。死亡退院は 76 例のうち剖検は 3 例であった。入院検査は終夜睡眠ポリグラフィ (PSG) 54, 気管支鏡検査 64 (外来検査 149; 総計 215), 局所麻酔下胸腔鏡検査 1 であった。気管支鏡検査, PSG ともに昨年よりも増加した。気管支鏡検査は, 新規肺癌患者のリクルートのためにも更に件数を増やしていきたい。なお, 今年度は呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する肺癌がんセンターボードに加えて, 骨転移ボードを毎月開催した。

■今後の展望

2019 年度は目標であった気管支鏡件数と肺癌症例 (化学療法・手術症例とも) を増やすことができた。次年度も更に症例数を増やすように努める。

表. 2019 年度の延べ入院患者数と転帰 () 内は昨年度

(単位:名)

	患者数	死亡		患者数	死亡
呼吸器感染症			呼吸器悪性腫瘍		
肺炎・気管支肺炎			非小細胞肺癌	170(138)	29(19)
細菌性肺炎	145(156)	8(6)	小細胞肺癌	63(41)	4(3)
マイコプラズマ肺炎	2(1)		悪性胸膜中皮腫/胸腺癌	3(7)/1(0)	0(1)/1(0)
ウイルス性肺炎	2(1)		閉塞性肺疾患		
レジオネラ肺炎	2(0)	0(1)	気管支喘息	37(42)	1(0)
ニューモシスチス肺炎	3(5)		COPD増悪	41(33)	5(0)
誤嚥性肺炎	36(51)	4(8)	気胸	46(38)【手術22(10)】	
結核/非結核性抗酸菌症	7(9)/2(6)	0(1)	胸水	18(6)	1(0)
肺膿瘍	8(9)		気管支拡張症	4(2)	
膿胸	14(10)	1(2)	血痰・喀血	1(2)	
間質性肺疾患			血管炎・肺胞出血	3(1)	
肺線維症・非特異性間質性肺炎	42(22)	9(2)	肺塞栓症	0(0)	
特発性器質性肺炎	12(4)				
過敏性肺臓炎	8(6)		その他	91(24)	12(0)
薬剤性肺炎	7(1)	1(0)	検査入院		
放射線肺臓炎症	0(4)		終夜睡眠ポリグラフィ検査	54(73)	
慢性好酸球性肺炎	1(2)		気管支鏡検査	64(66)【入外合計(215)】	
膠原病関連間質性肺炎	5(1)		局所麻酔下胸腔鏡検査	1(1)	

消化器内科

■スタッフ紹介

中島卓利	(1985年卒)	主任部長	
長谷川和範	(1995年卒)	部長	
大須賀達也	(1997年卒)	部長	
角山沙織	(2004年卒)	医長	
澤井寛明	(2005年卒)	医長	
小川浩史	(2007年卒)	医長	
鍋嶋克敏	(2010年卒)	医長	
谷本直紀	(2012年卒)	医員	
池内愛実	(2013年卒)	医員	
徳永貴史	(2016年卒)	専攻医	計 10人

■診療内容

消化管や肝胆膵など広範で、また良性から悪性疾患など多岐にわたる消化器領域の疾患に対し、弱点の少ない診療体制を構築している。消化器内科初診外来を3人の部長で担当し、救急外来や地域の医療機関と密接に連携し、オープン検査などで内視鏡検査の積極的な受け入れを行い、より専門的な検査治療を目指している。

■2019年度のトピックス・実績

診療実績を下記の表にまとめた。化学療法件数が順調に増加している。入院して新規化学療法を導入し、通院外来

治療で継続する方式が軌道に乗っている。内視鏡関連では、胆道系の件数が増加した。処置用ダブルバルーン内視鏡(EI-580BT)を導入したことにより、胃全摘後症例の内視鏡治療も積極的に行った。また、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)も安定して行えており、超音波内視鏡下ドレナージ術も新たに導入できた。

■今後の展望

来期は、専攻医が大幅に増加する。徳永貴史が明石医療センターに戻るが、石田亮介(5年目・明石医療センターから)、西川浩介(4年目・千船病院から)に加え、当院で初期研修を終えた4人(伊藤裕貴、石原美崎、金丸薫子、増田祥子)が、専攻医として加わる。

かつて当科の入院患者の上位を占めていた誤嚥性肺炎、尿路感染症は、総合内科の開設以来、ほぼ担当することはなく、化学療法の入院から通院加療への移行、内視鏡治療の外来治療への移行、入院期間の短縮化で、総入院数、新入院数とも減少傾向にあり、消化器疾患の新規患者の集患が喫緊の課題である。また、当院は高度急性期病院ならではの、より高度な専門的かつ迅速な診療や多くの併存疾患、問題点を有した症例にも幅広く対応することが求められており、視野の広い消化器診療に加え、質の高い診療を行うことを目指し、地域医療に貢献していきたい。

表 1. 診療活動実績

	2017年	2018年	2019年
新入院(人)	1,605	1,504	1,456
平均在院日数(日)	12	11	11
外来延べ患者数(月平均)(人)	1,638	1,478	1,537
平均単価(円)	20,467	23,089	24,208
化学療法(外来)(件)	700	902	1,007
化学療法(入院)(件)	296	229	190

表 2. 内視鏡活動実績

(単位:件)

	2017年	2018年	2019年
総数(うち治療)	6,496(1,452)	6,216(1,303)	6,302(1,367)
上部(うち治療)	3,602(269)	3,567(268)	3,537(249)
下部(うち治療)	2,620(933)	2,410(804)	2,484(855)
ERCP関連(うち治療)	274(254)	239(231)	281(263)
超音波内視鏡	146	166	188
EUS-FNA	27	33	35
ESD(食道・胃・大腸)	67	88	73

循環器内科

■スタッフ紹介

高岡秀幸	(1986年卒)	
安部博昭	(1992年卒)	
中島健爾	(2002年卒)	
村井直樹	(2003年卒)	
松寺 亮	(2006年卒)	
佐野浩之	(2008年卒)	
佐々木 諭	(2010年卒)	
湯口 賢	(2010年卒)	
瀬戸悠太郎	(2013年卒)	
田中友望	(2014年卒)	
上村航也	(2015年卒)	
竹内仁一	(2015年卒)	
神末真由	(2016年卒)	
佐久間大輝	(2017年卒)	計 14 名

■診療内容

冠動脈インターベンション（PCI）、下肢動脈形成術（EVT）、救急心不全加療を主軸にし、日中は循環器ホットラインを引き、開業医から直接電話を受けられるようにしている。また、平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立てて、夜間救急患者の受け入れを強化している。2019年度は主軸のPCI件数は年間261例と昨年引き続き減少傾向である。入院患者数に大きく変わりはないが、危機感を強く感じており、解決及び打開策を模索しているところである。時代のニーズに合わせて、大学病院や国立病院では実施にくい日帰り手術を増やすために、日帰りセンターの整備が必要かもしれないと感じている。

■2019年度のトピックス・実績

当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定的で、総勢14名を維持している。冠動脈インターベンション（PCI）は261件であったが、ロータブレード治療は32件、DCAは8件、エキシマレーザー治療は49件と、ステント留置のみでなく、動脈硬化粥腫切除に力を入れてきた。末梢動脈インターベンションのうち下肢EVTは71件と昨年度を維持している。非侵襲的検査については、経胸壁心エコー図検査7,499件、経食道心エコー図検査305件、頸動脈エコー1,211件と増加傾向であり心臓血管外科手術術前評価が増加したためと考えられる。

■今後の展望

主軸の冠動脈インターベンション（PCI）件数の巻き返しを図りたい。減少の一因として、待機的PCIの適応に機能的な虚血の証明が不可欠になり、全国においても減少傾向であることがあげられるがそれだけではない減少率である。なぜ件数が減少したかを法人一丸となって分析し、早急に手を打たなければ今後もっと傷口が大きくなりそうである。更なる低侵襲化と入院期間短縮化のため、遠位橈骨動脈アプローチを増やしていきたいと考えている。また、引き続き心臓血管外科との相互関係の強化と患者の共有化を目指していきたいと考えている。

糖尿病内分泌内科

■スタッフ紹介

陳 慶祥(1995年卒 主任部長), 平賀千尋(2013年卒 医師)の2名体制であった。

■診療内容

常勤医師2名になってしまったが、診療内容は前年度と比べあまり変わりはない。糖尿病及び内分泌全般を主な対象としつつ、陳はマネージメントを行いながら病棟で初期研修医の指導、平賀は糖尿病専門医、内分泌専門医取得を目指し、自己の研修を行いつつ、病棟で初期研修医の指導、他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている。腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている。1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII(持続インスリン皮下注入)療法を導入している。血糖変動の激しい患者はCGM(持続血糖モニター)を用いてインスリンの微調整を行っている。NST委員会の下部組織である医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が月1回ミーティングを行い、糖尿病教育入院、外来糖尿病公開講座の企画・運用を行っている。山下みどり糖尿病看護認定看護師が、糖尿病看護外来にて、糖尿病性腎症進展予防の指導、妊娠関連の糖尿病患者の指導、外来インスリン導入、CSII患者の療養指導、フリースタイルプレの指導などを行っている。糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い、外科外来に開設された「フットケア外来」にも加わり、足のケアや療養指導を行っている。診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会(よもぎの会)のサポートを行っている。内分泌疾患が疑われる患者は、入院にて内分泌負荷試験を行い、詳細な病態解析を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

学会発表は糖尿病関連5題、内分泌関連1題であった。そのうち研修医が4題筆頭者として発表した。外来糖尿病管理患者は1,475名(うち1型糖尿病133名、2型糖尿病

1,281名、妊娠糖尿病51名)で、常勤医師数減少のため総数は減っているが妊娠糖尿病は例年並みである。糖尿病入院患者は165名(パス入院62名)と減少している。CSII療法は53名の患者が導入中であり、昨年並みである。内分泌疾患の入院患者は42名(間脳・下垂体疾患11名、甲状腺疾患1名、カルシウム代謝異常1名、副腎疾患30名)と前年度までは20名前後であったが今年度は倍増している。特に原発性アルドステロン症の紹介入院が増えており、放射線科の協力の下行われている副腎静脈サンプリングも8件で、地域において内分泌学会教育認定施設であるという認識が高まりつつある。外来では甲状腺穿刺細胞診検査94件と昨年並である。

糖尿病の入院患者数は減っているが、他科入院中の糖尿病コンサルトは気軽に引き受け、内分泌疾患の患者数も増えており、常勤医師2名の割には頑張れた1年だったと思われる。

■今後の展望

今年度は常勤医師2名であったが、2020年度ようやく神戸大学糖尿病内分泌内科医局より2名常勤医師の派遣で4名体制となる。ますます当地域の糖尿病及び内分泌の拠点である期待を背負い、地域からの紹介患者の受け入れ、病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける。

同時に地域連携のため、血糖コントロールの安定した患者の逆紹介を更に進め、入院の必要な患者の紹介を増やし、入院患者増に繋げたい。

産婦人科との連携による妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠合併甲状腺疾患診療の強化、糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により、虚血性心疾患、脳血管疾患、下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め、他科との連携を強めたい。引き続き学会発表の件数を増加させ、研修医にも積極的に学会発表をさせたい。2017年4月1日より内分泌学会認定教育施設となり、糖尿病専門医とともに内分泌専門医も取得可能な施設となった点を強調し、後期研修医の獲得に努めたい。

血液内科

■スタッフ紹介

岡本雅司（1993年卒）

日本血液学会認定血液専門医

日本内科学会総合内科専門医

■診療体制

火曜日

血液内科専門外来

月～金曜日

骨髄穿刺・生検

化学療法

病棟回診・処置

■活動内容及びトピックス

腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など）、免疫性疾患（再生不良

性貧血・免疫性血小板減少性紫斑病など）、血栓・出血性疾患（血友病・抗リン脂質抗体症候群など）といった幅広い領域の血液疾患を診療している。造血幹細胞移植や若年者の急性白血病など、当院の設備上の問題で高度な無菌管理を要する疾患の治療はできないため、これらの患者に対しては、整備の整った施設を紹介している。高齢の患者が多くなっていることと、疾患の専門性の高さから、他院への転院に時間が掛かり、どうしても入院日数が長くなる傾向にある。

■今後の展望

可能であれば造血幹細胞移植を施行したいと考えている。自家末梢血幹細胞移植が施行可能になると、より若年の患者を診ることができ、患者数が増加することが見込める。非専門的な疾患から造血幹細胞移植まで幅広い血管疾患を診療してきた。その経験をいかしていきたい。

不整脈センター

■スタッフ紹介

山城荒平：副院長，不整脈センター長

山下宗一郎：医長

坂田憲祐：医員

田中友望：医員（2020年4月1日着任予定）

黒田奈巳：非常勤

■診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・金曜日の午前及び、木曜日の午後に行っている。月・水曜日は山城が担当し、火曜日は黒田、木曜日は坂田、金曜日は山下が担当している。また、水曜日にデバイスチェックの外来を行っている。

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に、ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている。

■2019年度のトピックス・実績

持続性心房細動に対して心房細動中に多極カテーテルでマッピングし、ローターを検出する方法で良好な成績をあげ、注目されている。

ブルガダ症候群に対する心外膜アブレーションや下大静脈欠損や、先天性心疾患術後に伴う頻脈に対してのアブレーションなど、他院で取り組むのが困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行してきた。

リモートマグネティックナビゲーションシステム（米国、ステレオタキシス社製）を有するため、今まで不可能であったカテーテル操作が可能になり、他院のアブレーション不成功例に対して不整脈の根治に成功している。

また、詳細なマッピングが可能なリズムアッピングシステム（ボストン・サイエンティフィック社製）を大阪で初めて導入し、複雑な回路を有する頻拍に使用している。

ホームページをリニューアルし、我々の施行可能な医療を伝えている。Youtubeの動画を公開し、全ての人に理解しやすいようにしている。

■今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点をいかして、より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う。

外来、病棟、カテ室の看護師が病棟所属のナースで統一され、初診から入院、退院までシームレス看護が可能となった。患者が安心して治療できるシステムを強固にしていく。

コロナ感染症時代にふさわしい無症状患者の院内持ち込み防止に配慮した、しっかりとした感染対策を施した侵襲的治療を行い、予後を改善する高度治療を継続する。

患者が安心して治療を受け、入院生活を送れる環境を整備していく。

表. 不整脈治療（2019年）

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)	403例
マグネティックナビゲーションを用いたアブレーション	98例
心房細動に対するアブレーション	297例
心室性不整脈に対するアブレーション	29例
デバイス植え込み	53例
徐脈用ペースメーカー	45例
植え込み型除細動器	5例
心不全用両心室ペースメーカー	3例

腎臓内科・人工透析科（高槻腎センター）

■スタッフ紹介

高橋利和（1994年卒）：

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

日本内科学会認定内科医

日本内科学会総合内科専門医

徳島大学臨床教授，大阪医科大学臨床教育教授

黒川直基（2017年卒）：

後期研修医

■診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている。腎生検は検査日を火曜日午後とした。

人工透析科：2017年6月より高槻病院3階へ移転。25床で運用している。

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った。

■2019年度のトピックス・実績

1) 腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった。

2) 腎病理の臨床的な評価や後期研修医の教育のため，大阪や京都での腎病理検討会へ加盟し，定期的な研修を行った。大阪医科大学と連携し，合同の腎臓内科症例検討会を2か月に1回行っている。

3) 末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年度より開始。対象患者をCKDstageIIまで拡大し，今年度は計102件行った。また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に今年度も指定された。

4) 各教育・施設認定に関する活動

2011年度より高橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学の学生の学外教育の受け入れを行っている。また，2015年度より大阪医科大学臨床教育教授となり，大阪医科大学6年生の学外実習も行うようになった。昨年に引き続き大阪医科大学泌尿器科後期研修医に対する腎不全教育目的で透析室への受け入れを行った。

5) 透析室としての活動

2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院へ透析室が移転し，25床の透析室として運用。

LDLアフェレーシス，LCAP，PMA等の特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）。

2019年度は37名の透析導入を行った。

6) 地域での活動

慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため各方面への講演活動を行った。2019年9月28日には，大阪慢性腎臓病対策協議会の協力，大阪府，高槻市の後援の下，大阪医科大学と共同で市民公開講座を開催し盛況であった。

■今後の展望

当医療圏での腎臓内科の需要に対し専門医が不足している状況が続いている。今年度は，大阪医科大学泌尿器科・腎臓内科と定期的なカンファレンスや会合のみならず学生教育においても連携が図れた。今後もより積極的に連携をとっていきたい。

2019年度は三島医療圏における慢性腎臓病の啓発活動を精力的に行うことができた。地域の連携を更に深化し，CKDネットワークの構築を目指したい。

表. 特殊血液浄化件数

(単位:件)

GMA	PMX	CRRT	CART	PE
41	1	48	3	12

神経内科

■スタッフ紹介

松下達生（1990年卒 主任部長）

日本内科学会 認定内科医・指導医

日本神経学会 専門医・指導医・代議員

日本頭痛学会 専門医

清家尚彦（2007年卒 医長）

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医

日本神経学会 専門医・指導医

解剖資格

■診療内容

専門医2名体制で、月曜日から金曜日まで午前が初診、紹介及び再診外来（月・水・金曜日：松下，木曜日：清家），午後は週4日（月・水・金曜日：松下，木曜日：清家）の再診外来，また水・木曜日午前は神戸大学からの非常勤医の応援を得て2診体制での診療を行っている。松下は引き続き第3火曜日午後に千船病院での外来診療を行っている。

主に火・木曜日午後に筋・神経生検や針筋電図など侵襲手技を行い，火曜日午前は病棟カンファレンス，午後にはリハビリテーション科とともに臨床カンファレンスを定期的に行っている。

■2019年度のトピックス・実績

スタッフ数は2名のままで固定しているが，外来患者数は初診471名，再診5,886名の計6,357名であった。入院患者数は258名で，主な疾患では脳血管障害192，パーキンソン病や多系統萎縮症，認知症など変性疾患が80，てんかん関連が86，筋疾患11，神経感染症26，ギランバレーや多発性硬化症など神経免疫疾患14などであった。

脳血管障害については，超急性期のt-PA治療を含めた急性期治療はSCUで行い，慢性期は地域連携パスに則りかかりつけ医での継続加療を依頼するが，合併症など複雑な例については当科外来にて一次・二次予防を継続し，また機能障害について適宜リハビリテーション科と連携し経時評価しつつ治療を行い，頸動脈高度狭窄など観血治療適応症例は脳神経外科へ血管内治療等を依頼している。医師会主導型脳卒中地域連携パスの利用件数も年々増加し

ている。パーキンソン病を中心とした神経変性疾患，特に特定疾患対象患者の外来患者数は，地域の高齢化を反映し引き続き増加傾向にあるが，エリアの多くを担当し，三島地区の治療の要として活動している。大阪医科大学附属病院脳神経内科，当科，藍野病院と近隣四医師会，歯科医師会，薬剤師会と保健所，地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネットワークにおいて，パーキンソン病類縁疾患やALSほか指定難病に対する地域連携を進めている。またリハビリテーション病院と連携し，パーキンソン病入院リハビリプログラムを設定し，今後も利用者数を増やしていきたい。てんかん患者は近年社会的注目が集まっているが，近隣に担当科が依然寡少であり，他地域からの紹介や小児科からのcarry over例などを含めて入院，外来数とも増加しており，検査部生理検査部門の迅速な対応を得て診療にあたっている。認知症は当地域もやはり高齢化とともにAD始めDLB，SD，VDなど増加傾向にある。特に錐体外路症状など隣伴症状を呈する例について，PD，DLBなどの鑑別診断にRI検査が近年非常に有用視され診断基準にも組み込まれたが，当院では設備がないため近隣施設でのRI検査の協力を得つつ診断，治療に専門性を発揮できるよう努めている。また頭痛外来など専門外来の設置は診療枠上困難だが，頭痛学会専門医であることからネット上各サイトを見ての来院者も増加している。

■今後の展望

学会専門医2名体制は変わらないが，引き続き日本神経学会准教育施設認定を維持し，神経疾患の診療，教育に努める。また新たな治療手段が一般化してきた脳血管障害，認知症，てんかんや，新ガイドラインの下，新規薬剤が増えてきているパーキンソン病始め神経変性疾患，免疫性感染性神経疾患などの担当領域において，更に専門性，先端性を高めていく。三島圏域に神経内科常勤の急性期病院が依然として少なく，特に高齢化に伴い増加していく変性疾患等，専門的治療を要する分野では今後も基幹施設として当圏域での診療の中心的役割を担うよう引き続き努めていく。また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加，特にtPA症例の更なる増加も見込まれ，地域連携パスを通じ病診連携による近隣地域への逆紹介数の増加を目指したい。

精神科

■スタッフ紹介

2019年度のスタッフは、杉林 稔主任部長、伊藤晴子医師、井上由香医長、家田麻紗医長、島田 稔医師（週半日非常勤）。

臨床心理士（公認心理師）は常勤5名（小寺智子、鈴木佳子、山本百合子、中村彩香、房岡 茜）。また、尼崎だいもつ病院所属の下玉利麻由が長期研修として当院にて実働した。

■診療内容

- (1) 外来診療の継続。
- (2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続。
- (3) 精神科リエゾンチームの継続的活動。
- (4) 認知症ケアチームの活動開始。
- (5) 緩和ケアチームへの継続的参加。
- (6) 関連施設（ケーアイ）への週に1回の出向を継続。
- (7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続。
- (8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い、当院所属の臨床研修医全員に1か月、若しくはそれ以上の精神科研修指導。

■2019年度のトピックス・実績

・外来

2019年度の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は435名〔前年361名〕であった。そのうち、院内他科からの紹介患者数は256名（58.9%）〔前年214名（59.3%）〕であった。

他病院・医院からの紹介患者は166名（38.2%）〔前年135名（37.4%）〕であった。

疾患別の患者数は、表1のとおりである。

・入院

精神科主科での入院治療は行っていない。

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて、他科の医師や看護スタッフの相談に乗り、連携して治療にあたるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い、精神科リエゾンチームによる介入を積極的に行った。

・認知症ケアチーム活動

昨年度取り組んだテンプレート等電子カルテ上のシステムの構築、マニュアル作成、リンクナースの教育、研修会開催等によって2018年12月よりカンファレンス・回診を含めた活動を開始し、今年度は活動が軌道に乗り症例数も増加した。

・その他

精神科リエゾンチームと臨床研修医指導については、家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した。

緩和ケアチームについては、チーム員として伊藤医長が参加した。

認知症については、通常精神科外来での対応に加えて、介護老人保健施設ケーアイでのコンサルテーション・リエゾン活動、高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上医長が行った。

・心理療法、心理検査

2019年度の心理士による心理療法は1,397件〔前年1,279件〕、心理検査は58件〔前年68件〕であった。患者の様々な心理的問題に対し、カウンセリング等を行った。NICU、周産期センター、小児科病棟での心理ケアにも取り組み、心理士による訪床と随時カンファレンスを行った（表2～4）。

■今後の展望

今後も他科との連携を深めながら、活発な臨床活動を展開していきたい。

表 1. 精神科外来新患疾患分布

(単位:名)

	2017年度	2018年度	2019年度
器質性症状性精神障害			
認知症(アルツハイマー型、血管型、等)	173	92	107
軽度認知障害	40	26	30
せん妄	91	60	53
器質性精神障害	25	18	8
症状性精神障害	1	3	0
その他	0	1	0
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	9	5	10
薬物依存症	0	0	1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症(近縁疾患を含む)	17	11	20
妄想性障害	5	1	3
気分(感情)障害			
単極性うつ病	40	22	34
双極性障害(そううつ病)	14	3	5
単極性そう病	1	1	0
神経症性、ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症(パニック障害)	22	22	27
社会不安障害	35	0	1
恐怖症	2	0	0
心気症	1	0	1
強迫神経症	5	3	0
心因反応・適応障害	104	40	59
解離性障害	6	1	3
身体表現性障害(不定愁訴群を含む)	14	5	13
摂食障害	3	1	3
睡眠障害	39	12	20
人格障害	2	0	2
小児科領域			
発達障害	6	3	6
注意及び破壊的行動障害	3	2	1
摂食障害	0	0	0
心因反応、神経症	12	5	0
その他	1	5	7
その他			
心身症	2	2	0
その他	11	2	0
相談のみ(認知症を心配して受診した例含む)	11	6	10
精神疾患なし(同上)	15	9	11
合計	710	361	435

表 2. 臨床心理活動報

(単位:件)

	新規ケース	カウンセリング	心理検査	オープン検査	小児科 発達検査	小児 カウンセリング	小児脳外 三角頭蓋 心理検査
4月	7	122	5	0	18	0	1
5月	7	132	6	0	17	0	1
6月	4	94	2	0	18	0	1
7月	7	120	3	0	19	0	3
8月	6	126	3	0	21	0	4
9月	5	122	7	0	19	0	3
10月	17	117	6	0	19	1	1
11月	6	122	5	0	23	2	2
12月	12	116	3	0	32	0	1
1月	5	117	6	0	21	3	1
2月	4	107	8	0	19	3	1
3月	2	102	4	0	23	1	2
合計	82	1397	58	0	249	10	21

表 3. 精神科外来・心理新規ケース

(単位:件)

	2016年	2017年	2018年	2019年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害				
アルコール依存	0	0	0	0
薬物依存	0	0	0	0
大量服薬後	0	0	0	0
統合失調症型障害	3	0	1	0
気分・感情障害				
単極性うつ病	5	5	3	12
単極性うつ病(産褥)	1	1	0	0
双極性障害	3	4	5	3
神経症性、ストレス関連障害及び身体表現性障害				
不安神経症	13	13	8	12
強迫神経症	2	2	4	2
心因反応・適応障害	23	23	14	23
解離性障害	2	0	0	2
身体表現性障害	6	10	4	10
摂食障害	2	1	3	1
人格障害	2	4	2	8
発達障害	7	3	5	6
知的障害	3	3	3	0
脳機能不全	0	2	0	0
小児科領域				
神経症	2	4	2	1
心身症	2	1	0	1
心因反応	1	3	4	1
発達障害(疑い)	0	3	0	0
知的障害	1	0	1	0
不登校・引きこもり	2	1	2	0
非行	0	0	0	0
抜毛	0	0	0	0
吃音	0	0	0	0
緘黙	0	0	0	0
大量服薬後	0	1	0	0
家族相談	0	0	0	0
合計	80	84	61	82

表 4. 小児・周産期リエゾン活動

	月	火	水	木	金
AM	NICU	NICU		NICU	NICU
PM	NICU/小児病棟		産科/NICU/小児病棟		NICU/小児病棟

その他

- ・精神科リエゾンチーム回診参加(毎火曜15時~16時)
- ・ブレネイタルサポートチーム会議参加(第1木曜13時)
- ・NICU/GCU退院調整カンファレンス(隔週火曜11時)
- ・小児在宅支援チーム会議(毎金曜13時~14時)
- ・周産期心理士ネットワーク関西地区研修会開催(8月)

- * 小児カウンセリング外来開始(2019.10~)
- * 房岡入職・下玉利研修開始(2019.4~)
- * 中村退職(2019.10)
- * 山本復職(2019.12~)

病理診断科

■スタッフ紹介

常勤医師：3名

伊倉義弘（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

岩井泰博（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

大久保貴子（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

非常勤医師：3名（うち病理専門医2名）

検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名）

事務職員：1名

■診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される。主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて、患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている。患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い、臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する。いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり、スタッフはその重責に応えるべく、外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる。

常勤医師3名に加え、3名の非常勤医師と、サイトスクリーナー5名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが、迅速かつ質の高い病理・細胞診断、病理解剖症例の詳細な検討、臨床科カンファレンスへの参加、積極的な研究活動支援を目標に掲げ、精力的に取り組んでいる。2016年からは事務支援を受けてバーチャルスライドの本格運用が開始となり、病理をより身近なものに感じていただけよう努めている。

■2019年度のトピックス・実績

1) 組織診断件数：5,671件（図1）

2) 術中迅速診断件数：133件（図2）

3) 細胞診断件数：6,258件（図3）

4) 剖検数（剖検率）：8例（2.3%）（図4）

当院は新専門医制度の病理研修基幹・連携施設に認定され、独自の専門研修プログラムを持つ一方で、大学病院をはじめとする複数施設の病理診断科と協力し、病理医育成に取り組んでいる。本年も新たに徳島大学などとの連携を取り交わし、具体的に専攻医のローテーションを引き受けるまでには至っていないものの、全国的な病理医不足解消に多少なりとも貢献できるものと期待される。

■今後の展望

病理検査の基本技術の1つである細胞診については、近年、liquid-based cytology（LBC）に多くの施設が移行しており、当科においても来年度よりLBCを導入することが正式に決定された。従来法と若干観察のポイントが変わるため注意が必要であり、早急に診断トレーニングを繰り返し、本格的な稼働を目指したい。

コロナ禍での教訓から、あらゆる業種において、テレワークへの移行が推奨されている。医療の中では病理部門はそのような労働形態にも比較的馴染むのではと考えられ、その可能性について模索していきたいと考えている。

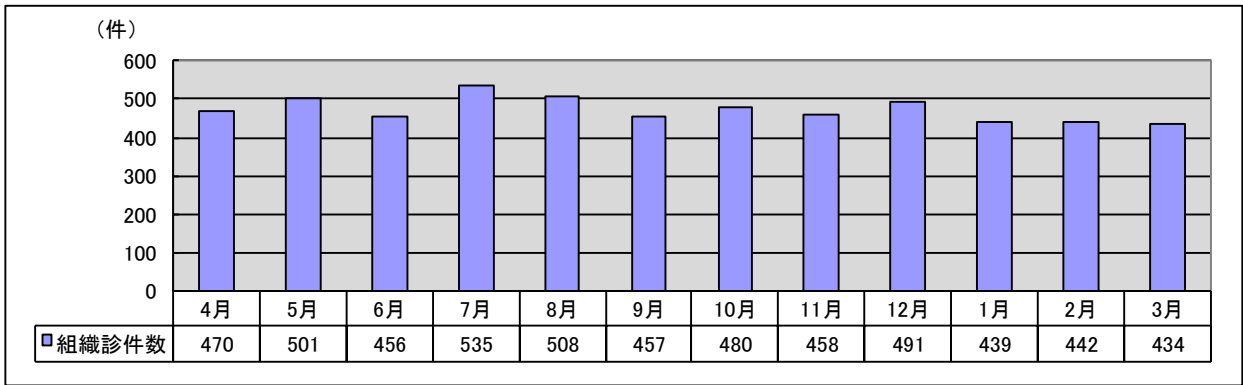


図 1. 組織診断件数

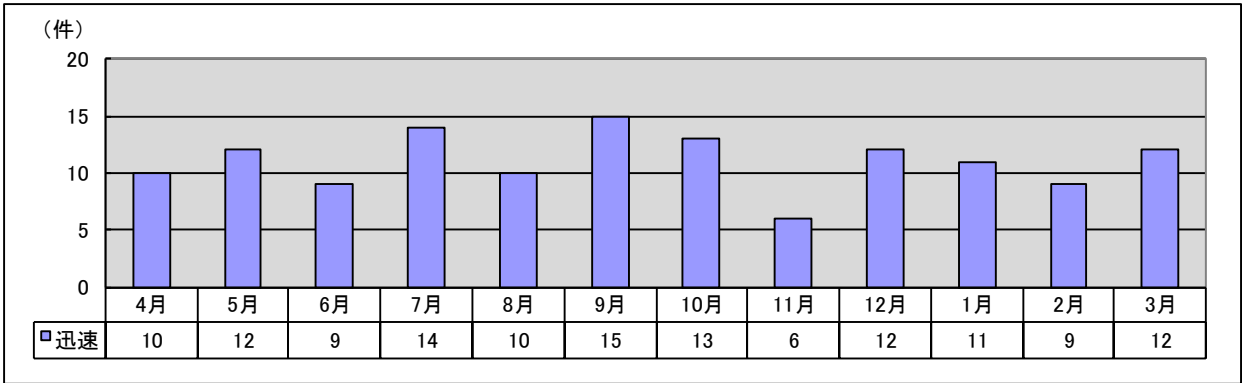


図 2. 迅速診断件数

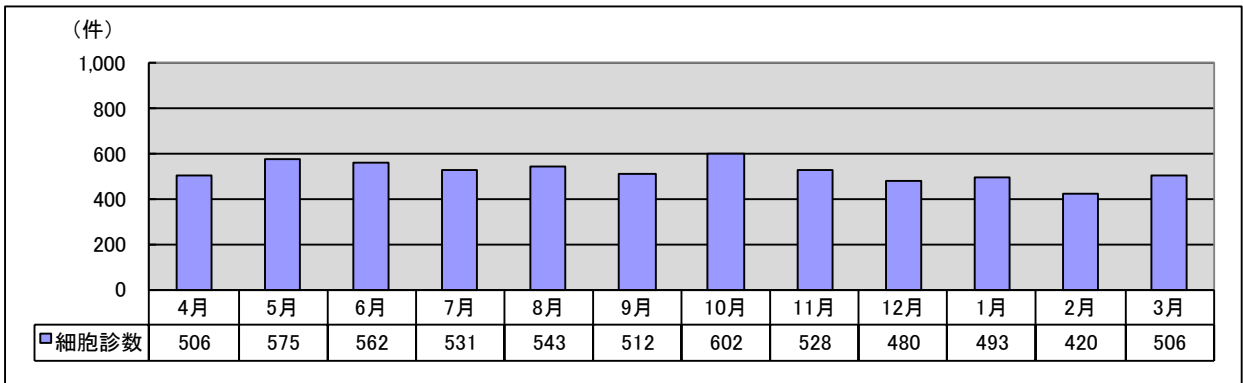


図 3. 細胞診断件数

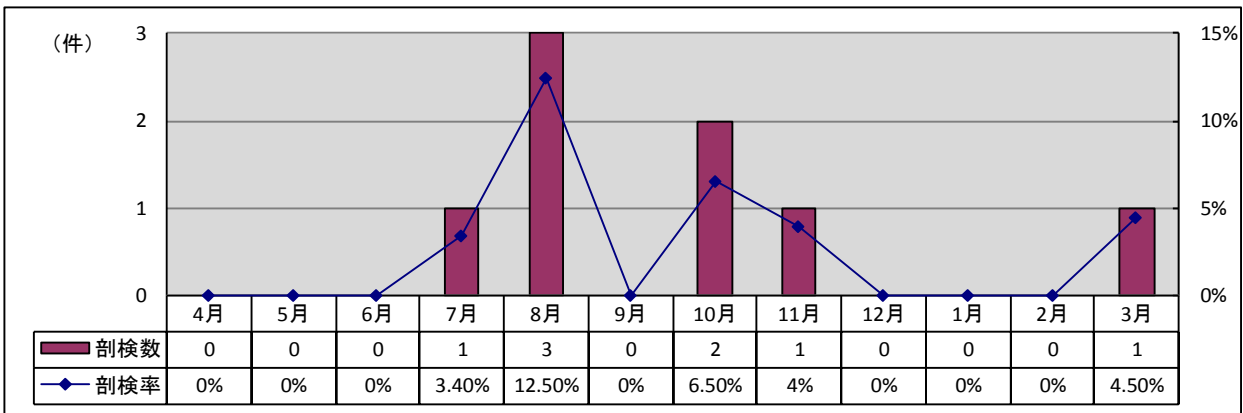


図 4. 剖検数・剖検率

小児科・新生児小児科（外来・小児病棟）

■診療内容

外来は午前一般診療を3～4診体制で行い、午後は専門外来、乳児健診、予防接種を主に行っている。専門外来は当院スタッフのみならず他大学・施設スタッフとの連携を行い、アレルギー外来、心臓外来、神経外来、腎臓外来、内分泌・代謝外来、発達相談外来、在宅ケア外来を開設している。時間外、救急診療では、外傷も含めた二次、三次救急疾患の受け入れを断ることなく対応する体制を整えている。

小児病棟は初期研修医・後期研修医・指導医で構成する主治医グループ制をとり、日々の診療のみならず、プレゼンテーション、学会発表、論文作成などの教育も精力的に行っている。研修医の指導を目的とした朝、夕のカンファレンスや、部長・医長病棟回診、週1回の長期入院患者のカンファレンスを行い、情報共有を行っている。その他看護師向けの勉強会や研修医向けの勉強会、英文論文の抄読会も定期的に開催している。当科は医学生の見学者も多く、熱心に対応している。

■2019年度のトピックス・実績

外来延べ患者数は33,089名であり、時間外患者は4,106名であった。入院患者数は1,974名で、日勤帯の入院患者数は925名、時間外入院患者数は1,049名であった。他院からの紹介患者数は2,650名であり、そのうち入院した患者数は913名であった。経口免疫療法を含めたアレルギー負荷試験、頭部以外の骨折/外傷の入院患者数も増加している。

■今後の展望

2017年度より小児センター（病棟）、小児科外来は新病院での運営が始まった。小児センターでは個室が増加し、感染隔離も徹底して行えるようになった。モニター設備もより一層充実し、厳密な管理を要する重症患者も併設するPICUと連携して受け入れ可能である。

感染症を中心とした入院以外にも、アレルギー・内分泌負荷試験、心臓・腹部超音波検査、心臓カテーテル検査、排尿時膀胱造影検査、MRI、脳波検査といった専門性の高い疾患に対する入院検査の更なる充実も図っていく。

表. 主な入院主病名

(2019/4/1～2020/3/31退院患者)(単位:件)

主な入院疾患名	件数
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	299
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	158
急性上気道炎/中耳炎	149
痙攣	149
アレルギー負荷試験	145
小児喘息	132
RSウイルス肺炎	101
川崎病	71
腎炎/腎盂腎炎	70
インフルエンザA/B	53
てんかん発作/重積	51
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	38
心疾患(心臓カテーテル検査・治療を含む)	34
アナフィラキシー	29
腸重積症	29
新生児黄疸	29
頭部以外の骨折/外傷	26
低身長症	25
低血糖	24
ケトン血性嘔吐症	22
脳炎/脳症	20
頭部打撲/脳振盪	20
IgA血管炎/紫斑病	18
リンパ節炎	18
呼吸不全	18
蜂窩織炎	17
虫垂炎	16
熱傷	14
糖尿病	12
手足口病	9
睡眠時無呼吸	8
イレウス	5
急性薬物中毒	5
腸間膜リンパ節炎	5
哺乳不全	5
多形紅斑	5

NICU・GCU

■スタッフ紹介

2019年の新生児専任医師は9名、後期研修医3～4名、初期研修医1～2名である。専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており、更に上級医は周産期新生児専門医も取得している。専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており、総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが、それぞれのサブスペシャリティーをいかしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる。後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って、未来の新生児医療の担い手の育成を行っている。

■診療内容

現在NICU21床、GCU27床で運営している。当直は2名体制で行っており、院内出生児のみならず、院外からの搬送入院に対しても、迅速に対応できるような態勢をとっている。朝の回診は看護師や理学療法士、臨床心理士、NICU薬剤師などコメディカルとともに患者の情報共有や、治療方針についてディスカッションを行い、夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている。またあらゆる新生児疾患に対応すべく、小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり、PICUとの連携により、ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている。また近年、胎児診断技術の向上によって、様々な疾患が胎児期よりわかるようになってきた。しかし、診断後にその分娩計画や児の治療計画、両親の心的面のサポートなどへの体制は十分ではない。このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために、2012年より「プレネイタルサポートチーム」が発足した。

産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診療

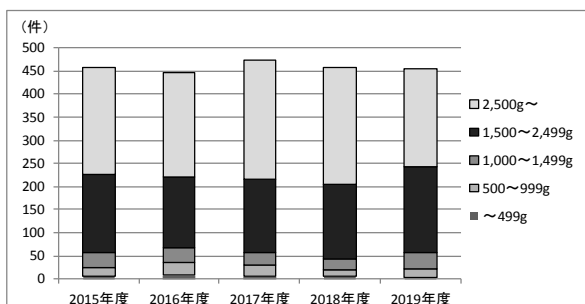


図1. 出生体重別入院数の変化

部と各部門の看護師、SW、心理士、理学療法士などによる多職種カンファレンスを行っており、各部署での情報共有や診療方針についてディスカッションを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度を振り返ると、実績面では456名の入院数で、うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は21名、1,500g未満の極低出生体重児は56名と、どちらもこの数年で大きな増減はなかった(図1)。入院経路は緊急母体搬送からの入院数が104名、新生児搬送数も95名でも大きな変化はなかった(図2)。トピックスとしては、死亡症例は1名のみであったことで、重症の新生児仮死の症例であった。この数年の課題である超早産児の重症の壊死性腸炎による死亡例は昨年を引き続き0例であった。また何らかの外科手術を行った症例は27名で腹壁破裂や横隔膜ヘルニア、食道閉鎖症など重症の外科症例や脊髄髄膜瘤などの脳外科疾患、動脈管閉鎖術が含まれていた。

■今後の展望

今日の周産期医療の発展に伴い、合併症なく退院できる重症例が増加している。しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや、NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきているのが現状である。そのような問題に対応すべく、2017年からNICUでは日本では初めての完全個室管理を行える11床のベッドを稼働して2年が経過し、ようやく家族が自宅で過ごせるような環境で集中治療を提供するということが安全にできるようになってきた。今後も高槻病院では集中治療の質を落とすことなく、家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践していき、日本の新生児医療の先駆けとしての取り組みを行っていく。

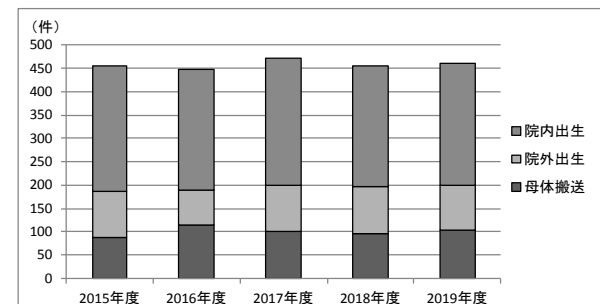


図2. 経路別入院数の変化

P I C U

■スタッフ紹介

起塚，大西，篠本が専従医として原則的にPICU内に常駐している。

■診療内容

重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の入室者は419名で例年並みの入室患者数となった。そのうち、肺炎，脳症，腫瘍といった内因性疾患が366例（87%），外傷，異物誤嚥などの外因性疾患が53例（13%）であり，例年と同様の傾向を認めた。内因性疾患の内訳では気道呼吸器系疾患と神経疾患が多いのが特徴である。外因性疾患は頭部外傷が多かった。術後管理を除いた症例においての気管挿管例は24例で例年並みであった。

■今後の展望

当院小児外科では高度声門下腔狭窄症に対して喉頭気管部分切除・甲状軟骨気管吻合術（PCTR）を施行し，気管切開からの離脱を積極的に試みている。PCTR術後は創部の絶対安静を要するため，PICUにおいて慎重な術後管理を行っている。約1週間のフェンタニル，ミダゾラム，ロクロニウム臭化物を用いて鎮痛鎮静・筋弛緩管理が必要であるため，多職種が協力連携し安全な集中治療を提供している。本年度は6例のPCTRの術後管理を行った。これらの術後管理について本邦では報告がないため，我々の経験を日本集中治療学会総会で発表を行い，同雑誌に投稿中である。また，本年度は小児の心室中隔欠損症の根治術を初めて当院で施行した。引き続き，症例を蓄積していきたい。

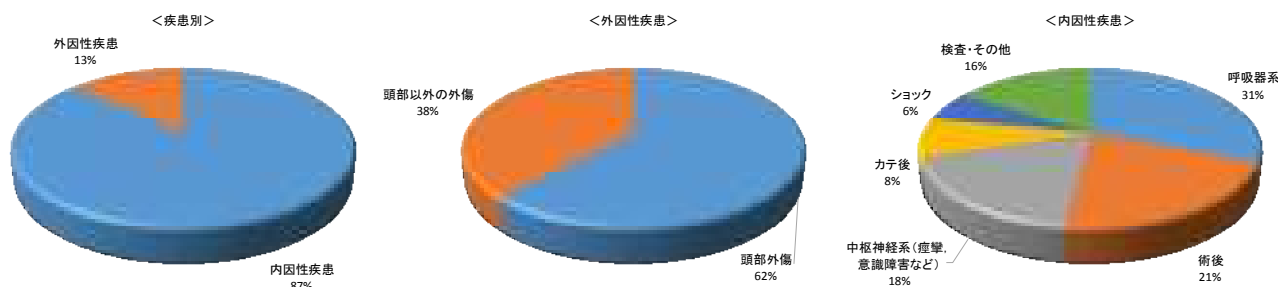


図. PICU 入室患者の疾患分類

表. PICU 入室者総数の推移

(単位:名)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
入室患者総数	390	352	329	411	419

2014年12月PICU開設

(単位:件)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
気管挿管(術後除く)	14	13	24	28	35	24	27	24
CRRT			1	1	3	5	1	1
PE			1	1	4	5	2	2
ECMO				1	2	3	1	0
脳保護				13	11	18	8	16
ICP			1	2	5	3	4	2

小児外科

■スタッフ紹介

2019年度は主任部長 津川二郎（日本小児外科学会指導医・専門医）、部長 西島栄治（日本小児外科学会指導医・専門医）、医長 久松千恵子（日本小児外科学会指導医・専門医）、医長 服部健吾（日本小児外科学会専門医）の4名のスタッフ及び専攻医 高成田祐希の5名体制で診療を行った。また初期研修医を受け入れ指導した。

■診療内容

日本小児外科学会認定施設であり、小児外科医療における高次医療機関として365日24時間患者を受け入れ、診療を行っている。診療内容は小児の胸部（肺・横隔膜・胸壁）や腹部（消化管・肝胆膵・腹壁）疾患、泌尿生殖器疾患、新生児外科疾患、気道外科疾患、固形腫瘍など多岐にわたり、その他外傷や異物誤嚥・誤飲などの救急疾患についても対応している。

外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午前診を、水曜日、木曜日、金曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている。金曜日の午前診では西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている。この外来では皮膚・排泄ケア認定看護師とともに習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている。病棟では毎朝8時からPICUでの小児科、小児脳神経外科、小児麻酔科との合同カンファレンスを行い、その後に小児センター、NICU、GCUの総回診を行っている。入院症例の定期手術日は月曜日、火曜日、木曜日、金曜日、日帰り手術を火曜日、木曜日、金曜日の午前に行っている。診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており、常時患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている。

■2019年度のトピックス・実績

表に2019年度の手術症例、新生児手術症例の内容を示す。総手術数及び新生児外科手術症例は僅かに増加した。鼠径ヘルニア根治術は106例で2018年度よりやや増加し、そのうち鏡視下手術は79例（75%）で前年度と比べ大幅に増えた。他の胸部・腹部疾患に対しても鏡視下手術や臍などを利用した傷跡が目立たない整容性を意識した手術

の導入に積極的に取り組み、患者の早期回復や疼痛の緩和に繋がっている。急性虫垂炎は全例腹腔鏡下手術を行った。新生児外科手術は24例で、2018年度より僅かに増加した。2019年からは小児泌尿器科疾患である膀胱尿管逆流症に対する外科的治療（内視鏡下 Deflux 注入療法、Cohen 手術）を開始した。Cohen 手術は従来開腹手術であったが、低侵襲手術として腹腔鏡下（気膀胱下）手術が開発され、当科でも導入した。また重症心身障害児（者）に対する医療にも取り組み、気管切開や胃瘻造設術、誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある。小児のみならず、2019年度は当院成人診療科からの紹介で成人4例に対して喉頭気管分離術を行い、いずれもQOLの向上に繋がった。

当科では開設当初から小児気道疾患に対する検査や治療に力を入れており他府県からの紹介も多い。近年では声門下腔狭窄症の難治症例に対する Partial Cricotracheal Resection (PCTR) 手術に組み込み、気管切開カニューレの抜管困難症の治療に成功している。2019年度は6例のPCTR手術を行い、治療中1例を除く5例でカニューレの抜管に成功した。

■今後の展望

当院は小児医療に強く、小児関連診療科（小児科、新生児科、小児集中治療科、小児外科、小児脳神経外科、小児麻酔科）や多職種がチーム一体となって治療に取り組んでいるのが強みだと思われる。小児医療の充実を院外にアピールして新生児・小児外科症例の増加に繋がりたい。手術症例については治療対象となるこどもの苦痛や負担の軽減を図るべく、今後も低侵襲手術や創部が目立たない術式の可能性を追究していきたい。小児気道疾患についても引き続き積極的に治療に取り組んでいく。特に声門下腔狭窄症に関しては治療のゴールである気管切開からの抜管を目指したい。

日本小児外科学会認定施設として豊富な症例を生かして小児外科専門医の育成に力を入れており、初期・後期研修医の研修や小児外科に興味がある医学生の見学を積極的に受け入れていく方針である。

表. 2019 年度手術症例

(単位:例)

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア, 弛緩症手術	2	2
膿胸手術	1	
気胸手術	3	
肺葉切除術	0	
気管形成術(喉頭気管形成術含む)	5	
動脈管開存症手術	8	5
漏斗胸手術	0	
喉頭気管分離術	7	
腕頭動脈離断術	0	
気管切開術	12	
食道閉鎖症根治術	1	1
気管食道瘻離断術	1	1
噴門形成術	12	
幽門筋切開術	3	
十二指腸閉鎖症手術	4	4
腸閉鎖症手術	1	1
腸回転異常症手術	3	2
新生児消化管穿孔, 壊死性腸炎手術	0	
イレウス手術	2	
メッケル憩室切除術	1	1
人工肛門造設術	3	2
胃・腸瘻造設術	11	1
胃瘻・腸瘻・人工肛門閉鎖術	5	
腸重積症(観血的整復)	1	
虫垂切除術	30	
Hirschsprung病根治術	1	
直腸生検術	2	
中間位・高位鎖肛手術	4	
低位鎖肛手術	1	
痔瘻・痔核手術	0	
胆道閉鎖症手術	0	
胆道拡張症手術	0	
鼠径ヘルニア手術	106	
卵巣捻転・卵巣腫瘍摘出手術	2	1
停留精巣手術	12	
精巣捻転手術	4	
包茎手術	1	
膀胱尿管逆流症手術	3	
尿管遺残症手術	4	
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術	4	3
臍ヘルニア手術	31	
梨状窩瘻手術	1	
リンパ管腫硬化療法	1	
副耳切除術	0	
耳前瘻孔摘出手術	2	
舌小帯切離手術	2	
気管支鏡検査, 処置	78	
消化管内視鏡(上部・下部)検査	9	
プロビアクカテーテル挿入・抜去術	5	
その他	39	
総症例数	428	24

I C U

■スタッフ紹介

部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），
日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，
日本外科学会外科専門医

■診療内容

毎日（土日祝日除く）：ICU 回診・カンファレンス

■2019 年度のトピックス・実績

毎朝 8 時半から医師（高岡院長・榎副院長・大北センター長も含め）・ナース・臨床工学技士・理学療法士・薬剤

師・栄養士・事務職員で回診を行い，患者の治療方針について検討を行っている。

現体制も 6 年目を迎え，“高槻病院の最後の砦” の役割も周知されてきたようである。今年度も産婦人科の妊婦高血圧の症例を数例ではあるが経験した。スタッフのモチベーションも高く，all for the patient を合言葉に日々研鑽している。

■今後の展望

スタッフ教育，特に日本集中治療学会総会への参加・発表，研修医・新人ナースの教育の充実を図りたい。

呼吸器外科

■スタッフ紹介

主任部長：椎名祥隆（1986年卒）

医員：西岡祐希（2014年卒）

■診療体制

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設

外来：月曜日（午後）椎名・西岡

水曜日（午前）椎名・西岡

手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い、緊急手術は随時行っている。

病棟：呼吸器外科病棟は7階南病棟で、症例によってはICUで術後管理を行った。

■2019年度のトピックス・実績

(1) 膿胸手術の改良：膿の塊である「醗膿膜」を除去するときに、醗膿膜を剥離切除するのではなくジェット洗浄器により高圧流水で除去することで肺の損傷を防ぎ（有癭性膿胸防止）、良好な結果が得られた。

(2) 心臓大血管浸潤の疑いがある肺悪性腫瘍の手術：以前は神戸大学病院に紹介していたが、心臓血管外科に大北先生が赴任されたので、このような症例は心臓血管外科の協力の下に全て当科で手術を行った。

(3) 神戸大学呼吸器外科の連携施設である住友病院や済生会中津病院の医師の手術応援が可能になった。これまで神戸大学医学部附属病院へ紹介していた重症な肺癌症例を当院で手術することができた。

その結果、肺悪性腫瘍の手術数は51例に増え、全手術数は97例に増加した。

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては、今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し、効率的で専門化された治療を行う。

■今後の展望

昨年も心疾患合併症例や呼吸機能低下を伴う肺癌手術症例が多い。高齢者症例には多くの併存疾患があるので、術前評価として「運動能力・PS」「呼吸機能」「心機能」「併存疾患の管理・治療」が引き続き重要と考えている。

・高齢者手術の基本方針

(1) 低侵襲手術

キズが小さな手術（胸腔鏡手術）と、症例に応じて肺切除量も少ない手術（縮小手術）を施行している。今後も肺悪性腫瘍手術のほとんどを完全胸腔鏡下手術で行う予定である。

(2) 包括的なりハビリ

肺切除後に呼吸機能は更に低下する上に、術前から併存疾患を有する症例が多いので外科手術のみでは良好な成績を出すことはできない。従って、呼吸器外科領域でも呼吸だけでなく包括的なりハビリが重要かつ有用である。低侵襲手術と優れたなりハビリを今年も行い、的確な術後評価を継続していく必要があると考えている。

(3) 心臓・大血管に浸潤する肺悪性腫瘍

前述のように今後も心臓血管外科の協力の下に当科で手術を行っていく。

表. 手術数

(単位:例)

疾患名	例数
肺悪性腫瘍手術	51 (肺癌50+転移性肺腫瘍1)
気胸	23
血胸	3
縦隔腫瘍	4
膿胸	7
気管支瘻	1
胸腔鏡下生検	4
試験開胸	1
その他	3
計	97

心臓血管外科

■スタッフ紹介

心臓大血管センター センター長：大北 裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member (1996-)，The European Association for Cardio - Thoracic Surgery: Member (1996-)，The International Society of Cardiovascular Surgery: Member(1994-)，American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery (2002-)，American Association for Thoracic Surgery: Member (1999-)，Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council (2011-)

主任部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

専攻医：川端 良

■診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など。

■2019年度のトピックス・実績

大北センター長のもとに日本全国から手術依頼も増加した。

特に大動脈弁の自己弁温存手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている。

大動脈手術依頼も多く，それに伴い大動脈ステントグラフトの症例数も増加した。

■今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい。

消化器外科

■スタッフ紹介

常務理事：家永徹也

主任部長：川崎健太郎

部長：岡崎太郎

医長：大和田善之，細野雅義

専攻医：田中聡志，岩瀬瀬怜奈

徳原佳織（2020年4月1日入職予定）

■診療体制

外来：一般外来は、月曜日から金曜日までの午前診として9時から12時まで、火曜日は午後診も行っている。専門外来として、火曜日から金曜日の午前ないしは午後に適宜ストーマ外来を行っている。

病棟：新館6階の24床が割り当てられている。毎朝8時40分から回診、火曜日の16時から全体回診を行っている。大手術や重症例は新館3階のICUで管理している。

手術：予定手術は月曜日から金曜日まで行っている。緊急手術に対しては24時間体制で対応している。

■2019年度のトピックス・実績

消化器悪性及び良性疾患に対する外科治療を主として担当している。手術件数は582件であった。

・腹腔鏡手術

腹腔鏡手術を積極的に導入し、食道、胃、大腸、胆嚢、虫垂、ヘルニア、腸閉塞、消化管バイパス術などにも行い、幅広く対応している。症例によっては更なる整容性を目指したReduced Ports Surgeryも取り入れている。腹腔鏡手術実施件数は、2015年度は約190件であったが、2019年度は約341件と飛躍的に増加している。

・消化管悪性疾患に対する治療

診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定している。手術は基本的に鏡視下手術を行っている。進行癌には術前や術後に化学療法を加えることにより生存率の向上を目指している。

食道癌には進行癌であっても、全例腹臥位鏡視下手術を行っている。積極的に三領域郭清の手術を行う。

胃癌は、早期癌はもとより進行癌に対しても腹腔鏡手術で対応している。幽門輪温存などの機能温存も行っている。

大腸癌も大部分を腹腔鏡手術で対応している。下部直腸

癌に対しては可能な限り肛門を温存するために、（場合により一時的回腸瘻造設）超低位前方切除術を、進行度を考慮して選択している。肝転移や肺転移に対しては、切除可能であれば切除を第一選択とし、切除できない場合には化学療法を行っている。

・肝胆膵悪性疾患に対する治療

肝癌、膵癌、及び胆道癌は悪性度が高く予後不良であるが、消化器内科や放射線診断科とも連携し、予後向上のために集学的治療を積極的に展開している。局所進行癌においても血管合併切除、他臓器合併切除を行って切除率を高めている。非切除例に対しては、基本的に放射線療法、化学療法を各科と連携して行い症状緩和に努めるが、腫瘍縮小が得られれば切除へのコンバージョンも検討している。

・良性疾患に対する治療

胆嚢結石症や急性胆嚢炎も腹腔鏡で全例行っている。炎症の軽いものにはReduced Ports Surgeryを導入している。

急性虫垂炎は基本的に腹腔鏡で対応している。虫垂周囲膿瘍形成を伴う急性虫垂炎に対しては、侵襲を減らすため待機的腹腔鏡下虫垂切除術（IA）を導入している。2019年度は急性虫垂炎の98%（65/66）を腹腔鏡で行った。

鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアも全麻可能症例には腹腔鏡で対応している。2019年度は鼠径ヘルニアの83%（101/122）を腹腔鏡で行った。

■今後の展望

・消化器外科診療のレベルアップ

地域医療支援病院、がん診療拠点病院の認定を受ける急性期病院では、救急診療、がん診療が消化器外科診療の2本柱となる。現在、高槻病院が三島医療圏救急医療の一翼を担っていることから、現在の緊急手術対応体制を維持しつつ、術後生存率や在宅復帰率の向上に努めていきたい。また、がん診療においては現在の消化器内科、放射線診断科、病理診断科との効率的な連携を維持しながら、治療方針の標準化と治療水準の向上をこれまで同様に目指していく。今後の外科診療は一層の高度な専門性と高い治療成績が求められることが予想され、高槻病院消化器外科は今後も三島医療圏での確固たる地位確立を目指す。

表. 手術実績

(単位:件)

臓器	疾患	術式	開腹	腹腔鏡下	小計
食道	食道癌・その他		0	1	1
胃	胃癌	幽門側胃切除術	10	26	36
		胃全摘術	2	0	2
		その他	0	1	1
	その他(GIST含む)	胃部分切除術	4	7	11
結腸	結腸癌		14	45	59
	その他		2	0	2
	虫垂炎		1	65	66
直腸	直腸癌		7	18	25
	その他		0	0	14
肛門	痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍		27	0	27
	その他		7	0	7
肝	原発性若しくは転移性肝癌		9	1	10
	肝嚢胞		0	3	3
胆嚢	胆石症, 総胆管結石		1	51	52
	胆嚢癌		6	0	6
胆管			0	0	0
膵臓	膵癌	膵頭十二指腸切除術	4	0	4
		膵体尾部切除	3	0	3
	その他		1	0	1
小腸	イレウス, 腫瘍他		5	12	17
その他	崬径/大腿ヘルニア		21	101	122
	腹壁癒痕/臍ヘルニア		2	10	12
	汎発性腹膜炎		5	0	5
	人工肛門造設術		11	0	11
	CVポート造設術		62	0	62
	その他		23	0	23
合 計			227	341	582

乳腺外科

■スタッフ紹介

常勤医：三成善光，家永徹也

非常勤医：下山京子，吉川勝広

■診療体制又は活動目標

週2日（月曜日/午前，火曜日/午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている。

週1回（木曜日午後）を乳腺生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている。

外来は常勤医による週4日・6コマの外来，非常勤医による週3日・3コマの外来を行っている。

■活動内容及びトピックス

当科では乳腺疾患全般に対して診療を行っており，乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療を行っている。近年，医療の質の向上，医療の均てん化が重要となっており，ガイドライン等を参考に，データ，エビデンスに基づく診療，標準的な診療を行うよう心掛けている。

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィ装置，乳房超音波検査，MRI や CT などの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，エコーガイド下 VAB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを駆使し，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までできるようにしている。また乳癌診療においては診断の段階で，腫瘍の状況（大きさ，リンパ節転移の有無），臨床病理学的な検索による癌の悪性度，性質（Intrinsic subtype）等を把握し，より有効な治療法を検討している。腫瘍の状況や患者の状況によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down staging を行ってから，根治手術に繋げるようにしている。手術については整容性，低侵襲性を考慮した乳房温存手術はもとより，cN0 症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，更に非浸潤癌症例に対してはセンチネルリンパ節生検そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている。昨年は全乳癌手術症例 96 例中，79 例にセンチネルリンパ節生検を行った。近年では乳癌の根治性のみならず，

整容性も重要となってきている。2013 年からは乳癌に対して，乳房全切除後にブレスト・インプラントを用いた乳房再建が保険診療の適応となっており，当科でも乳房切除が必要となる乳癌症例において，乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している（しかしながら，ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫（BIA-ALCL）が報告され，インプラントを用いた再建は，現在は一時中断している。）。さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えている。

術後の補助療法や，再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬等）が登場し，治療が多彩となるとともに，複雑となってきた。加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている。

乳癌診療においても多様化，複雑化する診療に対して，多職種の参画によるチーム医療が重要となってきている。当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳腺カンファレンスを行い，症例検討を行っている。近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められるようになっており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている。

■次年度方針・抱負又は将来展望

検診の普及や診断技術の向上による早期乳癌の増加などにより，乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者の QOL を重視した治療が求められるようになってきている。また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊孕性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮が必要になっている。

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子に関わる診療が重要性を増してくると考えられる。乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が

知られているが、2019年、当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設の施設認定を取得しており、今後、地域の遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療に貢献するべく、体制を整える。

地域連携はいよいよ重要性を増し、地域診療所と連携強化が必要になる。従来、乳癌患者に対して地域連携パスを用いて診療連携を行ってきたが、今後も引き続き、病院、診療所間の連続したきめの細かい診療を行えるよう取り組んでいく。

表. 乳腺外科手術件数

(単位:件)

術式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	60
	乳房切除術	36
	小計 (うちセンチネルリンパ節生検)	96 (79)
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	11
CVポート造設・抜去術		34
その他(リンパ節生検等)		3
手術合計		144

脳神経外科

■スタッフ紹介

前野和重
有田英之
藤永貴大
宇津木玲奈

■診療内容

外来 月曜日～金曜日・午前
 専門外来 水曜日・午後 脊椎脊髄専門外来
 木曜日・午前 脳血管内専門外来
 木曜日・午後 脳腫瘍専門外来
 検査 月曜日・木曜日
 手術 木曜日
 病棟 8階東病棟 SCU

■2019年度のトピックス・実績

2019年も引き続き後期研修医を受け入れることとなった。宇津木先生は小児脳外科を中心に臨床を行い、藤永先生が脳外科の中心的な後期研修医となった。病棟は活気があり気持ちも新たに治療に臨んでいる。若いメンバーが救急患者の対応を引き受けており、緊急症例に対しても積極

的に手術を行っている。手術は脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、水頭症など多岐にわたり、2019年度手術件数は140件であった。入院患者数や手術件数は前年から若干減少している。2019年9月から日本脳卒中学会から一次脳卒中センターに認定された。これを機会に脊椎脊髄、脳血管内、脳腫瘍の専門外来とSCU（脳卒中専門ケアセンター）を地域の人達へ更なるアピールをする時期になっているのかもしれない。

■今後の展望

現在、当科の臨床診療は安定期に入ったと思われる。更なる発展のために教育・研究に力を入れていきたい。研修医・看護師の教育を積極的に行い未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない。同時に学会発表、論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある。さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも、確実に診療実績を積み上げることが必要である。急性期病院としての生き残りをかけるため、これまで以上に積極的に脳卒中・頭部外傷などの脳外科救急に取り組み、地域医療の充実に貢献したい。今後も24時間体制での診察加療を継続して急性期高度専門病院として体制を整えていかねばならない。

表. 手術実績

(単位:件)

主な項目	手術数
脳腫瘍	8
開頭クリッピング術	4
脳血管内手術	8
ステント留置術	9
開頭血腫除去術	8
慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ術	46
総手術件数	140

小児脳神経外科

■スタッフ紹介

原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）

宇津木玲奈（2016年神戸大学医学部卒業）（2020年3月退職，脳神経外科と併任）

川本有輝（2017年大阪大学医学部卒業）（2020年4月着任予定，脳神経外科と併任）

■診療内容

脳神経外科の中で，子どもの中枢性疾患全てを取り扱う診療科であるが，日本で小児神経外科を標榜する医療機関は，子ども病院を除くとまだ数か所しかない．当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり，全国でもトップの周産期医療を担っている．そうした中，小児脳神経外科は2012年4月に開設され，2020年3月で丸8年経過した．北摂，京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく，臨床的・学術的な質の向上にも努めている．

■2019年度のトピックス・実績

開設当初より，小児頭部外傷の受け入れを小児科と連携して24時間体制で行ってきた．2014年にPICUが開設されたことにより，重症小児頭部外傷への対応も可能となった．2018年11月には小児救命救急センターの認定を受

けたため，頭部外傷が以前にもまして増加している．手術や低体温療法などの超急性期治療から亜急性期リハビリテーション，在宅復帰へとシームレスな対応を行っている．

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」は軌道に乗り，2020年3月現在までに293例の頭位性斜頭に対してヘルメット治療を行った．それに伴い，頭蓋変形を主訴とした頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例が増加しており，本年度は14例の手術加療を行った．頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には，顔面や手指の疾患を合併することが多いため，2016年10月より大阪医科大学形成外科 上田晃一教授，市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協力体制の下，治療にあたっている．

本年度は脳神経外科とともに，大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を2名受け入れ，指導を行った．

■今後の展望

前任の故山崎麻美先生がライフワークとされていた児童虐待，胎児診断については，どちらも医師の責任と裁量を問われる分野であるが，今後も小児科，新生児科，産婦人科と協力しながら，山崎先生の御遺志を継いで取り組んでいきたい．また，上述のヘルメットを頭蓋骨縫合早期癒合症の術後に応用する新しい治療法についても，更に症例を重ねていきたいと考えている．

表. 手術実績内訳

分類	疾患	術式	件数
先天性疾患	水頭症・くも膜嚢胞	シャント再建・抜去術	11
		脳室腹腔シャント術	11
		脳室ドレナージ術	6
		内視鏡手術	3
	二分脊椎・二分頭蓋	脊髄脂肪腫摘出術	5
		脊髄腫瘍修復術	3
		係留解除術	2
		先天性皮膚洞摘出術	1
		大孔減圧術	1
		脳瘤修復術	1
		その他	1
		頭蓋形成術	12
	頭蓋縫合早期癒合症	内視鏡下頭蓋開溝術	1
		骨延長術	1
骨延長器抜去術		1	
腫瘍	脳腫瘍	1	
	脊髄腫瘍	1	
	頭蓋骨腫瘍	1	
外傷	硬膜外血腫	開頭血腫除去術	3
	硬膜下血腫	硬膜下血腫ドレナージ術	3
		硬膜下腹腔シャント術	3
	陥没骨折	陥没骨折修復術	1
血管障害	脳動静脈奇形	動静脈奇形摘出術	1
		脳室ドレナージ術	1
	脳動静脈瘻	血管内手術	5
感染	モヤモヤ病	バイパス術	2
	脳膿瘍	脳膿瘍ドレナージ術	4
	硬膜外膿瘍	硬膜外膿瘍洗浄術	1
計			87

整形外科・関節センター

■スタッフ紹介

コンサルタント（スタッフ医師）4名

平中崇文（1988年卒主任部長）人工膝関節・関節鏡

岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科

藤代高明（1997年卒部長）人工股関節

田中聡一（2009年卒医員）膝関節鏡・スポーツ医学

（2020年4月より置村健二郎（2013年卒）着任予定）

レジデント（研修医）4名

安喰健祐（2013年卒）、長田尚介（2014年卒）、北澤大也（2015年卒）、琴浦健（2013年卒）が神戸大学卒業後研修として勤務した。

■診療内容

人工膝関節（関節センター）：総手術症例数は全国18位、部分人工関節手術症例数は全国2位であり、該当手術では常に国内トップクラスの症例数である。

人工股関節（関節センター）：年々手術症例数が増加している。簡易ナビゲーションを用いた手術を行っており先進的な医療に取り組んでいる。

脊椎外科：岡本医師着任以来、症例数は順調に増加している。ヘルニコアの導入も開始した。今後は施設認定を目指す。

・医工連携：スマートグラス等のITデバイスの導入を試みている。また兵庫県立大学と共同で手術介助システムを開発中である。

・再生医療（関節センター）：全国に先駆け脂肪組織由来再生細胞（ADRC）を用いた膝軟骨再生医療を行っている。2017年10月以来3月末までで63例に施行している。また、変形性股・足関節症、脊髄損傷にも認可が下りた。

■2019年度のトピックス・実績

・海外交流

外国人医師修練のプログラムに則り、1名のミャンマー人医師が3か月間研修を行った。そのほか、香港からの短期（1～4週）の短期研修生が研修した。また、国際医療センターの医療技術等海外展開推進事業に石井病院（群馬県）が参加して、9月にミャンマーの留学生を2名受け入れるとともに、11月と12月ミャンマーを訪れ、人工関節

及び外傷の手術指導を行った。また、第51回ミャンマー整形外科学会で招聘講演を行った。さらに、海外の医師向けの講演、ワークショップも国内外で行っている。

・学術活動

国内学会は合計31編、海外6編の発表を行った。海外での発表や講演が増加している。

近年は英文雑誌への投稿に主眼を置き、昨年1月から12月で英論文10編を達成した。今後は更にインパクトファクターの高い雑誌への掲載を目指す。

・総合内科との共同治療

昨年から大腿骨近位部骨折を総合内科主治医、整形外科執刀とお互いの特徴を生かした先進的な取り組みを行っているが、今年は対象疾患を脊椎圧迫骨折にも拡大して滞りなく経過している。

■今後の展望

・関節センター：Webを活用した適切なプロモーションを行うことで、症例数の増加を図る。

・脊椎外科：診療内容の更なる充実を目指して、技術習得の機会を作る。

・再生医療：症例数を更に増やすばかりでなく、海外からのインバウンドを狙う。対象疾患を変形性股関節症や変形性足関節症、脊髄損傷に拡大して症例を増やす。

・海外展開：国際医療センターの医療技術等海外展開事業にプロジェクトが採択されたがコロナウイルスの影響で本年は中止となった。しかしインターネットベースでのウェビナーを頻回に開催している。台湾及び香港ともウェビナーも6月以降開催する。順次タイのサミティベート病院、ベトナムの病院、香港大学、台湾の病院などとも交流を深め、技術指導の機会を増やす。

・医工連携

高槻病院開発の医療器具を上市する。兵庫県立大学や、各種企業とともに医療画像管理システムを開発する。

・学術活動

英語論文の執筆を更に推奨して、high impact factor journalへのpublishを目指す。特に研修医の英論文執筆を強く推奨する。

泌尿器科

■スタッフ紹介

- ・主任部長 右梅貴信
出身大学：大阪医科大学（1997年卒）
専門分野：泌尿器科一般・排尿機能
学会など：日本泌尿器科学会専門医・指導医
大阪医科大学泌尿器科臨床准教授
- ・専攻医 加納陽祐
出身大学：大阪医科大学（2015年卒）
- ・非常勤医師 濱田修史
- ・非常勤医師 小山耕平
- ・非常勤医師 枝川 右
- ・非常勤医師 反田直希

■診療内容

泌尿器科では、泌尿器科領域でのがん治療、尿路結石治療、排尿障害及び尿路感染の治療を行っている。外来診療はこれまでと同様、毎日（月～金曜日）診療を行い、予約

なしの患者も可能な限り対応している。入院診療はこれまでの手術症例に加え、大阪医科大学泌尿器科と連携を取り、同院で行っている膀胱癌に対する膀胱温存治療症例に対する内視鏡手術を積極的に行っている。

■2019年度のトピックス・実績

膀胱癌内視鏡手術症例数が300例を超え、大阪府下でも有数の症例数となった。

また、結石手術（体外衝撃波結石破砕、内視鏡下破砕）の症例数も200例を超えた。

■今後の展望

泌尿器科は常勤2名体制となり、これまで同様、外来・入院診療ともに患者のニーズに応えられるよう努める。特に尿路結石、前立腺がん患者の増加が顕著であり、患者の希望にあった治療が可能となるよう対応していきたい。

表. 診療実績

(単位：件)			
術式	件数	術式	件数
TU-Bt	315	前立腺生検	129
ESWL	129	腎瘻造設術	7
TUR-P	26	陰嚢水腫根治術	6
尿管皮膚瘻造設	1	尿管切石術	1
f-TUL	60	尿道腫瘍切除術	1
TUC	2	尿道狭窄拡張術	1
尿管ステント留置、抜去	312	腹腔鏡下副腎摘除術	1
TUL	25	膀胱瘻造設	3
精巣摘除	5	体腔鏡下腎摘除術	6

腎移植科

■スタッフ紹介

客野宮治:腎移植医, 1979年大阪大学医学部医学科卒業,
泌尿器科専門医, 同指導医, 日本移植学会移植
認定医, 日本臨床腎移植学会認定医

■診療内容

現在, 週5日1診の腎移植患者対象の外来診療を客野,
高原史郎(関西メディカル病院), 今村亮一(大阪大学),
阿部豊文(大阪大学)が行っている。

また, 腎移植患者の検査入院, 急性疾患発病時の入院治
療を担当している。

■2019年度のトピックス・実績

現在, 外来にてレシピエント191名とそのドナーの方
の腎機能維持並びに健康管理を担当している。

昨年度1年間で大阪大学泌尿器科より15名の移植後の
新患を受け入れた。

死亡された方は1名で, 透析再導入になった方は0名
であった。

残りの患者数の変化は転居・転院に伴うものである。

■今後の展望

当院での腎移植開始を目指している。

表. 腎移植科統計

(単位:件)

月平均外来数	228
年間入院数	76
年間手術件数	59

皮膚科

■スタッフ紹介

杉山茉莉子 2014 年卒
 菊澤亜夕子 2007 年卒
 瀬戸英伸 1984 年卒

■診療内容

【外来】

1 日平均外来患者数:55 人←55 人(2018)←58 人(2017)
 紹介患者数:680 人←761 人(2018)←594 人(2017)
 生物学的製剤導入:13 人(2019)
 アレルギー検査:55 件(2019)

【入院】

入院患者数:94 人←118 人(2018)←129 人(2017)
 病棟依頼:1019 件←863 件(2018)
 往診:402 件←240 件(2018)
 褥瘡回診:251 件/年(毎週月曜日)

【手術】

手術件数(手術室):161←222 件(2018)←224 件(2017)
 手術総件数(手術室+外来処置室):
 348 件←305(2018)←331 件(2017)
 悪性腫瘍摘出術:43 件←26 件(2018)←26 件(2017)
 有茎皮弁・植皮術:11 件←12 件(2018)←6 件(2017)
 全身麻酔:6 件←17 件(2018)←10 件(2017)

■2019 年度のトピックス・実績

年度の後半に入院患者数の落ち込みがあったが、その分他科入院患者の対応に貢献した。高齢者の悪性腫瘍が多い年であったが、そのほとんどが局所麻酔下でのシンプルな術式で対応でき、入院患者数の増加に繋げることはできなかった。2020 年より外用 JAK 阻害剤である、デルゴシチニブ軟膏がアトピー性皮膚炎の治療に使用できるようになり、アトピー性皮膚炎治療の幅を広げてくれるものと期待している。本年度より単価アップに繋がる生物学的製剤の導入数、パッチテスト・皮内テスト・誘発テストなどアレルギー検査の件数も集計した。

- ・入院患者内訳(表 1)
- ・皮膚科の手術(表 2)
- ・皮膚良性腫瘍(表 3)
- ・皮膚悪性腫瘍(表 4)

■今後の展望

まずは、新型コロナウイルスの影響で先延ばしにしていた、急を要さない手術・検査等を、第 2 波が来ていない間にこなし、少し制限をかけていた外来患者数を以前の状況に戻すことが、早急の課題と思っている。そして昨年同様入院患者の獲得に力を入れたい。

表 1. 入院患者内訳

(単位:人)

細菌感染症	
蜂窩織炎	23
丹毒	5
壊死性筋膜炎	4
ウイルス感染症	
帯状疱疹	30
水痘	0
カポジ水痘様発疹症	1
皮膚良性腫瘍	7
皮膚悪性腫瘍	4
中毒疹・薬疹	2
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	12
天疱瘡・類天疱瘡	1
湿疹皮膚炎	2
蕁麻疹・アナフィラキシー	0
結節性紅斑	1
血管炎	2
合計	94

表 2. 皮膚科の手術

(単位:件)

良性腫瘍摘出術	183
悪性腫瘍摘出術	43
皮膚生検術	101
有茎皮弁作成術	5
遊離植皮術	6
デブリードマン	4
フェノール法	5
その他	1
合計	348

表 3. 皮膚良性腫瘍

(単位:件)

母斑細胞性母斑など	33
類表皮嚢腫など	40
脂漏性角化症	36
線維腫など	23
皮膚付属器腫瘍	16
脂肪腫など	13
血管腫など	2
日光角化症	8
尋常性疣贅	7
その他	5
合計	183

表 4. 皮膚悪性腫瘍

(単位:件)

基底細胞癌	19
有棘細胞癌	18
ボーエン病	5
バジレット病	0
脂腺癌	1
合計	43

形成外科

■スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史

朝井まどか

東野えりか（2020年4月1日入職予定）

■診療内容

常勤医2名で診察を行っている。外来は、月・火・木・金曜日の午前中、水曜日は午後に初診を受け入れている。手術は、月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの、水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の実績を表1、2に示す。また、日本形成外科学会教育関連施設に認定されている。

■今後の展望

従前通り、適切な形成外科的な治療や手術を提供し、必要に応じて関連施設との連携をとり、良好な協力体制を維持していく。

表1. 形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	751名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	71件
形成外科入院患者数(重複入院は除く)	122名			腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	73件
			外来手術	全身麻酔	0件
				腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	194件

*その他:無麻酔や分類不明

表2. 手術内容区分

(単位:件)

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	22		10			91	123
先天異常	16		2			6	24
腫瘍	23		41			86	150
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2		1			3	6
難治性潰瘍	6		15			6	27
炎症・変性疾患	0		0			0	0
美容(手術)	0		0			0	0
その他	2		4			2	8
Extra レーザー治療	0		0			0	0
大分類計	71	0	73	0	0	194	338

産科

■スタッフ紹介

小辻文和	：1971年卒	部長
大石哲也	：1983年卒	主任部長
中後 聡	：1988年卒	総合周産期母子医療センター長
加藤大樹	：2005年卒	医長
徳田妃里	：2007年卒	医長
柴田貴司	：2007年卒	医長
細野佐代子	：2008年卒	医員
小寺知揮	：2010年卒	医員
西川茂樹	：2011年卒	医員
福岡泰教	：2012年卒	医員
飯塚徳昭	：2013年卒	医員
菅田佳奈	：2014年卒	医員

産婦人科のスタッフは以上12名であった。

■診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計60床で、OGCS基幹病院、大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である。通常の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行い、緊急時は病院到着後20分以内に児を出産できる。外来は専門外来制とし、業務を効率化して午前3診、午後2診体制に変更した。病棟はチーム診療制を採用し、円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している。

■2019年度のトピックス・実績

分娩総数は減少傾向であるが、本年も緊急母体搬送は247件を受け入れ、大阪府内で1位であった。一方、近隣施設へのback transferは79件で、周囲の医療施設からの信頼に応えることができた。

入院患者のリスクは、医学的にも社会的にも高まる一方で、院内他部署の協力を得て対応した。

昨年度に引き続き、業務の効率化を進めており、産科当直は翌朝から、MFICU当直は午後から帰宅することを実現した。

2020年度から千船病院所属の専攻医が当院で研修を行っており、活躍が期待される。千船病院関係者のご尽力に、スタッフ一同、深く感謝している。

■今後の展望

働き方改革に対応するため、今後も業務の効率化を図り、2名の当直医が翌朝に帰宅できる体制の確立を目指す。COVID-19感染拡大への対応など、社会は大きく変化している。その要求に柔軟に対応できるように、謙虚かつ柔軟な姿勢を持ちつつ、法人間の他施設とも交流しながら、今後の発展を目指したい。

表. 実績

項目	件数
分娩件数(母の数. 死産を含む)	1,139
帝王切開数(帝王切開率 40.4%)	461
緊急帝王切開	243
腹膜外帝王切開	57
子宮底部横切開	14
妊娠子宮全摘数(産褥期を含む)	2
子宮頸管縫縮術数	58
緊急母体搬送数	247
Back transfer症例数	79
妊娠28週未満の早産	19
胎児異常	50
FGR	71
多胎	55
切迫早産	235
前置胎盤	16
常位胎盤早期剥離	7
妊娠高血圧症候群	77
糖尿病合併妊娠(妊娠糖尿病含む)	86

婦 人 科

■スタッフ紹介

産科とは区別せず前半は11名、後半は千船病院、滋賀医科大学からの後期研修医の派遣により13名で業務にあたった。

■診療内容とトピックス・実績

- ①手術数は横ばい。
- ②産科母体搬送の増加に伴い、婦人科症例も重症例や手術困難例が増加している。悪性腫瘍では高齢化と重症化により広範子宮全摘手術例が減少し、放射線治療例が増えている。

表 1. 良性疾患手術

(単位:件)

	2016年	2017年	2018年	2019年
腹式単純子宮全摘術	57	53	53	64
開腹子宮筋腫核出術	17	18	21	11
開腹良性卵巣腫瘍手術	6	22	26	17
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	7	7	7	8
骨盤臓器脱手術	64	56	50	40
腹腔鏡手術	128	98	104	96
TCR	13	20	15	23
その他	8	7	6	6
計	300	281	282	265

表 2. 内視鏡手術

(単位:件)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	
腹腔鏡	卵巣腫瘍手術	57	83	65	64	41
	子宮筋腫核出術	2	3	3	2	1
	子宮外妊娠	11	19	10	15	15
	TLH	14	23	20	23	39
TCR	13	13	20	15	23	

表 3. 悪性腫瘍関連手術

(単位:件)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮腔部円錐切除 (LEEP)	42	44	32	38	26
子宮頸がん手術	6	8	6	6	6
子宮体がん手術	9	12	13	16	18
卵巣がん手術	25	16	14	21	25
その他	2	2	2	2	1
計	84	82	67	83	76

■今後の展望

腹腔鏡専門医取得が喫緊の課題である。

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし、腔式手術を増やし、腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより、手術数の回復を目指す。

婦人科腫瘍専門医 (現在1名)、細胞診専門医 (3名)、がん治療認定医 (5名) 取得を継続する。

表 4. 婦人科悪性腫瘍

(単位:件)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
子宮頸癌CIN-3	39	35	27	43	25
I A期	2	6	9	5	3
I B期	2	3	5	2	0
II A期	0	1	1	1	2
II B期	0	0	1	1	1
III A期	0	0	0	0	0
III B期	0	0	1	1	4
IV A期	2	0	0	0	1
IV B期	0	0	1	1	0
計	45	45	45	54	36
子宮体癌AEH	0	1	0	2	1
I A期	4	2	6	5	8
I B期	1	3	2	4	7
II 期	1	3	0	2	2
III A期	0	1	2	4	2
III B期	1	0	0	1	0
III C期	2	0	2	1	0
IV A期	0	0	0	0	0
IV B期	2	3	1	2	0
計	11	13	13	21	20
卵巣癌 I A期	12	5	5	3	9
I B期	0	1	0	0	0
I C期	1	1	4	3	4
II A期	0	0	0	1	0
II B期	1	1	0	3	0
III A期	2	1	0	0	1
III B期	0	3	1	0	1
III C期	5	2	5	7	7
IV 期	3	2	5	3	4
計	24	16	20	20	26

眼 科

■スタッフ紹介

医師：清水一弘・宮本麻起子・奥田吉隆

許勢文誠・丸山会里

ORT：中内・嶋本・大森

検査員：山本

看護師：松原・吉川・藤野

小児外来：渡邊浩子

■診療内容

一般外来：月～金曜日

小児外来：木曜日午後

検査：月～金曜日午後

手術：月曜日午前・火曜日終日・木曜日終日

■2019年度のトピックス・実績

2019年4月 奥田吉隆医師赴任

2019年4月 大森視能訓練士赴任

最新式のオートレフケラトメーターが導入された。

■今後の展望

新たに奥田吉隆医師が赴任し眼科手術件数が飛躍的に増加した。尼崎総合医療センターで研鑽され、白内障手術のみならず、近年当院では僅かしかできなかった硝子体手術を専門とされ、その技量を遺憾なく発揮されている。今後は長期にわたり眼科は飛躍できると思われる。次年度も眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている。個々の手術件数は増加しているため、手術件数もいずれ1,000件を超えるものと思われる。白内障手術用機器はセンチリオン、手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きの最新型が入り、乱視矯正の精度も上がり、北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため、高槻病院で行われている白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい。2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術

でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行っている。さらにフェムトセカンドレーザー白内障手術システムが導入され5年が経過したが、確実に件数は増加している。フェムトセカンドレーザーは大阪府下で6施設あるが、手術用顕微鏡や周辺機器と連動したシステムとしては日本初導入である。今後はホームページの充実、パンフレットの作成、説明会などで手術件数増加に取り組みたい。

近年、斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある。当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療にあたっており、3名の国家資格を持った視能訓練士とともに診療の充実を図っている。

最近では地域に硝子体手術ができる施設が減少しているのが現状だが、当院ではコンステレーションとリサイト付キルメラ手術用顕微鏡などの充実した設備で手術を行っている。経験豊富な硝子体術者が赴任し、更に増加するものと思われる。

大学病院にもないような機器が導入され、眼科地域医療をリードし、貢献できる眼科を目指している。

表. 診療実績（2019年4月～2020年3月）

		(単位:件)
項目名		件数
外来総数	一般外来	12,981
検査総数	蛍光造影検査	29
	視野	630
	光干渉断層計	3,449
手術総数	白内障手術	897
	ECCE	1
	強膜内固定	8
	緑内障手術	2
	麦粒腫切開術	2
	霰粒腫切除術	2
	翼状片切除術	14
	腫瘍切除術	2
	斜視手術	0
	内反症手術	0
	眼瞼下垂	8
	硝子体切除術	28
	ケナコルトテノン嚢下注射	30
	硝子体注射	105
	YAGレーザー後嚢切開術	63
	部分・汎網膜光凝固術	114
未熟児網膜症光凝固術	2	

耳鼻いんこう科

■スタッフ紹介

常勤医 星島秀昭
非常勤医 愛宕利英
服部康人
荒木南都子

■診療内容

昨年同様常勤医師 1 名と大阪医科大学耳鼻咽喉科からの応援医師 1 名，大学医局出身者 2 名の応援医師とともに外来診療を実施している。外来診療については，月曜日は原則初診患者のみの 1 診体制，火曜日と木曜日は非常勤医師とともに，2 診体制で外来患者，病棟診療に対応している。木曜日は第 1，3，5 週を服部医師，第 2，4 週を愛宕医師の交代で診療に対応している。火曜日は昨年を引き続き大阪医科大学附属病院より荒木医師が 2 診を担当している。水曜日は手術日となっており，午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査，火，木，金曜日はエコーガイド下の細胞診検査，内視鏡下生検，ABR，OAE など特殊聴覚機能検査及び術後処置などを行っている。入院については，コントロールを要する高血圧や糖尿病などの合併症を有する突発性難聴や顔面神経麻痺症例や，扁桃炎，扁桃周囲膿瘍などの急性上気道感染症患者の治療を行っている。

■2019 年度のトピックス・実績

以前より末梢性顔面神経麻痺の発症は，季節性にまとまって発症しやすいというのは通説となっているものの，昨年度は特に症例数が多い印象であった。また当科初診で未治療の高血圧や糖尿病の判明する症例が例年に比べ多くなっており，予期せぬ合併症予防のために，今後も未健診や内科未受診の症例には，より注意深く診療に対応する必要があると考えられた。

■今後の展望

COVID の流行により，病院での診療に大きな支障が出ている昨今であるが，当科も例外でなく，外来診療及び手術等に多大な影響が出ている。しかしながら，院外の周囲に大阪医科大学出身の先生が多く開業していることもあり，被紹介，逆紹介の症例数が比較的良好に推移しており，この現状を更に維持しつつ，症例数の増加に努めていきたい。

放射線診断科（診療部）

■スタッフ紹介

主任部長 清水雅史

部長 横川修作

主任部長 高橋 哲（イメージングリサーチセンター）

医員 中森美和

医員 松田耕平

非常勤医師 4名

■診療体制

2019年は、清水雅史主任部長、横川修作部長、中森美和医員、松田耕平医員、非常勤医師4名（神戸大学放射線科1名、大阪医科大学放射線科3名）の診療体制であった。

■活動内容

CT・MRIの件数と内訳、血管造影・IVR件数と内訳は

表1. 診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	読影	読影/ 血管造影	読影/ 血管造影	読影	読影	休診
午後	読影	読影	読影	読影	読影	読影

それぞれ表の如くである。

CTの検査件数、MRI件数は順調に増加している。

血管造影・IVR件数はほぼ同様である。

■次年度方針・抱負又は将来展望

CTは320列 Aquilion ONE と 64列マルチスライス CT2台と16列治療用CTの4台体制で、特に心臓CTの件数は増加している。

MRIはSiemens社製3TMRI Skyraと1.5TMRI Aeraの2台体制で、心臓MRIの撮像も試みている。

腹部血管造影は、CT-like imageを用いて高精度の塞栓術を施行している。

今後とも、病診連携を強化し、地域の画像センター、放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない。

表2. 血管造影・IVR内訳

(単位:件)

部位		IVR	合計
肝	肝癌	38(TAE)	38
		3(動注)	3
胃	胃静脈瘤	1(BRTO)	1
十二指腸	動脈瘤		1
子宮	産褥出血	2(TAE)	2
総計			45

表3. CT・MRI検査件数

(単位:件)

撮影区分 CT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
頭部系	406	384	373	414	381	428	416	449	465	413	420	377
頸部系	10	8	4	9	9	18	16	8	15	9	5	7
胸部系	423	393	407	443	448	383	449	440	391	407	366	406
腹部系	358	343	315	390	339	343	358	359	375	363	312	328
骨盤系	60	69	48	57	50	73	68	60	68	68	63	61
脊椎系	23	22	16	28	22	17	19	27	20	28	18	21
上肢系	71	76	87	105	89	83	99	57	66	78	99	103
下肢系	49	52	43	67	60	50	48	52	57	69	50	52
広範囲	576	593	552	587	568	601	591	596	644	541	541	579
計	1,976	1,940	1,845	2,100	1,966	1,963	2,074	2,043	2,053	2,079	1,874	1,934
合計	23,847											

(単位:件)

撮影区分 MRI	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
頭部系	425	433	403	471	450	413	449	451	423	420	387	418
頸部系	3	1	3	8	2	5	4	1	3	2	4	2
胸部系	18	18	23	29	18	29	25	17	22	21	21	19
腹部系	90	82	71	89	84	90	83	73	83	79	78	89
骨盤系	111	97	113	109	119	92	109	119	129	111	89	113
脊椎系	145	139	156	150	165	122	134	123	148	113	121	135
上肢系	19	14	17	27	14	10	17	12	10	10	9	16
下肢系	56	73	72	66	70	51	60	58	49	61	57	67
広範囲	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	867	857	858	950	922	812	881	854	867	817	766	860
合計	10,311											

放射線治療科（診療部）

■診療体制

2018年4月より非常勤医による診療体制となっている。

月曜日と金曜日に診療日を設け、神戸大学医学部附属病院放射線腫瘍科の医師2名が治療患者の外来診察と治療計画にあたっている。

2019年2月より常勤医が着任したため、一部の高精度放射線治療を再開した。

■2019年度の実績

2019年度の実績は表を参照されたい。

新患者数は増加したが、治療部位数と照射件数は回復に至らなかった。照射回数の多い前立腺照射の件数が少なかったためと思われる。

■今後の展望

常勤医が着任したことによりコンサルテーションから治療開始までの日数を昨年より短縮していく。また、現場の放射線治療担当技師とも協力し強度変調放射線治療の早期再開を目指していきたい。

表. 治療内訳

(単位:人・件)

件数	2017年度	2018年度	2019年度
新患者数 (人)	133	108	149
放射線治療部位数 (件)	182	139	192
総照射件数 (件)	3,975	2,440	3,529

新患原発部位別患者数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度
脳・脊髄	1	3	3
頭頸部	0	0	1
肺・気管・縦隔	33	27	49
食道	7	3	4
胃・十二指腸・小腸	1	3	0
大腸・直腸・肛門	5	5	4
肝・胆・膵	1	1	4
乳腺	49	51	68
泌尿器(含 前立腺)	25	5	4
子宮	8	9	12
その他女性生殖器	2	0	0
骨・軟部腫瘍	0	0	0
悪性リンパ腫	0	1	0
その他造血器	0	0	0
原発不明癌	1	0	0
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	0	0	0
計	133	108	149

麻 酔 科

■スタッフ紹介

主任部長	中島正順
部長	土居ゆみ
理事長	内藤嘉之
医長	西田隆也
医長	田原慎太郎
医員	棚田和子
医員	原田みどり
医員	齊藤健一

6月に原田みどり医師が異動となり、7月から丸山祐子医師、中山莉子医師が入職した。

■診療内容

手術室及び手術室外で全身麻酔管理症例を担当。それ以外に、リスクの高い患者の区域麻酔、局所麻酔管理を担当した。麻酔科術前外来を、水曜日、木曜日、金曜日の午前中に行った。

ICU 患者に対して、担当科と協力して管理を行った。

■2019 年度のトピックス・実績

麻酔科管理症例が 2,817 例から 3,087 例に増加。手術部位別でも全体的に症例数が増加した。

4月に集中治療専門医を取得した田原医師が、宇仁田医師の退職に伴い ICU 管理を担当。

2020 年になり、日本で COVID-19 患者が確認されるようになったが、手術件数に大きな影響はなかった。

■今後の展望

4月から、主任部長として中島正順医師にかわり、西田隆也医師が就任予定。同月、小児周術期センターの立ち上げとなり、センター長として土居ゆみ医師が就任予定である。

4月より、麻酔科管理症例に限定して ERAS (Enhanced Recovery After Surgery) を開始する。

COVID-19 感染拡大の影響が当院にも現れ、COVID-19 感染疑い患者の挿管に対するプロトコール作成に協力し、陽性及び疑い患者の挿管を担当することとなった。また、手術室での COVID-19 感染対策、術前検査の適応見直しに協力した。今後も引き続き、院内の感染対策に協力する。

前年度より麻酔科常勤医師が減少となったが、COVID-19 の影響による手術件数の減少があり、5月末時点で麻酔科運営に大きな影響はない。ただし、感染が落ち着くにつれて手術件数が増加すると思われ、それまでに運営の安定化、医師・関係スタッフの教育を図る必要がある。

一方で、心臓血管麻酔専門医認定関連施設の資格が終了する。また、田原医師の退職に伴い ICU 管理領域への協力が減少する。今後は、集中治療を含む麻酔領域の専門医医師育成に尽力する。

また、昨年に続き、周術期看護師の育成、地域連携に協力する。

表 1. 麻酔方法別

項目	(単位:例) 症例数
全身麻酔(吸入)	1,016
全身麻酔(TIVA)	276
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	1,159
全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	409
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	95
硬膜外麻酔	0
脊髄くも膜下麻酔	108
伝達麻酔	1
その他	23
計	3,087

表 2. 年齢別

項目	(単位:例) 症例数
～1か月	37
2か月～12か月	111
1歳1か月～5歳	211
6歳～19歳	249
20歳～64歳	1,115
65歳～84歳	1,201
85歳～	163
計	3,087

表 3. 手術部位別

項目	(単位:例) 症例数
開頭	129
開胸	116
心臓・大血管	212
開胸+開腹	9
開腹(除:帝王切開)	791
帝王切開	140
頭頸部・咽喉頭	123
胸壁・腹壁・会陰	405
脊椎	108
四肢(含:末梢血管)	899
その他	155
計	3,087

リハビリテーション科（診療部）

■スタッフ紹介

樺 篤（けやき あつし）

1979年 名古屋大学医学部卒

1986年 京都大学医学部大学院卒

京都大学医学博士

副院長，技術部長，リハビリテーションセンター長

日本リハビリテーション医学会 代議員

日本リハビリテーション医学会近畿地方会 幹事

リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医

日本脳神経外科学会 近畿地方会評議員

脳神経外科専門医

日本認知症学会 代議員

認知症専門医・指導医

認知症サポート医

日本脳神経外科認知症学会 理事・総務委員長

関西脳神経外科認知症研究会 副代表世話人

摂食嚥下リハビリテーション認定士

心臓リハビリテーション指導士

初級・呼吸ケアリハビリテーション指導士

日本医師会認定産業医・健康スポーツ医

■診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく、隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟，障害児（者）病棟，在宅部門，しんあいクリニックと密接な連携を取り，新生児から高齢者まで，急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている。

脳卒中をはじめとする脳神経疾患等のリハビリテーション，整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを，また循環器内科や心臓血管外科，呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患，呼吸器リハビリテーションを行っている。また2012年秋から“がん患者リハビリテーション料”も算定実施できるようになった。大阪府のがん診療連携拠点病院として，がん患者に外科手術前後のみでなく，化学療法や放射線治療中も機能障害，能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している。

2020年4月現在，PT7名，OT5名，ST4名の計16名の療法士が“がんリハビリテーション研修”を受け，がんリハビリテーション料を算定できる体制が整っている。

■活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み，入院直後の絶食期間中から鼻咽頭ファイバーを駆使してベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士，看護師と嚥下機能の初期評価を行い，栄養提供方法を検討し，かつ間接嚥下機能訓練を開始している。頸部嚥下関連筋への電気刺激装置も導入された。認知症に対してはリハビリテーションの視点から“初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている。リハビリテーション科医師が診察を行い，リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）が神経心理検査のみでなく基本運動能力や簡単な嚥下機能評価も同時に行う。これは認知症が高齢者の抱えるロコモ，サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある。運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する。また認知症の進行に伴い運動機能が低下し転倒の危険性が高まり，嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る。それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより，国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている。

摂食嚥下支援チームを結成し，ST，OT，PTなどリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士，薬剤師も加わり，カンファレンスとベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行い，昼食時には食形態から食事姿勢を含めた環境，そして摂食嚥下状況をリハビリスタッフと管理栄養士を交えてラウンドするランチ（ミール）ラウンドも行っている。2019年12月からは歯科衛生士も加わり口腔機能のチェック，ケアも可能となった。“いつまでも口から食べる楽しみをあきらめない”をモットーに夢のある摂食嚥下支援を行っていきたい。

■2019年度のトピックス・実績

リハビリテーションセンターは2017年5月のⅡ期棟オープンに伴い新病院3階に移転した。治療室床面積は若干狭くなったが、心肺運動負荷検査装置（CPX）が検査室からリハビリテーションセンターの心臓リハビリエリアに移動となり、検査技師とPTが協力して評価に参加できるようになった。現在、理学療法士2名、医師1名が心臓リハビリテーション指導士の資格を有し、質の高い急性期心臓リハビリテーションを提供している。また嚥下関連筋刺激装置 VitalStim と干渉波による刺激装置 GentleStim を使用し、従来の頸部、顔面、舌や喉頭の運動訓練と併用した効果的な嚥下リハビリテーションを展開している。ロボットスーツ HAL も導入され、脳卒中後の上肢麻痺や人工膝関節置換術後患者に対し効果的なりリハビリテーションも行えるようになった。

実績は技術部リハビリテーション科を参照。

■今後の展望

在院日数が短縮する中で急性期病院に特化した効率的かつ質の高いリハビリテーションをこれからも実施していきたい。

看護部

■スタッフ紹介

1. 職員数（平均年齢）

部長・副部長・科長	28人（44.7歳）
主任	23人（42.1歳）
副主任	21人（37.0歳）
看護師スタッフ	537人（30.3歳）
看護助手	51人（49.8歳）
合計	660人（32.7歳）

2. 勤務状況

1) 長期休暇者（前年比）

産休者：42人（87.5%）・育休者：63人（110%）
介護休暇者：1人（100%）・休職者：3人（50%）

2) 有給休暇取得状況：12日（前年度10.8日）

3) 全体離職率：7.9%（前年度9.2%）

新人離職率：3.5%（前年度8.4%）・中途退職者：2人

■業務内容

【2019年 看護部運営目標】

- 急性期機能の質を担保できる看護実践能力の向上
- 役割が発揮できる人材活用
- 看護データとICTを活用した経営参画
- 働きやすく、やりがいを感じる職場環境の整備

【主な実施内容】

- 総合救急医療センターが開設に伴い、救急室・手術室・集中治療室が協働し体制を整えた。ハイリスクな妊産婦、新生児に対しての速やかな対応が求められている中、グレードA（産科超緊急対応システム）発令2件をスムーズに対応した。
- 専門看護師3名・認定看護師18名・特定行為研修修了者（11区分）も9名と増加した。看護管理者の研修会を行いマネジメント力強化へ繋げた。
- 前年度と同様、DPCⅡ期以内での退院患者の割合は平均70%を維持できた。重症度、医療・看護必要度は、委員会を立ち上げ、看護必要度精度向上に向け取り組んだ。
- 適正な労働時間管理が必須であり、時間外命令簿の変

表 1. 活動状況

	平均在院 日数	病床 利用率	在宅 復帰率	分娩件数 (前年比)	手術件数 (前年比)	救急件数 (前年比)
2019年度平均	9.9日	88.6%	96%	1,157件 (93.7%)	6,025件 (103.8%)	8,300件 (107.8%)

表 2. 褥瘡発生数比較

	年平均	年間発生件数
2017年度	0.41%	41件
2018年度	0.47%	30件
2019年度	0.36%	22件

更に伴い、事前命令の確実な実施と職員満足に繋がる有給休暇消化のため有給休暇管理簿を導入し、見える化を行った。

■2019年度のトピックス・実績

- 近畿厚生局による適時調査が実施された。32の基本診療科と88の特掲診療科を届けており、各部門が協力し準備、対応できた。
- 多剤耐性アシネトバクター初検出、アウトブレイクなく対応した。
- CLoCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ認証のための研修会開催、近畿圏内から105名参加、NICU看護セミナーには全国から100名参加。
- タイ・ベトナム・ミャンマーとの人事交流、研修受け入れなど国際交流の充実。
- JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）受審。2020年2月17日～18日訪問審査が行われた。
- BCP（BusinessContinuityPlan：事業継続計画）の策定。当院における災害発生時及びそれに備えた平時の具体的な行動計画として、当院の「事業継続計画」を診療部・看護部・事務部・技術部が連携し策定した。

■今後の展望

当院には、地域医療支援病院、社会医療法人として責任ある対応が求められている。今後、総合救急医療センターとして小児・妊産婦を含め1万件近い救急搬送を受け入れていくことが予想される。そのため、質を担保できる看護実践力の強化と、柔軟に受け入れを行っていく体制を整備することが課題である。引き続き、タイサミティベート病院との医療連携や、ベトナムドンア大学との事業提携による医療現場でのインターンシップ受け入れ体制を整えていくことが必要となる。重症度、医療・看護必要度は精度向上に取り組みつつ安定維持を目指す。災害対策において、BCPが策定された。今後、職員への周知と、災害時訓練により見直しを行い、災害に対する備えを充実させていく。

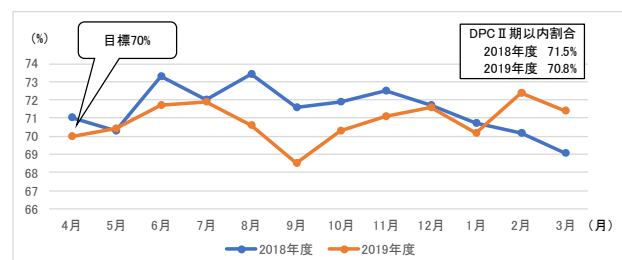


図. 活動実績：全患者 DPCⅡ 期間内退院割合

薬 剤 科

■スタッフ紹介

技術部 副部長/薬剤科 科長：岩城晶文
主任：川村めぐみ、手島慶子、中村直美、川畑大輔
副主任：北村史恵、高松祐子、長澤祥子
高谷陽子、矢敷祐子、西浦味波、矢野沙幸、澤田憲明、
吉田麻希子、谷生千尋、西居祐美、三宅永華、和下田真美、
奥村理紗、三宅沙央莉、奥村暢子、信太恵理菜、藤谷 彩、
川端美穂、徳永由紀、香川彩奈、古杉夕歌、藤田洋子、
足立文香、北野恵莉華、中村 光、今西絢子、梶川菜津子、
川西綾菜、須賀原知世、(助手) 佐伯真也子

■業務内容

業務として、医薬品情報管理、入院・外来患者の処方対応・薬剤管理、時間外業務に対応する勤務体制を維持している。患者への積極的な関与が求められ、カンファレンスへの参加を増やし、病棟薬剤業務実施体制(薬剤管理指導業務を含む)、各チーム医療への参画を実施している。調剤・監査業務、注射剤の払出し、TPN・抗がん剤の混合調製、院内製剤、在庫管理、DI (DrugInformation) 業務、治験薬管理、学生実習の受け入れも継続して積極的に行っている。

【電子カルテ等 薬剤マスタ管理】

マスタ更新作業は、薬剤の投与期間を制限するなど、システムの基本であり、マスタ管理の重要性は増している。後発医薬品の採用、限定薬品の増加、臨時採用の頻度が増えている現状もあり、多くの時間を費やしている。

【薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務】

薬剤師の病棟配置体制を維持することで、継続して加算を算定している。重症系病棟への担当者を配置、カンファレンスへの参加も定着し薬剤師の仕事が増えている。持参薬鑑別・報告、定期指導、手術や抗がん剤治療に応じた臨時指導、点滴の配合変化の確認、退院時指導を行い、安全な薬物治療を推進することを目指している。外来患者への入院前の中止薬確認と連携した業務を行うことで効率の良い運用を行えるように努力している。

【チーム医療】

専任者を配置することでチームと病棟薬剤師の連携を図っている。
(感染対策) 2人体制をとった。抗生物質の投与日数管理、

抗 MRSA 薬の投与スケジュール管理, TDM 実施・精査。院内・院外ラウンドへ参加, 予防接種事業, 感染対策薬剤師部会の講習会開催など積極的に協力している。

(緩和ケア) (NST) カンファレンスへの参加と病棟担当者の橋渡しを行い, 有益な薬物治療の提案を実施している。

【後発医薬品対策】

後発医薬品の採用薬品・使用量が継続して増加している。高額薬剤の後発医薬品やバイオシミラーへの対応は課題である。薬剤購入費用の点からも継続していく必要があり, 各科・診療科の協力の下, 大きなトラブルがないよう推進している。今年度の取り組みの結果, 加算区分を上げることができた。

【在庫管理】

月末棚卸を実施し, 高額薬品の差異調査を行っている。後発医薬品へスムーズな切り替えのためにも適切在庫に努めている。採用薬品の見直しを提案できるように在庫量の確認を実施し, 棚の配置などを適宜見直している。採用薬剤の共通化・情報共有, 在庫管理の調整を実施し患者移動に伴う薬剤不足・不良在庫の発生を防止している。

■2019年度の特ピックス・実績

薬剤管理指導は, 昨年度の実績を維持している。調剤数・注射箋枚数は昨年度も同程度である。後発医薬品の使用率は高水準を維持している。術前中止薬について患者対応を行うことで, 中止薬による手術延期事例の削減に取り組んでいるが, まだ十分と言えず改良の余地がある。病棟での薬剤師活動が充実することで処方の適正化が進む。業務時間を有効に使う工夫を継続し, 働き方改革, 残業削減を実施する必要がある。

■今後の展望

薬剤業務実施体制加算を算定し病棟活動を活発にするため, 更なる薬剤師の人員確保, 教育体制整備, 資質向上を重要項目として取り組む必要がある。また, チーム医療への貢献に繋がる認定薬剤師の養成も継続した課題である。地域連携・協力関係の構築が課題であることから, 法人内の薬剤師間, 地域の薬剤師間での連携強化にも努めていく。法人内施設間の業務シェア等を含め活躍していきたい。

放射線診断科・放射線治療科（技術部）

■スタッフ紹介

放射線診断科

(科 長)・奥田 悟
 (主 任)・桑田 智・中山喬資・北田直宏
 (副主任)・高西博利・竹井直樹・森田 一
 (科 員)・尾崎里子・渡邊ひとみ・石上智也
 ・上床さやこ・中川大和・高田博紀
 ・杉江慶太郎・三島綱太・赤塚大輔
 ・小山泰平・近藤美希・中山裕志
 ・竹内悠介・中田早人・三木志織
 ・小川 葵・中山奏子・中村美緒
 ・樋口幸三・渡辺博也・小川英嗣
 ・森山美咲
 (助 手)・十川都至子・前田里美

放射線治療科

(科 長)・久保田智之
 (主 任)・藤井倫洋
 (副主任)・尾崎征司
 (科 員)・有持利彦

放射線不整脈センター

(科 長)・伊澤一郎

■業務内容

- ①一般撮影 (X線発生装置 4 台・CR2 台・FPD8 台・ワイヤーレス FPD9 台・乳房撮影装置 1 台・乳腺生検装置 1 台・移動型X線撮影装置 4 台)
 - ②各種造影検査 (X線 TV3 台・血管造影装置 3 台)
 - ③CT 検査 (320 列マルチスライス 1 台・64 列マルチスライス 1 台・16 列マルチスライス 1 台)
 - ④MRI 検査 (3 テスラ 1 台・1.5 テスラ 1 台)
 - ⑤放射線治療 (リニアック 1 台)
 - ⑥超音波検査 (3 台)
 - ⑦骨塩定量検査 (1 台)
- 以上の業務を行っている。

■2019 年度のトピックス・実績

放射線科各部門における 2019 年度の実績を下記に記す (表 1～3)。

■今後の展望

2019 年度 2 月より新たな常勤放射線治療医を迎え入れ、放射線治療科の今後の発展を期待する。また、各分野のスペシャリスト育成に向け、法人グループ各施設と連携し、人材の育成に取り組みたい。

表 1. 放射線診断科活動実績

						(単位:件)		
検査名	年度	合計件数	検査名	年度	合計件数	検査名	年度	合計件数
一般撮影	2017年度	62,629	胃透視	2017年度	248	超音波検査	2017年度	8,699
	2018年度	65,515		2018年度	99		2018年度	8,282
	2019年度	66,895		2019年度	96		2019年度	8,188
乳房撮影	2017年度	1,714	腸透視	2017年度	100	血管造影 (頭部、腹部、四肢)	2017年度	285
	2018年度	1,503		2018年度	60		2018年度	277
	2019年度	1,527		2019年度	87		2019年度	288
CT	2017年度	21,725	骨塩定量	2017年度	1,524	心臓カテーテル検査	2017年度	1,166
	2018年度	22,275		2018年度	1,311		2018年度	1,137
	2019年度	24,032		2019年度	1,334		2019年度	1,318
MRI	2017年度	9,750	TV室造影検査	2017年度	1,985			
	2018年度	10,248		2018年度	1,856			
	2019年度	10,240		2019年度	2,002			

表 2. 放射線治療科活動実績

			(単位:件)	
年度	全放射線治療件数	全照射件数		
2017年度	182	3,975		
2018年度	139	2,440		
2019年度	192	3,529		

表 3. 不整脈センター活動実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	前年度 月平均
心臓電気生理検査	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0.2
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺)	28	28	29	26	31	19	30	25	29	33	29	31	338	28.2	25.8
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心外膜アプローチ)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1	0.2
経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他)	5	12	7	7	8	5	4	9	6	4	3	6	76	6.3	4.0
ペースメーカー移植術	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0.3	1.3
ペースメーカー交換術	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	
植込型除細動器移植術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.2	0.2
両心室ペースメーカー移植術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2	0.3
両室ベising機能付き植込型除細動器移植術	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2	0.3
その他(9/11 CAG)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0.3
経皮的カテーテル心筋焼灼術合計	33	40	36	33	39	24	35	34	35	37	32	37	415	34.6	29.9
総合計	35	44	36	34	39	27	35	34	35	38	32	39	428	35.7	32.3
前年度合計	28	35	33	35	36	27	35	29	27	31	33	38	387	32.3	

磁気ナビゲーション	7	8	10	9	8	5	6	8	11	9	6	4	91	7.6	10.9
-----------	---	---	----	---	---	---	---	---	----	---	---	---	----	-----	------

アブレーション前CT	単純3D	11	4	9	5	9	3	7	9	7	6	6	5	81	6.8	6.3
	造影3D	30	31	15	21	24	17	25	23	22	23	17	26	274	22.8	20.0
合 計		41	35	24	26	33	20	32	32	29	29	23	31	355	29.6	26.3

※ペースメーカー、ICD、CRT-P、CRT-Dの移植及び交換件数は、不整脈センターで行ったもののみで、手術室等で行ったものは含まれません。

検査科

■スタッフ紹介

【高槻病院検査科】2019年4月現在

臨床検査技師	42名
看護師パート	2名
准看護師パート	1名
検査事務	3名
《各種学会等認定取得者》	
超音波検査士	
循環器	5名
消化器	2名
体表臓器	1名
健診	1名
産婦人科	1名
血管診療技師	3名
細胞検査士	5名
国際細胞検査士	4名
二級臨床検査士	
病理	4名
血液	4名
臨床化学	1名
神経生理	2名
循環生理	1名
緊急臨床検査士	2名
医用質量分析認定技士	1名
医療情報技師	2名
管理栄養士	4名

■部署概要

当科では検体検査部門（生化学、血液、一般、輸血、免疫血清、細菌、遺伝子検査等）、生理検査部門（循環器、肺機能、神経生理、耳鼻科、産科超音波等）、病理検査部門（組織、細胞診、病理解剖等）の業務を行っている。

その他では、採血業務を始め、ICTやNST、糖尿病教育といったチーム医療にも参画している。また法人検査部門協議会を発足させ、各施設間での情報共有や人事交流を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2018年12月に施行された医療法の改正では、検査精度の確保の基準が明確に示された。これに伴い測定標準作業書や機器管理台帳など多くの帳票類の準備を行った。また法人検査部門における内部監査を実施し、管理面や技術面などの観点からその評価を行っている。

また外部精度管理調査への積極的な参加に努め、その結果も良好に保っている。

■今後の展望

臨床検査機器の発展はめざましく、特に遺伝子検査関連機器は感染症診断や薬剤耐性菌の判定に有用である。今後、東京オリンピックや大阪万博などワールドワイドなイベントが開催されるが、諸外国から持ち込まれるであろう感染症リスクへの備えとして当院でもこれらの機器の導入準備を進めている。

検査部門協議会の発足に伴い、愛仁会他施設の臨床検査部門との学術面や品質管理面での交流だけでなく、人事や試薬資材の管理調整を組織横断的に行うべく連携体制の強化が急務となっている。

引き続き、スタッフの学術的活動の推進や認定資格取得などのスキルアップ、他施設との技術交流を主としたローテーションや、キャリアパス制度の運用を進めていきたい。

表1. 高槻病院検査年間総件数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
血液検査	247,955	282,669	299,971	297,625	99%
一般検査	105,488	95,541	80,883	72,389	89%
細菌検査	187	27,924	57,376	62,974	110%
輸血検査	14,229	29,188	27,103	23,809	88%
血清検査	78,543	117,936	116,884	114,118	98%
生化学検査	1,334,253	1,627,651	1,770,480	1,839,128	104%
生理検査	39,917	41,538	43,757	45,331	104%
超音波検査	12,878	13,075	12,931	15,418	119%
病理検査	20,753	20,983	22,238	23,277	105%
総合計	1,854,203	2,256,505	2,431,623	2,494,069	103%

臨床工学科

■スタッフ紹介

科長 谷 昌樹
主任 田仲達也
主任 前田美由紀
主任 一瓢綾子
副主任 渡邊恵三
副主任 原田雄貴
副主任 野崎雄大
副主任 西野 功
その他 科員 20名

臨床工学科 科員総数：27名

(認定士など関連資格)

体外循環技術認定士，呼吸療法認定士，

不整脈治療専門臨床工学技士，

透析技術認定士，臨床 ME 専門認定士 など

■業務内容

【手術室・泌尿器外来業務】

6名が従事し，2～5名で日々の業務に対応している。点検業務として，麻酔器・生体情報モニターなどを行っている。また臨床支援業務として人工心肺・補助循環・脳外ナビゲーション・再生医療・レーザー照射装置・血液浄化療法・膀胱鏡（泌尿器外来）などの特殊機器操作を行っている。

人工心肺：113件，ナビゲーション：17件

再生医療：27件，セルセーバー：164件

始業・終業点検：3,525件

膀胱鏡（泌尿器科外来）：867件

【アンギオ室・不整脈業務】

11名が従事し，アンギオ業務は1～2名，不整脈業務は2～3名で日々の業務を行っている。心臓カテーテル検査治療・下肢アンギオ・ペースメーカー・アブレーション・補助循環などの臨床支援業務を行っている。

CAG：622件 PCI：297件 ABL：404件

【内視鏡業務】

4名が従事し，1名で日々の業務に対応している。内視鏡装置・ファイバー・洗浄装置・電気メスの操作及び点検を行っている。また肝悪性腫瘍の凝固に使用するラジオ波装置の操作も行っている。

内視鏡保守：6,199件

【医療機器管理業務】

医療機器管理ソフトによる一元管理を行い，特定医療機器の定期点検・日常点検を実施している。人工呼吸器に関しては，管理のほかに病棟ラウンドによる使用中点検やRSTに参加している。また血液浄化療法・ECMO・脳低温療法装置などの特殊機器の対応も行っている。小児在宅チームを作り，小児在宅呼吸器業務も積極的に行っている。

(保守管理) 始業・終業：13,229件

使用中点検：17,007件，定期点検：464件

【血液浄化業務】

2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院に透析室が移設され，急性期中心の透析室という方針で業務を行っている。9名が従事し，3～5名で日々の業務に対応している。

血液透析：10,282件，CHDF：88件，PE：12件

腹水濾過濃縮静注法：3件，GCAP・LCAP：35件

PMX：1件，透析装置定期点検：11件

■2019年度の実績

第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

『冠動脈バイパス手術後の透析患者の血液透析とリハビリテーション』

演者：前田美由紀

■今後の展望

人工心肺症例の増加に伴い，臨床工学科として部署の整備・教育などを進め人材育成を進めて行く。また，働き方改革により夜勤体制の整備を進めて2019年1月から夜勤体制となった。今後，体制の整備・維持を目指していく。

リハビリテーション科（技術部）

■スタッフ紹介

- <理学療法士> 28名
山木健司（主任），飯塚崇仁（主任）
井上知哉（主任）
清水和也（副主任），村川佳太（副主任）
- <作業療法士> 10名
松下浩尚（主任），大森佑樹（副主任）
- <言語聴覚士> 7名
俵屋章則（副主任），宮川美香（副主任）
- <歯科衛生士> 1名

■業務内容

【診療体制】

- ・月～土曜日の全日

【対象疾患】

- ・理学療法（表1）

処方数は総合内科からの処方件数が最も多く、高齢社会における総合病院の役割として認知症・サルコペニア・フレイル予防を含めた高齢者リハビリテーションに力を入れている。次に整形外科からの処方件数が多く、人工関節や各種骨折、脊椎疾患など術前より介入を行っている。がん患者に対して、予防的・回復的・維持的・緩和的全てのフェーズに対応したがんのリハビリテーションを提供している。また、総合周産期母子医療センターとして、療法士も新生児から評価・治療を実施し小児リハビリテーションに取り組んでいる。

- ・作業療法（表2）

多様化する在宅生活に対して介護指導や応用動作の獲得だけでなく、日常生活や社会的役割の損失がないように入院早期やICUから介入している。従来から実施している応用動作、実践的ADL訓練の介入にとどまらず、初期もの忘れ外来や糖尿病教育入院患者の認知機能検査などにも携わり、退院後の生活の質向上のため、家族を含めた指導を行っている。またターミナルを含めた在宅生活や、地域で暮らす不安を解消するべく、退院前訪問指導や外出訓練などの取り組みも行っている。

- ・言語聴覚療法（表3）

急増する高齢者の肺炎の原因となる嚥下機能障害に対して積極的に介入している。“いつまでも口から食べる楽

しみをあきらめない”をモットーに、経口摂取に挑戦する摂食嚥下リハビリテーションに取り組んでいる。また小児科と連携して成長発達を評価・促進する取り組みを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度高槻病院リハビリテーション科の疾患別リハビリテーション料の総単位数は、脳血管疾患等リハビリテーション料 39,405 単位（昨年度 40,319 単位）、運動器リハビリテーション料 35,475 単位（昨年度 47,763 単位）、呼吸器リハビリテーション料 23,625 単位（昨年度 25,877 単位）、心大血管疾患リハビリテーション料 17,108 単位（昨年度 40,806 単位）、廃用症候群リハビリテーション料 35,271 単位（昨年度 28,505 単位）、がん患者リハビリテーション料 6,629 単位（昨年度 6,651 単位）であった。

各療法別に見ると、理学療法における総単位数は 100,800 単位（昨年度 102,595 単位）、作業療法における総単位数は 36,168 単位（昨年度 39,694 単位）、言語聴覚療法における総単位数は 22,326 単位（昨年度 23,816 単位）であった。

2019年12月よりリハビリテーション科に歯科衛生士が1名配属され、主に病棟での摂食機能療法・口腔ケア、外来での医科歯科連携（口腔内スクリーニング）を行っている。

■今後の展望

高度急性期病院の役割として、超急性期から積極的なりハビリテーションの実施と、リハビリテーション医療の質の向上を追求していくために、各療法士の専門・認定療法士資格や関連領域の資格取得の促進や各療法士の技術的評価の標準化を図り、関連職種の学術大会にも積極的に参加し、見識を深めていく。

また昨今注目されている高齢者のサルコペニア・フレイルに対して、運動療法に加え入院早期より栄養科と協力し栄養療法の充実を図り、更なるリハビリテーション医療の質向上を目指す。

そして、引き続き法人内の回復期病棟、障害者病棟、在宅部門とも密接な連携を取り、急性期から維持期までの連続したトータルヘルスケアシステムの貢献に努める。

表 1. 理学療法処方件数

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	909	15.7%	耳鼻科	0	0.0%
脳神経外科	286	4.9%	皮膚科	25	0.4%
小児外科	20	0.3%	産婦人科	179	3.1%
消化器・一般外科	253	4.4%	泌尿器科	81	1.4%
心臓血管外科	176	3.0%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	83	1.4%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	27	0.5%	形成外科	24	0.4%
呼吸器内科	656	11.3%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	532	9.2%	小児脳神経外科	214	3.7%
循環器内科	589	10.1%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	25	0.4%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	117	2.0%	乳腺外科	109	1.9%
血液内科	27	0.5%	不整脈内科	103	1.8%
小児科	350	6.0%	総合内科	914	15.7%
新生児科	87	1.5%	総合救急センター	21	0.4%
			合計	5,807	100.0%

表 2. 作業療法処方件数

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	233	8.9%	耳鼻科	0	0.0%
脳神経外科	282	10.7%	皮膚科	10	0.4%
小児外科	5	0.2%	産婦人科	22	0.8%
消化器・一般外科	62	2.4%	泌尿器科	10	0.4%
心臓血管外科	142	5.4%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	7	0.3%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	31	1.2%	形成外科	9	0.3%
呼吸器内科	325	12.4%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	207	7.9%	小児脳神経外科	2	0.1%
循環器内科	296	11.3%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	6	0.2%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	116	4.4%	乳腺外科	3	0.1%
血液内科	3	0.1%	不整脈内科	8	0.3%
小児科	13	0.5%	総合内科	821	31.2%
新生児科	0	0.0%	総合救急センター	18	0.7%
			合計	2,631	100.0%

表 3. 言語療法処方件数

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	20	1.0%	耳鼻科	0	0.0%
脳神経外科	275	14.0%	皮膚科	2	0.1%
小児外科	41	2.1%	産婦人科	5	0.3%
消化器・一般外科	19	1.0%	泌尿器科	13	0.7%
心臓血管外科	66	3.3%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	2	0.1%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	1	0.1%	形成外科	3	0.2%
呼吸器内科	211	10.7%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	134	6.8%	小児脳神経外科	12	0.6%
循環器内科	170	8.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	7	0.4%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	110	5.6%	乳腺外科	3	0.2%
血液内科	2	0.1%	不整脈内科	8	0.4%
小児科	32	1.6%	総合内科	801	40.6%
新生児科	20	1.0%	総合救急センター	14	0.7%
			合計	1,971	100.0%

栄養管理科

■スタッフ紹介

(直営) 管理栄養士 12 名 (常勤)

中川弘子, 西村雄二, 備後安輝子

上田美智子, 内野友理恵, 中野美友紀

岡本太佳代, 福重 舞, 大塚彩香

伴 真澄, 中本洋子, 田坂ゆかり

(委託) 管理栄養士 3 名 (常勤)

栄養士 5 名 (常勤) 1 名 (パート)

調理師 7 名 (常勤) 3 名 (パート)

調理員 23 名

糖尿病療養指導士 4 名

病態栄養認定管理栄養士 3 名

がん病態栄養専門管理栄養士 2 名

NST 専門療法士 1 名

特定保健指導実践者 2 名

■業務内容

【入院食事管理】(表 1)

・食種は成分別管理, 個別対応, 選択食対応, 月 1 回行事食対応, 分娩の祝膳実施 (月約 90 件)

・調乳・分注管理 (調乳室にて)

NICU・GCU・小児センター・PICU 合計約 50 名程度

・経腸栄養剤管理 (薬品系も含む)

半固形化対応, 腸管免疫補助栄養剤など数種類の管理も含む。

・緩和ケア食提供 (完全個別対応)

緩和ケアチームより依頼後, 1 日 3 名まで受け入れ, 病院内の栄養士にて作成。テーブルコーディネートで演出している。

【食事温度管理】

・温冷配膳車 12 台で対応

・検査で食事時間が遅れる場合は, 延食 (14 時, 15 時の 2 回配膳) で対応。対象者を放射線科にて情報収集し, 病棟へ連絡確認するシステム。

【栄養管理】(表 2)

・栄養管理計画

全患者実施している。入院時栄養評価 約 1,100 件/月
再評価 約 1,700 件/月

・入院栄養相談

(個別) 予約栄養指導, 食欲低下時の訪床相談 (NST・褥瘡・緩和ケア患者も含む)

(集団) 糖尿病教育入院教室: 週 2 回, 心不全教室: 週 1 回

・外来栄養相談

(個別) 予約栄養指導, 離乳食相談

外来栄養相談では, 糖尿病患者が中心であり 2 型糖尿病, 妊娠糖尿病や 1 型糖尿病患者に対して指導を行っている。特に, 妊娠糖尿病の診断当日からの栄養指導介入をできるように体制を整えている。

(集団) 糖尿病教室: 月 1 回, 母親教室: 月 3 回

【チーム医療】

・NST (栄養サポートチーム), 褥瘡, 緩和ケア, 嚥下, 糖尿病, 脳神経外科, 消化器内科, 心不全, 呼吸器内科

■2019 年度のトピックス・実績

・腎臓リハビリテーション学会 2/22~23

「栄養食事指導を中心に

腎臓リハビリカンファレンスに参加して」

■今後の展望

昨年度より, NST 専従者を管理栄養士が担っており, 毎週 30 件の加算を目指して取り組んでいる。

2020 年度の診療報酬改定で新規追加された特定集中治療室での「早期栄養介入管理加算」算定に向け, 4 月 1 日より ICU に管理栄養士を専任で配置していく。また, 緩和ケアを含む質の高いがん医療の評価として, 管理栄養士が必要とされている今, 外来化学療法室と協働して活動の場を広げていきたいと考える。

表 1. 年間食数状況

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食数	12,520	12,289	12,546	13,279	14,042	12,868	12,244	12,869	12,748	12,724	12,069	11,427
特別非加算食数	6,161	6,845	6,347	6,521	6,904	6,422	6,887	6,665	5,860	6,335	6,062	5,834
特別加算食数	10,883	10,483	9,813	10,033	10,438	9,349	10,193	10,185	11,051	10,909	10,355	11,280
合計食数	29,564	29,617	28,706	29,833	31,384	28,639	29,324	29,719	29,659	29,968	28,486	28,541
調乳件数	1,650	1,587	1,495	1,664	1,933	1,628	1,440	1,346	1,475	1,526	1,279	1,519

表 2. 栄養指導件数及び栄養管理件数

(単位:件)

	入院指導	外来指導	訪床	離乳食指導	集団指導参加延べ数	総数	集団指導件数	栄養管理計画書作成件数	NST回診	褥瘡回診	緩和ケアカンファレンス・回診	摂食嚥下回診	他カンファレンス
4月	60	100	214	7	42	423	13	3,041	115	37	107	5	213
5月	88	93	131	5	41	358	10	3,080	108	21	71	10	179
6月	84	91	144	9	62	390	12	2,681	151	16	184	4	159
7月	67	105	395	12	62	641	10	2,916	180	19	121	7	153
8月	49	106	145	7	155	462	12	2,955	133	24	83	3	112
9月	47	111	117	10	82	367	14	2,816	134	23	104	7	134
10月	64	117	168	10	69	428	15	3,012	141	19	93	10	231
11月	62	100	152	4	52	370	10	2,931	152	26	138	9	266
12月	46	122	191	7	67	433	18	2,839	124	13	117	6	240
1月	46	116	198	8	48	416	12	2,590	93	26	95	9	186
2月	55	97	409	8	69	638	11	2,712	110	15	100	6	142
3月	48	106	214	8	19	395	10	2,742	171	30	100	6	258
合計	716	1,264	2,478	95	768	5,321	147	34,315	1,612	269	1,313	82	2,273

感染対策室

■スタッフ紹介

担当副院長：宮本典子（看護師）

担当部長：片山義規（医師：ICD）

室長：鳴美英智（感染管理認定看護師）

診療部担当：上領 博（医師：ICD）

看護部担当：杉田扶希子（看護師）

大年和可奈（感染管理認定看護師）

薬剤科担当：谷生千尋（薬剤師・AST 担当）

奥村暢子（薬剤師・ICT 担当）

検査科担当：川崎純一（臨床検査技師）

事務部担当：足立 聡（事務員）

■業務内容

1) 感染管理組織の運営

2) 抗生剤使用状況の確認（抗生剤の適正使用）

※毎週 1 回の指定抗菌薬ラウンド

指定抗菌薬：抗 MRSA 薬，カルバペネム系薬

キノロン系薬，TAZ/PIPC，第 4 セフェム系薬

3) 感染対策室による毎週 1 回の定期ラウンド

4) 感染症発症患者の把握

5) 定期的なサーベイランス（JANIS 事業参加）

ICU，SSI，NICU，全入院患者，検査の全ての部門

6) 現場への介入

7) 院内感染対策マニュアルの整備

8) 職業感染防止対策と針刺し事故への対応

9) 結核感染対策の取り組み

10) 患者・職員の教育・啓発活動

11) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動

■2019 年度のトピックス・実績

今年度より，薬剤師を 2 名配置とし，ICT 担当と AST 担当に役割分担し，院内の感染制御活動の強化を図った。

各種サーベイランス（JANIS 事業）では，参加している他病院（300～500 病院）とのベンチマークにおいて，著しい差は認めていない。

2019 年度の新規 MRSA 検出率は 0.82 であった。前年度より減少していた（新規 MRSA 検出率＝新規検出者数/延べ入院患者数×1,000）。

アルコール手指消毒薬遵守率向上の一環で，診療部各科への現状把握のためのヒアリングとミニレクチャーを前年度に引き続き実施した。

針刺し関連事故発生総数は 42 件であった。エピネット日本版サーベイ 2011 の病床規模別の針刺し切創発生率の 400～799 床のデータ（6.7/100 床当たり）と比較しても，上回っており，前年度から改善は認めなかった（当院：8.8/100 床当たり）。

職員対象の院内感染対策研修会は，例年通り年間 4 回実施した。全体の参加率は，ほぼ 100%を達成できている。表 1，2 に示す。

2019 年度は，流行性感染症によるアウトブレイクは認めていない。各種薬剤耐性菌の新規発生については，持ち込みによる薬剤耐性アシネトバクター（MDRA）の検出を当院において初めて経験した。ICT による早期介入，現場の対策強化，外部施設専門家の助言を得ながら対応したことにより拡大発展することはなかった。

2020 年 1 月末以降は，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応を強いられた。各部門・各職種が連携し，COVID-19 陽性患者や疑似症患者の対応にあたったが，アウトブレイクに至ることはなかった。

感染防止対策加算に関する連携カンファレンス及びラウンドは，計 8 回実施した。表 3 に示す。

■今後の展望

今後，新型コロナウイルス感染症の第 2 波・第 3 波が懸念されている。これまでの経験とそこで突き付けられた課題を可能な限り克服しながら，この感染症の脅威に対応していかなければならない。そのためには，やはり基本的な感染対策である標準予防策や感染経路別予防策を確実に実践することが求められている。

表 1. 院内感染対策研修会の実施内容

開催回	開催日	テーマ	講師	所属
第1回	7月19日	大規模イベントに伴い警戒すべき感染症および最近の感染症の話題	砂川富正	国立感染症研究所 感染症疫学センター 第二室長
第2回	7月23日	海外から持ち込まれる感染症について	森定一稔	高槻市保健所 所長
第3回	11月19日	冬場の感染対策 ～インフルエンザとノロウイルス関連胃腸炎を中心に～	村上啓雄	国立病院機構近畿中央呼吸器センター 統括診療部長
第4回	11月21日	抗酸菌のおはなし～結核菌を中心に～	上領 博	高槻病院 呼吸器内科 部長 (ICT・AST担当医師)

表 2. 院内感染対策研修会の参加状況

()内は2018年度の結果

	研修会の参加者	DVD視聴した者	対象者	参加率
第1回+第2回	830人(877人)	400人(351人)	1,223人(1,219人)	98.9%(100%)
第3回+第4回	827人(851人)	403人(357人)	1,224人(1,209人)	98.9%(99.5%)

表 3. 感染防止対策加算に関わる連携カンファレンス及び相互ラウンド

開催日	連携病院	開催の分類
7月19日	北摂四医師会感染対策ネットワーク (連携施設 計26病院)	北摂四医師会感染対策ネットワーク 2019年度 第1回世話人会
8月1日	大阪医科大学附属病院	2019年度 加算1-1連携相互ラウンド(高槻→大阪医大)
8月16日	うえだ下田部病院 ほうせんか病院	2019年度 第1回 加算1-2連携カンファレンス
9月5日	大阪医科大学附属病院	2019年度 加算1-1連携相互ラウンド(大阪医大→高槻)
11月22日	うえだ下田部病院 ほうせんか病院	2019年度 第2回 加算1-2連携カンファレンス
1月24日	うえだ下田部病院 ほうせんか病院	2019年度 第3回 加算1-2連携カンファレンス
3月6日	うえだ下田部病院 ほうせんか病院	2019年度 第4回 加算1-2連携カンファレンス
3月27日	北摂四医師会感染対策ネットワーク (連携施設 計26病院)	北摂四医師会感染対策ネットワーク 2019年度 第2回世話人会

医療安全管理室

■スタッフ紹介

医療安全担当副院長：岡 隆紀（医師）

医療安全管理室長：松木裕子（看護師）

医療安全管理室主任：栗田晃正（看護師）

医薬品安全管理責任者：岩城晶文（薬剤師）

医療機器安全管理責任者：一瓢綾子（臨床工学技士）

■部署概要

医療事故防止対策の検討に関する事項

1) 各部門リスクマネージャーと医療安全カンファレンスを実施

2) 医療安全推進ラウンド（30 部署実施）

3) 医療事故分析及び再発防止に関する事項

4) 看護安全管理委員会でインシデント分析

5) マニュアル改定に関する事項

医療安全マニュアル一部改定

6) 事故防止に関する広報・教育・研修に関する事項

・医療安全ニュースの発刊 11 回

・全職員対象医療安全管理研修 3 回

第 1 回

「心理的安全性を高める、相手起点のコミュニケーション」（参加率：99.6%）

ビジネスコーチ株式会社 HR テック担当顧問
兼エグゼクティブコーチ 板越正彦氏

第 2 回①

「医薬品の安全管理をめぐる最近の話題—

「医薬品の安全使用のための業務手順」改訂と留意点—」

一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構

設立準備室 室長 土屋文人先生

第 2 回②

「医事紛争あれこれ」（参加率合計：99.3%）

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

総合診療部部長・脳神経外科医長 中島 伸先生

・診療部：研修医研修，インシデント共有

・看護部：新人看護師研修

（入職時，静脈注射，KYT など）・ラダー研修

・技術部：入職時研修

・事務部：入職時研修

■2019 年度のトピックス・実績

誤接続防止による医療安全の向上や国際整合による製品の安定供給確保の観点から，誤接続防止コネクタの国際規格の導入が決まり，2020 年 2 月末までに神経麻酔分野のコネクタを変更することになった。そのため安全に切り替えを行うために，目的外使用の有無を確認し，説明会の開催と職員への周知を行った。2019 年 11 月末に院内一斉切り替えを行った。

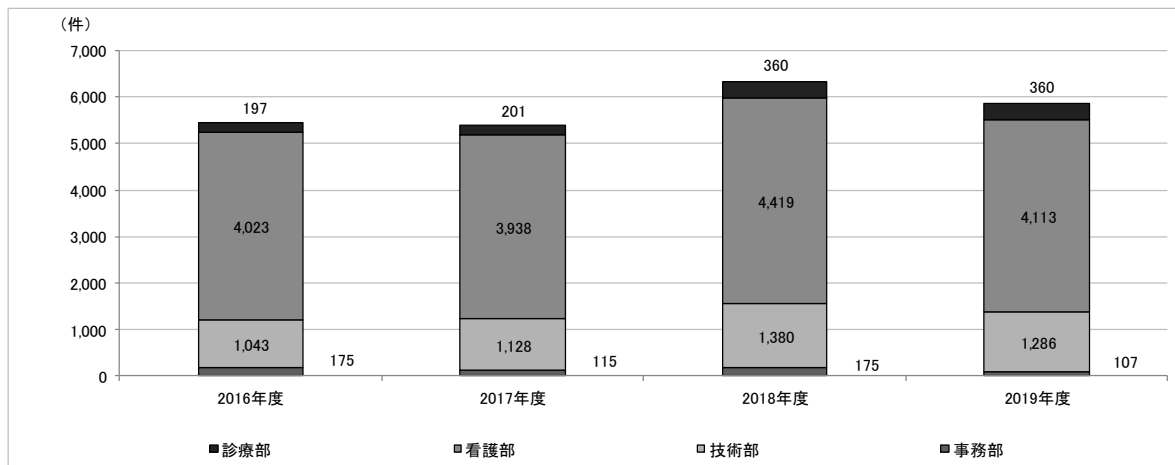
■今後の展望

インシデントレポートの報告件数は，昨年度の 6,334 件から 5,866 件へ減少した。しかし，診療部の報告割合は 5.7%から 6.1%へ増加し，合併症や偶発症などの報告タイムリーに報告がされるようになっている。今後もタイムリーな報告とタイムリーな行動・対策を実施していきたい。

図表 1. インシデント・アクシデント報告件数

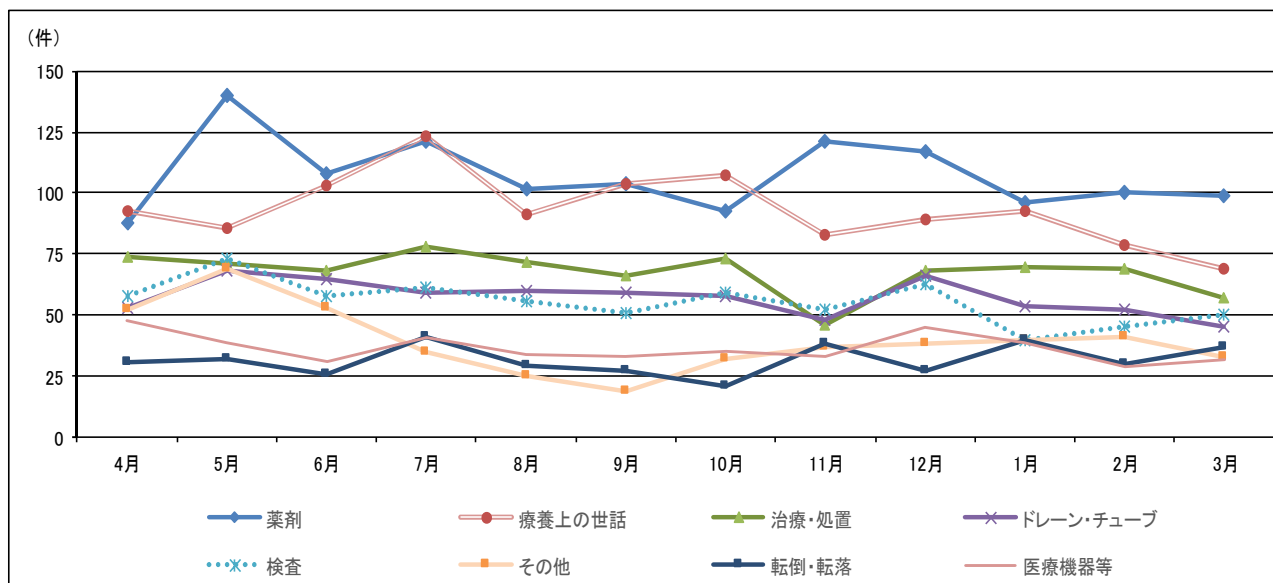
(単位:件)

所属	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
事務部	175	115	175	107
技術部	1,043	1,128	1,380	1,286
看護部	4,023	3,938	4,419	4,113
診療部	197	201	360	360
総計	5,438	5,382	6,334	5,866



図表 2. 2019年4月～2020年3月 分類別インシデント・アクシデント件数

分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	平均
薬剤	88	140	108	121	102	104	93	121	117	96	100	99	1,289	107
療養上の世話	93	86	103	123	91	104	107	83	89	93	79	69	1,120	93
治療・処置	74	71	68	78	72	66	73	46	68	70	69	57	812	68
ドレーン・チューブ	53	68	65	59	60	59	58	48	66	54	52	45	687	57
検査	58	73	58	61	56	51	59	52	63	40	45	50	666	56
その他	52	69	53	35	25	19	32	37	38	40	41	33	474	40
転倒・転落	31	32	26	41	29	27	21	38	27	40	30	37	379	32
医療機器等	48	39	31	41	34	33	35	33	45	39	29	32	439	37
総計	497	578	512	559	469	463	478	458	513	472	445	422	5,866	489



地域医療部

■スタッフ紹介

部長 稲本真也

科長 家山温子

主任 中田真衣

副主任 築地留美

湯峯佳代子, 中西満子, 道正幸枝, 大園陽子, 佐伯友湖,
黒田昌樹, 佐伯亜希子, 阪田恵里, 上田優妃, 沖吉慶也,
井手麻紗子, 高山真実, 加藤亜季, 堀池晃弘,
大北侑希江, 河上知代

■業務内容

地域医療支援病院としての役割である①紹介患者の受け入れ, ②かかりつけ医への逆紹介, ③救急医療の提供, ④施設の共同利用, ⑤地域の医療従事者に対する研修などの充実を図っている。また, 広報活動として様々な広報誌やパンフレットの発行を行っている。さらに地域への社会貢献として市民公開講座の開催, 地域の小中学校での講演会や救命講習会, 教職員対象のエピペン講習会などを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

紹介件数(図1)は月平均1,751件(対前年比94%), 紹介率83.91%(図2), 逆紹介件数(図3)は月平均1,268件(対前年比104%), 逆紹介率60.79%(図4)と地域医療支援病院としての要件である紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上はクリアしている。施設の共同利用(オープン検査)(図5)については, 月平均420件(対前年比101%)であった。

救急搬送件数(図6)は月平均700件(対前年比108%)で, 年間不応需率は1.5%(前年4.9%)であった。不応需の理由としては, かかりつけ医や1次・3次救急への案内などの救急医師指示が最も多く, 次いで救急重複, 満床, 重症対応中となっている。7月は, 過去最高となる797件の救急搬送を受け入れた。

今年度は, 総合救急医療センター長/急性期外科主任部

長として秋元先生が着任され, 三島圏域と乙訓郡の消防本部に挨拶回りに伺ったところ, 搬送依頼がしたくて病院代表番号にかけても電話がなかなか繋がらずに困っているとのご意見が多々あったため, 高槻市など一部の地域のみが存知の救急センター直通番号を三島圏域, 豊能圏域, 乙訓消防本部へお伝えし, 現在ご利用いただいている。

また, 2018年度より行っている大阪府がん診療拠点病院における医科歯科連携推進事業では, 12月より歯科衛生士が着任し, 周術期口腔機能管理として主に心臓血管外科, 呼吸器・消化器領域等の悪性腫瘍の患者を中心に三島圏域の歯科医師会の協力を得ながら歯科受診に繋がっている。

さらに, 毎年, 登録医の先生によるジャズコンサートを1階ロビーで開催していたが, 他の登録医の先生からもロビーコンサートを開催したいと要望があり, ロビーコンサートと小児病棟の重症部屋での演奏やプレイルームでのコンサートを行った。また高槻市医師会の美術部(高槻DAC)の先生方の写真や絵画をアイワギャラリーで展示していただき, リハビリ中の患者, お見舞いの方, 職員がたくさん作品を楽しんだ。このような催しをすることによって, より先生方とコミュニケーションが取れたり, 当院に対する本音が聞けたりするなど日頃の業務にも役立つ良い機会となった。

■今後の展望

連携の中心にあるのは「患者」であること, 地域医療部の原点である「紹介患者はお断りしない」を新しいスタッフにも継承し, 全スタッフが同じ意識の下, 紹介・逆紹介が円滑に進むように医療連携の推進部署として人材育成にも継続して取り組んでいきたい。

また, かかりつけ医情報コーナーなど情報更新が全登録医にはできていない現状があるため, 適時更新できるようにすること, 更に様々な情報を1か所に集約した逆紹介に役立つツールを構築したい。

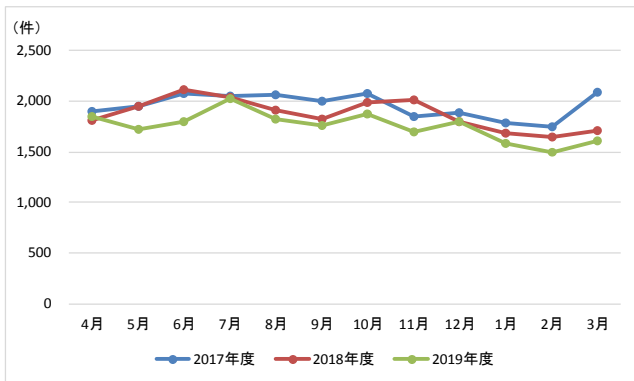


図1. 紹介件数

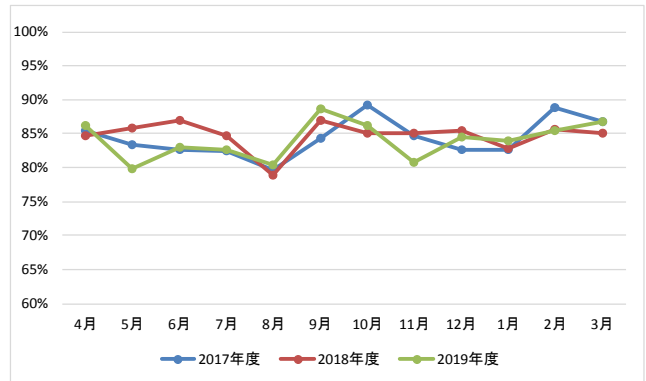


図2. 紹介率

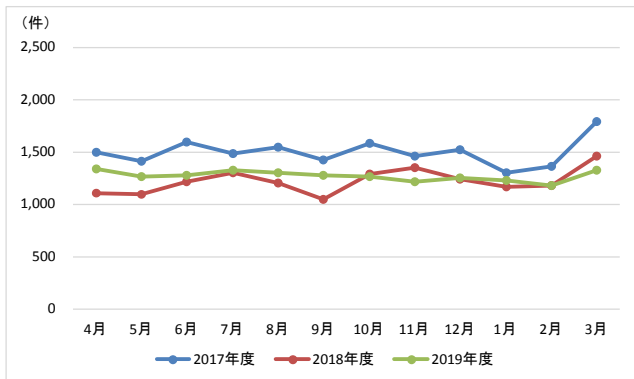


図3. 逆紹介件数

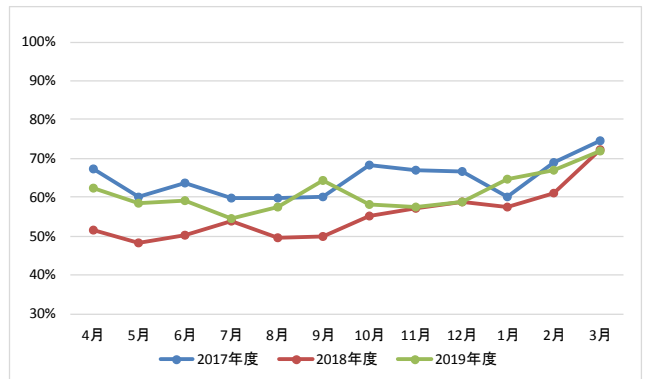


図4. 逆紹介率

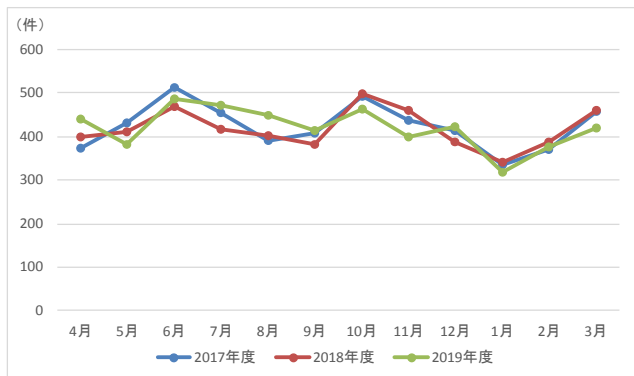


図5. オープン検査件数

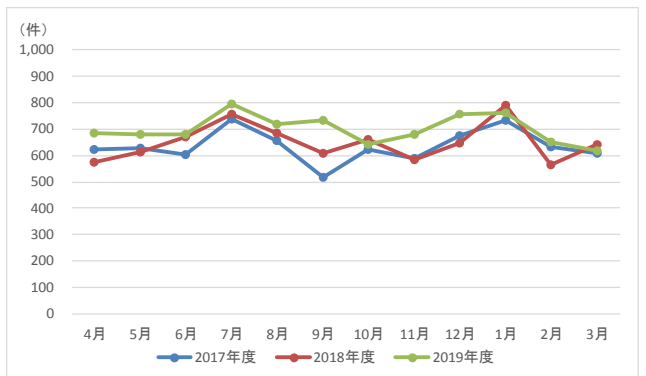


図6. 救急搬送件数

患者相談室 医療福祉相談

■スタッフ紹介

患者相談室 部長 田渕 一 (事務部長)

室長 細川友弘 (事務次長)

スタッフ (社会福祉士 10名)

副主任 芝田佑子, 内藤 愛

スタッフ 井本明奈, 小川美沙, 中原琢斗

小形美菜子, 原 朋子, 原田紗希

本丸綾子, 西村聖子

■業務内容

①心理・社会的問題を持つ患者に対する支援 (患者相談窓口), ②医療スタッフ・地域保健医療福祉機関とのネットワークリング, ③がん相談支援センター業務, ④院内児童虐待防止チーム (CPT) 事務局, ⑤大阪府性暴力被害者支援ネットワーク強化事業協力医療機関事務局, ⑥大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業の委託事業にかかる活動を行っている。

■2019 年度のトピックス・実績

・退院支援: 昨年に引き続き, 退院調整看護師と更なる連携を行い, 退院支援体制構築に尽力した。総件数は前年比より増加したものの, きめ細やかに心理・社会的問題を持つ患者に対する支援を行うよう心掛けた。

・がん相談: がん相談, がん患者サロン運営 (1/2 か月第3 水曜日), がん地域連携パス推進等に加え, 介護と連携し, 就労支援にも力を入れて取り組んだ。

・周産期支援: NICU・GCU では, インテーク面接の定着化に取り込んだ。また大阪府より児童虐待防止医療ネットワーク事業の委託 (府下 2 病院) を受け, 活動を行った。

・教育: 高槻地区 MSW 対象にグループスーパービジョンを月 1 回開催した。

・その他: 内藤が大阪医療ソーシャルワーカー協会理事及び三島圏域ソーシャルワーカー連絡会理事を担った。

■今後の展望

今年度は一部スタッフが入れ替わり, 改めて今後新たに取り組む業務について目を向ける機会を持てた。府事業に加え, 法人外とのアライアンス連携を芝田・内藤を中心に看護部とともに取り組んだ。来期は更に専門性の高い, 地域に貢献できる人材育成に励み, 社会福祉士として患者家族の尊厳や権利が守られるよう引き続き活動を行う。

表 1. 総件数 (単位:件)

	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
新規ケース数	1,811	1,525	1,797	118%
終了ケース数	1,838	1,498	1,722	115%
延べ件数	8,238	5,418	5,969	110%

表 2. 問題総数 (単位:件)

	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
経済的問題	350	346	205	59%
社会福祉制度	0	0	0	-
退院支援	4,008	3,078	3,044	99%
受診受療相談	958	866	981	113%
心理・社会的問題	2,638	2,036	1,730	85%
家族への支援	813	685	252	37%
社会復帰支援	58	38	88	232%
問題その他	0	0	0	-
総計	8,825	7,049	6,300	89%

表 3. カンファレンス開催状況 (入退院支援室含む) (単位:件)

	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
退院前合同カンファレンス (実施数)	39	46	50	109%
合同カンファレンス (介護支援連携指導科算定)	148	138	196	142%
病棟カンファレンス	707	618	1378	223%
チーム医療カンファレンス	65	133	147	111%
その他カンファレンス	109	95	93	98%

表 4. 会議・研修等 (単位:件)

	2017年	2018年	2019年	前年比
研修・学会・患者会	11	45	31	69%
院外会議	32	112	68	61%
その他会議	303	247	333	135%

ボランティア活動報告

■ボランティア事務局スタッフ紹介

ボランティア窓口は高槻病院地域医療部にあり、中田、大園が担当し、愛仁会リハビリテーション病院地域医療室の水本、細川、松山とともにボランティア「マザーグース」と高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院とのコーディネートを行っている。

■活動の実績

下記の表 1～5 参照。

■2019 年度のトピックス

①クリスマスコンサート開催

音楽グループ「オルゴール」の皆さんを招いて、クリスマスコンサートを開催した。ピアノ演奏をバックに、歌と楽器演奏によるコンサートを行った。クリスマスメドレーから始まり、アカペラ、ハンドベル演奏、「きよしこの夜」「赤鼻のトナカイ」「夕焼け小焼け」「故郷」といったクリスマス曲や懐かしい曲など、様々な楽曲を演奏していただいた。自然と手拍子が沸き起り、歌を口ずさむ姿も見られた。皆で一緒に合唱する場面もあり、和やかで楽しいひとときとなった。病棟へのボランティアメンバーによる送迎はなくなり、会場での案内のみとなったが、入院中の方も自ら参加されており、患者や家族など含め、大盛況であった。毎年恒例となった手作りのクリスマスカードは、ボランティアメンバーから入院中の患者一人ひとりに手渡され、心温まるひとときとなった。

②七夕飾り

昨年度より、七夕の笹は、アレルギーの方などがいるため人工笹を使用し、1階と小児センターに設置。人工笹に

ボランティアメンバーで様々な飾りつけを行った。たくさん患者、家族などが短冊に願いを込め笹の葉に結びつけて、素晴らしい七夕飾りとなった。

願いの込められた短冊は、日吉神社に奉納し神主に祈祷していただいた。

③地域の方々のご好意を役立てる

今年度も、地域の方々のご好意が病院に届けられた。患者を元気づけたいとコンサートで音楽を届けてくださる方、本の寄贈など、地域の方々のご好意が患者に届くよう「マザーグース」が催しを企画運営している。

■今後の展望

病院ボランティアの活動が日本で始まり 50 年が過ぎた。当院ボランティアは 1987 年に設立し、32 年目を迎えた。昨年度に引き続き今年度も、「ボランティアの減少」「ボランティアの高齢化」など直面する課題について話し合いを重ねてきた。その結果、退会年齢は設けず、入会時に年齢制限（70 歳）を設けることとなった。メンバーからは自身の心身が許す限り活動を継続したいという意見が出された。今後も継続して活動が展開できるようメンバーで知恵を出し合い、ボランティアだからこそできること、ボランティアでなければならないことをモットーに、患者の療養生活をはじめとした地域住民の支えになれるよう取り組んでいきたい。自らの意思で進んで役立とうとするボランティア精神が最大限に生かせるよう高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院でのボランティア活動が、活動する側にとっても魅力的な場であるよう今後ともに歩んでいきたい。

表 1. 活動実績 (3月末現在)

	2019年	2018年
会員数	32人	41人
新規入会者数	2人	1人
退会者数	11人	2人
年間総活動時間	3,559.4時間	3,998.5時間
年間総活動回数	1,407.5回	1,560回
1人当たりの年間活動時間	111.2時間	97.5時間
1人当たりの年間活動回数	43.9回	38回
1人1回当たりの活動時間	3.4時間	2.3時間

表 2. グループ別活動時間と活動回数 (3月末現在)

グループ名	活動時間(時間)	活動回数(回数)
ボランティアルーム	338	157
洗濯	623.9	248
受付	1,050	513.5
移動図書	843	341
裁縫	704.5	148
合計	3,559.4	1,407.5

表 3. ボランティア委員会の開催日程と議事内容

日付	内容
5月13日	各行事の企画委員の選出, 七夕行事関連
7月8日	七夕飾り反省, 夏休みについて
9月9日	クリスマスコンサートについて, 新年会について
2月17日	クリスマスコンサート反省, 次年度役員, グループ委員選出, 次年度活動計画と予算について, 総会について

表 4. 行事の日程と内容

行事	日程	内容
七夕飾り	6月24日～7月8日	1階と小児センターに人工笹を設置。短冊を準備し願い事を綴り飾りつけていただいた
ツリー飾りつけ クリスマスコンサート	11月25日～12月26日 12月26日	コンサート(参加者約110名)。当日に全入院患者へ手作りクリスマスカードのプレゼント
新年会	1月27日	メンバーの親睦を目的として「桃谷楼」にて開催。ボランティア19名, 事務局2名の参加
総会・茶話会(予定)	次年度4月20日 (新型コロナ感染拡大 防止のため中止)	会計・活動報告と次年度の会計案と活動案の承認及び役員の選出・病院より感謝状贈呈

表 5. ボランティア向け研修会の開催

日程	講師	ボランティアの参加人数	内容
3月16日 (新型コロナ感染拡大 防止のため延期)	救急認定看護師 認知症認定看護師	10名	「人が倒れたところに遭遇した時にどのように対応すべきか(AED学習など)」 「家族の介護とどう向き合うか(認知症など)」

健康講座・院内行事

■助産師 活動実績

	年間延べ開催回数	会の名称	開催場所	参加延べ人数
1	8回	育児サークルにっこにこ	高槻病院5階東病棟 指導室2	103
2	23回	おっぱいクラス	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	309
3	19回	お産準備クラス	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	290
4	44回	マタニティヨガ	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	178
5	7回	ママのためのにっこくらぶ	阪急高槻店6階多目的ルーム	114

■がん患者さまサロン たんぽぽ 活動実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	5月15日	免疫とがんの治療薬	愛仁会リハビリテーション病院9階 アイワホール	川村めぐみ	20
2	7月17日	「人生会議ってなに？」～あなたらしく生きるために～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	山本 直	8
3	9月18日	がんになった時に使える社会保障	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	井坂武史	13
4	11月20日	がんと戦うために～がん治療と口腔ケア～	アイワホール (愛仁会リハビリテーション病院内9F)	高西弘美	13

■関節セミナー開催実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	5月17日	「最新の人工関節手術について」 「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	平中崇文 藤代高明	31
2	10月18日	「最新の人工関節手術について」 「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	平中崇文 藤代高明	29
3	12月13日	「最新の人工関節手術について」 「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	平中崇文 藤代高明	39

■HOT レクリエーション開催実績

	開催日	会の名称	開催場所	担当者	参加人数
1	5月21日	第47回HOTレクリエーション	関西空港	中村美保	13
2	10月15日	第48回HOTレクリエーション	須磨海浜水族園	中村美保	6

■ACLS 開催実績

	開催日	受講生(院内)	受講生(院外)	スタッフ数
1	6月30日	23	0	34
2	10月27日	23	0	34
3	2月2日	24	0	27

■その他 地域に向けての研修活動

	開催日	会の名称	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月19日	エビベン講習会	エビベン講習会	関西大学高槻ミュージックキャンパス 1階多目的室	小児科 谷内先生	30
2	12月18日	助産師講演会	いのちの学習 ～あなたたちのいのちの奇跡～	関西大学中等部7階 多目的ルーム	盛下絵美 中井里美	119名+ 保護者数名
3	1月16日	心肺蘇生講習会	心肺蘇生講習会	高槻市立第二中学校	高岡, 秋元, 起塚, 黒岡, 高田, 小野, SR三島, SR吉本, 岩城	251
4	2月6日	がん教育講演会	いのちのお話し ～医師が伝えるがんといのち～	関西大学中等部7階 多目的ルーム	船田泰弘, 長谷川和範, MSW内藤 愛	119名+ 保護者数名
5	2月13日	心肺蘇生講習会	心肺蘇生講習会	高槻市立第六中学校	高岡, 岡, 秋元, 起塚, 三上, SR江國, SR松浦, SR亀谷, 岩城	211

■糖尿病教室講座活動実績

	開催日	会の名称	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月19日	糖尿病教育講座	クイズで学ぶ糖尿病	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	平賀千尋	18
2	5月17日	糖尿病教育講座	この検査値はどう見る?!	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	臨床検査技師	14
3	6月21日	糖尿病教育講座	糖尿病治療薬について知ろう!	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	岩城晶文	9
4	7月19日	糖尿病教育講座	暑い夏に気をつけたいこと♪	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	糖尿病認定看護師 山下みどり	11
5	9月20日	糖尿病教育講座	食材の重量を当ててみよう!!	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	管理栄養士 岡本太佳代	16
6	10月18日	糖尿病教育講座	糖尿病と認知症～深い関係～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	作業療法士 松下浩尚	12
7	11月15日	糖尿病教育講座	あなたの腎臓「だ・い・じょう・ぶ!？」	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	透析看護師 西山育美	8
8	12月20日	糖尿病教育講座	糖尿病は、万病のもと	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	陳 慶祥	23
9	1月17日	糖尿病教育講座	糖尿病合併症を調べる検査	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	臨床検査技師 八百啓介	20

■高槻病院市民公開講座開催実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月23日	前立腺がんの見つけ方・見逃し方	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	高橋 哲	19
2	5月16日	健康寿命を延ばそう!!ボケない生活の送り方 ～認知症につながる心房細動～	高槻現代劇場 中ホール	山城荒平	224
3	6月13日	高血圧ってどんな病気?～健康長寿を目指して～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	中島健爾	13
4	7月24日	身体に優しい大動脈手術 ～知っておきたい大動脈解離～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場		48
5	9月24日	認知症予防大作戦～正しく知って、みんなで防ごう～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	認知症看護認定看護師 田中さおり	26
6	10月17日	高齢者に優しい医療	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	高槻病院総合内科 主任部長 筒泉貴彦	11
7	11月29日	人工関節 再生医療～最新の膝治療について～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	高槻病院副院長/関節 センター長 平中崇文	12
8	12月18日	お腹いっぱいな人生を～まだまだ食べたりない～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	朝比奈紗羅(柔道選手)	45
9	12月23日	小児の感染症 ～インフルエンザ脳症と感染予防について～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	小児科主任部長 起塚 庸	10
10	1月30日	患者さんに優しいお腹の手術 最新の腹腔鏡手術	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	消化器外科 川崎Dr	50



愛仁会 リハビリテーション 病院

〒569-1116

高槻市白梅町 5 番 7 号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/reha/>



理念・基本方針

<理念>

再びその人らしい生活に

<基本方針>

リハビリテーションの"re"は「再び」、"habilis"は「人間にふさわしい」の意味があります。障害を克服し、その人が望む、その人にとってふさわしい生活に私たちはどのような援助をしてあげたら良いのでしょうか。リハビリテーションの意味する言葉、その本質を私たちは理念として掲げました。患者さまの、その人らしい生活。答えはひとつではありません。無数にあると思います。職員ひとりひとりがその実現に向け、共に考え、行動すること、そして障害に悩む患者さまの人格を尊重する姿勢を常に持ちつづけることが大切であると私たちは考えています。

1. 私たちは、患者さま一人ひとりの尊厳を守り人権を尊重します。
2. 私たちは、患者さまの主体性を重んじ、安全で質の高い医療を提供します。
3. 私たちは、各職種間の連携を密にし、持てる技術を最大限に発揮できるチーム医療を実践します。
4. 私たちは、患者さまと診療情報を共有し、患者さまが納得される医療を提供します。
5. 私たちは、患者さまが地域社会において生き生きと暮らせるように、地域の人々と共にリハビリテーションサービスの向上に努めます。

施設概要

■病床数/264 床 ■診療科目/8 科

■病院機能/回復期リハビリテーション病棟、障がい者病棟、三島圏域地域リハビリテーション地域支援センター、日本リハビリテーション医学会認定研修施設、日本医療機能評価機構認定病院、同病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能）評価認定病院、大阪府重度心身障がい児（者）地域生活支援センター

2019 年度総括

2018 年度診療報酬改定において、回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1 の施設基準の厳格化がなされ、特にアウトカム評価は 37.0 へ基準値が引き上げられた。昨年度は年間平均 46.3 と基準値を大きく上回ることができたが、今年度は 49.6 と更に基準値を上回る結果となり、当院が提供するリハビリテーション医療の質の高さが際立つ結果となった。

また、病床稼働率は 100%を維持し、積極的な前方連携病院への営業活動を実施するとともに、ニーズに対して適切かつ迅速に対応し続けてきた結果、目標を達成することができた。

更には、病院機能評価・付加機能を受審し、改めて医療安全や感染防止を始め病院全体の組織体制を見直した結果、高い評価を得ることができた。また、外来リハビリテーションの拡充や専門外来・口腔ケアを含む歯科領域などの充実を図り、リハビリテーション医療の質や患者 ADL の向上に寄与することができた。

その他にも三島圏域地域リハビリテーション講演会を開催するなどし、地域の医療従事者への教育及び連携強化を図るとともに、愛仁会ふれあい広場にて地域住民向けイベントを多数開催するなど地域への貢献にも昨年度以上に力を注いだ。

2019 年度活動状況

- 4月 異動者・途中入職者辞令交付式、第62期役職者（科長・主任・副主任）辞令交付式、期首全集、病院機能評価プロジェクトチームキックオフミーティング
- 5月 看護の日イベント、三島圏域地域リハビリテーション連絡会、セラピスト幹事会、ケアマネージャー幹事会、業務改善リーダー研修
- 6月 第6回 AIJINKAI 脳卒中セミナー、三島圏域地域リハビリテーション協議会・地域包括幹事会、病院機能評価ヒアリング会、第3回大阪 BHELP 標準コース
- 7月 三島圏域地域リハビリテーション連絡会、ヘルマンハーブコンサート、上半期褒賞発表式・賞与全集、Shinka MANAGEMENT 社見学来院
- 8月 ケアプランセンター愛仁会富田・ヘルパーステーション愛仁会富田新事業所にて事業開始、ユーザイ・ジャパン病院見学、BLS 研修、第13回高槻ミュージズ・リハビリ実践講座
- 9月 病院機能評価訪問受審本審査・付加機能、ドンア大学病院見学、衛生研修会、上半期業務改善成果発表会
- 10月 香港病院見学、わかりやすいリハビリ教室、排尿自立支援についての研修会、第6回愛仁会リハビリテーション部門学術大会、第9回大阪ショートステイ連絡協議会公開講演会
- 11月 永年勤続表彰式、別府重度障害者センター情報交換会、第4回大阪 BHELP 標準コース、認知症ケアに関する研修会、わかりやすいリハビリ教室、三島圏域地域リハビリテーション連絡会多職種合同研修会、大規模災害訓練

- 12月 下半期賞与全集、アンガーマネジメント研修、認知症ケア研修会、下半期褒賞発表式及び忘年会、トピックス研修会
- 1月 新年互例会、わかりやすいリハビリ教室、認知症ケア研修会、ハノイ医科大学病院見学、三島圏域地域リハビリテーション連絡会症例検討会、倫理研修会
- 2月 わかりやすいリハビリ教室、トピックス研修会、三島圏域地域リハビリテーション協議会、第4回 AIJINKAI 高次脳機能障がいセミナー、ふれあい公開講座、栄養・褥瘡対策研修会、第6回愛リハ ACLS
- 3月 三島圏域地域リハビリテーション連絡会、看護職連絡会、下半期業務改善成果発表会

2020 年度に向けて

回復期リハビリテーション病棟 210 床全てで回復期リハビリテーション病棟 1 の施設基準を遵守するとともに、障がい者病棟を含む 264 床全てにおいて稼働率 100% を目指す。とりわけ、当院にはリハビリテーション専門医を始めとする多くの専門医が在籍しており、合併症や脊髄損傷患者などにも対応することが可能なため、前方連携を中心とした新たな入院患者確保に努める。

退院した患者支援を図るべく、心臓リハビリテーションやボトックスなど外来リハビリテーションをより充実させ、加えて訪問看護・訪問リハビリテーションの介入を積極的に行う。また、業務の効率化を進めるべく導入した、タブレットを用いた記録システムを有効活用し更なる活性化及び効率化に努める。

最後に、2020 年度診療報酬改定で見直された回復期リハビリテーション入院基本料 1 を遵守するとともに、更なる、リハビリテーション医療の質向上を目指した積極的な取り組みを実施しリハビリテーション専門病院としての確固たる地位を確立していく。

診療部総括

■スタッフ紹介

リハビリテーション科は、吉田和也（日本整形外科学会専門医，院長），砂田一郎（日本脳神経外科学会専門医，副院長），磯島さおり（日本内科学会総合内科専門医，副院長），兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医，副院長），清水洋志（日本循環器学会循環器専門医，副院長），李容桂（日本小児科学会専門医），住田幹男（日本リハビリ医学会専門医），清水富男（日本整形外科学会専門医），城戸崎裕介（日本脳神経外科学会専門医），湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医），福田和浩（日本神経学会神経内科専門医），和田佳子（日本小児科学会専門医），磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医），松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医），寺田明佳（日本小児科学会専門医），中島敦史（日本神経学会神経内科専門医），藤井優子（日本リハビリ医学会専門医），水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医）で診療活動を行った。

（資格は代表1つのみ提示，リハビリはリハビリテーションの略）。

■診療内容

回復期リハビリ5病棟210床，障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を行った。回復期リハビリ5病棟は，回復期リハビリ病棟入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した。外来診療は入院相談外来に加え，専門外来として脊損外来，装具外来，ボトックス・ITB外来，心大血管疾患リハビリテーション外来（心リハ外来），書類外来，通院リハビリを展開した。また口腔衛生・機能の向上により，誤嚥性肺炎の発生ゼロを目指して，歯科衛生士の増員，歯科診療日の増枠，歯科電子カルテの導入により，当法人で唯一の歯科診療を充実させた。さらにチーム医療の一環として，栄養サポートチーム（NST），褥瘡，認知症ケア，脊髄損傷，排尿自立支援，整形外科，摂食機能の各専門チームによる回診を実施し，7月からは摂食機能療法と経口摂取回復促進加算を取得した。在宅退院後の患者に対しても高いアウトカムを維持すべく，在宅サービスセンターによるフォローアップ体制の強化，介護報酬改定に基づいたみなし事業としての訪問リハビリを展開した。引き続き三島圏域地域リハビ

リ地域支援センターや大阪府重度心身障がい児地域生活支援センターの責務も担っており，日本リハビリ医学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている。

■2019年度のトピックス・実績

1年間の退院患者数は1,768名（月平均147.3名）と昨年より若干減少した。一方平均在院期間は53.7日（2018年は52.5日）と前年より若干延長している（表1）。主病名のICD-10による疾患大分類では，脳血管疾患を含む循環器疾患が26.8%（前年28.0%）とやや減少，大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が35.5%（前年34.7%）と増加していた（表2）。紹介元では，高槻病院は29.2%（前年30.5%）と近年の減少傾向が継続しており，高槻市内の他医療機関は41.1%（前年39.6%），大阪府下（高槻市外）の医療機関は23.3%（前年22.6%）と紹介元の範囲が昨年に引き続き広域となる傾向が見られた。退院後の転帰は自宅退院が78.5%，手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は9.8%であった（表3）。診療報酬から計算した居宅等復帰率は91.0%（前年88.4%）と若干前年より高い比率となった（表4）。最終的には前年度実績を上回る過去最高の活動を残すことができた。

“Rプロジェクト”の完成によるハード面の拡充に引き続き，ソフト面の充実によるリハビリ医療の更なる質向上に努めた。その一環として9月には，日本医療機能評価機構の機能種別版評価項目3rdG・VER.2.0を受審し，付加機能ともども認定を受けることができた。2000年に初回の認定を受けて以来5回目，付加機能は4回目の認定となった。

増設した回復期リハビリ病棟の安定稼働に加え，4月の診療報酬改定でアウトカム評価を含むリハビリ評価指数の充実が求められるようになり，他部署とも連携してリハビリ実績指数の維持に努めた。

学会活動としては，筆頭演者として日本リハビリ医学会総会などに12演題の発表を行った。また8編の論文の投稿を行っている。更には今年度も新たに2名の日本リハビリ医学会専門医を輩出することができた。

■今後の展望

「再びその人らしい生活に」の理念の下、引き続き日本一のリハビリ専門病院を目指していく。回復期リハビリ5病棟は、入院基本料1、体制強化加算を引き続き堅持する。診療の現場では、リハビリのジェネラリストとしての医師にとどまらず、よりキメの細かい専門的なリハビリ医療を提供していきけるよう、サブスペシャリストの養成や診療体制の充実を図る。一方、在宅退院後の患者に対しても、シ

ームレスな医療や介護の提供ができるよう、通院リハビリを更に充実させ、在宅サービスセンターや高槻エリアとも密に連携して、退院後のフォローアップ体制の一層の強化を図っていく。また診療部でも働き方改革が強力に求められており、長時間労働を回避しながら、限られた資源と時間を有効に活用して、効率性・生産性を引き上げ、アウトカムを高めていけるよう努力を続けていく。

(兒島正裕, 吉田和也)

表 1. 診療科別・在院期間 退院患者数

診療科	退院患者(名)	平均在院(日)
リハビリテーション科(回復期)	1,128	66.5
リハビリテーション科(障害成人)	255	37.4
リハビリテーション科(小児)	307	20.3
リハビリテーション科(その他)	78	54.8
計	1,768	53.7

表 3. 紹介元医療機関

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	517名	29.2%
高槻市内	727名	41.1%
大阪府下(高槻市外)	413名	23.3%
大阪府外	112名	6.3%
当院外来	1名	0.1%
計	1,770名	100.0%

表 2. 疾患大分類 (ICD-10) 別・診療科別 退院患者数 (単位:名)

	回復期		障害		小児		その他		総計	
	計	計	計	計	計	計	計	計		
I 感染症及び寄生虫症	2	0	0	0	0	0	2	2		
II 新生物	7	1	0	0	0	0	8	8		
III 血液造血器疾患及び免疫疾患	0	0	0	0	0	0	0	0		
IV 内分泌栄養代謝疾患	0	0	12	1	13		13	13		
V 精神及び行動疾患	0	0	10	0	10		10	10		
VI 神経系疾患	30	64	191	2	287		287	287		
VII 眼及び付属器疾患	0	0	5	0	5		5	5		
VIII 耳及び乳様突起疾患	0	0	0	0	0		0	0		
IX 循環器疾患	392	57	0	25	474		474	474		
X 呼吸器疾患	0	0	0	0	0		0	0		
XI 消化器疾患	0	0	0	0	0		0	0		
XII 皮膚皮下組織疾患	0	2	0	0	2		2	2		
XIII 筋骨格結合組織疾患	123	5	0	15	143		143	143		
XIV 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0		0	0		
XV 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0		0	0		
XVI 周産期疾患	0	0	5	0	5		5	5		
XVII 先天奇形・染色体異常	2	12	69	0	83		83	83		
XVIII 症状・徴候・検査異常	0	9	3	1	13		13	13		
XIX 損傷・中毒外因性疾患	488	99	12	29	628		628	628		
XX 健康状態の影響要因	84	6	0	5	95		95	95		
	1,128	255	307	78	1,768		1,768	1,768		

退院時の転帰

転帰先	退院数	
自宅退院	1,388名	78.5%
転院	174名	9.8%
うち 高槻病院	70名	(40.2%)
転所	206名	11.7%
うち 老健施設	79名	(38.3%)
死亡退院	0名	0.0%

表 4. 在宅復帰率

①対象退院患者数	1,139名
1. 居宅	830名
2. 介護老人福祉施設	18名
3. 介護老人保健施設	73名
4. 他の回復期リハ病棟	1名
5. 4を除く病院、有床診療所	18名
転棟	11名
高槻病院	53名
その他	50名
6. その他(有料老人ホーム等)	85名
② 上記①のうち、退院先が居宅等であった	933名
③ 居宅等復帰率 $100 \times ② / ①$	91.00%

看護部

■スタッフ紹介

職員数 216 名（産休・育休者 7 名）

内訳：看護師 170 名

（平均：年齢 40.0 歳，経験年数 7.5 年）

看護助手 46 名

（平均：年齢 45.5 歳，経験年数 9.1 年）

離職率

看護師（常勤）11.5%，看護師（非常勤）8.7%，離職理由は他分野への興味，適正や能力への不安が最も多かった。看護助手（常勤）9.4%，看護助手（非常勤）14.3%，離職理由は進学が最も多く，子育て，他分野への興味，適正や能力への不安であった。非常勤職員の離職率が高い傾向にある。

■病床活動状況

褥瘡発生率：0.35%，褥瘡治癒率：76%（前年度比 124%）

褥瘡有病率：2.47%

経鼻経管栄養から経口摂取への移行率：51.7%維持

窒息事例 58.4%減少 体重減少率 43%（前年比 20%減）

入退院支援加算算定率：99.4%（前年比 162.9%）

■看護部事業

目標 1. ICF の概念を活用した看護実践「栄養～排泄」

副主任会では 2018 年度から取り組んできた栄養管理のより実践化を図った。栄養状態のアセスメントフローや，活動の変化に伴う必要エネルギー量の算出から評価を行

うシステムを作成し，運用を開始した。課題は多職種カンファレンスを行い，より個別性のあるケアに繋げることである。

目標 2. 「その人らしさ」を大切にしたい看護計画立案・実践
主任会では 2018 年度に取り組んだアセスメント様式の改定から，ICF の概念を踏まえた看護計画の立案・実践に向けたマニュアル作成を行い，ICF 看護計画の稼働を開始した。タイムリーな計画修正・追加が課題である。

目標 3. クリニカルラダーによる人材育成

看護部目標 1 の ICF の理解や「栄養」「排泄」，「高次脳機能障害」をテーマとして，研修の企画・実施を行った。ラダー認定状況は，レベルⅡ：11 名，レベルⅢ：4 名が認定更新できた。実際の事例を用いて研修を行うことで，病態アセスメントの方法を再学習できた。これらの学びを実践にいかすことが課題である。

目標 4. コンピテンシーを活用した看護管理者の育成

副主任会議で各々の事例を用いてリフレクションを行い，管理的視点について理解を深めることができた。

■今後の展望

ICF の概念に基づき，患者主体の多職種共通する目標を掲げ，その達成に向けた活動を展開していく。そのためには，看護師の病態アセスメント能力の強化と入退院支援強化，愛仁会キャリアラダーを活用した人材育成，更にアジア医療構想における技能実習体制の確立に向け全職種の支援協力による充実を図る。

表 1. 病棟活動状況

病棟	平均在院日数	病床利用率	入院B項目	在宅復帰率	FIM利得	1日1人当たり平均単価
4階東病棟	68	99.3%	38.1%	88.8%	50.3	42,784
4階西病棟	66	99.4%	40.8%	89.9%	51.6	41,636
5階東病棟	68	99.3%	40.1%	93.1%	46.6	42,060
5階西病棟	67	99.2%	43.6%	87.7%	50.6	42,184
8階病棟	71	99.3%	38.5%	89.7%	49.1	41,587
6階病棟	28	88.9%	障がい者比率：75.4%			37,975
全体	61.3	97.6%	40.2%	89.8%	49.6	41,371

表 2. 臨地実習受け入れ状況一覧表

(単位:名)

学校名	人数	内容	学校名	人数	内容
A 愛仁会看護助産 専門学校	40	基礎看護学実習Ⅰ	C 大阪医専	9	基礎看護学実習Ⅰ
	48	基礎看護学実習Ⅱ		9	成人看護学実習 リハビリ期
	23	老年看護学実習Ⅱ		19	成人看護学実習 慢性期
	20	統合実習		32	小児看護学実習
	17	地域実習(助産学科)	D 摂南大学	20	小児看護学実習
B 京都光華女子大学	9	成人看護学実習Ⅰ	E 梅花女子大学	9	老年看護学実習Ⅱ
	8	統合実習	F 藍野大学	16	基礎看護学実習Ⅱ

理学療法科

■スタッフ紹介

2019年4月1日に9名の新入職員が入職し、計83名の理学療法士が活動した。

■業務内容

理学療法の対象疾患は脳血管障害後遺症を中心とした中枢神経疾患と大腿骨近位部骨折等の整形疾患が多く、近年は脊髄損傷も増加傾向にある。筋力増強運動、関節可動域運動、神経筋再教育、協調性運動等の運動療法を行うのと同時に、病棟での日常生活に結びつくように基本動作練習を行っている。また、入院早期に自宅環境を確認するための入院時訪問、退院後の生活を見据えた外出練習や退院前の自宅環境を調整するための退院前訪問指導など、院外での業務も積極的に行っている。さらに、退院後の生活について確認するための退院後訪問も行っており、より実生活を踏まえた理学療法が提供できるよう取り組んでいる。

心臓リハビリテーション外来では、急性期病院を退院した患者に対し、運動療法だけでなく医学的評価と患者教育・生活指導（2次予防教育・心不全管理）及びカウンセリングを医師・看護師とともに実施している。

また、装具や脊損・車椅子、筋電・ロボット、InBodyなど、臨床グループによる研究活動や新しい知識の習得、研鑽も積極的に行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年4月1日～2020年3月31日までの総患者数は1,783名。入・退院時のADL状況を図1に示す。2019年度理学療法診療報酬件数は理学療法281,008件であった。また、心大血管リハビリテーションの実施件数は3,859件（前年比130%）であった（表1）。

2019年下半期はADLの早期改善を図るために回復期、障害者病棟の全病棟で集団起立練習を開始した。目標回数は120回に設定し、理学療法士が付き添いながら実施した。活動当初は参加者が3～4名であったが、徐々に増えて平均40名が参加するようになり、現在では互いに刺激し合い活気がある練習の場となっている。膝伸展筋力はもちろん動作能力も改善が認められることから今後も継続的に取り組んでいく。

■今後の展望

年々在宅生活への早期移行が進む中、前方・後方連携は不可欠であり、フォローアップ体制を整備することは急務となっている。入院中から在宅生活を見据えたアプローチを実践し、今後も切れ目のないリハビリテーションの提供、フォローアップ体制の拡充と強化を図っていく。

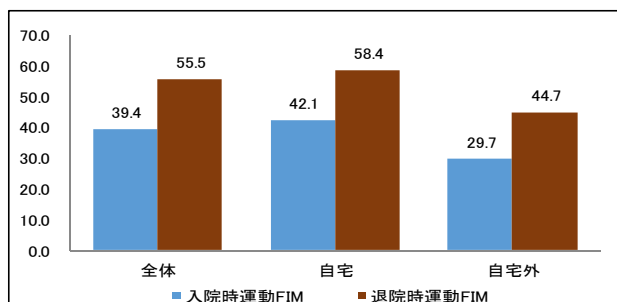


図1. 入・退院時のADL状況

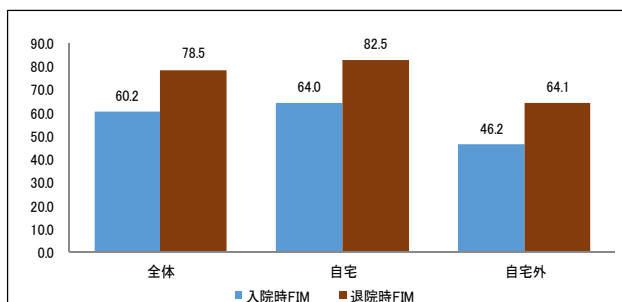


表1. 2019年度理学療法診療報酬件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法 (入院)	22,382	23,675	24,270	25,046	24,300	22,854	22,854	22,590	23,336	23,188	21,638	24,231	280,364
理学療法 (心リハ外来)	357	337	338	417	334	339	343	303	262	291	274	264	3,859

作業療法科

■スタッフ紹介

2019年度、作業療法科は4月に10名の新入職者を迎え、72名の体制で活動を開始した。異動、退職者を合わせて66名となり2020年3月末現在に至る。

■業務内容

2017年12月に高槻病院の外來部門の移転に伴い、リハビリテーションセンターが3階から2階に移った。自宅を模した和室やリビング、キッチンがあるADL室、パソコン室も新設され、充実した設備となった。

対象疾患は脳血管障害、脳性麻痺、脊髄損傷、大腿骨頸部骨折等である。

作業療法の内容として患者の日常生活における食事、排泄、家事動作等の応用動作能力の向上を目的に、神経筋再教育、筋力増強、関節可動域改善、作業活動の利用、病棟訓練等を実施している。いずれも在宅復帰が目標であり、積極的に進めていくために入院時訪問、退院前訪問指導を実施している。入院時訪問は主に三島圏域を対象に、住宅・生活環境を調査し、その情報を基に訓練、動作指導を行っている。退院前訪問指導は自宅環境整備、生活の場での日常生活動作指導を患者、家族に実施している。いずれも理学療法士、医療ソーシャルワーカーの院内スタッフとの連

携にとどまらず、介護支援専門員などの地域スタッフとも連携を取りながら行っている。2014年度より退院後訪問調査を実施しており、退院後の実際の生活を見ることで患者満足度、セラピストの学習効果の促進を図っている。

■2019年度のトピックス・実績

第4回 AIJINKAI 高次脳機能セミナーを2月に開催。外部講師の講義を通じて高次脳機能障害の理解を深めることができた。麻痺側上肢に対して、CI療法を実践するようになった。病院機能評価の付加機能審査において、「作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる」の項目でSランク評価を受けた。昨年度より単位数の減少は、退職者、産前産後休暇、育児休暇者の増加により、実人員の減少の影響である。

・実績

- ①年度別処方件数 (図1)
- ②訪問件数 (図2)
- ③月別総単位数 (図3)

■今後の展望

今年度は育児休暇者を見込んだ作業療法士の増員があった。療法を量的な安定した提供と質的な提供を両立し、教育体制や作業療法の体系を構築していきたい。

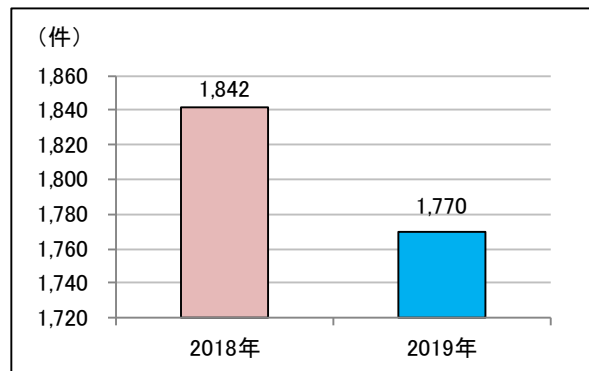


図1. 年度別処方件数

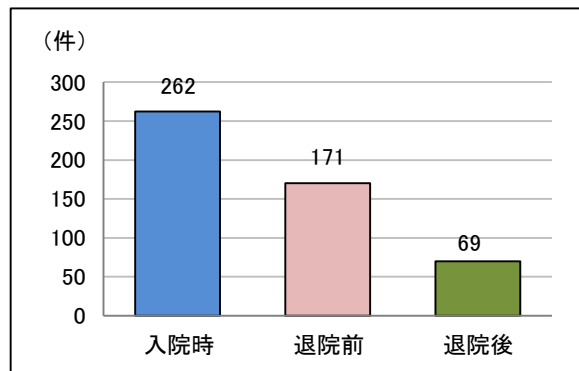


図2. 訪問件数

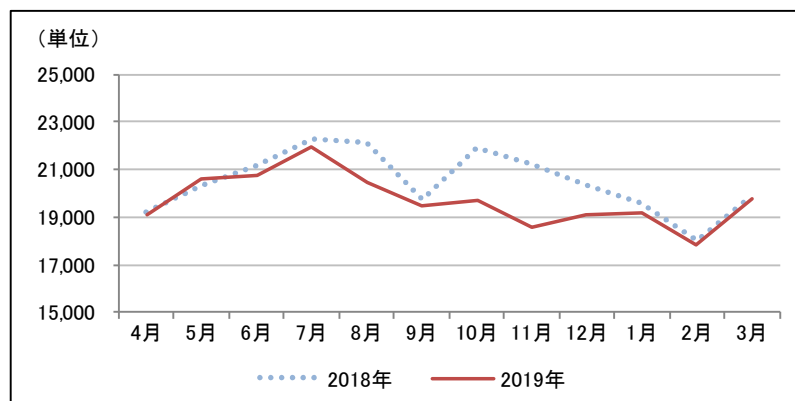


図3. 月別総単位数

言語療法科

■スタッフ紹介

26名

西島浩二	梶川紗緒里
石井和樹	長岡実咲
飯田久美	岩見瑤子
生田 匠	井下雅恵
平尾さやか	高橋 円
直山夕子	長谷川勝紀
原田成実	神垣友里奈
上土井美理	岡村春華
小島諒子	磯井枝里花
山岡伶子	鮫島啓精
河田紀子	小林奈央
湯室友莉	竹島健介
田中菜美	北田真紀

■業務内容

脳卒中・頭部外傷・中枢神経疾患・廃用症候群などの原因によりコミュニケーション機能の障がいや摂食・嚥下機能の障がいがある方に、また周囲の方々に対して、評価・訓練・指導・助言・援助を行う。

回復期病棟、障がい者病棟にて活動することで、成人だけでなく小児疾患への介入も行っている。

・対象障害

失語症、構音障害、音声障害、言語発達障害、高次脳機能障害、摂食嚥下機能障害、重度心身障害など

■2019年度のトピックス・実績

・トピックス

摂食嚥下機能障害に対して、ジェントルスティムやバイタルスティムを用いた頸部電気刺激療法を開始した。

・実績

①処方数（図1）

②単位数の推移（表）

③嚥下検査件数（図2）

■今後の展望

スタッフ数も年々増員しているが、その半数以上が経験の浅いスタッフとなっている現状がある。

今後、より良いリハビリテーションを提供していくためには、言語療法科全体の質の向上が必須である。

そのためにも、より充実した勉強会の実施や学会・研修会への積極的参加を促し、研鑽機会や研鑽意欲を高めることが必要であると考えます。

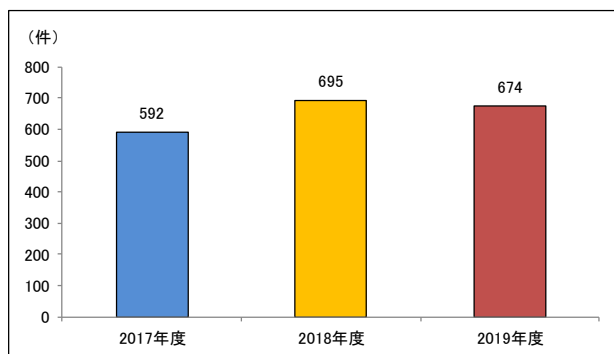


図1. 処方数

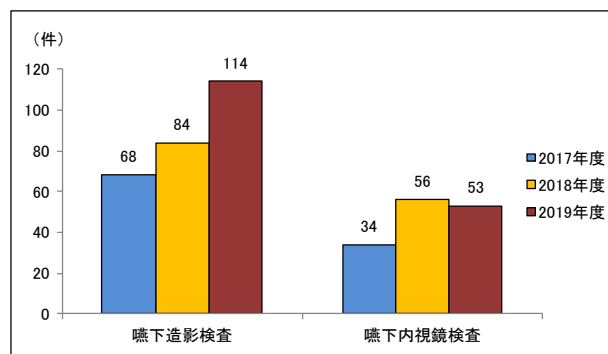


図2. 嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査件数

表. 単位数の推移

	(単位: 単位)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	6,347	7,157	7,710	7,830	7,734	7,157	7,427	6,801	7,655	7,202	7,146	7,765	87,931
2018年度	7,717	7,979	8,414	8,849	8,421	7,389	8,277	7,765	7,689	7,609	6,989	7,590	94,688
2019年度	6,629	7,331	7,524	7,724	7,531	7,222	7,014	6,728	7,022	7,023	6,671	7,418	85,837
前年同月比	85.9%	91.9%	89.4%	87.3%	89.4%	97.7%	84.7%	86.6%	91.3%	92.3%	95.4%	97.7%	90.8%

教育研修科

■スタッフ紹介

科 長：長岡正子（理学療法士）

副主任：白井宏樹（理学療法士）

副主任：横山武志（作業療法士）

科 員：上本武子（言語聴覚士）

■業務内容

リハ技術部全体に関する教育研修計画を企画実施し、横断的な教育を実施する。また、他部門と連携した教育研修も請け負う。

1. Off-JT

①新入職員研修（表1）

全新入職員（リハ技術部、看護部、診療技術部、事務部）を対象とし、愛仁会リハビリテーション病院の職員として共通して必要な病院理念・施設概要、各職種理解など基礎分野の研修を行った。

②2年次研修（表2）

療法士として基本的に身につけておくべき事項について研修を展開した。症例報告会を行い、自らが行った評価、治療を振り返り、要点をまとめ伝える演習を行った。

③3年次研修（表3）

療法士として基本的に身につけておくべき事項に加え、指導的役割や地域連携などについても取り挙げた。2年次症例報告会に参加して指導補助を行うことで、指導的視点を養う演習を行った。

④指導者（プリセプター）研修（表4）

新入職員の指導にあたるプリセプターに対し、新入職員研修のあり方や指導者の役割、新入職員のサポート方法について研修を行った。

⑤リーダー研修（表5）

リハ技術部スタッフはチーム医療促進のため病棟配属制となっている。病棟リーダー及びチームリーダーに対し、その役割とチームマネジメントについて研修を行った。

⑥役職者研修（表6）

愛仁会リハビリテーション病院、高槻病院合同で副主任以上のセラピストを対象に研修を行った。樺副院長、大垣

部長より、役職者としての心得などをお話いただいた。

また、新任副主任を対象に目標管理を中心とした新任副主任研修を行った。

⑦その他の研修（表7）

リハ技術部の全職員及び診療技術部、事務部、在宅サービスセンター（セラピスト、ケアマネジャー、ヘルパー）職員を対象に、リトルアン、AED トレーナーを使用したBLS研修を行った。また「整形外科疾患」について理解を深めるために、3年目のセラピストを対象に事前質問に答える形式で吉田院長に講義をしていただいた。

2. OJT

Off-JT で取り入れた知識を臨床場面で活用できるようにするため、カンファレンスや治療場面で併診し、指導を行った。

■2019年度のトピックス・実績

①Off-JT の評価として受講者及び教育担当者に対してアンケート調査を実施し、次年度に向けての改善点を確認した。その上で内容・手法の確認が必要な箇所について変更を行った。

②新入職員に対して、指導者の業務伝達内容に過不足が生じないようにチェックシートを使用。またKTPシートを用いて月々の目標設定と進捗の確認を行った。

③教育ガイドラインリスク管理項目に基づいたスキルチェックシートを活用し、知識・技術の習得状況の確認を行った。

④後方連携の充実に向けた取り組みとして、退院後の外来見学や退院前訪問指導の同行状況の確認を行った。

■今後の展望

リハ技術部内各科との連携を密にし、セラピストが専門職として最大限の能力が発揮できるよう支援する。

また、各セラピストがチームの一員として円滑に協働できるように、多角的な視点での支援に努めたい。

表 1. 新入職員研修

日時	教育研修内容	目標
2019年4月5日(金)	オリエンテーション	・第2期新入職員研修の理解 ・病院概要の理解(衣食構成含む) ・当院(ハビリテーション科)の体制の理解 ・救急グループ/ハビリテーション部門研修ガイドライン
2019年4月8日(月)	施設基準・診療報酬 回復期リハビリテーション 科がいち医療科について	・施設基準の理解 ・診療報酬についての理解 ・回復期リハビリテーション科の理解 ・障がい医療科についての理解
2019年4月9日(火)	リハビリテーションとは	・リハビリテーションの理解
2019年4月10日(水)	医療安全について①	・医療安全管理の理解 ・患者情報の漏れを把握する ・当院におけるインシデント、アクシデントの傾向の理解 ・転倒予測、スキムテア ・フローチャートの理解(転倒転落・急変時) ・リハビリ科事故対応マニュアルの理解
2019年4月11日(木)	感染予防について①	・感染予防の理解(スタンダードプリコーションの理解) ・職員感染時の対応の理解 ・感染予防の理解(リハ技術部)
2019年4月12日(金)	リハビリテーション科について	・自励性・他励性の役割を理解し、連携につなぐ ・リハビリテーション科を理解する
2019年4月15日(月)	理学療法について 作業療法について	・自励性・他励性の役割を理解し、連携につなぐ ・理学療法について ・作業療法について
2019年4月16日(火)	言語聴覚療法について リハビリテーション看護について	・自励性・他励性の役割を理解し、連携につなぐ ・言語聴覚療法及びリハビリテーション看護を理解する
2019年4月17日(水)	MSWについて 看護事例について	・MSWを理解する ・管理科、食事科、診療情報管理室の仕事の理解
2019年4月18日(木)	接遇①	・接遇の基本について理解する ・よくある事例に基づき接遇、他業、医療安全について理解する
2019年4月19日(金)	回復期リハビリテーション科科について 診療業務手順について	・チーム制 ・カンファレンス/入院時訪問/退院前訪問指導/入院から退院までの流れの理解 ・カンファレンスの重要性と完全参加の理解 ・日常生活機能評価(看護の重要項目)の理解 ・日/週の流れの理解
2019年4月22日(月)	QUTの概要・入院時全評価 QUTの概要・初期カンファレンス QUTの概要・2か月目カンファレンス QUTの概要・退院時カンファレンス	・入院時全評価のあるべき姿を理解する ・初期カンファレンスのあるべき姿を理解する ・2か月目カンファレンスのあるべき姿を理解する ・退院時カンファレンスのあるべき姿を理解する
2019年4月23日(火)	FIM 教育ガイドライン	・FIMを用いたADL評価について理解する ・救急グループ教育ガイドラインの理解
2019年4月24日(水)	評価について	・臨床的評価過程を理解する ・ICFに基づいた障がいへの見え方を理解する
2019年4月25日(木)	医療安全について②	・転倒予防 実践 ・転倒予測、介助
2019年4月26日(金)	起居移動動作について	・起居、移動動作時の注意点を理解する ・起居、移動動作時の注意点を踏まえた実践ができる
2019年4月30日(火)	FIM(リハ技術部)①	・正確にFIMをつけることができる(移動)
2019年4月30日(火)	FIM(リハ技術部)②	・正確にFIMをつけることができる(セルフケア)
2019年5月1日(水)	FIM(リハ技術部)③	・正確にFIMをつけることができる(認知)
2019年5月7日(火)	急性期・回復期・生活期のリハ医療について①	・法人連携エリアの各病院・施設におけるリハビリテーション部門の特徴を理解し、連携のイメージを具体化する
2019年5月14日(火)	医療安全について③	・吸引器、心電図モニター、人工呼吸器の使用目的の理解 ・医療安全上の留意点の理解 ・当院で提供される薬の薬理効果及び副作用の理解 ・放射線について(X線画像、CT、MRI、VFについて)
2019年5月21日(火)	チーム医療①	・リハビリテーション科のチーム医療における取り組みを知る ・認知症診療、泌尿器科、腎臓科、歯科連携
2019年5月28日(火)	選出業務見学について リスク管理について ①基礎	・選出業務見学オリエンテーション ・リスク管理に関わる理解機能を理解する
2019年6月4日(火)	車椅子について	・「車いす」の理解 ・調整の仕方を理解する
2019年6月17日(月) ～6月28日(金)	選出業務見学	・看護科の自動歩行器の動きや役割を理解する ・患者の自動歩行器のADL能力を理解する
2019年7月9日(火)	選出業務見学	
2019年7月23日(火)	チーム医療②	・リハビリテーション科のチーム医療における取り組みを知る ・泌尿器科、泌尿器科、リハビリテーション科
2019年8月6日(火)	接遇②	・高次脳機能障害の理解及び関わり方を学ぶ
2019年8月20日(火)	接遇③	・認知症の理解及び関わり方を学ぶ
2019年9月10日(火)	リスク管理について ②応用	・リスク管理に関わる理解機能を理解する
2019年9月24日(火)	6か月目の振り返り	・教育ガイドライン 6か月目自己評価 ・半年間得たものを整理し、下半期に向けた目標を設定する
2019年10月15日(火)	脳画像と歩行能力	・脳画像と歩行能力について事例を通じて理解する ・器具の役割について知る
2019年10月29日(火)	自立支援	・自立支援の理念と福祉用具の導入の意味を理解する ・ICFの視点を理解する
2019年11月12日(火)	摂食・嚥下	・姿勢管理なども含めた包括的視点から嚥下障害を理解する
2019年11月19日(火)	BLS研修	・緊急時の初期対応を覚えて理解する
2019年11月26日(火)	BLS研修(予備日)	・緊急時の初期対応を覚えて理解する
2019年12月3日(火)	感染予防について②	・感染予防の理解、職員感染時の対応の理解 ・感染予防の理解 リハ技術部
2019年12月17日(火)	介護保険制度	・介護保険の概要、介護認定までの期間や流れの理解 ・事例を通じて在宅支援の実際がイメージできる
2020年1月21日(火)	急性期・回復期のリハ医療について	・急性期、回復期のリハビリテーション科の役割と意義を理解する
2020年2月18日(火)	生活期のリハ医療について	・生活期のリハビリテーション科の役割と意義を理解する
2020年3月10日(火)	1年間の振り返り	・教育ガイドライン 12か月目自己評価 ・1年間得たものを整理し、次年度に向けた目標を設定する

表 2. 2 年次研修

日時	教育研修内容	目標
2019年5月9日(木)	2年次の目標確認 リハビリテーションの理解	・教育ガイドラインを参考とした2年次の目標確認 ・リハビリテーションの理解を深める ・Case studyについての説明 説明と同意、守秘義務、個人情報保護の観点も踏まえて
2019年6月6日(木)	医療安全 接遇・他業	・動作時の転倒の危険を予測し安全を確保できる(転倒予防実践) ・チェックリストを用いた日々の接遇の振り返り ・接遇・他業・医療安全について理解する
2019年7月1日～ 10月21日 毎週月曜日	症例報告会	・倫理的配慮を含めた各療法のプロセス、リスク管理、連携について学ぶ ・自らが行った評価、治療を振り返り、次に活かすために内容を 要点をまとめ伝える。自分の意見を述べられる力を持つ 各自が行ったリハビリテーションを立として第3者に提示することができる 外部での発表に向けた症例発表のプロセスを学ぶ
2019年12月12日(木)	連携	・多職種協働の意義と価値を再考し、チーム医療を実践できる ・自ら率先して他院に向けた支援が行える ・前方連携、後方連携の重要性を理解し、情報提供を行うことができる
2020年2月6日(木)	1年間の振り返り	・Case studyを通じて学んだことを振り返る ・今年度の振り返り、来年度の課題を見つけ、目標を立てる

表 3. 3 年次研修

日時	教育研修内容	目標
2019年5月16日(木)	3年次の目標確認 基本的概念のフォローアップ研修	・教育ガイドラインを参考とした3年次の目標確認 ・指導的役割の理解 ・リハビリテーション、ICF、種別療法の理解を深める ・2年次Case studyのオリエンテーション
2019年6月13日(木)	医療安全 接遇・他業	・日々の接遇・他業・医療安全の視点を構える ・指導的視点を持つことができる
2019年7月1日～ 10月21日 毎週月曜日	2年次症例報告会への参加	・2年次研修に参画して指導的役割を行うことで、指導的視点を持つとともに 日々のQUTに活かすことができる ・学生や後輩の指導補助ができる
令和1年11月7日(火)	地域連携について	・前方連携、後方連携の重要性を理解し情報提供を行うことができる ・地域包括ケアについての理解を深める
令和2年2月13日(木)	自己研鑽について1年間の振り返り	・各職能団体の生涯学習の流れについて理解する ・日々の臨床の振り返り研究や学会発表、研修参加等の意義の理解 ・4年目以降の目標を持つことができる

表 4. 指導者(プリセプター)研修

日時	教育研修内容	目標
2019年4月3日(水)	指導者の役割について	・第1期新入職員研修のあり方を理解する ・指導者の役割が理解できる
2019年9月5日(木)	指導者の役割について	・新入職員研修の進捗状況を理解し、今後の予定を確認する ・新入職員のリポート方法について確認する

表 5. リーダー研修

日時	教育研修内容	目標
2019年5月23日(木)	リーダーの役割とは	・リーダーとしての役割を認識する、リソースを把握し理解する ・チームの課題を明確にして、リーダーとして目標を立案する ・今年度の教育研修計画について
2019年11月5日(火)	チームマネジメント	・上半期に立てた目標の進捗と見直し ・チームマネジメントについて理解する

表 6. 役職者研修・新任副主任研修

日時	教育研修内容	目標
2019年4月2日(火)	今期の目標について	・今期の目標について理解する ・役職者としての役割を認識する
2019年5月29日(水)	副主任って? 回復期リハビリテーション科の概要	・副主任の役割について理解する ・回復期リハビリテーション科に関わる様々な数値の理解
2019年7月17日(火)	救急グループ/リハビリテーション科の概要 救急グループ教育ガイドラインについての理解	・救急グループ/リハビリテーション科の概要 ・教育ガイドラインについて理解する
2019年9月18日(火)	組織管理のポイント	・科内及び自己の課題について目標管理を行い、課題解決に繋げる
2020年2月19日(水)	課題解決skill 科内、自己の問題解決一策	・実践科について振り返る

表 7. その他の研修

日時	教育研修内容	目標
2019年8月7日(水)、8日(金)、22日(水)、23日(金)	BLS	・緊急時の適切な初期-BLSを理解する
2020年3月4日(水)、5日(木)	整形外科疾患について	・整形外科疾患についての理解を深める

薬 剤 科

■スタッフ紹介

(科長) 川崎文雄
 (主任) 奥西美奈
 (副主任) 若林沙季
 愛知 祥, 与那城知夏, 前田早紀, 瀬戸 梓,
 松下比奈子, 田畑美更子

■業務内容

内服薬・外用薬・注射薬の調剤業務, DI 業務, 薬剤管理指導業務, 持参薬管理, 医薬品管理, 薬品マスター管理, 治験薬管理業務を中心に薬剤科業務を行っている。また, チーム医療や患者教室への参加, 学生実習の受け入れなども行っている。

【調剤業務】

処方箋枚数: 2,231 枚/月 (前年度比 102.8%)
 調剤件数: 4,762 件/月 (前年度比 101.0%)
 注射箋枚数: 216 枚/月 (前年度比 65.7%)
 疑義照会件数: 108 件/月 (前年度比 90.0%)

【DI 業務】

薬剤情報の収集・整理を行い, DI ニュースとして電子カルテのトップページに毎月掲載し, 院内スタッフに情報提供している。また科内では, DI ミーティングを行い, 全スタッフで情報共有している。

【薬剤管理指導業務】

全入院患者を対象に, 入院日, 新規処方開始日, 定期投薬日, 退院日を中心に薬剤管理指導 (9,448 件/年) を実施し, 患者・家族の服薬への理解が深まるよう努めている。

【持参薬管理業務】

全入院患者を対象に, 170 件/月の持参薬識別報告を実施した (前年度比 98.2%)。

【医薬品管理】

採用薬品数: 398 品目 (年度末時点)
 後発品採用率 (品目): 79.1% (年度末時点)
 後発品使用率 (使用数量): 95.2% (今年度月平均)
 毎月月末に棚卸を実施し, 適切な在庫管理に努めている。また, 院内の薬品配置場所における保管環境を毎日確認し, 薬品の品質管理を行っている。

【チーム医療】

ICT・AST・DST などのチーム医療に参画し, 毎週の病棟回診へも参加している。

【患者教室】

わかりやすいリハビリ教室脳卒中編, 脊損教室では, 患者・家族を対象に薬の役割についての講義を実施している。

■2019 年度のトピックス・実績

【薬剤総合評価調整加算】

診療部・医事科・薬剤科での情報共有・連携により, 積極的に継続処方薬の減薬調整に努め, 2019 年度は 74 件 (前年度比 94.9%) の算定に繋がった。算定率は前年度の 41.9%から 46.3%へ増加した。

【処方提案】

入院患者における薬物治療において, 薬剤師による処方提案を積極的に実施し, 2019 年度は 155 件 (前年度比 113.1%) のうち 122 件が変更に至った (変更率 78.7%)。

■今後の展望

他職種との連携を強化し, リハビリテーションにおけるチーム医療の一員として, 薬物療法の実践及び薬品に関わる安全管理を行っていききたい。また, 経験年数の浅い薬剤師も多く, 科員一人ひとりのスキルアップが課題となる。

表. 薬剤管理指導実績及び薬剤総合評価調整加算算定実績

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
薬剤管理指導1	415	449	402	448	405	370	432	379	400	410	370	383	4,863
薬剤管理指導2	264	251	269	313	293	322	350	287	275	217	241	279	3,361
退院時薬剤情報管理指導	121	97	97	103	100	96	131	93	103	94	89	100	1,224
薬剤総合評価調整加算算定	3	4	11	6	6	6	9	11	5	4	5	4	74

放射線科

■スタッフ紹介

(主任) 高橋大造 (科員) 和田 尚

■業務内容

TV 検査は VF 検査, 膀胱造影, PEG 交換を実施しており, エコー検査は腹部, 表在, 下肢深部静脈は放射線技師, 心臓, 頸動脈は担当医が行っている. 一般撮影, CT 検査は当院で行っているが, MRI 検査, 骨塩定量検査は高槻病院の協力の下実施している. 当院の特色として一般撮影で車椅子検討会直後に車椅子に座ったまま撮影を行う車椅子全脊椎撮影を行っている.

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年 4 月より歯科診療が週 1 回から 2 回に増えたので歯科撮影が前年比 665%(+305 件)と大幅に増加した. 骨塩検査は整形外科医から骨粗鬆症治療のための依頼が増え前年比 930%(+83 件)であった. TV 検査では膀胱

造影が順調に伸び前年比 131%(+63), MRI 検査は前年比 121%(+16), CT 検査も好調で前年比 118%(+206)であった. エコー件数は前年比 105%(+28 件)と下肢静脈エコー検査が定着した. 一般撮影は整形外科のオーダーが増え前年比 104%(+79)であった. それらを合わせ, 放射線科全体の撮影件数は前年比 113%(+730 件)となった.

トピックとして高橋が 8 月に札幌で行われた日本病院学会で「当院におけるビデオウロダイナミクス検査の取り組み～事前エコー検査の有用性～」の演題発表を行った.

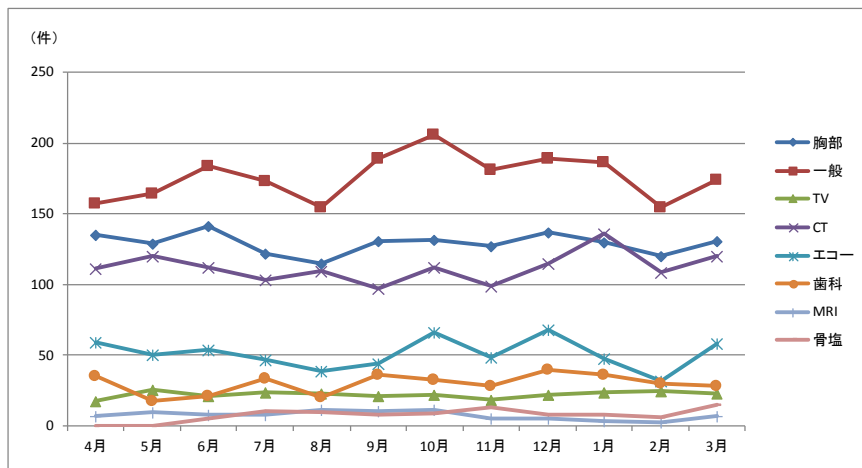
■今後の展望

2020 年 4 月より歯科診療が週 2 回から 3 回に増えるため, 歯科撮影件数は昨年度より増加すると予測する. また 4 月から骨粗鬆症外来が開設されるので骨塩定量検査と腰椎, 股関節などの一般撮影も増加すると考える.

図表 1. 2019 年度活動実績

(単位:件)

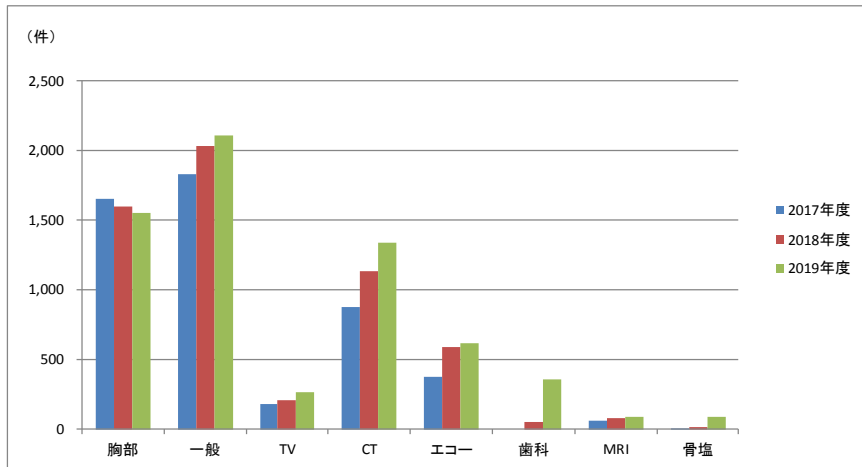
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胸部	135	129	141	122	115	131	132	127	137	130	120	131	1,550
一般	157	164	184	173	155	189	206	181	189	186	155	174	2,113
TV	18	26	21	24	23	21	22	19	22	24	25	23	268
CT	111	120	112	103	110	97	112	99	115	136	109	120	1,344
エコー	59	50	54	47	39	44	66	49	68	48	32	58	614
歯科	35	18	21	34	20	36	33	28	40	36	30	28	359
MRI	7	10	8	8	12	11	12	5	5	4	3	7	92
骨塩	0	0	5	11	10	8	9	13	8	8	6	15	93
合計	522	517	546	522	484	537	592	521	584	572	480	556	6,433



図表 2. 3 年間の活動実績

(単位:件)

	胸部	一般	TV	CT	エコー	歯科	MRI	骨塩	合計
2017年度	1,656	1,834	180	875	374	0	56	5	4,980
2018年度	1,600	2,034	205	1,138	586	54	76	10	5,703
2019年度	1,550	2,113	268	1,344	614	359	92	93	6,433



検 査 科

■スタッフ紹介

(副主任) 中山智子

■業務内容

(検体検査)

一般尿検査・尿沈査

血液ガス検査

インフルエンザなどのウイルス検査

(生理検査)

心電図

ABI

肺機能

筋電図

など

(他) ICT などのチーム医療にも参加している。

■2019 年度のトピックス・実績

病院検査室となり 2 年目の 2019 年度は検体提出数もほぼ横ばいで安定し、全検体数の約 85%が外注検査となった。

■今後の展望

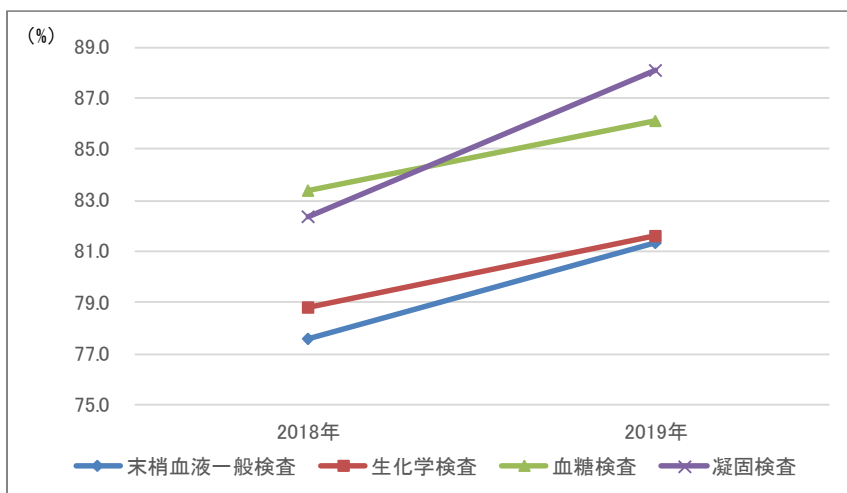
科員 1 名であるため、勉強会や有給休暇所得時の応援体制など、昨年同様高槻病院と連携を図っていきたい。

表 1. 2019 年度外注率

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率	外注 (件)	外注率
末梢血液一般検査	283	79.7%	279	79.5%	261	77.9%	290	83.6%	260	80.2%	275	81.4%	320	86.0%	309	83.7%	274	79.2%	275	72.6%	267	85.6%	316	87.1%	3,409	81.3%
生化学検査	285	81.4%	283	78.5%	293	80.3%	284	83.3%	271	78.8%	282	81.5%	328	84.8%	320	85.6%	293	80.7%	290	73.2%	278	85.3%	324	86.4%	3,512	81.6%
血糖検査	254	86.7%	250	85.9%	225	79.8%	232	87.9%	195	84.4%	206	83.7%	224	88.5%	220	87.6%	208	85.5%	219	77.9%	210	98.6%	248	89.9%	2,689	86.1%
凝固検査	169	83.7%	163	88.6%	160	82.1%	169	86.2%	147	87.0%	176	86.7%	193	92.3%	196	93.8%	181	87.4%	175	82.9%	163	92.6%	185	93.9%	2,077	88.1%

図表 1. 外注率

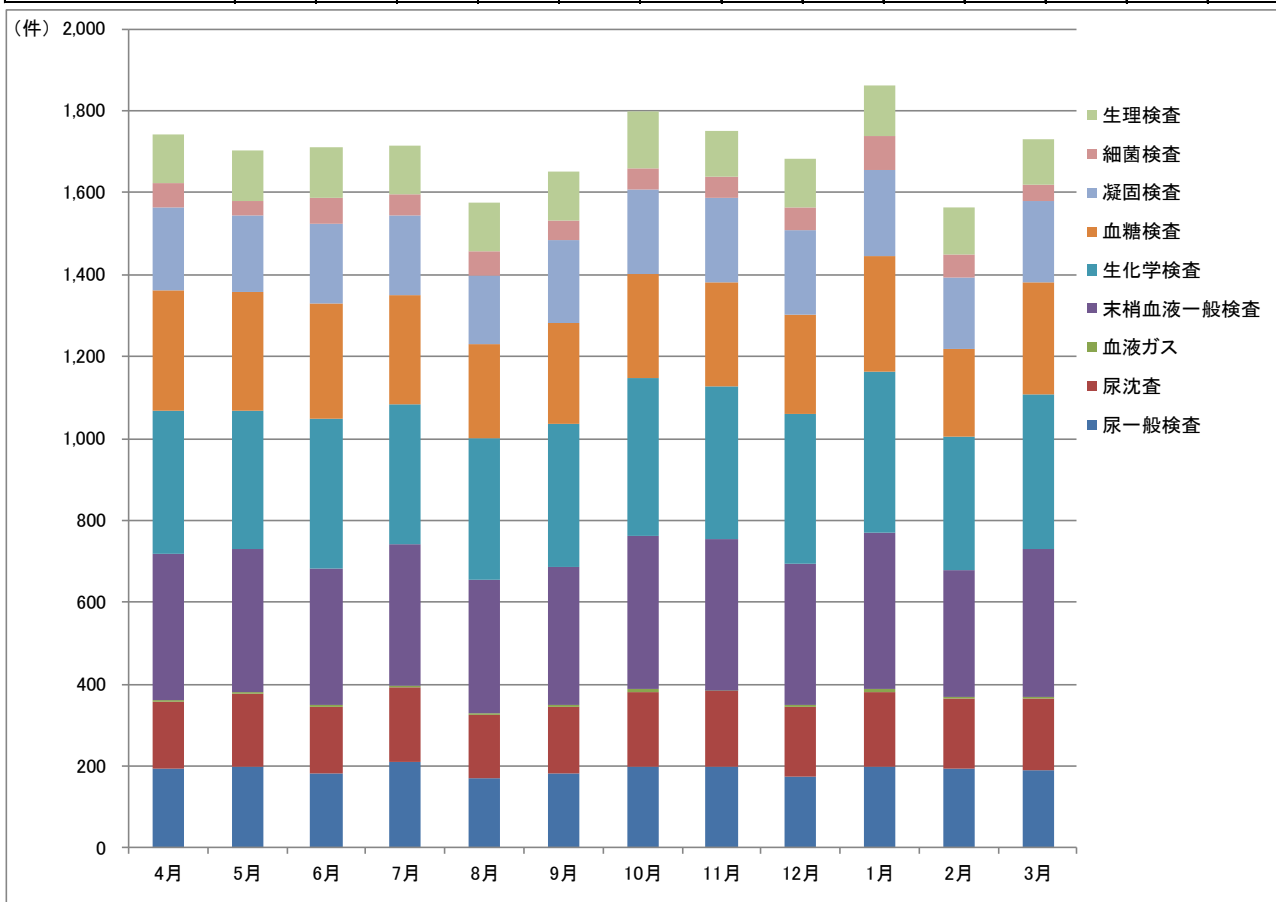
	2018年	2019年
末梢血液一般検査	77.6%	81.3%
生化学検査	78.8%	81.6%
血糖検査	83.4%	86.1%
凝固検査	82.3%	88.1%



図表 2. 2019 年度主な検査件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
尿一般検査	195	198	182	209	171	182	199	199	176	200	194	190	2,295
尿沈査	163	179	164	185	153	165	183	184	170	182	172	176	2,076
血液ガス	5	4	2	2	7	3	6	3	4	7	1	2	46
末梢血液一般検査	355	351	335	347	324	338	372	369	346	379	312	363	4,191
生化学検査	350	335	365	341	344	346	387	374	363	396	327	375	4,303
血糖検査	293	291	282	264	231	246	253	251	241	281	213	276	3,122
凝固検査	202	184	195	196	169	203	209	209	207	211	176	197	2,358
細菌検査	62	38	62	50	56	50	50	51	56	81	55	42	653
生理検査	118	121	124	119	121	118	139	111	120	124	114	108	1,437



栄養管理科

■スタッフ紹介

直営：管理栄養士（常勤） 5名
委託：管理栄養士（常勤） 2名 栄養士（常勤） 2名
調理師 3名 調理補助 13名

主に病院栄養士は献立・栄養管理業務と訪床業務中心、委託スタッフは、給食管理業務と調理・配膳を中心に協力し業務に従事している。また医療安全活動として週1回のミーティングで事例検討、問題点に対して改善を行ってきた。また年間のデータを集計し、スタッフへ情報提供するようにしている。

■業務内容

【入院食事管理】

- ・選択食メニュー（週10回）・お誕生日祝膳
- ・アレルギー、嗜好、摂食・嚥下障害などによる個別対応
- ・月1回の行事食
- ・適時配膳と温冷配膳車による適温給食（6台管理）

【給食管理】

・電子カルテによる献立管理・部門システム内での帳票管理

- ・患者嗜好調査（年2回）

【栄養相談と訪床業務】

- ・個別栄養指導（入院時・退院時・外来）
- ・初月・嚥下カンファレンス・退院時カンファレンス参加
- ・入院時の訪床業務（食事内容説明）
- ・栄養管理計画書作成（電子カルテ内）
- ・入院時栄養スクリーニング・日々の採血結果の確認
- ・栄養指導指示受け確認・報告記録入力
- ・退院時栄養サマリー作成（NSTや必要例）

【その他活動】

- ・NST・褥瘡防止委員会勉強会（年2回）
- ・わかりやすいリハビリ教室（年3回）
- ・チーム医療体制 NST活動（毎週水曜日）
- ・褥瘡回診同行（毎週水曜日）

■近況データの提示及び統計データの説明

給食実施件数実績（表1）では入院患者の食数割合を示す。特食加算の割合は全体の19.1%を占める。経管栄養患者の経口摂取訓練として5段階の訓練食をコード化、直接訓練として活用している。栄養指導は加算のみを表記し、算定対象外については訪床件数に含む。その他の活動として褥瘡回診件数やリハビリカンファレンスなどへの参加件数は表2にて示す。

「栄養サマリー」とは、転院先・かかりつけ医・在宅ケアスタッフへ入院中の経過や今後の注意点をまとめたものである。作成状況は、1,071件/年である。

NSTミーティング・回診実績（表4）では、対象者数を示す。全入院患者にスクリーニングを行い、摂食障害・褥瘡がある・経管栄養・低栄養などの条件で抽出された方を対象とし、実績状況は累計133件である。また勉強会やNST活動報告・症例報告会を開催し、栄養障害によるトラブルを早期に回避でき、情報提供を行えるようにしている。勉強会は年2回開催した（表5）。

■今後の展望

今年度は退院時の体重増減率が逆転し、退院時には体重増加となっている割合が増加した。その他にもBMI18.5未満の痩せの改善率、体重減少率等の栄養管理の結果も改善することができた。今後もリハビリテーション栄養の質の担保を継続し、栄養指導件数の増加を行う。

表 1. 給食実施数

(単位:食)

	一般食数	特別食加算	特別食非加算	訓練食数	VF検査食
4月	9,044	4,588	8,913	262	7
5月	8,286	4,774	7,899	316	10
6月	7,892	3,986	7,920	293	9
7月	8,654	3,937	8,487	318	7
8月	9,724	3,113	8,709	192	9
9月	9,547	5,115	7,657	106	7
10月	8,818	3,813	9,690	140	7
11月	7,934	3,667	10,223	223	11
12月	7,706	4,246	10,941	292	10
1月	7,631	5,196	10,050	243	12
2月	7,213	4,639	9,871	218	13
3月	8,221	3,662	11,360	272	10
合計	100,670	50,736	111,720	2,875	112

表 2. その他の活動

(単位:件)

	栄養科サマリー作成数	褥瘡回診同行	カンファレンス参加
4月	94	36	234
5月	84	42	233
6月	85	12	227
7月	91	20	232
8月	81	23	224
9月	93	24	223
10月	109	20	215
11月	87	23	226
12月	94	37	234
1月	93	32	239
2月	76	26	226
3月	84	20	220
合計	1,071	315	2,733

表 3. 栄養相談件数 (加算対象件数のみ)

(単位:件)

	栄養相談 (加算算定のみ)	訪床
4月	14	306
5月	21	298
6月	16	354
7月	28	402
8月	17	289
9月	23	360
10月	14	479
11月	21	458
12月	29	413
1月	27	482
2月	24	407
3月	34	583
合計	268	4,831

表 4. NST 実績表

(単位:件)

	新規	継続	合計
4月	4	11	15
5月	1	10	11
6月	6	3	9
7月	4	6	10
8月	5	8	13
9月	7	6	13
10月	5	10	15
11月	3	7	10
12月	5	4	9
1月	3	6	9
2月	4	4	8
3月	4	7	11
合計	51	82	133
平均	4	7	11

表 5. 栄養・褥瘡対策委員会勉強会

	実施年月日	テーマ
栄養・褥瘡対策 委員会勉強会	8月9日	リハビリテーション栄養
	2月21日	身体にかかる圧の影響と対策

表 6. 年間行事食

日時	内容
4月5日(金) 昼食	豆ご飯&桜デザート
5月2日(木) 夕食	八十八夜
6月14日(金) 夕食	夏バテ予防食
7月7日(日) 夕食	七夕
8月21日(水) 昼食	涼料理
9月16日(月) 夕食	敬老の日
10月15日(火) 夕食	さつまいもご飯
11月11日(月) 夕食	秋の味覚
12月25日(水) 夕食	クリスマス
1月1~3日(水~金)	お正月
2月3日(月) 夕食	節分
2月14日(金) 夕食	ヴァレンタインデー
3月3日(火) 夕食	雛祭り

地域医療部

■スタッフ紹介

部長：磯島さおり（副院長）

看護師：鶴 文代（科長），中村利都子（主任）

医療ソーシャルワーカー：

西尾 怜（主任），水本裕美子（副主任），

唐井周子（副主任），黒岩克美，細川美穂，木村泰美，

植田智美，渡部有加，寒川優希，琴浦友理，阿部愛美，

古谷怜花，西川侑希

公認心理師：佐野恵子

事務：松山紀子，松本朱美，杉本奈央

■業務内容

地域医療連携科では紹介件数増加を目指し、三島圏域はもちろん圏域外の医療機関にも積極的に訪問を行い、情宣活動を実施した。また、三島圏域地域リハビリテーション地域支援センターの事務局業務を担い、二次医療圏域における医療と介護の連携推進に従事した。

病床管理科ではスムーズなベッドコントロールができるよう医師、看護師、地域医療連携科が協働して入院調整を行った。

医療福祉相談科では主に退院支援業務を担い、退院前訪問指導や退院前カンファレンスを積極的に行い、地域との連携を更に深めることができた。また、各圏域バス大会【京都バス大会、豊能圏域バス大会、大阪脳卒中バス大会等】に参画し、医療・介護に関わる機関と面会し、地域機関との連携を強化した。公認心理師は入院中の患者、その家族に対する心理的援助を行った。全病棟を対象に心理面接を行っており、特に脊髄損傷患者には可能な限り全患者に訪床を実施している。

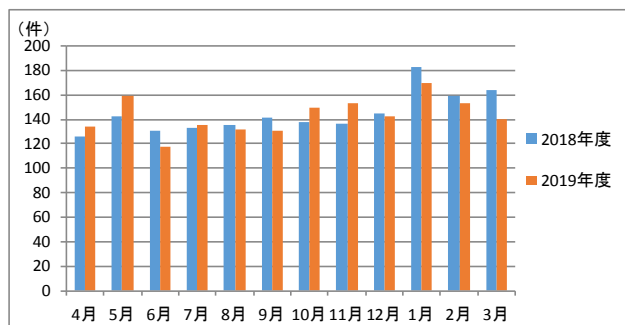


図1. 入院相談件数の推移

■2019年度のトピックス・実績

医療機関訪問については脳血管疾患比率 70%確保のため、脳血管疾患を積極的に診察している医療機関を中心に訪問し、情宣活動を行った。2019年度の入院相談件数は1,717件、前年度比99%（図1）と前年度とほぼ同等の入院相談件数となったが、年度末の新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、紹介件数は僅かながら減少した。

退院支援については退院支援看護師が3名へ増員され、社会福祉士との協働、機能分化について協議を進めてきた。医療的ニーズが高い患者、退院後の方針が未決定の患者に退院支援看護師が介入するよう体制を整備したことで、退院支援の強化に繋がった。

社会福祉士は遅出業務を導入し、繁忙になる時間帯を勤務時間としたことで、業務効率を向上させることができた。

公認心理師の介入件数は32件（患者・家族を含む）、脊髄損傷患者に対しては53名に訪床している（表1）。今期は公認心理師資格を取得したことで、これまで以上に医師との連携が求められることになった。そのため介入システムを修正し、医師との連携強化を図った。

■今後の展望

病床稼働率100%、脳血管比率70%を達成するために、更なる集患活動を実施する。新規開拓も含め、今期同様脳血管疾患を積極的に診察している医療機関へ訪問を実施していく。社会福祉士、公認心理師は、今期確立したシステムを成熟させ、業務へと浸透させていく。

また、働き方改革に対応していくために、更なる業務効率向上を目指す。各科の業務内容を見直し、システムの変更、無駄の削減、業務時間の意識付け等を行い、業務効率の向上、超勤時間削減を目指していく。

表1. 臨床心理士の介入件数

	介入依頼	脊髄損傷患者	合計
介入件数	32人	53人	85人
延べ面接回数	404回	498回	902回

医療安全管理室

■スタッフ紹介

医療安全担当副院長：児島正裕（医師）
医療安全管理室長：小室寿子（看護師）
医薬品安全管理責任者：川崎文雄（薬剤師）
医療機器安全管理責任者：高橋大造（放射線科技師）
診療部：清水洋志（医師）
看護部：谷口梨絵・横田勇子（看護師）
リハ技術部：上原光司（理学療法士）
田邊晃平（作業療法士）
事務部：西岡百合子・楠 陽子（事務員）
各部門リスクマネージャー

■業務内容

医療事故防止対策の検討に関する事項

- 1) 各部門リスクマネージャーと医療安全対策の実施状況や医療安全確保のための改善策立案の実施
- 2) 医療安全院内巡視
年4回（5月・8月・11月・2月）実施
- 3) 医療事故分析及び再発防止に関する事項
 - ・各部署リスクマネージャーと医療安全カンファレンスを実施（2回/月）
 - ・リンクセラピスト会議：OJT 確認シートによる技術評価・皮膚損傷のための訓練前の皮膚観察強化・ヒヤリハット報告啓発活動・皮膚損傷予防教育 DVD 作成
 - ・看護安全管理委員会：デイルーム見守り患者の情報共有シートの作成・デイルーム見守り係の手順及びたすきの改訂・与薬手順の改定
 - ・リンクセラピスト会議と看護安全委員会：ピクトグラムの運用に関して・皮膚損傷予防患者家族教育 DVD 作成
 - ・薬剤科：ハイリスク薬品改訂・処方自動修正・疑義照会事例の医師への情報提供
 - ・医療安全推進週間：医療安全標語の募集と全職員による投票、指差呼称の自己・他者評価・患者確認に関する直接観察法による実態調査
 - ・標語カレンダーの作成
- 4) マニュアル改定に関する事項
医療安全管理マニュアルの改定
- 5) 事故防止に関する広報・教育・研修に関する事項
 - ・愛リハセイフティ通信の発刊 3回
 - ・医療安全トピックスの発刊 11回

- ・医療安全管理室からの安全情報提供
- ・全職員対象医療安全研修 2回
 - 1回目：「気管切開チューブに関して・コードオレンジに関して」
 - 2回目：「アンガーマネジメントに関して」
- ・新人職員研修：医療安全の基礎知識・当院のインシデント・アクシデントの現状・マニュアルの理解・転倒予防予測・実技など
- ・新人看護師研修：KYT 研修
- ・薬剤師による各病棟での勉強会開催

■2019年度のトピックス・実績

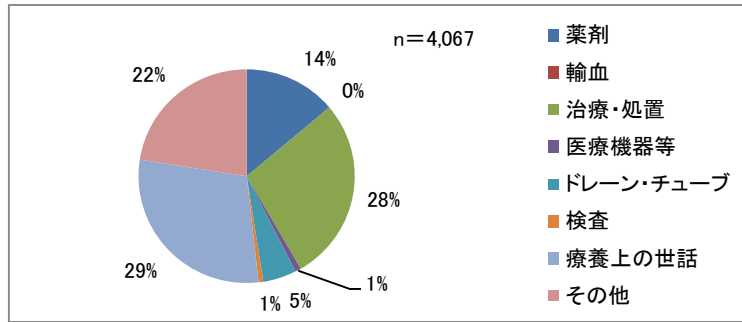
- 介入中の転倒転落事故の減少を中心に活動を実施した。
- 1) インシデント・アクシデント全報告件数：3,740件（2018年度：3,910件）。レベル別内訳：0レベル：2,724件。1レベル以上：1,343件（図表1～3）。事象別では、療養上の世話：720件（2018年度：1,188件）、薬剤：564件（2018年度：615件）、治療処置：1,131件（2018年度：1,056件）が上位3位を占めていた。
 - 2) 転倒転落レベル1以上報告件数：449件（2018年度：511件）、3a以上：34件（2018年度：32件）。転倒転落発生率年間平均：4.71‰（2018年度：5.5‰）、損傷発生率年間平均：0.35‰（2018年度：0.3‰）であった（図1）。
訓練中の転倒件数：40件（2018年度：50件）。看護師介入中の転倒：48件（2018年度：60件）（図2）。
 - 3) ナイス De 大賞・医療安全標語の表彰：2019年度の全ヒヤリハット報告から優れた気づきを報告した職員7名と医療安全標語を募集し応募された151題から1題を優秀標語に決定し表彰。標語はポスター掲示を行った。
 - 4) 医療安全に関する地域連携
I-I連携（高槻赤十字病院）・I-II連携（第二東和会）による病院訪問を実施。
 - 5) 病院機能評価受信：S評価。

■今後の展望

インシデント発生上位を占める薬剤・転倒転落インシデントの減少が課題である。継続した手順の改訂と遵守、教育、安全文化の構築等により職員の安全行動に繋げていきたい。

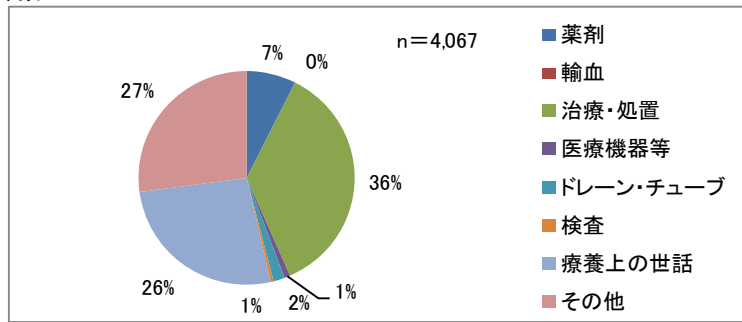
図表 1. 事象別インシデント総報告件数

	件数	%
薬剤	564	13%
輸血	0	0%
治療・処置	1,131	28%
医療機器等	35	1%
ドレーン・チューブ	203	5%
検査	29	1%
療養上の世話	1,188	29%
その他	917	23%
計	4,067	100%



図表 2. 事象別インシデント0 レベル報告件数

	件数	%
薬剤	202	7%
輸血	0	0%
治療・処置	981	36%
医療機器等	24	1%
ドレーン・チューブ	46	2%
検査	12	0%
療養上の世話	720	26%
その他	739	27%
計	2,724	100%



図表 3. 事象別インシデント1 レベル以上報告件数

	件数	%
薬剤	362	27%
輸血	0	0%
治療・処置	150	11%
医療機器等	11	1%
ドレーン・チューブ	157	12%
検査	17	1%
療養上の世話	468	35%
その他	178	13%
計	1,343	100%
(うち 転倒転落)	449	

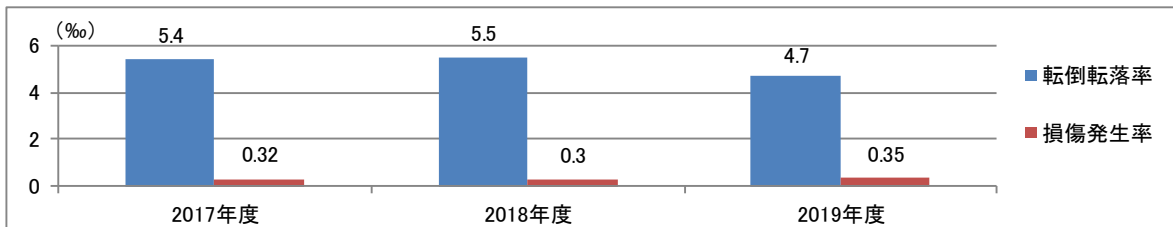
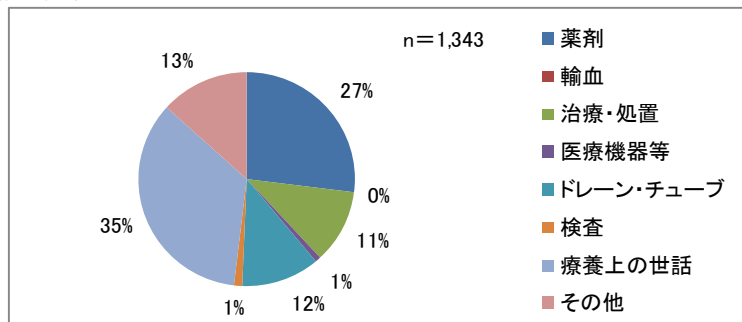


図 1. 転倒転落発生率・損傷発生率

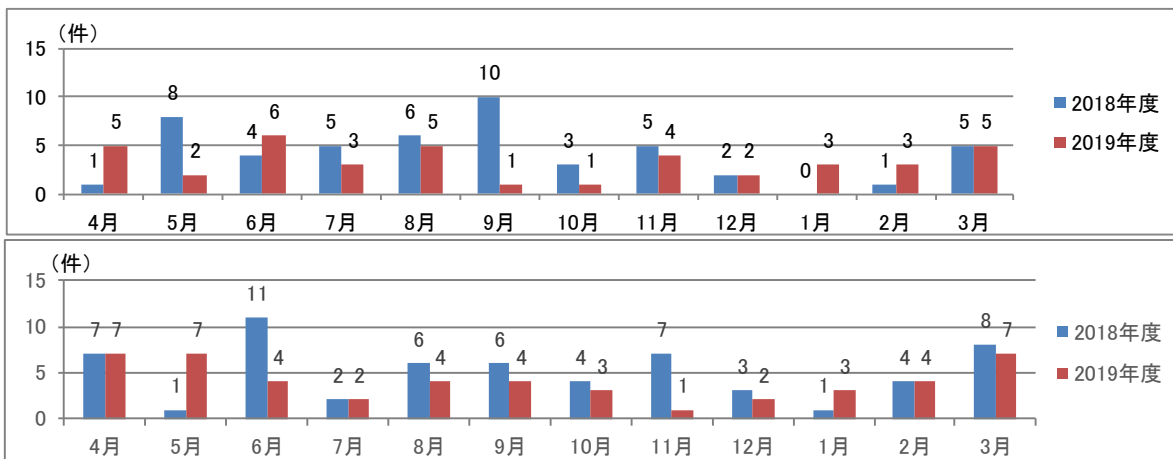


図 2. リハ技術部訓練中の転倒・看護部介入中・見守りをしなかった転倒件数

院内感染対策室

■スタッフ紹介

感染担当副院長：磯島さおり（医師 ICD）
 感染対策副委員長：市橋卓浩（感染制御実践看護師 ICN）
 診療部担当：清水洋志（医師）
 松岡美保子（医師 ICD）
 藤井優子（医師）
 薬剤科担当：与那城知夏（薬剤師）
 検査科担当：中山智子（臨床検査技師）
 リハ技術部担当：荻谷浩志（作業療法士）
 事務部担当：李 桃子（事務員）

■業務内容

- 1) 感染管理組織の運営
- 2) 抗菌薬使用状況の確認
- 3) ICTによる毎週1回の定期ラウンド
 (ICTラウンド・ASTラウンド・環境ラウンド)
- 4) 感染症発症患者の把握と感染拡大防止のための指導
- 5) 職員の教育・啓発活動
- 6) サーベイランス（JANIS事業参加）
 全入院患者部門、検査部門
- 7) 院内感染防止マニュアルの整備
- 8) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動

■2019年度のトピックス・実績

全国的に感染管理加算1をリハビリテーション専門病院で算定している病院が少ない現状がある。したがって2019年度は感染制御体制の充実強化を方針とし、取り組みの発信（表1）や、地域への啓発活動等を重点的に実施した。2019年12月には中国湖北省を発端とした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が台頭し、2020年2月から国内新規感染者が増加している。当院では、医療が継続して提供できるよう「疑似症発生段階別事業継続計画（BCP）」の策定を行いながら、標準予防策の担保と患者、

職員の安全確保を最優先として様々な対策を検討した。

手指衛生では2017年度4.6 L/1,000patient-days、2018年度6.6 L/1,000patient-daysと順守率が低迷している状況であった。そのため2019年度より順天堂大学 堀 賢教授の指導を受けながら9.8 L/1,000patient-daysを達成した（図1）。

新規MRSA検出率は、0.3%（新規MRSA検出率＝新規検出者数/延べ入院患者数×1,000）であった。薬剤耐性菌の中でも、ESBL産生菌の検出が目立ち、新規検出率は、0.5%（新規ESBL検出率＝新規検出者数/延べ入院患者数×1,000）であった。いずれも低い検出率ではあるが、2018年度と比較すると、薬剤耐性菌の保菌患者が増加している。

血液培養2セット提出率は97%、陽性率は9%であった。2018年コンタミネーション症例は4%であったが、ケアバンドルを導入し2019年度3%であった。

針刺し・切創に関する報告数は7件（内訳は針刺し2件、咬傷2件、粘膜汚染3件）であった。

院内感染対策研修会は年2回実施。医師看護師向けと、コメディカル向けに内容を分けて実施した（表2）。2020年2月に予定していた研修は、COVID-19の影響によりWeb開催とした。

感染防止対策加算に関する連携機関とのカンファレンス、及び相互ラウンドは計6回実施した（表3）。

感染症の発生については、アウトブレイクの発生を認めていない。

■今後の展望

全国的な手指消毒剤や診療材料の不足などの経験から得た教訓をいかしながら、今後COVID-19の再流行に備え、更なる感染制御体制の充実強化を図っていく必要がある。また、薬剤耐性菌検出患者の割合が2018年度と比較しても増加しているため、医療関連感染を起こさないためにも標準予防策を徹底する必要がある。

表1. 学会発表等の実績

（学会発表）	
第48回日本医療福祉設備学会	客観的指標を用いた清掃委託業者へのインスペクション（口述） 優秀演題賞受賞
第35回日本環境感染学会	リハビリテーション専門病院における感染制御活動（ポスター）
（雑誌投稿）	
感染と消毒2019 Vol.26 No.2 サラヤ株式会社 回復期・リハビリテーション病院におけるICT活動	

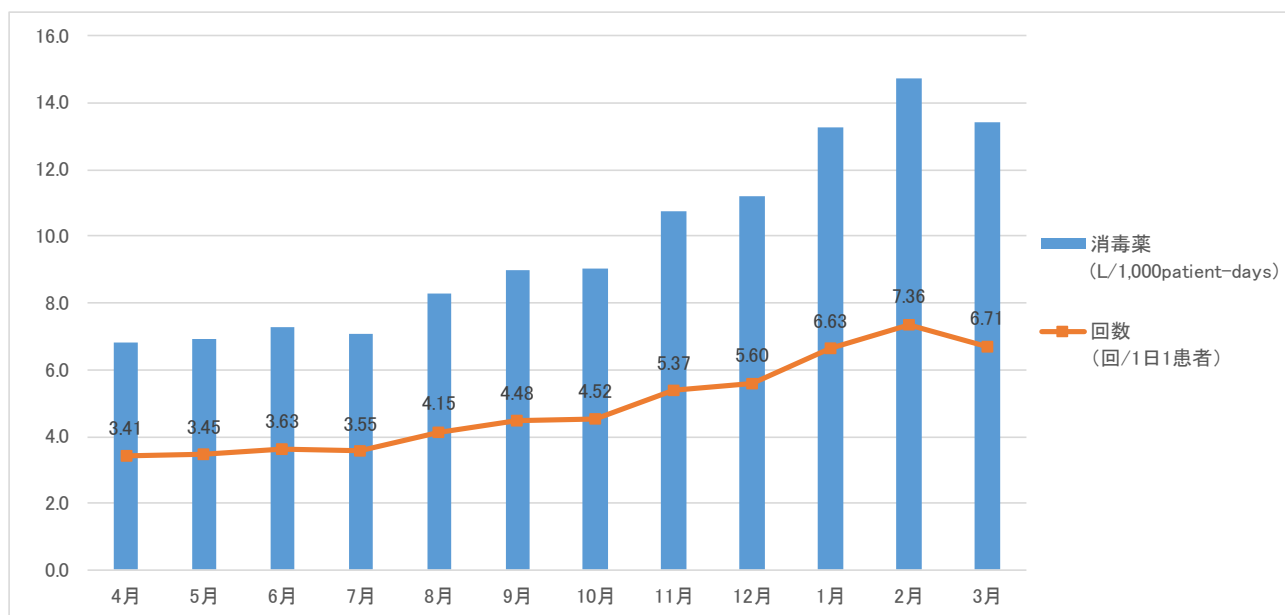


図 1. 手指消毒薬使用量

表 2. 院内感染対策研修会の実施内容

開催回	開催日	テーマ	講師
第1回	2019年8月16日	医師・看護師対象 ①AST ②尿路感染症	①与那城知夏(薬剤師) ②右梅貴信(高槻病院 泌尿器科 主任部長)
	2019年8月26日	コメディカル対象 ①AST ②尿路感染症	①与那城知夏(薬剤師) ②右梅貴信(高槻病院 泌尿器科 主任部長)
第2回	2020年2月27日	標準予防策	吉田理香(東京医療保健大学 医療保健学研究科 教授) * 中止 WEB研修
	2019年11月25日	全職員対象手洗い研修会	

表 3. 感染防止対策加算に関する連携機関とのカンファレンス

開催日	連携病院	開催の分類
6月13日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(1回目)
7月19日	第一東和会病院	北摂四医師会 感染対策ネットワーク 2019年度第1回 世話人会
8月8日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(2回目)
10月10日	みどりヶ丘病院	加算1-1連携相互ラウンド(愛仁会リハビリテーション病院→みどりヶ丘病院)
11月8日	みどりヶ丘病院	加算1-1連携相互ラウンド(みどりヶ丘病院→愛仁会リハビリテーション病院)
12月13日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(3回目)
2月27日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(4回目)
3月27日	第一東和会病院	北摂四医師会 感染対策ネットワーク 2019年度2回 世話人会

三島圏域地域リハビリテーション地域支援センター

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の地域リハビリテーション連絡会では、「生活期のリハビリテーション」をテーマに各連絡会で活動した。

ソーシャルワーカー連絡会では、6月25日に「権利擁護・成年後見制度について」を「権利擁護たかつき」の理事である高岡克行先生より講演いただき、後見人を申し立てる場合のポイントや、基本的な仕組み、後見人就任後の活動など現場での経験を学ぶことができた。

ケアマネジャー連絡会においてはケアマネジャー・介護職を対象とした研修会を8月23日に開催した。「退院時のリハビリ連携～回復期リハビリと在宅でのリハビリ～」と題し、病院（回復期）と在宅それぞれのセラピストを講師に迎え、病院及び在宅で行われる「リハビリ」について学ぶとともに、在宅での症例をもとに病院とリハビリの関係性や継続性、在宅で行われるリハビリの使い分けについて多職種で活発な意見交換が行われた。

セラピスト連絡会では2月3日に「生活期のリハビリテーション～医療・介護をつなぐ～」と題し研修会を開催した。急性期・回復期・生活期のそれぞれの立場から生活期との連携について報告いただいた。その後グループワークを行い各職種が抱えている課題に対して情報共有することができた。

地域リハビリテーション連絡会では5月11日に2018年度より計画していた「脳血管疾患の最新治療」と題し、国立循環器病研究センター 脳卒中集中治療科医長 山上宏先生にご講演いただいた。その後、各機関の方々が、より顔の見える連携・協働に繋がることを目的に多職種交流会を実施した。

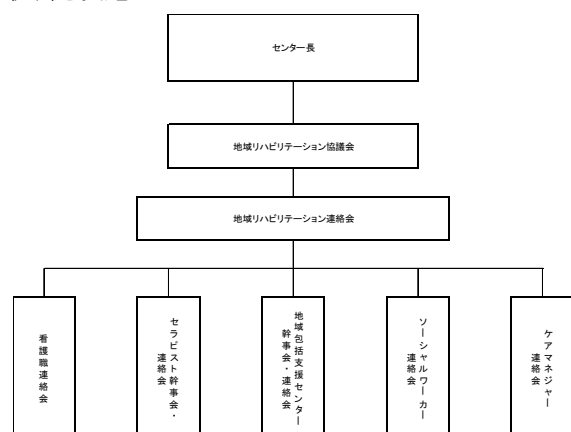
11月16日には「生活期のリハビリテーション～各介護サービスをどう上手く使っていか～」と題し、多職種合同の研修会を開催した。在宅で生活される方が日々の生活でどのようなサービスを使い生活されているか、また各職種がどのような支援をされているかを発表していただき、その後ディスカッションを行った。

1月25日には症例検討会を開催した。これまでは病院の症例を発表していたが、今年度のテーマを踏まえ、在宅サービス事業所から症例発表していただいた。「生活期のリハビリテーション～共にきず（づ）く目標設定～」と題し、退院後の生活目標の設定と目標達成に向けた効果的なサービス利用について発表していただいた。その後、多職種で「社会参加に向けて目標設定のアプローチ」について活発なグループ討論が行われた。

■今後の展望

今回は「生活期のリハビリテーション」をテーマとしたことで、在宅での生活、リハビリテーションについて理解を深め、在宅サービス機関との連携を強化することができた。

来年度は急性期、回復期、生活期全ての機関で関わりがある「高次脳機能障害」をテーマとした。高次脳機能障害について多職種が理解を深め、地域での課題を抽出し、解決に向けてよりいっそう連携を深められるように活動していく。



図．三島圏域地域リハビリテーション推進事業の概要図

愛仁会ふれあい広場

■スタッフ紹介

松原健一

■業務内容

1. 事業開催に向けた公的機関，民間機関への訪問
2. 事業の企画立案，担当者との調整
3. 法人 高槻エリア内施設との連携調整
4. 事業のチラシ作成と整理
5. 月間イベントスケジュールの作成と発行
6. 会場の予約調整
7. 定期継続実施事業の予約更新
8. サポーター（地域住民）との開催事業に対する意見交換，企画立案に向けたニーズ把握の打ち合わせ（全11回）

■2019年度のトピックス・実績

愛仁会ふれあい広場の活用として地域に向けた催しを

開催した。「地域に向けた研修会」として，高槻地区各施設（高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院・介護老人保健施設ケアイ）の職員が講師となり，骨粗鬆症，糖尿病等の予防や介護保険制度について研修会を実施した。また「行政・地域団体との協働の場」として高槻市長寿介護課や高槻中央地域包括支援センターと連携を図り，高槻市生活支援サービス事業従事者研修や介護予防教室等を実施した。そして「地域に開放した活動の場」として地域住民が主体となり催しを実施した。

■今後の展望

催しを通じて地域住民の方々や医療・福祉に従事する方が集い，年間で約14,600名の方にご参加いただいた。広場の役割として，地域住民，地域行政機関，病院が繋がりを深め交流が生まれる場として活用し，地域への貢献を更に活発に行いたい。

表. 事業内容

①愛仁会高槻地区の病院・施設・事業から地域に向けた情報発信の場			(計2,852名)
No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	糖尿病教室 (高槻病院 糖尿病内科主催)	毎月第3金曜日PM実施	149名
2	認知症サポーター養成講座 (高槻北地域包括支援センター主催)	12/16(月)PM実施	15名
3	わかりやすいリハビリテーション教室 (リハ病院主催)	6/5(水)～2/12(水)まで 【全5回シリーズを3回実施】	604名
4	ボランティア茶話会 (高槻病院 地域医療部主催)	4/22(月)AM実施	23名
5	マザークラス (高槻病院 産婦人科主催)	10月～毎月第1土曜日・第2日曜日・ 第4木曜日のAM/PM実施	1,459名
6	認知症に関する事業 (高槻北地域包括支援センター主催)	4/4(木)AM, 6/6(木)AM実施	35名
7	脳卒中の再発と家族でできる予防法 (高槻病院主催)	7/4(木)AM実施	12名
8	がん患者会 (高槻病院 患者相談室主催)	7/17(水)PM, 9/18(水)PM, 1/15(水)PM実施	30名
9	市民公開講座 (高槻病院主催)	4/23(火)PM, 6/13(木)PM, 7/24(水)PM, 9/24(火)AM, 10/17(木)PM, 11/29(金)PM, 12/18(水)AM, 12/23(月)AM, 1/30(木)PM	236名
10	関節セミナー (高槻病院 整形外科外来主催)	4/25(木)PM, 6/20(木)PM, 9/12(木)PM, 1/9 (木)PM実施	126名
11	子育て支援スタッフ研修会 (高槻病院 看護部主催)	6/18(火), 9/25(水), 10/30(水), 2/17(月)実施	86名
12	ふれあい公開講座 (リハ病院 理学療法科主催)	2/19(水)AM実施	41名
13	介護技術講習会 (一般社団法人 高槻市理学療法士会主催)	1/19(日)実施	36名

②行政・地域団体との協働の場

(計9,053名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	元気体操クラス (高槻市 長寿介護課)	4月～毎週金曜日実施 【※第5週目 省く】	6,400名
2	介護予防入門教室 (高槻市 長寿介護課)	5/8(水), 5/15(水), 5/22(水)の3回講座	75名
3	ますます元気教室 (高槻市 長寿介護課)	9/25(水), 10/9(水), 10/23(水), 11/6(水), 11/20(水), 11/20(水)実施	100名
4	認知症予防講座 (高槻市 長寿介護課)	7/9(火), 7/16(火), 7/23(火), 7/30(火)PM実施	145名
5	元気健康教室 (高槻市 長寿介護課)	5/13(月)～毎週月曜日PM実施(祝日は省く) 【全12回シリーズ×3クール】	1,438名
6	高槻市生活支援サービス事業者研修 (高槻市 長寿介護課)	11/26(火)～【全3回シリーズを2回実施】	146名
7	介護予防教室 (中央包括支援センター)	4月～毎月第4水曜日実施	421名
8	カフェさくら2号店 (中央包括支援センター)	9/18(火)～毎月第3火曜日AM実施	328名

③地域に開放した活動の場

(計1,796名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	笑いヨガ (地域住民主催)	4月～11月まで毎月1回 曜日は不定期に実施	545名
2	ラフターヨガ (地域住民主催)	1/28(火)PM実施	29名
3	認知症予防学級 (地域住民主催)	8/19(月), 9/17(火), 10/15(火), 11/19(火), 12/19(木)開催	81名
4	筆ペン遊び (地域住民主催)	12/5(木)AM, 1/21(火)PM開催	7名
5	ありがとう講座 笑い文字 (地域住民主催)	4/18(木)AM, 6/5(水)PM開催	3名
6	スマートフォン教室 (地域住民主催)	毎月2回～4回開催【年間35回開催】	335名
7	スマートフォンミュージック (地域住民主催)	2/5(水)AM, 2/18(火)PM開催	19名
8	スマホフォトブック講座 (地域住民主催)	10/29(火)AM, 11/19(火), 1/14(火)開催	20名
9	うたごえCOCO (地域住民主催)	毎月第4金曜日開催	237名
10	歌声健康唱歌なのはな (地域住民主催)	9/19(木)より毎月1回 曜日は不定期に開催	162名
11	冬の歌コンサート (地域住民主催)	2/5(水)PM開催	46名
12	ミニ花サークル (地域住民主催)	不定期開催【年間6回開催】	155名
13	唄うもよし、聞くもよし (地域住民主催)	11/13(水)PM～毎月1回 曜日は不定期に開催	130名
14	邪馬台国を三島に探る会 (地域住民主催)	11/18(月), 11/25(月), 12/2(月), 12/9(月)開催	15名
15	脊損の集い (地域住民主催)	6/30(日)PM開催	6名
16	退院患者の集い (地域住民主催)	11/17(日)PM開催	6名

④その他事業について

(計917名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	歌ってスマイル (愛仁会ふれあい広場主催)	毎月第2金曜日PM実施	457名
2	生き生き研究会 (トヨタ財団研究助成プロジェクト)	5/12(日)PM, 7/20(土)PM実施	34名
3	ふれあい広場健康測定会 (愛仁会ふれあい広場主催)	12/10(火)PM実施	51名
4	認知症予防運動 コグニサイズ (川村義肢株式会社主催)	7/2(火)AM/PM実施	50名
5	日本フットケア学会ベーシックセミナー (日本フットケア学会主催)	7/14(日)AM/PM実施	90名
6	再就業支援講習会病院コース (公益社団法人大阪府看護協会事業)	12/11(水)AM/PM実施	10名
7	看護の日 (日本看護協会事業)	5/14(火)AM/PM実施	40名
8	CSコンサート (リハ病院 CS委員会主催)	7/3(水), 11/14(木), 12/25(水)PM開催	145名
9	就労支援スタッフ研修会 (高槻市障がい者就業生活支援センター主催)	5/31(金)PM開催	40名

高槻在宅サービスセンター

■スタッフ紹介(2020年3月時点)

【ケアプランセンター】

高槻 6名, しんあい 3名, ケーアイ 5名, 富田 4名
計 18名

【ヘルパーステーション】

高槻: 常勤 5名, 非常勤 4名
富田: 常勤 3名, 非常勤 4名

【訪問看護】

常勤(看護師) 17名, 非常勤(看護師) 5名
在宅支援科科长 1名, PT 7名, OT 1.5名, ST 1名
事務員 3名(副主任 1名が配置)
みなし事業 PT 1.5名, OT 0.5名
通院リハ PT 1.5名, OT・ST 各 0.5名

■業務内容

【ケアプランセンター】

2019年度は利用者の様々な医療ニーズを高められることを目標とした。結果ターミナル加算を 13 件取得した。年間のケアプラン数は、高槻2,092件, ケーアイ 1,950件, しんあい 1,279件, 富田 1,816件であった。全事業所全体で 2018年度と比較して 103.8%であった。

【ヘルパーステーション】

身体介護・認知症ケアに対する支援に応えるための技術向上を目標とし、ヘルパーからの個別相談に応じられるよう努めた。

【訪問看護】

看護師は管理職の育成強化、個人における目標管理、訪問件数増加のための効率化を重点的に実施し、セラピストは小児の訪問リハの件数増加、また全体ではタブレットを導入した。事務科では、活動実績の向上が著しいヘルパーステーション富田における効率化を図るため、業務の一部を担い、センター全体での物品・車両に関する管理、またユニフォーム管理・発注などの業務も担うことができた。

【みなし事業】

高槻病院や法人外部からの新規受け入れを行い、結果訪問件数は 1,108 件となり前年比 217.7%であった。

【通院リハ】

新規依頼増加を目標に、診療部、看護部、リハ技術部、地域医療部へ働きかけ、実施件数は 2,619 件、前年比で 120.9%であった。

■2019年度のトピックス・実績

【ケアプランセンター】

今年度、ターミナル加算を 13 件取得したため、来期は

特定事業所加算Ⅳを 2 事業所で取得可能となった。

【訪問看護】

訪問看護全体では、訪問記録支援システムを導入した。システムのマニュアル作成、情報セキュリティ関連の規定なども作成し、法人内の他訪問看護ステーションでも活用できるように整備した。

他施設、他部門からの異動者を対象とした「中途異動者教育プログラム」を作成し、運用を開始した。また、法人内の 5 つのステーション共同で、「新人訪問看護師臨床研修プログラム」を作成した。

特定行為看護師 2 名の活動として、リハビリテーション病院と連携し、気管カニューレの交換を 6 件実施した。

【ヘルパーステーション】

富田事業所が年間を通して活動実績が 100%を超えていた。リハビリテーション病院での 2019 年度下半期の褒賞でチーム賞を受賞した。

■今後の展望

【ケアプランセンター】

超高齢社会に拍車がかかる時代において、ケアマネジャーの人材育成と定着が最重要課題である。

【ヘルパーステーション】

登録ヘルパーの高齢化に伴い、人員の減少が深刻な課題である。登録ヘルパーの申し込みは全くなく、登録ヘルパーによる訪問件数の維持は困難な状況にある。体制の構造の見直しや、介護職員の定着、質の向上が課題である。

【訪問看護】

リハビリに関しては、小児の訪問件数も増加しており、小児に対応できるスタッフの育成が課題である。また、がんのリハビリテーションにおいても緩和期での関わりは重要であり、この点においても対応可能な人材の育成は重要と考える。

訪問看護師も同様に、小児の対応が可能なスタッフの育成は重要である。またキャリアラダーに沿った、研修プログラムの策定、主体的な学習とキャリアアップへの質の向上が必須である。

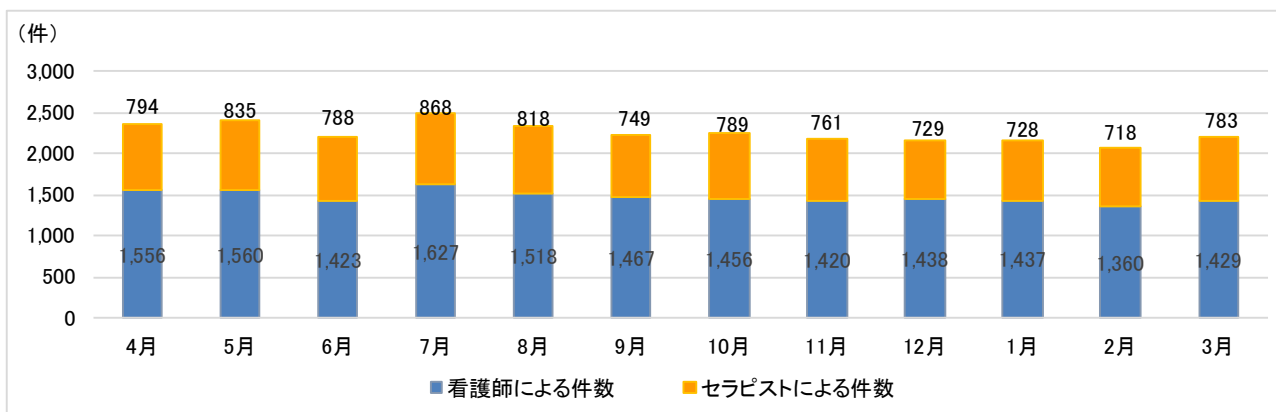
特定看護師の活動においては、在宅での活動が来期の課題である。

【みなし訪問リハ】

院内のフォローアップシステムの構築、高槻病院、法人外施設への広報活動による、実績向上が求められる。

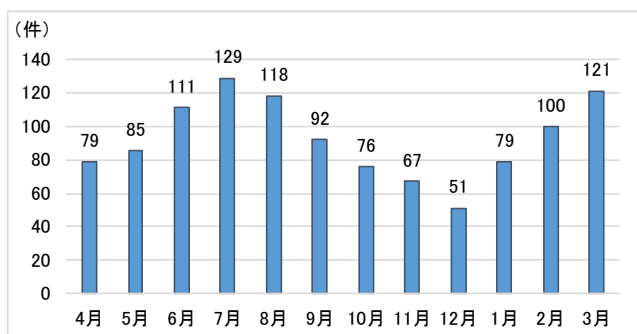
【通院リハ】

みなし訪問リハ同様、フォローアップシステムの構築が課題である。



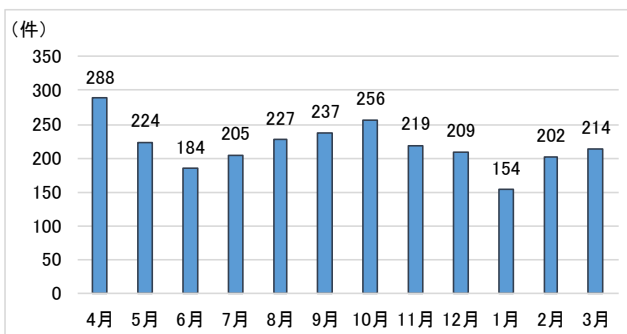
訪問件数の総数は、2018年度(26,020件)により、1,031件増の27,051件であった。

図 1. 2019 年度訪問看護



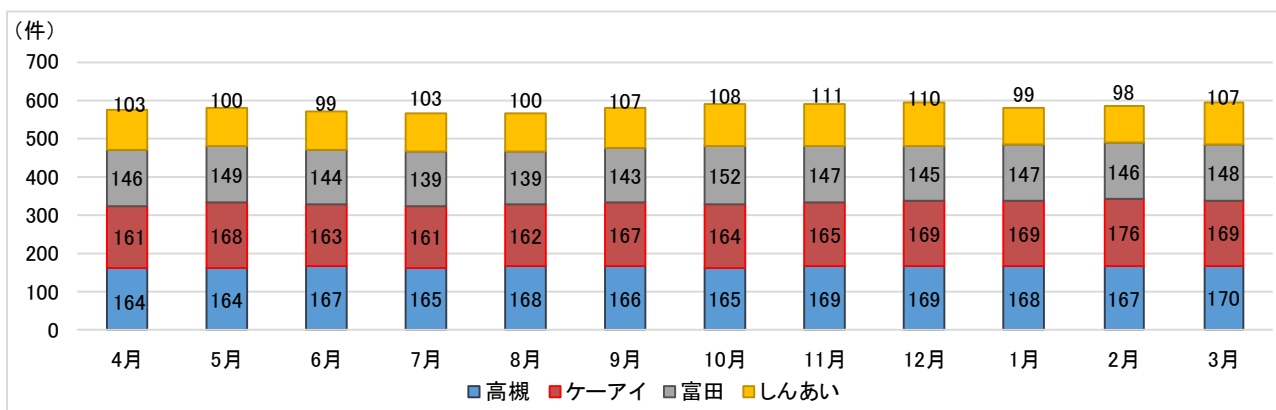
総数は1,108件で2018年度と比較し217.7%であった。

図 2. 2019 年度みなし訪問リハ訪問件数(月別)



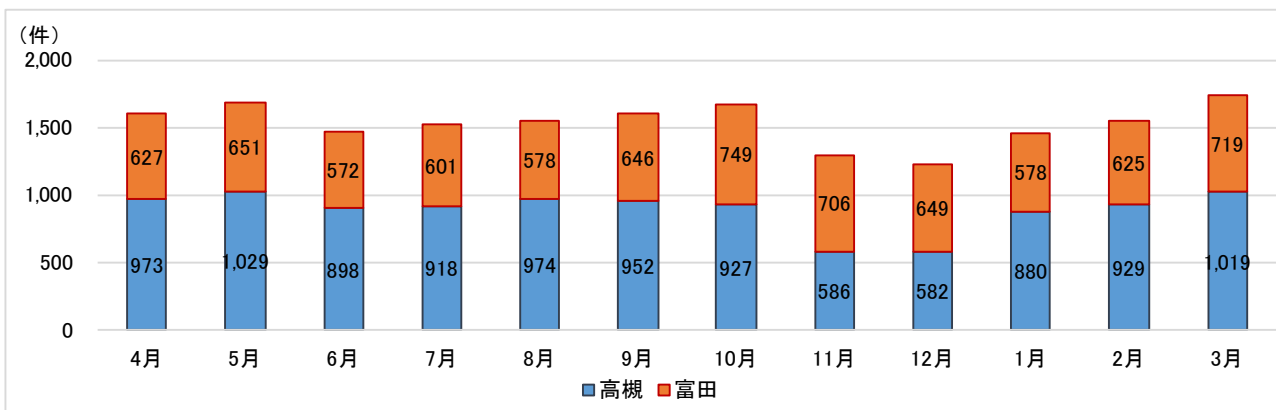
総数は2,619件で2018年度と比較し、120.9%であった。

図 3. 2019 年度通院リハ件数(月別)



4事業所全体でのプラン数は7,947件で、2018年度と比較し103.8%であった。

図 4. 2019 年度ケアプラン件数(事業所別・月別件数)



前年比で高槻は111%、富田は123%であった。特に富田事業所は年間を通して2018年度比100%を超えていた。

図 5. 2019 年度訪問介護 訪問件数(事業所・月別)



しんあい 病院

〒569-1123

高槻市芥川町2丁目3番5号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/shin-ai-hospital/>

理念・基本方針

<理念>

私たちは、患者さん本位の心安らぐ医療を提供し、地域の皆さまの健康増進を支援します。

<基本方針>

- ・患者さんの権利を尊重し、満足いただける医療を提供します。
- ・近隣の医療機関等との連携を大切にし、地域医療に貢献します。
- ・患者さんに信頼いただけるチーム医療をめざし、自己研鑽に励みます。

2019 年度総括

2018年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震及びその後の豪雨・台風の直撃により、老朽化が進んでいた建物は、破損箇所の修復だけでは安全性が担保されない状態となり、同12月より一旦病床の運用を休止し、外来診療のみを継続している。各科の職員定数を見直し、経営面の改善を目指しながら、40床の病棟再稼働計画について、法人全体で協議を重ねている。

2019 年度活動状況

- 4月 期首全集，辞令交付式
- 6月 院内感染対策研修会（第1回）
- 7月 消防訓練（第1回），医療安全研修会（第1回），府立支援学校職員腰痛予防検診
- 9月 業務改善発表会
- 11月 創立記念行事，院内感染対策研修会（第2回）
- 12月 褒賞発表式及び忘年会
- 1月 新年互礼会
- 2月 消防訓練（第2回）
- 3月 医療安全研修会（第2回），医薬品安全研修会

2020 年度に向けて

2020年度も病床運用計画の協議を続けながら、外来診療を継続していく。近隣の高齢者の在宅療養の支援、生活習慣病から専門性の高い診療まで幅広く対応し、受診しやすい病院を目指し、近隣の住民・連携医療機関のニーズに応える診療を積極的に展開することで、再度地域包括ケアの核となる医療機関になれるよう基盤作りを進める。

診療部総括

■スタッフ紹介

常勤医師

外科：家永徹也（1981年卒・院長）

整形外科：辻 充男（1980年卒・部長）

小児科：谷内昇一郎（1979年卒・部長）

■診療内容

2018年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震等による建物の損壊で、同年11月末で病棟の運用を休止し、以降外来診療のみを継続している。

内科の常勤医が他施設へ転属し、内科外来は、高槻病院始め法人内他施設、大阪医科大学等からの派遣医師により運営された。

内視鏡検査・手術室の利用を休止する一方、必要時は高槻病院へ円滑に紹介できる体制を整備し、高槻病院との連携を強化した。

整形外科では、これまで辻が高槻病院整形外科で行っていたリウマチ外来を閉鎖し、その患者を当院で診察するように変更した。その影響で患者数の増加と、生物学的製剤使用症例が多いことにより外来の単価が上昇したので、全体的な増収に繋がった。

小児科は、アレルギー専門外来の他、小児予防接種外来を開始した。

病棟の運用休止に伴い、在宅療養支援病院としての活動は休止したが、訪問診療は、院長を中心に活動を継続している。

健診事業は、特定健診・協会健診・市民検診について対応している。

■2019年度のトピックス・実績

延べ患者数は、合計 34,980 人（前年比 88.3%）と前年を下回った。内科常勤医が不在になり、診療単位が減少したこと、外科では血管外科の診療を休止したことで担当医の交代で診療単位数が減少したことで減少したが、いずれも想定内の減少であった。一方、整形外科は、新規治療の開始、診療単位の増加により増加した。また、2月以降、新型コロナウイルス感染の拡大による受診控えの傾向で、全体的に減少した。

外来の医業収入は、242,195 千円（前年度比 88.8%）で、内科・小児科・外科が減少、整形外科が増加した。

■今後の展望

病床の運用については本部企画部で立案中であり、今年度は外来診療のみで経営の安定化を図る。近隣の高齢者の在宅療養の支援、生活習慣病から専門性の高い診療まで幅広く対応し、受診しやすい病院を目指し、近隣の住民・連携医療機関のニーズに応える診療を積極的に展開するとともに、高槻病院との連携強化・機能分化、診療機能の強化により、退院後・術後のフォロー、健診事業、予防接種、訪問診療等の活動を強化する。

また、骨粗鬆症治療の積極的な展開を目指す。これまで内科や外科で通院しているものの、骨粗鬆症に関して深く関わっていなかった方の掘り起こしを行い、定期的な骨塩定量検査と専門的な治療を受けていただくように、骨粗鬆症マネージャーを中心に看護師と連携して整形外科受診を勧め患者数の増加を図る。

表. 実績

(単位:人, %, 円)

入外区分	診療科	(1) 延患者数			(2) 平均単価		(3) 医業収入					
		対象期間実績(延べ数)	1日平均	前年比	対象期間実績	前年比	実績金額	構成比	前年比	対象期間予算対比	累計金額	累計構成比
外来	内科	16,751	57	88.7	6,644	88.5	133,395,351	55.1	81.3	109.9	133,395,351	55.1
	小児科	2,485	8	97.5	6,969	77.0	18,695,431	7.7	79.0	79.1	18,695,431	7.7
	外科	5,287	18	57.7	5,228	106.1	27,976,645	11.6	60.2	91.1	27,976,645	11.6
	整形外科	10,457	36	115.6	5,907	140.5	62,127,964	25.7	161.5	94.2	62,127,964	25.7
合計		34,980	119	88.3	6,233	99.6	242,195,391		88.8	100.2	242,195,391	

看護部

■スタッフ紹介

看護職員状況（2019年4月1日）

副主任1名、看護師5名（うち非常勤2名）、看護師平均年齢40.6歳、平均経験年数15.6年、資格は看護師6名（100%）。

【離職状況】

看護職員離職率は0%であった。

■業務内容

2019年度の看護部運営目標

1. 働き続けられる職場環境づくり

しんあい病院は、2018年12月より外来診療のみとなり、今年度から外来看護部6名となった。2019年度には働き方改革関連法案の施行により、働き方を見直そうとする動きが高まっている。働き続けられる職場にするには、職員の働く環境を整えていくことが重要である。まずは、年間を通して有給休暇を取得しやすい環境とするため、職員同士がお互い協力体制を組めるよう働きかけ、勤務を調整しながら休めるようにした。結果、有給取得率は平均89%である。

また、連絡・報告・相談がしやすい風土づくりとして、日勤帯でチームをまとめるリーダーを1名配置した。職員との面談を年に3回設けるなど、上司への相談がしやすい環境ができた。結果、離職率は0%である。

職員それぞれが自分に必要なスキルを身に付けるため、希望する看護協会・地域で開かれる研修会へ参加できるよう勤務調整し、キャリアアップできる機会を設けた。看護師1名は、日本骨粗鬆症学会の研修を受講し、骨粗鬆症マネージャー資格を取得した。

2. 患者の支援強化

地域医療部の廃止、MSW不在体制となり患者・家族への支援や地域・介護サービスの連携は、外来看護部が中心となって担うこととなった。高槻病院のサテライトの機能が求められる環境の中で、より精密な検査等が必要な患者を高槻病院へ紹介するシステムを作り、毎月のデータをPCFMにて報告した（図1）。結果2019年度は388名紹介し、うち102名が入院（26%）した。連携要領を整備し、迅速な搬送ができるような体制が確立できた。

また、高齢者が安心して在宅で療養が継続できるよう、在宅生活を継続する上で支援の必要な患者やその家族を選定し、訪問看護師・ケアマネジャーと情報の共有を図りながら、看護師が積極的に関わる体制へ業務改善活動を活用し整えた。看護師が介入した患者は123名であり、69名の患者は支援を継続している。介入した理由は介護の支援の状況を把握する必要がある人が44名、内服管理の必要である人が29名であった（図2）。この支援活動は中小規模病院の外来のモデル的活動になると考える。

また、外来通院中の患者で、訪問診療が必要な患者に対して、診療開始の時期を見極め、家族・医師と調整しスムーズに訪問診療へ移行できる体制を強化した。

3. 説明できる看護ケアの実践

説明できる看護ケアとは、治療（検査・処置等）を行う前に患者・家族が理解できるように説明し、同意の上で安心して治療が行えることであると考え。当看護部では、プライマリーナーシングを活用している。患者の目標を掲げ、チームで一貫した看護ができるようカンファレンスを実施し、担当以外の患者がどのような支援をしているのか把握できるようにした。担当以外の患者にも目を向け、声掛けする姿が増えるなど、実施している支援に対しても活発的な意見交換ができる風土となった。プライマリーナーシングを通して、患者・家族との信頼関係が深まり、患者の状態が良い方向に向かうことで、スタッフのやりがいに繋がる発言が聞かれるようになった。

■今後の課題

地域で生活する患者を支援するためには、「住み慣れた地域で、安心してその人らしく暮らし続けることができる」を実現していくことが必須である。そのためには、来院した患者の変化に気づき、患者・家族の思いを大切にできる感性と支援に繋げる行動力が必要である。在宅を支える各職種との連携を図りながら支援を継続したい。

また高齢化社会とともに増加している骨粗鬆症患者の活動支援の場を、骨粗鬆症マネージャー中心に広げていきたい。しんあい病院が今後、更なる機能を強化できる病院として看護力を育むためのスキルアップを目指していく所存である。

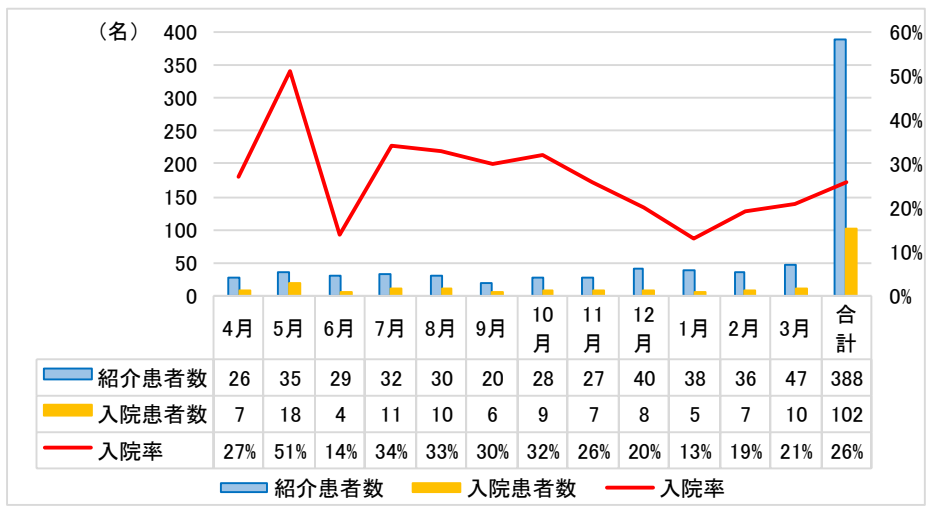


図 1. 高槻病院紹介患者数

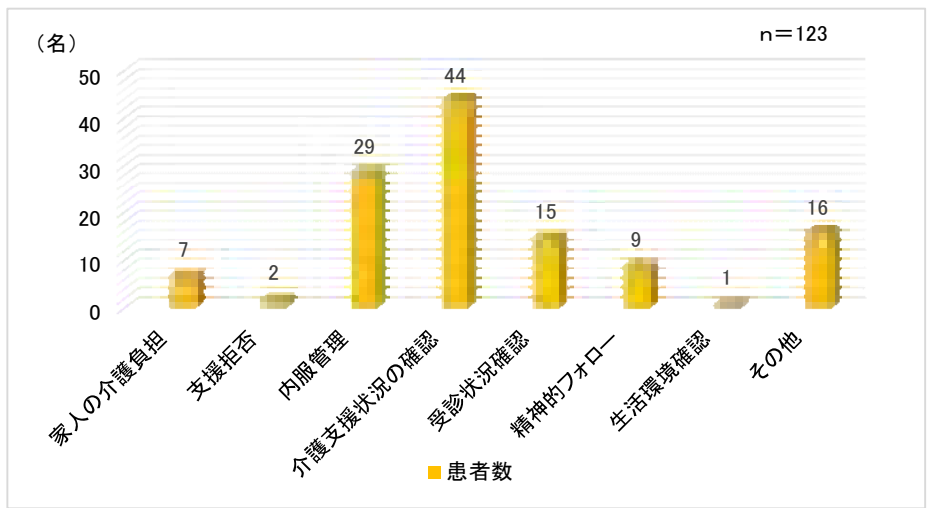


図 2. 介入理由

薬 剤 科

■スタッフ紹介

薬剤師 1 名（不在時、他施設より支援 1 名）

■業務内容

【調剤・監査業務】

2018 年 11 月末日で一旦病棟が閉鎖となり、2019 年 4 月より外来のみ稼働させている現状において、同月より薬剤師 1 名体制となった。薬剤科では、外来処置室にサテライトスペースを確保し、診療時に処方される処方箋監査を重点的に行っている。

輸液・注射剤は、当日処方分についてはその都度調剤して払い出すか、若しくは外来常備薬を使用した場合はその翌日に補充し、予約注射については当日の朝に調剤して払い出している。

【DI 業務】

各外来診察室に掲示板を設置し、毎月 1 回新規採用薬や投与日数制限解除薬等を掲示し、副作用情報、回収情報等については適宜掲示している。また、必要に応じて topics として市井で話題の薬剤についても取り上げ、職員全体で

情報を共有するよう努めている。

また、月 1 回程度、医師・看護師・他職種職員も含め医薬品メーカー主催等の勉強会も行っている。

【医薬品管理】

採用薬品数：499 品目（年度末時点）

薬剤科内医薬品・外来常備医薬品は、毎月の棚卸で在庫管理を行い、外来救急カートについては、管理表を用いて毎日の在庫管理と、月末には期限のチェックも行っている。

■2019 年度のトピックス・実績

外来での監査業務では、特に糖尿病外来において糖尿病療養指導士の資格をもつ薬剤師が SMBG の物品の調整・配布を含めた患者指導を行っている。また、2019 年 4 月より開始した小児予防接種及び成人用予防接種全般のスケジューリングと受付にも対応している。

■今後の展望

近隣の調剤薬局とも連携し、患者ニーズに応じていけるよう努める。

放射線科

■スタッフ紹介

診療放射線技師 1名
森一智博

■業務内容

当科には一般撮影（東芝 CR）、CT（東芝 16 列）、X 線 TV（東芝 I.I.）、骨塩定量（アロカ）、ポータブル（島津）の装置がある。その他脈派（ABI）、呼吸機能検査の装置も当科で管理している。

常勤技師 1 名体制であるため、高槻病院とリハビリ病院に技師の勤務支援を受けながら業務している。

業務時間は、平日昼間と土曜日の午前中である。

■2019 年度のトピックス・実績

検査件数実績は下表のとおりである。

スムーズに検査ができるよう、一部検査に予約制を取り入れた。

■今後の展望・課題

限られた人材で診療に支障が出ないよう、どのように検査件数を増やしていけるかが課題である。

表. 2019 年度検査数集計

(単位:件)

	XP		胃透視		CT	骨塩	ECG		肺機能	呼気NO	ABI	ホルター	エコー	
	全体	健診	全体	健診			全体	健診					心・頸	腹・甲
4月	287	22	2	2	54	47	82	33	11	45	5	5	39	11
5月	355	61	17	17	53	40	112	60	17	17	4	1	34	16
6月	385	68	18	18	47	32	134	75	13	29	6	9	37	5
7月	424	133	14	14	51	27	131	67	7	19	3	6	35	8
8月	356	50	8	8	54	34	113	53	21	24	5	7	28	15
9月	368	53	10	10	51	53	122	60	9	18	4	7	25	3
10月	318	50	13	13	60	43	110	59	13	28	5	9	32	14
11月	364	78	16	16	53	50	141	83	5	23	3	8	23	7
12月	324	74	14	14	50	30	117	77	6	25	4	5	27	12
1月	289	49	8	8	68	23	97	59	11	29	10	5	26	11
2月	325	59	15	15	42	42	116	66	11	27	2	3	25	7
3月	274	35	8	8	41	45	105	43	5	16	9	3	27	6
合計	4,069	732	143	143	624	466	1,380	735	129	300	60	68	358	115
平均	339.1	61.0	11.9	11.9	52.0	38.8	115.0	61.3	10.8	25.0	5.0	5.7	29.8	9.6
2018年度平均	441.5	57.5	11.1	11.1	86.3	36.8	169.5	66.6	14.8	26.7	10.4	10.5	37.6	11.5

全ての件数はRIS(技師支援システム)より集計している。

XP, CTは同時多部位の撮影でも一連につき1件としてカウントしている。



しんあい クリニック

〒569-1035

高槻市西之川原 2 丁目 46 番 3 号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/shin-ai-clinic/>

理念・基本方針

<理念>

仁（ひろ）く，愛（いとお）しむ医療を

<基本方針>

1. 地域の要望に適した信頼されるクリニックを目指します。
2. 安心して医療を受けていただける快適な療養環境を提供します。
3. 職員一人ひとりが自らの役割を担ったチーム医療を実践します。

施設概要

■診療科目/3科

「しんあいクリニック」は 2010 年 5 月に全室個室の 19 床の有床診療所でスタートしたが，2017 年 9 月末にて無床診療所となった。2019 年 1 月 1 日より病床運用を再開し，高槻病院の後方支援診療所及び地域密着の診療をより一層続けていく所存である。

2019 年度総括

2019 年 4 月からは，常勤医師 1 名，非常勤医師 2 名，看護師 11 名，看護助手 2 名，理学療法士 0.5 名，事務職員 1 名となった。

2019 年 4 月から 2020 年 3 月までの入院延べ数は 6,277 名，1 日平均 17.2 名，病床利用率は 90.3%であった。新入院患者数 228 名，退院患者数は 230 名であった。入院患者の紹介元は，高槻病院が 100%であった。

2019 年度活動状況

- | | |
|------|-------------------|
| 4 月 | 期首全集・事務部期首講演会 |
| 5 月 | 看護部期首研修会・神服神社例大祭 |
| 7 月 | 上半期褒賞 |
| 9 月 | しんあい・ますみ合同縁日 |
| 12 月 | 愛仁会・愛和会 5 施設合同忘年会 |
| 1 月 | 互例会 |

2020 年度に向けて

高槻病院の後方支援診療所としての役割を果たす。



介護老人保健施設 ケーアイ

〒569-1051

高槻市大字原 112 番地

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/keai/>

理念・基本方針

<理念>

1. 利用者の人権を尊重し、生活の質の向上を目指しチームで支援する。
2. 利用者の生活機能向上を目的に、維持期リハビリテーションを行う。
3. 利用者の状態に応じ、チームケアを行い早期の在宅復帰に努める。
4. 利用者の自立した在宅生活が継続できるよう、総合的に支援する。
5. 利用者及び家族が安心して暮せる、地域一体となったケアを推進する。

<基本方針>

- ・ 利用者個々の特性に応じた生活を計画し、リハビリテーション・レクリエーション・生活訓練を積極的に行う事により、早期家庭復帰に努める。
- ・ 利用者が笑顔と生活の張り合いを取り戻せる家庭的雰囲気を作り、きめ細やかなサービスの提供に努める。
- ・ 家庭や地域との連携を大切にし、介護に対する啓蒙・指導に努める。
- ・ 職員は施設の方針を理解し、その専門性を発揮すると共にお互いに協力・連携を取りながら、その目的達成に努める。

施設概要

■入所者定員/100名（ショートステイ含む）

■通所者定員/40名

2019年度総括

入所は1日平均97.8名（前年比99.3%）であった。超強化型老健の要件は引き続き満たすことができた。長年繰り返し利用していた利用者の特養への入所や死亡で利用中止となるケースが多く、利用者確保が難しい状況であった。しかし、10月からの消費増税に伴う介護報酬改定や前年度と比較し、介護度が上がったことにより入所全体では増収となった。通所リハビリテーションの利用者数は1日平均31.1名（前年比95.3%）となった。入所同様の理由により利用中止となるケースが多かった。予防通所リハビリテーションでは新たにリハビリテーションマネジメント加算の算定を開始することができ、単価上昇に繋がった。

高槻北地域包括支援センターは、前年度から開始した地域のカフェと協働での認知症カフェも引き続き毎月継続している。ケーアイと共催での「ケーアイ元気食堂」も継続している。認知症サポーター養成講座は郵便局員や中学生を対象に開催した。TQM全国大会で演題発表し優秀賞を受賞した。

教育活動としては大阪介護老人保健協会事例発表会や全国介護老人保健施設大会等での演題発表を引き続き行った。地域貢献活動の一環として、新たに「ケーアイカラオケ喫茶」を企画し、3回開催した。高槻市立中学生の職場体験学習受け入れや、高槻支援学校の見学実習受け入れも継続して行った。

2019 年度活動状況

- 4月 期首全集, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, ボランティア総会, 介護予防教室
- 5月 さつき祭り, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室
- 6月 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室, ふれあい広場イベント
- 7月 夏季全集, 介護教室, 第19回大老協懇話会事例発表会演題発表, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂
- 8月 消防訓練, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, ケーアイカラオケ喫茶, 介護予防教室
- 9月 敬老会, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室, 高槻支援学校見学実習受け入れ
- 10月 高槻市立阿武野中学校職場体験学習受け入れ, 高槻支援学校実習受け入れ, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, ケーアイカラオケ喫茶, 介護予防教室, 認知症サポーター養成講座
- 11月 ケーアイ秋祭り, 第30回全国介護老人保健施設大会大分演題発表, 第21回フォーラム 医療の改善活動 全国大会 in 仙台演題発表, ボランティア総会, 第6回ケーアイますます健康フェア, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 高槻市立第二中学校・高槻市立第六中学校・高槻市立第九中学校職場体験学習受け入れ, 介護予防教室

- 12月 介護予防教室, 冬季全集, クリスマス会, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, ケーアイカラオケ喫茶, 忘年会, 年末全集
- 1月 年始全集, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室
- 2月 消防訓練, 介護予防教室, 第20回大老協懇話会事例発表会演題発表 (誌上発表)
- 3月 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 蔓延により各種行事 (介護予防教室, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, ケーアイカラオケ喫茶) 中止

2020 年度に向けて

2020 年度も引き続き「超強化型老健」の要件を堅持できるよう取り組みたい。在宅復帰・在宅療養支援を念頭に置き、多職種で協働しそれぞれの専門性をいかした質の高いケアを実施し、家族への介護指導などを積極的に行う。法人内のみならず、法人外施設や居宅事業所とも、より一層、連携を図ることが重要である。COVID-19 という新たな感染症の再流行も懸念されることから感染症対策を更に強化し、利用者も職員も安全・安心な施設環境作りに取り組んでいく。

高槻北地域包括支援センターについては、地域住民向けに介護予防等の啓発や実践、定期的な勉強会や認知症サポーター養成講座を開催し、高齢者が安心して暮らせる地域作りに貢献していくことを目指す。

介護老人保健施設 ケーアイ

■スタッフ紹介

62期ケーアイは、医師 1.1名（仲田施設長、精神科嘱託医）、看護・介護職員 65名、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 9名、管理栄養士 1名、薬剤師 0.1名、支援相談員 4名、事務職員 6.5名、計 86.7名の人員配置であった。

■業務内容・実績

1日約 97.8名の入所（前年比 99.3%、以下同様）うちショートステイ 12.8名（87.7%）であった。入院による退所は 69名（97.2%）であった。在宅復帰率 67.5%、ベッド回転率 23.5%、要介護 4・5の占める割合 53.3%で、在宅復帰・在宅療養支援等指標は平均 82点であった。通所リハビリテーション（以下通りハ）は 1日平均 31.1名（95.1%）であった。リハ部門では、短期集中リハ加算 5,603件（117.1%）等の算定件数の増加や新たに予防通所のリハマネジメント加算 295件の算定を開始することができた。

■2019年度のトピックス

2019年度も超強化型老健の要件を堅持することができた。上半期は前年より更に多くの入院による退所者があり、入所者の確保が不十分であった。新規利用者を積極的に受け入れ、喀痰吸引が必要な入所者に看護師と資格を持った介護福祉士が喀痰吸引を実施することにより、体調不良に陥る利用者が減少し、年間の入院による退所者数は延べ 69名で前年を下回った。愛仁会高槻地区の PCFM ミーティングに参加し、ベッド稼働状況等の情報共有やケアマネジャー（以下ケアマネ）との情報交換を行い、法人内連携の強化に努めた。法人内施設から看護師の研修受け入れを行ったり、病院の認定看護師に勉強会の講師を依頼し、施設間での交流を図った。定期的なリハ会議の開催や、入退所前後訪問の実施などニーズや環境設定も含めた在宅復

帰・在宅療養支援に対する取り組みも多職種協働で引き続き行った。ケアカンファレンスを毎日実施し、職員間での情報共有をスムーズに行うことができた。通りハでは新規利用者獲得のため体験利用を開始した。

大学や高槻支援学校からの実習受け入れや中学生の職業体験の受け入れを引き続き行った。実習目的も多彩であり、看護師が指導する必要がある実習、介護福祉士が担当する実習など様々であった。看護師の実習指導者態勢を強化するため、1名が実習指導者研修を受講した。

地域貢献活動の一環として高槻北地域包括支援センターと協働で新たに「ケーアイカラオケ喫茶」を主催し、3回実施することができた。

■今後の展望

引き続き超強化型老健を堅持していくために、在宅復帰・在宅療養支援機能を向上させる。専門多職種がそろっている老健の強みを生かし、退所後の在宅生活を見据えたリハプラン、ケアプランを作成し実施する。家族指導等を積極的に行い利用者の在宅復帰・在宅療養を支援する。居宅ケアマネとの連携を更に強化し、地域で生活する高齢者に介護が必要となった時にいつでも気軽に声を掛けてもらえるような関係を築いていきたい。

地域貢献活動については COVID-19 のため 2019 年度末から自粛となっているが、感染対策をしっかりと行った上で、新たな形で継続できるようにしていく。

地域包括支援センターが施設内にある強みを生かしより連携を深め、地域住民向けの介護予防の啓発や実践、認知症地域支援推進員との協働による認知症カフェの継続や、認知症サポーター養成講座を開催する。これからの生活に不安がある高齢者に積極的に関わることで、いつまでも住みやすい地域作りに貢献するとともに、地域包括ケアシステムの一翼を担うため、介護予防、認知症ケア、在宅療養支援に重点を置いた事業を今後も展開する。

高槻北地域包括支援センター

■スタッフ紹介

62 期高槻北地域包括支援センターは、保健師・看護師 2 名、主任介護支援専門員 2 名、社会福祉士 2 名、介護支援専門員 3.5 名、認知症地域支援推進員 1 名の計 10.5 名の配置であった。

■業務内容

1. 介護予防マネジメント事業

- ・介護予防事業に関するケアマネジメント

地域の一般高齢者に向けて、基本チェックリストを参考に、訪問や電話等でますます元気教室やクラブの案内を行った。要支援認定者や事業対象者に対しても対象になる方に参加を勧奨した。

- ・要支援認定者、事業対象者に関するケアマネジメント

205 名（前年度比 107.3%、以下同様）の新規利用相談があり、利用者の主体性を尊重した適切な介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援を実施した。延べ 990 件（115.4%）のモニタリング訪問を実施し、関係機関・サービス事業所からの指導、助言を取り入れながら介護予防サービス支援計画書原案作成から、サービス担当者会議の開催に至るまで、介護予防マネジメントを確実に実施した。高槻市医師会作成の「医療と介護の連絡シート」を活用し、福祉用具貸与、医療系サービスの利用や生活状況における主治医との連携を積極的に行った。

2. 総合相談支援事業

高齢者やその家族、地域住民からの介護・福祉に関わる総合相談支援を行い、病院、かかりつけ医、福祉機関の関係者、民生委員、介護支援専門員との連携を深めた。新規ケースは 309 件（70.5%）であった。

3. 権利擁護事業

関係機関との情報交換、ネットワークの構築により、延べ 74 件（115.6%）の権利擁護に関する相談があった。

4. 包括的・継続的ケアマネジメント事業

ケアマネジャー情報交換会を年 5 回開催し、担当圏域内の介護支援専門員の積極的な参加を得ることができた。介護支援専門員に対するケアマネジメント支援件数は、延べ 106 件（63.1%）であった。

5. 地域支援ネットワーク構築

以下の会議・研修会等を開催・出席した（抜粋）。

- ・担当圏域包括ケア会議 年 5 回開催
- ・個別ケース検討会議 年 2 回開催
- ・地域密着型事業所運営推進会議 計 10 回出席
- ・生活支援体制整備事業ワークショップ 計 3 回参加
- ・担当圏域内のますます元気クラブ 計 64 回参加
- ・ふれあい喫茶・いきいきサロン等 計 72 回参加
- ・認知症カフェ（かふえみかん） 計 10 回開催 等

6. 認知症地域支援推進員等設置事業

「認知症になっても住みやすい街づくり」を目指し、高槻市・大阪府と協力して、認知症についての啓発活動、認知症の人と家族の支援、認知症研修の開催を行った。

■2019 年度のトピックス・実績

これまで開催してきた認知症カフェ「かふえみかん」「認知症カフェ in クラムボン」については月 1 回定期的に開催している。第 21 回フォーラム「医療の改善活動」in 仙台において、「認知症カフェ in クラムボン」立ち上げの取り組みを発表したところ、優秀賞を受賞した。

認知症地域支援推進員の活動としては、若年性認知症の人の就労支援に力を入れ、それぞれ特別養護老人ホームでの就労やジョブコーチへの引継ぎなどを行い、成果を上げた。

■今後の展望

2019 年度も前年度同様順調に活動を行ってきたが、2020 年に入り、日本各地において新型コロナウイルスの蔓延が心配される事態に陥ったことから、市の指導もあり、人の集まる活動への参加や実施を自粛せざるを得なかった。そのため、特に 2 月 3 月は地域活動の実績はほぼゼロとなり、介護予防支援事業所の活動を粛々と行うに留まった。今後、新型コロナウイルス感染者数が減少傾向になったとしても、我々は高齢者対象の機関であるため、世間一般以上に 3 密を避けた動きが求められる。これまで実施してきた高齢者の「集まりの場」や「つながり」をどう再構築していくのか、新しい高齢者支援の形についてアイディアを出し、切り替えていくことが早急に求められている。



介護老人保健施設

しんあい

〒569-1035

高槻市西之川原 2 丁目 46 番 1 号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/shin-ai-carefacility/menu01/index.html>

理念・基本方針

<理念>

私たちは、介護が必要である高齢者が、その人らしく自立し在宅での生活を送れるように、地域社会と連携して支援します

<方針>

1. 利用者さまが自立した日常生活を営むことができるよう、ユニットケアにおいて、その人の能力に応じた援助を行い、在宅復帰を目指します。
2. 利用者さまの人格を尊重し、よりよいサービスを提供します。(人格:その人の生活や性格・考え方など含めた全て)
3. 地域社会との綿密な連携により在宅ケアの促進に努めます。

施設概要

■入所者定員/69名(ショートステイ含む)

全室トイレ洗面所付き個室のユニット型老健

■通所者定員/35名

2019 年度総括

愛仁会正式統合の移行から 6 年目として活動してきた。居室利用率は 94.3%から 96.1%となり、利用者は前年度より 492 名増(新規 62 名)となった。超強化型老健を 2018 年 4 月に取得することができたため、収入は前年比 104.2%で約 1,685 万円の増収となった。

通所リハビリテーションは、28.9 名(稼働率 82.6%)

(新規 25 名)で前年度比 204 名減となった。2 月中旬より新型コロナウイルスが発生し、コロナウイルスの風評(外に出ると移る・大勢の人がいる所は危険)等で 1 月～3 月においては昨年より延べ 95 名の辞退があった。

重症化に対応すべく介護職員の吸引・胃ろう等の医行為に従事する職員は 7 名となり、指導看護師も 2 名増え 7 名となった。胃ろう注入の必要な利用者は常時 3 名及びショートで 5 名が交代で利用できるようになった。

学会等では延べ 1 名の発表、4 名の参加であった。

ST を非常勤だが迎え入れ、ミールラウンドを継続している。

2019 年度活動状況

- | | |
|-----|---|
| 4 月 | 第 62 期辞令授与、期首全集、新人職員研修、ハーモニカボランティア、歌体操制作ボランティア、日舞ボランティア、タイムレコーダー設置、ミールラウンド、事務部期首講演会 |
| 5 月 | 神服神社例大祭、マジックボランティア、ハーブボランティア、音楽演奏ボランティア、看護部期首研修会、QC 委員会、介護主任ベトナム出張、慈恵学園就職フェア、ミールラウンド |
| 6 月 | レクリエーションボランティア委員会、ハーモニカボランティア、高槻市立第二中学校職業体験研修、ミールラウンド、マジックボランティア、QC 委員会、歌・体操制作ボランティア、ふれあい広場イベント、高槻市相談員来所、寿司バイキング、縁日会議 |
| 7 月 | 上半期褒賞式、マジックボランティア、ハーモニ |

	カボランティア, ミールラウンド, 高槻市相談員 来所, 宮之川原民生委員施設見学, QC 委員会三 優監査法人報告会		
8 月	ミールラウンド, 歌・体操制作ボランティア, ハ ーモニカボランティア, マジックボランティア, 高槻市相談員来所, QC 委員会, 縁日会議	12 月	介護等体験受け入れ, ミールラウンド, QC 委員 会, マジックボランティア, ハーモニカボランテ ィア, 愛仁会・愛和会高槻地区合同忘年会, 介護 相談員来所, 集団指導, 三優監査法人監査, 納会
9 月	西之川原地区合同縁日, 夏の体験ボランティア, 介護福祉施設合同業務改善発表会, 介護相談員来 所, ミールラウンド, マジックボランティア, ハ ープボランティア, ハーモニカボランティア, 縁 日会議, レクリエーションボランティア委員会, ドンア大学研究生受入, 認知症サポーター養成講 座	1 月	新年互礼会, 介護体験受け入れ, ミールラウンド, QC 委員会, 高槻市実地指導
10 月	QC 委員会, ミールラウンド, 歌・体操制作ボラ ンティア, 職員健康診断, 介護相談員来所, マジ ックボランティア, 人権研修, リハ部門学術大会, ハーモニカボランティア, 創立記念食	2 月	西之川原自治会防災訓練, 介護体験学生受け入れ, 愛仁会看護助産専門学校実習受け入れ, 業務改善 アドバイザー研修, ミールラウンド, 介護相談員 来所, 介護相談窓口
11 月	愛仁会創立 61 周年, 介護等体験受け入れ, QC 委 員会, マジックボランティア, ミールラウンド, 人権研修, ハーモニカボランティア, 高槻市立第 二中学校職業体験受け入れ, 全国介護老人保健施 設大会 (大分県)	3 月	レクリエーションボランティア委員会, ミールラ ウンド, 介護補助ミーティング

2020 年度に向けて

今後超強化型老健を維持するためにも、職員数と質の充
実、夜勤体制の調整を行い、重症化・回転率上昇及びリハ
ビリの充実に対応できる体制を整えていく必要がある。

通所リハビリテーションでは利用者の更なる増加を図
り 95%以上の稼動を行う。

介護老人保健施設 しんあい

■スタッフ紹介

今期の人員配置は、医師 1 名、看護・介護職員 45 名、施設ケアマネ 1 名、支援相談員 2 名、理学・作業療法士 6 名、管理栄養士 1 名、事務職員等 6 名、障がい枠介護補助員 4 名であった。

離職・転出者は介護 3 名、新卒 1 名、中途入職者は 1 名であり、産休・育休取得者は 5 名であった。

ユニットケアに対する人員が昨年に続き更に確保できつつある。

■業務内容

居室利用率は 94.3%から 96.1%で、利用者は前年度より 492 名増（新規 62 名）となり、超強化型老健を 2018 年 4 月に取得することができたため、収入は前年比 104.2%で約 1,685 万円の増収になった。

通所リハビリテーションは、28.9 名（稼働率 82.3%）（新規 24 名）で前年度比 204 名減（新型コロナウイルスの影響）となった。看護師の常時配置も行い、中重度加算に対応できるようになった。

重症化に対応すべく介護職員の吸引・胃ろう等の医行為に従事する職員は 7 名となり、指導看護師も 7 名となった。胃ろう注入の必要な利用者は常時 3 名及びショートで 5 名が交代で利用できるようになった。

学会等では延べ 1 名の発表・4 名の参加であった。

障がい者職員を 4 名受け入れた。

嚥下障害の利用者が増加する中、非常勤であるが ST を迎え入れ、食事動作・姿勢など指導を受け利用者に対応し、ミールラウンドを維持している。

実習施設としての準備を行い、本年度は看護学校の実習生の受け入れを行った。

夏には敷地内にある 3 施設合同の縁日を開催し、利用者・家族・地域の方々とも交流し活気ある施設として活動できている。

■2019 年度のトピックス・実績

学会参加については、全老健で発表 1 件を行った。全老健の学会に延べ 4 名参加した。

地域の行事として、5 月の近隣の神社の例大祭ではお神輿を担ぎ、2 月には防災訓練に毎年参加している。本年も近隣の公園にて 105 名の参加者とともに避難訓練・バケツリレー・起震車体験・炊き出し訓練などを実施した。

■今後の展望

介護報酬改定により、当施設でも超強化型老健になった。今後超強化型老健を維持するためにも、職員数と質の充実、夜勤体制の調整を行い、重症化・回転率上昇及びリハビリテーションの充実に対応できる体制を整えていく必要がある。

通所リハビリテーションでは利用者の更なる増加を図り 90%以上の稼働を行う。



社会福祉法人 愛和会 (高槻地区)

〒569-1035

高槻市西之川原 2 丁目 46 番 3 号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/aiwakai/>

理念・基本方針

『高齢者に明るく快適な生活を提供いたします』

様々な疾患とハンディキャップを持った高齢者の方に、希望ある生活を構築できるサポートを ICF(国際生活機能分類) の考え方で各専門スタッフが協働して支援します。

1. 利用者・家族・職員の良い関係を構築します。
2. 利用者・家族・職員が心身ともに健やかに過ごせるように努めます。
3. 地域住民との交流を大切にします。

施設概要

■ケアハウスますみ 入所者定員/20 名

■デイサービスますみ 通所者定員/18 名 (地域密着型)

2019 年度総括

ケアハウス入居者 20 名の平均介護度は 3.36, 平均年齢は 89.5 歳と超高齢化となり, 2019 年度は 1 名の看取りを実践した。

併設クリニックで定期的に診察を受け, 入居者の健康管理はもちろん, 往診などに対応していただき, ケアハウスでの穏やかな看取りケアが実践できた。

デイサービスの利用者の平均介護度は 1.88 と自立の方が多い印象だが, 平均年齢は 87.6 歳と高齢化しており, 医療重症度は高い状況であるが, デイサービスの利用者も併設クリニックの患者が多く, 家族から厚い信頼をいただいている。

2019 年度活動状況

- | | |
|------|---|
| 4 月 | 愛和会第 19 期辞令授与, 期首全集 |
| 5 月 | 母の日イベント, 感染症研修, 神服神社例大祭, 看護部期首研修, QC 委員会 |
| 6 月 | 父の日イベント, 舞の会 (ボランティア), 感染症研修, 消防訓練, 人権研修, 縁日会議 |
| 7 月 | 七夕イベント, 人権研修, 音楽ボランティア, 集団指導, 感染研修, 運営推進会議, 上半期褒賞 |
| 8 月 | 排便研修, 縁日会議, QC 委員会, 給食関係研修, ビンゴ大会 |
| 9 月 | 敬老会イベント, 縁日会議, 西之川原地区施設合同縁日, 介護福祉施設合同業務改善発表会, 運営推進会議, 身体拘束ゼロ推進員研修 |
| 10 月 | 職員健康診断, 愛仁会グループ看護・介護管理者 (副主任) 研修, ケアハウスますみ高槻市実地指導, 創立記念食, 愛仁会グループ看護・介護管理者 (科長) 研修 |
| 11 月 | 紅葉ドライブ, QC 委員会, 消防訓練, 運営推進会議 |
| 12 月 | クリスマス会, 愛仁会愛和会 4 施設合同忘年会, 愛仁会グループ看護・介護管理者 (科長) 研修, 納会 |
| 1 月 | お正月行事 (初詣・書初め), 新年互礼会, 鏡開きレクリエーション, QC 委員会 |
| 2 月 | 節分イベント, 西之川原地区合同防災訓練, 業務改善アドバイザー研修 |
| 3 月 | ひな祭りイベント, 高槻市集団指導, コンピテンシー研修 |

2020 年度に向けて

地域住民と, 自然災害における協力体制を構築する。

ケアハウス ますみ

■スタッフ紹介

総施設長	山本欣宏
施設長	西田 豊
看護師	1名
生活相談員	1名
介護支援専門員	1名
介護福祉士	8名
事務員	2名

■業務内容

2009年12月1日に開設し、昨年までは入居稼働率100%（20名）を堅持していたが、2019年度は入居稼働率98.5%（19.7名）であった。開設当初から継続して入居されている方が多く、看取り期を迎えている方も少なくない。当施設のような小さなケアハウスでも静かで穏やかな看取り期を過ごしていただくことができるよう日々主治医との連携、家族との相談、緩和ケア研修などに努めている。入居者の多くは介護度3以上ではあるが、色々な行事や集団体操にも積極的に参加され穏やかな日々を過ごされている。ケアハウスますみは、同一建物内にしんあいクリニックがあり、日常的な健康管理や看取り期を迎えた高齢者への優しい声掛けや往診など、主治医がいつでも対応して下さるという安心感がある。

当施設の周辺には田園が広がり、山の木々の緑は目に鮮やかで、風光明媚な環境に四方を囲まれているため、入居者もスタッフも四季折々を五感で感じながら生活できていると言える。気候の良い時にはリハビリ目的で散歩を楽しんだり、施設の中庭にある炭酸泉の足湯でくつろいだりされている入居者の姿を見ると、ご家族の表情も穏やかである。

2020年3月現在の平均介護度は3.36となり、昨年度に比べ介護度が高くなっている。入居者の生活能力は重度化の一途であり、医療重症度は増している。

入居者の超高齢化に伴い看取りケアの実践力が問われる施設ではあるが、入居者の意向・家族の意向をしっかり

と受け止め、一人ひとりの状態に応じた援助方法をケアプランに反映させ、ケアの質の向上に努めている。介護支援専門員と看護師は常に報・連・相を意識し、入居者のささいな変化にもいち早く気づくことができている。このチームケア実践力は、入居者とスタッフ、スタッフと家族、家族と介護支援専門員、介護支援専門員と看護師、看護師と主治医、主治医と家族、家族と入居者の信頼関係の輪が繋がっているからだと言える。

近年は自然災害、特に水害対策には十分な自主防災訓練が必要であるとの指摘がなされている。高槻市は淀川水域の中でも豪雨による川の氾濫が危惧されている地域であることから、ますます地域住民との協力体制を強化し自主防災対策を講じることが急務である。

■2019年度のトピックス・実績

同一建物にあるクリニック医師の定期的診察と往診を受けながら、2019年に1名の、看取りケアを行うことができた。

ケアハウスますみでは、住み慣れた部屋で生活の延長線上に極自然な終末期を迎えることができるよう、強制的な栄養補給、強制的な水分補給は行わない方針であることに本人・家族が深く理解を示され、クリニック主治医も賛同して下さり、看護師・介護士・そして家族が協力し、本当に静かで穏やかな平穏死を迎えることができる看取りケアが実践できた。

2020年2月に新型コロナウイルスが猛威を振り出したが、総施設長の判断により早期に面会規制（後に面会禁止）を行ったため入居者、職員に感染者が出ることはなかった。

■今後の展望

2020年度は『地域高齢者の自主避難場所』としての役割を具体的に示し、また、地域住民と自然災害における協力体制を構築する。

デイサービス ますみ

■スタッフ紹介

総施設長	山本欣宏
施設長	西田 豊
生活相談員	古藤昌美・河村美恵子
准看護師	1名
介護福祉士	2名
介護員	2名
ドライバー（パート）	1名

■業務内容

デイサービスますみは、しんあいクリニックとケアハウスますみの同一建物の1階にあり、定員が20名であったが、2018年2月より地域密着型デイサービスに移行し定員が18名となり、アットホームな雰囲気でのサービスである。

2018年度の利用総延べ人数4,435名に対し、2019年度では利用総延べ人数4,524名と89名増加した。2019年度利用平均人数は14.7名となっている。2019年4月より個別機能訓練を実施している。

デイサービスの周辺は風光明媚な田園地帯で、四季折々の風景を楽しむことができ、施設に併設されている足湯を利用しながら季節を感じ、利用者同士はもちろん職員との交流の場ともなっている。

当デイサービスでは、月に一度【季節湯週間】を設け、菖蒲湯や桃湯、ゆず湯といった様々な種類のお風呂を楽しんでいただいている。

また、ゲームや制作活動といったレクリエーションも利用者には好評で、中でも四季を通じて近隣の山や公園に出

掛ける行事は好評である。4月には摂津峡や日本たばこ産業の敷地内へ桜を見に行き、5月には地域の神社の祭りに参加しお神輿鑑賞を行い、11月には摂津峡へ紅葉を見に行くなど、地域ならではの行事を行っている。

職員も地域の方々との交流を楽しみにしており、特に近隣の神社で開かれる祭りに、神輿の担ぎ手として参加させていただき、祭りを盛り上げている。2019年度は毎週月曜日に2名、年間延べ人数78名の地域福祉サークルの皆さんが傾聴ボランティアとして定期的に来てくださり、デイサービスのメインイベントとも言える午後のレクリエーションやゲーム等を盛り上げてくださった。

地域福祉サークルの方々との交流は、社会福祉法人に求められる地域における公益的活動と言え、今後ますます交流を深めることで、施設運営の透明化を図ることができる。

■2019年度のトピックス・実績

2020年2月から新型コロナウイルスが猛威を振るい始めたため、利用者も感染を恐れキャンセルが続いたが、利用者、職員に感染者が発生しなかったのは幸いであった。

■今後の展望

地域福祉ネットワークとの連携を深め、地域福祉サークルと協同し、地域高齢者の介護相談などを受け入れ、気軽に立ち寄っていただける地域交流の場として開放することで、デイサービスの健全な運営が期待できる。

デイサービスますみで働く職員は、地域で暮らす高齢者にとって、いつでも気軽に立ち寄れる場所であり続けたいと、心から望んでいる。

高槻あいわ保育園

■スタッフ紹介

園長 1 名、主任 1 名、副主任 1 名、正規保育士 18 名、看護師 1 名、常勤的非常勤保育士 4 名、パート保育士 16 名、保育補助員 2 名、臨床心理士 1 名、事務長（兼務）1 名、事務員 2 名、管理栄養士（兼務）1 名

委託業務：給食、清掃、警備、運転手（バス）

■業務内容・2019 年度のトピックス・実績

子ども子育て支援新制度変更後、保育園に求められるものが增加するが、多様なニーズに対応し取り組んできた。園児数は、通常定員 150 名に対し、入園希望多数により弾力運用実施で 171 名の園児を受け入れた。高槻市内でトップ級の待機児童数を誇る。他、特別保育事業を実施した。

1. 通常保育

高槻市待機児童解消を目的として、定員 150 名のところ 171 名の枠外受け入れを行った。0～2 歳児は担当制保育を行い、質の良い安定した保育を継続することができた。3～5 歳児は、年齢別保育をベースに体操クラブ、英語教育、異年齢児保育を行った。地域交流及び世代間交流として、5 歳児は高槻市立第二中学校との交流、芥川幼稚園・芥川保育所との交流、4 歳児は高槻市立第二中学校との交流、そのほか、アクトアモーレ店舗会や芥川商店との地域での交流、高槻病院にじっこ保育園との合同夏祭りなど、交流の機会を多く持つことができた。

2. 特別保育事業

①延長保育

7 時 00 分から 7 時 30 分、18 時 30 分から 19 時 00 分までの延長保育の利用者は年間延べ 3,400 名で 19 時を超える利用者は 61 名であった。

②障がい児保育

3 歳児に 2 名、4 歳児に 1 名、5 歳児に 1 名の障がい児を受け入れた。加配保育士と担任保育士と看護師等が連携し、その子どもに合わせたカリキュラムを作成し、保育を行った。

③一時預かり保育

制度変革の無い現状は、現体制を当面維持する。定員 6 名で保育士配置数を見直し、対応した。小規模保育施設の

拡大で利用者数確保が困難な月もあった。年間の延べ利用者数は 960 名であった。

④休日保育

実施日数は 70 日、利用者数は 650 名、1 日の平均利用者数は 9.2 名であった。定期利用者のみを獲得し、利用者数の安定確保に繋がり、保育も安定して行えた。

⑤地域子育て支援事業

2 階地域のフロアにおいて子育てひろばを開放し、地域子育て家庭や小学生が利用できる集いの場となった。年間実施日数は 223 日、子育てひろばの利用者は 3,392 名であった。子育てプログラムの実施回数は 66 回、参加者は延べ 856 名。また、園庭開放の実施回数は 11 回、利用者は 79 名であった。

3. 職員研修・保育研究

①愛仁会グループ保育士研修

外部講師を招いて、なかよし保育園、ひよっこ保育園、にじっこ保育園、高槻あいわ保育園 4 園合同の保育士研修を次の内容で行った。

(1) 保育士合同研修大会（1 回実施）

研修内容：保育における ICT の導入について、運動遊び、わらべうた、わかりやすい話し方、グループワークを行った。60 名の保育士が一堂に会し、座学と実技を織り交ぜた研修内容で全職員共通の学びの場となった。グループワークでは職員交流やコミュニケーション力向上を目的としたレクリエーション「大縄」や「謎解きゲーム」、懇親会を設定し、自己肯定感を保育士自身が再確認することや、コミュニケーションレベル向上について話し合いを行い取り組んだ。また共通の意識を持つことや、協議において良いところを共有し、更に良くするための意見交換も行うことができた。

(2) 基礎講座

3 園の 2～3 年目職員 9 名を対象に 7 回シリーズで保育基礎講座を実施。ディスカッションを中心に自分の保育を見つめ直し、目指す目標を考える機会となった。

②保育研究・外部研修

毎年日本保育学会での発表を行っていたが、知識やデータを蓄える期間とし、今年度の発表は見送った。また高槻市、大阪府社会福祉協議会等主催の外部研修にも 12 回、

延べ 16 名参加した。

③園内研修

保育内容についての園内研修を 22 回実施し、参加者は延べ 241 名であった。保育士が講師となり、研修内容について研究して研修を行うことで、指導力の向上と全体の保育の質の向上にも繋がった。

■今後の展望

・子ども・子育て支援新制度が施行され 5 年が経過したが未だ制度改定はなく、幼保連携型認定こども園への移行が難しい状態である。今後は保育所型認定こども園への移行を含め検討する。引き続き園の質向上や特色強化等

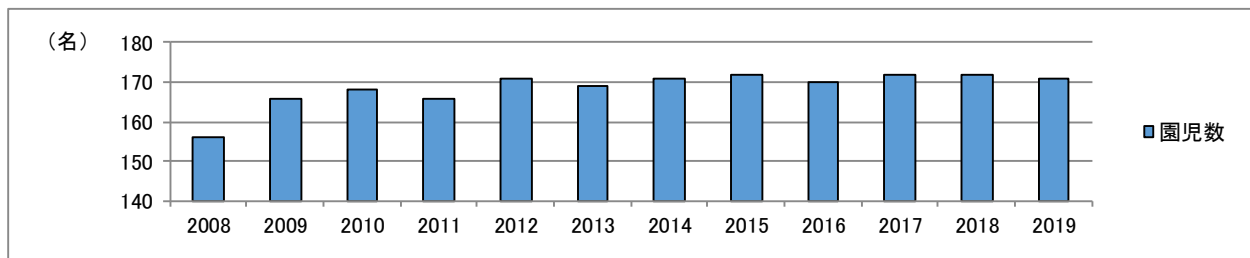
を行うことで幼保連携型認定こども園との差を埋め、園児獲得に取り組む。ハード面の整備も急務となり、検討し計画的に整備を進めていく。

- ・保育士、看護師、管理栄養士等と連携を取ったチーム保育の強化を行い、世の中の多様なニーズや変化に対応できる体制を整え、安定的活動を維持する。
- ・学会発表に積極的に参加し、保育士の質の向上を図るとともに、OJT 研修、保育士交換留学及び保育士研修大会の実施により、中堅保育士の保育力の向上及びベテラン保育士の指導力の向上を図る。また、新人保育士への能力開発ガイドライン、基礎講座の実施により、具体的な目標設定と保育力の向上に努めたい。

図表 1. 年度毎の在園児数の推移

(単位:名)

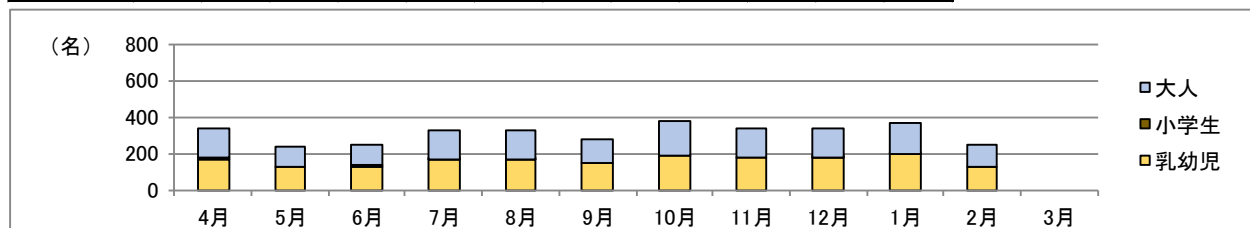
年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
園児数	156	166	168	166	171	169	171	172	170	172	172	171



図表 2. 子育てひろば利用者数

(単位:名)

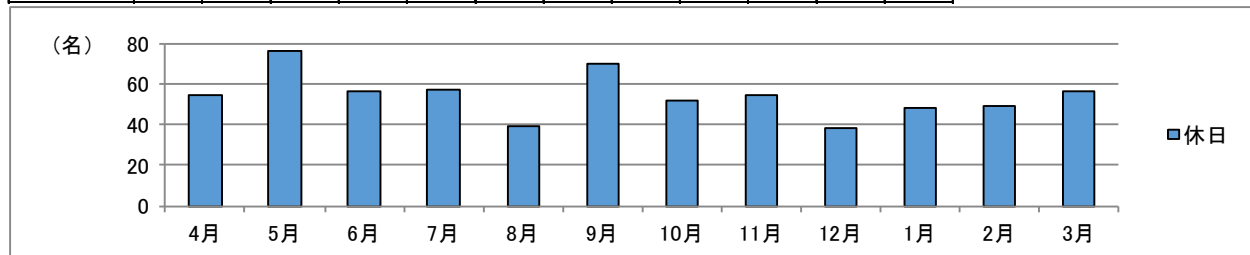
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳幼児	169	122	130	162	162	146	182	173	174	199	126	0
小学生	2	0	4	8	8	0	0	0	2	1	0	0
大人	161	113	114	155	155	132	191	159	155	168	119	0



図表 3. 休日保育利用児童数

(単位:名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
休日	55	76	56	57	39	70	52	55	38	48	49	56





愛仁会 総合健康 センター

〒569-1143
高槻市幸町4番3号



ISO9001

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/k.center/>

理念・基本方針

<理念>

お一人お一人の立場と自主性を尊重した健康づくりに貢献します。

<基本方針>

1. 精度の高い人間ドック及び健診を提供する。
2. 個人情報保護に留意し、わかりやすい検査結果説明を行う。
3. 受診者の権利を尊重し、地域の医療機関と連携してフォローアップを行う。
4. 快適な受診環境の提供と、接遇サービスに努める。
5. 健康講座や研修会などを通じて、地域の保健予防に貢献する。

施設概要

■施設認定/厚生労働省認定健康増進施設、厚生労働省指定運動療法施設、日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定施設、日本人間ドック学会 優良人間ドック・健診施設、健康評価施設査定機構認定施設、日本人間ドック学会 専門医研修施設、日本総合健診医学会 優良総合健診施設認定、ISO9001 認証取得、労働者健康保持増進サービス (THP) 機関、労災保険二次健康診断等給付認定診療所、マンモグラフィ検診施設認定

- ・愛仁会総合健康センター附属診療所
- ・愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター

2019 年度総括

【人間ドック・健診事業】

施設内健診は、収入前年比人間ドック 106.2%、協会けんぽ 102.0%、一般健診 99.8%、特定健診 126.3%、特定保健指導 159.2%、出張健診は、収入前年比 103.8%、全体で収入前年比 105.2%、予算達成率 101.3%と、3月に新型コロナウイルスの影響があったが、年間を通して好調であった。

【健康増進教室】

キッズ講座チャレンジ会実施でこども入会者数は増加したが、大人入会者数減少で、全体はほぼ前年並み。退会者数は前年より増加で、全体の登録者数が減少し、収入前年比 90.1%であった。トレーニングジムは下半期から月会費制を導入したが、収入は増加には至らなかった。大きく前年比を割った原因は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月を休講したためである。

【デイサービス】

契約数より解約数が上回り契約総数が減少したことにより、収入前年比は通所介護が 87.8%、介護予防通所介護が 98.6%、全体で 94.2%であり、通所介護の落ち込みが大きかった。

2019 年度活動状況

- 4月 健康センター・カーム尼崎合同途中入職者内部研修、健康だより発刊、キッズ講座チャレンジ会、トレーニングジム 3 回お試し会、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、イベント講義(健康講座)、

- 安全管理委員会研修会「消防署による急変時対応訓練」、労働衛生研修会
- 5月 イベント講義（健康講座）、デイサービスイベント「ミーナ・ソロッテ（音楽ボランティア）」、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、被爆者健診、感染予防研修会、「ゴミゼロの日」、健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会
- 6月 自動車運転車両管理研修会、イベント講義（健康講座）、プール衛生管理講習会、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、自衛消防訓練、日本人間ドック学会学術大会予演会
- 7月 健康だより発刊、トレーニングジム 3 回お試し会、大人プール講座体験会、イベント講義（健康講座）、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、こども短期教室、第 60 回日本人間ドック学会学術大会、安全運転管理者講習会
- 8月 イベント講義（健康講座）、こども短期教室、ISO サーベイランス、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、ISO9001 内部監査
- 9月 健康増進体力測定会、イベント講義（健康講座）、あすなろ麺販売、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、キッズ講座「講座参観」、通所介護・通所型サービス施設見学、上半期業務改善活動成果発表会、健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会
- 10月 健康だより発刊、キッズ講座チャレンジ会、イベント講義（健康講座）、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、イオンスタイル摂津富田店出張健康相談、被爆者健診、高槻市立阿武山中学校学生職場体験学習
- 11月 永年勤続表彰、創立記念昼食会、トレーニングジム 3 回お試し会、高槻市立第二中学校学生職場体験学習、通所介護・通所型サービス施設見学、イベント講義（健康講座）、第 56 回日本糖尿病学会近畿地方会、イオンスタイル摂津富田店出張健康相談、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、職員による草刈り、自衛消防訓練
- 12月 企業懇談会、イベント講義（健康講座）、2019 年度三優監査法人拠点期中監査、イオンスタイル摂津富田店出張健康相談、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、通所介護・通所型サービス施設見学、品質管理委員会研修会
- 1月 キッズ講座チャレンジ会、講座体験会、自動車運転車両管理研修会、イベント講義（健康講座）、イオンスタイル摂津富田店出張健康相談、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、感染予防研修会
- 2月 ISO 維持審査、日本総合健診医学会第 48 回大会、イベント講義（健康講座）、ISO9001 内部監査、イオンスタイル摂津富田店出張健康相談、イオンスタイル新茨木店出張健康相談
- 3月 下半期業務改善活動成果発表会、健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会、健康センター・カーム尼崎合同途中入職者内部研修

2020 年度に向けて

【人間ドック・健診事業】

利用者が安心・安全に受診できるよう感染防止に努め、利用者確保に尽力する。

【健康増進教室】

新型コロナウイルス感染対策を徹底するため、講座スケジュールの再編、トレーニングジム利用システム変更を図る。

【デイサービス】

利用者の要望、他施設情報などから、サービス提供内容を見直し、利用者満足度向上を図り、解約に歯止めをかける。

人間ドック・健診事業

■スタッフ紹介

医師 7名
 健診科 看護師 13名 (パート 8名を含む)
 臨床検査技師 8名 (パート 6名を含む)
 診療放射線技師 8名
 保健師 4名 管理栄養士 2名
 情報科 事務員 27名 (パート 4名を含む)
 営業渉外科 事務員 11名 (パート 3名を含む)
 診療放射線技師 1名

指導業務に注力し、実施率 70%以上を目標に活動をした結果、前年比 159.2%と増収に繋がった。また引き続き高槻市がん検診及び公立学校共済大阪支部の受診者数も増加し、高槻市がん検診が 2,585 名、人間ドック受診者数が年間 333 名増加し収入増に繋がった(下表)。巡回健診は、新規成約として 7 事業所と摂津市特定健診を受託し前年比 103.8%と増収となった。また、胸部レントゲンバスの外装リニューアルを行った。検査部門においては FMS を導入し機器の更新を行った。3 月に新型コロナウイルスの影響があったが、年間を通じて好調であった。

■業務内容

当施設は法人グループ内で健康診断受託施設の中心的役割を担い、施設内健診及び出張健診実施のほか、健診営業拠点を担うとともに、画像読影や報告書作成発送業務を集約実施している。

■今後の展望

新型コロナウイルスの影響で、3 月以降の巡回健診が中止、延期となっており施設内も予約が少ない状況となっているが、感染対策を徹底し受診者確保に尽力する。また、健診システムサポート終了が迫っており、新システム導入をスムーズに行いたい。

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度は前年に引き続き健康増進における特定保健

表. 健診種類別実績

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年比	
施設内	人間ドック	2019	人数(人)	234	289	415	490	578	475	548	531	509	425	440	386	5,320	106.7%
		収入(千円)	11,019	13,579	18,792	22,382	25,687	21,071	24,837	24,676	23,224	19,880	20,964	18,290	244,400	106.2%	
	協会けんぽ健診	2019	人数(人)	463	623	1,070	854	486	635	776	780	583	375	461	245	7,351	102.1%
		収入(千円)	9,171	13,254	20,812	17,924	10,035	13,467	16,430	15,522	11,476	7,809	9,399	4,692	149,991	102.0%	
	一般健診	2019	人数(人)	537	727	1,054	984	869	811	990	959	828	1,069	896	513	10,237	96.3%
		収入(千円)	8,265	10,457	10,281	14,759	12,858	11,531	14,017	13,407	11,750	14,242	13,085	7,611	142,262	99.8%	
特定健診	2019	人数(人)	613	752	1,145	1,002	825	901	1,014	996	891	1,030	804	655	10,628	105.3%	
	収入(千円)	8,671	10,534	11,075	14,185	12,553	12,604	14,118	13,380	11,463	12,752	12,113	9,153	142,600	101.6%		
特定保健指導	2019	人数(人)	7	49	47	71	81	85	124	88	138	50	74	86	900	104.2%	
	収入(千円)	159	1,064	665	1,246	2,068	1,756	2,371	1,719	2,696	999	1,300	1,600	17,645	126.3%		
出張健診	2019	人数(人)	3	22	34	78	81	57	114	116	132	57	74	96	864	101.3%	
	収入(千円)	74	410	559	1,018	1,126	1,072	1,899	1,666	2,446	864	1,286	1,554	13,973	93.3%		
出張健診	2019	人数(人)	70	171	192	246	201	164	296	300	208	184	161	127	2,340	146.2%	
	収入(千円)	1,682	2,159	2,611	3,062	2,706	2,566	3,828	4,090	2,782	2,926	2,798	2,422	33,632	159.2%		
出張健診	2018	人数(人)	54	106	171	112	135	166	203	154	129	105	127	139	1,601	162.0%	
	収入(千円)	957	1,447	1,983	1,653	1,863	2,099	2,722	1,901	1,495	1,520	1,649	1,838	21,128	161.6%		
出張健診	2019	人数(人)	3,404	4,414	10,039	6,180	7,765	3,126	8,871	5,888	2,124	2,758	5,140	1,779	61,488	113.3%	
	収入(千円)	24,779	32,326	51,885	36,334	42,607	19,863	48,186	31,495	14,895	13,882	28,313	8,690	353,256	103.8%		
出張健診	2018	人数(人)	3,018	3,565	7,376	6,797	6,539	4,310	7,835	4,795	1,862	1,076	3,959	3,128	54,260	88.3%	
	収入(千円)	22,582	30,023	43,157	37,874	36,524	26,610	46,830	27,440	13,125	8,241	26,975	20,814	340,196	90.0%		
合計	2019	人数(人)	4,715	6,273	12,817	8,825	9,980	5,296	11,605	8,546	4,390	4,861	7,192	3,136	87,636	110.2%	
	収入(千円)	55,076	72,838	105,045	95,707	95,960	70,254	109,670	90,909	66,824	59,737	75,859	43,304	941,185	105.2%		
合計	2018	人数(人)	4,358	5,533	10,017	9,259	8,708	6,354	10,434	7,226	4,011	2,938	5,858	4,841	79,537	93.1%	
	収入(千円)	51,963	72,649	92,939	91,083	88,242	71,818	104,153	80,861	59,614	47,541	71,503	62,714	895,079	97.7%		

デイサービスセンター

■スタッフ紹介

作業療法士：1名

看護師：3名（パート2名含む）

介護福祉士：5名（パート1名含む（11月退職））

事務員（運転手）：1名（パート9月退職，パート2月入職）

■業務内容

半日制機能訓練特化型デイサービスとして、パワーリハビリを中心とした機能訓練、個別訓練、集団訓練を実施している。個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱでは、ADL、IADLの向上に取り組んでいる。また、定期的に体力測定を行い、計画書や訓練内容の見直しを行っている。

■2019年度のトピックス・実績

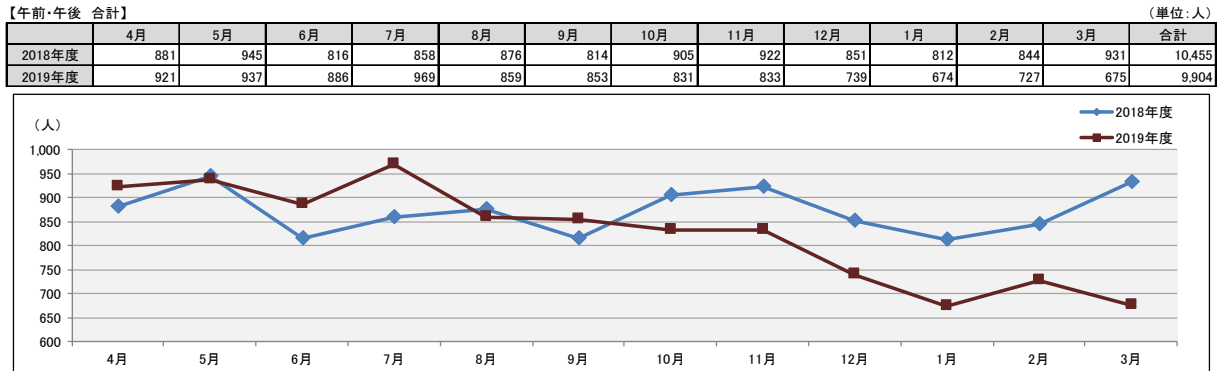
スタッフの体調不良と退職が続いた。下半期3月よりコ

ロウイルスの影響により利用率が下がった。2019年度利用率は前年度比要介護利用者87.5%、要支援・総合事業利用者99.6%、全体で94.7%の利用となった。愛仁会リハビリテーション病院訪問リハビリテーションと当デイサービスの両方を利用している利用者の情報を共有しサービスの質を高めるため、訪問リハビリテーションとミーティングを実施し、連携を図った。

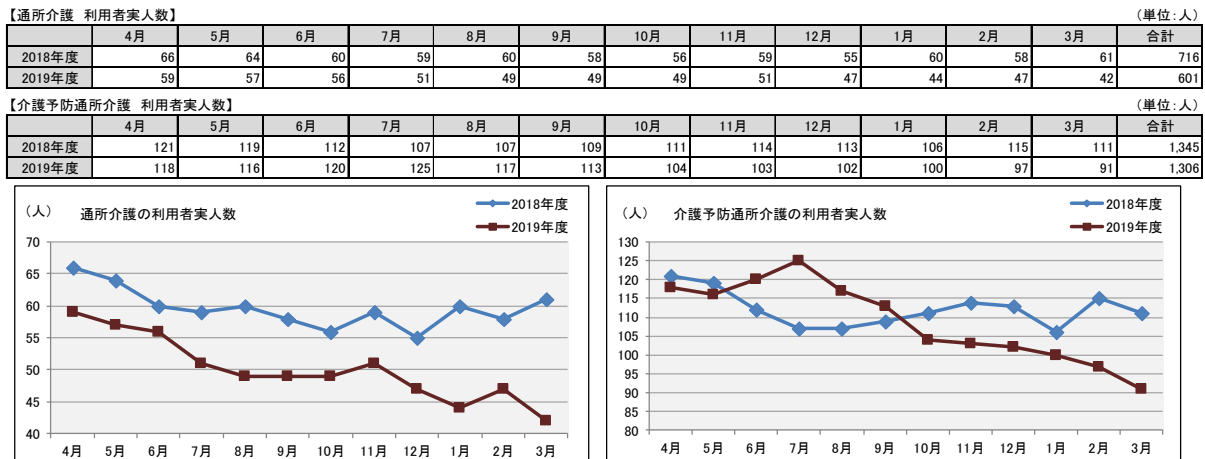
■今後の展望

登録利用者数が減少しており、今後は新規利用者を増やすことで利用率を向上させたい。訓練に関しては定期的な訓練内容の見直しを行い、心身機能の維持・向上を目指したい。さらに、本人、家族からの情報も得て、ADL、IADLの向上にも取り組みたい。それに向けて、訓練とそれ以外のケアを通して満足度に着目したサービスを展開していきたい。

図表1. 利用者延べ人数



図表2. 利用者実人数



健康増進教室

■スタッフ紹介

健康運動指導士 3名
 健康運動実践指導者 1名
 事務職 9名（パート2名含む）

■業務内容

健康増進教室：76教室（うち大人教室44教室，子ども教室32教室）

ホットヨガ

トレーニングジム

イベント活動：子ども短期教室（水泳，体操，ダンス，新体操），子どもチャレンジ会（水泳，体操，ダンス，バレエ，新体操），子ども教室参観日，大人講座体験会，短期教室，健康講話，体力測定会，ジム3回お試し会，水泳ワンポイント教室，泳法撮影会

■2019年度のトピックス・実績

健康増進教室の会員確保対策として各種イベントやキャンペーンに伴う広報活動を継続的に取り組み，法人各施設をはじめ，近隣の企業や保育園等にチラシを設置してい

ただいた。また，消費税増税に伴い，講座受講料やトレーニングジム利用料を改定し，収益改善にも取り組んだ。満足度の向上にも継続的に取り組み，満足度アンケート結果から講師との面談を強化し，指導現場での問題点の確認や対策を立てた。

新型コロナウイルスの影響のため3月から講座の休講を余儀なくされたが，子ども教室では会員獲得のため，昨年同様子どもチャレンジ会や教室参観日等のその他イベント活動の実施，講座の増設により延べ会員数は前年と比較するとプラスとなり，会員獲得に繋げることができた。

トレーニングジムでは，利用方法を見直した。これにより10月より月会費制を導入し，利用者の利便性やスタッフの業務の効率化を図った。講座同様，新型コロナウイルスの影響を受け，利用者の減少がみられることから利用者の確保が急務である。

■今後の展望

新型コロナウイルス感染防止対策を行い，安全に施設を利用していただけるよう取り組み，離れた会員の復帰と既存会員の退会防止に努めたい。

表. 事業項目別利用者数

(単位:人)

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
健康増進教室	大人教室	2019	371	380	377	374	376	369	374	367	360	353	349	348	4,398	96.1%
		2018	392	395	387	383	388	379	376	378	377	376	374	370	4,575	99.3%
	子ども教室	2019	466	477	481	486	510	519	515	522	510	499	491	481	5,957	100.2%
		2018	492	500	491	487	496	493	498	506	505	493	496	489	5,946	102.2%
ホットヨガ	登録者	2019	223	222	222	224	221	221	215	212	209	213	217	211	2,610	92.2%
		2018	239	244	249	247	242	237	239	234	229	227	223	221	2,831	94.4%
	延べ人数	2019	884	833	797	904	781	899	792	828	818	841	869	58	9,304	90.5%
		2018	828	866	888	886	796	856	887	877	854	877	821	839	10,275	95.4%
トレーニングジム	登録者	2019	177	179	187	181	187	210	215	214	194	181	167	163	2,255	98.6%
		2018	195	194	196	198	198	185	197	184	180	183	186	190	2,286	99.4%
	延べ人数	2019	1,215	1,148	1,204	1,301	1,101	1,221	1,285	1,192	1,104	1,181	1,184	33	13,169	89.1%
		2018	1,332	1,306	1,276	1,283	1,209	1,074	1,353	1,209	1,045	1,144	1,233	1,323	14,787	97.0%
合計(月別登録者数)		2019	1,237	1,258	1,267	1,265	1,294	1,319	1,319	1,315	1,273	1,246	1,224	1,203	15,220	97.3%
		2018	1,318	1,333	1,323	1,315	1,324	1,294	1,310	1,302	1,291	1,279	1,279	1,270	15,638	99.4%



愛仁会 看護助産 専門学校

〒569-1115

高槻市古曽部町1丁目3番33号

URL: <https://ajinkaischool.jp/>

教育理念

愛仁会看護助産専門学校は、自主性と和の精神をもって、人々の健康で豊かな生活に貢献しうる看護師、助産師を養成する。

施設概要

■学科・定員/看護学科（全日制 2クラス 80名）
助産学科（20名）

2019年度総括

看護学科は全日制3年課程1学年80名、助産学科は1年課程20名の定員である。4月に看護学科40回生79名、助産学科23回生16名が入学。2020年3月に看護学科38回生76名、助産学科23回生14名が卒業した。国家試験については、看護学科は1名不合格となり、合格率は98.7%となった。また、助産学科は全員が合格し、合格率は100%となった。

2019年度本校の課題は、①看護基礎教育・制度改革への対応、②ユニフィケーションによる学校と臨床の連携指導強化、③学校運営体制の強化を年度方針として取り組んだ。

特に看護基礎教育・制度改革への対応では、看護実践能力を育成する新カリキュラムの構築及びカリキュラム改正を見据えた助産学実習の構築に向けて取り組んだ。

ユニフィケーションによる学校と臨床の連携指導強化では、臨地実習指導者会活動及び実習指導の充実強化について取り組み、2019年度も臨地実習指導者会議を看護学

科7回、助産学科3回及び特別講演会を1回開催し、効果的な実習指導に関する教材化を中心に実習科目についての説明・調整を行った。

学校運営体制の強化については、高等教育修学支援新制度の認定を2019年9月20日付で取得できた。

地域貢献・社会貢献である学校施設の活用状況については、2019年度についても、法人内での研修や就職説明会に活用されたほか、一部の学会や地域公開講座など、地域にも開かれた場所として多くの人々に利用された（法人内の使用年間約175回、法人外の使用約30回）。

2019年度活動状況

- 4月 看護学科始業式、2019年度入学式、新入生歓迎会、春季防災訓練、講師会議、近畿地区助産学生交流会
- 5月 看護学科第40回生宿泊研修
- 6月 オープンキャンパス、法人就職セミナー、大阪母性衛生学会、助産学科前期実習、看護学科第39回生基礎看護学実習Ⅱ、学校関係者評価、教員合同研修会
- 7月 オープンキャンパス、看護学科第39回生キャリアガイダンス、学校祭
- 8月 オープンキャンパス、母校訪問、夏季休暇
- 9月 オープンキャンパス、法人就職試験、子育て支援講座
- 10月 オープンキャンパス、看護の決意式、助産学科後期実習、看護学科第40回生基礎看護学実習Ⅰ、秋季防災訓練

- 11月 オープンキャンパス，学校祭，推薦・社会人入試，看護学科第39回生領域別実習
- 12月 看護学科第38回生看護の統合実習，冬季休暇，教育課程編成委員会
- 1月 一般入試，在学生成人の祝い，看護学科第39回生領域別実習，助産学科地域実習，助産学科ALSO研修
- 2月 オープンキャンパス，看護学科39回生キャリアガイダンス，看護師・助産師国家試験受験
- 3月 看護学科3学年合同演習，卒業式，看護学科第39回生BLS研修，看護師・助産師国家試験合格発表

2020年度に向けて

本校では，本年度，看護学科・助産学科両科とも第三者評価更新を予定しているため，この再審により当校のソフト面・ハード面の教育環境については是正すべき事項について再確認していく。法人各施設の多大な協力の

下，臨地実習の充実を図り，医療を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中で，医療・看護の動向や社会のニーズを捉え，ユニフィケーションによる学校と臨床の連携強化を今後も一層進めていく。

さらに，本校を取り巻く環境は少子化による新卒高校生の減少や，社会人学生の減少，看護大学の増加による受験者数の減少など極めて厳しい状況にある。優秀な看護師，助産師を育成するために，専門職としての適性のある学生を如何に確保するかが重要である。

また，2022年4月予定のカリキュラム改正に向けた検討課題及びカリキュラム構築のための継続的な検討を進める。これについては，保健師助産師看護師養成所指定規則並びに運営に関する指導ガイドラインが2020年度早期に示される予定である。法令との整合性を図りながら時代や地域のニーズにあった看護基礎教育が実践できるよう，教職員一丸となって取り組まなければならない。

愛仁会看護助産専門学校

■スタッフ紹介

全職員数は33名で、内訳は下記のとおりである。

学校長 1名 副学校長 1名 名誉学校長 1名

看護学科専任教員 17名

助産学科専任教員 5名

事務員 8名

(司書1名・システム担当2名含む)

■2019年度のトピックス・実績

2019年9月高等教育の修学支援新制度の認定を受けた。

◇実習指導者会活動及び実習指導の充実強化

臨地実習指導者会において、学生指導に関する課題を検討する機会を定例的に実施した。また、臨地実習指導者のための研修会も企画、実施した。具体的な実習指導のための連携強化による質の向上について、分析整理し、対策立案を行い、継続的に取り組んだ。実習指導者会は、看護学科で7回、助産学科で3回開催した。さらに、実習指導者会講演会を6月22日に大阪医科大学 看護学部教授 池西悦子先生を迎え、指導力の強化を図ることを目的とし、「リフレクションを用いた効果的な実習指導」というテーマで実施した。

◇カリキュラム実施状況

2020年度の教育実施状況は、看護学科1年生は39単位1,095時間、2年生は36単位1,095時間、3年生23単位825時間、助産学科32単位990時間の教育課程を実施した。

◇入試及び学生募集活動

2020年度看護学科の推薦入試、社会人入試並びに助産学科の推薦入試を11月に実施し、一般入試は2020年1月初旬には実施した。

助産学科では、今年度の入試では推薦入試において公募制を導入し、受験生確保に繋げるよう対応を行った。

また、今年度は看護学科7回、助産学科3回のオープンキャンパスを開催し、本校のPRや実習施設の紹介、入学試験、校内見学などを行い、延べ764名の参加者を得ることができた。高等学校の学校訪問では、法人施設の所在する地域を中心に82校の高等学校を訪問した。また、高等学校が開催する進学説明会や模擬授業に積極的に参加し32か所、延べ350名に進学相談を行った。

■近況データの提示及び統計データの説明

「入試状況」(表1)は過去5年間の入試状況を表にまとめたものである。受験者数は、看護学科では、引き続き社会人は減少したが、新卒高校生も減少したことで、前年比73名減の185名となった。助産学科の出願者は、公募推薦入試の受験者は増加したが、2020年度の受験者が減少した。合格後辞退する受験者は1名と例年より少なかった。

「国家試験状況」(表2)は過去5年間の国家試験状況を示したものである。看護学科は1名不合格となったが全国の合格率を上回る98.7%の合格率を確保した。助産学科では全員が合格し、100%の合格率を維持できた。

「進路状況」(表3)は過去5年間の進路について示したものである。看護学科では、進学希望者が増加し、68名が愛仁会グループ病院へ就職した。助産学科は12名が愛仁会グループ病院へ就職した。

表1. 入試状況

(看護学科)

(単位:名)

項目	年度	2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
		第37回生			第38回生			第39回生			第40回生			第41回生		
出願者数		266			309			251			277			209		
受験者数		246			294			233			258			185		
受験者地域別	近畿	大阪府	190		243		187		214		143					
		兵庫県	32		33		27		19		25					
		京都府	7		11		9		15		8					
		和歌山県	0		1		2		1		0					
		滋賀県	0		0		4		0		2					
		奈良県	1		1		0		2		0					
		小計	230		289		229		251		178					
	北海道	2		0		0		0		0						
	東北	0		0		0		0		0						
	北陸	1		0		0		1		0						
	関東	2		2		0		0		1						
	中部	4		1		2		1		1						
	中国	2		1		1		2		3						
	四国	3		1		1		1		0						
九州	2		0		0		2		2							
入試種別		推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般
出願者数		40	75	151	74	87	148	50	75	126	72	76	129	58	57	94
受験者数		40	62	144	70	78	146	48	67	118	70	70	118	53	49	83
合格者数		33	24	43	37	27	40	40	25	40	37	17	37	34	21	40
競争倍率		1.2	2.6	3.3	1.9	2.9	3.7	1.2	2.7	3.0	1.9	4.1	3.2	1.6	2.3	2.1
入学者数		33	17	30	37	21	25	40	23	34	36	15	28	34	15	30
入学率 %		100	70	70	100	78	49	100	92	85	97	88	76	100	71	75

(助産学科)

項目	年度	2016年		2017年		2018年		2019年			2020年			
		第20回生		第21回生		第22回生		第23回生			第24回生			
出願者数		88		82		69		95			79			
受験者数		87		78		63		94			70			
受験者地域別	近畿	大阪府	43		43		27		33			28		
		兵庫県	14		14		9		23			18		
		京都府	12		4		12		14			7		
		和歌山県	3		0		1		0			0		
		滋賀県	1		4		5		9			4		
		奈良県	2		5		4		5			2		
		小計	75		70		58		84			59		
	北海道	0		0		0		2			0			
	東北	0		0		0		0			1			
	北陸	4		2		0		0			1			
	関東	1		1		2		0			1			
	中部	0		0		0		4			1			
	中国	3		3		0		2			4			
	四国	2		0		1		2			3			
九州	2		2		2		0			0				
海外	0		0		0		0			0				
入試種別		推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	指定校推薦	公募推薦	一般	指定校推薦	公募推薦	一般	
出願者数		3	85	5	77	2	67	4	18	73	4	23	52	
受験者数		3	84	5	73	2	61	4	18	72	4	20	46	
合格者数		1	22	5	25	2	18	4	6	9	4	7	10	
競争倍率		3.0	3.8	1.0	2.9	1.0	3.4	1.0	3.0	8.0	1.0	2.9	4.6	
入学者数		1	19	5	14	2	15	4	6	6	4	6	9	
入学率 %		100	86	100	56	100	83	100	100	67	100	86	90	

表 2. 国家試験状況

(看護学科)

(単位:名)

卒業年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
回生	第34回生	第35回生	第36回生	第37回生	第38回生
入学生	88	78	84	80	83
卒業生	83	76	81	72	76
合格者	80	76	80	71	75
本校合格率	96.4%	100.0%	98.8%	98.6%	98.7%
全国平均	89.4%	88.5%	91.0%	89.3%	89.2%
備考		既卒者3名合格		既卒者1名合格	既卒者1名合格

(助産学科)

卒業年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
回生	第19回生	第20回生	第21回生	第22回生	第23回生
入学生	20	20	19	17	16
卒業生	17	18	17	15	14
合格者	17	17	17	15	14
本校合格率	100.0%	94.4%	100.0%	100.0%	100.0%
全国平均	99.8%	93.0%	98.7%	99.6%	99.4%
備考			既卒者1名合格		

表 3. 進路状況

(看護学科)

(単位:名)

卒業年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
回生	第34回生	第35回生	第36回生	第37回生	第38回生	
卒業生	83	76	81	72	76	
進 学	助産師学校	4	7	3	4	
	其他大学	1	1	0	0	
	看護大学	0	0	0	0	
	進学者合計	5	8	3	3	4
就 職	愛仁会グループ病院	72	63	76	64	68
	外部実習関連病院	1	2	0	0	0
	その他の病院	1	3	1	3	2
	就職者合計	74	68	77	67	70
その他	4	0	1	2	2	
進学者を除く愛仁会グループ 病院就職率	97.3%	92.6%	98.7%	95.5%	97.1%	

(助産学科)

卒業年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
回生	第19回生	第20回生	第21回生	第22回生	第23回生	
卒業生	17	18	17	15	14	
就 職	愛仁会グループ病院	14	15	14	13	12
	その他の病院	3	3	3	2	2
	就職者合計	17	18	17	15	14
その他	0	0	0	0	0	
愛仁会グループ病院就職率	82.4%	83.3%	82.4%	86.7%	85.7%	



明石医療センター

〒674-0063

明石市大久保町八木 743 番地 33 号

URL: <https://www.amc1.jp/>



モットー・理念

<モットー>

患者さまに信頼される医療

<理念>

1. 私たちは、患者さまを中心に、その期待に応える医療を行います。
2. 私たちは、地域との連携を密にして、社会に貢献します。
3. 私たちは、常に自己研鑽に励み、医療の質を高めます。

施設概要

■病床数/382 床 診療科目/21 科

■病院機能/地域医療支援病院，基幹型臨床研修病院，協力型（神戸大学医学部附属病院），開放型病院，救急告示病院，日本医療機能評価機構認定病院，兵庫県がん診療連携拠点病院に準じる病院，災害対応病院

■特殊診療機能/救急センター，消化器内視鏡センター，心臓血管・不整脈センター，心臓血管低侵襲治療センター，ICU，HCU，高機能フロア（手術室 6 室，ハイブリッド手術室 1 室，心血管造影室 2 室），NICU，GCU，リハビリテーション，人工透析，ドック・健診センター

2019 年度総括

2001 年に明石医療センターが設立されて 19 年が経過した。また新築移転（本館）から 12 年が経過し、医療機器や設備の老朽化に伴う改修や時代のニーズに対応できる設備の更新といった課題に加え、近隣の高度な医療設備

を備えた大型公立病院の統合躍進など、患者の受診動向に大きく変化が生じている。このような状況において、地域医療体制の中で急性期医療を担う確固たる位置づけを確保し続けるためには、救急医療を中心とした診療機能強化と質の向上、経費の管理を強化することを最重要課題とし、

1) 高度急性期医療の追求，2) よりスムーズな入退院や在院日数短縮を目指した入退院支援センターの充実，3) 救急診療の更なる充実，4) 人材確保と人材育成の強化，5) 新専門医制度への対応，6) 周産期医療の充実による地域への貢献，7) 認知症患者への対応強化，8) 病院設備機器老朽化への計画的対策の実施，9) 近隣医療機関や行政機関との連携の強化，10) 法整備された働き方改革への対応を挙げた。その中で、1) に関しては、腹腔鏡，胸腔鏡手術実施件数が消化器外科を中心に大きく増加した。3) に関しては、救急専門医を 2 名確保して救急科，集中治療科を新設し、急性期病院としての更なる体制整備を進め、救急車受け入れ件数も飛躍的に増加した。5) に関しては当院基幹プログラム該当医師だけでなく協力連携病院からも多数の専攻医を受け入れ、新専門医制度の教育カリキュラムに対応した。7) に関しては、認知症サポート医，認知症ケア認定看護師を中心にチーム医療を加速させ、早期介入によりせん妄発生率減少に繋げることができた。9) に関しては、医師会，消防局，保健所との関係と地域医療機関との連携を深めることによって紹介率，逆紹介率を高い水準で保つことができた。

2019 年度は救急車の受け入れ対応強化によって入院患者を安定的に確保できたとともに、救急科・集中治療科の新設，外科，産婦人科の人員強化からロボット支援手術の

導入など急性期病院としての体制整備が進んだ。

2019 年度活動状況

- 4月 新任医師辞令交付式, 役職者辞令交付式, 職員全集(期首), 新入職員研修会歓迎会, 医局歓迎会, 第34回すこやか広場, 救急科・集中治療科新設
- 5月 兵庫県主催臨床研修合同説明会, 看護の日イベント, 第35回すこやか広場, 明石医療センター・明石市医師会連絡会
- 6月 レジナビフェア 2019 (研修医対象), 第36回すこやか広場
- 7月 職員全集(上半期賞与), 上半期褒賞授与式, 第37回すこやか広場, レジナビフェア 2019 (医学生対象), 明石医療センター・明石市医師会連絡会
- 8月 初期臨床研修医選考試験, 第38回すこやか広場, 第1回明石の救急医療を考える会, 日本病院会主催病院長・幹部職員セミナー, 日本病院学会
- 9月 上半期業務改善成果発表会, 明石医療センター地域連携の会, 第39回すこやか広場, 消防訓練, BLS・AED 研修会
- 10月 職員全集(秋季), 永年勤続者表彰式, 第40回すこやか広場, 明石医療センター・明石市医師会連絡会, BLS・AED 研修会
- 11月 立入検査, 大規模災害訓練, 第41回すこやか広場, トライやる・ウィーク, 2019年度世界糖尿病デー ブルーライトイベント
- 12月 職員全集(下半期賞与), 下半期褒賞授与式・忘年会, 第42回すこやか広場, 職員全集(特別)
- 1月 新年互礼会, 第43回すこやか広場, 明石医療センター・明石市医師会連絡会, 日本病院機能評価受審
- 2月 第44回すこやか広場, 新型コロナウイルス感染症帰国者接触者外来開設
- 3月 臨床研修医修了証授与式

2020 年度に向けて

2008年に本館, 2013年に南館を新築するなどハード面を整備したが, 本館新築から12年が経過し, 建物設備, 医療機器の更新や修繕を要する時期を迎えて, 改修工事や新たな整備を検討する必要性が出ている。

明石市の人口推計推移は, 子育て支援施策拡充による若年層の流入により人口は微増しているが, 75歳以上の人口及び医療需要が2025年~30年にピークを迎える。このような背景の中, 今後は高齢で複雑な合併症を有する重症急性期疾患患者をいかに多く受け入れ, いかに効率よく短期間で自宅退院若しくは後方支援病院や施設に連携するかが重要となる。そのためには, 今後も救急搬送に柔軟かつ速やかに対応し, 低侵襲な最先端医療を安全に提供するために多職種によるチーム医療を推進し, 地域住民の方々に“明石に生まれ, 住んで良かった”と思っていられるよう安心, 安全な地域完結型の医療を提供していきたい。一方で医療従事者(特に医師)における働き方改革にも対応していく必要があるが, 医療の質と職員のモチベーションを高いレベルで維持しつつ, 改革できる環境整備も最重要課題となってくる。

上記の方針を推進するために2020年度に重要視する項目として, 1) 断らない救急への対応, 2) 小児科・周産期医療の拡充, 3) 安全で高品質な最先端医療の提供, 4) ロボット支援手術の安定稼働, 5) 信頼に裏打ちされた前方及び後方地域連携, 6) 地域医療に資する人材の確保・育成, 7) 新専門医制度への対応, 8) 附属看護専門学校の機能強化, 9) 多職種協働のチーム医療推進, 10) 働き方改革への対応などを挙げる。これら多岐に渡る課題を克服するために診療科間や職種間でタスクシェア・タスクシフトを積極的に議論し, 今までの安定に身を委ねるたこ壺化を打破することで活発な診療実績と効率的で安定した収益構造につながる新しい明石医療センターへのスタートラインとしたい。

総合内科

■スタッフ紹介

総合内科

主任部長：木南佐織 部長：石丸直人

医長：世戸博之，中島隆弘，河野 圭，官澤洋平

医員：大西 潤，水木真平，金子昌裕

■診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医と研修中の専攻医が中心となって担当し，プライマリケアの実践を行っている。再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行っている。

入院：3チーム制でチーム医療を行っている。指導医2名，専攻医1～2名，初期研修医2～3名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎日カンファレンス・回診を行っている。

総合内科は，一般外来や救急外来を受診した幅広い内科疾患の対応及び入院患者のマネジメントを行っている。病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，総合的な診断・診療を実践し，全人的な医療を行っている。入院診療では，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度は，新たに河野医師が指導医として加わり，感染症領域の診療や研修医指導の充実に繋がった。

2019年度から救急科が新設され，救急診療が充実し，幅広い救急患者の入院受け入れを総合内科が担っている。

複数の問題点を抱える高齢者心不全の入院患者が増加し，心不全の初期治療から，アドバンス・ケア・プランニング（ACP）までトータルケアに力を入れている。

整形外科は高齢者の骨折例など内科的管理を要する例が多く，特に大腿骨近位部骨折患者は全ての例で総合内科が併診し，術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している。

指導医の増員，救急診療の充実，心不全患者の積極的な受け入れなどにより，入院患者が昨年度より1.19倍に増加した。

医学教育・医師育成も当科の重要な役割であり，専攻医

による実践的なハンズオンの指導も含めたレクチャーや，初期研修医による症例提示，臨床的疑問を解決するClinical question，プロフェッショナリズムを育てるためのコンピテンシー（医師としての特性や能力）のレクチャー，グラム染色勉強会，英語論文を批判的吟味しながら読み解くジャーナルクラブ，専攻医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的に開催している。また総合内科・プライマリケア領域の医学誌（ホスピタリストや病棟マニュアルなど）の分担執筆を当院指導医が担当している。

臨床研究の指導は，2016年から和歌山県立医科大学下川敏雄教授，Ben Phillis先生を定期的に招聘し，下川先生には医療統計の講師として，Ben先生には英文抄録や英文論文の作成法や英文校閲・査読の講師として，当院の症例報告や臨床研究をサポートいただいている。現在世戸医師，官澤医師が主導の「高齢者の誤嚥性肺炎・摂食嚥下機能評価」，世戸医師が主導の「高齢整形外科入院患者のポリファーマシーに対する総合内科主導の多職種チームアプローチの検証」，官澤医師が主導の「心不全で入院した患者における病院総合医と循環器内科医の治療の比較」などをテーマに臨床研究を進めている。また2019年度は海外の医学誌に原著論文1編，症例報告6編が掲載され成果が出てきている。

■今後の展望

【診療の充実】

救急受け入れ数が増加しており，指導医，専攻医のレベルアップにより，より幅広い疾患を受け入れ，診療の充実を図っていく。また高齢者患者が増加しており，地域や他職種の連携を密にし，高齢者診療に力を入れていく。

【資格，キャリアパス】

2018年度から，内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修している。内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで，専門医プログラムの必要症例の多くをカバーできる。また現在当科の2名の医師は京都大学大学院 医療経済学の教室に研究員として所属し，臨床医をしながら臨床研究を行い，今後学位の取得を目指している。

【臨床研究の推進】

定期的に外部講師から臨床研究のサポートをいただき、質の高い臨床研究の実践を目指し、更に複数の論文投稿を予定している。

表. 入院患者の内約

(単位:名)

疾患群	2017年度	2018年度	2019年度
感染症	186	213	264
呼吸器疾患	151	210	241
消化器疾患	53	76	83
糖尿病・内分泌疾患	63	124	64
膠原病・アレルギー疾患	74	66	75
血液疾患	27	27	31
循環器疾患	50	127	183
脳・神経疾患	70	65	85
腎・泌尿器系疾患	84	70	87
整形疾患	0	0	9
その他	147	153	221
入院患者合計(延べ人数)	905	1,131	1,343

救 急 科

■スタッフ紹介

救急科（2名）

医長：井上 彰 救急科専門医，集中治療専門医

医長：蛭名正智 救急科専門医，集中治療専門医

■診療内容

<救急外来>

平日日中の救急外来受診患者の初療を担当。初期研修医とともに診療し，救急診療を通してのプライマリケア・救急医学の教育も行っている。

<その他>

消防事後検証委員会・MC 協議会等への参加，明石 ICLS コースの開催，明石の救急医療を考える会の運営，各種教育カンファレンスなどを開催している。

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度より新規に救急科を開設。前年度までは研修医が中心となり救急患者の対応が行われていたが，救急科開設に伴い平日日中の救急患者対応を救急科が初期診療を担当する体制となった。

救急診療は教育も重要な役目であり，研修医教育にも力を入れている。2019 年度から初期研修医の救急科ブロック研修を開始し，内科外科を問わず救急対応を行いながらエビデンスに基づいた標準診療の実践を通して教育を行っている。

救急車の受け入れ件数は増加しており前年度に比べ約 20%増加した。また，救急受診患者数も増加しており前年度に比べ約 20%増加している（図）。救急件数は増加しているが救急車応需率も高い水準を維持している。

消防 MC 体制への参画や消防事後検証委員会への参加等を通じて地域の消防体制の向上へも貢献しており，明石消防を中心とした地域の消防組織との連携も強化した。

明石 ICLS コース，明石 MCLS コース，明石の救急を考える会の運営など，各種コースや勉強会への参加も多数行っている。

■今後の展望

【診療の充実】

地域の救急医療の基幹病院として，更なる救急診療の質向上やより適切な応需体制の構築を進めていく。

【救急教育】

救急診療を通して初期研修医をはじめとした様々な立場への教育を実践していく。

【地域連携】

近隣施設との救急医療体制を通じた連携や，明石消防を中心に当該地域における病院前診療体制の向上を目指す。

【その他】

- ・集中治療科と連携した集中治療診療への参画
- ・各種教育コースへの参画
- ・災害医療体制の構築

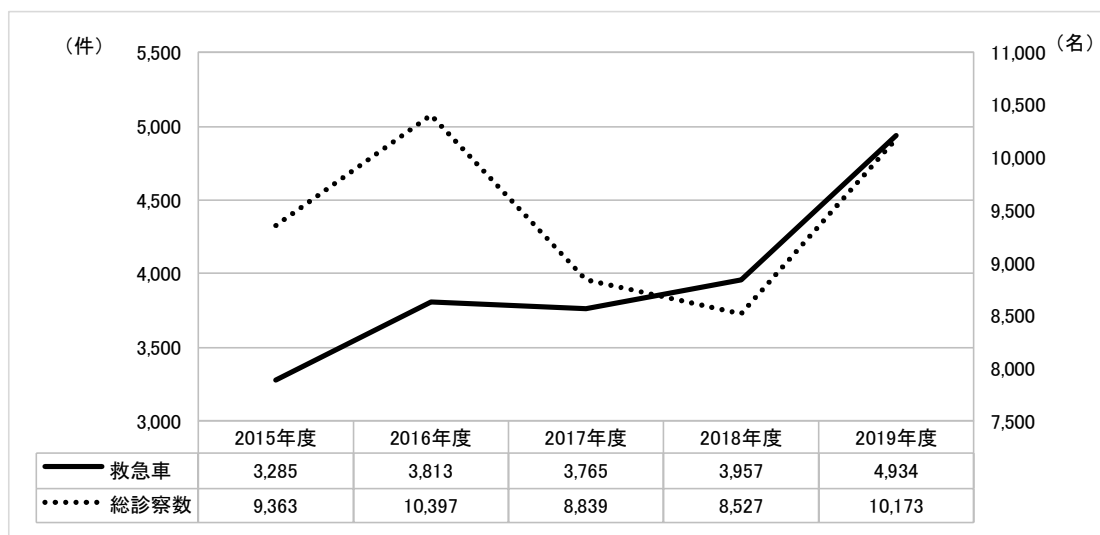


図. 救急車受入件数と救急受診患者数の推移

呼吸器内科

■スタッフ紹介

副院長：大西 尚

部長：吉村 将，島田天美子，岡村佳代子

医長：畠山由記久

医員：池田美穂，川口亜記

専攻医：岡本真理子（高槻病院より1年間出向），橋本梨花（神戸市立医療センター西市民病院より6か月間出向）吉村遼佑（高槻病院より1年間出向），村上翔子

■診療内容

外来：

明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている。

2013年8月新病棟開設に合わせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え、より多くの紹介患者に対応できるようになった。

入院：

呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている。入院診療は上記スタッフを中心になされるが、臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる。

2006年度から当院は後期研修医を募集しているが、2019年度には呼吸器内科に3名の後期研修医が新たに加わった。本年度は呼吸器専門研修プログラムの連携として高槻病院から2名、神戸市立医療センター西市民病院より1名が連携病院として当院で研修を行った。

週2回（月，金曜日）にチャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション，ディスカッションを行い，その後に病棟を回診している。また水曜日は後期研修医向けのレクチャー兼カンファレンスを行い相談症例の検討や情報共有を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療していたが、2015年4月より総合内科が新設されたため、より専門性をもって診療していくことが求められるようになった。しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず、「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し、患者に起こっている事実や事象・本質を見抜くことを重要視し、現場での最適解を常に模索することを常に努力し呼吸器内科医として幅広く診療を行うことを心掛けていく。

診療対象疾患としては、①肺炎を始めとする呼吸器感染症、②肺癌の診断・治療、③びまん性肺疾患の診断と治療、④気管支喘息発作、COPD 急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療、⑤肺気腫、間質性肺炎等による慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション、在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入、⑥睡眠時無呼吸症候群に対するPSG検査（2014年度から入院でのCPAP導入は中止）等が挙げられる（下表）。

近隣に癌専門病院があるが、地域紹介を通じた肺癌症例の増加が見られた。地域での講演会などを通じてガイドシース併用気管支腔内超音波断層法など、気管支鏡検査の診断精度向上周知の効果が現れていると推察される。

2015年4月から医長以上のスタッフが2名から4名、2016年7月からは5名体制となり、診療面、教育面ともに体制が強化された。

病理解剖数は2019年度総数が8件、呼吸器内科からは5件であった。

■今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は、明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科であり、今後更に地域医療機関との連携が重要と考えている。近隣医院からより信頼されるよう絶え間ない診療を目指し、軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている。呼吸器中核病院として、また呼吸器内科を目指す後期研修医の教育・研鑽の場として今後も益々努力し、魅力的な呼吸器内科を目指していく。

表. 診療実績

呼吸器内科入院患者数 (単位:名)

年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
呼吸器内科入院患者数 (延べ人数)	1,237	1,365	1,248	1,374	1,262	1,246	1,266

呼吸器疾患の内訳(人数は延べ人数) (単位:名)

疾患	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
肺癌	463 (127症例)	492 (128症例)	382 (125症例)	376 (143症例)	334 (134症例)	352 (133症例)	427 (169症例)
胸膜中皮腫	4 (4症例)	23 (6症例)	31 (7症例)	5 (4症例)	7 (7症例)	5 (5症例)	9 (8症例)
肺炎 (肺化膿症含む)	191	210	240	247	242	199	176
胸膜炎, 胸水貯留 (細菌性, 結核性など)	18	31	33	33	37	46	40
SAS (PSG/CPAP)	169 (116/53)	210 (147/34)	88 (88/0)	105 (105/0)	113 (113/0)	88 (88/0)	61 (61/0)
間質性肺炎	92	92	79	121	127	119	116
慢性呼吸不全 (COPD含む)	57	75	66	54	44	54	51
気管支喘息	33	61	47	63	52	47	35
気胸	71	57	45	73	72	58	57
喀血, 血痰など	~	~	35 (28症例)	23 (21症例)	19 (19症例)	24 (22症例)	27 (27症例)
その他	129	167	202	281	207	241	267

気管支鏡検査数 (単位:件)

2011年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
304	370	347	329	429	415	424	417

胸腔鏡検査数 (単位:件)

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
28	28	29	30	26	45	29	37

循環器内科／心臓血管・不整脈センター

■スタッフ紹介

副院長，主任部長：河田正仁

心臓血管・不整脈センター長，部長：足立和正

心臓血管・不整脈副センター長，部長：松浦 啓

部長：平山恭孝

医長：松浦岳司，黒田 優，小平睦月

医員：近都正幸，鈴木雄也，片平龍太郎

■診療内容

2019年度4月はスタッフ10名であったが，7月に1名（小平）減，11月に1名（足立）減，12月に1名（松浦岳司）減となり7名となった。また片平医師は内科専門医制度3年目のため循環器内科は2か月間の受け持ちであり，2020年4月から高槻勤務となった。人員の減少とともに年度半ばから85歳以上の虚血，不整脈関与のない心不全患者入院を総合内科入院に依頼した。月，金曜日の心筋シンチは大学非常勤に依頼した。入院患者数，入院医業収入は昨年度比80%台，外来患者数，外来医業収入は90%台となった。PTA，アブレーション，デバイス植え込み術は減少したが，PCI，TAVI件数は昨年度とほぼ同等であった。Holter ECG所見（平山），心外，総合内科依頼の経食道心エコー（河田），心臓リハビリテーションにおける心肺運動負荷試験（河田），ペースメーカー外来（平山，河田，松浦 啓），冠動脈CT所見（松浦 啓，河田，

黒田），心筋シンチ所見（松浦 啓）等残った人員で分担して業務に支障のないようにした。卒後1～3年目研修医教育はそれぞれにメンターをつけ行った。

■2019年度のトピックス・実績

学会発表として国内は日本循環器学会総会1題，日本心臓血管インターベンション治療学会（CVIT）総会5題，日本不整脈心電学会学術大会3題，カテーテルアブレーション関連秋季大会1題，インターベンション関連総会2題，海外学会3題，種々の地方会6題発表を行った。論文は「心臓」に1編採択された。

■今後の展望

2020年4月から循環器内科医が6名となり，2020年6月から5名へと減少する。保存的加療を行う心不全患者の診療は総合内科に依頼し，循環器内科としては，侵襲的治療を必要とする虚血，不整脈患者入院加療に重点を置き，カテーテルやデバイス治療の症例数維持を目指す。

2020年4月から近隣で開業予定の岡医師に木曜日の午前心筋シンチと午後非常勤外来を依頼している。AMIへの時間外緊急対応は科員全員とローテーションしてくる後期研修医を含めてオンコール当番を組み何とか維持していく。リクルート活動は持続的に行っていく。

表. 活動実績

入院患者数(2019年度)	16,752名(前年比89%)
外来患者数(2019年度)	18,827名(前年比93%)
入院(2019年度)	¥2,618,838,712(前年比83%)
外来(2019年度)	¥319,780,914(前年比96%)

心臓カテーテル検査・治療件数(2019年) (単位:件)

項目	件数
CAG(冠動脈造影, PCI含まない)	553
PCI(経皮的冠動脈形成術)	472
緊急PCI	137
待機的PCI	335
ロータブレーター	40
PTA(経皮的血管形成術)	114
TAVI(経カテーテル的大動脈弁植え込み術)	40
PTSMA(経皮的中隔心筋焼灼術)	3
下大静脈フィルター	9

不整脈検査・治療報告(2019年) (単位:件)

項目	件数
心臓電気生理学的検査(アブレーション含まない)	8
経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)	341
ペースメーカー植え込み術(新規)	101
ペースメーカー植え込み術(交換)	29
ICD(新規)	5
ICD(交換)	4
心臓再同期療法(CRT)(交換)	1
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器(CRT-D)(新規)	11
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器(CRT-D)(交換)	13

消化器内科

■スタッフ紹介（2020年4月1日現在）

名誉院長：澤井繁明

副院長・消化器内視鏡センター長：吉田俊一

部長：門 卓生

医 長：安藤純哉，石田 司，古松恵介，

當銘成友，佐々木一就，

ベンスレイマン・ヤハヤ

医 員：益子由佳子，大西紘平，田中太郎

専攻医：徳永貴文，塩屋暁子，中村視孝

非常勤医：赤松貴子，池澤伸明，阪口博哉

■診療内容

4月から當銘医師が加古川中央市民病院より着任し，専攻医1年目の瀧本医師が神戸大学より，専攻医2年目の石田医師が高槻病院より赴任（石田医師は10月から6か月研修）し，徳永医師は1年間，高槻病院へ出向となった。益子医師は産休・育休に入ることになった。

益子医師の外来は，隔週担当専攻医が週1回外来担当することで円滑に移行することができた。

通常内視鏡検査は非常勤医師の派遣・協力を得て，スタッフが専門検査や内視鏡治療に対応できる体制をとることができた。入院診療もグループ屋根がわら制で，病棟でのチームカンファレンス，救急当番制等も維持することができ，積極的な診療活動，各医師の専門分野を生かした診療・専攻医に対する実践指導の強化・専攻医の前向きな取り組みを行ってきた。

入院診療は上記スタッフと専攻医，初期研修医のローテーターが担当した。各担当医は週1回病棟で多職種協働カンファレンスを実施し，毎週火曜日に部長回診を行った。外来診療は3診体制（月～金）を維持し，腹部超音波検査にもスタッフ1人が出務することができた。診療部カンファレンスは，月曜日には主に新入院患者，金曜日は内視鏡治療と ERCP 関連症例の検討，外科との合同カンファレンスを行った。また，毎水曜日には抄読会を継続して行った。

内視鏡検査・治療の体制は上記スタッフに加え，非常勤医として赤松貴子医師が週3回（火・水・金曜日），池澤伸明医師，阪口博哉医師が週1回（月・木曜日）の内視鏡

検査に加わった。救急対応に関しては，日勤帯での救急当番体制を継続して迅速な対応を行い，夜間休日は看護体制が内視鏡センター・救急センター勤務体制となり，より円滑な緊急内視鏡検査治療に対応するオンコール体制を365日実施することができた。

■2019年度のトピックス・実績

外来患者数 2,149 人/月（前年比 104.7%），入院患者数 51.0 人/日（96.0%），新入院数 161.0 人（97.3%），平均在院日数 8.0 日（89.9%）であった。平均在院日数は 8.9 日から 8.0 日に大幅に短縮しているため，外来・入院患者の減少傾向であるが，診療実績を維持してきている。

内視鏡検査治療件数は，上部 6,830 件（98.6%），下部 3,412 件（98.3%），ERCP 関連 532 件（94.3%）で小腸内視鏡（バルーン内視鏡，カプセル内視鏡），超音波内視鏡などを合わせた総件数は 11,157 件（98.9%）であった。

主な内視鏡治療として，上部消化管の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は 122 件（112%），下部消化管の ESD 件数は 62 件（129%）であった。ERCP 関連では，高齢者の総胆管結石による急性閉塞性化膿性胆管炎や悪性腫瘍による閉塞性黄疸の増加により，乳頭切開術（EST）や胆管ドレナージ術（EBD）が増加している。とりわけ，胃全摘術や胆道再建術後の ERCP に関してバルーン内視鏡によるアプローチが定着してきており，難易度が高い手技ではあるが，安全性を保ちながら経験数の増加に伴い乳頭部到達までの時間短縮や目的とする治療の達成率は向上してきている。また，胆膵疾患の診断に古松医師を中心として超音波内視鏡検査と細胞診・生検（EUS-FNA）を積極的に実施した。超音波内視鏡 383 件（118.9%）で，EUS-FNA や膵仮性のう胞のドレナージも増加してきている。消化管治療は石田医師の指導により，消化管腫瘍の質的診断や内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層はく離術：ESD）手技の向上がスタッフ全体に浸透し，治療件数の増加に繋がっている。

対外的には愛仁会消化器カンファレンスの継続や明石市医師会消化器懇話会の開催に関与し，法人内や兵庫県や明石地域医療における連携強化に貢献することができた。学会活動においては，消化器病学会・消化器内視鏡学会の

総会・地方会への発表参加を行った。

■今後の展望

スタッフ構成としては、4月より孝橋医師、中井医師が大学院入学のため退職、安藤医師が10月開業のため8月には退職となる。石田（亮）医師は高槻病院、瀧本医師は千船病院勤務となる。

益子医師は育休明けで6月に復帰予定で、徳永医師が3年目専攻医で高槻病院より戻ってくる。

専攻医1年目のスタッフとして、塩屋暁子医師、中村視孝医師が4月から着任予定である。

今後とも神戸大学消化器内科との研究会・同門会を中心にした人事を含めた関係強化を図りながら、人員戦力的な低下を来さず診療実績を更に増加させることが課せられた任務となる。

診療内容自体の向上に向けた取り組みを行っていくた

めの体制の整備（非常勤医師による応援体制、「働き方」の在り方など）と消化器内科診療の専門性の深化、救急・急性期診療の拡充が必要となる。働き方改革に伴うスタッフ各自の負担軽減が課題となっており、平均在院日数が短縮されていく中で、初診患者や救急診療患者の増加をいかに図っていくかが課題となる。

今後も、特殊検査（BAE、EUS-FNA）と内視鏡治療（ESD、ERCP）の強化・件数増加に取り組んでいくが、その際には、経年劣化の内視鏡の新規・更新、並びに内視鏡機器システムの性能向上に向けた更新（VPPシステム更新）は不可欠となる。また、内視鏡検査における鎮静剤使用件数の増加に伴って一部に導入したストレッチャー方式による検査室とリカバリールーム間の移動方法は、安全性を確保しながら業務負担の軽減と効率化に貢献しており、リカバリールームの活用と内視鏡センター全体の運用の見直しとともに更に拡充していく予定である。

表 1. 入院診療活動実績

	2017年度	2018年度	2019年度
延患者数(人)	20,213	19,375	18,610
月平均(人)	1,685	1,615	1,551
1日平均(人)	55.3	53.1	51.0
新入院(人)	163	165.4	161.0
平均在院日数(日)	9.5	8.9	8.0

表 2. 外来診療活動実績

	2017年度	2018年度	2019年度
延患者数(人)	25,283	24,639	22,785
月平均(人)	2,107	2,053	2,149
1日平均(人)	103.6	101.2	106.3
初診数(人)	414.8	411	383.5

表 3. DPC データによる入院患者（部位別疾患）

	2017年度	2018年度	2019年度
食道	149	94	79
胃・十二指腸	235	303	286
大腸	540	538	558
肝臓	264	177	193
胆道・膵臓	439	521	531
その他	369	253	209
総計	1,996	1,886	1,856

表 4. DPC データによる主な入院疾患

	2017年度	2018年度	2019年度
胃潰瘍	92	88	73
胃がん	119	159	154
炎症性腸疾患	250	228	56
憩室疾患	134	131	139
腸閉塞	150	147	123
大腸がん	77	84	124
慢性肝炎	214	156	129
胆のう・胆管炎	344	323	303
肝・胆道がん	137	151	130
急性・慢性膵炎	94	73	67
膵がん	76	81	91

表 5. 内視鏡実施件数

	2017年度	2018年度	2019年度
上部消化管	6,770	6,928	6,830
下部消化管	3,718	3,472	3,412
胆膵内視鏡	612	564	532
超音波内視鏡	274	322	383
総計	11,374	11,286	11,157

表 6. 主な内視鏡検査・治療件数

	2017年度	2018年度	2019年度
上部消化管総数	6,770	6,928	6,830
食道静脈瘤治療	78	98	56
止血術	144	157	90
ESD	101	109	122
胃瘻造設	71	51	48
下部消化管総数	3,718	3,472	3,412
大腸EMR	1,062	1,108	1,232
大腸ESD	47	48	62
ステント留置	23	25	30
大腸止血術	44	52	36
胆膵内視鏡総数	612	564	532
EST	523	517	508
EBD	286	298	289
超音波内視鏡総数	274	322	383
EUS-FNA	42	43	46
嚥下内視鏡	145	87	86
内視鏡総件数	11,509	11,286	11,157

腎臓内科

■スタッフ紹介

【常勤医師】

部長 米倉由利子 (2003年卒) :

総合内科専門医, 日本透析医学会専門医,
日本腎臓学会専門医・指導医

医員 後藤公彦 (2008年卒) :

総合内科専門医, 日本透析医学会専門医,
日本腎臓学会専門医・指導医

医長 大田健人 (2012年卒) :

内科認定医, 日本腎臓学会専門医

専攻医 寺田菜々子 (2016年卒)

【非常勤医師】

西 慎一: 神戸大学医学部腎臓内科 教授

河野圭志: 神戸大学医学部腎臓内科 助教

小坂恭子: 神戸大学医学部腎臓内科 医員

■診療内容

目標:

- ・腎臓病の早期発見, 進行予防
- ・腎代替療法への安全な移行
- ・維持透析患者の透析管理
- ・移植医療への橋渡し

1) 腎炎検査・治療

①経皮的腎生検

対象となる症例は, 若年者が多いが, 高齢者であっても慎重に適応を検討して積極的に腎生検による病理診断を行うように心掛けている。

腎生検により診断される病理組織診断としては例年通り IgA 腎症を代表とする原発性糸球体腎炎が多く, 全身性血管炎などの二次性糸球体疾患が一定数見られる。最近では低出生体重に起因する oligomeganephronia や, 肥満関連腎症のように, 発生・発達, 全身の病態を踏まえた病因論も含めた診断を要する症例が増加している。

②腎炎治療

・IgA 腎症: 従来行ってきた仙台方式 (ステロイドパルス連続 3クール) での治療から, 2018年度以降は Pozzi 方式 (ステロイドパルス 2 か月間隔 3クール) により短期入院で治療を行う症例が増えている。その結果, 入院期間

を短縮することができている。

・ネフローゼ症候群, 急速進行性糸球体腎炎 (全身性血管炎など): 若年症例に対する治療法は既に確立されているが, 高齢症例の治療が課題である。基礎疾患や全身状態に応じて, ステロイド・免疫抑制剤・アフェレシス療法を症例ごとに選択・調整して, 腎予後のみならず生命予後, 社会的予後を改善することを目指している。

2) 特殊治療, 希少疾患の診療

常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン治療, ファブリー病に対する酵素補充療法を行っている。

3) 慢性腎臓病診療

慢性腎臓病教育入院 (7日間) では, ①腎疾患の病態評価, ②心血管合併症の評価, ③慢性腎臓病合併症 (骨ミネラル代謝異常, 腎性貧血) の管理, ④教育を目的とし, 主治医, 病棟・透析室看護師, 薬剤師, 栄養士による診療を行う。

透析室看護師により, CKD 外来 (継続的な腎臓病教育及び腎代替療法に関する情報提供), 糖尿病透析予防外来を実施している。腹膜透析希望症例については, 治療開始前から CKD 外来で器材に触れ, 手技のトレーニングを行うことで, スムーズな導入を目指している。2019年度には, 当院からの移植症例はなかったが, 生体腎移植 (先行的腎移植含む), 献腎移植ともに積極的に情報提供を継続している。

4) 腎代替療法, 血液浄化

【血液透析, 緊急透析, アフェレシス治療】

血液透析: 月水金曜日 2クール, 火木土曜日 1クール

入院透析患者の迅速な受け入れ, 入院中の全身管理の向上を目指している。かねてから通院透析を行ってきた患者の死亡により通院透析患者数が減少したため, 維持血液透析患者を順次拡充する方針としている。

急性腎傷害, 薬物中毒, 敗血症性ショック時などに主治医, 集中治療科医師と協議しながら, 積極的に血液浄化治療を行った。従来からエンドトキシンショック症例でエンドトキシン吸着療法を行ってきたが, 最近では敗血症性ショック時に適応のある AN69-ST 膜を使用した CHD を行うなど, 急性血液浄化治療の幅を広げるよう治療の工夫をしている。

2019年度は、高齢ネフローゼ症候群患者においてLDL吸着療法を実施し、病態の改善を得ることができた。

【腹膜透析】

腹膜透析外来：火・木曜日 午後

2019年度末 腹膜透析患者数 10名

(うち血液透析、腹膜透析併用療法 4名)

長期腹膜透析に伴う血液透析への移行症例があり、患者数が減少した。高齢者も含めて、新規腹膜透析導入を勧めている。

■2019年度のトピックス・実績

【血液透析中の運動療法】

血液透析患者の高齢化に伴いサルコペニア対策が急務である。そのため、血液透析治療中の運動療法として、可変式エルゴメーターを導入し、日本腎臓リハビリテーション学会の基準に準拠して実施している。患者からも好評を得ており、継続治療する患者が増えている。

【学術活動】

大田医師が、国際学会(第9回国際腹膜透析学会アジア太平洋大会)での発表を行った。後藤医師が国際誌(Journal of Bone and Mineral Metabolism)に論文を投稿し、受理された。そのほか、国内学会や研究会での発表を積極的に行っている。

■今後の展望

①透析診療の強化

(ア)通院維持透析患者のサルコペニア対策、合併症管理。通院維持透析患者数拡充。

(イ)腹膜透析患者の増加(新規導入数増加、長期管理)

②腎炎、ネフローゼ症候群診療の充実

(ア)早期発見・診断・治療介入のための啓蒙

(イ)寛解導入率の向上、合併症の軽減を目指した治療

③学術活動

学会発表、論文執筆の活性化

表. 実績

	(単位:件)				
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
入院総数	208	231	269	248	261
血液透析新規導入数*	48	41	47	55	38
腹膜透析新規導入数	2	3	2	0	0
血液透析延べ回数	6,406	5,519	5,478	4,990	4,304
経皮的腎生検件数	32	19	27	30	39

*自科症例のみ

	(単位:件)
	2019年度
特殊治療	
持続血液透析/持続血液濾過透析	121
LDL吸着療法	7
血漿交換療法	0
エンドトキシン吸着療法	15
顆粒吸着療法	28
腹水ろ過濃縮再灌流法	24

入院症例内訳

	(単位:件)					
	入院目的	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
慢性腎臓病関連	慢性腎臓病教育入院(バス)	21	33	31	29	21
	その他(治療内容調整, 急性増悪, 感染症など)	39	66	88	67	102
血液透析関連	血液透析新規導入	48	40	47	55	38
	合併症入院(うっ血性心不全, 感染症など)	13	17	35	9	19
	ブラッドアクセストラブル(閉塞, 感染)	6	2	1	1	1
腹膜透析関連	腹膜透析新規導入	2	3	2	0	0
	PD関連感染症(腹膜炎, 出口部・トンネル感染)	5	1	2	2	2
	治療調整, その他	6	5	5	6	1
腎炎治療	IgA腎症	8	6	3	7	27
	一次性ネフローゼ症候群	21	16	14	13	6
	ANCA関連血管炎	8	8	8	4	8
	ループス腎炎	2	2	0	1	1
	紫斑病性腎炎	3	1	0	2	0
	その他の急速進行性糸球体腎炎	2	0	0	0	0
	IgG4関連腎疾患	0	2	2	0	0
	尿管間質性腎炎	1	1	0	2	0
その他	急性腎傷害(腎後性腎不全含む)	5	4	3	7	7
	腎生検入院	20	12	23	19	32

(一部病態の重複あり)

腎生検症例病理診断

	(単位:件)					
	病理診断	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
一次性糸球体疾患	IgA腎症	10	6	9	10	17
	微小変化型ネフローゼ症候群	7	2	3	1	5
	膜性腎症	5	2	2	3	3
	膜性増殖性糸球体腎炎	0	0	1	2	1
	菲薄基底膜病	3	2	1	3	1
	巣状分節性糸球体硬化症	0	0	0	1	1
二次性腎疾患	アミロイドーシス	0	0	1	0	0
	ANCA関連血管炎	2	3	2	1	2
	紫斑病性腎炎(IgA血管炎)	2	1	1	0	0
	ループス腎炎	1	0	1	0	1
	肥満関連腎症	0	0	1	2	1
	糖尿病性腎症	1	1	2	2	2
血管病変	良性腎硬化症	0	0	1	0	1
	悪性腎硬化症	0	0	1	0	0
	血栓性微小血管症	0	0	1	1	0
間質性病変	尿管間質性腎炎	1	2	0	2	0
	微小糸球体変化	0	0	1	0	2
その他	oligomeganephronia	0	0	0	0	2

(一部病態の重複あり)

糖尿病・内分泌内科

■スタッフ紹介

千原和夫（主任部長 1945 年卒）

中村友昭（医 長 2006 年卒）

辻本泰貴（医 員 2015 年卒）

■診療内容

2017 年 4 月新規の診療科として開設され、初年度は隅田健太郎医長と小職の 2 名の専門医体制で診療体制の整備に尽力したが、2 年目は専門医が小職の 1 名となり外来診療の 1 コマを神戸大学派遣の非常勤医師（藤田泰功医師）に依頼し週 2 日の専門外来を維持した。3 年目の今年度は、新規に専門医有資格の中村友昭医長に加え、卒後 5 年目にあたる辻本泰貴医員が参入して 3 名医師体制となったことにより、月曜日を除く平日 4 日間糖尿病・内分泌疾患専門外来を毎日開くことが可能となった。また前年度は総合内科の診療担当チームにお願いした糖尿病及び内分泌疾患の入院患者の診療も我々のチームで実施できた。前年度は総合内科診療担当チームの負担も考慮して、糖尿病の教育目的入院患者の数はできるだけ絞り、外来診療での教育指導に軸足を置いたが、多職種で構成される糖尿病ケアチーム（DCT）によるクリニカルパスに基づく計画的教育指導の内容とは雲泥の差があることから、今年度は教育入院患者数もベッドの空床率を確認しながら積極的に増やした。実際のところ、教育目的のみの軽症糖尿病患者は皆無で、ほとんどの入院患者は早急なインスリン治療が必須の重症患者でありインスリン治療を開始しながら自己注射のやり方や糖尿病に関する知識習得を目指す教育入院であった。また、当院の救急患者を断らない方針を反映して、予定入院以外に救急外来から不定期に入院される患者の中に、糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）や高浸透圧高血糖症候群（HHS）といった手遅れになると生命に危険が及ぶ緊急対応が必要な疾患が少なからず含まれており、救急科や総合内科を経由しての転科症例も増えた。また、外科系の診療科より術前及び周術期の血糖調節の依頼件数も増加し、他診療科と併診している患者は常時 15～20 名であった。また、当院に内分泌疾患の診療体制が整ったことが口コミやインターネット情報で広まり、紹介患者数が右肩上がりに増えてきている。内分泌疾患患者の入院目的には、診断や治療方針決定のための検査入院に加えて、研修医にとって必須とされている内分泌疾患の診療経験を積ませる目的も含まれており、研修医からは大学病院

以外ではなかなか経験できない内分泌疾患の診療ができることが有難いとの声も届いている。多職種からなる DCT の活動は入院及び外来診療において大きなウエイトを占めている。糖尿病認定看護師が担当する療養支援の中で看護師特定行為（インスリン投与量の調整）研修修了看護師によるきめ細やかな患者対面指導は医師の業務負担軽減に貢献している。またフットケアや腎症重症化予防の指導を行う糖尿病療養指導外来、管理栄養士が熱心な栄養指導等の他に、糖尿病教室や教育入院患者の教育指導の内容に関しては、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師が分担執筆し作成した冊子を入院患者個々に渡し、各職種の担当者が患者本人に直接面談し、冊子の内容を確認しながら個別に熱心に指導している。また、内分泌疾患の診断に必須の内分泌学的負荷試験に関して、主に外来で施行しているが、静脈ラインの確保や経時的採血などには看護師の補助が欠かせない。

■2019 年度のトピックス・実績

糖尿病・内分泌代謝領域の専門医資格取得を目指す若手医師にとって必要な日本内分泌学会認定教育施設及び糖尿病学会認定教育施設（I）の 2 つの資格を持つ病院に昇格したことにより専門医取得を目指す若手医師の入職が期待できるようになった。学会活動は、日本糖尿病学会年次学術集会及び近畿地方会、日本肥満学会学術集会、臨床内分泌代謝 update、日本間脳下垂体腫瘍学会、日本内分泌学会近畿地方会、日本内科学会近畿地方会に合計 9 演題を発表した。外来糖尿病管理患者数は総合内科担当分も合わせて 1,535 名（昨年 1,478 名）、入院糖尿病患者数は 259 名（昨年 66 名）、内分泌疾患の診療においては、甲状腺疾患 499 名（昨年 454 名）、副腎疾患 132 名（昨年 113 名）、下垂体疾患 42 名（昨年 49 名）、副甲状腺・カルシウム骨代謝疾患 50 名（昨年 65 名）と患者数が増加した。

■今後の展望

まず、大学との人事交流を図る中で少なくとも 3 名の医師による診療体制を維持したい。その上で、糖尿病・内分泌疾患の診療のレベルをより高める努力を続けたい。診療体制の充実には、専門知識と経験を持つ医師の確保に加えて、専門性を持つ多職種のスタッフから構成されるチーム全体のレベルアップも重要であり、それにも尽力したい。

小 児 科

■スタッフ紹介

副院長，主任部長：横山直樹（1988年卒）
部長：梁川裕司（1990年卒）
部長：権東雅宏（1992年卒）
医長：大西徳子（2007年卒）
医員：藤井順子（2012年卒）
非常勤医師他：藤井栄一（神経外来），吉川徳茂（腎外来）

亀井直哉（心臓外来：兵庫県立こども病院）

永井貞之（神戸大学病院），松本千佳（臨床心理士）

- ・高野 勉医師が開業のため退職
- ・小児科常勤医師は昨年度より1名減の5名体制

■診療内容

専門外来：1か月健診，シナジス外来，心臓外来
腎外来，神経外来，発達検査，心理相談

小児入院：小児10床（混合病棟）

新生児入院：NICU6床，GCU10床

新生児特定集中治療室管理料2算定

救急外来：東播磨臨海小児二次救急輪番体制
第2・3・5木曜日（明石市内のみ）

院 外：明石市乳幼児健診，明石こどもセンター（児童相談所）検診，学校心臓検診，就学相談

■2019年度のトピックス・実績

<診療>

- ・夜間休日応急診療所からの紹介入院を受入開始
- ・アレルギー診療の取り組み：食物負荷試験の導入
- ・新規の産科クリニックとの連携開始

<診療実績（表1～3）>

- ・患児紹介受け入れ件数：昨年度の1.3倍
(1,194→1,582↑)
- ・一般小児入院数：昨年度の1.2倍（664→808↑）
- ・新生児入院数：昨年度並み（598→623）
- ・院外新生児搬送入院数：昨年度並み（78→77）
- ・早産児，低出生体重児の入院数：在胎35週未満（30→34），出生体重2,000g未満（29→33）と昨年度並み
- ・人工呼吸管理件数：昨年度の1.8倍（23→43↑）
- ・発達検査29件，心理療法28件
- ・心理士訪問：NICU441件，産科184件，小児科8件

<教育>

- ・初期研修医：小児科研修7名（各1～4か月ごと）を指導
- ・後期研修医：計4名（神戸大学小児科専門医プログラム6か月ごと2名，千船病院小児科専門医研修プログラム3～5か月ごと2名）を指導

<院内開催> 地域にも公募

- ・第8回新生児蘇生法Aコース講習会 2019.5.25
インストラクター：神足 Mw，森野 Mw，横山 Dr
- ・第2回新生児蘇生法Sコース講習会 2019.9.14
インストラクター：神足 Mw，小島 Ns，大西 Dr
- ・第9回新生児蘇生法Aコース講習会 2019.11.16
インストラクター：大倉 Mw，西川 Ns，大西 Dr，
梁川 Dr

- ・第3回新生児蘇生法Sコース講習会 2020.2.15
インストラクター：神足 Mw，大西 Dr，梁川 Dr.

<院外開催> 地域に出て

- ・あかし子ども子育て応援メッセ 2020.2.1
あかし市民広場で開催され，子育て応援企業として初参加。医師，助産師，看護師，薬剤師，栄養士，心理士，事務，看護学校の21名で当院ブースを出展。液体ミルク配布，計測，子育て相談など，そしてステージでのミニ講演で97名の親子を迎えた。

■今後の展望

- 一般小児
 - ・時間外も含め，入院受け入れ対応の強化
 - ・アレルギー専門外来の新設
 - ・明石こどもセンターとの連携強化
- 小児・周産期医療の拡充
 - ・地域周産期母子医療センターとして，ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れ強化
- 地域貢献
 - ・親と子のすこやか広場 子育てステーションの企画
地域に出向き，医療・育児面での情報提供など
- 小児科専門医の育成
 - ・専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に教育，指導し，次世代の人材を育てる

表 1. 一般小児入院（疾患別）

(単位:件)

疾患名	注記	小計
呼吸器系感染症		
肺炎	※RSV, hMPVを除く	108
気管支炎		76
RSV感染症		100
hMPV感染症		50
クループ症候群		19
急性上気道炎	※付き添い入院例を含む	23
扁桃炎		13
急性喉頭蓋炎		1
百日咳		2
扁桃周囲膿瘍		1
副咽頭間隙蜂窩織炎		1
		394
消化器系感染症		
感染性胃腸炎	※ロタ、ノロ診断例を除く	61
ロタウイルス感染症		24
ノロウイルス感染症		17
細菌性腸炎		12
腸間膜リンパ節炎		2
急性虫垂炎		2
		118
その他感染症		
尿路感染症	※急性巣状細菌性腎炎1例含む	19
化膿性リンパ節炎		6
蜂窩織炎・伝染性膿痂疹・皮下膿瘍		9
無菌性髄膜炎		1
溶連菌感染症		2
単純ヘルペスウイルス感染症		2
アデノウイルス感染症		9
水痘・帯状疱疹		4
熱源不明発熱		8
菌血症	※肺炎球菌 1 バチラス 1	2
突発性発疹症		4
手足口病		4
急性心筋炎		1
顎下腺炎		1
インフルエンザ		19
		91
アレルギー・血管炎関連		
気管支喘息		37
川崎病		19
アナフィラキシー		11
蕁麻疹		2
多形滲出性紅斑		1
食物アレルギー	※負荷試験	39
		109
神経・精神関連		
熱性痙攣		19
胃腸炎関連痙攣		2
無熱性けいれん・てんかん		6
急性小脳失調症		1
		28
消化器関連		
腸重積症		1
胆管炎	※胆道閉鎖症葛西術後症例	4
肝機能障害		1
		6
内分泌・代謝関連		
アセトン血性嘔吐症	※周期性嘔吐症含む	13
低身長	※負荷試験入院	9
バセドウ病	※服薬指導目的	1
続発性副腎皮質機能低下症	※負荷試験入院	1
肥満症	※教育目的	1
ケトン性低血糖症		5
		30
血液・腫瘍関連		
血球貪食症候群		1
特発性血小板減少性紫斑病		1
		2
腎・泌尿器関連		
ネフローゼ症候群	※再発例含む	9
		9
新生児関連		
黄疸、体重増加不良など		8
その他		
		13
合計		808

表 2. 新生児入院（週数・体重別）

(単位:件)

在胎週数	計	出生体重	計
28-29週	0	1,000-1,499g	4
30-31週	6	1,500-1,999g	29
32-34週	28	2,000-2,499g	85
35-36週	44	2,500-3,999g	500
37週-	545	4,000g-	5
計	623	計	623

表 3. 新生児入院（疾患別）

(単位:件)

疾患名	症例数	転院
新生児一過性多呼吸	160	こども2(PPHN、鎖肛)
帝王切開児症候群	89	
新生児黄疸(再入院16件含む)	78	
前期破水による新生児の障害	39	
低出生体重児	36	
妊娠糖尿病母体児症候群	35	
B群溶連菌感染母体より出生した児	30	
早産児	25	加古川1(循環不全)
新生児呼吸窮迫症候群	23	加古川1(敗血症)
新生児感染症(疑い含む)	15	こども1(脳室内出血・痙攣)
新生児無呼吸発作	14	
新生児嘔吐	12	加古川1(小腸閉鎖)
新生児胃腸出血	11	
先天性心疾患(疑い含む)	9	加古川2、こども1
胎便吸引症候群	7	
新生児ABO不適合溶血性黄疸	7	
糖尿病母体児	4	
新生児気胸	4	
重症新生児仮死	4	加古川2
新生児Rh不適合	4	
口唇口蓋裂	3	
先天性水腎症	3	
巨大児	3	
多血症	2	加古川1
新生児肺炎	2	
クラミア感染母体より出生した児	2	
梅毒感染母体より出生した児	2	
CMV感染母体より出生した児	2	
顔面奇形	1	加古川1
小腸閉鎖	1	加古川1
頭蓋内出血の疑い(転落)	1	
胎便性腹膜炎の疑い	1	こども1
先天性貧血	1	こども1
新生児低体温	1	
新生児低血糖	1	
新生児不整脈	1	加古川1
新生児ルーブスの疑い	1	
バセドウ病母体児	1	
橋本病母体より出生した児	1	
水痘・帯状疱疹ウイルス感染母体より出生した児	1	
向精神薬服用母体より出生した児	1	
B型肝炎ウイルス感染母体より出生した児	1	
合計	639	(再入院16件含む)

放射線科（診療部）

■スタッフ紹介

主任部長 鷺尾哲郎

部長 牛尾啓二

非常勤 山口雅人 神戸大学放射線科准教授

その他、数名の非常勤あり。

■診療内容

CT, MRI, RI の読影が主な業務であるが、肝臓の治療としての TACE, 消化管出血, 喀血の止血, CT ガイド下生検, ドレナージ, 心臓血管外科との大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの IVR も行っている。

■2019 年度のトピックス・実績

CT, MRI の読影件数はいずれも増加し、過去最高を更新している。

IVR 件数は著変ないが、高い水準を維持している。
TACE は減少傾向であるが、CT ガイド下の処置が増加している。

■今後の展望

救急の件数が増加しており、今後も更なる読影件数の増加が見込まれる。

表 1. 読影件数

(単位:件)

項目	件数
消化管透視	296
CT	21,239
MRI	5,442
RI	236

表 2. IVR 件数

(単位:件)

項目	件数
血管系(ステントグラフトなど)	58
TACE	39
止血(消化管出血, 喀血)	18
BRTO	1
CTガイド下生検, ドレナージ	32
その他	16
計	164

病理診断科

■スタッフ紹介

部長：佐野暢哉（病理専門医，細胞診専門医）

専攻医：横川 暢

非常勤医：廣瀬隆則（病理専門医，細胞診専門医）

仙波秀峰（病理専門医，細胞診専門医）

上原久典（病理専門医，細胞診専門医）

尾矢剛志（病理専門医，細胞診専門医）

大西隆仁（病理専門医）

細胞検査士：小段敦美，堀 志穂，梶山和樹，佐川聖羅，
杉原彩香

非常勤細胞検査士：渡邊美紀

■診療内容

組織診断：診断所要時間短縮，画像所見提示を目的として，
Day Pathology の実施，主要な免疫組織化学染色の院内処理，
術中迅速診断，電子カルテ・病理診断システムに支援されたデジタル画像の提示を実施している。

専門性の異なった習熟度の高い非常勤病理医を確保し，
診断精度，速度ともに高いレベルで維持されている。

また，腎生検，膀胱生検，EBUS 実施時，技師によるベッドサイドサポートを行っている。

専攻医（3年目）を採用し，専門医育成に取り組んでいる。

細胞診断：後述のダブルチェック体制をとり，疑陽性以上の症例の細胞像を電子カルテ上に提示している。

Liquid Based Cytology を導入し，検体処理・診断所要時間の短縮，診断再現性の向上，DNA 遺伝子検査への応用を図っている。

病理解剖：全例 CPC にて提示し，研修医等，医療スタッフ教育に貢献している。

他科研修医教育：上記 CPC に加えて，個々の症例のコンサルト，報告を通じて病理，細胞診断に関する教育を行っている。

精度管理：組織診断はほぼ全例，細胞診断は全科疑陽性以上の全例，婦人科材料以外の陰性全例に対し指導医によるダブルチェックを行っている。診断困難例，疑問例については，兵庫県立がんセンター，神戸大学，徳島大学，札幌医科大学，神鋼記念病院，国立がん研究センター東病院等にコンサルテーションを行っている。

■2019年度の現状・今後の展望

組織診断数は初めて 6,000 件を越えた。分子治療の導入に伴い，免疫組織化学染色，遺伝子検査の増加傾向が続いている。

細胞診には，検体数，プレパラート数とも微増した。

診断システムの更新，遺伝子検査，バーチャルスライド等周辺機器の刷新，後進病理医の確保が急務と考えられる。なお，2020 年度より常勤病理医が複数化される予定である。

表 1. 組織診断数，細胞診断数，解剖数の年別推移

(単位:件)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
組織診断	1,908	2,482	4,161	5,620	5,466	5,387	5,595	5,337	5,585	5,786	5,757	5,773	6,045
細胞診断	3,983	4,782	5,314	5,195	5,262	5,574	6,129	6,382	6,890	6,921	6,636	6,481	6,618
解剖件数	14	11	21	8	10	11	7	12	14	8	9	8	8

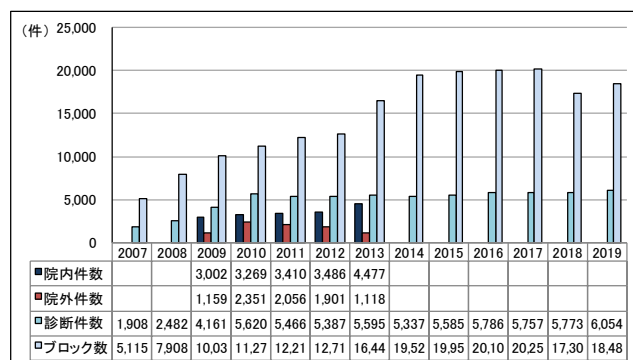


図 1. 組織診断数年次別推移

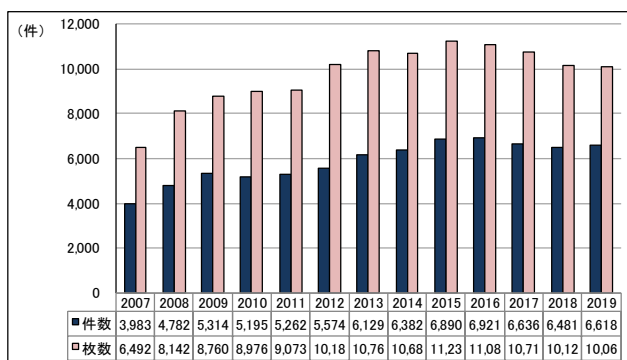


図 2. 細胞診断数年次別推移

外科

■スタッフ紹介

副院長・外科主任部長 豊川晃弘
外科部長 小管浩文, 外科部長 常見幸三
外科部長 沢 秀博, 外科医長 水田憲利
外科医長 福田善之, 外科専攻医 安藤正恭
後期研修医 (2年目) 中西 崇
後期研修医 (1年目) 吉永 駿

■診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが、以後は順調に増加し2016年度には1,000件を超えた。しかし2018年度は乳腺科が廃止となり手術件数は減少していたが、スタッフの強化により、2019年度の全手術件数は前年の800件から約900件まで回復した。当科は常時緊急手術に対応しており2019年度の緊急手術件数は223件あり全体の25%であった。

■2019年度のトピックス・実績

病院として低侵襲手術に取り組んでおり、近年、外科でも腹腔鏡下手術が徐々に増加していたが、2019年度においては急増し切除ができた大腸癌115例のうち、91例(79%)が腹腔鏡下手術症例であった。その他胃癌、膵癌、ヘルニア、急性虫垂炎やイレウス等の手術にも適応を広げている。学術面においては沢、水田、福田、安藤、中西が国内学会、研究会、講演会で発表を行い、豊川が研究会、講演会等で多数の講演、座長を行い、2編の英文を含む5編の論文を発表した。トピックスとしては直腸癌に対してロボット支援下手術を開始した。

■今後の展望

近年、低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており、消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である。現在、内視鏡外科の技術認定は1名であるが、取得者増加に向けて外科として取り組んでいる。並行してロボット支援手術の増加を図っていくとともに、がん手術件数の増加を図りたい。

表. 外科手術実績 (2019年1月1日~2019年12月31日施術分内訳)

(単位:件)

食道	良性(ヘルニア等)		1
	食道癌		0
胃癌・胃腫瘍	胃全摘術		16
	腹腔鏡下胃全摘術		1
	噴門側胃切除術		0
	腹腔鏡下噴門側胃切除		0
	幽門側胃切除術		25
	腹腔鏡下幽門側胃切除		13
	胃部分切除術		1
	腹腔鏡下胃部分切除術		5
	審査腹腔鏡		0
	その他(単開腹)		2
上部消化管穿孔	穿孔部縫合術・大網充填術など		15
	腹腔鏡下		0
幽門・十二指腸狭窄	胃空腸吻合術		3
	腹腔鏡下		1
大腸癌	結腸癌	結腸切除術	18
		腹腔鏡下結腸切除術	63
	直腸癌	高位前方切除術	3
		腹腔鏡下高位前方切除術	6
		ロボット支援下直腸切除術	1
		低位前方切除術	1
		腹腔鏡下低位前方切除術	13
		ロボット支援下直腸低位前方切除術	0
		腹会陰式直腸切断術	1
		腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術	6
		経肛門的腫瘍切除術	2
		経仙骨的腫瘍切除術	0
		ハルトマン手術	4
		その他(側方郭清・局所切除など)	4
その他大腸手術	良性腫瘍手術・S状結腸軸捻転手術など		13
	人工肛門増設術・閉鎖術		11
小腸	良性腫瘍・腸切除(NOMI等)		17
	小腸癌		1
胆石症	胆嚢結石	開腹胆嚢摘出術	11
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	186
	総胆管結石	総胆管切石術	0
肝癌	肝葉・区域切除術		4
	部分切除術		7
	腹腔鏡下部分切除術		0
	ラジオ波・マイクロターゼ焼灼(RF・MCT)		3
	腹腔鏡下ラジオ波・マイクロターゼ焼灼(RF・MCT)		0
肝(良性)	嚢胞開窓術など		1
胆嚢癌	拡大胆嚢摘出術		4
	肝切・膵頭十二指腸切除術		2
	その他(単開腹・バイパス)		1
胆管癌	肝内	肝切	0
		胆管切除	1
	肝外	膵頭十二指腸切除術	3
		その他(単開腹・バイパス)	2
胆管(良性)	胆管切除、胆管空腸吻合など		2
膵癌	膵頭十二指腸切除術		6
	膵体尾部切除・膵全摘術		7
	腹腔鏡下膵体尾部切除		1
	その他(バイパス等)		3
腸閉塞	腸切除・イレウス解除術		26
	腹腔鏡下イレウス手術		5
下部消化管穿孔	汎発性腹膜炎手術		12
	ハルトマン手術		12
その他開腹術	試験開腹術など		7
虫垂炎	虫垂切除術		36
	腹腔鏡下虫垂切除術		36
	回盲部切除術		2
鼠径・腹壁ヘルニア	ヘルニア根治術		126
	腹腔鏡下ヘルニア根治術		46
肛門部手術	痔核・痔瘻根治術、直腸脱手術		5
外来小手術	局所麻酔下腫瘍摘出術など		87
合計			891

心臓血管外科

■スタッフ紹介

院長：戸部 智（心臓疾患，血管外科担当）
 主任部長：林 太郎（心臓疾患，血管外科担当）
 センター長：岡本一真（低侵襲心臓血管手術担当）
 医 長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）
 医 長：渡邊俊貴（心臓疾患，血管外科担当）
 専攻医：当 廣 遼（心臓疾患，血管外科担当）
 専攻医：吉谷信幸（心臓疾患，血管外科担当）
 専攻医：久保沙羅（2020年4月1日入職予定）

■診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患，弁膜症（大動脈弁，僧帽弁，三尖弁），
 不整脈（心房細動等），先天性心疾患 等
 大動脈疾患：急性・慢性大動脈解離，胸部及び腹部大動脈瘤
 末梢血管疾患：急性・慢性動脈閉塞，閉塞性動脈硬化症，
 末梢動脈瘤，下肢静脈瘤，透析患者における
 シャント作製・シヤントトラブル 等

■2019年度のトピックス・実績

2019年度の手術件数は，心大血管領域 163 例，血管外科領域 282 例であった。各症例で見ると，高齢化社会を反映し，心臓大血管領域では大動脈解離や大動脈瘤等の動

脈硬化疾患が増加している。これら大動脈疾患では，胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を，リスクの高い症例で積極的に取り入れている。心臓血管低侵襲治療センターでは，主に僧帽弁・三尖弁（心房細動合併含む）等の心臓弁膜症症例に対して右小開胸下僧帽弁，三尖弁手術及びメイズ手術を施行している。

経カテーテル的大動脈弁挿入術（TAVI）に関しては，循環器内科や麻酔科，その他関連部署のメンバーからなるハートチームを形成して症例ごとにカンファレンスを行い，2019年度は 44 症例に施行した。またカテーテル式補助人工心臓（IMPELLA）の実施設基準を満たしており，高度な循環不全を呈する症例に対しても対応できる体制が整っている。

■今後の展望

当科は近隣病院や開業医からの緊急手術依頼は全て受け入れる方針である。特に明石市民病院・神戸掖済会病院（垂水区）とは定期的に紹介患者カンファレンスを開催し連携を強く維持している。また今後適応のある症例に対しては，ロボット手術を取り入れる方向である。

2020年度も引き続き，実直に症例を重ねて地域の信頼を維持していきたいと考えている。

表. 手術症例数

心臓外科 (単位:件)		後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他 (単位:件)				虚血性心疾患		血管外科 (単位:件)																												
ASD	3	総数	弁形成	CABG 併設	総数	off pump CABG																														
ASD+PS	0	Aortic	29	1	17	1	非解離	大動脈				末梢動脈																								
ASD+PAPVR	0	Mitral	17	14	1	1	上行	下行	胸部	腹部	ステント留置	Stanford A 急性期(鎖状)	慢性期	Stanford B 急性期(鎖状)	慢性期	徳性期	ステント留置	末梢動脈瘤	急性動脈閉塞	血栓除去	血行再建術	その他・切斷	閉塞性動脈硬化症など	血行再建	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切斷	動脈瘤	下肢静脈瘤	血管内焼灼術	ストリッピング	結紮術	深部静脈血栓症	内シヤント	その他	計
VSD	0	Triuspid	1	1	0	0	弓部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VSD+PS	0	A+M	4	1	0	0	基部置換術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
VSD+AR	0	A+T	0	0	0	0	弓部+上行+弓部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VSD+MR	0	M+T	15	14	0	1	弓部+下行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VSD+2ch.RV	0	A+M+T	10	7	1	0	下行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PDA	0	その他(Pなど)	0	0	0	0	胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ECD	0	単独CABG	17	1	17	1	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CoA complex	0	心筋梗塞合併症に対する手術																																		
IAA complex	0	aneurysmectomy・左室形成術																																		
T/F	0	VSP																																		
PA with VSD	0	cardiac rupture																																		
PA with IVS	0	MR(乳頭筋断裂・虚血性)																																		
DORV	0	その他																																		
Taussig-Bing	0																																			
TGA	0																																			
TAPVR	0																																			
Single Ventricle	0																																			
Tricuspid atresia	0																																			
Mitral atresia	0																																			
HLHS	0																																			
AS and/or AR	0																																			
MS and/or MR	0																																			
Ruptaneurysm of Sinus Valsalva	0																																			
Others (cyanotic)	0																																			
Others (non-cyanotic)	0																																			
計	3																																			

呼吸器外科

■スタッフ紹介

田内俊輔（部長）

光井 卓（医員）

■診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの胸腔内の腫瘍性疾患，気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患等に対して主に手術療法を行う。

■2019年度のトピックス・実績

2名体制で診療を行っている。早期肺癌や気胸に対する Reduced Port Surgery の導入や，縦隔腫瘍に対する CO2 送気システムの使用などを行い，より低侵襲な手術を心掛けていく。

■今後の展望

胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている。今後も幅広い患者層の受け入れを行っていくため地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい。

表. 手術実績

(単位:件)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
原発性肺癌	55	59	83	70	52	62
(うち胸腔鏡下手術)	(50)	(54)	(74)	(60)	(42)	(5)
転移性肺腫瘍	6	8	4	6	5	7
縦隔腫瘍, 胸膜・胸壁腫瘍	7	12	5	7	8	13
気胸	28	25	29	42	47	39
感染性疾患(膿胸など)	4	9	7	6	14	7
その他	19	14	14	24	11	23
計	119	127	142	155	137	151

整形外科

■スタッフ紹介

整形外科スタッフとしては、松島リハビリ主任部長、伊藤整形外科主任部長、矢野整形外科部長、脇整形外科医長の4名は昨年度と変わらず。レジデント（専攻医）は、卒業5年目重本医師、後期研修2年目の飯盛医師の2名で、6名の診療体制を引き続き敷くことができた。

さらに、初期研修医1年目が1か月交代で整形外科外傷初療を中心に研修していただいた。加えて、初期研修医2年目の横田医師が1～3月を整形外科専攻で研修していただいた。

松島は関節疾患、伊藤・矢野は脊椎疾患、脇は外傷～救急、専攻医は外傷～救急を中心に診療にあたった。

■診療内容

1) 外来

整形外科としては、月・水・金曜日の初再診、木曜日の紹介初診という体制で臨んだ。2019年度は救急科の新設により、手術中などでの人手不足時の診療断りが大幅に減少した。救急科とは密に連携して、外来診療から入院への引継ぎを行った。外来患者は13,613名で、前年比100.3%であった。救急隊紹介患者数は429名で、前年比110%であった。

2) 手術

2019年度（4月1日～3月31日）の手術件数は903件で、前年比106.2%、前々年比115.6%と増加を続けている。手術の内訳は外傷が中心であるが、脊椎外科、関節外科、手の外科、小児に至るまで症例は満遍なく、かつ豊富である。緊急度の高い感染症例、麻痺症例、開放骨折や脱臼に加え、小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として、可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した。外傷手術が救急受け入れの数に応じて増加しており、手術内容も高度になってきている。

症例によっては、指導医を他機関より招聘して行い、更なるレベルアップを試みている。

透析、心疾患、易感染性など重大な内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており、周囲

医療施設からの紹介も多い。全身状態が悪いケースが多く、難易度も高くなっているが、内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している。

■2019年度のトピックス・実績

スタッフ数増加のない中での経年的な実績増加は、目標以上の到達が得られたと思われる。

学術発表も昨年同様国内外で活発に行っており、研修施設としての役割を十分に果たしている。

救急科の新設により、救急外来患者の全体数が増加し、勢い整形外科疾患の時間内救急患者も増加している。加えて、時間外の整形外科救急標榜に伴う時間外救急入院患者が増加した。2019年度は、昨年立案のヒップフラクチャーセンターを、総合内科の強いサポート、バックを受ける形で整形外科運用を開始した。

大腿骨近位部骨折（ヒップフラクチャー）や、救急外傷を対象とした準緊急手術が増加した。年末年始やGWといった長期の休暇期間中、増加した準緊急手術への対応として、休祝日中に手術日を設け、2019年度は12月31日、1月3日の2日間で約10件の症例に対して準緊急手術施行を行った。麻酔科、手術室看護、病棟看護、技術部にも臨時体制で臨んでいただくことで目標を達成することができた。

■今後の展望

2020年度より、総合内科が主科となり、ヒップフラクチャーセンターの運用が開始されるため、患者管理精度が高まると思われる。

骨粗鬆症治療を継続し、常態化していくことで骨折治療だけでなく、予防医療へと広げていくことができる。

手術件数の増加、診療実績の増加のため救急患者の取り込みが不可欠になってきている。引き続き、オンコール体制の継続、救急科との連携で対応していきたい。

今後も手術件数は増加傾向にあり、整形外科スタッフの増加に向け初期研修医制度への働き掛けも不可欠である。

表. 手術実績

(単位:件)

手術名	件数
脊椎外科	98
人工股関節	23
人工膝関節	33
人工骨頭置換	68
関節鏡視下手術	6
腱・靭帯手術(下肢・アキレス腱など)	18
骨折手術	514
上肢	204
下肢	260
偽関節手術	2
その他	48
手の外科	69
腱・靭帯	28
末梢神経	15
その他	26
腫瘍	7
その他	42
合計	878

脳神経外科

■スタッフ紹介

2013年5月1日平山昭彦医師が、前任者の退職に伴い愛仁会リハビリテーション病院から着任した。以後、2019年も通年、現在に至っている。

■診療内容

地域完結医療を目標として、近隣、脳神経外科専門病院と連携する、院内セカンドオピニオンの提供を主な活動目標として、2019年度も下記の業務を担当した。

・診療体制（継続業務）

平山医師が単独で前任者の業務を引き継ぎ、院内、各診療科入院及び外来患者の神経症状の合併、併発所見に関する主治医経由での相談、説明業務への参加を継続した。また、脳波診断の業務を継続した。さらに近隣脳神経外科処置の可能な専門病院への転院の可否と時期の判定、保存的治療方法と継続及び終了、追跡検査の実施と評価に関しても提案を行っている。

・追加業務

神経放射線学的検査の診療計画への提案、放射線科 RI 部門における、ダイアモクス負荷による ARG 法にて局所脳血流検査を実施、4学会基準による検査後の翌日までの入院観察を担当し、検査結果の報告過程に関与、外来の神経症状診療におけるいわゆるセカンドオピニオン形成への助言と提案、院内カンファレンスに参加し、神経内科、神経外科の見地からの提案、救急診療記録を参照し、診療情報の収集を行った。

■2019年度のトピックス・実績

- ・相談・参照症例：95 症例
- ・脳波検査：102 症例
- ・RI 局所脳血流（ARG 法，SEE-JET）検査：63 症例
- ・外来 セカンドオピニオン相談：1 症例
(健診支援業務を除く)

■今後の展望

当地域の脳神経外科医療資源分布は神戸市、阪神間及び東播磨の圏域に近く、2016年7月には、隣接する加古川市に広域搬送を集約した高機能施設、北播磨総合医療センターが運用開始された。当地域での平常時の脳神経疾患に対する医療資源は充実していると認識する。現状でも、受診者の利便性は、必ずしも充足されているとは見受けませんが、昼間の地域内の診療機能は、現状の相互補完により、中等度には達成されていると見受けられる。夜間休日時間帯の総合救急診療及び災害時の機能は他地域に比較して、高度先進医療段階では不十分と認識する。

(2014年初頭に東京都内某大学病院で再発し、発覚した薬剤死亡事件に反応した、製薬会社注意書き直し(ダイアモクス脳血流検査(ARG法))による対応策を2015年6月検討の結果、4学会の推奨する検査当日の入院観察を当院で作成の局所脳血流測定パスに移行し、2016年7月以後継続実施中である。)

(研究活動)

多数(2019年87例、うち救急搬入時40例)の心肺停止全脳虚血症例及び、今年度も脳神経外科領域の地域情報の収集実践を行いたい。

(診療機能向上)

今年度の当院 MRI 装置更新に際し、当院 SPG 室の指導により煩雑手続き効率化のため、見送りとなっていた脳血流画像解析ソフトウェアの機能追加を提案し、採用の暁には、1.5テスラ MRI 画像を応用した脳血流画像解析を、CPA(心配停止例)の研究課題の活動の具体化を計画し、7症例について撮像し、ICU 脳波所見を含め研究を継続中である。

産婦人科

■スタッフ紹介

副院長・主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科手術，婦人科化学療法，周産期管理

部長：細谷俊光（1996年卒）婦人科手術，周産期管理

医長：林田恭子（2003年卒）腹腔鏡手術，周産期管理

医長：堀 聖奈（2008年卒）腹腔鏡手術，周産期管理

医長：江島有香（2010年卒）腹腔鏡手術，周産期管理

医員：下川 航（2014年卒）産婦人科全般

後期研修医：嶋村卓人（2016年卒）

後期研修医：北口智美（2016年卒）

■診療体制

2019年1月より常勤医の拡充をはかり、2019年4月に細谷部長が着任、また6月より林田医長が育休より復帰し現在8名で外来、病棟、手術、救急診療を行っている。後期研修医の嶋村医師、北口医師が基幹病院を千船病院とする研修プログラムで当院に入職しており臨床のみならず研修医教育にも力を注いでいる。

外来は婦人科及び初診は担当医制、産科はフレキシブルな対応が可能なチーム制としている。このシステムにより待ち時間の短縮、患者のニーズへの細かな対応が可能となっている。午前2診、午後1診で1日平均100名の患者の診察にあたっている。周辺医療機関（主に明石市内、加古川など東播磨地区、西神戸地区）からの外来初診紹介は約100件/月に達する。

産科領域においては、新生児集中治療室（NICU）併設のため東播磨地区の周産期医療における中心的基幹施設としての役割を果たしており、妊娠30週以降のハイリスクの母体搬送を24時間体制で受け入れている。また当院で対応困難な高度な周産期管理を必要とする妊産婦は神戸大学医学部附属病院や兵庫県立こども病院と綿密に連絡を取り合うことで問題なく搬送可能となっている。

2017年10月より院内助産院を開設し、現在は全分娩の約10%を扱っており今後更に充実させる予定である。さらに2週間に1回開催する周産期カンファレンスでは、小児科医師、産婦人科医師、助産師、NICU看護師だけではなく、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士が活発な議論を行っている。

婦人科領域においては、2019年1月から悪性腫瘍の取り扱いを再開し2019年度は30例の初回悪性腫瘍手術を行った。さらに手術後の治療として、化学療法も行ってい

る。また異所性妊娠（子宮外妊娠）、卵巣腫瘍茎捻転、卵巣出血、不正出血などの婦人科救急受け入れにも積極的である。

■2019年度のトピックス

腹腔鏡下手術に加え、2020年3月より手術支援ロボット（da Vinci Xi）による手術を開始し3月に2例のロボット手術を行った。ロボット手術に関しての認知度も高まっていることから近隣医療機関からの手術症例の紹介は増加している。

■活動内容

【産科領域】

2019年度の分娩件数は約900件であり、NICU併設、小児科医及び麻酔科医常駐のため正常分娩だけでなくハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れている。

5室あるLDR室と小児科との連携を十分に活用し、妊産婦の入院生活の環境向上を図るとともに産婦人科全体として統一性のあるエビデンスに則った診療を行っている。また食事その他のサービス部門も充実を図り大変好評である。

【婦人科領域】

当科では日本産婦人科内視鏡学会技術認定医が中心となり子宮筋腫や卵巣嚢腫に対してはできる限り低侵襲な腹腔鏡手術を行うことにしており、2019年度は約180例の腹腔鏡手術を行った。一方悪性腫瘍に関しては婦人科腫瘍学会専門医が中心となり骨盤内リンパ節郭清、傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術、更に必要な症例には化学療法を行っている。特に子宮頸癌については術後の排尿障害を極力避けるため自律神経を温存する広汎子宮全摘術を行い良好な結果を得ている。女性医学の分野では更年期障害に対するホルモン療法や漢方療法、骨密度検査、子宮脱に対する保存的治療や手術療法も行っている。

■今後の展望

次世代を担う若手医師の教育も重要と考え臨床指導だけでなく専門医取得のための学会発表や論文指導も行っている。このように教育体制を整え、後期研修医・専門医にとって魅力的な教育施設であるよう様々な面で改革を行っていく方針である。



図. 手術支援ロボット (da Vinci Xi) による手術の様子

麻 酔 科

■スタッフ紹介

主任部長 三宅隆一郎
 部長 岡本健志
 河合 健
 医長 藤島佳世子
 服部洋一郎
 松尾佳代子
 医員 濱崎 豊
 松岡基行
 米田優美
 小野嘉史
 専攻医 森本優佳子

濱崎医員が Advanced PTEeXAM (米国経食道心エコー認定試験) を受験し合格した。

- 2019 年度より安全性向上のためアンギオ室 1 での麻酔業務を担当した。
- 産婦人科外来の大森医師を 12 月から週 2 回程度麻酔科で経験を積んでもらうため受け入れた。
- 2019 年 11 月より周麻酔期看護師のトレーニングを行った。
- 年間を通じ週 2 回程度神戸麻酔アソシエイツの心臓外科麻酔を専門とする麻酔科医を招聘した。
- 明石市消防局所属の救命士の挿管実習・ビデオ喉頭鏡での挿管実習を行った。
- 明石医師会 ICLS コースにおいてコースメディカルディレクター、インストラクターを行った。

■診療内容

- 手術室, アンギオ室, 内視鏡室での麻酔業務
- 無痛分娩を行う際の硬膜外カテーテル留置
- 集中治療科と連携し集中治療業務を行った。

■今後の展望

明石地区の外科治療の要となるべく、麻酔業務でリスク管理を行って安全な医療を提供する。心臓血管麻酔専門医修練施設として、麻酔科専攻医を各地より集め幅広い知識と必要な情報を得られるようにする。また関連病院とも連携し研修を行う。

■2019 年度のトピックス・実績

- 麻酔業務の実績と学会発表一覧を別表に示す。
- 服部医長が CCEeXAM (Special Competence in Critical Care Echocardiography) を受験し合格した。

表. 麻酔科実績

【合 計】

手術件数	2,879	(うち手術室内 2,833, 手術室外 46)
提供停止症例数	0	

【ASA PS】

予 定 1	2	3	4	5	6(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合 計
397	1,170	508	86	0	0	2,161
緊 急 1 E	2 E	3 E	4 E	5 E	6E(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合 計
109	319	218	65	7	0	718
						2,879

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	0	h. 頭頸部・咽喉部	9
b. 胸腔・縦隔	151	k. 胸壁・腹壁・会陰	173
c. 心臓・血管	394	m. 脊椎	83
d. 胸腔+腹部	1	n. 股関節・四肢(含:末梢神経)	802
e. 上腹部内臓	362	p. 検査	0
f. 下腹部内臓	681	x. その他	34
g. 帝王切開	189	合 計	2,879

【麻 酔 法】

A. 全身麻酔(吸入)	733	F. 硬膜外麻酔	1
B. 全身麻酔(TIVA)	184	G. 脊髄くも膜下麻酔	515
C. 全身麻酔(吸入)+硬・脊, 伝麻	754	H. 伝達麻酔	5
D. 全身麻酔(TIVA)+硬・脊, 伝麻	512	X. その他	18
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	157	合 計	2,879

【年齢構成】

	男性	女性	合計
A. ~1か月	0	0	0
B. ~12か月	0	0	0
C. ~5歳	1	3	4
D. ~18歳	53	18	53
E. ~65歳	461	823	1,273
F. ~85歳	649	609	1,150
G. 86歳~	86	176	226
合 計	1,250	1,629	2,879

【体 位】

1. 仰臥位	1,885
2. 腹臥位	109
3. 側臥位	366
4. 切石位	349
5. 坐 位	0
6. その他	170
合 計	2,879

【偶発症例】

A. 危機的偶発症	0
B. 神経系偶発症(脳・脊髄)	0
C. その他の神経系偶発症	0
D. そ の 他	0
合 計	0

【性 別】

男 性	1,250
女 性	1,629
合 計	2,879

集中治療科

■スタッフ紹介

多田羅康章

納庄弘基

小阪真弘（県立病院群よりの出張研修）

小野嘉史（麻酔科より転科）

■診療内容

- ・集中治療室における患者管理
- ・ICU 入室予定の緊急手術対応（麻酔科対応困難時）
- ・入退院支援室での周術期外来

■2019 年度のトピックス・実績

納庄医師の専門医取得.

■今後の展望

- ・専従医師の増加に伴う ICU での患者滞在期間の短縮
- ・周麻酔科プログラムを含めた看護師特定行為資格者の増加に向けた研修先の提供
- ・周術期外来の開始
- ・術後患者疼痛管理の強化（APS 回診）

看護部

■スタッフ紹介

看護師 : 431名
 (うち, 男性看護師: 34名 准看護師: 3名)
 助産師 : 48名
 看護助手: 48名 合計 528名
 ・看護師 平均年齢 31.1歳
 ・年齢構成: 20歳代 56% 30歳代 25% 40歳代 13%
 50歳代 6% 60歳代 0.6%

■2019年度看護部目標

1. 専門性が高い人材を育成し, 主体的に活動する.
2. 入院退院のマネジメントを強化し, 病院経営に貢献する.
3. 安全な看護の提供のための組織的対応を強化する.
 - ①マニュアル・ルールの遵守
 - ②インシデント・アクシデントの要因分析と対策の徹底
4. 職員が働き続けられる職場環境を整備する.
5. 働き方改革に伴う就労環境の改善を図る.

■2019年度のトピックス・実績

1. 看護師の特定行為研修終了者が4期生含め12名となった. 特に今期は, 周麻酔期看護師が2名誕生し, 麻酔科医の直接指示の下, 麻酔前診察から・術中・術後の特定行為を1人280件から300件/年実施した. 医行為を行う中でも看護師としての観察の眼や細かな患者への配慮をいかし活躍している.
2. 入院退院支援センターのリニューアルを行い, 本来あるべき姿の多職種協働を目指して, 院内全体で再構築を図った. 2020年2月から手術予約決定時に麻酔前診察を開始するとともに, 歯科衛生士・薬剤師・事務・看護師が連携し, より専門性の高い説明や指導を実施. 入院前の患者の安心感に繋がっている. 今後も入院から退院までの生活を見据えた援助に繋げていく.
3. 予約入院の介入支援は100%実施, 入院退院支援加算件

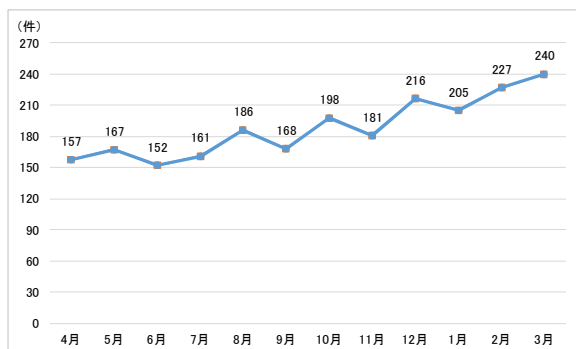


図1. 2019年度入院退院支援加算件数

数も上昇した(図1). DPCⅡ期以内での退院患者の割合は78%前後で経過した.

4. 「断らない救急」を目指して, 救急診療科の立ち上げが行われ, 救急の応需率を上げるために救急看護師がホットラインを受けるように変更し, 救急患者受け入れ件数は4,934件/年となった(図2). 応需率は内科80%台→93%, 外科68%→78%となった.
5. クリティカルケアナースの育成を進め, 内視鏡関連の在宅直を廃止し3名夜勤に変更. 勤務者からの内視鏡治療対応が可能となり, 迅速な検査対応に繋がった.
6. アドバンス助産師が16名となり, 院内助産件数も全体分娩の19.4%となった. 周産期医療の充実による地域への貢献として, 助産師による育児サークルを21回開催した. 産後ケアも実施し, NICU入院中の利用は25件, 明石市の委託としては3件の利用であった. 委託は取り組み始めたところなので今後も積極的に受け入れていく.
7. 認知症サポーター研修を2か年計画で行い看護部は59%が受講済である. 看護助手の日中見守り専従業務を継続し, 認知症・せん妄患者への対応強化を図っていく.
8. 働き方改革に伴って, 有休休暇取得の取得数を管理し平均9.2日の取得率となった. 看護師離職率は7.6%で, 新人看護師の退職は40名中1名であった.

■今後の展望

今期も, 急性期機能の質を担保できる看護実践能力の向上を図るため, 記録の見直しやアウトカム志向のパスの推進を図る. また, タスクシェア・タスクシフティングを進めるため, 役割発揮できる人材育成・活用を行いチーム医療の推進をする. さらに強化する点として, 信頼を裏切らない行動(考動)の指針を作成し, 明石医療センターの理念を裏切らない接遇向上を目指す.

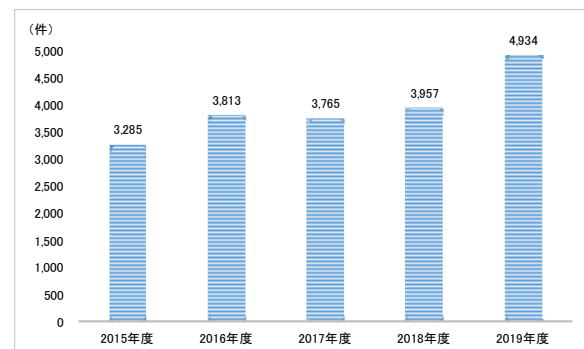


図2. 過去5年間の救急車受け入れ件数

表. 2019 年度各看護単位の概況 (患者)

患者							
病棟	年平均病床稼働率	平均在院日数	75歳以上人数	総入院数	総退院数	死亡患者数	平均看護必要度
3階	97.6%	8.3	880	1,707	1,706	26	35.9
4階	95.8%	5.6	472	2,260	2,259	37	39.8
5階	100.6%	11.6	743	1,429	1,426	123	33.4
6階	97.2%	12.0	579	1,254	1,252	13	30.7
南3	100.1%	8.4	459	880	890	19	39.1
南4	100.0%	8.4	674	1,545	1,551	40	34.2
南5	101.6%	9.3	736	1,504	1,505	49	34.6
南2	94.5%	6.7	1	1,097	1,095	分娩数 856	
						院内助産(172件)	帝王切開(186件)
ICU	85.1%	2.8	143	285	47	41	95.2
HCU	86.1%	2.6	218	431	79	25	89
NICU	70.1%	5.6		249	37	0	
GCU	98.4%	4.5		386	595		
手術室	総数	科別内訳		手術内容			剖検数
		外科	893	時間内緊急	時間外緊急	麻酔件数	
	3,431件	産婦人科	654	132	84	全身麻酔: 2,219	8
		循環器	257	69	48	腰椎麻酔: 511	
		心臓血管	520	27	3	硬膜外麻酔: 164	
		整形外科	905	74	50	局所麻酔	
		消化器・内	消50・呼3・内0	241	91	伝達麻酔	
		呼吸器外科	149	2	7	静脈麻酔 } 537	
救急	総来院患者数(1日平均)				入院率(1日平均)		
	総数	10,173人		(27.7人)		46.3%	
	救急搬送	4,934人		(13.4人)		(12.9人)	
外来	総来院患者数(1日平均)			化学療法外来患者数	新患者率	紹介率	逆紹介率
	153,971人(634人)			222人(月平均)	9.13%	73.00%	90.50%
透析・検査				内視鏡件数			
	透析件数	腹膜透析	G-CAP	上部内視鏡	6,830	全麻ESD	7
	4,369	140	36	下部内視鏡	3,412	ポリペクトミー	1,232
				ERCP	527	ガブセル内視鏡	34
	造影CT	造影MRI	CKD外来	気管支鏡	386	緊急検査	889
				胸腔鏡	37	上下部鎮静剤使用	7,465
4,790	1,084	178	ESD	164	件数		

薬 剤 科

■スタッフ紹介

科 長：小椋千絵

主 任：小川智孝，寺沢匡史

副主任：西田亜須佳

薬剤師：常勤薬剤師数 28 名 うち育休中薬剤師 1 名

パート（半日勤務）薬剤師 1 名

事務員：3 名

■業務内容

調剤業務，医薬品管理，薬剤管理指導（服薬指導），病棟薬剤業務，医薬品情報管理（DI），抗がん剤調製，無菌調製，特定抗菌薬の血中濃度解析，持参薬の識別と報告，治験薬管理業務などを行っている。各種諮問委員会への参加，NST や ICT，AST，RST，IBD，緩和ケア，認知症サポートチーム，ポリファーマシーなどチーム医療への参加，各診療科カンファレンスへ参加している。外来がん患者指導管理料を算定し，外来化学療法室にてがん化学療法を受ける全ての患者に対して抗がん剤の説明や副作用チェック，処方支援などを行っている。また，抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の一員として，特定抗菌薬，抗真菌薬の使用状況を確認し，毎日開催されているカンファレンスに参加し，抗菌薬の適正使用に取り組んでいる。今年度は，抗菌薬の供給不足が相次ぎ在庫確保に苦労したが，AST や診療部の協力を得て乗り切ることができた。

採用医薬品に関しては，引き続き，後発品への切り替えに取り組み，数量割合は 90%前後で後発医薬品使用体制加算 1 の施設基準を維持しており，また，薬剤費を減少させることで病院経営にも貢献した。

■2019 年度のトピックス・実績

夜間の業務について，6 月より当直業務から夜勤業務に変更した。夜勤帯での外来処方，薬剤師が救急室に向向き患者に服薬指導をすることにした。夜勤や代休のため，病棟薬剤業務に携わる薬剤師が不足しないように，業務分担やシフト組みの工夫，若手の教育を強化した。手術室での医薬品管理業務については昨年度から実施しているが，今年度はリテラの増設のため麻酔科医師，手術室看護師，手術室事務員などと協議を重ね，リテラと麻酔カートが無事に増設することができた。

薬剤管理指導の算定件数は，2018 年度は月平均 1,344 件であったが，2019 年度は月平均 1,534 件と増加した。また，退院時薬剤情報管理指導の算定件数に関しては，2018 年度は月平均 283 件，2019 年度は月平均 300 件と増加し，3 月には過去最高の 432 件とすることができた。

1 月中旬より入退院支援センターでの業務を開始した。手術前中止薬の確認，患者説明などの業務を行っているが，今後は他部署と協議をしながら配置時間の延長や業務内容の拡大を図っていく予定である。

外来内服抗がん剤の投与後のフォローに関して，トレーシングレポートを用いて保険薬局と連携する体制を構築した。

■今後の展望

現在，持参薬センターで行っている持参薬業務を各病棟で行うように準備を進めていく。

一般病棟以外の ICU や術後期への関わりといった重症系の患者への介入を目指したい。

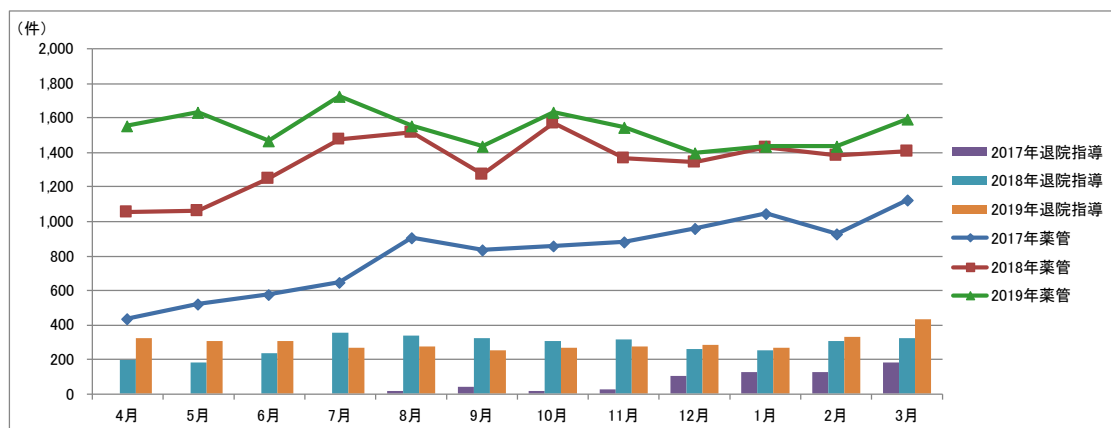


図. 薬剤管理指導算定件数と退院時薬剤情報管理指導算定件数の推移

放射線科 (技術部)

■スタッフ紹介

科 長： 岸本伸幸
 主 任： 梶谷俊孝, 羽瀨正樹
 副主任： 久森克利, 富川智之, 稲上 彩
 科 員： 下澤秀輔, 黒田大輔, 佃 将行
 勝山義己, 小川 亮, 前田将文
 片山貴博, 宮本恭平, 宮座千絵,
 柳内久美子, 日渡裕也, 宮内琴菜
 田野研士朗, 浮田 大, 橋本麻未
 森 佑梨菜
 受 付： 丸岡麻子

- ④MRI 装置 2 台 (1.5 テスラ)
- ⑤RI 検査装置 1 台
- ⑥超音波検査 (乳房・腹部・頸部〈甲状腺〉 2 台)
- ⑦骨塩定量検査装置 1 台
- ⑧外科用イメージ 2 台
- ⑨アンギオ装置 3 台 (ハイブリッド OP 室 1 台)

■部署概要

- ①一般撮影 (X 線発生装置 2 台・X 線デジタルカメラ 1 台・ポータブル X 線撮影装置 2 台・乳房撮影装置 1 台・CR 装置)
- ②造影検査 (X 線 TV 装置 3 台)
- ③マルチスライス CT2 台 (128 列)

■近況データの提示及び統計データの説明

2019 年度の活動実績からは、前年度比で高額医療機器として CT 検査 107%増 (救急外来増加)・MRI 検査 108%増・RI 検査 (オープン検査増加) 117%で稼働している。また、時間外検査 111% (救急外来増加) と年々増加している。

■今後の展望

救急外来増加に伴い、放射線科の時間外検査も年々増加しており、近々に科として時間外のバックアップ体制を構築していきたい。

表 1. 高額医療機器実績

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
CT	1,718	1,729	1,664	1,933	1,870	1,677	1,866	1,848	1,818	1,809	1,662	1,737
MRI	470	474	428	499	487	453	466	447	428	452	429	432
RI	72	74	71	81	83	73	85	72	72	72	68	70

表 2. 年間検査件数

(単位: 件)

検査名	年度	総件数
一般撮影	2017年度	65,794
	2018年度	67,021
	2019年度	68,005
乳房撮影	2017年度	1,193
	2018年度	1,751
	2019年度	1,662
消化管造影 (その他造影検査含む)	2017年度	2,395
	2018年度	2,346
	2019年度	2,396
CT	2017年度	19,498
	2018年度	19,926
	2019年度	21,329

検査名	年度	総件数
MRI	2017年度	4,581
	2018年度	5,049
	2019年度	5,465
核医学検査	2017年度	942
	2018年度	765
	2019年度	900
血管造影検査 (心カテ・腹部アンギオ) (ハイブリッドOP室)	2017年度	2,436
	2018年度	2,201
	2019年度	1,820
超音波検査 (腹部・乳腺etc)	2017年度	6,053
	2018年度	6,102
	2019年度	6,105

表 3. 年間時間外検査数

(単位: 件)

年度	総件数
2017年度	11,178
2018年度	10,773
2019年度	11,979

表 4. 時間外検査内訳

(単位: 件)

一般撮影	ポータブル	ファイリング	CT	MRI	TV	アンギオ	ハイブリッド
3,521	4,175	569	2,926	90	275	286	111

検査科

■スタッフ紹介

科長：山本久美子，主任：小段敦美，宮宅理恵

副主任：孝橋夏紀，森下絵梨

臨床検査技師：常勤 30 名，非常勤 3 名

事務員：1 名

〈各種学会等認定取得者〉

細胞検査士 5 名 国際細胞検査士 3 名

二級臨床検査士 2 名（病理 2）

認定血液検査技師 1 名，認定病理検査技師 1 名

認定心電図検査技師 1 名

超音波検査士 3 名（循環器 3 血管 1）

血管診療技師 1 名

管理栄養士 7 名

日本周術期経食道心エコー認定 1 名

■業務内容

当科は、検体検査部門（血液、生化学、免疫、尿一般、微生物）、輸血部門、病理検査部門、生理検査部門の検査業務を行っている。検査室内だけでなく、産婦人科外来での妊婦エコー、手術室での経食道エコー、術中迅速診断や剖検室での解剖の介助なども実施している。また、チーム医療にも参画し、ICT、AST、NST、院内糖尿病チーム、ハートチームの一員として活動している。

検体・輸血部門については、夜間・休日の夜勤体制をとり、終日の緊急検査に対応している。生理検査部門でも、心臓血管外科の緊急開心術時に対応し、経食道エコーの宅直体制をとっている。

■2019 年度のトピックス・実績

今期は、働き方改革を推進するために、4 月に欠員補充と夜勤体制確保のため 5 名の新入職者を迎えた。同時に、当直体制から夜勤体制へと移行し、連続勤務にならないように、当直前後に代休をとれるシフトを実現した。また、有給休暇の取得促進については、事前に希望を聞いた上で連続 5 日の取得ができるように取り組んだ。

昨年から今期にかけ経験の浅い技師が増えており、効率的で正確な教育が急務であったため、個人別技能評価研修台帳を作成し活用した。また、中堅技師の育成として、神戸大学医学部附属病院でのエキスパート研修（6 月に感染

制御コース 1 名，2020 年 1 月に白血病診断コース 1 名）にそれぞれ 3 週間参加した。

10 月には、臨床検査適性化委員会からの要望を受け、BNP を外注から院内実施検査とした。

12 月には法人の臨床検査部門協議会主催による内部監査を受けた。内部監査での指摘事項に対する是正報告も検査の精度確保のため、日本臨床検査技師会で承認を受けた精度管理責任者である宮宅主任の指示の下、円滑に進めることができた。また、日本臨床検査技師会での審査を受け、精度保証施設の認証を取得することができた。

1 月には、病院機能評価の受審があり、輸血業務の緊急時の見直しなど積極的に取り組んだ。

検査件数においては、診療科の医師の増減に伴い、検体検査では増加したが、生理検査では後半にやや減少した。全体として概ね 2018 年度の実績よりやや増加した。

■今後の展望

新型コロナウイルス流行の影響もあり、迅速遺伝子検査（LAMP 法）を院内で実施できるように機器の導入及び技師の教育に取り組みたい。救急医療に重点をおいた病院の方針に則り、緊急検査においても結核菌の LAMP 法の実施を検討する。

2020 年 4 月からは、検査品質管理室も設置されるため、検体検査の精度確保については、精度管理責任者を中心に監査・是正処置が機能するように仕組みを強化していく。

2019 年度の年間を通して、検体採取等厚労省指定講習会への参加を推奨し、受講率 100%に達することができた。医師や看護師のタスクシフトの一環として、中央処置室での採血や検体採取業務を行えるように計画をし、推進していきたい。

表. 院内実施検査 年間総件数

	(単位:件)		(単位:%)
	2018年度	2019年度	前年比
血液学的検査	276,434	290,555	105.1
生化学的検査	1,453,789	1,572,629	108.2
輸血検査	18,584	20,381	109.7
免疫学的検査	166,730	175,473	105.2
尿・糞便等一般検査	62,726	64,735	103.2
微生物学的検査	64,098	67,728	105.7
病理学的検査	37,860	40,263	106.3
生理学的検査	51,883	51,357	99.0
超音波検査	17,295	17,266	99.8
計	2,149,399	2,300,387	107.0

リハビリテーション科

■スタッフ紹介

(医師)

松島真司 (部長)

(理学療法士) 12名

平田照美 (科長) 鶴崎太志 (主任) スタッフ 10名

(作業療法士) 4名

大原健太郎 (副主任) スタッフ 3名

■業務内容

対象疾患は、昨年と同様で骨・関節疾患や脊椎疾患、外傷などの整形外科疾患が最も多く、次いで理学療法は心不全や急性心筋梗塞、開心術などの心大血管疾患、作業療法は、廃用症候群が多かった。昨年度より開始した土曜日業務も理学療法士7名、作業療法士2名で実施している。処方日からリハビリ開始までの日数は平均2.5日と前年度より日数がかかった。理学療法では術前からコーチ2を使用した呼吸訓練の実施と評価を行った。作業療法では糖尿病患者がインスリンを自己注射できるよう評価・訓練を行い、個々に合った指導パンフレットの作成を行った。

他部門との連携では、前年度に引き続き心臓リハビリや内科病棟の合同カンファレンス、整形外科回診への参加、褥瘡回診やRST回診に参加した。今年度より総合内科・

MSW・退院支援カンファレンスへの参加やがんのリハビリカンファレンスを定期的で開催し「がんのリハビリ」の処方件数増加に繋がった。他部門と情報を共有し、患者のADL向上に努めた。

■2019年度のトピックス・実績

平均実施単位数は、理学療法18.2単位、作業療法18.7単位で目標を達成することができた。

今年度より育児サークル「ピース」に参加し、産後の母親に対し骨盤ケアの体操指導などを行った。また、看護師と協力し集団心臓リハビリテーションを開始し、運動だけでなく生活指導などを行い患者教育に取り組んだ。

学会発表は、第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会で行った。

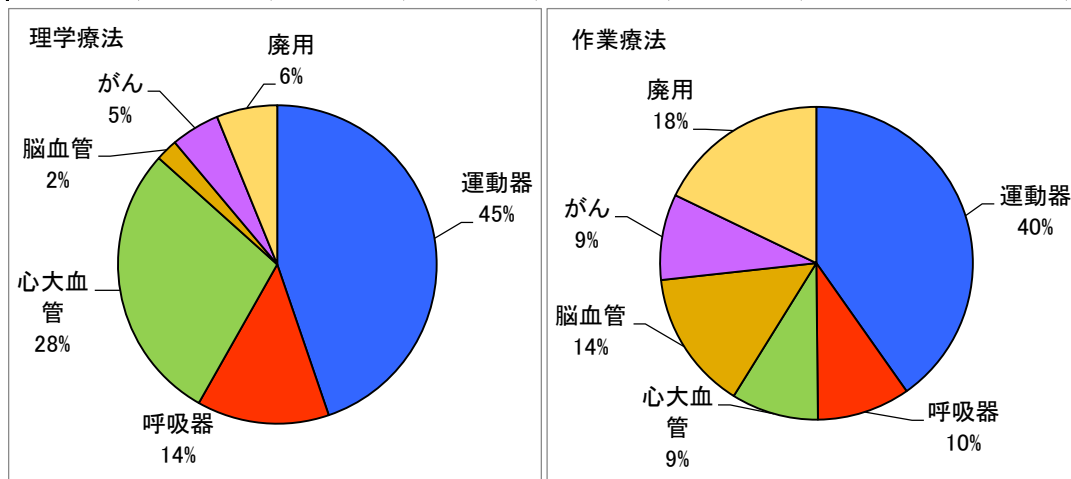
■今後の展望

急性期病院として早期にリハビリテーションを開始するため理学療法士1名の増員を行い早期介入できるよう取り組んでいく。多職種カンファレンスに積極的に参加し、情報共有を行い、患者のADL向上に関わっていく。今後も患者に信頼される医療を提供できるよう努めていく。

図表. 疾患区分別リハビリテーションの内訳

(単位:単位)

	運動器	呼吸器	心大血管	脳血管	がん	廃用	合計
理学療法	21,407	6,434	13,591	1,077	2,376	2,946	47,831
作業療法	6,479	1,550	1,451	2,318	1,432	2,873	16,103



栄養管理科

■スタッフ紹介

小山（病態栄養認定管理栄養士，糖尿病療養指導士，
TNT-D 管理栄養士）

関（腎臓病療養指導士）

田中（NST 専門療法士）

清家（病態栄養専門管理栄養士・糖尿病療養指導士）

小島（糖尿病療養指導士）

大皿（2020年4月入職予定）

給食委託：日清医療食品株式会社

管理栄養士 3名

栄養士 3名

調理師・調理補助 39名

■業務内容

食事管理，栄養指導，栄養管理が主な業務である。

1名が NST 専従，4名がほかの業務を行っている。

■2019年度のトピックス・活動実績

高齢化が進み，咀嚼・嚥下機能に重点をおいた食事提供の必要性が高まっていることから大幅な食種，献立の変更を行った。それにより状態に応じた食事提供が実施できている。

活動実績については表を参照。

■今後の展望

今年度より病棟担当制を導入し，入院から退院まで継続して関わることにより個人に応じたきめ細やかな栄養管理が行えるよう取り組んでいる。その上での課題は，経験年数の違いから生じる差である。低栄養リスク患者に対して栄養管理の標準化を行うこと，それと平行して各々が資質向上を図ることで患者に満足していただける医療を提供したいと考えている。

表. 栄養指導・管理件数

(単位:件)

	患者食数			栄養指導件数			栄養管理件数	
	加算 (食数)	非加算 (食数)	経腸 栄養剤	入院 (件数)	外来 (件数)	集団指導 (回数)	栄養管理計画書 (件数)	NST活動件数 (件数)
4月	10,060	13,808	600	169	41	4	2,157	170
5月	10,046	15,386	659	169	53	5	2,346	251
6月	10,083	14,596	439	150	39	5	1,985	181
7月	10,018	16,404	732	163	64	4	2,279	238
8月	10,129	16,265	926	153	48	4	2,420	228
9月	8,452	15,628	766	141	43	4	2,089	139
10月	10,181	16,163	1,112	167	47	2	2,344	226
11月	9,616	16,052	1,050	130	67	3	1,567	138
12月	10,023	14,134	923	139	65	5	1,556	184
1月	9,902	15,685	1,077	129	51	4	1,745	141
2月	9,298	15,440	870	126	47	4	1,453	191
3月	9,981	14,353	844	149	62	2	1,354	152
合計	117,789	183,914	9,998	1,785	627	46	23,295	2,239

臨床工学科

■スタッフ紹介

(科 長) 森島 毅

(副主任) 壺井里恵子, 万壽本真理子, 福井謙治

(科 員) 佐々木智子, 柴田康成, 草信貴児

大塚健太, 石井彩織, 近藤 慶, 松江俊英

土岐和幹, 守田佳保里, 松原竜也

松野里咲, 浅川瑞大, 糸口耕平

■業務内容

当科の主な業務は手術室業務, カテ室業務, 透析業務, 医療機器保守点検業務となっている。下記に各業務の概要を示す。

【手術室】

人工心肺装置 2 台を用い, 開心術症例に備えている。スタッフは, 症例にもよるが 2 名以上で業務にあたっている。TAVI は 2 名で業務にあたり, スタッフ 1 名が清潔野にて人工弁の組み立て操作を担っている。そして年度末からダビンチシステムを用いたロボット支援手術に参画開始した。

【血液透析】

当院の透析ベッド数は 20 床, 月水金曜日は午前・午後の 2 クール, 火木土曜日は午前の 1 クールで業務を行っている。当院の慢性維持血液透析は全て日機装社の装置で統一している。

【心血管造影室】

心血管造影室において虚血性疾患に対する補助, 不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション, ペースメーカー

プログラマー操作を担っている。なお, アブレーション業務においては清潔野での医師補助業務も実施している。

【機器管理業務】

医療機器管理ソフトを用いて医療機器の中央管理を行っている。また医療機器の修理, 定期点検も当科の重要な業務となっている。時間外の対応をよりスムーズに行うため 24 時間院内に臨床工学技士を配置することで緊急対応が可能としている。なお, 緊急開心術に対応できるよう院内待機以外に持ち回りでスタッフを待機させることとしている。

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度実績は表を参照。

■今後の展望

医療機器の安全提供を科の根幹の業務としている。臨床業務においては当科の対象患者として循環器疾患患者が多い傾向があるが, 他の疾患を併発した患者が増加傾向にあるため今後も柔軟な対応能力が問われていく。2019 年度は特に補助循環を必要とされる重症患者数が増加し, 集中治療領域での患者対応の充実が以前に増して求められた。来年度は科員全体でより高度な知識, 技術の習得を実施していく。

そして新たにダビンチシステムを用いたロボット支援手術が始まり, 当科スタッフもチームの一員として参画し機器のセッティング, トラブル対応を実施していく。

表 1. 手術のサポート

(単位:例)

	症例数	前年比
人工心肺使用症例	155	87.6%
ステントグラフト	50	116.3%
TAVI	42	120.0%

表 2. 透析回数

(単位:例)

	症例数	前年比
透析	4,349	88.1%
GCAP/LCAP	33	157.1%
腹水濃縮	19	380.0%
CRRT	102	85.0%
PMX	17	188.9%

表 3. カテのサポート

(単位:例)

	症例数	前年比
PCI	403	118.5%
緊急PCI	127	110.4%
ABL/EPS	324	75.2%
PTA	103	89.6%
診断	593	146.4%
ペースメーカーチェック	2,169	98.9%

表 4. 補助循環装置使用回数

(単位:件)

	件数	前年比
VA-ECMO	14	128.6%
VV-ECMO	8	266.7%
IABP	11	45.8%
Impella	6	300.0%

表 5. 機器修理

(単位:件)

	件数	前年比
医療機器修理実績	405	103.8%
定期点検	1,441	86.8%
返却時点検	12,040	115.6%

地域医療連絡室・ドック健診センター

■スタッフ紹介

室長（科長）：長野英樹

（主任）：守屋実穂

地域医療連絡室（紹介担当）：

奥平沙耶，井上頌子，小原あん菜，村上瑠生，大附あゆみ

ドック健診センター：

荒川都貴子，佐藤喜代子，田畑恵利花，（他パート：3名）

■業務内容

今年度は，産休者もあり1人当たりの業務量は増加したが，業務を見直し効率化を図ることで負担軽減できた。紹介患者数は前年比101%と僅かに増加となった。紹介予約システム利用患者は前年同様38.6%であったが今年度は37.4%と少し減少した。返書管理業務では，未記載返書の医師への記載依頼に対し，97.6%と高い返書率を保っている。

ドック健診センター業務は，限られた枠数の中で単価の高い半日ドック受検者数を増やし，今年度更に前年比101.7%の実績を上げることができた。

月1回開催の市民健康講座「すこやか広場」も，今年度2月開催で44回目を迎えた。3月開催はCOVID-19のため延期となった。毎回市民の方だけでなく，医療関係者の参加も見られる。

■業務報告

・紹介患者数及び紹介率・逆紹介率（図表1～3）

2019年度の紹介患者数は，前年度101%と僅かに増加した。紹介率は，前年度と同率73.0%で，逆紹介率は，90.5%と伸びを示した。救急受け入れの情報取得も迅速に対応でき，スムーズな救急診療に寄与できている。

紹介元医療機関との情報のやり取りを，迅速にかつ細やかに対応することで，信頼が得られると考える。

・オープン検査（図表4）

昨年度は前年度比95%であったが，今年度は106%と増加した。RI検査の脳血流シンチの需要が伸びた。今年度8月よりMRIが2台稼働となり，CTとともに待ち日数は

ゼロとなったが，稼働率がやや伸び悩んでいる。近隣医療機関にMRIが導入され，予約数が減少したことも影響した。積極的に当日オーダーも受けているが，件数増加にあまり繋がっていない状況である。

・研修会・講演会の開催

各諮問委員会主催研修会が年2回ずつ開催されているが，開催形態が変容してきている。内容を絞り，周知が必要と思われる事例に対してカンファレンス形式で開催したり，参加者全員が研修会場に収容できないため，ポスター掲示形式にして，一定期間自由に閲覧してもらうという研修会も多くなってきた。そのため地域医療機関に参加を促す機会が少なく，地域医療支援病院の認定要件である，地域に対する研修会等の開催件数が減ってきている。今後研修会のあり方も検討する必要がある。

開放病床委員会が年4回開催されているが，3月開催はCOVID-19のため延期となった。地域医療支援病院が年1回の開催で，明石市立市民病院との共同開催となっている。当院主催の「地域医療連携の会」は年1回9月開催が定例となった。2016年6月からの市民健康講座「すこやか広場」も，月1回のペースで開催できているが，3月以降次年度の開催は未定となった。

・健診業務（図表5）

2019年度件数は，前年比94%と減少したが，収入額は101.7%と増加を示した。高単価の人間ドックを確保することで収入減を免れた。次年度から開始した脳ドックの件数を上げて，MRI稼働率の増加と更なる健診増収に繋がりたい。

■今後の展望

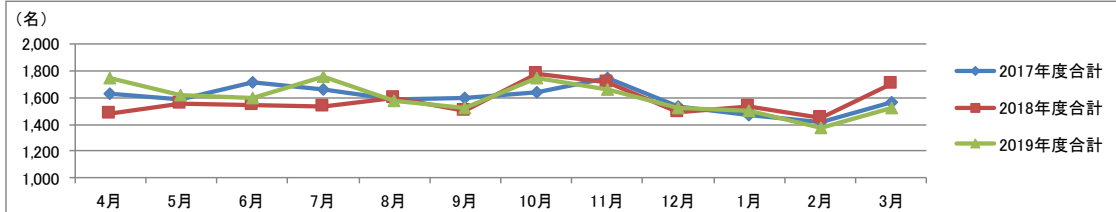
来期は，COVID-19の影響もあり先行き不安定で，紹介患者数も減少していくと見られる。しかし救急患者を含め，当院に来られる患者の迅速な受け入れ，地域医療機関からの信頼に応えるべく連携強化を図っていく。

次年度も継続して訪問し，顔の見える連携を行っていききたい。

図表 1. 紹介患者数

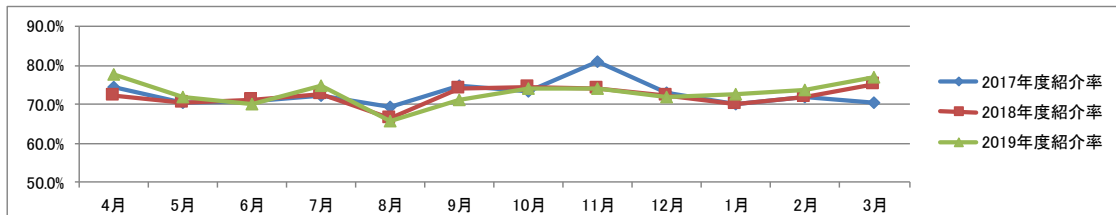
(単位:名)

紹介患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年比
2017年度合計	1,627	1,591	1,720	1,662	1,592	1,600	1,645	1,750	1,531	1,471	1,422	1,570	19,181	1,598	96%
2018年度合計	1,484	1,553	1,546	1,533	1,599	1,498	1,783	1,718	1,494	1,533	1,453	1,701	18,895	1,575	99%
2019年度合計	1,750	1,616	1,594	1,759	1,572	1,523	1,745	1,667	1,527	1,499	1,376	1,527	19,155	1,596	101%



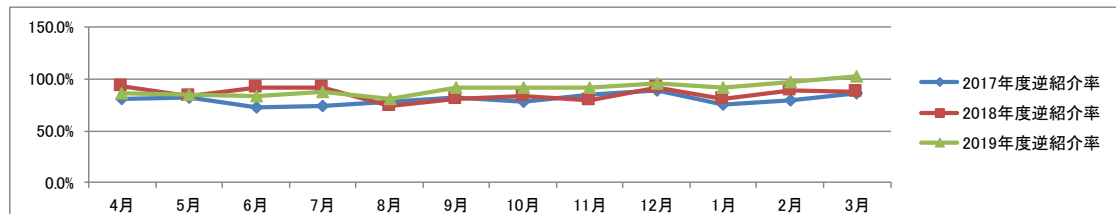
図表 2. 紹介率

紹介率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2017年度紹介率	74.3%	70.5%	70.9%	72.4%	69.5%	74.7%	73.2%	81.1%	73.0%	70.2%	71.8%	70.4%	72.7%
2018年度紹介率	72.2%	70.5%	71.0%	72.6%	66.3%	74.2%	74.5%	73.9%	72.1%	70.1%	72.0%	75.0%	72.0%
2019年度紹介率	77.8%	72.0%	70.0%	74.9%	65.9%	71.3%	74.2%	73.9%	72.0%	72.7%	73.7%	77.1%	73.0%



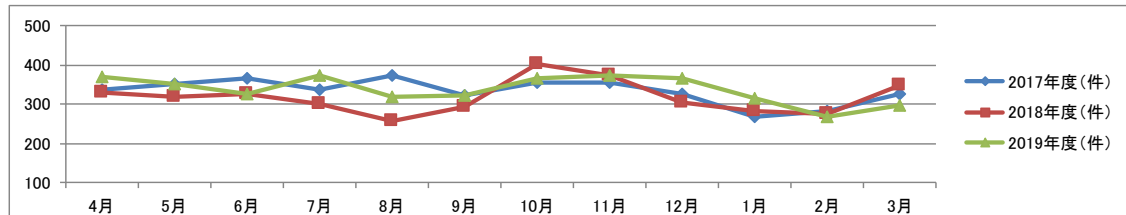
図表 3. 逆紹介率

逆紹介率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2017年度逆紹介率	80.3%	82.4%	72.3%	73.4%	77.9%	81.5%	77.5%	84.6%	89.0%	75.2%	79.7%	86.3%	80.0%
2018年度逆紹介率	93.1%	83.0%	91.6%	91.8%	74.3%	80.8%	82.9%	80.0%	91.6%	80.8%	88.8%	87.8%	85.5%
2019年度逆紹介率	85.8%	85.4%	83.5%	88.1%	81.4%	91.6%	91.8%	91.8%	96.4%	91.6%	96.8%	101.9%	90.5%



図表 4. オープン検査数

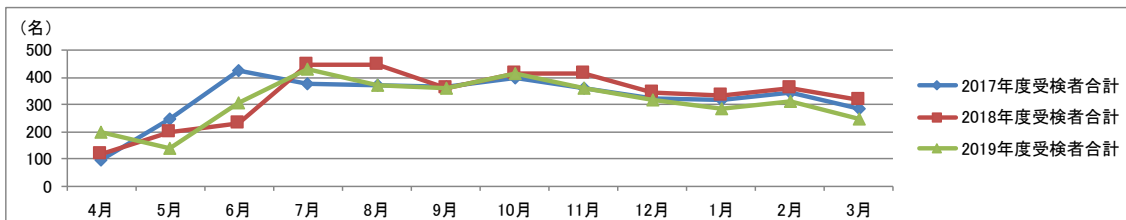
オープン検査数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
2017年度(件)	339	353	368	337	373	321	356	356	328	267	282	327	4,007	100%
2018年度(件)	331	319	327	300	259	295	404	375	305	281	275	349	3,820	95%
2019年度(件)	370	351	327	372	320	323	368	374	368	314	269	299	4,055	106%



図表 5. 健診受診者数

(単位:名)

健診受診者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
2017年度受診者合計	97	245	425	374	369	367	395	359	324	316	341	284	3,896	99%
2018年度受診者合計	117	196	231	444	445	362	414	415	342	331	361	318	3,976	102%
2019年度受診者合計	199	141	306	431	370	359	414	362	317	284	310	249	3,742	94%



医療福祉相談室

■スタッフ紹介

社会福祉士 6名 臨床心理士 1名

七夕・クリスマスイベントの飾りつけ

患者向け体操教室 等

■業務内容

《入院患者の退院支援》

《外来患者の通院支援》

- ・患者家族への心理的支援
- ・地域医療機関との連携
- ・かかりつけ医，維持透析医療機関調整
- ・介護，障害サービスとの連携
- ・行政，各種関係機関との連携
- ・社会保障制度の案内，手続き

《カンファレンス開催》

- ・病棟カンファレンス
- ・多職種カンファレンス
- ・ドクターカンファレンス
- ・退院前カンファレンス
- ・倫理カンファレンス

《院内ボランティアの窓口》

- ・ボランティア参加者 5名（男性 4名/女性 1名）
- ・活動内容
 - 活動ミーティング（毎月 1回）
 - 外来再来機受付周辺での患者案内
 - 病棟寄贈図書 of 整理整頓
 - 中央玄関周辺の鉢植え作成，水やり
 - 院内車いす点検（毎月 1回）

■2019年度のトピックス・活動実績

《実績》

- ・別表及びグラフ参照

《大腿骨頸部骨折地域連携パス合同研究会》

- ・地域連携パス利用患者 70名/年間
- ・協力医療機関 6件
- ・合同研究会 3回/年

（2020年3月に予定していた3回目は文書回覧のみ）

- ・開催テーマ

7月「当院におけるヒップフラクチャーセンターの紹介」

講師：整形外科 脇 貴洋 医師 / 参加者 25名

12月「Stop at one 地域連携を介した骨粗鬆症治療の

現状・課題」講師：旭化成ファーマ / 参加者 25名

■今後の展望

- ・新人教育

数年，新入職が定着せず，難渋している．教育パスは作成しているが，十分に活用できる機会に乏しい．

引き続き，職員の定着化が課題である．

- ・タスクシフト

MSW業務に集中できる環境作りを目指す．業務内容を分類し，他部署への協力依頼，患者家族が能動的に動けるシステム作りを検討していく．

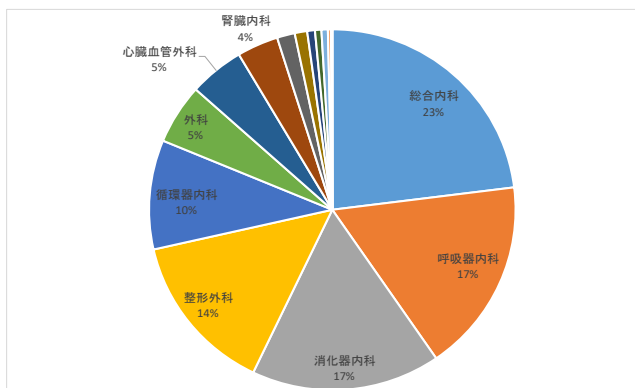


図 1. 依頼患者の診療科別内訳

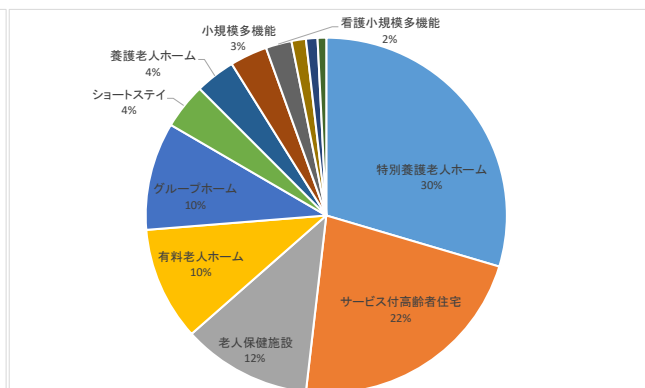


図 2. 退院先施設種別

表 1. 2019 年度退院支援に関する数値の推移（入退院支援センター及び医療福祉相談室 活動集計）

		2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月	合計	
支援患者について	介入依頼														
	入院	219	256	185	248	281	222	255	207	260	299	253	158	2,843	
	外来	37	25	34	29	30	44	61	59	61	67	38	43	528	
	合計	256	281	219	277	311	266	316	266	321	366	291	201	3,371	
退院	支援患者の退院総数(ア)	231	247	198	240	263	237	248	227	258	266	263	270	2,948	
	全病棟退院患者総数(イ)	1,025	1,051	1,043	1,047	1,150	988	1,057	1,104	1,068	922	1,004	983	12,442	
	介入率 (ア)/(イ)×100%	23	24	19	23	23	24	23	21	24	29	26	27	24	
支援患者(ア)の転帰先	自宅	105	117	93	120	142	116	129	108	138	122	127	140	1,457	
	施設	36	43	38	29	36	24	34	28	26	29	26	36	385	
	内訳	居住系介護施設	31	38	36	25	32	19	30	24	25	24	25	34	343
		老人保健施設	5	5	2	4	4	5	4	4	1	5	1	2	42
	転院	78	68	51	76	74	81	74	75	81	99	90	84	931	
	内訳	回復期リハ病棟	10	12	9	9	4	7	10	5	9	10	8	8	101
		地域包括ケア病棟	2	3	3	2	3	2	1	2	2	6	2	0	28
		療養病棟	2	2	0	1	4	4	1	4	2	2	2	3	27
		有床診療所	1	1	1	4	2	2	1	2	3	2	4	3	26
		その他一般病棟等	63	50	38	60	61	66	61	62	65	79	74	70	749
	死亡	12	19	16	15	11	16	11	16	13	16	20	10	175	
	平均支援日数	介入までの日数	6	5	4	5	6	6	6	6	5	7	5	5	6
		方針決定までの日数	9	10	8	9	9	9	10	9	11	10	10	9	9
調整開始までの日数		10	11	9	10	10	10	10	10	10	11	10	9	10	
在院日数		19	19	17	19	18	21	19	19	18	22	19	19	19	
加算	退院支援加算1	157	164	152	161	186	168	198	181	216	205	227	240	2,255	
	介護支援連携指導料	37	35	28	36	30	38	43	46	41	32	39	20	425	
	退院時共同指導料	9	14	17	11	10	13	25	13	24	11	9	12	168	
在宅復帰率(%)		93	95	96	93	94	92	93	93	93	90	92	92	93	

表 2. 2019 年度地域別転院先医療機関

(単位:名)

医療機関名		患者数	医療機関名(神戸市内)		患者数	医療機関名		患者数
明石市内	明石市立市民病院	9	東灘区 中央区 北区 長田区 須磨区 垂水区 西区	宮地病院	1	北播磨 淡路 阪神 大阪府 精神科	北播磨総合医療センター	2
	兵庫県立がんセンター	13		本山リハビリテーション病院	1		ときわ病院	4
	西江井島病院	116		六甲アイランド甲南病院	1		みきやまリハビリテーション病院	3
	明石リハビリテーション病院	71		神戸大学医学部附属病院	8		三木山陽病院	1
	あさひ病院	58		神戸市立医療センター中央市民病院	3		服部病院	3
	明石仁十病院	55		神戸低侵襲がん医療センター	7		緑駿病院	1
	ふくやま病院	51		三聖病院	1		西脇市立西脇病院	1
	神明病院	46		神戸マリナーズ厚生会病院	1		松原メイフラワー病院	1
	大久保病院	40		荻原整形外科病院	1		小計(8機関)	16
	明石回生病院	34		有馬温泉病院	1		翠鳳第一病院	1
	野木病院	34		神戸ほくと病院	1		洲本伊月病院	1
	石井病院	28		広野高原病院	1		聖隷淡路病院	4
	大西脳神経外科病院	26		神戸リハビリテーション病院	1		小計(3機関)	6
	明舞中央病院	23		野瀬病院(長田)	1		兵庫医科大学病院	1
	明海病院	10		公文病院	1		南芦屋浜病院	1
	明石同仁病院	9		荻原みさき病院(兵庫区)	4		明和病院	1
	王子回生病院	4		神戸医療センター(須磨区)	1		尼崎だいもつ病院	1
	中山クリニック	15		新須磨病院	2		大隈病院	1
小計(18機関)	642	須磨浦病院	1	小計(5機関)	5			
市外の東播磨	加古川中央市民病院	23	垂水区	新須磨リハビリテーション病院	1	大阪府	大阪大学医学部附属病院	1
	兵庫県立加古川医療センター	8		神戸救済会病院	5		大阪市立大学附属病院	1
	順心リハビリテーション病院	5		舞子台病院	4		東住吉森本病院	1
	いなみ野病院	4		名谷病院	1		千里リハビリテーション病院	1
	甲南加古川病院	1		西神戸医療センター	5		小計(4機関)	4
	はりま病院	1		県立リハビリテーション中央病院	24			
	松本病院	1		信生病院	16			
小計(7機関)	43	伊川谷病院	14					
中播磨	姫路医療センター	3	西区	みどり病院	10	精神科	明石こころのホスピタル	31
	姫路聖マリア病院	2		久野病院	3		明石土山病院	24
	井野病院	2		足立病院	1		湊川病院	1
	姫路中央病院	1		フェニックス岩岡クリニック	9		垂水病院	1
				田中整形外科	1		関西青少年サナトリウム	14
				西北ハートクリニック	1		新生病院	1
小計(4機関)	8			播磨サナトリウム	1			
				小計(7機関)	73			
				小計(33機関)	133	合計医療機関 89件 延べ患者数 930名		

入退院支援センター

■スタッフ紹介

入院支援看護師, 退院支援看護師, 麻酔科医, 麻酔看護師,
薬剤師, 歯科衛生士, 事務職員 合計 17名

■業務内容

外来診察時に入院が決定した患者に対して, 安全に治療が受けられるよう, 入院支援看護師・麻酔科医・麻酔看護師・歯科衛生士・薬剤師・事務職員が入院前の支援を行っている。入院生活や退院後の生活に不安がある場合は退院支援看護師を始めとする専門職種が入院早期より関わり, 退院後も安心した暮らしが継続できるよう支援している。また, 在宅で介護サービスを受けられている患者には, 入院が決定した時点より担当ケアマネジャー等へ連絡を取り, 地域の支援者と連携を図り, 切れ目のない支援を行っている。

《入院支援の業務》

1. 入院の案内。
入院に必要な物品, 入院中の1日の流れと生活上の注意点, 入院費や制度の案内, 服薬状況の確認, およその入院期間の案内, 個室希望確認。
2. 手術の案内。
手術に必要な物品, 手術前から手術後までの流れ, 麻酔について, 中止する薬剤の確認, 口腔内の確認及び歯科受診の必要性について, 呼吸訓練の指導。
3. 患者情報の入力。
4. 療養上のリスクアセスメント (褥瘡・栄養・認知・転倒)。
5. 退院困難が予測される患者の把握。
入院時スクリーニングシートの入力, 入院前生活情報シートの入力。
6. 関係職種との連携。
地域支援者 (ケアマネジャー・訪問看護師等) へ入院の連絡, 情報提供依頼。

《退院支援の業務》

1. 退院困難が予測される患者の把握。
入院時スクリーニングシートの再評価。
2. 患者・家族面談。
入院前の生活状況確認, 今後の療養についての意向確認。
3. 療養中の病態・ADL状況の把握。
4. 退院に関わる問題・課題の把握
医療上の課題・生活上の課題の抽出, 課題解決に向けた支援内容のマネジメント。
5. カンファレンスの実施。
退院支援カンファレンス, 退院前カンファレンス, ケアマネジャー面談, 施設退院前面談。
6. 関係職種との連携
地域支援者 (ケアマネジャー・訪問看護師等) へ退院の連絡, 情報提供。

■2019年度のトピックス・実績

《トピックス》

1. 入退院支援センターの移設と新体制の整備。
2. 入退院支援センターワーキングの開催。
3. 病院機能評価受審に向けた, 業務改善と業務内容及びマニュアルの追加・修正。
4. ラインワークスの導入。
5. 入院支援記録 (テンプレート) の作成と運用。
6. DPC II 期越えの患者の治療方針や退院支援・調整の進捗状況を含めた報告会の開催 (1回/週)。

《実績》

表参照

■今後の展望

患者・家族が安心して治療に専念でき, その後早期に住み慣れた地域で望んだ暮らしが継続できるよう, 入退院支援センターの役割拡充と質の向上を目指し, チーム一丸となって取り組んでいく。

表 1. 入院支援件数

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内訳	予定入院	366	365	324	380	331	297	340	313	287	314	291	303	3,911
	緊急入院	123	115	107	102	116	100	149	128	152	110	79	53	1,334
2019年合計		489	480	431	482	447	397	489	441	439	424	370	356	5,245

表 2. 各診療科別入院支援件数(予定入院)

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	211	199	190	210	167	147	174	164	143	134	147	119	2,005
外科・乳腺	60	65	47	51	53	61	64	53	46	55	36	60	651
整形外科	19	24	27	22	23	19	21	27	17	37	21	24	281
呼吸器外科	11	15	10	3	7	5	5	4	4	13	8	6	91
心臓血管外科	23	27	21	39	22	28	29	24	32	21	25	24	315
小児科	3	1	1	4	5	1	7	3	4	4	6	12	51
産婦人科	37	34	28	51	54	36	40	38	41	50	50	58	517

表 3. 入院・退院に関する加算算定件数

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院時支援加算(600点)		157	164	152	161	186	168	198	181	216	205	227	240	2,255
介護支援連携指導料(400点)		37	35	28	36	30	38	43	46	41	32	39	20	425
退院時共同指導料	当院看護師×訪問看護師(400点)	9	13	17	11	9	12	21	12	19	9	9	9	150
	当院医師×かかりつけ医(400点+300点)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	当院医師×3者以上(400点+2,000点)	0	1	0	0	1	1	4	1	4	2	0	3	17

SPDセンター

■スタッフ紹介

室長：辰巳

主任：小畑

副主任：澁谷

スタッフ：山本， 赤阪， 中谷， 本田

■業務内容

1. 物品管理業務・滅菌器材管理業務

両業務を一元管理することで、過剰在庫・不足在庫の防止や有効期限切れの防止、また診療現場での物品管理業務がなくなり、作業の軽減に繋がる。

当センターでは、診療材料や日用品、事務用品など診療や業務を行うために必要な薬品以外の物品約 2,500 アイテムを院内 48 部署に配送している。

「必要なものを必要な数だけ迅速に！」を活動目標に、現場のニーズに応えられるようコミュニケーションをとりながら状況を把握するよう心掛けている。

2. 高額医療機器購入・修理依頼及び保守契約の管理

高額医療機器の購入に関しては、予算枠の機器更新分 6,000 万円、新規購入分 3,000 万円に対し、医療機器整備委員会を開催し、審議の上、更新分については既に故障している機器やメーカーサポート終了機器等の最優先更新機器の計 11 品目、5,143 万円の高額医療機器を更新した。また新規分については、計 6 品目、1,317 万円で購入した。その後も、老朽化した医療機器が故障（超低温フリーザ・ICU ベッド・血液ガス分析装置等）したため、機器を更新しほぼ予算枠合計 9,000 万円を使い切った。

当院は、本館を改築して 12 年が経過し当時購入した医療機器でサポート終了時期を迎えている機器がまだ多く残っており、今後も計画的な更新が必要となってくる。高額医療機器の購入・修理に際しては、できるだけ支出コストを削減するために、値段交渉を行っていく。

高額医療機器の修理については、老朽化している機器の修理が増加し、高額な修理機器は 1 年限定保守契約を締結しその契約内で修理を行った。また新規保守契約については、検査科の総合血液学検査装置の保守契約を 1 件締結した。

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度の消費実績データは、別添の表のとおりである。

外来・病棟・技術部系・事務部門の年間消費合計は、前年度と比較して約 104%となった。増加原因として主に急性血液浄化に使用する高額な材料の使用数が増加したことと小児科で使用している人工呼吸器回路の使用数が増加したこと、またリユースの診材を一部感染対策の関係からディスポ製品に切り替えたことなどが挙げられる。

しかし高機能フロア関連で循環器医師の減少から検査数が減り、それに伴い高額な材料の使用数も減少したので、前年度比 85%となり全体的には、前年度比 88%となった。

診療材料については、償還価格に対して納入価格が著しく高額な製品もあり、各メーカー及び納入業者に値下げを依頼しているが、困難な状況である。しかし対抗業者への変更や再度現行業者と値交渉を行い、アイソレーションガウン及びメディカルディスポシーツ等の値下げを行った。

事務用品についても感熱紙等をメーカー純正品から汎用品に変更し値下げを行った。結果合計で月平均約 29 万円（年間約 350 万円弱）のコスト削減を実施した。

消費実績の資料は、毎月物品管理委員会で報告しており、各部署のそれぞれの消費データを提示することで材料の適正使用・使い過ぎの判断を行っている。

また新規材料申請においては、1 増 1 減を基本に物品採用量を極力増やさないようにしている。

また医療機器については、通常予算での購入及び更新については、前項に記載したが、今年度は、手術支援ロボット（daVinci）を導入するかどうかの検討を行う 1 年としてロボット手術検討会を立ち上げ、月 1 回のペースで開催した。検討の結果、術式算定の拡充、近隣の保有施設への患者流出防止、患者の低侵襲のメリットや今後の医師獲得等の観点から導入する方向でデモ機操作説明会や業者との打ち合わせを行った。購入決済後の 2019 年 12 月に手術支援ロボット（daVinci Xi）1 台を納品し、その後トレーニング、施設見学等を経て、2020 年 3 月には、まず産婦人科で、その後、外科でも初症例を迎えることができた。導入については、洗浄機の入替工事や電源容量の増設等が発生したが、順調に進めることができた。今後は、心

臓血管外科や呼吸器外科も実施する予定であり、更なる患者獲得を行い、ロボット手術の件数増加を計っていく。

の中で当センターでも取り入れられるような安価物品は積極的に検討していく。

■今後の展望

今後も計画的に部署定数、倉庫定数の見直し等を行いながら、物品の適正使用に貢献したい。

また、現在使用の診療材料及び事務用品についても、使用に問題がなければ、見積比較を行い、メーカー及び納入業者を変更するなどして、更にコスト削減を図っていく。

また、愛仁会グループの他施設で使用している診療材料

手術の低侵襲化が進んでいく中で、手術に対する診療報酬点数は、低下傾向にあるが、診療材料が高額物品を使用することから、今後も医業収入に対する材料費の比率の上昇をいかに抑えるかということが課題である。

また高額医療機器に関しては、本館改築後12年になり当時購入した医療機器が順次サポート終了を迎えるため、今後も限られた予算の範囲内で医療機器の計画的な更新が必要である。

表. 消費実績

部門	部署名	消費合計 (診療材料/日用品/事務用品)								2018年度 月平均	2019年度 月平均			
		4~6月	前年度比	7~9月	前年度比	10~12月	前年度比	1~3月	前年度比			合計	前年度比	
看護部(病棟)	本館0階病棟	2,561,460	111%	2,461,921	106%	2,488,205	92%	2,458,133	107%	9,969,720	103%	805,120	830,810	
	本館5階病棟	3,636,274	96%	3,487,071	102%	3,601,959	88%	3,569,039	97%	14,294,342	95%	1,248,324	1,191,195	
	本館4階病棟	3,965,593	98%	4,205,022	122%	3,978,809	97%	3,802,245	110%	15,951,669	106%	1,252,998	1,329,306	
	本館3階病棟	3,331,183	72%	3,083,984	82%	3,271,486	94%	2,905,772	95%	12,592,425	84%	1,242,092	1,049,369	
	ICU	6,312,200	115%	7,047,271	110%	7,714,213	119%	6,453,444	100%	27,527,128	111%	2,072,035	2,293,927	
	南館5階病棟	3,007,297	103%	2,855,813	110%	2,739,087	87%	2,430,160	83%	11,032,359	95%	962,972	919,363	
	南館4階病棟	3,266,615	94%	3,646,131	113%	3,353,617	94%	3,590,844	115%	13,857,207	104%	1,115,633	1,154,767	
	南館3階病棟	2,616,703	89%	3,073,639	139%	2,518,182	106%	2,258,295	94%	10,466,820	106%	826,591	872,235	
	HCU	2,865,247	96%	2,617,035	103%	2,607,110	95%	2,784,089	125%	10,873,480	104%	873,798	906,123	
	産科病棟	4,570,826	96%	4,581,406	105%	5,129,376	96%	3,628,845	100%	17,910,453	99%	1,505,059	1,492,538	
	NICU-GCU	3,266,666	112%	3,977,361	122%	4,806,987	128%	3,296,502	120%	15,347,517	121%	1,054,698	1,278,960	
	看護部(外来他)	消化器内視鏡センター	13,353,548	106%	11,485,987	100%	12,988,104	94%	13,470,647	96%	51,296,287	99%	4,319,165	4,274,691
		TV室	17,743,527	102%	19,969,868	102%	22,043,616	128%	13,950,878	93%	73,707,888	106%	5,774,216	6,142,324
		1階前処置室	298,194	118%	225,359	94%	249,298	102%	283,795	104%	1,056,647	105%	84,254	88,054
透折室		3,048,369	81%	3,087,496	81%	3,472,721	101%	2,862,232	82%	12,270,819	86%	1,187,884	1,022,568	
小児科外来		408,144	142%	376,262	167%	305,610	98%	267,906	84%	1,358,922	119%	95,505	113,243	
整形外科外来		203,554	92%	206,409	86%	261,458	134%	219,268	86%	890,689	98%	76,083	74,224	
内科外来		5,828,424	89%	5,970,915	89%	6,190,773	93%	6,325,777	108%	24,315,890	94%	2,151,620	2,026,324	
中央処置室		2,614,385	103%	2,647,255	92%	2,756,506	96%	2,639,034	108%	10,657,181	99%	893,924	888,098	
化学療法室		525,921	107%	678,509	131%	730,293	140%	804,398	152%	2,739,120	133%	171,846	228,260	
外科外来		1,352,250	104%	1,530,997	94%	200,353	104%	170,882	120%	659,383	105%	52,426	54,949	
心臓血管外科外来		20,152	86%	34,305	92%	28,558	69%	63,145	241%	146,161	114%	10,683	12,180	
産婦人科外来		1,330,033	119%	1,265,083	90%	1,456,808	113%	1,201,627	92%	5,253,550	103%	425,383	437,796	
泌尿器科		369,593	62%	660,376	142%	503,974	98%	571,813	130%	2,105,755	105%	167,510	175,480	
眼科		18,759	400%	19,214	214%	8,130	92%	2,469	27%	48,571	207%	1,954	4,048	
救急外来	5,850,264	108%	6,077,528	105%	6,954,534	116%	6,212,581	103%	25,094,908	108%	1,934,062	2,091,242		
技術部	臨床工学科	59,935,671	130%	8,223,333	164%	8,314,854	178%	5,362,242	77%	28,436,100	132%	1,798,482	2,369,675	
	リハビリテーション科	56,089	68%	53,461	66%	91,829	139%	62,136	70%	263,514	82%	26,857	21,960	
	病理診断科	800,259	166%	482,810	83%	964,206	170%	480,171	77%	2,707,648	121%	185,905	225,637	
	2階検査科	419,814	103%	474,652	110%	462,621	82%	556,031	159%	1,913,118	109%	146,070	159,427	
	1階検査科	2,263,839	102%	2,559,306	116%	2,773,364	139%	2,188,485	124%	9,784,993	120%	681,953	815,416	
	放射線科	1,687,928	94%	1,922,250	124%	1,862,784	105%	1,858,091	124%	7,331,053	111%	550,991	610,921	
	栄養管理科	173,871	112%	180,163	77%	128,181	72%	141,377	115%	623,592	90%	57,646	51,966	
	薬剤科	2,523,483	91%	3,402,248	135%	2,863,339	91%	2,684,507	112%	11,473,577	106%	903,862	956,311	
	事務部他	診療情報管理室	80,508	128%	130,703	207%	85,155	90%	79,840	89%	376,205	121%	25,894	31,250
		地域医療連携室	248,538	88%	371,266	125%	295,925	79%	336,789	111%	1,252,518	99%	105,029	104,376
医事科		1,063,554	130%	832,670	101%	1,273,805	118%	918,722	108%	4,088,751	114%	297,927	340,729	
経営企画室		72,211	123%	16,089	42%	59,024	122%	30,096	176%	177,420	109%	13,523	14,785	
管理科		364,137	106%	346,594	86%	402,178	80%	366,341	55%	1,479,250	77%	159,258	123,271	
リネージュ		722,321	84%	768,728	98%	786,162	91%	744,053	94%	3,021,265	92%	274,882	251,772	
SPDセンター		34,923	88%	36,757	102%	38,535	88%	49,492	113%	159,706	98%	13,600	13,309	
看護学校	看護学校	11,475	151%	3,170	60%	28,897	50%	44,230	299%	87,771	103%	7,118	7,314	
看護部長室	看護部長室	331,960	146%	246,154	56%	286,798	124%	245,496	85%	1,110,408	94%	98,652	92,534	
手術-カテ室を除く合計		107,939,861	101%	114,544,671	107%	121,075,527	109%	102,151,719	99%	445,711,777	104%	35,653,063	37,142,648	
看護部(高機能)	手術室(院内SPD)	168,860,130	109%	79,814,203	74%	85,470,377	60%	63,242,046	79%	397,386,755	82%	40,487,772	33,115,563	
	(宮野SPD)	171,845,948	123%	154,627,165	105%	165,551,316	96%	128,378,174	96%	620,402,603	104%	49,498,411	51,700,217	
	心血管造影室	279,871,971	80%	266,940,466	80%	214,592,263	66%	204,407,689	87%	965,812,389	78%	103,408,487	80,484,366	
	手術-カテ室合計	620,578,049	97%	501,381,833	85%	465,613,955	73%	396,027,909	88%	1,983,601,747	85%	193,394,671	165,300,146	
総合計	728,517,910	97%	615,926,504	89%	586,689,482	78%	498,179,828	90%	2,429,313,524	88%	229,047,733	202,442,794		

経営企画室

■スタッフ紹介

室長 豊永 健

副主任 三木紗知世

科員 前岡瑞希, 藤澤かれん

■業務内容

当部署は、院内におけるコンピューター関連の業務を行う部署である。システムの導入から、稼働後のメンテナンス全般を行っている。

具体的には、システムに関する各種問い合わせ、サーバやクライアント、プリンタなどのハードウェアトラブル対応、ソフトウェアの不具合やマスタメンテナンス、ネットワークの管理、活動や病床機能報告などのデータ抽出作業、ホームページの管理を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

2019年7月より前任の六車室長から室長業務を引き継ぎ、新体制でスタートした。当面の目標としては、2013年より稼働している電子カルテシステムの次期ベンダー選定、部門仮想サーバの更新、電子カルテシステム更新に伴う各部門システムの見直しを進めていく。

7月19日に電子カルテシステムのレベルアップと南館電子カルテ系ネットワーク機器の更新作業を行い、無事に終了している。更新で回収した機器は老朽化したインターネット系のネットワーク機器と交換し、無駄なく機器を活用した上で安定した環境を整えられた。

アンギオのスケジュールをシステムで管理するために、手術管理システムであるORSYSを使用した管理方法が昨年度より検討されていたが、三木副主任を中心にORSYSのベンダーであるフィリップスや医師・看護師等関連する部署と調整を行い、大きな問題も無く11月より運用を開始することができた。

クリニカルパスを正しく運用するため、本年度より立ち上がったクリニカルパス委員会を中心にアウトカムの基準作成とパスの見直し、パスの運用方法の検討が行われた。今後もパスの利用促進が進められていくが、経営企画室としてパスの運用支援、パスの適用状況の確認やアウトカムの分析等、システム的なフォローを継続して行っていく。

電子カルテシステム更新については、富士通以外の電子カルテシステムの知見を得るため、医師、看護師とともに岸和田徳洲会病院(ソフトウェアサービス)と茅ヶ崎市立病院(NEC)のシステム見学を実施した。その結果、これまで知ることのなかった電子カルテシステムの活用方法や富士通を使用し続けることのメリット・デメリットなど、固定観念にとらわれることなく判断するための情報が少しずつ集まってきている。現行のシステム(GX)の保守が延長されたこともあり、各ベンダーの重症系システムやGXから他ベンダーへ移行した事例の評価、HXの現状など、各ベンダーのシステムを公平に評価するための情報収集を継続して行い、明石医療センターにとって最適な電子カルテシステムが導入できるよう、来期に電子カルテシステムの更新計画を策定し、ベンダーの決定を行う。

■今後の展望

今年度部門仮想サーバの更新を計画していたが、保守が2023年まで延長されたこともあり、電子カルテシステム更新のタイミングまで使用することとした。それによりPACS・生理検査システム等の容量枯渇が懸念されるため、対応方法を検討する。

健診業務はまだ紙運用のためシステム化の検討を進めているが、どのくらいの業務効率化が見込めるか、またシステム化できていないことでどの程度の損失がこれまであったのか等を調査し、システム化することのメリットを明確にした上で導入を進めていく。

ICUを拡張し特定集中治療管理料の引き上げが計画されているため、電子カルテ更新時にサーバ室を移転できるよう、管理科と協力して建築計画を進めていく。サーバ室移転時にはインフラ関係の見直しも必要となるため、この機会にIP電話の導入や、インターネット環境の整備も進められるよう、計画を立てていく。

電子カルテシステムについては現行システムの保守が2023年まで延長されたこともあり、改めて明石医療センターにとって最適なシステムは何か検討を進めていく。合わせて適正な端末台数の調査、システム更新時に見直しが必要となる文書等マスタの整理を進め、更新時の準備作業の負担軽減を図っていく。

医師卒後臨床研修

■明石医療センター臨床研修プログラム（改訂版）

(1) 研修プログラムの概要

1年次は3か月の総合内科・3か月の内科系診療科（総合内科以外）、6か月の外科系（麻酔科2か月、外科・救急科・心臓血管外科・整形外科各1か月）の必修科目の研修を行う。

2年次は1か月の産婦人科、小児科、精神科、地域医療研修（地域の診療所、夜間休日応急診療所）を行い、残り8か月は選択科目から選択し研修を行う。各研修医の希望を最大限に尊重したフレキシブルな研修スケジュール設定が可能となっている。

(2) 研修協力施設

地域医療研修：「■2019年度地域医療研修診療科」に記載
精神科研修：明石土山病院，明石こころのホスピタル，関西青少年サナトリウム

■2019年度臨床研修医

明石医療センターの2019年度の基幹型・協力型16名の研修医を表1に提示する。

■2019年度地域医療研修診療科

地域医療研修（1か月）では、1週間の救急車・夜間休日応急診療所の研修に加えて、地域診療所での研修を実施した。表2に掲示する。

■マッチング・研修医募集活動

【研修医募集活動】

- ・病院ホームページ，REIS・PMETなどの臨床研修病院紹介サイトでの広報
- ・病院見学
- ・神戸大学6年生の学外実習
- ・本院研修中の研修医から後輩たちへの病院紹介
- ・近畿地区臨床研修病院合同説明会（2月）
- ・兵庫県主催臨床研修病院合同説明会（5月）
- ・レジナビ主催臨床研修病院合同説明会（7月）
- ・総合内科個別実習
- ・第10回ホスピタリストカフェ開催（7月）

7月13日（土）参加者48名（院外26名，院内研修医

13名）で【レクチャー：重症感染症・アカッシー25・グループワーク・ケースシュミレーション】

ホスピタリストカフェに参加した6年生の学生18名のうち15名が当院の2019年度のマッチング選考試験（総受験人数21名）を受験し，6名がマッチングした。

2019年度を含めた過去5年間の病院見学・マッチング学生数などを表3に提示する。

第11回ホスピタリストカフェを2020年3月20日（金・祝）に行う予定であったが，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

■明石医療センター臨床研修の課題

(1) 研修プログラム

希望診療科を決定するにあたり，1年目で産婦人科・小児科を選択できるようにという希望があったため，2020年度のプログラムより，1年目から選択できるようにプログラムの変更を行った。2018年度課題としていた，精神科研修の受け入れ先として，関西青少年サナトリウムを精神科研修病院として追加した。

(2) 研修医

積極的に研修に参加しており，医学生の見学対応など意欲的に取り組んでいる。研修医の指導に関しては，診療科ごとに指導方法のバラつきがあるため，各科指導方法など情報共有し足並みをそろえる必要がある。研修医代表を各学年に設定し，研修医をまとめたり臨床研修管理委員会に参加し，研修の充実を図るための意見を述べるなどした。

(3) 基本的臨床能力評価試験の実施について

実施日：2020年1月20日（月）

結果：1年目の点数（440病院中155位，平均点29.89，偏差値51.92），2年目の点数（469病院中131位，平均点31.00，偏差値52.50）

2018年度の1年次臨床能力評価試験の結果と比べ，2019年度の2年次で成績が向上している研修医も見受けられるが，全体的に伸び悩み傾向にある。成績向上のためには，問題に応じた指導方法が望まれる。

■今後の展望

2020年度より、オンライン臨床教育評価システムEPOC2を導入し研修を行う。今まで研修医手帳を使用していたが、導入により経験症例や指導医評価などシステム上で確認することができる。新たに多職種評価など取り組む項目があるので、職種間での連携が必要となる。

2021年度には、初期研修医募集定員を医師確保対策重点推進圏域に配慮した配分とするため、例年7名で募集を

行っていたところ、6名へ減員となる。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、見学や説明会が行えない状況が続いており、Microsoft Teams を利用したWEB説明会を行うなど、見学や説明会に代わる取り組みを行っているが、医師臨床研修マッチングに少なからず影響があると考えている。来年度もフルマッチするよう、力を入れて取り組んでいく。

表 1. 臨床研修医〔基幹型・協力型〕

		氏名	卒業年	出身大学	研修後進路
1年次	基幹型	吉武壮生舜	19	神戸大学	
		増田佳純	19	金沢大学	
		岡田 翼	19	高知大学	
		橋本宏之	19	神戸大学	
		吉田安杏	19	神戸大学	
		川村達也	19	三重大学	
		森口峻滉	19	神戸大学	
	協力型	久保田義朗	19	香川大学	
		立花崇明	19	神戸大学	
2年次	基幹型	長 陽二郎	18	和歌山県立医科大学	明石医療センター
		樺田高浩	18	弘前大学	北播磨総合医療センター
		尾本仁那	18	神戸大学	明石医療センター
		北爪麻衣	18	神戸大学	兵庫県立がんセンター
		胡 脩平	18	鳥取大学	高槻病院
		横田和斗	18	神戸大学	明石医療センター
		白井佳祐	18	神戸大学	姫路赤十字病院

表 2. 地域医療研修診療科

		診療所①	診療所②
9月	樺田	石田内科循環器科	朝原クリニック
	胡	尾松医院	そが内科クリニック
	白井	朝原クリニック	江本内科循環器科医院
10月	長	石田内科循環器科	そが内科クリニック
	北爪	平崎内科循環器科クリニック	石田内科循環器科
	尾本	王子クリニック	平崎内科循環器科クリニック
	横田	尾松医院	王子クリニック

表 3. 病院見学者数・マッチング参加学生推移

(単位:名)

年度	病院見学者数	マッチング参加数	マッチ数	定員
2015	90	20	7	7
2016	85	18	7	7
2017	73	16	7	7
2018	65	21	7	7
2019	72	21	7	7



明石医療センター 附属看護専門学校

〒674-0063

明石市大久保町八木 743 番 33 号

URL: <https://www.amc1.jp/school/>

理念

明石医療センター附属看護専門学校は、高度多様化する保健医療福祉ニーズに対応しうる、科学的かつ人間的な看護を行える人材を育成する。

施設概要

■学科・1 学年定員/看護学科（全日制 40 名）

2019 年度総括

本年度は、新副学校長を迎え新たなスタートを切った。学校運営体制の強化策として、学生募集に係る広報コンテンツの刷新、及び学校自己評価と関係者評価の体制強化を計画したが、計画後半の下半期に発生した新型コロナウイルスの感染防止対策により、ほぼ 2020 年 1 月以降に計画した行事が延期又は中止となり、資料配布するにとどまったことは残念であった。

また、看護基礎教育・制度改革への対応については、2022 年度のカリキュラム変更のワーキングを活性化し実務を開始するとともに指針とすべく情報収集に努めた。さらに学生の弱点を把握した国家試験対策を実施、受験者 43 名中 42 名の看護師国家試験の合格者を輩出することができた。

臨床現場と学校のユニフィケーション強化のため、教員と臨床現場の情報交換を今まで以上に密にし、指導者の体験をテーマに学生の習熟度を把握しながら連携指導が実施できたことで、今後の臨床指導の道筋が得られた。

2019 年度活動状況

- 4 月 始業式，入学式，防災研修（講話），学生健康診断
- 5 月 看護の日記念行事
- 6 月 野外研修（1 年次），基礎看護学実習Ⅱ（2 年次）
- 7 月 実習指導者会学習会
- 8 月 夏季休業，オープンキャンパス
- 9 月 特別講演，学校祭（オープンキャンパス併催）
- 10 月 戴帽式（1 年次），関西看護学生研究大会（2 年次）
- 11 月 基礎看護学実習Ⅰ（1 年次），防災訓練，推薦・社会人入試
- 12 月 統合実習（3 年次），冬季休業
- 1 月 成人の日記念行事，一般入試，国家試験特別講義（3 年次）
- 2 月 看護師国家試験（3 年次），領域別実習（2 年次）
- 3 月 卒業式，春季休業（臨時休業含）

2020 年度に向けて

創立 18 年目を迎え安定した学校運営が実現しているが、ここ数年受験者数の減少に苦慮している。次年度は意を決して、従来の学則施行規程を見直し、学校の質向上と受験者増を目指した改革、更にカリキュラム変更に対応し方向付けを推進した事業計画を策定したい。また、新型コロナウイルスの影響下で、如何なる学校運営が必要なのかを見極めながら、新年度に臨みたい。

明石医療センター附属看護専門学校

■スタッフ紹介

学校長	小管浩文	副学校長	木村幸子
教育主事	水口正子	事務長	石井博茂
実習調整者	小林禎次子	学科調整者	森 里香
専任教員	玉木佳子	専任教員	堀 真奈美
専任教員	今瀬立子	専任教員	楠本奈巳
専任教員	嶋田理絵	事務員	土井友紀奈
事務員	藤原仁美	図書司書	原野昌子

■業務内容

全日制 3 年課程 1 学年 40 名の定員である。2019 年 4 月に 17 回生 44 名が入学、2020 年 3 月には第 15 回卒業生 43 名が卒業、第 15 回の卒業生にて輩出した看護師は 564 名となった。また、第 109 回看護師国家試験に 43 名が受験し、42 合格という結果であった（表 1）。

今期の目標は、①学生募集における学校情報の更新、②学校評価の継続と今後の方向性検討、③新カリキュラム構築に向けた情報収集と具体的作業の開始、④学生の個別学習能力の把握による学習指導、⑤実習要項に準じた臨床との協業実践の実施を掲げ、業務を遂行した。

■2019 年度のトピックス・実績

学生募集のため、学校案内を更新し同時にホームページも刷新したことで、保護者及び受験希望者への情報提供が密になったとともに、推薦・社会人入試受験者数及び一般入試の受験者数は前年並みの受験者人数となった（表 2）。

今年度より画策した保護者会にて多くの意見を聴取し、学校の自己点検・自己評価（図 1）、と保護者会を基軸に関係者評価を経て、次期の学校運営に役立てる予定であったが、新型コロナウイルスの感染防止対策により、保護者会が 2 回しか開催できず、アンケートの回収と資料等の配

布にとどまったが、保護者会、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会実施までの一連の流れが構築できたものと評価している。

2022 年度の新カリキュラム移行への実務を開始し、昨年度に立ち上げた、教育課程ワーキング・カリキュラム会議も定期的実施しつつ、内外の関係研修に参加し情報収集に努め、教員全体のレベルアップが図れた。

国家試験対象者への対策として、個々の学生の弱点を把握し教員の情報を集約し強化策を検討、第 109 回看護師国試験に臨んだ。

また、良好な学生指導を実践するため、臨地実習指導者と学校教員が協業し、学生及び指導者の育成に活用できるテーマを設けて実践してきた。内容は、指導者が実際に体験した事例を通してその思考過程から学生が看護過程の学びを得ることができ、指導者らは学生の習熟度を測りながら、指導教育を再考できる機会が得られ双方有意義な連携ができた。

■今後の展望

開校から 18 年目となり、経年による老朽化対象物（一部消耗・破損及び法定交換期日を迎える建築物や付帯設備、ICT 機器、教具等）を洗い出し、当年度予算にて対応する予定措置と、次年度以降にて対応すべき措置を顕在化させ、刷新、更新、修理などに分類し今後、経年と老朽度合いを計り、優先順位を付して対処することとした。また、カリキュラム変更への下準備をしながら、学校の質向上のための手続きを推し進めることとした。

また、2020 年に入り新型コロナウイルスの感染防止対策で、様々な学校運営及び授業方法の見直しが求められており、国が示唆する遠隔授業への設備投入を推進することを喫緊の課題として推進していくことを画策している。

表 1. 看護師国家試験受験結果

回生 (国家試験回)	年	合格者人数	本校合格率	全国合格率	備考
11 (105回)	2016	42	100%	89.4%	
12 (106回)	2017	39	98%	88.5%	
13 (107回)	2018	45	100%	91.0%	既卒者1名, 合格
14 (108回)	2019	39	100%	89.3%	
15 (109回)	2020	42	97%	89.2%	

表 2. 入学試験応募者・受験者数及び入学状況

年度 (回生)	入試方法	応募者総数	欠席者数	受験者数	合格者数	合格率	補欠合格者数	合格辞退者	入学者		
									合格者	補欠合格者	計
2020 (18)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		42
	公募推薦	40	0	40	12	30%		0	12		
	社会人	17	0	17	2	12%		0	2		
	一般一次	65	11	54	40	74%		-			
	一般二次	0	0	40	23	58%	5	3	20	1	
	合計	129	11	118	44	37%		3	42		
2019 (17)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		44
	公募推薦	33	0	33	14	42%		0	14		
	社会人	18	2	16	2	13%		0	2		
	一般一次	77	7	70	44	63%		-			
	一般二次	44	0	44	26	59%	5	5	21		
	合計	135	9	126	49	39%		5	44		
2018 (16)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		42
	公募推薦	26	0	26	11	42%		0	11		
	社会人	23	2	21	5	24%		0	5		
	一般一次	93	10	83	58	70%		-			
	一般二次	58	2	56	26	46%	4	7	19		
	合計	149	14	137	49	36%		7	42		

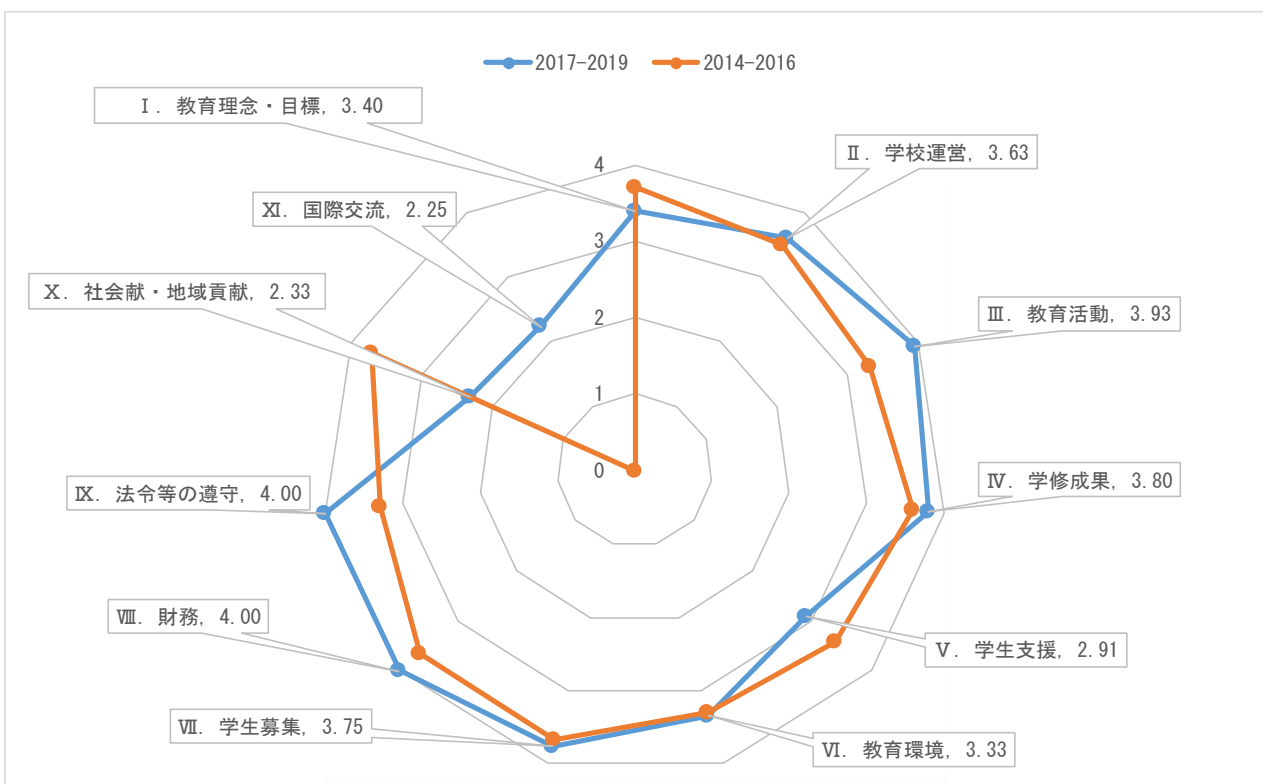


図 1. 学校自己点検・自己評価採点グラフ

2017 年度から 2019 年度と 2014 年度から 2016 年度までの平均値比較

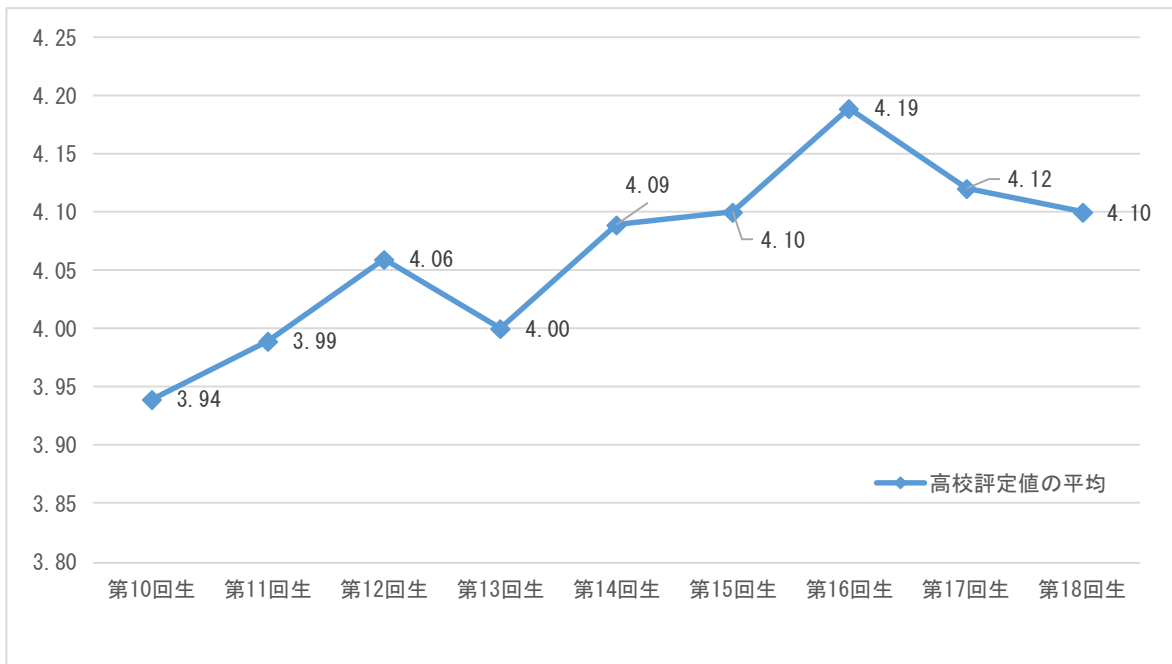


図 2. 過去 9 か月入学時高等学校評定値の変遷



井上病院

〒564-0053

吹田市江の木町 16 番 17 号

URL: <https://inoue.aijinkai.or.jp/>



理念・基本方針

<理念>

・進化する医療を究め社会に貢献することを使命とする

<基本方針>

- ・腎臓病とその合併症の専門的医療を牽引する
- ・生活習慣病対策に注力し地域医療に貢献する
- ・高齢者が安心して暮らせるサービスを提供する
- ・患者・家族に寄り添い、ともに立ち向かう医療・ケアを
実践する
- ・職員が誇りをもてる働きがいのある職場を形成する

施設概要

- 病床数/127 床 ■透析/200 床 ■診療科目/15 科
- 病院機能/開放型病院, 救急告示病院, 日本医療機能評価
機構認定病院, 協力型臨床研修指定病院

2019 年度総括

2019 年度は法人合併という一大行事を終え、愛仁会グループの一員として新たなスタートを切った。これまでの腎臓・透析医療といった専門的な医療に加え、社会医療法人として公益性の高い地域医療の提供という二本柱で、吹田地区で貢献することを使命として病院経営に努めた。

当院において診療機能強化及び経営実績の向上を図るため、「診療機能拡充プロジェクト」を始動し、リハビリテーション室を始め、各部署の拡充・移設に伴う改修工事を進め、2020 年 3 月には眼科、地域連携センター、リハビリテーション室の工事が完了し移設することができた。

さらに、専門医や看護師の補充、透析機器を始めとする医療機器の大幅な更新を行い、医療機関として最も重要な機能強化を図ることができた。

感染面では、2017 年 4 月に入院患者から VRE が検出されて以降、保健所及び感染対策専門家と連携し、職員一丸となり、手指衛生、個人防護服の適正使用、院内環境清掃・消毒、抗菌薬の適正使用などの感染防止対策を徹底した結果、2019 年 7 月を最後に新規の VRE 検出を認めず、同年 11 月 30 日に終息を宣言した。

年間の活動実績は、入院延べ患者数 38,564 名（前年比 104.5%）、外来延べ患者数 57,131 名（前年比 108.9%）、透析延べ患者数 91,841 名（前年比 103.7%）、手術件数は 757 件（前年比 112.5%）、全麻件数も 340 件（前年比 120.6%）と増加した。結果、年間の活動収入は、入院医業収入 1,893 百万円（前年比 104.7%）、外来医業収入 1,159 百万円（前年比 120.3%）、透析医業収入 2,905 百万円（前年比 102.2%）と伸び、その他医業収入を含め合計 5,959 百万円（前年比 106.1%）と好調な実績であり、経常利益は予算を大きく上回る実績であった。

2019 年度活動状況

- 4 月 辞令交付式、新入職研修、健康教室、院長講話
- 5 月 第 2 回健康教室、全体研修（医療安全管理）、中国非公立医療機構協会見学対応
- 6 月 健康教室、第 64 回日本透析医学会学術集会・総会、在宅療養支援病院届出、看護職員夜間 12 対 1 配置加算届出
- 7 月 上半期賞与全集、消防訓練、健康教室

- 8月 第69回日本病院学会, 全体研修(疾病)
- 9月 第93回大阪透析研究会, 全体研修(医薬品・医療機器), 腎友会主催勉強会, 健康教室, 上半期業務改善成果発表会
- 10月 第6回健康教室, 全体研修(ハラスメント, 感染対策), 井上腎友会総会, 第20回大阪病院学会, 第28回生花教室花展
- 11月 永年勤続表彰式, VRE終息全集, 第2回井上病院地域連携の集い, 全体研修(個人情報管理), 第25回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 第39回日本マグネシウム学会学術集会(主催), 近畿厚生局適時調査
- 12月 市民健康講座, 下半期賞与全集, 全体研修(疾病, 接遇), 健康教室, 2019年度保健所立入検査
- 1月 新年互例会, 健康教室, 全体研修(感染対策)
- 2月 全体研修(医療安全管理), 第10回透析運動療法研究会, 消防訓練, 健康教室, 2019年度吹田エリア合同懇親会・褒賞発表会
- 3月 ICLS講習会, 眼科・地域連携センター, リハビリテーション室移設

2020年度に向けて

2020年度は昨年度の活動を更に活発化させ、透析専門病院としての更なる高みへ「step up」していきたい。

診療面では、日本有数のレベルである透析医療を引き続き強化し、その予備軍である慢性腎臓病(CKD)や糖尿病の診療でもトップを目指して究めていきたい。また、2018年度から麻酔科において体制強化を図っており、今後、外科系手術の件数増加に努めていきたい。特に常勤医師が派遣される眼科や活動が軌道に乗ってきた泌尿器科はより一層の活動を期待する。

さらに、昨年から発足している各種プロジェクト(CKD・糖尿病透析予防・誤嚥性肺炎・SAS・骨粗しょう症・透析緩和医療)については、成果の確認を見定めなが

ら進めていきたい。また、2019年度に引き続き、「診療機能拡充プロジェクト」を遂行し、PDセンター、入退院サポート室、言語聴覚室の改修工事を進め、2020年4月に移設が完了し、今後更なる活動強化を期待する。特に、2019年度末には長年念願であったリハビリテーション室の拡張も実現し、初めて作業療法士を配置した。多職種連携を更に強め、入院期間の適正化を確保したい。

当院の特徴である学術面では、引き続き学会発表を奨励し、研究活動にも注力していきたい。また、2021年2月20日～21日には辻本院長を大会長として、第11回透析運動療法研究会を開催する。参加者にとって活発な議論や情報交換ができる質の高い研究会となるよう企画運営する。

2020年度の診療報酬改定では包括化されている薬剤料の値下げに伴い、透析技術料の引き下げもあり、長時間透析であるオーバーナイト透析や腹膜透析など質の高い透析を更に推進することでカバーしたい。また、病院全体として地域医療の強化を図り、サブアキュート・ポストアキュートの受け入れ応需率をより一層高め、増患対策を図ることは必須である。収入面を増加させることも必要であるが、支出の適正化を図るため材料費や一般管理費のコントロールを図り、利益確保に努めたい。また、今年度は働き方改革対応の本丸の年として、看護師・臨床工学技士を中心とするタスクシフト・シェアを推進していきたい。

感染面では、新型コロナウイルス感染拡大により、病院活動及び生活に大きな変化をもたらした。院内ではクラスターを発生させないため、職員一丸となり様々な感染予防策を講じている。コロナ禍が完全に終息する見通しはないと言われている中で、医療機関としての社会的使命や経営実績を鑑み、コロナと共存しながら適正かつ持続可能な医療を提供できるよう努める。

最後に、コロナ禍においても、職員一人ひとりが自発的に創意工夫、実践を行いやすいよう「開かれた雰囲気のある職場作り」を実践していきたい。

腎 臓 内 科

■スタッフ紹介

辻本吉広 : 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本透析医学会専門医・指導医

藤原木綿子 : 日本腎臓学会専門医, 日本透析医学会専門医

前田忠昭 : 日本腎臓学会専門医, 日本透析医学会専門医

一居 充 : 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本透析医学会専門医

園田実香 : 日本腎臓学会専門医

福永 慎 : 日本透析医学会透析専門医

■診療内容

(入院病棟)

・対象疾患: 腎炎・ネフローゼ症候群 (腎生検を含む), 急性・慢性腎不全, 血液透析や腹膜透析の導入, 透析患者の合併症

(腎専門外来)

火曜日・土曜日, 専門医による腎専門外来

・対象: 糸球体腎炎, 多発性のう胞腎, 慢性腎臓病

■2019年度のトピックス・実績

腎炎, ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と, 慢性腎不全患者の外来診療, 透析導入, 合併症加療を行った。

2019年は, 腎生検経験の豊富な医師を迎えたことで, 院内で腎生検を相談し実施, 診断が可能となり, 腎生検を13件施行した。生検結果は院内での検討のほか, 大阪市立大学医学部内分泌代謝病態内科学教室で開催される腎病理検討会に当院内科医師が参加し, 組織を供覧し検討した。

外来透析部門は, 透析患者 778名の管理を行った。そ

の中でもオーバーナイト透析が前年に引き続き好評を得ており, 20名と昨年より10名増加した。その他在宅透析5名, 腹膜透析43名の診療を行った。

透析患者の入院部門では, 透析導入45件, 透析療法の移行9件 (HD→PD, PD→HD), 透析患者の合併症入院782件であった。

特殊血液浄化として, LDLアフェレーシス1件, CHDF3件, 腹水濾過濃縮再静注法1件, 血漿交換4件を行った。

その他, 地域の人に, 慢性腎臓病を知っていただく啓蒙活動として, CKD公開講座を2回予定したが, コロナの問題で開催見合わせもでたため, 結果1回行った。

2019年は, 引き続きCKDチームの活動を行った。内科外来へ通院するCKD5の患者87名へ介入した。腎臓内科医師・看護師 (療法選択Ns・PDNs含む)・社会福祉士・栄養士・リハビリ・CE・事務で構成された多職種によるチームが, 診察時間外に患者に関わっている。時間をかけた均一な療法選択説明や社会福祉相談を行っている。

またCKDの進行を予防するため, CKD3-4を対象に腎臓リハビリを開始し, 23名に介入した。

■今後の展望

当院は腎臓に関して幅広く研修していただくために, 日本腎臓学会, 日本透析医学会, 日本糖尿病学会の教育施設として認定されており, 腎臓内科医もそろっている。今後も若手医師の育成を続けていきたい。

高齢化社会になっていく今後10年を見据え, 当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行い, ADL低下や通院困難を減らしていく。また保存時腎不全CKD3からのCKDチーム介入により, 腎不全進行抑制そのものにも力を入れていく。

循環器内科

■スタッフ紹介

常勤医 1名 高井栄治 1994年卒業

非常勤の循環器専門医 3名（大阪大学医学部 2名，2019年6月より大阪市立大学医学部 1名）

■診療内容

主に透析患者の循環器疾患に対して、循環器専門医として、入院、外来診療を行った。循環器合併症に際して、基幹病院と適切に連携を行った。

■2019年度のトピックス・実績

循環器外来受診患者数は延べ1,441名であった。その内訳は、移植腎患者75名、透析患者428名と、腎臓専門病院に特徴的な比率であった。

常勤医が受け持った、循環器入院患者は104名であった。

MRIによる冠動脈病変の精査を開始した。

■今後の展望

透析患者には、冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症など動脈硬化性疾患が高頻度で出現している。

虚血性心疾患では、無症候性心筋虚血が多く、急性冠症候群の発症には注意が必要である。

適切な時期に、心筋虚血、冠動脈病変の評価、治療が行

えるよう医療システムの構築を推進する。

MRIは、冠動脈石灰化の影響を受けずに血管内腔、血流の状態を調べることが可能であり、透析患者の冠動脈精査に有用である。

造影剤が慎重投与となり冠動脈CTが困難なCKD患者でもMRIは施行可能である。

2020年度は、50例を目標にしている。

大動脈弁狭窄症では、病態管理と基幹病院との連携が重要である。治療は、人工弁置換術が中心であり、適切な時期の判断が重要である。透析患者における保険診療の問題はあるが、TAVI治療も考慮して診療している。

透析患者での心房細動における抗凝固療法は、現状ワーファリンのみであるが、人工弁患者など以外では禁忌とされている。しかし、心内血栓、脳血栓塞栓症2次予防には必要であると考えている。出血性合併症の懸念があり、導入、管理は慎重に行っている。

血栓予防以外に、心不全や透析困難症回避の効用も併せてカテーテルアブレーション治療が期待され、基幹病院と適切に連携している。

透析患者だけではなく、入院、外来の非透析患者に対しても真摯に丁寧な診療を行っている。近隣基幹病院だけでなく、法人内連携を更に行っていく。

吹田、江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を、今後も強化していく方針である。

眼 科

■スタッフ紹介

眼科医 4名（常勤1名，非常勤3名）

検査員 3名

■診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している。

■2019年度のトピックス・実績

白内障手術や光凝固術のほか，硝子体注射治療も行っている。

視野検査	713件
白内障手術	96件
硝子体注射	24件
蛍光造影検査	3件
YAGレーザー	15件
レーザー光凝固術	特殊：2件 通常：2件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学からの非常勤医師とともに行っている。

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている。

■今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す。

糖尿病内科

■スタッフ紹介

2019年度は日本糖尿病学会認定教育施設として、研修指導医が2名（辻本吉広，土蔵尚子），専門医が3名（下村菜生子，木津あかね，宮部美月）在籍して臨床と研究に従事している。さらに1名（佐々木けやき）が専門医取得のための研修を行っている。糖尿病療養指導士として管理栄養士が2名，糖尿病看護認定看護師が1名，フットケア療養指導士が4名活動している。

■診療内容

糖尿病専門外来は毎日行う体制で，日本糖尿病学会指導医，専門医による糖尿病の診断・治療を行うとともに，外来糖尿病教室や糖尿病教育入院を担当する。さらに，地域医療を重要視し，糖尿病内科医師全員が他科と協力して一般内科の診断治療や救急対応の担当にも従事している。糖尿病合併症は，全身の合併症を診療する必要があり，他専門科と連携を行っている。糖尿病教育入院は，約1週間の入院期間中に医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，理学療法士，臨床検査技師とのチーム教育医療により，糖尿病の知識や自己管理の向上に寄与する。多様な要望に合わせ，注射手技の獲得，低血糖の対処法の指導など週末短期入院も行う。糖尿病性腎症は，早期の糖尿病性腎症から腎不全治療，透析導入まで一貫した治療が可能で，腎機能に合わせた血糖管理を行っている。フットケア外来は毎週1回開設しており糖尿病合併症管理料の算定ができています。地域の健康増進と疾病予防の目的のための健康教室を行い，糖

尿病領域の講義は4回開催され，医師，看護師，管理栄養士，薬剤師，理学療法士が担当した（表）。

■2019年度のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では，糖尿病の検査を行った人数は1,790名，薬物・注射療法を行った人数は年間711名，通院患者は月平均335名と毎年度徐々に増加している。透析部門では，通院透析患者の糖尿病患者293名のうち，薬物・注射療法を211名に行った。また糖尿病透析予防指導は，2年目を迎え登録者数は28名となり前年度より大幅増加となった。フットケア外来では37名に糖尿病合併症管理料の算定がなされた。一方，入院については，糖尿病の病名での入院は247名，うち糖尿病教育クリニカルパスの運用数は17件であった。

■今後の展望

依然として患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全，人工透析の原疾患として，その初期診療から保存期，透析導入までの切れ目のない医療の重要性は，繰り返し強調されるべきである。糖尿病は種々の血管病変，各種の悪性腫瘍，そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり，その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである。今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく，最良の医療を提供できる体制を維持していきたい。

表. 健康教室実績（糖尿病領域抜粋）

開催月	講義内容	講師・担当科	参加数
2019年5月	糖尿病について～不老長寿と糖尿病とのかわり～	木津あかね，辻本吉広	17名
	糖尿病治療の薬について	薬剤科	
2019年9月	糖尿病と糖質制限	下村菜生子，宮部美月	16名
	あなたはどのタイプ？ 肥満タイプにあわせた食事療法	栄養科	
2019年10月	糖尿病教室 運動で転倒予防しよう	リハビリ科	16名
2019年11月	世界糖尿病デーに考える糖尿病のこと	佐々木けやき，土蔵尚子	19名
	糖尿病患者さんの日常生活とフットケア	看護科	

消化器内科

■スタッフ紹介

2019 年度も 2018 年度と同様に、上部消化管内視鏡検査は大野恭太・下村菜生子が下部消化管内視鏡検査・嚥下内視鏡検査・内視鏡的治療・内視鏡的胃瘻造設術を担当し、胃瘻ボタン交換は大野恭太が担当した。胃瘻造設は辻本吉広・下村菜生子の協力の下に施行している。消化器専門外来は同じく大野恭太が担当した。

■診療内容

消化器外来は週 2 回、定期の上部消化管内視鏡検査は週 3 回、下部消化管内視鏡検査は週 2 回である。嚥下内視鏡検査は火曜日、あるいは金曜日の午後、胃瘻交換は月 2 回金曜日午後、内視鏡治療については必要時に随時施行している。非透析患者の消化器関連の入院患者は主として大野が担当していることも 2018 年度同様であった。

■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度の上部消化管内視鏡検査は 588 例であり 2018 年度 539 例に比べかなり増加した。また下部消化管内視鏡検査は 260 例で 2018 年度も 208 例よりも大幅に増加した。過半数が健診で便潜血陽性を指摘された患者であり、他院からの紹介も増加傾向にある。嚥下内視鏡検査は 8 例で 2018 年度の 7 例より微増に終わった。治療内視鏡としては消化管止血術が 19 例、大腸ポリペクトミーが 84 例、内視鏡的胃瘻造設術が 16 例、胃瘻交換が 33 例であり、摂食障害を来した患者の増加に伴い、胃瘻造設数が 5 割増しであった。大腸ポリペクトミーは大腸内視鏡検査の増加に伴って増加し、早期大腸癌の発見も 8 例に上った。

胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり、法人内の老健施設からの依頼が多かったが、他施設や在宅からの紹介も増加傾向にある。

■今後の展望

消化器外科の無い本院での消化器内科の活動には限界があることには変わらないが、本院で対応できるか否かの正しい見極めには対処できていると考える。特に維持透析中の患者で貧血を来した吐下血に対しての対応に努力しているが、出血原の発見ができないために、他院へ転送する症例もあった。抗血栓剤を内服している患者が多く、微細な病変から大量に出血するケースが多かった。嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて、ベッドサイドで被爆することなく容易に施行できる。これからますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価、嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドである割に増加していないが、2020 年の診療報酬改定で、NST 加算要件としてこの検査にインセンティブが付いたので、今後は増加が見込まれる。誤嚥性肺炎を当院で積極的に診療するプロジェクトが進んでいるので、更に症例の適応を広げたい。下部消化管内視鏡検査においては本院で検査が再開されて 5 年目となりリピーターの増加が検査数の増加に結びついている。消化器外科が無いことから、内視鏡検査・治療において事故を起こさない安全な対応を行うことが必須の条件となっている。これまでのところ大腸ポリペクトミー後の出血での緊急内視鏡検査は皆無であり、穿孔などのトラブルで他院へ緊急搬送するような事態は全く来していない。今後もこの安全な内視鏡を維持することに努めたい。

泌尿器科

■スタッフ紹介

2018年度より引き続き、常勤医師1名の診療体制となっている。

■診療内容

外来診療、入院診療及び手術加療を行っている。詳細は後述する。

■2019年度のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎、腎、膀胱、前立腺、陰囊）を

行っている。昨年度に引き続き、経直腸的前立腺生検、経尿道的手術、尿管ステント留置術、腎瘻造設術などを行っている。

また、昨年度に引き続き、腎腫瘍に関しては、腹腔鏡下手術も積極的に行っている。

2019年度泌尿器科手術件数を以下に示す。

■今後の展望

今後も前立腺生検、経尿道的手術や腹腔鏡手術を中心に更なる手術件数の上昇を目指したい。

表. 手術件数

(単位:件)

手術名称	件数
皮膚切開(長径10cm未満)	1
創傷処理(筋臓未達5cm未満)	1
膀胱腫瘍摘出術	2
外尿道腫瘍切除術	1
包茎手術(環状切除術)	3
精巣摘出術	1
陰囊水腫手術(その他)	1
精巣悪性腫瘍手術	1
経皮的腎(腎盂)瘻造設術	1
経尿道的尿管ステント留置術	24
経尿道的尿管ステント抜去術	2
膀胱結石摘出術 経尿道的手術	1
精索捻転手術(その他のもの)	1
精索捻転手術(対側精巣固定術)	1
膀胱悪性腫瘍術(経尿道・電解質溶液利用)	5
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用)	3
腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	8
総計	57

透析内科

■スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科医及び糖尿病専門医が中心となって、約 620 名の患者の透析回診を行っている。

■診療内容

当院には外来透析 200 床の透析ベッドがあり、常勤透析専門医が中心となって透析管理を行っている。

基本的に 1 名の患者に対してデータ回診医 1 名と透析管理医師 2 名で回診しており、複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている。

様々な透析合併症の早期発見を行うために、回診医の指示などにより各種アセスメントの充実、様々な指導が行われている。

■2019 年度のトピックス・実績

2018 年 9 月からオーバーナイト透析を開始した。2019 年は、オーバーナイト透析患者 13 名から 20 名まで増加した。また至適透析を勧め、臨床工学技士と連携し、オンライン HDF が、2019 年度 28.9%から 38.8%へ増加した。

また透析棟 6 階では、水素水使用による透析を開始し、疲労の改善が見られるか数値化して確認していく予定である。

感染管理については、全体研修を行い、透析室においてビニールカーテン廃止や消毒物品の適正化及び消毒液のエタブラスゲル使用状況を確認し、標準予防策を徹底した。

高齢化に伴い誤嚥性肺炎患者が増加し、透析患者でも入院が目立った。口腔ケアの重要性が言われており、透析通信で定期的な歯科受診が大切であると伝え、近隣の歯科受診紹介を勧めていく。

その他に 2020 年より入院透析患者の安定した食事摂取を確保し、病棟でのケアを安定して行うことを目的に、一部午後透析を開始する準備をしている。

■今後の展望

維持透析患者の高齢化により、これまでのような広域からの透析患者の集客が難しくなってきた。これまでは送迎サービスによる集患に頼ってきたが、近隣クリニックのほとんどが送迎サービスを行うようになっており、送迎サービスによる集患も厳しくなってきた。

また北摂地域は日本でも有数の腎臓内科医の多い地域となっており、地域基幹病院から保存期の状態で紹介されることが減少している。

以上の状況を踏まえて下記の取り組みを検討している。

透析患者の新たな集患を目的に、オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる。希望者があれば引き続き行えるような体制を構築していきたい。また当院の強みである医療と介護の連携をいかして、在宅医療としての腹膜透析診療の強化を行っていくため、内科外来での腎代替療法への取り組みに注力している。こちらも多職種が連携して、透析の療法選択を行った上で腹膜透析も選択できる環境が整ってきており、引き続き取り組んでいく予定である。

放射線科（診療部）

■スタッフ紹介

森本 章

応援スタッフ

読影：非常勤医師 4名

透析シャント PTA：常勤内科医師 1名

非常勤医師 4名

■診療内容

（画像診断）

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に、最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し、安全で最適な検査を提供し、撮影されたCT・MRIの検査報告書を速やかに作成するよう心掛けている。しかしシャントPTA治療の件数増加や緊急PTA増加でCT・MRIの検査報告書の即時対応が難しくなっている。2019年度はMRIのクエンチと装置入れ替えの影響で検査数が減少した。

（透析シャント PTA 治療）

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し、カテーテル治療を行っている。シャント血栓性閉塞治療も準緊急で予約外での対応を行っている。

院内だけでなく院外からの紹介も簡単に申し込めるシステムを構築し、数名の専属予約受付スタッフによる予約振り分けを行っている。

これまでは病棟ポータブルエコーと兼用で運用していたが、血管造影室にエコー装置を購入していただいた。2019年度はPTA治療の9割以上の症例をエコー下で行い、術者の被曝が低減した。

■2019年度のトピックス・実績

2018年度

CT	4,574件
MRI	1,921件
シャント PTA	1,036件

2019年度

CT	4,886件
MRI	1,719件
シャント PTA	1,162件

■今後の展望

2019年度は短期間に3回のMRIのクエンチを生じ、緊急避難的措置で1.5T MRIを更新していただいた。これからは放射線診断を通して透析医療・地域医療に貢献できるよう取り組んでいきたい。

2020年度の診療報酬改定でシャント PTA はこれまで非算定であった3か月以内のシャント PTAのうち閉塞・血流低下症例は3か月以内であっても1回限り算定可能となる。しかし保険点数自体が33%減少となるため、大幅な減収が予想される。2003年購入の血管造影装置の更新も視野に入れて、今後は更に症例を増やしていけるような体制を作っていきたい。

画像診断に関しては、読影の即時対応が年々難しくなっており、大阪市立大学放射線医学教室医局に日勤増員を依頼している。

麻 酔 科

■スタッフ紹介

2019年4月より、坂本 元主任部長と稲田拓治部長の2名体制で麻酔業務を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

1. 手術件数の増加

麻酔科管理症例数は、昨年度より52件増加し、380件であった。そのうち、透析患者は230件(60.5%)、重症に該当する患者は262件(68.9%)であった。全身麻酔症例は、昨年度より53件増加し、346件であった。全身麻酔症例の約80%に、エコーガイド下神経ブロックか硬膜外麻酔を併用した。

2. 診療報酬の増加

当日入院で手術を行う患者に対し、麻酔科術前診察を手術前日までに外来で行える体制が確立したので、麻酔管理料を加算できるようになった。2019年度からは、全曜日に麻酔科医が常勤するので、全ての症例で麻酔管理料を加算できるようになった。

3. 術後回復力強化の継続

従来から行っている肺保護換気の徹底による術後呼吸機能の上昇、絶食絶食時間の短縮による栄養、免疫力強化、早期離床を促し、回復促進を目指している。

4. その他

坂本主任部長が米国救急・集中治療領域のエコー資格認定試験 CCEeXAM (Special Competence in Critical Care Echocardiography) に合格した。

■今後の展望

1. 麻酔科マンパワーの強化

麻酔科医2名体制となったため、365日24時間いつでも麻酔を引き受けられる体制となった。1人麻酔科医による並列麻酔は2019年度より原則行っていない。一方で、外科系診療科の体制に変化がないため、大幅な手術件数の増加は期待できない。今後、外科系診療科医師の増員や新たな外科系診療科の新設が早急に求められる。2020年度の目標麻酔科管理症例数は、年間400件とする。

2. 臨床研究の充実

引き続き現在進行中のテーマは、“透析患者の術後除水量に関する研究”、“無換気麻酔導入法の検討”、“安全な迅速導入のための酸素投与法の研究”であり、今後は更に終末期に重要となる“透析患者の予後予測の研究”に着手していきたいと考えている。

3. 自己研鑽

今後も学術集会での発表及び論文の執筆を積極的に行う。学術集会の発表は、1人最低年1回以上を目標とする。

4. その他

当院主催の地域医療連携会や研究会などに参加し、近隣病院や開業医の先生方に、「井上病院では積極的に手術麻酔を行っている。」と周知され患者を紹介してもらえるように努力したい。

表 1. 麻酔方法別

(単位:件)	
方法	件数
全身麻酔	68
全身麻酔+硬・伝麻	278
伝達麻酔	19
その他	15
計	380

表 2. ASA PS (リスク分類)

(単位:件)	
分類	件数
1(健康)	18
2(軽症)	91
3(重症)	230
4(瀕死)	17
1-4E(緊急)	24

表 3. 年齢別

(単位:件)	
年齢	件数
~18歳	1
~65歳	101
~85歳	239
86歳~	39

外科

■スタッフ紹介

藤原一郎

福永 慎

■診療内容

- ・血液透析関連手術
- ・腹膜透析関連手術
- ・その他；鼠径ヘルニア，内痔核など簡単手術

■2019年度のトピックス・実績

今年度の手術件数は前年に比し微増であった。

今年の腹膜透析カニューレション（SMAP）の増加に驚く。

■今後の展望

私が当院に来て3年が経ち慢性的なアクセストラブル症例の治療が一通り完了した印象である。この3年間当院関連透析患者約1,000人のアクセスを維持するスタンスで治療を行ってきたが、既に当院の治療水準やキャパシティーは十分に確保されているので、引き続き近隣の新規透析クリニックのアクセストラブルの治療にも積極的に取り組む姿勢である。

当院透析患者，連携クリニックの高齢化はますます進み，個々の体予備能力や家族環境，透析環境などが多彩となってきている。患者ごとの状態を十分に見極め適切な手術治療を心掛けたい。

今年のSMAPの増加には驚く。内科専門医による透析導入時の血液/腹膜透析の選択や，高齢透析患者の終末期管理としての血液透析から腹膜透析への交代など，個々に対する細やかな配慮が行われている結果と考えられる。治療合併症には一層注意し治療継続に水を差さないように努力したい。

表1. 2019年度外科手術件数

今年度手術 297件

(単位:件)

AVF 112件(▲36)	造設	61	CAPD 47件(△25)	SMAP	23	
	再建	27		チューブ留置	1	
	瘤切除	4		出口部作成	15	
	静脈バイパス	0		出口部変更	0	
	バンデング	1		抜去	6	
	バンデング解除	0		腸管癒着剥離術, 固定	2	
	血栓除去	0		留置, 入れ替え	31	
AVG 72件(△7)	閉鎖	19	留置型Wルーメン 46件(△14)	抜去	15	
	造設	42		その他 20件(△1)	鼠径ヘルニア(腹腔鏡)	6
	バイパス	11			鼠径ヘルニア(切開)	0
	抜去	4			痔核切除	0
	置換	7			ジオン硬化療法	3
	血栓除去	8			CVポート	3
	閉鎖	0			虫垂切除	1
動脈表在化 0件(▲1)		0			腹壁癒着ヘルニア	0
				PTX	0	
				アテローム切除	3	
				その他, 創処置	4	

心臓血管外科

■スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科部長 谷村信宏

心臓血管外科専門医・修練指導者

日本脈管学会認定脈管専門医

日本外科学会指導医・専門医

日本胸部外科学会認定医（正会員）

ICD（インフェクションコントロールドクター）

日本フットケア学会認定フットケア指導士

日本下肢救済・足病学会認定師

近畿外科学会評議員

日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会，

日本静脈学会 など

■診療体制

主に末梢血管外科診療を行っているが、必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している。

■手術・血管内治療

月曜日：下肢静脈瘤硬化療法，局所麻酔下小手術

火曜日：全身麻酔下血管外科手術

水曜日：血管内治療

金曜日：血管内治療，全身麻酔下血管外科手術

緊急手術に関しては，随時対応している。

■活動内容及びトピックス

1. 患者数の推移

外来患者数は年ごとに増加していた。また，紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介が増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると思われる。入院患者数はやや減少していた。

2. 血管造影室使用状況（血管造影及び血管内治療）

下肢血管内治療は年々増加傾向であったが，今年度はやや減少していた。しかし，大阪府内でも有数の血管内治療実施施設となっていることには変わりはない。スタッフとしては，住友病院・高槻病院・大阪市立大学医学部附属病院からの非常勤医師だけでなく，放射線科 森本副院長を始め，放射線科及び看護部の多大な協力に感謝している。

3. 外科的手術症例の推移

手術に関しては，2019年度は昨年度と比べて増加した。

当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，外科的手術ではなく，血管内治療で対応することが多かった。しかし，当院では麻酔科のご尽力により，神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができ，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能である。これらの成績は，学会等でも積極的に発表しており，可能な限り外科的血行再建術に移行するように方針転換してきた成果が徐々に功を奏している。また血管の高度石灰化を伴った重症下肢虚血が多いため，必然的に distal bypass 手術や内膜摘除術が重要となり，当科での十八番でもある。全国的にも，重症例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである。

4. 脊髄刺激療法（SCS）の導入

麻酔科のご協力の下，慢性疼痛，特に下肢虚血による疼痛コントロールを目的に，脊髄刺激療法（SCS）を導入した。当院の患者のバックグラウンドから血行再建不能な症例も多く，潜在的な対象症例は多いのではないかと推測される。また，周辺地域に当該治療を行っている施設も多くない。残念ながら今年度も実施症例がなかったが，今後症例数を増加させるようにしていきたい。

■今後の展望

1. 院内スタッフ教育に今後も力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会等を主催して地域連携を深めたい。そのほか，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，更に関西血管外科倶楽部や OASIS（大阪重症虚血肢救済に対する集学的シンポジウム）等に参加して関西の血管治療医と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい。

2. 学会及び研究会等にて引き続き発表を行っており，愛仁会井上病院の知名度も上がってきている。今後も引き続き活動を広めていきたい。

3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり，他施設ではまねのできない部分である。この強みをいかし，今後も透析症例の重症下肢虚血に対して積極的に診療を行いたい。

4. 今後当院での診療拡大を図るべく，新たな人材確保にも留意したい。

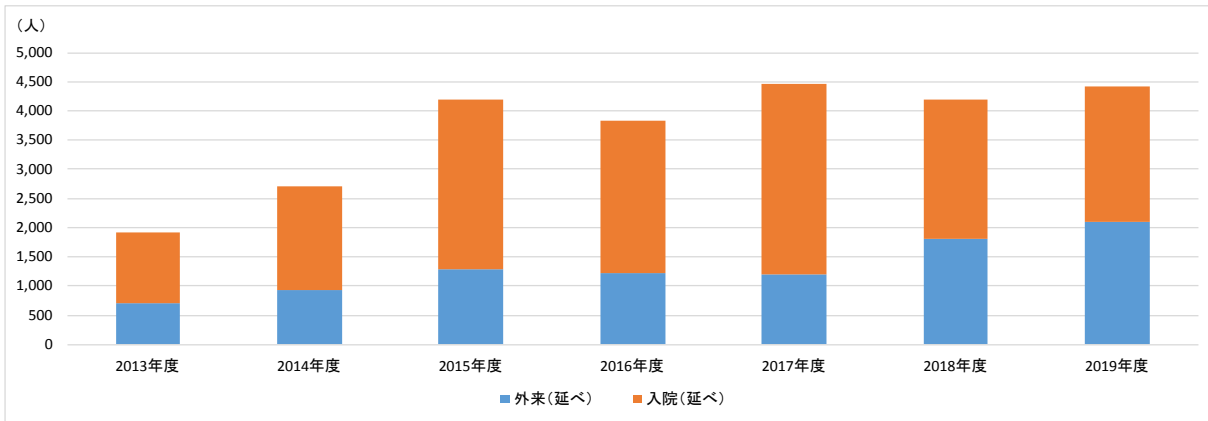


図1. 患者数の年次推移

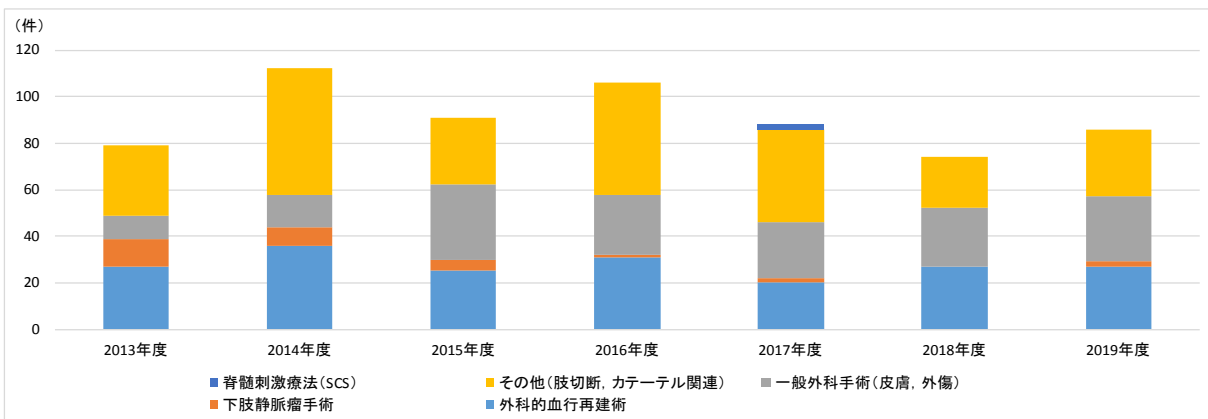


図2. 血液造影及び血管内治療の年次推移

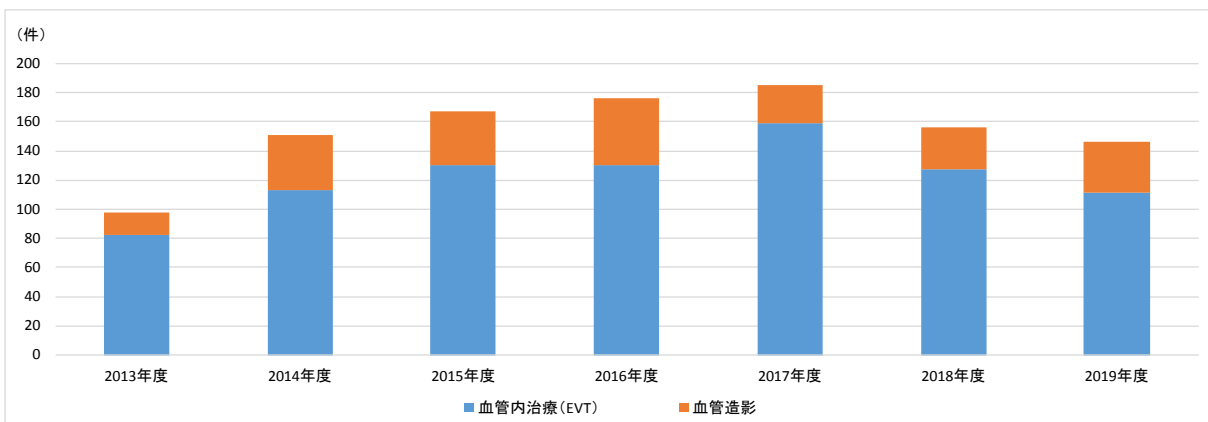


図3. 手術症例数の推移

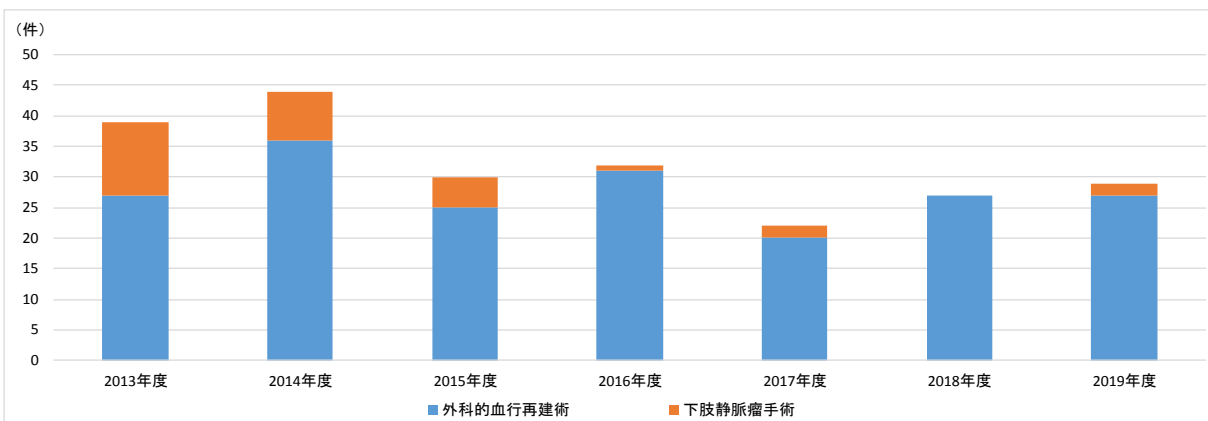


図4. 末梢血管手術症例の推移

リハビリテーション科

■スタッフ紹介

リハビリテーション科

担当副院長 佐藤宗彦

リハビリテーション科

科長 山口勝生

主任 松藤勝太

主任 田邊晃平

<理学療法士> 15名

<作業療法士> 1名

<言語聴覚士> 2名

<健康運動指導士> 2名

■診療内容

①地域包括ケア病棟の運営

②入院患者のリハビリテーション

③外来患者のリハビリテーション

④透析患者の“いつまでも元気にプロジェクト”

⑤法人内の医療・介護施設と一体化したリハビリテーション運営

■2019年度のトピックス・実績

①2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Iを取得した。開設以来、PTの山崎勇人を中心として順調に運営している。

②透析患者の健康寿命延伸のため、“いつまでも元気にプロジェクト”という、健康度チェック・生活運動指導を行っている。

③誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として、入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている。研修を受けて、吸引実施資格取得したPT4名、ST1名がおり、プロジェクトに貢献している。

④腎臓リハビリテーションを行っている。CKDの患者の治療を、リハビリテーションという面からもサポートしており、重要な役割を果たしている。

■今後の展望

①2020年4月から作業療法士の確保・環境整備により、PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成できる。それにより疾患別リハビリテーションの施設基準が上がり、脳血管・廃用症候群がⅢからⅡとなるので、スタッフのモチベーションという点からも、収益の点からも、大きな進歩となる。

②2020年4月からリハビリテーション室が従来の2倍の広さとなり、窓も大きく、明るく広いリハビリ室となる。さらに3階に移動することにより、病棟からリハビリ室への患者移動の利便性が大きく向上する。

③地域包括ケア病棟を更に発展させる。具体的には、様々な部署との連携・家庭訪問などの積極の実施等により、稼働率100%を達成し、在宅復帰率70%以上をキープする。

④透析患者の健康寿命延伸という目的に対し、リハビリテーション科として、運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から、三位一体の最大限の貢献を行う。臨床研究も更に推進していく。

⑤腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として、それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく。

⑥病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり、言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する。胃瘻造設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す。実績で示した吸引実施資格取得したPTを増やしていく。

⑦愛仁会グループ施設の力添えもあり、リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも、年々充実してきている。新たな仲間も増えお互い切磋琢磨している。モチベーションの高いスタッフが、三位一体となり、明るく広くなったリハビリ室をいかし、ポテンシャルを最大限に発揮していきたい。

リウマチ科

■スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長

佐藤宗彦

日本リウマチ財団登録ケア看護師 3名

■診療内容

関節リウマチ患者に対する、投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

①当院では、約 450 名の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を行っており、そのうち約 300 名に生物学的製剤・JAK 阻害剤を使用している。バイオシミラーを含む 9 種類の生物学的製剤、3 種類の JAK 阻害剤を患者の症状に応じて、適切に使い分け使用している。

②学術的には、講演が 47 件であった。講演は、市民公開

講座 6 件、医師・メディカルスタッフ向け 41 件であった。

講演を聴かれて当院を初診した患者、また医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった。

■今後の展望

①北摂の関節リウマチの拠点病院になるように、500 名の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を目指していく。

②リウマチケアナース、薬剤師、リウマチ科に従事する事務職員など、モチベーションの高いスタッフに恵まれており、“リウマチグループによるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として、臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく。

③医療経済的にも、バイオシミラーなども導入し、永続的な高品質の医療を追求していく。

整形外科

■スタッフ紹介

整形外科担当副院長 佐藤宗彦

■診療内容

①透析整形外科, ②関節疾患, ③脊椎脊髄疾患, ④外傷・骨折, ⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている。

それぞれに対し, 保存加療・手術加療を行っている。

■2019年度のトピックス・実績

I : トピックス

2019年9月より高槻病院の平中崇文副院長を招聘し, 膝専門外来・人工膝関節手術を開始した。

2016年5月からの地域包括ケア病棟の開設並びに2018年1月からの地域包括ケア病棟の施設基準I取得に伴い, 様々な病院からの患者を受け入れ, 入院リハビリテーション加療を行った。

II : 実績

①手術: 件数は月平均15.1件であった。2019年9月より高槻病院の平中崇文副院長を招聘し, 人工膝関節手術をしていただいている。手術時間も驚くほど短く, 出血も少量で, 侵襲も少なく, 患者満足度の高い手術である。平中副院長のご尽力により2019年度は前年に比べ人工膝関節手術がほぼ倍増した。

②入院: 1日平均入院患者数は, 34.9人であった。地域包括ケア病棟が開設された後, 入院患者が増加している。

③外来: 1日平均外来患者数は, 73.8人であった。2017年12月よりDXAが導入され, 骨粗鬆症外来をスタートし, 骨粗鬆症が著しく増加した。2019年3月中旬から骨粗鬆症の画期的な薬剤であるロモソズマブを導入し治療を行っている。その結果として, 透析患者の骨折の手術は減少した。これは透析患者の健康寿命延伸・運動機能維持に貢献していると考えられる。

④学術: 学会・研究会発表が各1件, 講演が10件であった。講演は, 市民公開講座1件, 医師メディカルスタッフ向け9件であった。講演を聴かれて当院を初診した患者, また医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった。

■今後の展望

①手術: 救急を始めとし, 前記全ての分野における前進。特に平中崇文先生のお力をお借りしたハイレベルな人工膝関節手術, 並びに当院の従来からの特色である脊椎手術を多くの患者に提供していきたい。

②入院: 地域包括ケア病棟の更なる充実を始めとした, 稼働率の上昇。

③外来: 救急を始めとし, 全ての分野における前進。特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進。

④学術: 透析整形疾患の研究。一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進。骨粗鬆症研究の推進。

表. 手術症例

症例	件数	症例	件数
手術症例(うち透析患者)	181(61)	脊椎外科	15(7)
関節外科	89(11)	頸椎	4(3)
人工関節 股関節全置換術	6(1)	胸腰椎	4(1)
膝関節全置換術	41(3)	腰椎	7(3)
膝関節再置換術	1	外傷外科	12
肘関節全置換術	0	骨折整復固定術	12
人工骨頭挿入術 股関節	14(4)	腱縫合術	0
股関節周囲骨折整復固定術	14(3)	切断術	14(13)
肩腱板手術	2	大腿	6(5)
膝肩関節滑膜切除(鏡視下含む)	4	下腿	6(6)
関節形成術	2	足趾	0
その他	4	断端形成	2(2)
関節リウマチ足	1	抜釘術	3
手の外科	34(28)	脱臼整復術	10(1)
手根管症候群	22(20)	その他	4(1)
バネ指	11(8)		
腱縫合・移行	1		

看護部

■スタッフ紹介（2019年4月1日付）

<看護職員数> 224名

看護師 174名 常勤：156名 非常勤：16名

准看護師 16名 常勤：14名 非常勤：2名

看護助手 34名 常勤：24名 非常勤：10名

<平均年齢>

看護師：41.3歳 看護助手：51.2歳

■2019年度 看護部運営目標に対する活動内容

<key word>思いやりの心・共育・連携・創意工夫

1. 専門性の高い看護サービスの提供

- ・足病変予防及び早期発見：フットケア指導士による出張フットケアの定着
- ・倫理カンファレンス定着に向けての取り組み（ACP：アドバンス・ケア・プランニング浸透への取り組み）
- ・急変に対するアセスメント能力及び対応能力向上：チームドラゴンによる研修開催
- ・誤嚥性肺炎プロジェクト及び看護の質委員会による誤嚥性肺炎予防強化
- ・認知症ケア体制強化：認知症ケア研修の開催
- ・褥瘡予防の徹底：自動体位変換マット2台購入
- ・患者主体の治療選択を実現する体制強化：CKDチームによるCKD患者への早期介入、高齢者血液透析患者のPD移行に向けての取り組み（訪問診療・看護介入増加）
- ・腎臓リハビリテーションの推進に伴う看護の役割拡大

2. 自律した専門職業人の育成

- ・認定看護師2名合格（糖尿病看護、透析看護）
- ・特定看護師1名合格（創傷関連、栄養・水分）
- ・看護管理者研修：セカンド1名、ファースト2名修了
- ・実習指指導研修：1名修了
- ・eラーニング活用推進：アクセス回数35.1%⇒61.2%
- ・法人グループ内からの研修（応援）受け入れ体制整備

3. 地域包括ケアシステムへの対応

- ・入院時スクリーニングシート活用による入退院システム強化：お伺い用紙による情報共有（外来と病棟連携）
- ・多職種連携によるカンファレンス・記録の充実：CKDカンファレンスの定期的開催
- ・PDショートステイ受け準備：介護老人保健施設つくも

4. 医療安全・感染対策の強化

- ・感染対策に強い職員の育成
- ・VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）11月30日終息宣言
- ・転棟・転落防止強化：用途に合わせた離床センサー購入

5. 経営参画

- ・急性期看護職員夜間配置加算12対1取得（2019.4.1～）
- ・地域包括看護職員夜間配置加算取得（2019.7.1～）
- ・オーバーナイト患者増加：12名⇒20名
- ・長時間透析（4時間以上）増加に向けての取り組み
- ・PD患者数増加：37名⇒43名

6. ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- ・時間内業務終了を目指した業務改善
- ・有給休暇取得推進（5日間以上/年）：平均9.4日
- ・離職率：8.9%⇒5.6%

■院外発表

表1に示す。

■今後の展望

2018年から発足している各種プロジェクトのうち、CKD・糖尿病透析予防・透析緩和医療に関して、認定看護師（糖尿病看護・透析看護）、腎臓病療養指導士、特定看護師（透析関連・創傷関連）の更なる活躍を期待する。

倫理に関しては、ACP（人生会議）の考え方に基づいた患者・家族への関わりが行えるよう取り組んでいく。特に、高齢者の血液透析患者について、多職種にてQOLの観点でディスカッションの場を設け、PDへの移行についても積極的に検討していく。

病床稼働率に関しては、90%以上必達を目指し、拡充された入退院サポート室・PD室の有効活用ができるようにしていく。

育成面では、施設の特徴を踏まえたキャリアラダーを見直し、運用できるよう進めていく。また、目標管理においては目標面接重視しながら、職員一人ひとりが達成感を味わえ、やりがいに繋げられるようにしていく。

副看護部長2人体制となるため、科長・主任・副主任の看護管理能力を更に発揮できるよう、コンピテンシーを用いながら課題に取り組んでいきたいと考える。

表 1. 院外発表

学会名名称	発表演題名	開催月日	開催都市	所属	発表者
第69回 日本病院学会	長期腹膜透析患者が体験した血液透析移行に関する思いのプロセス	8月1日・2日	北海道	透析棟6階	井本芙美
第93回 大阪透析研究会	当院におけるオーバーナイト透析の現状	9月8日	大阪市	透析棟3階	佐藤祐子
第20回 大阪病院学会	音楽により外界からの聴覚刺激を遮断したリラクセス効果の検証	9月27日	大阪市	5階病棟	片岡珠美
第25回 日本腹膜透析医学会	長期PD患者のHD移行について考える ～PDを継続したいと願う患者と家族を支援する～	11月23日・24日	広島市	CAPD/訪問看護	上田恵利子
第25回 日本腹膜透析医学会	長期PD患者が体験したHD移行に関する思いのプロセス ～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ法を用いて～	11月23日・24日	広島市	CAPD/訪問看護	山崎由美
第25回 日本腹膜透析医学会	慢性腎臓病(CKD)患者の療法選択を支えるチーム医療	11月23日・24日	広島市	CAPD/訪問看護	竿谷留美

腹膜透析（PD）・訪問看護

■スタッフ紹介

外来診察担当医師：4名（訪問診療担当医師：1名）

看護師：4名

■業務内容

<外来診療>

診療曜日・時間：火曜日～土曜日 10時～12時

対象患者：在宅透析患者（PD・在宅血液透析）

診察内容：採血・各種検査・診察・内服処方・注射等

<慢性腎臓病（CKD）患者への透析療法選択説明>

2018年度より多職種（医師・看護師・栄養士・理学療法士・臨床工学技士・薬剤師・MSW 他）による CKD カンファレンスを開始し、慢性腎臓病の患者に対する生活指導や、療法選択支援を行っている。腎臓病療養指導士と連携し、腹膜透析に関する具体的な療法選択説明を実施し、多様な患者の PD 導入が増加した。

<PD 導入期患者指導>

PD 療法を選択した患者に対し、バッグ交換や出口部ケアなどの技術指導や、日常生活における自己管理方法、合併症やトラブル発生時の対処方法などを指導している。高齢化が進み、患者自身が PD 管理を行うのが困難なケースが増加しているため、家族や訪問看護師、高齢者施設スタッフなどに向けた導入期指導も実施している。

<訪問診療・訪問看護>

通院が困難な高齢の PD 患者に対し、主治医と看護師による訪問診療（採血・出口部診察・注射・内服薬処方 等）を実施している。また、看護師による退院後訪問指導や介護保険を利用した訪問看護を行い、バッグ交換や出口部ケアの方法を在宅で継続指導できるようになった。

■2019年度のトピックス・実績

・PD 患者数：43名（前年度：37名）

・透析療法選択説明件数：38件/年（前年度 34件）

・PD 導入患者数：15名/年（前年度 3名）

・PD 患者訪問診療実施件数：10件/年（前年度：24件）

・訪問看護実施件数：123件/年（前年度：68件）

<学会発表>

○第25回日本腹膜透析医学会学術集会（11月23～24日）

「慢性腎臓病（CKD）患者の療法選択を支えるチーム医療」
発表：筈谷留美

「長期 PD 患者が体験した HD 移行に関する思いのプロセス ～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ法を用いて～」
発表：山崎由美

「長期 PD 患者の HD 移行について考える
～PD を継続したいと願う患者と家族を支援する～」
発表：上田恵利子

<地域施設向け 勉強会開催>

○訪問看護ステーション看護師対象 PD 勉強会

2019年12月9日（月）開催

参加施設数：5施設（参加者：8名）

■今後の展望

数年前まで PD 療法は、社会復帰を目指す患者や、自立して治療を管理できる患者の導入が多くみられたが、高齢化が進むにつれ在宅医療として何らかの支援を受けながら実施するケースが増加している。今後は、病院の中だけではなく、地域の高齢者施設や訪問看護ステーションと連携したサービスの提供を行う必要がある。また、様々な方法の透析治療ができる腎専門病院の中で、PD 療法のメリットを最大限いかせる体制を整えていきたい。

薬 剤 科

■スタッフ紹介

科長：榎屋根佳子 主任：倍味亜矢子 副主任：足立哲也
薬剤師：中川典子，佐武喜美子，高岸ひろみ，岩田亜里，
若林亜希子，川口祐司，市橋亜季 事務：久保ひとみ

■業務内容

【病棟業務】地域包括ケア病棟含む 3 病棟に 1 名ずつ病棟担当薬剤師を配置，持参薬預かりから定期薬・臨時薬のセット・配薬，指示変更から退院時指導まで行っている。指導記録は服薬システムに記載し電子カルテに送信，薬剤管理指導料算定時以外でも薬剤科内や他職種との情報共有が必要な場合は記載している。

【外来業務】リウマチ生物製剤は投与量・投与間隔・採血データチェックなど薬歴管理を行い，月平均 110 件の院内処方・予約注射・当日払出しを実施している。

【医薬品管理】高額注射剤 111 品目（購入価格の 70%）の全部署月末棚卸を実施し，診療支援科と連携し調剤・請求数のチェックを実施している。

【チーム医療】感染防止対策チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）：特定抗菌薬（広域抗菌薬と抗 MRSA 薬）の使用に際して届出制をとり，電子カルテにて使用届を確認後に薬剤の払出しを実施，未届や培養未提出の場合は医師へ連絡している。週 1 回のカンファレンスにて，特定抗菌薬使用患者や血液培養陽性患者において，抗菌薬の選択・必要性について検討，内容は主治医にフィードバックし適正使用に努めている。

栄養サポートチーム（NST）：回診準備は栄養治療実施計

画兼栄養治療実施報告書に輸液の組成計算や抗生剤のほか食欲不振の原因となり得る薬剤（抗精神病薬や抗うつ病薬）を確認・記載し，週 1 回 NST 回診を行っている。

各カンファレンス内容は薬剤科にて情報共有している。その他，透析緩和ケア，骨粗鬆症，糖尿病，腎臓病など各チームにて活動している。

■2019 年度のトピックス・実績

入院業務の効率化のため多職種院内ワーキングを実施，入院時間を各 30 分早め予定入院患者の初回面談・持参鑑別をスムーズに行い入院業務の効率化を行った。病棟薬剤業務実施加算件数（昨年度比 111.6%）薬剤管理指導業務（昨年度比 123%）ともに増加した（図 1）。

病棟薬剤業務実施加算算定に必要な病棟業務日誌を改訂，選択項目を増やし 15 分刻みで記載。また同ファイル内にプレアボイド報告書シートを設置し，電子カルテを参照し入力がしやすくなり報告件数が増加した。プレアボイド報告，疑義照会記録，業務時間集計は月ごとにファイリングし薬剤科内で共有している。

■今後の展望

病棟稼働に合わせた薬剤師配置，地域包括ケア病棟における業務の見直しを行う。業務日誌を分析し，薬剤科の業務分析や個人の時間管理（タイムマネジメント），新人教育にも活用する。チーム医療における薬剤師の役割から，個人のスキルアップや専門資格の取得を目指す。

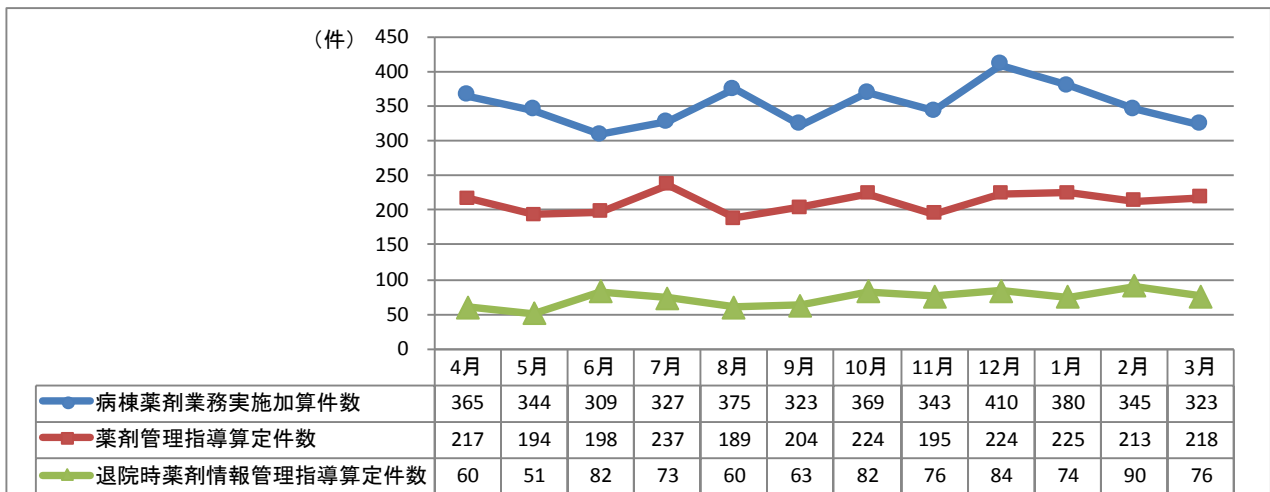


図 1. 病棟薬剤業務（急性期病棟）算定件数

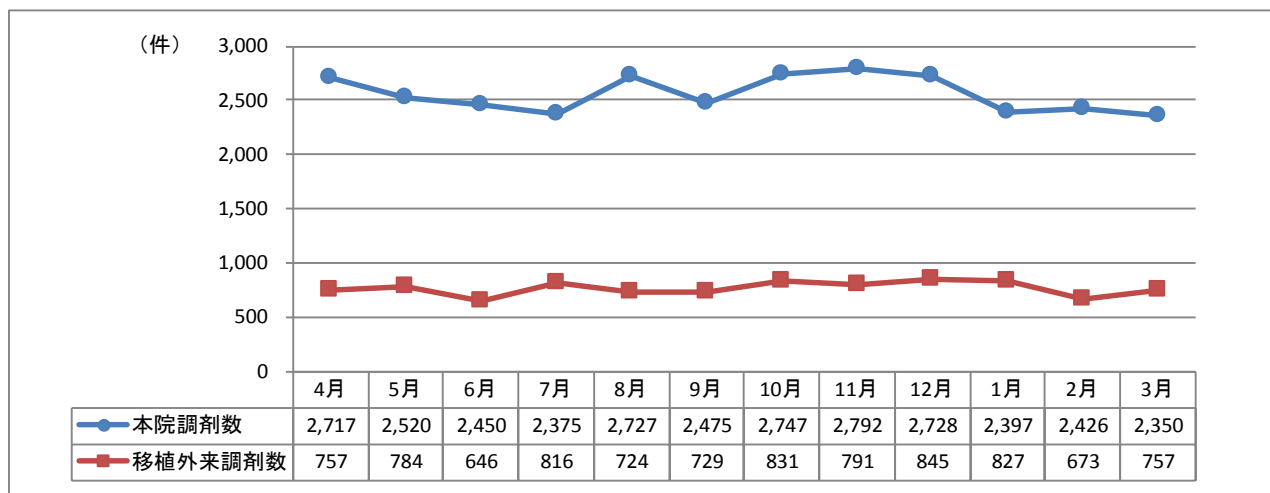


図 2. 調剤室業務（処方）調剤数

放射線科

■スタッフ紹介

科 長 栄谷 勝

主 任 林 孝治

副主任 鈴木真由美 柳井英男 田中伸一

科 員 鈴木結太 天野大輔 宮本佳奈 坂本 光

宇都駿汰 西川咲季子 中村良馬

■業務内容

・機器概要

診療棟：一般撮影 2 台，X 線 TV，CT，MRI（2020 年 1 月更新），血管撮影，乳房撮影，ポータブル 2 台，外科用 C アーム，DXA

附属診療所：一般撮影，X 線 TV，乳房撮影

井上診療所：一般撮影

■2019 年度のトピックス・実績

MRI：メーカー点検時にクエンチが 3 回発生。稼働停止期間があったが速やかに装置更新をしていただいた。

・認定資格

胃がん検診専門技師 6 名

胃がん検診専門技師読影部門 2 名

検診マンモグラフィ撮影認定技師 3 名

医療画像情報精度管理士 2 名

X 線 CT 認定技師 1 名

■学術活動

大阪透析研究会，大阪病院学会，大阪消化管撮影技術研究会，大阪銀杏会，日本消化器がん検診学会，PHILIPS ジャイロミーティング，関西 SOMATOM 研究会，CT 画像研究会，大阪ハートカンファレンス，関西透析超音波研究会，大阪血管エコー研究会，他

○発表

・骨折（脊椎圧迫骨折と大腿骨頸部骨折）と骨密度の関係（第 93 回大阪透析研究会：田中伸一）

・当院透析患者における無症候性脳血管障害の現状（第 20 回大阪病院学会：坂本 光）

○研究業務

・透析患者の腹部大動脈血管カルシウムスコアと内臓脂肪面積の計測

・透析患者の大腰筋，脊柱起立筋面積の計測

■今後の展望

2020 年度は「検査の空き時間を院内広報する」，「飛び入り検査を断らない」など科内活動を徹底し，CT，MRI 装置をフルに活用することで地域医療に貢献していきたい。

また 2020 年より愛仁会放射線部門協議会が発足されたことによる他施設研修を含めた施設間交流を活発に行っていきたい。

表. 撮影件数実績

(単位:件)

		2018年度	2019年度	前年度比
撮影総件数		42,512	44,181	103.9%
一般撮影(診療棟)		14,845	15,803	106.5%
井上診療所		572	513	89.7%
内 訳	血管造影			
	シャントDSA	38	30	78.9%
	シャントPTA	1,036	1,162	112.2%
	下肢(造影・PTA)	159	149	93.7%
	胃透視	6	6	100.0%
	泌尿器科検査	15	25	166.7%
	消化管系検査	58	51	87.9%
	DXA	1,862	2,009	107.9%
	CT	4,574	4,886	106.8%
	MRI	1,921	1,719	89.5%
	乳房	49	52	106.1%
	健診(胸部)	12,253	12,540	102.3%
	(胃透視)	3,615	3,540	97.9%
(乳房)	760	774	101.8%	
市民健診(胸部)	668	599	89.7%	

臨床検査科

■スタッフ紹介

臨床検査技師 17名（パート2名）

《他の国家資格及び各種学会等認定資格》

国際細胞検査士・細胞検査士

医療情報技師・2級臨床検査士（血液・化学）

中級バイオ技術者認定・管理栄養士

■業務内容

・診療棟臨床検査室部門

検体検査：生化学，血液，一般，輸血，免疫血清

生理検査：循環器，呼吸生理，神経生理，超音波 等

・附属診療所検査部門

移植外来検査：生化学，血液，一般，血中薬物濃度

健診検査：心電図，眼底，呼吸生理，骨密度，超音波（乳腺，腹部，頸動脈）等

・院内活動業務

ICT活動，健康教室講座の開催，NST活動，糖尿病や腎不全患者への検査説明，治験協力業務，医師の研究目的検査の実施

■2019年度のトピックス・実績

本年度は2つの事象に注力してきた。

1つ目は、昨年度から愛仁会臨床検査部門協議会と連携を図り、臨床検査技師法の改正への対応、技術レベルの向上と臨床検査室の品質管理を堅持できる体制作りを整えた。本年度はそれらの実施と科内への浸透に注力してきた。

2つ目は、FMS運用の安定稼働である。検体検査運用の簡素化、検査機器投入や検査試薬、資材費用を見直すことで経費節減が見込まれ、その状況を注視してきた。

最後に ICT や AST, NST, 健康教室など、臨床検査科の専門性をいかしたチーム医療への参加も推進してきた。

■今後の展望

更なる臨床検査室の標準化を目指し、スタッフへの浸透を図り精度管理の強化をする。また施設に必要とされる臨床検査科となるために、チーム医療にも貢献できるスタッフの育成に努めていく。そして経営面においては、FMS事業を中心に、資材、試薬、検査外注費に対する経費の大幅な見直しをすることで、施設運営に貢献していく。

表1. 検体検査実績表

(単位:件)			
本院2階検査室	2018年度	2019年度	前年度比
部門	項目数	項目数	-
生化学	511,659	774,258	151.32%
CBC	508,899	476,230	93.58%
A1c	11,983	9,707	81.01%
免疫 腫瘍マーカー			
甲状腺	18,752	36,213	193.12%
副甲状腺			
凝固	19,138	17,830	93.17%
輸血 血液型			
不規則抗体	2,483	3,193	128.59%
クロスマッチ			
尿化学	22,570	4,938	21.88%
薬剤濃度	748	492	65.78%
一般	50,722	58,602	115.54%
血液ガス	6,884	7,948	115.46%
用手法	1,617	2,392	147.93%
合計	1,155,455	1,391,803	120.45%
附属診療所検査室	2018年度	2019年度	前年度比
部門	項目数	項目数	-
生化学	437,818	227,080	51.87%
CBC	94,260	146,076	154.97%
A1c	2,882	8,710	302.22%
薬剤濃度	5,784	5,905	102.09%
一般	23,688	19,999	67.92%
用手法	139	42	30.22%
合計	564,571	407,812	72.23%
項目数計			
部門	項目数	項目数	前年度比
本院2階検査室	1,155,455	1,391,803	120.45%
附属診療所B1検査室	564,571	407,812	72.23%
総合計	1,720,026	1,799,615	104.63%
本院2階検査室・附属診療所B1検査室総合計(件数)			
-	件数	件数	前年度比
総合計	157,942	164,832	104.36%

表2. 生理検査実績表

(単位:件)			
本院	2018年度	2019年度	前年度比
心電図	2,915	3,246	111.36%
ホルター心電図	158	150	94.94%
肺機能	327	390	119.27%
ABI・TBI・SPP	574	610	106.27%
動脈硬化試験	336	299	88.99%
体表超音波	1,436	1,486	103.48%
心臓超音波	2,050	2,160	105.37%
腹部超音波	1,514	1,655	109.31%
造影超音波	0	0	0%
シャントエコー	1,137	1,304	114.69%
マッピング	0	0	0%
脳波	10	6	60.00%
尿素呼吸試験	67	66	98.51%
負荷心電図	28	32	114.29%
血管内皮機能	0	0	0%
DPN		127	
PSG		37	
合計	10,552	11,568	109.49%
附属診療所	2018年度	2019年度	前年度比
心電図	31	49	158.06%
合計	31	49	158.06%

臨床工学科

■スタッフ紹介 (2020年3月31日現在)

井上病院	臨床工学技士	28名
	助手	1名
井上診療所	臨床工学技士	5名

【専門認定等】

認定血液浄化臨床工学技士

中川 孝・村田哲平・東田直樹

透析技術認定士

中川 孝・小原直城・角井弘嗣

濱田清人・宮崎康成・深堀洋平

安田春樹・勝連盛彰・上田 真

透析技能1級検定

中川 孝

透析技能2級検定

中川 孝・安田春樹

呼吸療法認定士

安田春樹

第1種ME技術者(臨床ME専門認定士)

濱田清人・永井 元

CPAP療法士

安田春樹

透析液安全管理責任者セミナー受講者

中川 孝・遠藤誠幸・勝連盛彰

バスキュラーアクセス管理研修会受講者

中川 孝・村田哲平・渡邊直美

JHAT 隊員養成研修会受講者

宮崎康成・安田春樹

■業務内容

当院では血液浄化業務・ME機器管理業務(人工呼吸器管理業務含む)・手術室業務・SAS簡易検査業務・AED講習会外部講師を行っている。

【血液浄化業務】200床の外来透析,出張透析用に4台の個人用透析装置を有している。また,井上診療所の30床も管理している。在宅血液透析にも対応しており,現在5名の患者がいる。

当院で使用している透析液は,日本透析医学会の超純粋透析液の水質基準を満たすよう管理できている。

【ME機器管理業務】ME機器の修理対応・院内ラウンド,

また,安全使用のための講習会も行っている。

院内輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器は中央管理化しており,返却後点検・定期保守点検を実施している。

【手術室業務】自己血回収装置の操作,モニターや電気メスの点検にあたり,手術時の安全向上に努めている。

【SAS簡易検査業務】外来透析患者においてSASの早期発見ができるように2018年より開始した。

【AED外部講師】企業からのAED操作研修会の依頼時には,当院臨床工学技士を派遣している。

■2019年度のトピックス・実績

本年4月より中川が透析棟・診療棟・透析準備室・在宅血液透析・井上診療所を一括管理する体制へ移行した。

今年は中国非公立医療機構協会の病院見学を受け入れた。中国での透析事情と井上病院での透析事情について意見交換を行った。

2018年9月より開始したオーバーナイト透析は順調に患者数も増加し,2020年3月末現在20名となった。

血液浄化件数データを下表に示す。処理件数は2017年度88,419件,2018年度99,343件であったが本年度は99,891件で順調に増加している。特殊血液浄化件数は昨年度と同等であった。

■今後の展望

老朽化した透析関連装置が多いため計画的に更新を進め,良質な透析医療を提供できるように努めていきたい。また,多くの透析施設では臨床工学技士がバスキュラーアクセス管理を担っている施設が増加していることから,当院でもいつ始まっても対応できるように知識向上を継続していく。また,学会発表にも力を入れ,様々な経験からモチベーションアップに繋がる活動を行い,チーム医療において信頼される確かな行動ができるような人材育成を推進していきたい。

表. 2019年度血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総件数(HD+ECUM+OHDF)	8,350	8,634	8,047	8,642	8,553	7,927	8,484	8,309	8,235	8,595	7,938	8,177	99,891
血液透析 HD	5,364	5,510	5,128	5,437	5,353	4,900	5,178	5,020	4,922	5,140	4,779	4,938	61,669
限外濾過 ECUM	20	17	21	16	18	15	13	20	12	14	12	13	
オンライン血液透析濾過 OHDF	2,966	3,107	2,898	3,189	3,182	3,012	3,293	3,269	3,301	3,441	3,147	3,226	38,031
オーバーナイト	142	171	172	215	213	213	219	232	228	261	235	253	2,554
特殊血液浄化合計	2	1	0	0	2	0	0	1	2	2	0	0	10
腹水濾過濃縮再静注 CART		1											1
顆粒球吸着 GMA													0
白血球吸着 LCAP													0
持続的腎代替療法 CRRT	2							1					3
エンドトキシン吸着 PMX													0
単純血漿交換 PE													0
二重濾過血漿交換 DFPP					2					2			4
LDL吸着 LDL-A									2				2

リハビリテーション科（技術部）

■スタッフ紹介

＜理学療法士＞ 14名

西村真理 松藤勝太 井上朋子 山崎勇人 北口里奈
山澤侑香 柴田佑馬 江口真司 松江愛奈 森本千晶
茶谷敦也 小島彩香 金田拓朗 今西あみか
米田千佳恵 芦田征丈

＜言語聴覚士＞ 1名

藤井祥子

＜健康運動指導士＞ 2名

李 寿恵 中嶋章子

■業務内容

・理学療法業務

対象疾患は整形疾患 59%，呼吸器疾患 11%，脳血管疾患 5%，廃用症候群 25%であり，術後の整形疾患が最も多く，次いで内部疾患による廃用症候群となっている。地域包括ケア病棟は，機能訓練だけではなく，生活指導でも介入し早期退院を目指している。NST・誤嚥性肺炎プロジェクトの一員として早期介入，吸引実施，排痰・呼吸訓練実施している。在宅復帰を目指して退院前訪問を行い，居宅サービス機関と連携し，在宅の環境調整，介助指導，通院方法の獲得等を行っている。外来透析患者に健康度チェックを年1回行い，その結果に合わせた運動指導を書面だけではなく実際に運動指導も行い，健康寿命延伸を目指している。また上記データを分析し，学会発表・論文発表も行っている。

・言語聴覚療法業務

失語症や構音障害などのコミュニケーション障害や摂食嚥下障害を対象にしている。特に，誤嚥性肺炎で入院された方に，早期介入し，点滴や経管栄養から経口への回復と，再発の防止に取り組んでいる。障害が重度であっても，VE/VF を積極的に実施し，楽しみとしての経口摂取の提供を勧めている。NST や誤嚥性肺炎プロジェクトの一員としても，多職種と協力し，歯科への情報提供，口腔ケアや吸引の実施，適切な食事形態の選択，食事介助方法の工夫・指導等を行っている。また，神経内科・心療内科の外来で「認知症」「うつ」等の鑑別診断や経過観察に役立つように，高次脳機能検査を実施している。

・健康運動指導業務

外来血液透析患者やドナー及びレシピエント患者を対象に，健康寿命の延伸を目的とした集団体操を週6回実施している。地域包括ケア病棟のリハビリ未介入患者を対象に，ADL 維持，体力向上を目的とした，個別・集団運動指導を行っている。糖尿病・慢性腎臓病教育入院患者を対象に，運動負荷試験を行い，結果（強度）を基に個別・集団運動指導を行っている。病院主催の地域住民を対象とした健康教室において，年1回話題のテーマを取り入れた運動教室を開催している。健診センター産業医と，企業訪問し，集団運動指導を行っている。新たな取り組みとして，2019年4月から外来慢性腎臓病・糖尿病性腎症の患者に対し，腎臓リハビリテーションの包括的プログラムの一環として運動指導を実施している。定期的な健康チェックにて集団体操における身体的効果や保存期腎臓病患者の運動指導と腎機能への影響について，学会発表や論文発表を行っている。健康寿命延伸との関係性や新たな外来腎臓病患者への運動指導による腎機能の改善についての，学会発表，助成金を受けての論文発表を実施した。

■2019年度のトピックス・実績

新たな取り組みとしては，4月から腎疾患専門病院として，透析患者だけではなく，透析前の保存期腎不全患者への悪化予防のために，栄養・運動・薬剤・看護・医師・SW とでチーム医療の提供を行った。腎疾患の教育入院クリニカルパスも作成した。患者指導のための腎臓リハビリテーションのパンフレットや運動指導手帳や活動量を記録する記入手帳等も作成した。また，公益社団法人大阪腎臓バンクより助成金を頂き，腎臓リハビリテーションの取り組みと成果について報告した。その効果についても，地域連携の集いで，近隣開業医へ報告し，末期腎不全患者だけではなく，保存期腎不全患者の腎臓リハビリテーションの有用性を報告した。地域包括ケア病棟の患者に毎日2単位以上のリハビリ提供と7割以上の在宅復帰率も維持し施設基準Iも継続できた。誤嚥性肺炎プロジェクトチームとして，入院直後からの理学療法士・言語聴覚士介入，4名吸引取得により，経口回復率44%の実績を出し，7年連続経口摂取回復促進加算の施設基準を取得した。新たに，

摂食嚥下機能評価に「舌圧測定」を取り入れた。また、多職種と「嚥下調整食学会分類 2013」に沿った食事形態の見直しを行った。

外来透析患者の健康延伸目的に、「いつまでも元気にプロジェクト」として、年1回、健康チェックを実施し、栄養・運動指導を3年継続した。400名弱の透析患者のサルコペニア率やサルコペニアの要因分析を行い、16演題学会発表へ繋げた。その内1演題で優秀賞を頂いた。また、世界腎臓学会でも発表した。

(学会発表)

・2019年 ISN World Congress of Nephrology

「Difficulty in ADL and Falls in hemodialysis patients in comparison with no renal patients」松藤勝太

・第64回日本透析医学会学術集会・総会「大腿部筋断面積が顕著に低下する血液透析患者の臨床的特徴」松藤勝太

・第6回日本糖尿病理学療法学会「血液透析患者のサルコペニアを予防する身体活動量の検討」山崎勇人

・第93回大阪透析研究会「血液透析患者のサルコペニアを予防する身体活動量の検討」山澤侑香

・第39回日本マグネシウム学会学術集会「高齢血液透析患者における結成Mgと身体機能との関連」松藤勝太

・大阪府理学療法士会北支部 新人症例発表「心配組成後の長期臥床利用者の外出が可能となった一症例」芦田征丈

■今後の展望

作業療法の施設基準を取得し、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3部門体制を作り、脳血管疾患Ⅱと廃用性症候群Ⅱの基準を取得する。

・作業療法士により、在宅を想定した日常生活動作の獲得や認知症等への作業療法提供で、早期退院を目指す。

・言語聴覚士増員により、VE/VFの予約枠を週2回に増加し、患者数増加を目指す。また、摂食機能療法だけではなく、言語障害患者も増やしていく。多職種との食事形態の見直しに続き、食事内容・介助食器等の検討、口腔ケアや食事介助方法なども強化を図っていく。新たに取り入れた舌圧測定については、1年間のデータを分析し、オーラルフレイルや誤嚥性肺炎の予防を目指す。

・今年より開始した腎臓リハビリテーションの提供については、システムは構築したが、近隣の開業医や患者への啓蒙、広報に更に力を入れ、保存期腎不全患者の早期紹介、腎臓リハビリテーションの提供患者数を増やしていく。腎臓リハビリテーションを安全かつ効果的な運動を提供するためにも、運動負荷試験の実施件数を増やす。

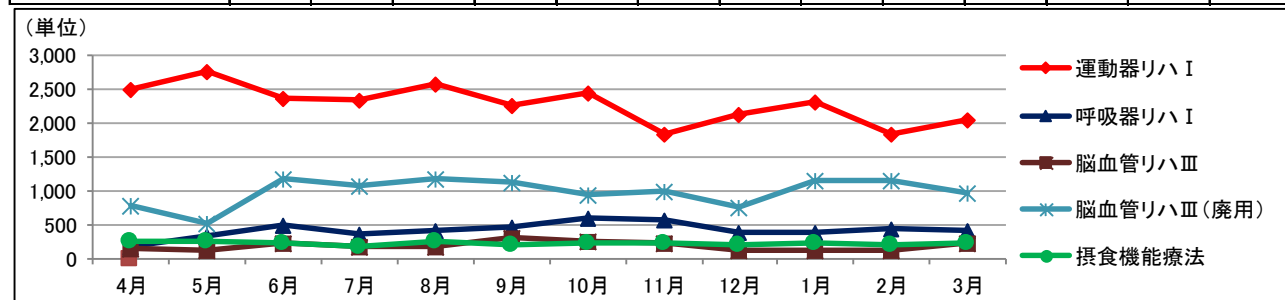
・外来透析患者の健康寿命を延ばすために、誕生日月に身体測定及びADL評価を行い、生活や運動アドバイスを継続して行う。健康度チェックから運動必要性が高い外来血液透析患者(1年間の転倒歴、SPPB、点数等)をリストアップし、集団体操への参加や外来運動療法を促す。

・また、地域の病院として、地域住民の健康を維持できるような内容を取り入れた健康教室を提供していく。

図表. 2019年度の実績(数字は延単位)

(単位:単位)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハⅠ	2,491	2,765	2,360	2,326	2,570	2,259	2,451	1,849	2,128	2,313	1,848	2,037	27,397
呼吸器リハⅠ	186	344	489	353	415	465	597	562	403	390	435	426	5,065
脳血管リハⅢ	149	118	226	182	191	314	259	229	116	123	134	229	2,270
脳血管リハⅢ(廃用)	778	527	1,176	1,062	1,191	1,140	939	985	768	1,154	1,141	959	11,820
摂食機能療法	253	253	232	172	268	209	236	231	194	222	193	220	2,683



栄養管理科

■スタッフ紹介

管理栄養士 4名

〔管理栄養士の資格取得状況〕

日本糖尿病療養指導士 1名

NST 研修 修了者 3名

フードスペシャリスト 3名

サプリメントアドバイザー 2名

■業務内容

- ・給食管理（委託）
- ・栄養管理
- ・NST 活動や内科・整形外科カンファレンスへの参加
- ・栄養食事指導
 - 入院・外来（内科・移植・腹膜透析・血液透析）
- ・健康教室（管理栄養士担当）
 - 腎臓病教室，糖尿病教室，その他（消化器・骨粗鬆症）

■2019 年度のトピックス・実績

- ・栄養サポートチーム加算数 783 件（前年度比+224 件）
- ・栄養食事指導件数・提供食事数（下記表参照）
- ・実習生の受け入れ
 - 2019 年 5 月 武庫川女子大学 3名

2019 年 10 月 武庫川女子大学 3名

2020 年 2 月 大阪青山大学 2名

2020 年 3 月 千里金蘭大学 2名

・学会発表

2019 年 8 月 第 69 回日本病院学会

「外来維持血液透析患者の栄養教育の拡充を目指して」

2019 年 9 月 第 93 回大阪透析研究会

「独居・同居でみた血液透析患者の栄養・食事摂取状況について」

2019 年 11 月 第 39 回日本マグネシウム学会学術集会

「血液透析患者の血清 Mg と栄養状態及び栄養・食事摂取状況について」

■今後の展望

給食管理については委託業者と連携し，入院患者のニーズに合った食事を提供していきたい。2020 年度より増員した ST・OT と連携して食事調整を行い NST の更なる充実を図っていきたい。今後は新卒者の基礎教育に注力し説得力のある栄養治療計画ができるよう指導していきたい。また，愛仁会リハビリテーション病院 科長・千船病院 主任にご協力いただきスキルアップ（学会発表・資格取得）や業務改善，栄養関連収入の増加を目指す。

表 1. 栄養食事指導件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来透析	90	89	70	69	88	46	92	72	79	88	82	85
内科外来	40	24	25	38	41	32	39	37	48	40	36	43
入院	12	13	9	10	12	6	9	14	21	19	17	14
合計	142	126	104	117	141	84	140	123	148	147	135	142

表 2. 提供食事数

(単位:食)

	特別食	一般食	合計
朝食	18,947	14,944	33,891
昼食	18,715	14,508	33,223
夕食	19,420	14,621	34,041
合計	57,082	44,073	101,155
対前年度比	95%	113%	102%

地域連携センター

■スタッフ紹介

センター長 医師 藤原木綿子

(地域医療連携室)

事務員 4名

(入退院サポート室)

看護師 3名 非常勤看護師 1名

(医療福祉相談科)

MSW 4名

■業務内容

今年度より地域連携センターは地域医療連携室・入退院サポート室・医療福祉相談科の3部署となった。

病院内外に対して、入退院・相談の窓口機能を一本化していくことで、地域の中で求められる井上病院の機能をより果たしていけるようにしていく。

(地域医療連携室)

・患者を中心とした地域医療機関との病診、病病連携を円滑にするため医療機関の先生方との全ての窓口を担当。また透析送迎の窓口も兼務しており、14台の車両で各曜日約20コースを走行。300人弱の患者の透析通院を支えている。

(入退院サポート室)

・入退院支援加算1算定に向けて、看護師を増員し、入院説明・入院前の生活状況の聴取・検査説明・入院案内・入院時転倒転落・栄養評価等・スクリーニング・転院サポート、退院支援への看護介入などを実施。またベッド

コントロールも一元化により、病床稼働率は急性期病床86.8%、地域包括病床93.6%であった。

また腎臓病療法指導士が配置され、外来でのCKDチーム活動や療法選択説明に力を入れている。2019年87件のCKD介入患者に対して40件に療法選択説明を行った。

(医療福祉相談科)

・患者相談窓口、特に透析導入・転入への全例介入、入退院支援等を行っている。今年度から透析・緩和ケアチームの事務局や患者相談コンフリクトミーティングなどの窓口も担っている。

■2019年度のトピックス・実績

1. 紹介患者数が前年比9%増加 (図1)
2. 「第2回井上病院地域連携の集い」の開催
3. 医療機関への医師同行訪問実施 (訪問件数70件)
4. 入退院支援加算1取得開始
5. 病院案内パンフレット刷新

■今後の展望

来年度は病床稼働率を増加させ、常時110床以上をキープできるようにすると同時に、入院単価増に取り組む。

紹介入院数や透析転入を増加させるため、入院・透析転入をすぐに受け入れできる体制を整えることが喫緊の課題である。同時に吹田エリアとして透析患者の高齢化に対応していく必要がある。

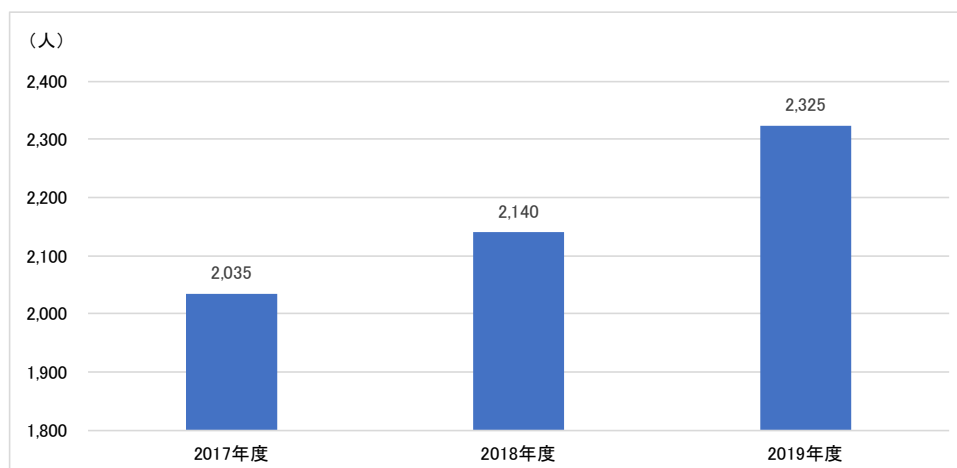


図1. 紹介患者数推移

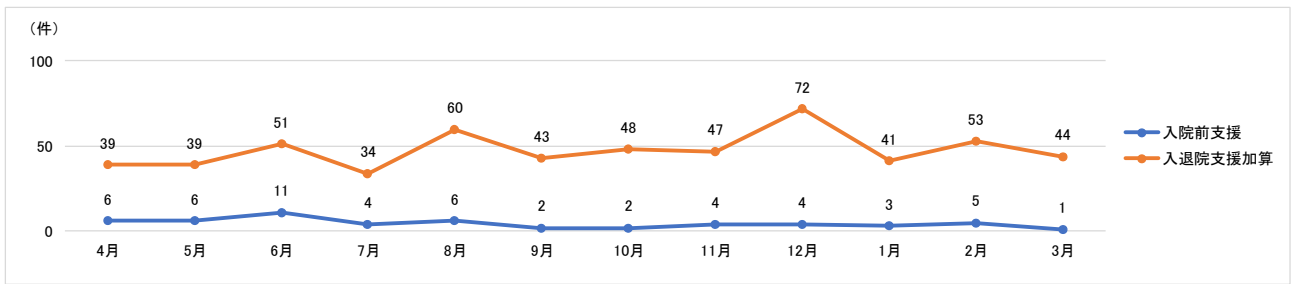


図2. 入退院支援（看護・MSW）

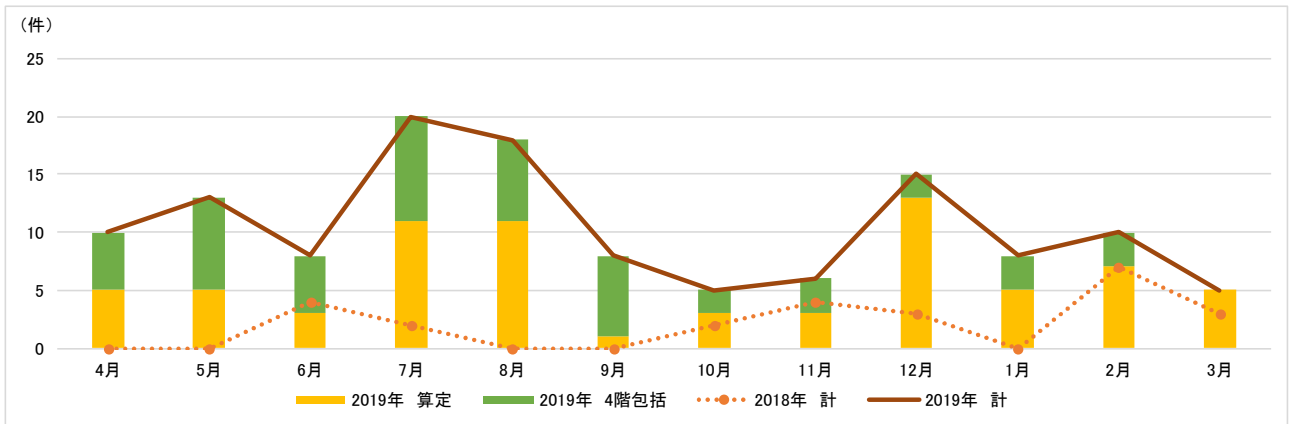


図3. 介護支援等連携指導料算定対象枠 カンファレンス開催件数

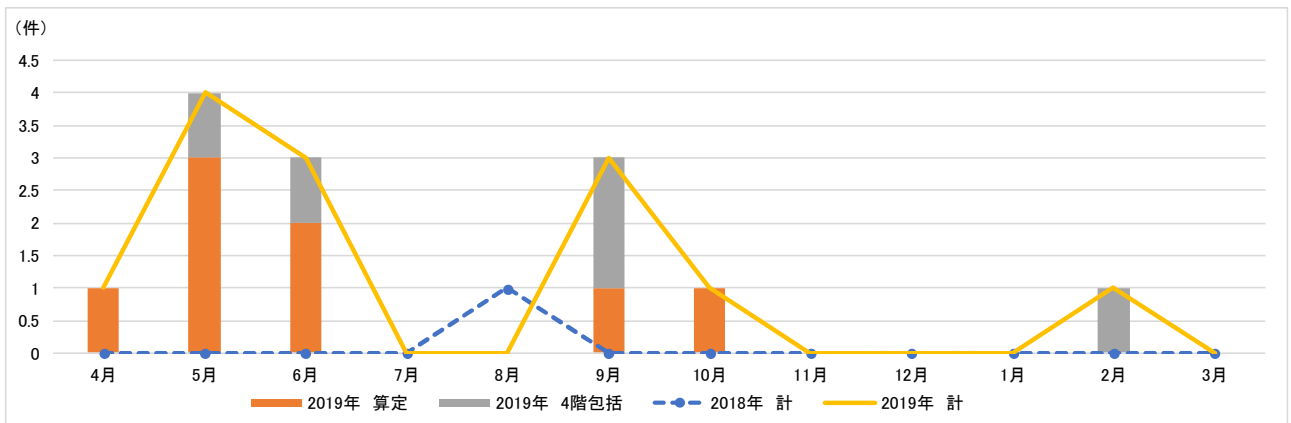


図4. 退院時共同指導料算定対象枠 カンファレンス開催件数

表1. 医療福祉相談科 相談件数

(単位：件)

相談内容	経済的問題	13
	社会福祉制度	270
	入院・受診受療援助	191
	退院・地域ケア	3,342
	心理的問題	36
	家族関係問題	17
	その他	177
	(再掲)	
	透析導入	42
	透析転入	45
	合計	4,046

感染対策室

■スタッフ紹介

感染担当副院長：谷村信宏（ICD）

感染対策室室長：安田雅子（PNIPC）

感染担当医師：大北恭平（医師）

薬剤科担当：倍味亜矢子（薬剤師）

検査科担当：林 純一（臨床検査技師）

事務担当：冨瀬和美（事務員）

■業務内容

- 1) 感染管理組織の運営
- 2) 医療関連感染サーベイランス
- 3) 抗菌薬使用状況の確認とコンサルテーション
- 4) 感染症発症者の把握と関連部署との情報共有
・現場への介入，コンサルテーション，定期的な巡回
- 5) 患者・職員の手指衛生の教育と啓蒙活動
- 6) 感染防止対策マニュアルの整備
- 7) 職業感染防止対策と針刺し事故への対応
- 8) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動
- 9) VRE アウトブレイクに伴う疫学調査

■2019 年度のトピックス・実績

- 1) 各種会議の開催
 - ①院内感染防止対策委員会：毎月第4木曜日 15時～
 - ②ICT 会議，ラウンド：毎週水曜日 9時～
 - ③AST 会議，ラウンド：毎週水曜日 8時 30分～
毎週金曜日 14時～
- 2) 感染管理地域連携カンファレンスの参加
 - ①地域連携カンファレンス（千船病院，名取病院）
 - ②感染防止対策地域連携加算 1-1 相互ラウンド（千船病院）
 - ③吹田保健所管内院内感染対策連絡会議

④吹田保健所管内高齢者施設感染対策支援会議

3) 感染管理教育

①新入職，中途入職オリエンテーション

②実習生への感染講義

医師：2名（1回），薬剤師：1名（1回）

看護師：86名（22回），歯科衛生士：40名（1回）

臨床工学技士：7名（4回），理学療法士：5名（5回）

管理栄養士：10名（5回），医療秘書：3名（3回）

計 154名（42回），感染講義を実施。

②法定研修：感染管理（第1回 10/28，第2回 1/28）

・第1回：薬剤耐性の現状とその対策

講師：大阪市立大学大学院医学研究科臨床感染制御学
柴多 渉先生

・第2回：全職員で取り組む感染対策

～あなたの参加が大切なんです～

講師：特定非営利活動法人日本感染管理支援協会
土井英史先生

2017年4月にVREがアウトブレイクし、「標準予防策の徹底」に取り組んできた。特に「手指消毒のテクニックとタイミング」を強化。直接観察法を用いた評価と改善に向けた介入を実施。遵守率は40%から70%まで改善し、1患者当たり手指消毒回数は35.6回と前年度より19%増加した。リンクナースが中心となって、実技を用いた講義を毎月実施。その結果、2019年7月以降VREの新規発生を認めず経過し、11月にVRE終息を迎えることができた。

■今後の展望

- 1) 感染防止対策における文化の醸成。
- 2) 標準予防策の徹底。

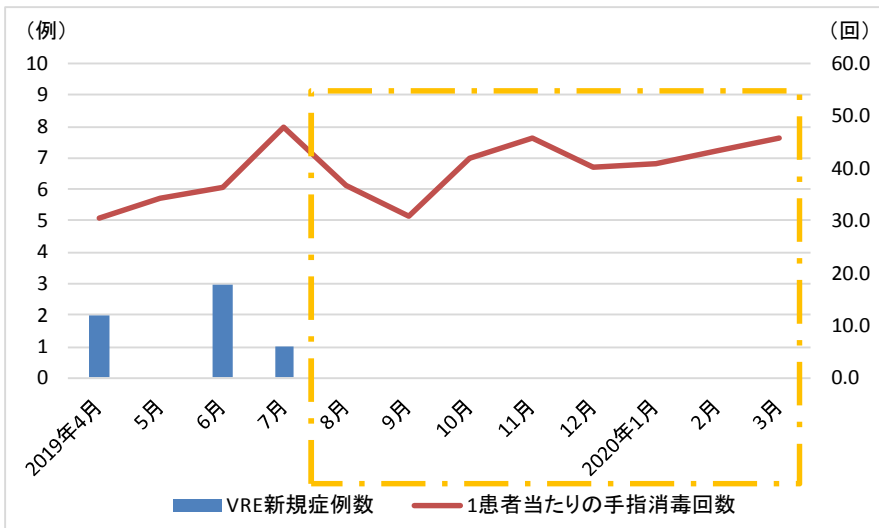


図1. VRE 新規症例数と1患者当たりの手指消毒剤使用量

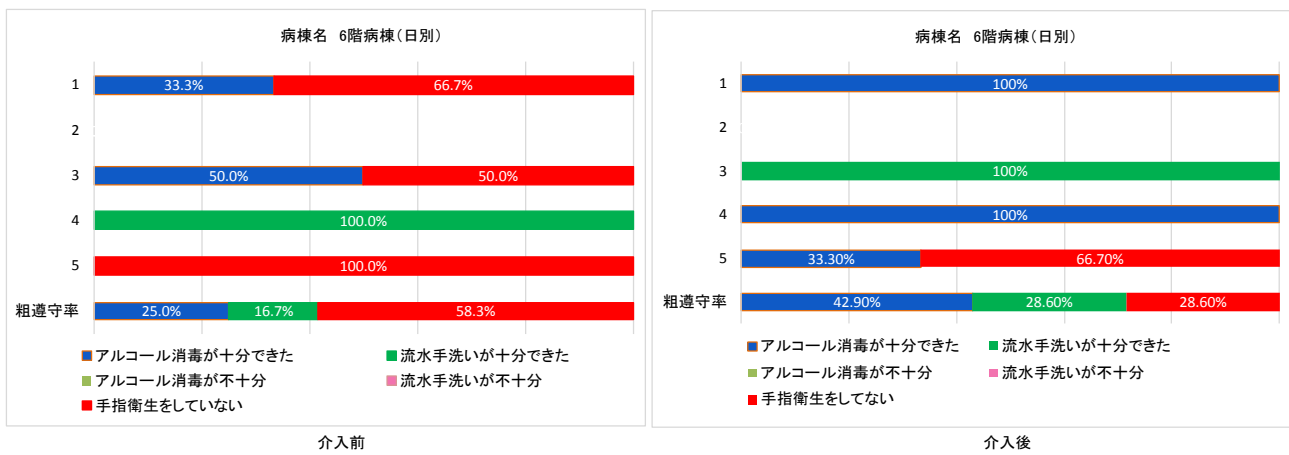


図2. 直接観察法による遵守率の評価結果

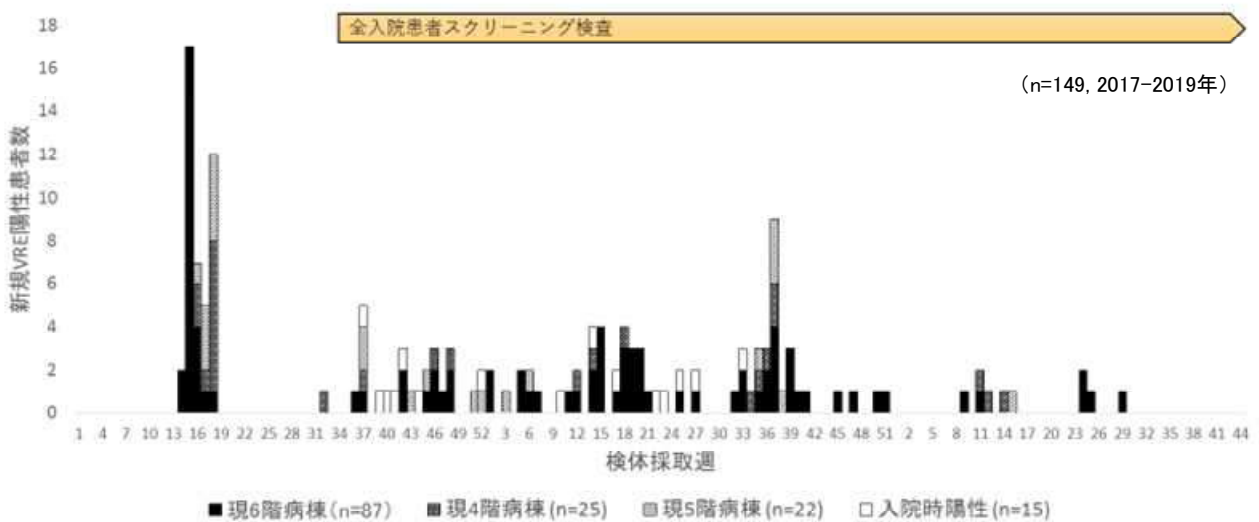


図3. 井上病院における新規 VRE 陽性患者の推移

医療安全管理室

■スタッフ紹介

医療安全管理者・院長	辻本吉広	(医師)
医療安全管理担当副院長	森本 章	(医師)
医療安全管理室長	榎本 拓	(臨床工学技士)
医薬品安全管理責任者	榊屋根佳子	(薬剤師)
医療機器安全管理責任者	中川 孝	(臨床工学技士)
看護安全担当	安藤清美	(看護師)

■業務内容

- ・医療安全地域連携加算取得
- ・千船病院 医療安全対策加算 1-1
相互ラウンド実施
- ・上田病院 医療安全地域連携加算 I-2
事前チェックシートによる確認
(新型コロナウイルス拡散防止のため未訪問)
- ・医療安全管理委員会開催 12回/年
- ・2019年5月・2020年2月 医療安全全体研修開催
- ・医療安全ニュース発刊 21号～32号
- ・看護部安全委員会, 臨床工学科安全委員会,
看護部部署別カンファレンス陪席
- ・近畿厚生局適時調査対応
- ・第14回医療の質安全学会ポスター発表
- ・府北西部医療安全交流会(看護協会主催)参加

- ・院内定期ラウンド 12回/年
- ・インシデント報告集計 (1,375件/年)
- ・ヒヤリハット報告件数ナンバーワン表彰

■2019年度のトピックス・実績

- ・DM 教育入院患者のインスリン指示施行不備が立て続けに発生
→PMSHELL 分析実施
インスリン管理マニュアル見直しと確認の徹底
医師による勉強会開催
- ・診療棟地階階段での患者転倒事故発生
→診療棟地階への AB 階段の使用制限実施
- ・入院時スリッパ使用が原因による転倒事例
→入院パンフレットに「かかと付き履物」の記載追加
- ・透析穿刺用留置針の外套針破損事例
→穿刺針使用方法について院内広報実施(再)

■今後の展望

- ・インシデント入力システムの移行
- ・経腸栄養材料の国際規格へ移行対応
- ・薬剤事故事例への取り組み
- ・リスクマネージャー制構築

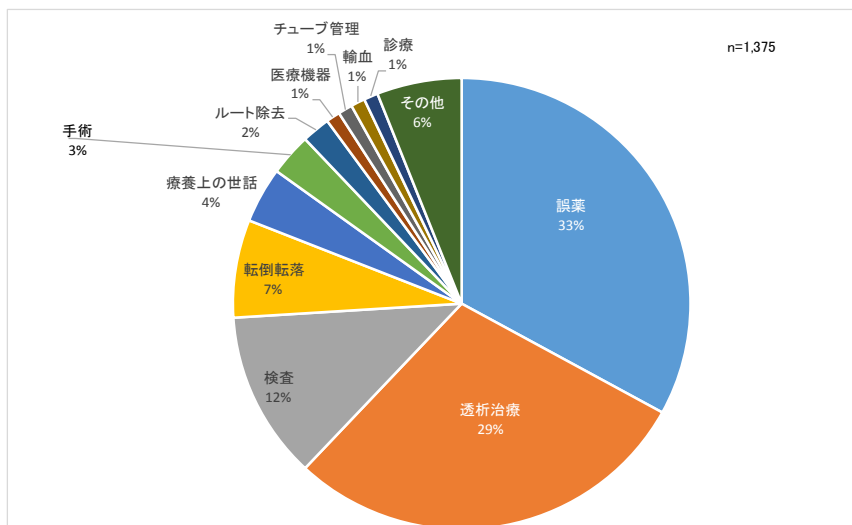


図1. 2019年度報告 分類

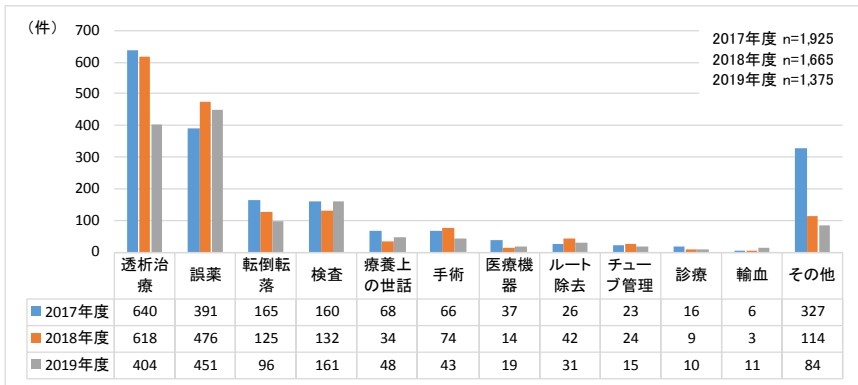


図 2. 分類年度別比較

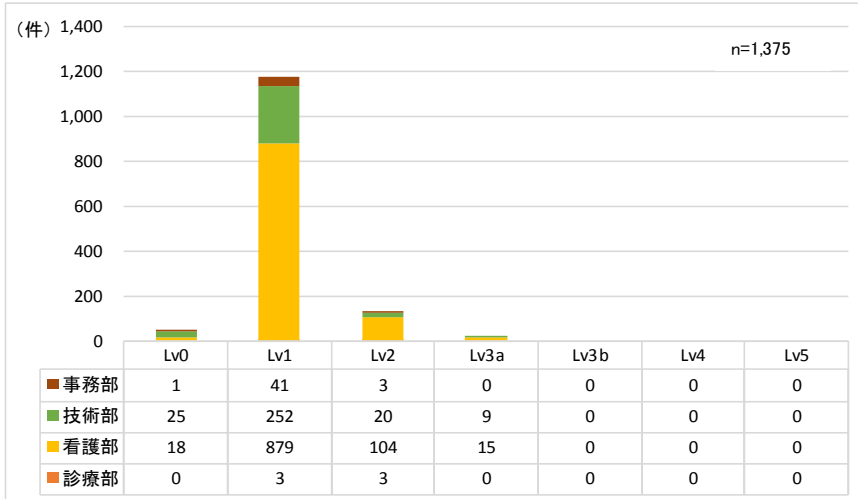


図 3. 2019 年度レベル別分布

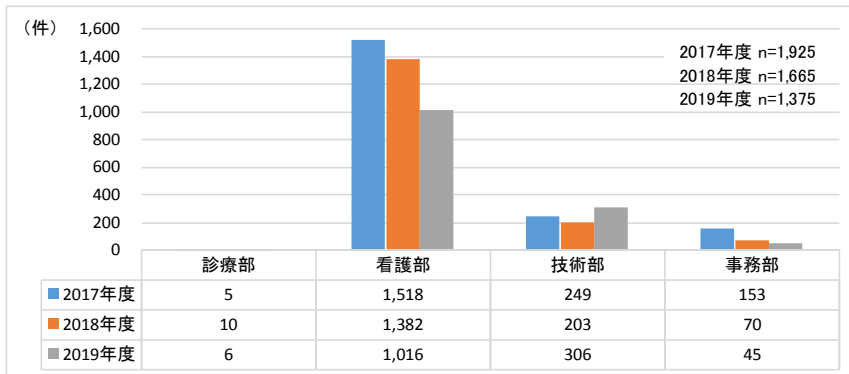
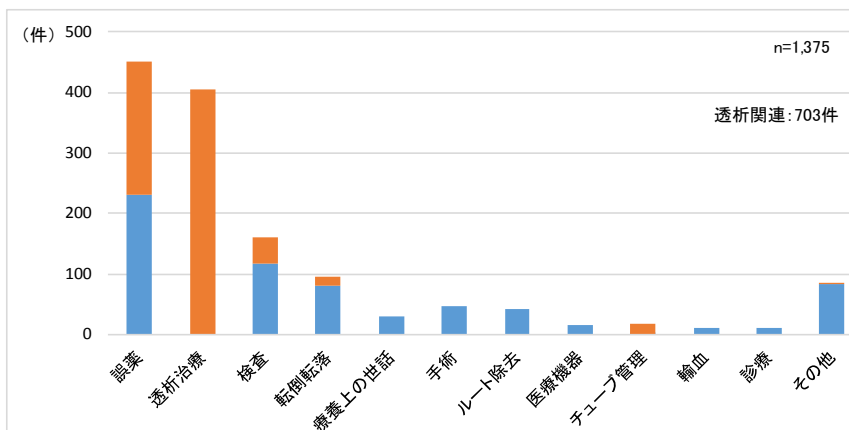


図 4. 部署別前年度比較



透析治療内訳	件
除水関連	103
失血・エア	90
凝血	64
時間延長	8
その他	165

図 5. 2019 年度透析関連分類



井上病院 附属診療所

〒564-0053

大阪府吹田市江の木町 14-11

URL: <http://inouefuzokucl.ajinkai.or.jp/>

理念・基本方針

<理念>

私たちは、一人ひとりの命を輝かせます

<基本方針>

- ・お客様本位の医療を提供します
- ・働き甲斐のある職場づくりを目指します
- ・地域住民の健康生活に奉仕します

施設概要

■日本総合健診医学会，認定優良総合健診施設/健康評価施設
施設査定機構，優良認定施設/人間ドック健診専門医研修施設/マンモグラフィー検診施設画像認定施設

2019 年度総括

腎移植外来では診療体制も落ち着き、患者数も一定になった。在宅（江坂ケアプランセンター、いのうえヘルパーステーション）では職員の入れ替わりがあったが、人員を補充の上、サービス回数の増加に取り組んだ。健診センターは受検者数が伸長する中、今一度サービス業の原点に立ち返り、CS 向上のため快適性の観点より施設・設備を中心にリニューアルを行った。

2019 年度活動状況

- 4月 附属診療所の理念を制定，保健師・管理栄養士で構成する保健チームによる「健康支援室」設置
- 5月 附属診療所建物外周の整理・清掃実施
- 6月 「優良総合健診施設」（日本総合健診医学会）認定のための取り組み開始
- 7月 監査法人による会計監査対応
- 8月 近畿厚生局による個別指導（腎移植外来），「優良総合健診施設」（日本総合健診医学会）認定のための実地審査受審
- 9月 3階にリサイクルセンター設置
- 10月 2019 年度上期業務改善発表会開催
- 11月 健診センター料金改定
- 12月 健診センター職員・非常勤医師更衣室移設
- 1月 新年互例会開催
- 2月 中国発新型コロナウイルス感染症対応開始
- 3月 屋上受電設備更新工事実施，健診センター利用者更衣室集約・移設

2020 年度に向けて

2020 年度は，期初より新型コロナウイルス感染症の拡大により事業の縮小を余儀なくされた。健診センターでは，政府や大阪府より緊急事態宣言が発出された 4 月以降，約 1 か月間の休業のほか，一部保険者の休止による制限が続いた。6 月からほぼ再開となったが，今後は延期をお願いした利用者をいかに円滑に受診していただくか，収益を如何に戻すか，智慧を用いて努力する。

井上病院附属診療所 腎移植外来

■スタッフ紹介

非常勤医師 5名

看護師 2名 (1名非常勤)

認定レシピエント移植コーディネーター 1名

(井上病院附属診療所看護科長兼任)

看護助手 1名

移植事務 2名

■業務内容

大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている。移植腎が長期に生着することを目的とし、移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないように、癌検診の充実、合併症予防に力を入れており、患者ごとに個別的な定期検査スケジュールを計画している。

移植月に患者面談を実施し、療養生活への支援を行っている。

移植コーディネーターは、レシピエント全員のカルテをから検査結果の確認、生活環境や体調の変化を確認しサマリーの作成を行っている。大阪大学医学部附属病院の腎移

植に関連する研究協力としてデータ調査やアンケート調査の支援を行った。また、脂質異常や骨粗しょう症の新しい治療について移植医と連携し、対象者の抽出や治療導入開始の体制を整えた。

■2019年度のトピックス・実績

2019年は、近畿厚生局の個別指導があり対応を行った。診療では、骨粗しょう症の新たな治療としてイベニティの投与、脂質異常症の治療としてレパーサの投与など新たな治療が外来で開始となった。また、保険適応でHLA抗体同定検査が実施できるようになり、他施設に検査を依頼し、DSA陽性のレシピエントに対し入院治療を行った。

■今後の展望

腎移植外来も超高齢化社会を迎え、在宅での療養生活支援を検討していくケースが増えている。また、長期生着の患者の増加により、多種多様な合併症の併発が考えられる。

移植外来は非常勤医師で診療を行っているため、看護力の質の高さが求められる。今後看護体制の強化を図っていく必要がある。

表. 移植後定期検査の実施率

検査項目	実施率
胸部レントゲン	96.7%
心電図	94.4%
胸部CT	94.8%
腹部CT	94.8%
副甲状腺エコー	90.8%
IMT/PWV	84.5%
腹部エコー	90.6%
胃カメラ *1	46.9%
便潜血	82.2%
乳がん検診	63.2%
子宮がん検診	60.0%

*1: 隔年検査対象の方を含む

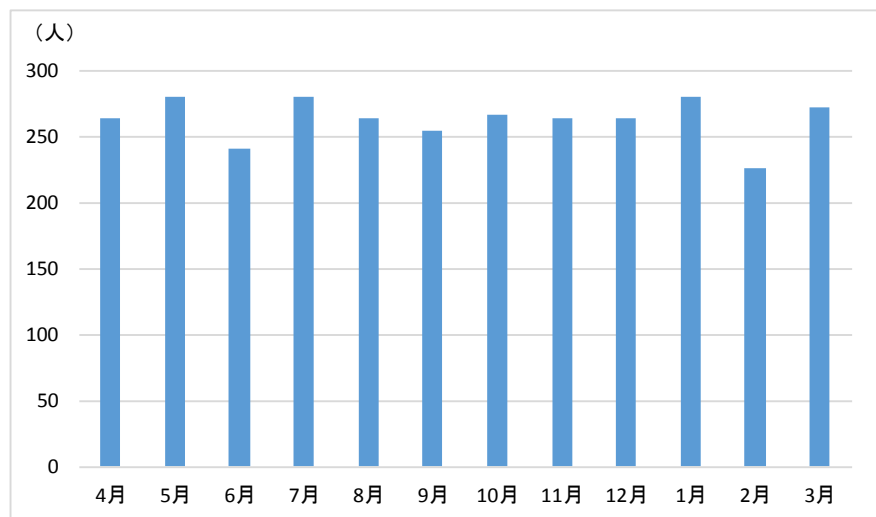


図. 2019年度月別外来受信者数 (延べ人数)

井上病院附属診療所 健診センター

■スタッフ紹介

医師（常勤医師）2名 石津院長，和田医師

看護師 7名

保健師 4名

管理栄養士 2名

臨床検査技師 1名

事務員 8名

■診療内容

健診センターは、労働安全衛生法に基づく一般健診・特殊健診，高齢者医療確保法に基づく特定健診・特定保健指導，協会けんぽの生活習慣病健診，国民健康保険法による市民検診のほか，健康教室，ストレスチェック，各種人間ドックを実施している。また，産業保健活動にも力を入れており，産業医先はメーカー・サービス業・小売業等 20社を有し，事業所を訪問して安全・衛生委員会への出席，巡視等，職場の安全かつ衛生的な環境作りに貢献している。

■2019年度のトピックス・実績

- ・エリア会議にて、「井上病院の二次検診受検者数増加」をテーマに取り組む。
- ・優良総合健診施設（日本総合健診医学会）の実地審査があり，認定を更新した。
- ・施設老朽化への対応として，建物外周・正面玄関天井・受電設備更新等の工事を実施した。
- ・健診料金，ストレスチェック料金を改定した。
- ・日本総合健診医学にて2題学会発表を行った。

■今後の展望

吹田市江坂に位置する当健診センターは，周辺企業や住民の健康生活に奉仕するという方針を遵守する。各種健診はもとより，保健活動を活発化させていく。人員も充実しており，産業医活動に付随する衛生知識提供を主としたサービスを工夫していく。

表. 健診センター実績

(単位:件)

2019年度/ 月	健康診断	うち市民健診	うち全国健康保 健協会管掌健康 診断	人間ドック			特定保健指導	ストレスチェ ック
				エクセレント	標準ドック	ドックA		
4月	1,442	49	139	5	10	3	29	0
5月	1,290	65	344	1	8	0	51	0
6月	1,464	57	381	0	3	1	55	0
7月	1,401	60	370	0	12	1	61	0
8月	1,292	51	261	1	17	2	27	0
9月	1,260	71	341	0	23	3	39	532
10月	1,569	78	448	0	21	1	73	674
11月	1,612	79	400	1	22	2	67	462
12月	1,248	56	331	0	18	2	62	212
1月	865	55	215	1	11	2	35	422
2月	1,233	76	458	0	18	1	42	0
3月	1,096	65	279	1	33	4	38	0
計	15,772	762	3,967	10	196	22	579	2,302

井上病院附属診療所 在宅

■スタッフ紹介

- 江坂ケアプランセンター
管理者（主任ケアマネジャー） 1名
常勤主任ケアマネジャー 1名
常勤ケアマネジャー 5名（他，産休中1名）
- いのうえヘルパーステーション
管理者（介護福祉士） 1名
常勤介護福祉士 4名
登録ヘルパー 14名

■業務内容

- 江坂ケアプランセンター
井上病院の在宅の受け皿として緊急的なケアプランの受け入れも行っている。また地域の総合相談窓口としても機能し、ご家族や本人からの直接の相談も多くなっている。地域包括支援センターと連携を図り困難なケースにも積極的に対応している。
- いのうえヘルパーステーション
法人内連携の強化により江坂ケアプランセンターのプラン率が90%を超えている。また、陸運局より許可を受けて福祉有償運送の事業を行っている。ヘルパーが運転者講習を受講し要介護認定を受けている透析患者の通院送迎の一部を担っている。現在、車いす対応の軽自動車を3台所有している。

■2019年度のトピックス・実績

- 江坂ケアプランセンター
新規利用者 月平均 6.8人
月利用者数 月平均 259人
主任ケアマネ2人体制で新規受け入れや困難ケースへの対応ができた。
豊津江坂南吹田地区の地域ケア会議やケアマネ懇談会

への参加、特定事業所加算を算定している事業所との合同事例検討会を定期的で開催した。また、部署内でも定期的に事例検討と情報伝達会議を行い、ケアマネジャー個々の能力向上と困難ケース等の情報共有ができた。

・いのうえヘルパーステーション

実人数 月平均 65.1人
新規利用者 月平均 2.3人

新規のほとんどは法人内ケアプランセンターだが、新規利用者を積極的に受け入れることができた。

井上病院の透析患者の通院送迎の受け入れを行った。

月1回のヘルパー会議においては研修会を実施しヘルパーの質の向上に努めた。

■今後の展望

・江坂ケアプランセンター

新規の要介護者が減少傾向にあるが、主任ケアマネ2名を中心に法人内連携だけではなく他事業所との連携を強化して新規獲得に努めたい。地域包括支援センターとの連携を引き続き密に行い、地域に密着した総合相談窓口としての機能も果たしていきたい。また、特定事業所加算を算定していることから法令順守を徹底し実地指導対策を部署内で周知していく。

・いのうえヘルパーステーション

今年度5月より特定事業所加算Ⅱを算定することになった。勉強会の開催や研修会への積極的な参加により介護サービスの質の向上を目指し、選ばれる介護事業所になれるよう各関係機関との関係を構築していきたい。また、透析患者の高齢化により車椅子対応のリフト車を希望する方が年々増加している。井上病院の受け皿としての機能を果たすべく福祉有償運送の今後の展開が課題となる。

表 1. 江坂ケアプランセンター実績

(単位:名)

実績人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
事業対象者	4	4	4	4	4	5	4	4	4	3	3	3	3.8
要支援	63	67	68	62	63	64	66	66	63	58	55	53	62.3
要介護	204	189	189	186	191	187	197	196	196	196	191	195	193.1
合計	271	260	261	252	258	256	267	266	263	257	249	251	259.3

新規	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
井上病院	0	0	0	2	1	1	1	3	4	1	2	2	1.4
その他の医療機関	0	0	0	3	0	0	1	0	1	1	0	1	0.6
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0.2
家庭	0	1	2	2	2	1	3	0	0	1	2	0	1.2
包括	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.5
その他	10	0	1	1	5	4	3	4	5	1	0	2	3.0
合計	13	1	4	8	8	9	8	7	11	4	4	5	6.8

表 2. いのうえヘルパーステーション実績

(単位:名)

新規利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0.3
要介護	0	1	3	3	4	2	2	3	2	0	1	3	2.0
合計	0	1	3	3	4	3	2	4	2	1	1	4	2.3

実利用	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援	21	22	22	21	20	20	19	21	19	21	18	19	20.3
要介護	44	36	44	42	44	45	46	46	48	47	48	48	44.8
合計	65	58	66	63	64	65	65	67	67	68	66	67	65.1



井上診療所

〒567-0046
 茨木市南春日丘 7-9-19
 URL: <http://inouecl.ajinkai.or.jp/>

理念・基本方針

＜理念・基本方針＞

- ★地域の皆様に信頼され、親しまれる医療を提供します。
- ・透析治療が安全・安心に実施できるよう援助する
- ・高齢者が安心して暮らせるサービスを提供する
- ・患者・家族に寄り添い、治療に対する理解が深まるよう支援する
- ・職員が誇りをもてる働きがいのある職場を形成する

施設概要

■施設設備

透析台数 30 台で月・水・金曜日、火・木・土曜日の午前、午後透析を実施している。

介護老人保健施設ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者も受け入れている。

2019 年度総括

働き方改革として適正な時間外業務管理と有給取得に取り組み実績を上げた。

高齢者透析を行う上でオンライン HDL の増加を目指し長時間透析の増加やダイヤライザーの種類の検討や栄養状態改善のため使用薬剤の検討を行った。年度末での Kt/V 値で改善が見られている。

またガバナンスの強化として、透析中のアクシデント減少と感染対策の更なる強化に努め、透析環境の整備や透析内容の変更を行った。

患者情報収集のため複数回のカンファレンスを実施し

看護の統一、評価を行った。また救急対応やターミナル期の関わりや社会活動の活用などが行えた。

5 月からは毎月の勉強会を立案し、13 回の勉強会が実施できた。

2019 年度活動状況

- 4 月 透析室室長・事務長着任
- 5 月 ベトナム人技能実習生 3 階入寮
- 7 月 三優監査法人監査
- 9 月 検査外注業者変更、大阪府看護部長会研修会
- 10 月 透析負担金引き落とし開始、エレベーターメンテナンス契約変更、消防訓練
- 11 月 永年勤続表彰、井上病院地域連携の集い参加、看護・介護管理職者研修会、ICLS 講習会参加
- 12 月 人事評価
- 1 月 茨木市医師会新年会
- 2 月 茨木市保健所立入検査、第 4 回愛仁会グループ臨床工学技士研修会、吹田エリア懇親会
- 3 月 全館停電検査、コロナ対応

2020 年度に向けて

働き方改革をより適正に取り組み、シフト勤務を確立し、時間外労働時間の短縮や有給取得率の向上を目指す。

透析患者確保のため、現状の透析患者の透析効率をアップさせ、延べ患者数を維持させ、新規外来患者の獲得とひまわり利用者の患者増を目指す。

透析効率性が施設基準を上回るようになれば、透析室の拡充も視野に入れ計画を立てていく。

井上診療所

■スタッフ紹介

今期の人員配置は、

医師：4名（辻本大治施設長，非常勤医師3名）

看護師：11名

看護助手：3名

臨床工学技士：4名

事務職員：1名 であつた。

■診療内容

透析ベッド数30床で午前、午後の透析を実施している。オンラインHDF対応コンソール15台。HD対応も15台である。

老健ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者を受け入れている。また、旅行者にも対応している。

■2019年度のトピックス・実績

当院の患者動態を見ると、2019年度末の患者数は109名（前年度110名）、転入が48名（前年度40名）であり、そのうち井上病院からは27名（前年度22名）で他施設からは21名（前年度18名）といずれからも増加した。

一方、転出は24名（前年度15名）、死亡は25名（前年度23名）であり、前年度に比較して転出数も死亡数も増加した。結果として在籍患者総数は1名の減少となった。オンライン血液透析濾過は総計6,113件となって前年の5,692件を上回った。以下（ ）内は前年度数を示す。

また、患者数のうち外来通院患者42名（53）、老健ひまわり利用の患者数67名（57）で、老健ひまわり利用の患者数が占める割合は年々外来通院患者数を上回っている。

透析延べ件数では、外来患者における件数が6,814件（7,641）、また老健ひまわり利用患者は8,646件（8,012）と増加した。総件数は15,464件（15,653）と前年を下回った。

以上の集計から、本年度は転入数が増加したものの、転出数と死亡退院者もともに増加したため、総透析件数は189件の減少であった。

4月の時点で透析生産性が3.5となっていたため、早期に透析室拡充の計画を立てたが、外来通院患者の減少と前半期の老健ひまわり利用者の減少によって拡充計画は延期とした。

透析件数の減少には重症化による入院患者の増加が主たる要因であったため、Kt/Vを比較して低値の患者については透析時間と透析条件を見直し、特に老健ひまわりと連携して高齢者への対応を考慮した「井上診療所維持透析指針」を作成した。

また、感染対策として標準予防策の徹底を図り、手指消毒やガウンテクニック、消毒の時機と手順の再確認を行い、透析開始セットの変更を実施した。

■今後の展望

適正な時間外業務管理として早出・遅出に対応したシフト勤務を確立し、有給取得率の向上を図る。

当院の指針をもとに透析患者の透析効率を向上させ、安定した透析実績を維持する。その上で透析生産性が施設基準を越える傾向となれば、再度透析室の拡充を考慮することになる。

COVID-19の全貌が未だ不確実な中で、逐次変容する態勢への緻密な対応を怠らず、当院での透析診療が利用者・勤務者いずれからも崩壊に至ることなきよう、注意を怠ることなく緊張を継続していく。

表 1. 透析患者数（利用者数）とコンソール 1 台あたりの生産性

(単位:名)

	外来患者数		ひまわり利用者数		合計	コンソール1台あたりの生産性
	実人員	延べ数	実人員	延べ数		
4月	53	636	58	678	1,314	3.50
5月	53	643	56	695	1,338	3.40
6月	50	580	62	658	1,238	3.23
7月	47	616	62	725	1,341	3.37
8月	48	617	66	734	1,351	3.37
9月	46	555	66	715	1,270	3.40
10月	45	572	65	738	1,310	3.27
11月	41	520	66	698	1,218	3.70
12月	42	534	66	733	1,267	3.23
1月	42	526	64	726	1,252	3.23
2月	43	502	65	759	1,261	3.43
3月	43	517	67	787	1,304	3.40

表 2. オンライン透析件数

(単位:件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
433	457	549	579	581	523	535	531	519	486	451	469	6,113



介護老人保健施設 ひまわり

〒567-0046

茨木市南春日丘 7 丁目 9 番 18 号

URL: <http://himawari.ajinkai.or.jp/>

理念・基本方針

<運営理念>

私たちはお客様本位のケアを提供します。
 私たちはご家族様と共に自立と在宅ケアを支援します。
 私たちは働きがいのある職場づくりを目指します。
 私たちは地域と連携した施設を確立していきます。

施設概要

入所者定員/100名（短期入所療養介護含む）
 通所リハビリテーション/35名

2019 年度総括

前期取得した加算型要件（在宅復帰・在宅療養支援機能加算Ⅰ）を維持しながら在宅復帰強化型を目指し、連携病院である井上病院からの透析患者受け入れを促進しながら、他医療機関からの利用者受け入れを行い、透析患者を受け入れられる老健として営業活動を実施したが、1日平均利用者数 93.5 名と低迷した。

2019 年度活動状況

4月 お花見ドライブ、喫茶（毎月）、季節のご膳（毎月）、飲み物レク（毎月）

- 5月 運動会
- 6月 紫陽花祭り
- 7月 夏祭り、ふれあいデイ（園児受入）
- 8月 地域向け学習会
- 9月 ふれあいデイ（園児受入）、地域向け学習会、お食事会
- 10月 ふれあいデイ（園児受入）、職業体験（中学生）、万博散策
- 11月 ふれあいデイ（園児受入）、地域向け学習会、お食事会、職業体験（中学生）、みかん狩り
- 12月 お食事会

2020 年度に向けて

今後も井上病院との良好な関係性を継続しながら、より一層スムーズな入退所を図る必要があるため、期首より吹田エリア連携会議を開催し顔を合わせての連携を図る。その一方、他の医療機関や居宅支援事業所・地域包括支援センターへの営業活動も行い、入所・ショート・通所の新規利用者獲得を図る。特に通所に関しては利用者の減少が継続しており、より積極的な営業が必要であるため、前期から始めた実績報告を兼ねた居宅支援事業所への営業訪問をこれまで以上に行う。

介護老人保健施設 ひまわり

■スタッフ紹介

・介護老人保健施設ひまわり

施設長 井上琢也（医師）

事務長 吉田篤史（事務）

療養科長 生田洋子（看護師）

介護職員 37名（常勤 32名・非常勤 5名）、看護師 13名（常勤 11名・非常勤 2名）、介護支援専門員 1名、理学療法士 7名（常勤 5名・非常勤 2名）、作業療法士 2名、相談員 2名、管理栄養士 1名、薬剤師 1名、事務職員 1名、送迎職員 5名であった。期中の異動者は、理学療法士 1名、事務 1名、中途入職者は 8名であった。

・ひまわりケアプランセンター

介護支援専門員 3名、事務職員 1名

■業務内容

・介護老人保健施設の本来の役割である家族や地域の機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるための支援を行うと同時に当施設は地域を越えて透析患者も入所利用できる介護老人保健施設を強みに運営している。

・施設概要

入所療養介護定員/100名（短期入所療養介護含む）

通所リハビリテーション/35名

■2019年度の実績・トピックス

・介護老人保健施設ひまわり

2019年度の延人数は入所 32,323名（1日平均 88.3名、うち透析患者 20,086名、62.1%）、通所 6,109名（1日平均 19.7名）でショート入所の延人数は 1,904名（1日平均 5.2名）、在宅復帰率 20.9%、ベッド回転率 23.5%、入所者の延人数に対し要介護度 4、5の占める割合は 53.3%であった。平均介護度はロング 3.55、通所 2.57、予防通所 1.78、ショート 3.44であった。

ロング入・退所総数はそれぞれ 246名・236名で、うち井上病院との入・退所はそれぞれ 157名・144名であった。相談員がこれまで 1名体制だったが、今年より 2名となり積極的な営業活動を行えた。具体的には、これまで通所の実績報告を郵送にて行ってきたが、近隣居宅介護支援

事業所には相談員が持参して顔の見える関係性を築くことにより紹介者数増を目指した。また、体験デイのシステムも短時間で気軽に利用できるスケジュールに変更し、在宅ケアマネからの問い合わせに対しても、書類や面接の簡素化により、利用可能になるスピードをアップした。通所リハビリの現場では、利用者に興味・関心チェックシートや在宅生活での困りごと、活動要望などのアンケートを取り、利用者のニーズの把握を行った。その結果、介護では、レクリエーションにそのニーズを反映して、文化系と運動系の 2種類のレクリエーションを提供する体制に変更した。リハビリでも、各利用者の困りごとを解決するための個別リハビリや自主的に活動性をアップできる、楽しみながらできるリハビリロードを作り、色々なリハビリ種目に挑戦し、達成していただくリハビリを提供するように変更した。新しく取り組んだ通所リハビリの内容を、在宅ケアマネに知ってもらう試みとして、在宅ケアマネの見学会を実施し、好評を得て、利用者紹介に繋がった。

結果、今期中での利用者増には至らなかったものの、来期も継続することにより新規利用者獲得を目指す。

・ひまわりケアプランセンター

プラン作成件数は、年間平均 114 件で担当件数は 1 人当たり平均 36.7 名であった。

■2019年度のトピックス

・施設基準

2019年度は 1年間を通して加算型（在宅復帰・在宅療養支援機能加算 I）を算定することができた。

■今後の展望

・施設方針

2020年度は、これまで以上に透析患者を受け入れられる老健をアピールし、入所・通所とも新規利用者獲得を目指す。一方で、井上病院との連携を尚一層深めることにより、井上病院からの紹介者、及び一時的に井上病院に入院した利用者の早期受け入れを図る。

通所リハビリについては、パンフレットやホームページの充実を図り、ひまわりケアプランセンターとも連携することにより広報活動に力を入れていく。



介護老人保健施設

つくも

〒565-0862

吹田市津雲台 4-7-2

URL: <http://tsukumo.aijinkai.or.jp/>

理念・運営方針

<理念>

- ・私たちはお客様本位のケアを提供します。
- ・私たちはご家族と共に自立と在宅ケアを支援します。
- ・私たちは働き甲斐のある職場づくりを目指します。
- ・私たちは地域と連携した施設を確立していきます。

<運営方針>

- ・サービス計画に基づいて、看護、医学的管理のもとにおける介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、居宅における生活への復帰を目指します。
- ・入所者の意思及び人権を尊重し、常に入所者の立場に立ってサービスの提供に努めます。
- ・明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結び付きを重視した運営を行い、市町村、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所、介護保険施設、保険医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めます。

施設概要

■入所者定員/90名（一般棟 60名、認知症専門棟 30名）

■通所者定員/60名（大規模Ⅱ型）

<併設事業所>

- ・つくもケアプランセンター
- ・つくもヘルパーステーション
- ・吹田市津雲台・藤白台地域包括支援センター

2019年度総括

2019年（令和元年）4月より、社会医療法人愛仁会に合併して、令和元年がつくもの愛仁会所属元年となり、新しい体制でスタートした。

入所は、インフルエンザウイルスの発生や原因不明の感冒があるも、感染拡大を長期化することなく、入所の稼働は前年度並みを維持できた。しかし、通所は、8月15日と10月12日の台風接近による臨時休業や施設入所や入院等による利用者の解約が増え、稼働率が著しく低下した。超強化型老健の継続のために必要な在宅部門との退所時の連携不足や、世間に通所リハビリの競争相手（デイサービス、介護付き有料ホーム、サービス付き高齢者住宅、地域密着型サービスなど）が増えていることに対する現状分析が不十分で対応が遅れた。下半期は、月1回の通所リハビリ運営改善会議を開催して、多職種が集まり、今後のつくも通所リハビリのあり方について検討した。

併設事業所のケアプランセンターは、7月に愛和会（豊中）からケアマネジャーが1名異動となるまで定員よりも1名少ない3名体制での活動となり、2019年度は予算を下回る活動結果となった。ヘルパーステーションは、4月と8月に常勤の訪問介護員が入职し、下半期は常勤5名体制で安定して稼働が上がった。地域包括支援センターは、年間通して安定した活動ができた。つくも全体では、2019年度は予算未達成となった。

施設の設備が開所20年を経過し、老朽化による故障が増加（エアコン、水回り、風呂場）して、6月に2階と3階の空調機器の更新工事を行った。

ベトナムからの技能実習生（1月～）やりハビリ学校、看護・介護専門学校などの実習を積極的に受け入れた。

2020年2月には新型コロナウイルスの感染拡大が全国各地で進行し、老健つくもでも感染防止策を継続的に実施した。しかし、ショートステイやデイケアの利用自粛が相次ぎ、利用者数が大幅に減少した。3月に予定していたグリーンケアや合同辞令会や各種会議の開催も中止とした。事業の継続と感染症予防のバランスを保った安定した活動が2020年度の課題となった。

2019年度活動状況

4月	期首全集、辞令交付、デイケア家族会、入所家族会
5月	技能実習生入国セレモニー、ボランティア懇親会
6月	吹田市職員来所（土地貸付の件）、ケアイより支援相談員がつくもに出向、大阪コミュニティー専門学校見学
7月	津雲台小学校生徒との交流、第19回大老協懇話会、参院選期日前投票、大阪医専看護学生5名の実習開始、つくもヘルパーステーション実地指導（障害福祉サービス）
8月	大阪医療秘書福祉専門学校の実習開始
9月	地域包括支援センター実地指導、業務改善発表会
10月	第24回つくも介護講演会、つくも秋祭り、津雲台小学校街かど体験学習、大阪病院学会、老健二葉園より2名が交換実習
11月	竹見台中学校・古江台中学校・山田東中学校生徒福祉体験、茨木市保健所の厨房巡回
12月	介護老人保健施設つくも実地指導、第20回デイ家族会、つくも忘年会
1月	ベトナム人技能実習生正月体験、技能実習生2名がつくもに勤務開始
2月	吹田エリア合同懇親会
3月	新型コロナ感染の影響により各種イベントや会議を中止

2020年度に向けて

2020年度は、施設の組織体制を編成して、介護の療養科長（西科長）と在宅科の科長（青木科長）を任命し、施設運営に新風を吹き込む。2019年度に低迷した通所リハビリの活動の活性化を図り、1日平均47.1名を目指す。入所の稼働安定に向けて、計画的なベッドコントロールを行い、1日平均86.5名を目指す。

今までも取り組んできた多様な人材が活躍できる職場づくりを継続して、つくもで働く職員がやりがいを持って、継続的に働くことができるように、アメニティ環境の整備や業務体制の見直し等の働き方改革を中心に以下の内容について重点的に取り組んでいく。

1. 既存業務体制の抜本的な見直しを行い、業務の効率化・標準化を進め、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得など適正な労務管理を行う。
2. ベトナム人技能実習生の充実した実習体制を構築し実施することで、介護職員のモチベーションを上げ、介護の質を高める。
3. 通所リハビリの機能強化として、短時間サービスやリハビリ機器の導入、入浴設備（個浴）の改修を進める。また、適正な利用定員を設定し、デイルームの用途を見直し、地域住民向けの予防活動や職員のアメニティスペースなど多目的スペースとして有効活用する。
4. 大規模災害に備えたBCPの策定を進め、福祉避難所としての役割や地域と連携した災害時の体制を構築する。
5. 老朽化していく施設設備の計画的な修繕を進め、利用者及び職員が過ごしやすい環境づくりを行う。

2020年度も、自分たちの活動を掲載したつくも20周年記念誌（2020年2月）「歩んできた20年に感謝して、そしてこれからも」のサブタイトルで表しているように、全職員で更に前に進む「老健つくも」でありたい。

介護老人保健施設 つくも

■スタッフ紹介

- ・介護老人保健施設つくも
施設長（医師）1名，非常勤医師2名，
看護職員12名（うち非常勤1名），
介護職員58名（うち非常勤26名），
理学療法士・作業療法士等9名（うち非常勤1名），
支援相談員4名（うち非常勤1名），管理栄養士1名，
介護支援専門員1名，事務職員5名（うち非常勤1名），
送迎職員8名（うち非常勤5名，委託3名）
- ・つくもケアプランセンター
介護支援専門員4名，事務員1名
- ・つくもヘルパーステーション
訪問介護員14名（うち非常勤9名）
- ・吹田市津雲台・藤白台地域包括支援センター
社会福祉士1名，介護支援専門員2名，保健師1名，
非常勤事務員1名

■業務内容

- ・介護老人保健施設入所，短期入所療養介護（予防含む）
- ・通所リハビリテーション（予防含む）
- ・居宅介護支援事業，訪問介護，総合相談等

■2019年度のトピックス・実績

2019年度は，4月に社会医療法人愛仁会に合併して，新しい体制でスタートした。

入所は，2018年5月より算定を開始した在宅復帰・在宅療養支援機能加算Ⅱ（超強化型）を2019年度も継続して算定要件を堅持することができた（表1）。

入所延べ人数は前年度より601名増加して，短期入所は89名増加した。入所（短期入所含む）合計で年間延べ人数が31,175名で1日平均85.2名であった。インフルエンザの発生や原因不明の感冒があったが，感染拡大を長期化することなく対応できた。年間営業日数が1日多い366日稼働であったことや，10月の消費税増税に伴う介護報酬の改定と特定処遇改善加算の算定により，収入が前年比103.5%と順調に推移した（図1）。

通所は，8月と10月に台風接近により臨時休業して，年間308日営業であった。新規登録者に対して施設入所

や入院等による除籍者数が上回って，年間延べ人数が13,691名で前年度よりも1,002名減少した。定員60名に対して1日平均利用者数が44.2名であった。入所同様に10月の介護報酬の改定により平均単価は増額となったが，利用者数の減少により収入が前年比93.6%と大幅減収となった（図2）。

併設事業所のケアプランセンターは，7月までケアマネジャーが定員よりも1名少ない3名体制での活動となり，年間延べ担当件数が1,630名と前年比82.8%であった。

ヘルパーステーションは，上半期に2名の訪問介護員が入職して，下半期は常勤5名体制で安定稼働した。

地域包括支援センターは，年間通して安定した活動ができ，つくも全体での総収入は700,799千円で前年比100.6%であったが，予算達成には至らなかった。

施設設備の老朽化が進む中，6月には2階と3階の空調機器の更新工事を行った。1月にはベトナム人の技能実習生2名がつくもに勤務を開始して，その他の看護，介護，リハビリ実習生も積極的に受け入れた。2月には新型コロナウイルスの感染拡大が全国各地で進行し，つくもでも感染防止策を実施した。短期入所や通所利用者の利用自粛が相次ぎ，利用者数が大幅に減少した。3月に予定していたグリーフケアや合同辞令会，各種会議の開催も中止とした。事業の継続と感染症予防のバランスを保った安定した活動が2020年度の課題となった。

■今後の展望

2020年度は，通所の稼働率回復に向けて重点的に取り組む。曜日別の利用のばらつきを減らし，柔軟な送迎体制や短時間制を導入して，新規利用者の獲得を図る。既存のサービスを改善してリハビリの充実を進める。利用定員を50名へと縮小して，余ったスペースを職員のアメニティ環境や地域貢献活動の場として有効活用する。1日平均47.1名を目標に予算達成を目指す。

今までも取り組んできた多様な人材が活躍できる職場づくりを継続して，つくもで働く職員がやりがいを持って，継続的に働くことができるように，業務体制の見直し等を進める。また，地震や台風による自然災害以外に，感染症に対して柔軟に対応できる施設を目指す。

表 1. 超強化型の条件は 70 点以上 *黄色部分が 2020 年 3 月度の実績：合計 76 点

在宅復帰・在宅療養支援等指標								
下記評価項目(①～⑩)について項目に応じた値を足し合わせた値								
最高値:90								
① 在宅復帰率	50%超	20	30%超	10	30%以下	0		
② ベッド回転率	10%以上	20	5%以上	10	5%未満	0		
③ 入所前後訪問指導割合	30%以上	10	10%以上	5	10%未満	10		
④ 退所前後訪問指導割合	30%以上	10	10%以上	5	10%未満	10		
⑤ 居宅サービスの実施状況	3サービス	5	2サービス	3	1サービス	2	0サービス	0
⑥ リハ専門職員の配置割合	5以上	5	3以上	3	3未満	0		
⑦ 支援相談員の配置割合	3以上	5	2以上	3	2未満	0		
⑧ 要介護4又は5の割合	50%以上	5	35%以上	3	35%未満	0		
⑨ 喀痰吸引の実施割合	10%以上	5	5%以上	3	5%未満	0		
⑩ 経管栄養の実施割合	10%以上	5	5%以上	3	5%未満	0		

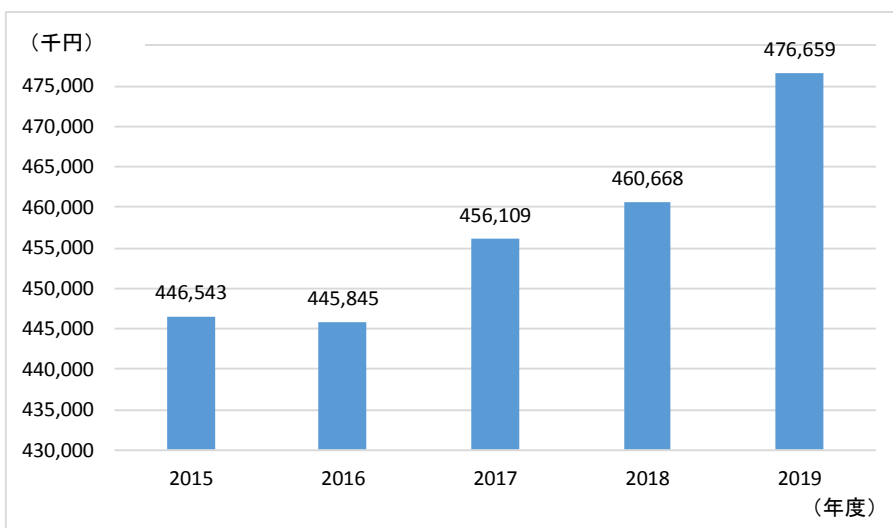


図 1. 過去 5 年間の入所年間収入の推移

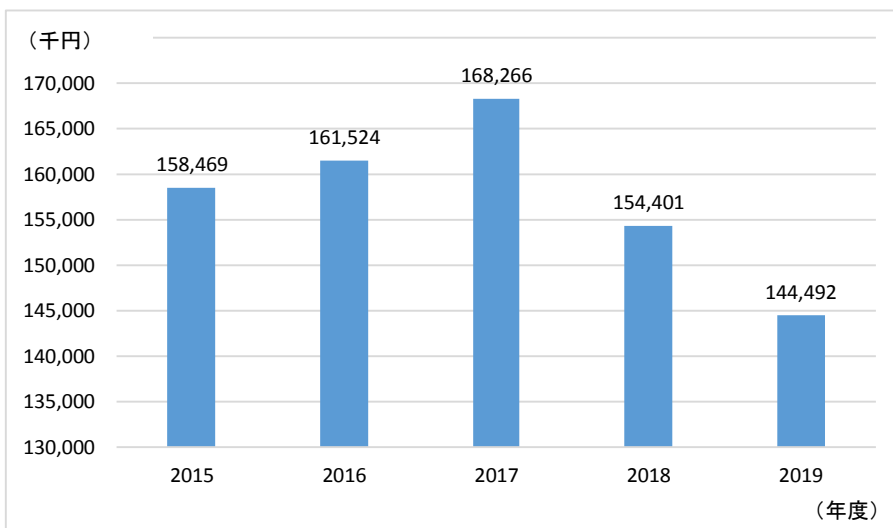


図 2. 過去 5 年間の通所年間収入の推移



社会福祉法人 愛和会 (宝塚地区)

〒665-0874

宝塚市中筋2丁目10番18号

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/aiwakai/>

社会福祉法人愛和会 理念

1. 広く社会のためにより良い保健福祉サービスを提供し、生きがいのある社会生活の増進に貢献する。
2. 人間の尊厳と人権を尊重し、公平で平等な法人活動に努める。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして利用者の保健福祉の向上と法人の健全な発展を図る。
4. 保健福祉に携わるものとしての使命を自覚し、学識、技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、利用者と共に法人に働く誇りと喜びを共にする。

モットー

貢献・創意・協調

愛和会（宝塚地区）施設一覧

【本館】

- ・特別養護老人ホーム宝塚あいわ苑
- ・宝塚あいわ苑デイサービスセンター
- ・宝塚あいわ苑訪問看護ステーション
- ・なかよし保育園
- ・中筋児童館

【あいわ結愛^{ゆめ}ガーデン】

- ・グループホーム宝塚あいわ苑
- ・小規模多機能型居宅介護 こもれび
- ・認知症対応型通所介護 花見鳥（はなみどり）

【Waiwai コミュニティあいわ】

- ・長尾地域包括支援センター

- ・ケアプランセンター宝塚あいわ苑
- ・ヘルパーステーション宝塚あいわ苑

2019 年度総括

2019年度は旧長尾支所跡地利活用事業として、Waiwai コミュニティあいわが開設した。自法人の長尾地域包括支援センター、ヘルパーステーション宝塚あいわ苑、ケアプランセンター宝塚あいわ苑に加え、社会福祉協議会（地区センター）が同敷地で稼働することにより、地域住民にとって相談しやすい仕組み作りがなされた。実際、長尾地域包括支援センターへの直接来所による相談件数も前年度を大幅に上回る結果となった。

また、6月にはあいわクリニックが開院。特別養護老人ホーム宝塚あいわ苑の嘱託医として入所者の健康管理の他、地域に向けた一般診療や高齢者の生活支援を中心に稼働している。

今年度は愛和会宝塚地区の拠点が3箇所（本館、あいわ結愛ガーデン、Waiwai コミュニティあいわ）に分かれ、人事異動に伴い、各事業所長の多くが代わったこともあり、各事業所面の連携について見直す1年となった。

2019 年度活動状況

- | | |
|----|---|
| 4月 | 期首全集及び役職辞令交付式、保育園入園式、業務改善リーダー研修、業務改善ヒアリング |
| 5月 | オレンジ結愛カフェ FIKA、三優監査法人期末監査、宝塚ナビネット祭り、合同連絡調整会、宝塚ナビネット祭り、合同連絡調整会 |
| 6月 | オレンジ結愛カフェ、合同連絡調整会、地域児童 |

育成環境づくりフォーラム

- 7月 長尾ふれあいひろば夏祭り, 上半期褒賞表彰式, オレンジカフェ結愛カフェ FIKA, お泊り保育, 近畿老人福祉施設研究協議会滋賀大会
- 8月 夏祭り(結愛ガーデン), お泊り保育, 三優監査法人監査
- 9月 あいわの集い, 合同連絡勉強会, 敬老会(結愛ガーデン), 業務改善予演会, オレンジカフェ結愛カフェ, 介護福祉施設合同業務改善発表会
- 10月 合同連絡勉強会, オレンジカフェ結愛カフェ FIKA, 敬老祭(特養), 丸橋小学校防災訓練
- 11月 長尾まつり, オレンジカフェ結愛カフェ FIKA, 地域3団体研修会, 宝塚市社会福祉施設大会
- 12月 下半期褒賞及び忘年会, JAふれあい祭り, 納会, 長尾南小学校防災訓練, 児童館監査
- 1月 全集及び新年互例会, 初詣, 鑑開き, 長尾小学校防災訓練, 福祉避難所開設訓練, 職員健康診断
- 2月 あいわの集い, なかよし保育園
- 3月 三優監査法人監査, 保育園卒園式

2020年度に向けて

2020年度は、一昨年より開始された第7期介護保険事業計画に沿い、愛和会(宝塚地区)として宝塚版地域包括ケアの構築を更に進めたい。

Waiwaiコミュニティあいわが阪急山本駅前にて稼働し、日頃より社会福祉協議会(地区センター)と顔の見える関係が構築でき、地域のあらゆる相談について対応できつつある。地域交流スペースふらっとに関しても、地域住民が

主体となる地域3団体、社会福祉協議会、愛和会で協議の上、運営を進めている現状にある。今後は既存のサービス事業としての対応に捉われず、新たな社会課題や地域ニーズの把握に努め、地域交流スペースとしての価値を見出していきたい。

各事業については、特養あいわ苑入所部門は看取りの対応について改めて全ての職員が共通の認識をもってケアの向上にあたる教育啓発活動を行い、利用者、ご家族に更に寄り添える施設環境を創造する。通所介護は宝塚地区におけるサービスの根幹を担っており、利用者の受け入れを踏まえ、物的、人的資源の活用のための工夫が必要である。訪問看護はスタッフの充実に見合う活動を得るため、広範囲な医療機関との連携を進めていく。地域密着型サービスとしてあいわ結愛ガーデンについては Waiwai コミュニティあいわと更に連携を深め、地域、行政との一層質の高い関係を築くことを目指す。保育園については地域におけるブランドカアップのための活動を強化したい。加えて、各事業の活動を支える事務部門の業務を円滑に進めるためのITの活用、非正規職員の採用など柔軟で効率的な人材配置を行いたい。いずれの事業においても、今年度開院したあいわクリニックとも連携、運動の上、運営を進めていきたい。

また、福祉サービスや高齢、保育、児童部門に限らず地域や行政との対話の場を持ち、改めて新たな形を介護技術の質の研鑽に加え、ソーシャルスキルを養うべく職員教育体制も構築していきたい。並行して、職員の健康管理や職場環境改善及び過重労働とメンタルヘルスに注力した活動を行っていく。

特別養護老人ホーム 宝塚あいわ苑

■スタッフ紹介

施設長	1名
医師	1名
介護職	34名（非常勤含む）
看護職	5名
ケアマネージャー	1名
生活相談員	2名
管理栄養士	3名（非常勤含む）
理学療法士	1名
作業療法士	1名

■活動内容

1. ケア提供体制の整備

看護職と介護職の業務を見直し、記録の充実とケアの質の向上を図ることを目的に「受け持ち担当制」を導入した。

2. 「ひょうごケアアシスタント制度」事業に参画

兵庫県主催のケアアシスタント研修開催施設に応募し、介護補助業務研修を実施し、人材確保に努めた。

※ケアアシスタント：介護補助者

3. 利用者の重度化対応のための人材育成

- 1) 喀痰吸引研修の計画的受講
- 2) 皮膚創傷ケア認定看護師のストーマケア指導実施

4. あいわクリニックとの連携

あいわクリニック開設に伴い、定期回診、予防接種などの業務マニュアルを作成しスムーズな連携を図った。

■2019年度のトピックス・実績

入所ロング利用者の医療機関入院数は38件、延べ日数633日であった。前年度23件に比して15件増加した。

退所者30名であり、退所者の内訳は死亡退所28名、長期入院2名。死亡退所の内訳は苑内看取り13名で医療施設での死亡は0名であった。前年度に比して、退所数は大幅に増加した。退所者は創立時から入所している利用者も含まれ、90歳以上の超高齢者の退所が多くを占めた。

入所ショート利用者は前年に比して26件減少した。ベッド回転率は1.3回にとどまった。また、新型コロナウイルス対応に伴い、3月はキャンセルが13件と増加した（月平均7件）。重度利用者を受け入れる医療連携強化加算の対象者は胃瘻・人工肛門造設者であり、受け入れは月平均6.4名で前年度より平均2名増加した。医療処置を必要とする利用者の増加に伴い、明石医療センター看護部と連携し、皮膚創傷ケア認定看護師とともにストーマケアの勉強会を開催し、介護福祉士とともにベッドサイドケアを実施した。全員の介護福祉士が認定看護師とともにケアを実施できたことにより介護福祉士のストーマの知識を深めることができ、医療処置を必要とする利用者受け入れがスムーズになったと考えられる。

兵庫県主催のケアアシスタント制度事業に参画した。参画するにあたり、人材雇用のあり方やケアアシスタント制度についての勉強会を副主任以上の役職者を対象に開催した。また、介護福祉士の補助業務を洗い出し、業務整理を行い研修生受け入れに備えた。その結果、1名が研修後、採用に繋がった。

従来夏祭りを開催してきたが、近年の猛暑とご家族の高齢化に伴い、開催時期を遅らせて「秋のお食事会」を企画した。食堂をレストラン風にテーブルデコレーションし、特別メニューの食事を家族と利用者へ提供した。家族46名が参加した。

■今後の展望

地域包括ケアシステム推進のために特別養護老人ホームに求められていることは医療ニーズの対応や連携・自立支援・重度化防止及び対応である。宝塚あいわ苑を利用されている方の大半は何らかの病気や障害を持っている。あいわクリニックと連携し、日々の生活を支える介護と医療的管理の双方の充実を図りたいと考える。また、看護職と介護職が協働して質の高い介護サービスの提供ができるようケア提供体制の充実強化を図りたいと考える。さらに新人介護福祉士受け入れに際して、年間教育プログラムに基づいた育成・定着に努めたい。

宝塚あいわ苑 デイサービスセンター

■スタッフ紹介

科長	1名	(介護福祉士)
介護福祉士	7名	(非常勤含む)
介護員	6名	(非常勤含む)
看護師	2名	(非常勤含む)
理学療法士	1名	作業療法士 1名
社会福祉士	1名	ドライバー 4名

■業務内容

今年度は4月から新規獲得に取り組んだ。結果、新規紹介件数は減少したものの、全体の利用実績件数は昨年度を上回った。新規利用者は介護度1、2の利用者の割合が増加したことで、次年度の中重度加算算定が困難となる可能性が生じた。対策として、下半期は介護度3以上を優先的に獲得し、同加算の算定要件を維持することができたことと、前年度の利用実績を上回る要因ともなった。

その他の加算については、概ね前年度と差は無く経過したが、機能訓練加算Ⅱの算定率が平均50%前後と低いことは次年度の課題である。

日々の活動としては、以前から継続的に取り組んでいる利用者が洗濯物を畳まれる作業や、食事の準備や盛り付けといった4DAS（認知症機能訓練）の要素をリハビリテーションの機能訓練プログラムの中に加え、利用者自身も積極的に参加されている。これらの取り組みはセラピスト等専門職員に限らず、全職種が積極的に関わることができた。また7月には近畿老人福祉施設研究協議会滋賀県大会に参加し、宝塚あいわ苑デイサービスでの4DASの活動報告とその必要性について発表する機会を得た。

ボランティアについては、音楽や歌、踊りなど、利用者

家族や地域住民からの紹介を中心に多彩なボランティアを受け入れ、今期は2団体が追加登録となった。役職者が中心となって曜日ごとのバラツキを調整するなど、計画的にボランティアを受け入れ、現在は月平均5回の活動を実施している。

レクリエーションについては、少人数で行うクラブ活動も積極的に取り組んだ。特に園芸クラブでは利用者自身で育てた季節ごとの野菜や果物を収穫、調理し、食すなど今期も好評であった。また手芸クラブでは、毛糸を編んでソファカバーを作成するなど、数多くの作品を作り、飽きないレクリエーションを実施できている。

夏祭りも企画、運営を利用者参加型で取り組んだことにより、利用者や家族から好評を得ることができた。

■2019年度の特ピックス・実績

今年度の実績は延べ利用者人数11,259名で前年比100.1%、年間の日平均実績は36.6で前年比102.3%、新規紹介件数66名で前年比79.5%の結果となった。

送迎運転手の急な退職等に伴い、年度途中からはドライバー業務をアウトソーシング化し、安定した送迎職員の配置と、デイサービス職員の業務の見直しに努めた。

■今後の展望

1. 安定稼動に向けた利用者の獲得と人材確保
2. 新規獲得に向けた同法人内事業所との連携強化
3. 個別機能訓練加算Ⅱの算定率向上
4. 認知症ケアへの継続的な取り組みと質の向上
5. スタッフの教育システムの構築

表. 活動実績（2019年4月～2020年3月）

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	913	965	934	1,004	966	909	960	989	966	899	927	827
介護	733	789	769	828	796	757	811	848	818	756	774	689
総合	180	176	165	176	170	152	149	141	148	143	153	138
日平均	35.1	35.7	37.4	37.2	37.2	37.9	35.5	38	38.6	37.5	37.1	31.8

宝塚あいわ苑 訪問看護ステーション

■スタッフ紹介

看護科長/管理者	1名		
常勤看護師	5名	非常勤看護師	2名
理学療法士	3名	作業療法士	1名
言語聴覚士	0.2名		

■業務内容

新規訪問依頼は全てに対応し 64 件であった。内訳としては包括・ケアプラン、病院、開業医、小規模多機能・グループホーム等で、包括・ケアプランが 71%を占めている。包括・ケアプランのうち 67%はあいわ苑であり、小規模多機能、グループホームも合わせて、法人内で利用者の状態変化に応じた対応が行えている。

ターミナル期の関わりは、パンフレット等も用いて利用者・家族との話し合いをより重視した。グループホーム、小規模多機能の利用者についても、適切な場所での看取り対応が実践できたと言える。結果、看取り件数は 13 件でターミナル加算の取得は 11 件 85%となった。

あいわ結愛ガーデンとの医療介護連携としては、グループホームへの定期訪問時に介護スタッフからの疑問、質問に対応できるような雰囲気作りを心掛け対応した。

セラピストの対外活動としては、宝塚市介護予防事業の

体操指導や連絡会への参加と、作業療法士による認知症カフェへの関わりに加え、宝塚市自立支援型地域ケア会議に理学療法士が出席し、具体的な支援方法について助言する機会を得た。

他機関との連携では、宝塚医師会との合同研修や地域包括ケアシステム研究会、地域つながる懇談会への参加と、宝塚市立病院看護部からの研修者の受け入れに対応した。

■2019年度のトピックス・実績

あいわクリニック開設、科長・管理者の変更、常勤看護師、非常勤看護師の入職者があり新体制での活動となったが、訪問件数は 9,128 件（月平均 761 件）にとどまり前年比 93.6%であった。

12 月には ICT 記録システムを導入し、利用者情報の把握が十分に行え、業務効率に繋がった。

■今後の展望

1. Waiwai との連携を強化し地域ニーズへの対応
2. 専門性の発揮と、記録類の充実による訪問看護・リハビリの質向上
3. 地域住民に対する訪問看護の周知活動

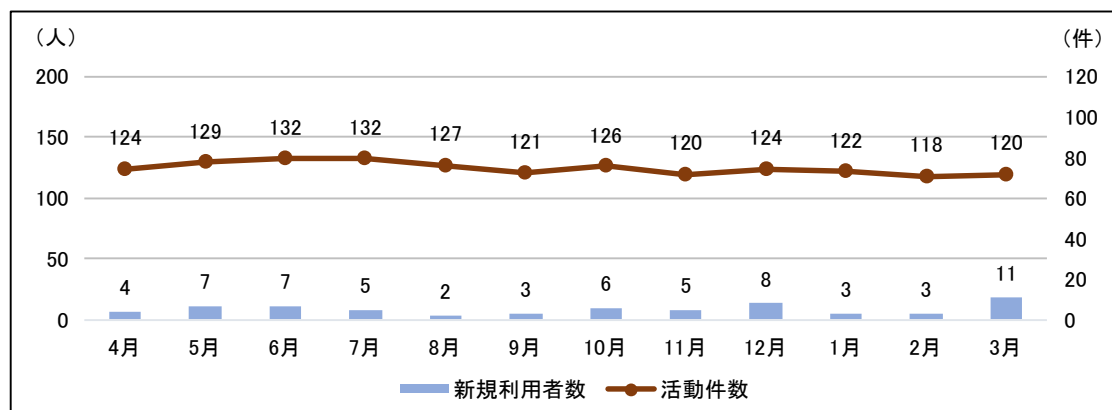


図. 訪問看護新規利用者・訪問件数（2019年4月～2020年3月）

表. 訪問看護延べ件数（2019年4月～2020年3月）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動延べ件数	749	790	761	867	784	802	812	729	718	677	665	774

ケアプランセンター 宝塚あいわ苑

■スタッフ紹介

管理者（主任介護支援専門員兼務）	1名
主任介護支援専門員	4名
常勤介護支援専門員	4名

■業務内容

2019年度は、管理者1名、主任介護支援専門員4名、介護支援専門員4名の総勢9名での運営となった。前年度、退職者等により利用者数が減数となったが、2019年4月にWaiwaiコミュニティあいわが開設したこともあり、長尾地域包括支援センター（以下、包括）からの紹介を中心に利用者の獲得に努めた（表1）。特に、包括との連携が必要なケースについては積極的に受け入れた。包括だけでなく、病院等からの新規依頼にも対応。ターミナルと診断された方を含め、月平均1件以上の癌疾患の利用者の新規受け入れを行った。介護度は低くても多様な疾患の利用者がおられるため、医療系の研修にも積極的に参加し、ミーティング内での伝達研修を行い、スキルアップに努めた。

■2019年度のトピックス・実績

2019年度のケアプラン作成数は3,280件、介護支援専門員1人当たりの平均ケアプラン数は、31.0件であった（表2）。役職が3名体制となり、副主任2名はコンピテンシー講習を受講。また、主任介護支援専門員が5名となり、ケアマネジメントの質の向上を図るための体制が整った。

毎朝の情報交換だけでは検討しきれない事例について

は、ミーティング内で事例検討を行い、利用者の悪化予防やリスク回避ができるよう、多角的な視点や気づきを養うことに注力した。業務改善活動を通じたケアマネジメントにおいては、ケアプランに盛り込めるようサロン活動や自治会の活動の見学や参加を行い、地域資源の活用を促進した。民生児童委員との連携の在り方を見直し、各職員が直接、連携をとる形に変更したことで、迅速に情報共有ができるようになった。事業方針に沿い、近隣の病院5か所への営業活動を行った結果、病院からの新規利用者の獲得に繋げることができた。2019年度は、介護支援専門員実務者研修実習受入協力事業として、1名の実習生を受け入れた。

■今後の展望

2020年4月からは包括との委託契約を開始予定としており、今後は夫婦でプランを利用されるケースへの対応や、介護度の変更による事業所変更等によって、利用者にも不利益が発生しないように努める。2020年3月に引き続き、4月以降も新型コロナウイルス感染拡大予防の対応による、介護保険サービスの自粛が見られることが予想されるため、介護保険サービスを利用していない期間中も生活を継続していけるようサポート体制を敷く。また、今後は医療機関との連携を密にし、新規退院者や重度化した方においても、スムーズな対応ができるよう受け入れ態勢を整備する。今後、より長尾地域包括支援センターの依頼に柔軟な対応ができるよう、介護支援専門員の人材の確保とスキルアップに努める。

表1. 新規依頼元 内訳

												(単位:件)	
長尾包括	あいわ苑 訪看	老健 だいもつ	老健 つくも	宝塚市立 病院	阪神リハビリ テーション 病院	宝塚リハビリ テーション 病院	花屋敷 包括	小浜 包括	御殿山 包括	本人 家族	その他	総数	
86	4	1	0	3	2	2	3	1	0	10	9	121	

表2. ケアプラン件数

														(単位:件)
2019年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護	236	234	235	247	247	245	245	253	254	250	249	251	2,946	
予防	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	54	
合計	240	238	239	251	251	250	250	258	259	255	254	255	3,000	
2019年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
1名当たりの 介護プラン数	29.8	29.5	29.6	31.1	31.1	30.9	30.9	31.9	32.1	31.6	31.4	31.6	31.0	

ヘルパーステーション 宝塚あいわ苑

■スタッフ紹介

常勤職員（サービス提供責任者含む）

新田悦子 藤川さおり

岡本美穂 加藤 綾 4名

登録ヘルパー（実働人数） 18名

■業務内容

今年度は、退職者が登録ヘルパー1名に加え、常勤ヘルパー、登録ヘルパーの事故・けがが相次ぎ、業務調整に苦慮した。しかし、登録ヘルパーの協力の下、訪問介護・総合事業・障がい支援・サポートケア（自費）・子育て支援（産後・育児支援ヘルパー派遣事業）、全てにおいて大きな問題なく稼働させることができた。在宅での軽度認知症の方、重度の身体介護を中心とした短時間サービスの需要も多く、多種多様なサービスの要望に応え、新規獲得件数は前年度を9件上回り、解約利用者は前年度に比べ28件減少した。時代の変化とともに子育て支援事業も増加傾向になっているため、可能な限り依頼を受け、行政とのパイプを繋げた。訪問看護・デイサービスとの情報共有にワイズマンシステムを活用したことでタイムリーに情報収集が可能となり連携強化に繋がった。

■2019年度のトピックス・実績

Waiwai コミュニティあいわに事務所を移転し、同敷地内の地域包括支援センター、ケアプランセンターとの密な連携が可能となり、サービスの質向上に繋がった。また、地域交流スペースや社会福祉協議会に利用者が来所されることも多く、訪問以外にも顔を合わせる機会が増え、近況を知ることができた。子育て支援の事業実績も維持し、行政との関係性を作りながら、専門職としての意識の向上と年齢を問わず、広い範囲の世代への支援を図ることができた。職員数は減少したが、職員間で常に連携強化を意識してサービスに繋がったことで、下期は収入実績が前年比を上回った。

■今後の展望

訪問介護サービスは、現状を踏まえ今後も感染リスクに細心の注意と対策を講じ、より意識を高めるための指導を行う。継続して質の向上に注力し、限られた人材で効率の良い業務を遂行していく。地域の乳・幼児から高齢者、そして障がい者の方々の生活を支援し、信頼できる事業所として介護知識・技術・研修に積極的に参加する。eラーニングシステムを学習会に取り入れ、自己研鑽にも努める。

表 1. 訪問件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	657	692	645	711	706	700	698	697	694	662	669	759	8,290
総合	299	303	286	298	280	304	303	288	278	260	250	266	3,415
障害	35	34	16	14	12	13	14	12	13	12	9	12	196
サポート	10	10	14	11	15	10	15	14	19	6	12	6	142
その他	0	6	9	0	0	0	0	10	4	9	14	0	52
合計	1,001	1,045	970	1,034	1,013	1,027	1,030	1,021	1,008	949	954	1,043	12,095

表 2. 合計介護報酬・利用人数・重度比率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護報酬(円)	3,879,707	4,051,133	3,733,911	4,031,403	3,977,531	4,033,422	4,267,206	4,316,301	4,241,390	4,042,134	4,016,175	4,392,866	48,983,179
利用人数(人)	149	150	148	148	143	137	141	137	139	132	128	125	1,677
重度比率	33.18%	32.70%	30.23%	21.24%	20.54%	30.43%	25.75%	30.27%	34.01%	32.83%	32.40%	31.09%	29.56%
自社プラン率	74%	72%	73%	74%	74%	75%	75%	75%	74%	75%	74%	75%	74.17%

表 3. 新規・解約人数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規(介護)	0	3	2	4	7	4	1	5	3	5	3	3	40
解約(介護)	4	0	3	4	3	1	3	0	3	2	2	3	28
新規(総合)	0	2	0	3	2	2	0	1	0	1	0	4	15
解約(総合)	1	0	0	0	0	0	1	1	5	0	1	2	11

長尾地域包括支援センター

■スタッフ紹介

主任介護支援専門員/管理者 1名
 社会福祉士 2名
 保健師 2名
 介護支援専門員 3名（1名兼務）
 事務員 1名

■業務内容

地域にある様々な社会資源を使い、高齢者の生活を総合的に支えていくための拠点として、宝塚市内7ブロックのうち第5ブロックを担当している。包括的支援事業は介護予防ケアマネジメント、総合相談支援、権利擁護、虐待早期発見・防止、地域のケアマネジャーなどの支援を主たる業務としている。また認知症施策の推進や、多職種協働を目的としたネットワークの構築、地域包括ケアを勧めていく中で、地域ケア会議の実施など多岐にわたり、業務は多種多様なものとなっている。認知症地域支援推進員を中心に地域への認知症啓発や見守り、認知症サポーター養成講座なども多く取り組んでいる。

■2019年度のトピックス・実績

Waiwai コミュニティあいわへ事務所移転し活動開始。総合相談件数は6,045件で、認知症対応、家族支援、権利擁護関連と相談内容の幅も広がっている。専門職と地域住民の顔の見える関係作りの場として「第5地区地域つながる懇談会」を3団体（まちづくり協議会、自治会連合会、民生児童委員協議会）と共催し、今回は「介護予防」をテーマに意見交換を行った。多職種連携を目的とした交流会を開催し、医師、薬剤師、行政、司法書士、社会福祉協議会など様々な専門職が参加、情報共有をテーマにグループワークを行い、互いの職種理解やネットワーク構築を行った。認知症施策の推進としては、認知症地域支援推進員が

中心となり認知症サポーター養成講座・交流会を11回開催した。また、介護予防の推進では、当センター圏域内の「いきいき百歳体操」の会場は18か所で、保健師による各会場のフォローなども積極的に行うことができた。担当小学校区では地域の医療・介護関係者を講師に様々なテーマで「健康教室」を6回開催した。個別ケースの地域ケア会議を21回開催、認知症や一人暮らしの方、家族に課題を抱える方などのケースが多かった。今後も個別ケースの話し合いを重ねることにより、「誰もが安心して地域で暮らすために」を継続して考えたい。

【外部研修】

- 第1回認知症相談センター機能強化研修
- 高齢者虐待対応研修
- 若年性認知症支援担当者研修
- 認知症地域支援推進員研修
- 主任介護支援専門員スーパービジョン初級研修
- 困難事例対応力向上研修
- 認知症医療全県フォーラム
- 認知症地域包括ケア推進研修
- 宝塚市認知症シンポジウム
- 相談支援を“つなぐ”研修 ほか

■今後の展望

第7期宝塚市地域包括ケア推進プラン（2018～2020年度）で、3つの重点取り組みに挙げられている“介護予防の推進”“認知症施策の推進”“在宅医療・介護連携の推進”を基本に、地域包括支援センターの活動を展開する中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民と専門職・関係機関とのネットワーク強化を図り、協働できる仕組み作りを目指す。

また、第8期計画策定が具体的になる中で、地域包括支援センターの役割と方向性を確認していく。

表. 2019年度活動実績

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合相談 支援業務	新規	192	158	100	86	77	77	68	73	52	86	50	68	1,087
	継続	313	405	385	461	436	487	478	409	371	393	432	388	4,958
	合計	505	563	485	547	513	564	546	482	423	479	482	456	6,045
介護予防 ケアマネ ジメント	直接	234	232	235	237	231	230	229	230	230	222	225	217	2,752
	再委託	90	94	99	103	108	103	102	97	98	97	96	94	1,181
	合計	324	326	334	340	339	333	331	327	328	319	321	311	3,933

グループホーム 宝塚あいわ苑

■スタッフ紹介

管理者（小規模多機能型居宅介護管理者兼務）	1名
介護支援専門員	1名
介護職員	16名
	以上 18名

■業務内容

認知症対応型共同生活介護「グループホーム宝塚あいわ苑」は、家庭にいるような環境で近隣の住民と関わりながら、入浴や食事、排泄などの介助を行い、精神的に安定した生活を送れることを目的としている。

開設以来、入居者の家族や親戚、近隣の友人など、顔馴染みの人の来訪も多く、居室やリビングでゆっくり過ごしていただける家庭的な環境作りに努めている。掃除洗濯などの家事もみんなで協力している。また、朝食の材料やおやつ、買い物、喫茶や散歩などを日課とし、外出することで地域住民と交流する機会を設けている。園芸活動では、民生委員や近隣住民との繋がりを持ちながら、結愛ガーデンの空きスペースを活用して、ともに取り組んでいる。また家庭的な環境での支援を行うことで、精神的に安定した生活を送れるよう取り組んでいる。

提供する食事は宝塚あいわ苑からのケータリングを基本としながらも、食事の盛り付けや食器選びは入居者が自ら行っている。月に1回ランチクッキングの日を設け、利用者と職員が一緒になってメニューから考案し、調理を行っている。可能な限り、利用者が保有している能力を維持できるよう、調理や掃除等の家事も入所者それぞれに役割を担ってもらうことで、認知症状に合わせた対応に努めている。

■2019年度のトピックス・実績

開設以来、入所者数は常に満床（18室）となっている。2019年度における退所者数は5名であった。内訳は、看取りによる退所者2名、金銭的な理由で他の特養への入

所1名、宝塚あいわ苑特養への入所1名、入院後、療養型への入院による退所1名であった。また、受け入れとしては、小規模多機能型居宅介護こもれびからの入所2名、他の居宅事業所からの入所3名であった。他事業所からの受け入れもスムーズに実施することができており、幅広い事業所との関係性の構築も図ることができた。

あいわクリニック開設にあたり、新規入所者2名を主治医へ移行することができた。あいわクリニックとの連携を図ることで、訪問看護とも連動した動きが可能となり、状態に応じて柔軟に対応が実施できるよう日々連携を図っている。

また、地域の子供たちや民生委員、家族の方々とともに調理をして、一緒にごはんを食べたり、季節のイベントを催すなどの活動を、子ども食堂である「一緒にプロジェクト」を通じて協働している。また、元気っ子の子どもの異世代交流や、いきいき百歳体操に地域の方々と一緒に参加することで、入所者にとって刺激のある生活環境への取り組みを実施している。

4DASの取り組みでは、マニュアルが整備されたことで、日々の生活の中に実践的に取り組めるようになった。

■今後の展望

更に他事業所との関係性の構築や連携を深めることで、利用者の円滑な受け入れ体制を作る。地域行事や活動への参加、園芸活動、「一緒にプロジェクト」など、より関係性の深め、地域に根付いた施設として運営できるよう心掛けていく。訪問看護、あいわクリニックとの連携強化システムを構築する。認知症ケアのスキルアップとして、認知症実践者研修や喀痰吸引研修、その他の外部研修にも積極的に参加し、研修で学んだ知識・技術を職員にフィードバックしていく。

グループホームでの生活において、年間を通してメリハリを感じ、生きがいのある生活環境が提供できるよう、年間計画を立て実践していきたい。

小規模多機能型居宅介護 こもれび

■スタッフ紹介

管理者（グループホーム管理者兼務）	1名
介護支援専門員	1名
看護師	1名
介護福祉士	11名
介護員	3名
ドライバー	1名
以上	18名

■業務内容

小規模多機能型居宅介護「こもれび」では、介護が必要な状態になっても利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、また、住み慣れた地域での生活が継続できるように、利用者の選択に応じて、施設への「通い」を中心として、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問」を組み合わせ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で日常生活の支援や機能訓練を行っている。また、その他の介護保険サービスやインフォーマルサービスもケアプランに取り入れることで、切れ目のない支援を提供しており、現在は29名の定員で運営をしている。

■2019年度のトピックス・実績

昨年度の年間平均登録人数23.9名と前年度を1.1名下回る結果となった。登録抹消者数15名と登録人数の半数以上が抹消に至っている。愛和会のグループホームや特養への入所が4名であった。その他は他施設への入所が4名、入院から抹消に至ったケース3名、その他体調不良などでの抹消4名であった。

登録抹消者数に対し、新規受け入れがスムーズに移行で

きるよう登録者のサービス内容のプランニングに加え、WaiWai コミュニティあいわたとの連携の強化体制の構築が求められる1年であった。グループホーム宝塚あいわたの入所待機枠として2名を確保しているが、在宅生活をできる限り最大限生かせるように取り組んでいる。グループホーム宝塚あいわたにおいて空床が発生した場合には、利用者のスムーズな移行が図れるよう連携を図っている。開設後より実施している敬老祭や花見などのイベントでは、同じあいわた結愛ガーデンの3事業所と連携し、あいわた結愛ガーデン全体としての恒例イベントとして実現できている。個別外出だけでなく、地域密着事業が共同イベントも開催しており、余暇活動への充実にも取り組んでいる。

■今後の展望

利用者のニーズを捉え、在宅生活ができる限り安定した形で提供できるように、家族、環境、地域資源を活用し、登録人数を29名に伸ばしていく。また、登録人数の変動によっても「通い」、「訪問」、「宿泊」の適切なバランスを維持し、安定稼働に努めていく。

事業所単体での活動ではなく、営業時においても、宝塚全体で活動していくことで、効率的な営業が実践できるように取り組む。また、利用者満足度の高いサービスを提供できるように、認知症実践者研修や、その他の外部研修に積極的に参加するよう努める。さらに、ケース検討会の定期的な開催や、2か月に1度開催している運営推進会議において他施設の取り組み状況の把握を行い、質の高い施設運営に取り組む。地域活動へも、「あいわたの集い」や「一緒にプロジェクト」のみならず、積極的に参加できるよう体制の強化を図る。

認知症対応型通所介護 花見鳥

■スタッフ紹介

管理者兼介護職員（介護福祉士）	1名
機能訓練指導員	1名
生活相談員	1名
介護職員	6名
	以上 9名

■業務内容

認知症対応型通所介護「花見鳥」は、認知症（急性を除く）の利用者が、可能な限り、在宅で能力に応じ自立した日常生活を営めるよう、生活機能の維持又は向上を目指している。入浴や排せつ、食事等の介護だけでなく、生活相談や助言、健康状態の確認などの日常生活上の世話や機能訓練を行っている。また、利用者の社会的孤立の解消及び心身の機能の維持と、認知症介護に携わる家族の身体的・精神的負担の軽減を図り、認知症に関する専門性と手厚さによって認知症利用者及びその家族の支援を目的としている。

1日の流れでは、事業所に到着後はバイタル測定を行い、入浴及び個別機能訓練を実施している。入浴では清潔保持と、身体の異常を見逃さないように努めている。個別機能訓練では、利用者一人ひとりの状況を評価し、認知症の理解に努め、本人の意思を尊重しながら、その日の行動や進捗を調整したり、身体機能の維持を目的に機能訓練計画を作成し、それに基づき実施している。今年度は認知症の方の機能訓練として4DAS（認知症機能訓練システム：リハビリ専門職がいない事業所でも効果的な機能訓練が安全に実施できる。身体機能、認知機能、生活機能、認知症の行動、心理症状（BPSD）の4つの側面からアセスメントを行い、対象者を8つのタイプ（A～H）に分類してタイプに応じた認知症機能訓練を実施する手法）も取り入れ、在宅においてもできる事柄を見出しながら、楽しくできる

機能訓練を行っている。スケジュール通りのサービス提供ではなく、その日の利用者の状態や行動に焦点を合わせ、笑顔と活気があふれる時間の提供を実施している。

■2019年度のトピックス・実績

年間登録者平均26.4名、日平均7.1名、登録者数では、1.3名、日平均0.4名で前年度を下回る結果となった。利用者確保に向けた営業に注力し、宝塚市内の居宅介護支援事業所と顔の見える関係を構築し、利用回数変更などの提案を行った。個別ケアの徹底、利用者のニーズに応えることを重点的に取り組んだ。他のデイサービスと契約するも、利用まで繋げることができなかった利用者も積極的に受け入れ、通所利用に繋がったこと、送迎時の対応においても、自宅にて利用者とコミュニケーションを図り通所に繋がるといった、個々に寄り添ったケアを日々積み重ねた結果、他事業所からの問い合わせ件数が増え新規獲得に繋げることができた。

■今後の展望

前年度目標に掲げていた登録人数に対して、1.3名下回る結果となる。上半期は8.0台を推移していたが、下半期に5.0台へ落ち込みがあったため、2020年度は掲げていた日平均8名を目標に取り組んでいく。日曜日の利用人数が、平均4名程と、平日と比較しても大きく下回っているが、少ない中でも確実にニーズがあるため、利用日の追加利用などの提案や事業所の特性として打ち出していきたい。

利用者や家族からは、可能な限り今の住み慣れた生活環境を継続させたいという想いを強く感じている。家族のニーズを素早く察知し、事業所の特性を生かしながら、個々に応じて柔軟な対応を実施していきたい。

なかよし保育園

■スタッフ紹介

園長 1 名，主任 1 名，副主任 3 名，保育士 17 名，
パート保育士 17 名，保育補助 5 名，事務員 5 名，
パート事務員 2 名，派遣保育士 1 名，管理栄養士（兼務）
1 名
業務委託：給食，清掃，警備

■業務内容

1. 通常保育

- ・定員と緊急枠合わせて現員 143 名，4 月入園 33 名，3 月末卒園 27 名，延べ 1,716 名の受け入れを実施。0～2 歳児は緩やかな担当制，3～5 歳児は年齢ごとの保育をベースに週 1 回異年齢児保育も取り入れながら，各年齢にあった保育内容を実施した。
- ・3～5 歳児が特養，デイサービスと定期的に世代間交流を行う計画であったが，感染症流行により実施することができなかった。
- ・5 歳児は，宝塚市私立保育園交流や保幼小連携事業「つながろう！プレ 1 年生」の参加，近隣の幼稚園・保育所との交流を行い，小学校就学への期待を持つことができた。

2. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業では，20 時までの延長保育を実施，延べ 4,255 名の利用があった。
- (2) 特別支援児保育では，加配保育士 4 名を配置し，2 歳児 1 名，3 歳児 1 名，4 歳児 2 名，5 歳児 2 名の特別支援児を受け入れた。
- (3) 一時預かり保育では，職員 1～2 名配置で延べ 1,227 名の利用があった。
- (4) 子育て支援事業では，リトミックやコンサート，栄養相談とクッキング，人形劇等の親子プログラム，またフラワーアレンジメントやヨガなど，託児をして保護者のみ参加のプログラムも実施した。月 2 回の園庭開放，絵本クラブ，あそびのひろばを実施。地域の子育て家庭に遊びの場を提供した。
- (5) 小学生放課後児童クラブ（元気っ子）は延べ利用児童数 4,394 名（前年比 115.8%）となった。プログラムの内容充実を図り，世代間交流も積極的に行った。
- (6) 病児保育は，地域の連携医療機関の協力を得ながら

実施した。年間延べ利用者数は 377 名（前年比 98.2%）であった。

3. 職員研修

法人内の保育士研修（保育士合同研修，基礎講座，交換留学研修，園内ミニ研修）や兵庫県保育協会，宝塚市等が主催の外部研修（救命講習，防犯研修，保育内容や保育制度等）に積極的に参加し，保育士の資質向上に努めた。

■2019 年度のトピックス・実績

- ・4 月より登降園管理システム「キッズリー」（ICT 化）を導入した。保護者からは，定期的に園生活の写真とコメントが発信されることが高評価であった。また保育士も，園児情報の管理や把握をスムーズ行えるようになり，保育内容の充実に時間を費やすことができた。
- ・子育て支援事業のプログラム内容の充実を図り，保育を行っての保護者のリラックスプログラムでは，保育ボランティアを利用し，子どもも安心して過ごせる環境を作ることができた。

■今後の展望

- ・保育制度と行政の動向を見極め，認定こども園への移行も視野に入れながら，法人としての方向性を考えていく。また，少子化が進んでいる昨今の状況を鑑み，園児確保の方策を保育部門として検討していきたい。
- ・保育所保育指針の理解を深めるため，また指針と実践を対応させながら保育内容の検討・実施が行えるよう，研修の参加や職員同士のミニ研修等の機会を充実させていきたい。
- ・保育園の経年劣化による破損箇所の修繕を計画的に行い，安全にまた利用者ニーズに合った園作りを行いたい。
- ・働き方改革関連法案の遵守，業務の適正等，職場環境についても積極的に取り組み，保育士の人材確保や育成に努める。また，実習生を積極的に受け入れて指導することにより，保育士人材育成にも貢献していきたい。
- ・病児保育は，法人宝塚地区の事業所や行政と連携を図り，年間利用者数 400 名を目標とする。また，子育てプログラム等の地域向け講座を利用し，外部へのアピールを積極的に行っていく。

中筋児童館

■スタッフ紹介

館長 1名 児童厚生員 7名

■業務内容

1. 児童館本館事業

本館では、児童の居場所及び遊びの拠点となり、また子育て世代の親子が利用しやすいよう環境を整え、0歳から18歳まで継続して関わることができるように努めた。

本館の年間利用者総数は11,101名（乳幼児4,554名、小学生2,519名、中高校生131名、大人3,897名）、1日の平均利用者数は41.9名だった。子育て支援プログラムは9プログラム延べ66回実施、延べ利用者数は925名だった。

2. 出前児童館事業

本館に来ることができない親子や児童のために、各小学校区に出向いて出前児童館を実施した。出前児童館を通じて、地域の交流事業をはじめ、週3回はアウトリーチによる相談事業も実施した。常設型として4か所実施、年間延べ利用者数は2,188名（乳幼児1,143名、小学生1名、大人1,044名）、イベント・派遣型として5か所実施、年間延べ利用者数は886名（乳幼児144名、小学生615名、大人127名）だった。

3. 青少年活動

地域の青少年活動として、本館及び地域に出向いて3プログラムを実施した。延べ実施回数は15回、延べ利用者数は430名（うち小中高生は182名）だった。

■2019年度のトピックス・実績

・「一緒にプロジェクト」に参加し、地域の方と一緒に配慮の必要な子どもの見守りや学校・行政とのネットワークを構築するよう努めた。また、「子どもと地域の課題を考えるラウンドテーブル」にも専門職として参加している。ラウンドテーブルのメンバーとして長期休暇中の

子どもたちの食の支援活動に参加、行政、社協、地域の方とともに活動した。

- ・地域の幼稚園、小学校の避難訓練等にも積極的に参加し、防災教室を行うなどして地域児童館としての役割を果たすように努めた。
- ・「赤ちゃん学校へ行こう」のプログラムでは、宝塚市立南ひばりガ丘中学校の授業の一環として児童館利用の親子が学校に出向き、生徒が乳幼児と触れ合ったり、お母さんの話を聞いたりして交流の時を持った。実施回数4回、延べ参加人数266名（乳幼児50名、中学生153名、大人63名）だった。
- ・県立宝塚東高校の保育の授業を担当し、高校生による「おたのしみ会」を開催。保護者や子どもとのふれあい時間を作り、世代間交流の場を提供した。
- ・児童館ネットワーク会議（館長会議）、コーディネーター研究会で、大型児童館を核とした地域児童館の連携強化に取り組み「ミニたからづか」（事業）に参加。2日間開催で約900名の子どもたちが参加した。

■今後の展望

- ・地域の児童の居場所作りとしての本館事業や出前児童館の実施内容の充実という地域児童館としての役割を再確認し、地域、子ども家庭支援センター、他児童館、学校等の関連機関との更なる連携を図りながら、地域のニーズに即した児童館運営に努めたい。また、「子どもと地域の課題を考えるラウンドテーブル」に参加する市内唯一の地域児童館として第5地区だけではなく市内の子どもたちにも視点を向けていかなければならない。そのためにも行政・地域との関係性を更に構築していく必要がある。
- ・市内の児童館と情報を共有し、安全・安心な環境での児童館運営ができるよう検討していきたい。



社会福祉法人 愛和会 (豊中地区)

〒561-0872

豊中市寺内1丁目1番10号

URL: <http://www.ajinkai.or.jp/aiwakai/>

社会福祉法人愛和会 理念

1. 広く社会のためにより良い保健福祉サービスを提供し、生きがいのある社会生活の増進に貢献する。
2. 人間の尊厳と人権を尊重し、公平で平等な法人活動に努める。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして利用者の保健福祉の向上と法人の健全な発展を図る。
4. 保健福祉に携わるものとしての使命を自覚し、学識、技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、利用者と共に法人に働く誇りと喜びを共にする。

愛和会（豊中地区）施設一覧

【ローズコミュニティ・緑地】

- ・特別養護老人ホーム 豊中あいわ苑
- ・ケアプランセンターあいわ
- ・介護老人保健施設 きんもくせい
- ・緑地地域包括支援センター
- ・ケアハウス 花みずき
- ・あいわ訪問看護ステーション
- ・豊中あいわ苑デイサービスセンター
- ・障がい者施設あすなろ
- ・訪問介護ステーションあいわ
- ・豊中あいわ苑診療所

【ローズコミュニティ・豊中南】

- ・ケアプランセンターあいわ豊中南

2019 年度総括

入所施設は、特養において利用率が向上し、2018年度に課題であったショート利用が活発となった。介護度は若干下降しているが、新規入所者は介護度4以上にシフトしており、利用者の看取り件数も27件となった。老健では超強化型を維持するとともに稼働率100%を目指し活動したが、占床率は98.4%となった。在宅復帰率は低下しているが、超高齢化の影響もあり、老々介護や、中間独居の状態、ADLの低下や認知機能低下がある場合、在宅での生活や介護が困難な状況の家族が多く、在宅復帰ができない現状がある。

ケアハウスでは高齢化により生活の自立が困難な入居者が増えつつあるので、今後の対応を一人ひとり相談していかなくてはならない。いずれにしても介護度増加と高齢化の中、事故や感染の予防を常に意識した運営を行ってきたい。

在宅部門では、年度末の新型コロナウイルス感染拡大の影響も少なからずあり、活動が伸び悩んだ結果となった。デイサービスセンターは2019年度第一四半期に利用者の伸び悩みが年度通じて影響した形となった。引き続き、運営面に関してスタッフの一体感の醸成と教育が必要である。訪問介護に関しては、シフト制の導入や加算の取得で少しずつ改善が見られている。同施設内ケアハウス入居者の高齢化が進んでおり、訪問介護利用者が増加傾向にあるため、積極的に活動を行った。訪問看護に関しては近隣に競合施設が多く、シェアの拡大が困難に思われたが、着実に訪問件数が増加した。訪問リハビリも含め老健・特養へ

の施設横断的な活動も実施できた。ケアプラン及び地域包括支援センターは、高齢領域のゲートキーパーとして施設と地域を見据えた在宅利用者、また地域住民との橋渡しとしての機能を発揮していきたい。

障がい者施設あすなろでは、年間を通じた利用者も増加し、活発な活動が維持できた。特に生活介護においては、個別送迎を実施するなど、利用率向上に大きく繋がる結果となった。短期入所に関しても順調に利用者確保ができており、更なる利用者の増加を目指したい。また法人全体としての障がい者雇用の支援も推進していく。

2017年から取り組んできた「大阪 A・P・S コンソーシアム 介護スキルラボ」は、4月に1期生 AB クラス 11名、11月に1期生 CD クラス 14名、2月に2期生 19名が入国し、順調にスタートすることができた。これは将来を見据えた投資であり、引き続き事業成功に向けて取り組んでいく。

2019 年度活動状況

- 4月 期首全集及び役職辞令交付式、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、愛和会合同運営会、豊中市社会福祉施設連絡会総会、福祉のお仕事魅力発見フェア、あすなろ家族交流会、こども広場、子育て支援事業うりぼー
- 5月 愛和会合同運営会、大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボベトナム 1期生 AB クラス入国セレモニー、指定居宅サービス事業所等集団指導、大阪滋慶学園就職フェア、三優監査法人決算監査、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 6月 愛和会理事会・評議員会、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、地域研修会、大老協豊能地区ブロック会議、上海健康医学院施設見学、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 7月 全集、愛和会合同運営会、中東部ネットワーク会議、大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボベトナム国講師派遣、福祉の就職フェア 2019 in OSAKA、上半期褒賞表彰式及びローズフェスティバル、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー

- 8月 愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、愛和会夏祭り、花火大会、三優監査法人期中監査、泉佐野市施設見学対応、寺内まつり、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 9月 愛和会合同運営会、敬老会、大阪府 880 万人防災訓練、夜間火災想定避難訓練、地下鉄御堂筋沿線帰宅困難者訓練、定期巡回介護医療連携会議、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 10月 全集、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、喀痰吸引等研修、豊中市民生委員施設見学、秋の集い、いきいき長寿フェア、職員健康診断、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 11月 愛和会合同運営会、喀痰吸引指導看護師講習会、喀痰吸引等研修、豊中市障がい者施設間留学発表会、全国老人保健施設大会 in 大分、三優監査法人中間監査、上海健康医学院施設見学、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 12月 全集、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、ローズコミュニティ緑地防災訓練、下半期褒賞表彰式及び忘年会、三優監査法人期中監査、こども広場、ほっと愛カフェ、クリスマス会、納会、子育て支援事業うりぼー
- 1月 新年互礼会、愛和会合同運営会、特養家族交流会、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 2月 愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、シニアのためのお仕事カフェ、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業うりぼー
- 3月 愛和会理事会・評議員会、愛和会合同運営会、夜勤職員対象健康診断、三優監査法人期中監査、三優監査法人現金実査・棚卸

2020 年度に向けて

2019 年度事業収入に関してはほぼ予算通り、また活動収支差額に関してもほぼ予算通りとなった。2018 年度低調であった老健「きんもくせい」と障がい者施設「あすなろ」が適切な方針管理によって大きく業績を伸ばすことが

でき、在宅部門特に訪問介護の収入減をカバーする形となった。働き方改革は既に始まっているが、制度に柔軟に対応しつつ効率的な事業形態を確立できるよう、今期は更に業績を進展させていきたい。

入所施設：特養においては高齢化に伴い介護度の上昇と医療必要度が高くなり、2019年は27名の看取りを行った。空床を作らないためには各方面と緊密に連携を図り、普段からのコミュニケーションに努めるのが肝要である。老健では超強化型を維持するとともに稼働率がやや低下傾向にあるので早め早めの対応を心掛け、通所リハに関しては現在の好調を維持したい。ケアハウスでは高齢化により生活の自立が困難な利用者が増えつつあるので、訪問介護と訪問看護が適切に介入し、介護度のアップに伴って老健や特養への入所に繋げる方針である。医療・介護安全や感染予防を常に意識し、安定した運営を行っていきたい。

在宅部門：デイサービスセンターに関しては、日曜日の営業を終了したことにより一定の効率化を得ることができたが、まだ曜日による偏りや利用者増の余地があるので更なる努力を続けたい。定期巡回と訪問介護に関しては、シフト制の導入や加算の取得で少しずつ改善が見られて

いるものの、常勤職員のパフォーマンスが十分に発揮されておらず、根本的な業務管理が必要である。ケアハウスやあすなるの利用者の需要に関しても十分に伝えていきたいが、人件費に見合う収入を確保できる方策が必要である。またケアプランセンターが十分な活動を示し、訪問介護との連携を密にしない限り在宅の伸びはあり得ないので、その改善が急務である。訪問看護に関しては好調で右肩がりの実績が見られているが、訪問リハがやや低調であるので改善の余地がある。

あすなる：ほぼ全ての部門において良好な業績であり順調に推移しているが、突発的な利用者の減少もあり得るので更なる増加を目指したい。

ベトナム技能実習生の雇用は、現在特養で2名、老健で1名であるが、今期も更に数名の配属が見込まれる。将来を見据えた投資であり、是非とも成功させて未来に繋げなくてはならないものの、定員には含まれずに人件費が発生するので、妥当な人数制限が必要であろう。新型コロナウイルス感染拡大の影響もある中で、感染予防に努めることはもちろん、全職員一丸となり、今期も予算必達を目指して着実な運営管理を行っていく。

特別養護老人ホーム 豊中あいわ苑

■スタッフ紹介

今期、豊中あいわ苑（ロング 80 名・ショート 20 名）の人員配置は、常勤医師 1 名、施設長 1 名、援護科長 1 名、看護職 6 名、機能訓練指導員 1 名、介護職員 37 名、介護支援専門員 1 名、生活相談員 2 名、栄養管理士 1 名 外国人技能実習生 3 名、事務員 0.5 名であった。

■業務内容

施設目標：『利用者・ご家族の思いを共有し、安心してもらえるようなケアを目指す』

- 職員全員がマニュアルに沿ったケアを実施できる
全職員であるべき姿 28 点を抽出し、介護場面を可視化、マニュアル化し、実施→評価の実施
- 家族来苑時の職員の対応についてのマニュアル化
 - 1) 入居中の利用者の様子を定期的に担当者が報告
 - 2) ご家族に積極的に職員が介入し、全職員が、入居中の様子についての的確に説明でき、満足していただけるサービスの充実を図る
- 外部への受診時の対応（受診先との連携・交通手段・ご家族への説明）
的確に短時間で準備ができ、利用者・ご家族が安心できるような支援の実施
- 大規模な防災マニュアルの作成及び訓練の実施
- ベトナム技能実習生の受け入れ（3 名）開始
副主任 1 名がベトナムへ技能実習生講師として 1 か月間赴任

6. 働き方改革の導入

- 1) 職員の時間管理・業務内容の可視化
- 2) WLB を考慮した計画的な有給休暇の取得
- 3) キャリアアップ支援体制の整備

■2019 年度のトピックス・実績

1. 介護場面を可視化し、マニュアル化することで居室内環境や食堂のテーブル・車椅子の選定など、利用者に合わせて生活場面での整備の実施。転倒リスクが予測でき回避できる環境調整が実施できたことで、2019 年度は転倒・転落件数が 50%減少した。
2. 利用者を継続的に担当している職員がご家族来院時に職員の方から積極的に会話し、ご家族の方に利用者の日常の過ごし方や食事量・最近の様子等、職員間の差が発生しないようにマニュアル化した。担当職員が不在時でも、どこまで説明実施できたか可視化できた。
3. 働き方改革に関しては、時間外勤務の削減・計画的な、長期休暇の取得を目標に取り組んだ結果、時間外勤務を 60%削減できた。業務内容の可視化を図ることで、職員が協働し、業務の見直しが実施できた。

■今後の課題

1. 働き方改革の推進
(効率的な業務の推進・働きやすい職場環境)
2. 質の高い介護・看護ケアの提供

表. 豊中あいわ苑利用者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	3,020	3,135	3,042	3,123	3,148	3,031	3,104	2,987	3,072	3,041	2,820	3,150	36,673
2019年度	3,044	3,170	3,032	3,121	3,154	3,046	3,127	3,035	3,108	3,095	2,916	3,150	36,998

看取り件数

2019年度	28名
--------	-----

介護老人保健施設 きんもくせい

■入所スタッフ紹介

今期期首の人員配置は施設長（医師）1名（兼）、科長1名（兼）、看護師9名（育児短時間1名）、介護職15名、理学療法士4名、作業療法士2名、薬剤師0.5名、管理栄養士1名、支援相談員1.5名、介護支援専門員1名、外国人技能実習生2名。

■業務内容

2019年度の占床率は98.4%であり、ほぼ満床を維持することができた。入所利用延べ人数は17,631名であり、ショートステイは169名であった。前年比102.3%となり若干ではあるが前年度を上回った。ロング入所形態については入所者数89名、在宅からは28名、病院30名、他老健31名であり、退所形態については、退所者数92名、在宅41名、病院15名、他老健13名、特養2名、その他21名となった。ベッド回転率15.3%（前年15%）、重症比率42.7%（前年40.4%）と前年度よりやや増加となり、在宅復帰率単月平均で59.1%となり超強化型を維持することができた。在宅復帰率が低下しているが、超高齢化の影響もあり、老々介護や中間独居の状態で、ADLの低下や認知機能の低下がある場合、在宅での生活や介護が困難な状況の家族が多く、在宅復帰が難しい現状がある。

■2019年度のトピックス・実績

技能実習生2名が、きんもくせい勤務となる。職員が指導を行うために、研修を受講し生活指導員資格を1名、技能実習指導員6名を配置し、技能実習生の指導を行っている。

また、リーダー職員が中心となり利用者個々の排泄パターンや使用しているリハビリパンツ・オムツ・パッドの見直しを行った。取り組みを行うことで、利用者個々にあったパッドの選定や排泄リズムの把握ができ、利用者の個別性に合わせた介助ができるようになった。また、褥瘡予防にも繋がり、利用者に快適に過ごしていただける環境を整えることができ、コスト削減にも繋がった。

新型コロナウイルス感染症防止のために、施設内の消毒の徹底や利用者家族のウェブ面会の活用、職員のマスク着用・手洗いうがいの徹底等、職員が感染媒体にならないよ

うに対策を実施。感染者が発生することなく運営を行うことができている。

■今後の展望

地域包括ケア支援システムの役割を担うために、在宅支援事業所や医療機関、他事業所職員等による多職種協働・連携が重要である。連携強化・情報共有を図ることで、安定的な入所稼働率を維持・向上し在宅復帰率55%を目標に運営を行う。職員の介護スキル向上を図るために、認知症利用者への理解・適切なケア、褥瘡予防に関する知識向上等、様々なケアに関する技術向上を図り、サービスの質向上を目指し、利用者・家族に寄り添うケアの充実を目指していきたい。

また、外国人技能実習生2名の指導・教育に力を注ぎ、日本の介護技術を母国で教育・指導ができる人材育成を目指す。

新型コロナウイルスの蔓延により得た教訓や知識を基に今後の感染症等発生時において迅速かつ確実に対応が行えるようなシステム作りを行い、利用者・家族・職員が安心して生活・業務ができる環境を整えるよう努める。

働き方改革に伴い、職員の労務管理を行うためにムリ・ムラ・ムダは省き、効率的かつ現実的な対策を講じ職員が働きやすい環境を整備する。有給休暇についても、全職員が公平に取得できるように調整を行う。

利用者・家族支援、職員への労働環境を整備することで、更なる飛躍に繋げていきたい。

<老健きんもくせい 通所リハビリ>

■通所スタッフ紹介

施設長（医師）1名（兼）、科長1名（兼）看護師1名（非常勤）准看護師1名、介護職9名（うち短時間常勤1名、非常勤1名）

■業務内容

通所リハビリの1日平均利用者は、昨年の35.4名より2.8名増の38.2名で、平均要介護度は要介護2.4、支援1.8であった。

■2019年度のトピックス・実績

減少傾向にあった利用者数の増加を図るため営業や他事業所からの問い合わせへの迅速な対応など相談業務に充てる時間を確保した。

また送迎や現場対応の状況を相談員と現場で共有することで新規受け入れがスムーズになり利用者数の増加に繋がった。しかし2月頃より新型コロナウイルス流行による利用自粛者が増加したため利用者数が減少した。

■今後の展望

通所リハビリでは2020年度より大規模加算がⅠからⅡに変更になったことで利用者数の維持・増加を図る必要がある。新型コロナウイルスの影響で一時期利用者の減少が見られたが、今後も安全で安心して利用できる施設を目指し対策を継続していく必要がある。また、選ばれる施設になるためにリハビリの充実、ケアの質の向上を図る必要がある。

2021年介護報酬改定に向け利用者数を維持できるよう、新規利用者の受け入れや確保を強化していく。また今後も新型コロナウイルス流行の状況に合わせ安全で安心して利用できる施設であるよう対策を講じていく必要がある。

<老健きんもくせい リハビリ部門>

■セラピスト紹介

作業療法士2名、理学療法士4名配置

■2019年度のトピックス・実績

1. 入所リハビリ

短期集中リハビリ加算の加算対象件数は月平均415.3件で算定数は378.8件、取りこぼしは0件であった。認知症短期集中リハビリ加算の加算対象件数は月平均175.9件で算定数は172.5件、取りこぼしは0件であった。個別リハビリの実施総件数は月平均936.4件あり、前年比106.1%であった。

2. 通所リハビリ

要支援利用者は月平均123.3名、リハマネジメント加算Ⅰ算定者は月平均788.2件、リハマネジメント加算Ⅲ①の月平均3.3件、リハマネジメント加算Ⅲ②の月平均67.4件であった。リハ加算の合計は月平均978.8件であり、前年比108.5%であった。

3. 訪問リハビリ

実施単位数の月平均は28.3件で、前年比113.2%であった。上半期はセラピスト数の減少により、月平均は12.8件であったが、下半期は通所リハビリとの併用を促すことで利用が増え、月平均が38.7件と増加している。

■今後の展望

訪問リハビリの利用者は通所サービス利用者、ケアハウス入所者が主であり、自宅での活動・参加に焦点を当てた介入を主に行っている。実施件数は徐々に向上しているが、老健退所後の利用者への介入が十分に行えていない状態である。「在宅支援」の役割をより強化していくためにも、入所リハビリにおいて在宅復帰に向けた介入を積極的に行い、自宅退所後は訪問リハビリで続けて介入が行える体制作りが必要である。

ケアハウス 花みずき

■スタッフ紹介

施設長	長尾雅子
生活相談員（社会福祉士）	富松真理子・井上天希
介護福祉士	茨木利子・岩井美幸

■業務内容

- 2003年4月の施設オープン以来、入所定員20名で運用している。2019年度は3名の入退所があった。2020年3月末日現在の入居者20名、平均年齢88.5歳、最長入居期間15年11か月、最短入居期間1か月、平均入居期間7年5か月である。
- 2020年3月末日現在で要支援1が5名・要支援2が6名、要介護1が3名、要介護2が3名、要介護4が1名の18名が介護保険認定を受けており、そのうち16名が介護保険サービスを利用している。具体的サービスとして12名が訪問介護ステーションあいわを利用しており、うち3名はきんもくせい通所リハビリを、7名がデイサービスを、4名が訪問看護も併用している。

■2019年度のトピックス・実績

今年度は外部ボランティアの行事受け入れを積極的に行った。入居者に催し物の案内を行い、昨年度に比べ行事への参加者が増えた。また、介護予防体操を定期的に行い、運動機能向上を図った。運動機能向上だけでなく、入居者同士の交流の場としても活用されている。

誕生日会では入居者のニーズを汲み取り、栄養管理と協力し季節感を感じられるメニューの工夫を行い、好評を得た。

■今後の展望

開設から17年が経ち、入居者の体力低下や認知機能低下に伴い、何らかの支援を必要としている方が増え、介護保険サービスを利用してケアハウスでの生活を維持している入居者が多い現状にある。

入居者にとって住み慣れた場所で安心・安全に過ごしていただけるよう、日々の状況や変化の把握に努め、個々の支援を行っていくことが課題となる。各事業所との連携を図りケアハウスでの生活を支援していきたい。

表. 実施行事

月	日	行事	参加人数	備考
4月	1日	花見/お花見弁当	8名/19名	千里中央桜並木/お花見弁当
	16日	お誕生日会	18名	オムライス、海鮮サラダ
5月		菖蒲湯		
	17日	お誕生日会	19名	ステーキ、サラダ
	21日	いきいき健康講座(きんもくせいにて)	7名	
	30日	千里金蘭大学	9名	楽しい健康講座
6月	15日	第1回地域研修会	6名	「考えておきましょう病気のこと暮らしのこと」
	19日	お誕生日会	19名	鯛めし、天ぷら
7月		七夕飾り		
	4日	買い物ツアー	6名	南千里イオン
8月	11日	お誕生日会	19名	海老フライ、蟹クリームコロッケ、鰻の湯引き
	7日	愛和会夏祭り	14名	
9月	19日	お誕生日会	20名	うな重、赤だし
	6日	敬老お祝い(外食)	17名	三田屋
10月	17日	お誕生日会	19名	酢豚、鯛の中華蒸し
	15日	お誕生日会	17名	松茸ご飯、牛肉と松茸のすき焼き風
11月	26日	秋の集い	4名	秋の集い/災害について講義
	5日	買い物ツアー	6名	南千里イオン
		いきいき健康講座(きんもくせいにて)	11名	
12月	19日	お誕生日会	17名	天ぷら、お刺身
	20日	緑地地域包括ほっと教室	2名	
	21日	秋の紅葉ツアー	6名	箕面方面(風の社でランチ)
12月	10日	忘年会・クリスマス会(誕生日該当者なし)	18名	ステーキ、ケーキ
	16日	ローズコミュニティ防災訓練	13名	
	20日	ケアハウスにてクリスマスコンサート	14名	ハンドベル演奏
	25日	愛和会クリスマス会	9名	
1月	1日	元旦		お節、お神酒、和菓子提供
	21日	お誕生日会	17名	握り寿司、赤だし、白玉ぜんざい
2月	19日	お誕生日会	18名	串カツ、赤飯
3月	10日	お誕生日会	14名	天ぷら、豆ごはん

豊中あいわ苑デイサービスセンター

■スタッフ紹介

管理者 1 名
 介護福祉士 11 名（うちパート 1 名）
 看護師 3 名（うちパート 1 名）、理学療法士 1 名
 社会福祉士 1 名、介護員 6 名（うちパート 5 名）

レクリエーションでは以前からニーズがあった園芸（さつまいも）を実施した。土を耕し、水をあげ利用者と一緒に育て、一緒に収穫し利用者の笑顔を引き出すことができた。利用者の満足度（ニーズ）を考えた取り組みを行って行くという意識を再確認できた。

■業務内容

定員 50 名で、月曜日から日曜日まで営業している（日曜日は 10 月 31 日をもち、利用者ニーズの低下を勘案し、営業中止となる）。緑地公園がすぐそばにあるため、四季折々の風景を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごすことができるデイサービスとなっている。利用者一人ひとりの個性を大切に、趣味活動や様々なイベント等、個々にあったサービス（充実した時間）を提供できるよう努めている。また理学療法士を配置し、生活リハビリにも力を入れている。入所施設との連携をうまくとることで、利用者のニーズにも応えられる事業所となっている。

■今後の展望

2020 年度は法人内外の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との積極的な情報共有や働きかけを行い、利用者獲得に努める。在宅医療の必要性が高まっていることから、医療ニーズが高い利用者や介護負担の高い重度利用者の受け入れに力を入れていく。また、設備的にも受け入れが可能という強みをいかし積極的に営業活動を行っていききたい。併せて軽症者にも楽しんでいただけるようなクラブ活動の充実を図っていく。認知症加算対象者には、より質の高いサービス提供ができるよう、認知症実践者研修受講者を中心に個別プログラムの検討、評価方法確立を目指していく。機能訓練では訪問看護や老健のセラピストと連携を図り、在宅での生活環境や行動について把握し、より生活状況にあった生活リハビリを実践していく。職員教育という点では、タスク管理表を用い、職員一人ひとりの業務量の可視化を図り、偏りのない職場環境を構築する。実習生受け入れに関しては、積極的に行っていききたい。現状では、社会福祉士の実習生の受け入れやベトナムからの学生の受け入れが決まっており、次世代の福祉を担う、介護福祉士、社会福祉士の育成に貢献したい。

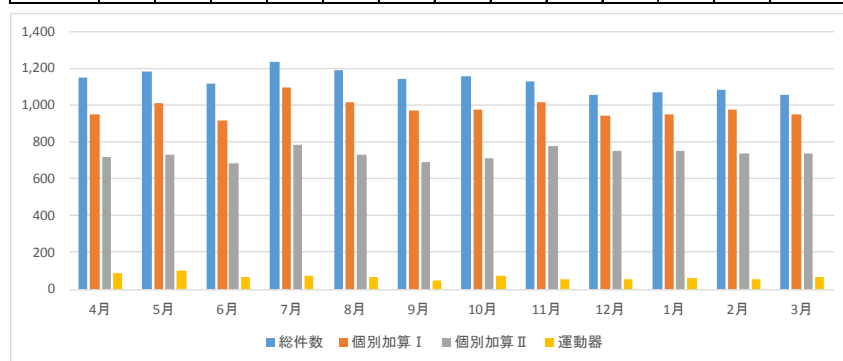
■2019 年度のトピックス・実績

2019 年度は平均利用者数が 42.5 名であり、予算未達成という苦しい 1 年であった。加算については、個別機能訓練加算Ⅱと運動器機能向上加算の算定を積極的に行い、個別機能訓練加算Ⅱは延べ 8,805 名、運動器機能向上加算は延べ 801 名と前年から大きく増加することができた。認知症加算は対象者にプログラムの実施、評価を行っているが、今後プログラム内容の再構築が課題となる。

図表. 実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総件数	1,148	1,179	1,115	1,234	1,187	1,141	1,155	1,132	1,059	1,067	1,081	1,059	13,557
新規人数	4	2	6	3	3	1	6	6	4	6	4	4	49
個別加算Ⅰ	952	1,011	918	1,098	1,013	973	979	1,018	945	949	978	947	11,781
個別加算Ⅱ	720	730	687	783	728	692	711	776	752	752	737	737	8,805
運動器	89	98	70	71	65	49	74	54	55	59	51	66	801



愛和会（豊中地区）ケアプランセンター

■スタッフ紹介

ケアプランセンターあいわ

管理者（主任ケアマネジャー兼任）磯和夏世

主任ケアマネジャー 3名

勝永和美, 飯田典子, 福嶋久子

常勤ケアマネジャー 6名 西川みか, 金山裕己,

杉野共慶, 北山恵美, 森本有里, 佐伯美紀

ケアプランセンターあいわ豊中南

管理者（主任ケアマネジャー兼任）土本美子

主任ケアマネジャー 2名 池田陽子, 茶谷恵子

常勤ケアマネジャー 3名

吉田照章, 白川理恵, 岩切恵子

■業務内容

市内最大級の事業所であり複合施設という性質上、緊急的なケアプランの依頼や困難ケースの依頼、引き継ぎ相談も多く寄せられる。新規依頼の経路としては、包括支援センターからの依頼や法人内の連携によるもの、近隣医療機関からの新規相談等も多く、また利用者の家族や知人からの紹介ケースも増えている。

■2019年度のトピックス・実績

1) ケアプランセンターあいわ

2019年度ケアプラン作成数は、4月303件でスタートし、3月302件で終了した。1人当たりのケアプラン数は

平均31.6件であった。新規依頼はコンスタントにあるものの長期入院や入所等で終了となるケースも多い。2018年の改定でターミナルケアマネジメント加算、特定事業所加算Ⅳが新設され、当事業所でも加算算定のため積極的に取り組みを行った結果、算定条件を満たすことができた。来年度は特定事業所加算Ⅱに加え、Ⅳの算定が可能となるため、1件当たりでは1,355円の報酬単価増となり、事業所の増収が見込める。今年度、報酬単価の平均は15,658円であった。

2) ケアプランセンターあいわ豊中南

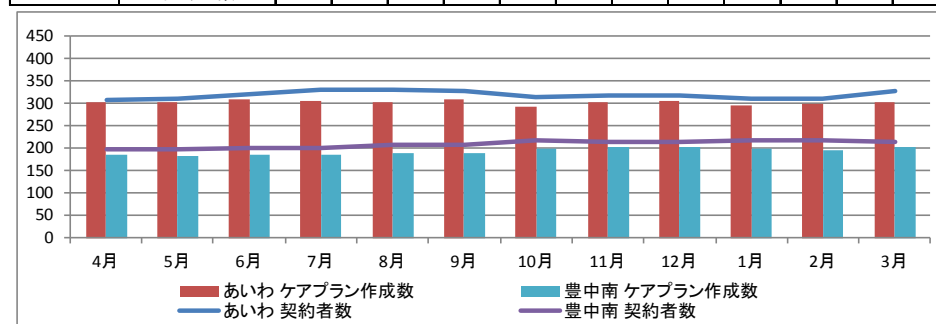
2019年度ケアプラン作成数は、4月186件でスタートし、3月202件で終了した。1人当たりのケアプラン数は平均30.4件であった。6月に1名増員し6名体制となり緑地地域包括支援センター高川分室と連携し、圏域南部の新規利用者獲得に向けて努力した。また事業所全体でインフォーマルサービスの活用による利用者の生活の質向上に取り組み、地域の社会資源開拓やケアマネの質向上に繋がった。報酬単価は15,580円に増加した。

■今後の展望

継続的にターミナル体制加算の算定に向けて在宅医との連携強化等の取り組みを行う。法人内への紹介率向上はもちろん、井上病院との紹介実績数を向上させていきたい。同時に緑地圏域におけるサービスの適正化、重点化を行っていく。

図表. 2019年度実績

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
あいわ	契約者数	309	311	322	331	330	329	315	317	316	311	312	327
	ケアプラン作成数	303	304	309	305	302	308	294	301	305	297	299	302
	1人当たりの数	31.9	31.8	32.5	32.5	34.8	31.6	30.6	31.4	31.8	30.8	30.8	28.2
豊中南	契約者数	198	196	201	201	206	206	218	215	215	216	218	214
	ケアプラン作成数	186	183	186	186	189	188	200	201	201	199	194	202
	1人当たりの数	34.4	33.9	28.8	28.8	29.3	29.0	30.2	30.3	30.3	30.0	29.1	30.4



訪問介護ステーションあいわ

■スタッフ紹介

管理者：長尾 敏

常勤サービス提供責任者 8 名：

藤井和代，貞守文子，成田美代子，大井明子

笠原順子，北由利子，原 典子，畑岡靖子

パート介護員 1 名

登録ヘルパー 実働 29 名

■業務内容

介護保険による介護給付・予防給付・地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）と，障害者総合支援法による居宅介護・重度訪問・移動支援を提供する訪問介護事業所である。また，複数のサービスを提供し，特定事業所加算Ⅱを算定していることは当事業所の強みである。定期巡回・随時対応型訪問介護看護は，豊中市内で実施している事業所は 3 か所と少なく，できるだけ住み慣れた環境で最期まで過ごせるよう支援している。ケアプランセンターあいわ，緑地地域包括支援センターからの依頼が多く自社プラン率は約 90%と高いが，他事業からの新規も獲得できている。

■2019 年度のトピックス・実績

年度当初の契約者数は介護保険 119 名・介護予防 61 名・障がい 22 名の合計 202 名であった。そのうち，定期巡回・随時対応型訪問介護看護契約者数は 9 名であった。月間 1,400～1,600 件，年間 18,100 件の訪問を行うことができた。

2019 年度上半期は訪問件数が伸びず，新規受け入手順を作成し，迅速な対応を心掛けた。同法人にとどまらず，他事業所からの紹介も増え，新規訪問件数を増やすことができた。ケアハウス入居者の高齢化が進んでおり，訪問介護利用者が増加傾向にある。定期巡回利用者人数は平均 10 件であった。介護度に合わせ，1 日に複数回訪問することで，安心して最後まで在宅で過ごせるようサービスを提供している。看取りケアを念頭に入れつつ，ケアマネと連携を強化しサービス提供を行った。

介護医療連携推進会議は 9 月に開催した。校区福祉委員，地域の薬剤師，法人外の訪問看護師などの 7 名の参加協力を得て，意見交換をすることができ，会議内容をホームページに掲載した。2020 年 3 月は，コロナ感染症拡大防止のため中止となった。2019 年 11 月には豊中市の現地指導を受け，特定事業所加算Ⅱに関する基準を満たしていた。

■今後の展望

地域密着型事業である定期巡回の利点を生かし地域と共存しながら，安定稼働に繋げていく。

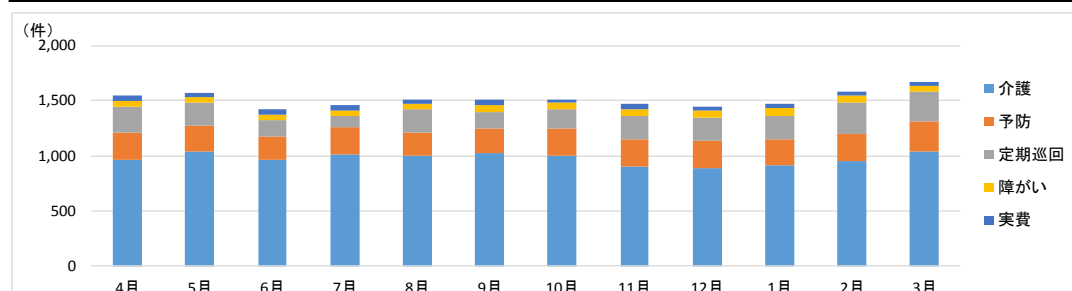
ケアハウス利用者が在宅で最期まで生活を続けていけるよう，看取りを見据え，特養，老健，ケアプランとの連携を更に強化していく。

現在の人員の中で，新規の受け入れがどの程度可能であるか，各利用者にとって必要なサービスが行えているかなど，評価，検討を重ね，新規獲得に繋げていく。

2020 年 4 月からは特定事業所加算Ⅰの取得を予定し，ますますの研修内容の充実を図り，職員，登録ヘルパーの質の向上に努めていく。

図表 1. 延べ訪問件数実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	970	1,035	959	1,015	997	1,023	997	905	890	915	956	1,035
予防	239	237	212	243	214	231	252	246	245	235	243	273
定期巡回	237	213	157	100	219	141	169	211	210	214	282	272
障がい	54	55	48	54	41	71	66	67	70	68	71	60
実費	44	35	45	43	44	42	31	49	38	41	31	35



あいわ訪問看護ステーション

■スタッフ紹介

管理者	1名
副主任	1名
常勤看護師	7名
常勤理学療法士	4名
常勤兼務言語聴覚士	1名
常勤作業療法士	1名

■業務内容

医療依存度が高い利用者や多様なニーズに対応できるよう日曜、祝日の訪問も対応し、24時間対応体制により、療養生活が送れるよう看護を提供している。その人らしく最後まで暮らせるよう在宅看取りも支援している。リハビリでは、今年度から作業療法士を1名増員し、5.5名体制となる。高齢者や障がい利用者の心身機能の維持・回復や日常生活の自立を目指したリハビリを提供し、要介護者だけではなく、要支援者にもサービスを提供している。要介護状態への進行を予防し、日常生活活動や、社会活動の参加を促し、生きがいや自己実現を支援している。

■2019年度のトピックス・実績

今年度の新規契約者は97件（月平均8名）。内訳は介護給付（予防含む）74件、医療給付は23件で介護給付は前年比189%、医療給付は88.48%であった。医療機関は、従来の7医療機関に加え、新たに十三市民病院、甲聖会記念病院、豊中平成病院、北野病院、大阪大学病院、大阪市立大学、大阪国際がんセンター、千里中央病院、箕面市民病院の9医療機関へ退院前カンファレンスに参加している。法人外の新規依頼件数は24件で、150%増えている。訪問リハビリは今年度からOT1名配置にて5.5名体制となり訪問件数5,048件、前年比108%と増加している。ターミナルケア加算は年間9名算定し、前年比75%であった。

定期巡回随時対応訪問介護・看護は274件で前年比101%、看護は183件、前年比135.6%、リハビリは91件、前年比62.6%と、ケアハウスの入居者の高齢化に伴い、服薬管理を中心に看護のニーズが高まっている定期巡回の利用が増え、看護と介護が連携し、情報共有を強化できた。

年度末の活動利用者数は151件、前年比106%、延訪問件数は11,940件（訪問リハ含む）前年比110%、グループホームを含めると12,152件となる。1日の平均訪問件数は41名で、スタッフ1人当たりの1日平均訪問件数は4.1名で前年比102.5%となる。今年度は同法人からの新規依頼が増え、訪問件数を伸ばすことができた。リハビリは、上半期の新規依頼が低調しており、訪問件数が伸び悩んだが、下半期は安定してきた。老健、特養、デイサービスへ応援体制を開始し横断的に活動している。

訪問看護は、大阪府看護協会が主催する「1日訪問看護体験」を導入し、5名の研修生を受け入れた。

■今後の展望

1. 業務効率化に向けた、記録システムの導入。
2. 人材育成と人材確保。
3. 多種職連携の強化。
4. 医療ニーズの高い利用者でも対応できるよう、職場学習会、研修の参加を通して更なる質の向上を目指す。
5. 安定稼働に向けた、利用者の獲得。
6. 在宅看取りにおいて、人生の最終段階を有意義に過ごせるよう、エンドオブライフケアの実践。
7. リハビリの横断的な活動の推進と、施設内人員交流。

表1. あいわ訪問看護 2019年度活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
活動利用者数(人)	140	138	140	139	142	153	154	157	157	154	151	151	1,776	148.0
訪問延べ人数(件)	911	930	942	1010	1047	986	1096	1038	1,042	945	989	1004	11,940	995.0
リハビリ再掲(件)	405	387	394	456	430	408	471	429	428	390	407	405	5,010	417.5
収入(円)	8,183,177	8,235,847	8,094,004	8,639,376	9,120,889	8,761,435	9,421,861	9,143,074	9,047,247	8,071,874	8,177,400	8,654,748	103,550,932	8,629,244
在宅看取り数(人)	0	1	2	0	0	2	0	1	2	0	1	0	9	0.75

緑地地域包括支援センター

■スタッフ紹介

管理者/主任介護支援専門員：上農朱美
 保健師/看護師：宮前富美，村上賀美，大屋好江，
 若林美和
 社会福祉士：寛山穂月，溝上恭兵，田島佳祐
 主任介護支援専門員：小阪和美，二口恵津子

■業務内容

2019年度豊中市への実績報告は、総合相談件数は4,002件で、内訳は介護保険 2,468 件，権利擁護・虐待関係 411 件，認知症 287 件，ケアマネ支援 202 件であった。介護予防プランに関しては、直接担当件数は 1,866 件，委託担当件数 6,397 件であった。

地域活動としては、地域福祉ネットワーク会議 2 回，高齢者会 6 回，寺内・豊南・北条 3 校区での見守りローラー作戦 19 回，地域密着型サービスの運営推進会議への参加 19 回，地域教室 11 回を開催した。また今年度はサロン，なんでも相談・民生委員定例会等 46 回，他に地域の敬老の集い，文化祭，秋祭り，クリスマス会，防災訓練などにも積極的に参加し，広報や地域の情報把握に努めた。

■2019 年度のトピックス・実績

今年度より，高齢者の自立と介護予防推進，ネットワーク強化のために，自立支援型ケアマネジメント会議を 5 回開催した。また，圏域内の高齢者を支援する医療・介護などの専門職のネットワーク構築や地域の課題をともに考えるために「多機関連携のための交流会」を北部

南部で計 2 回開催した。今後も互いの役割や専門性を理解できるような地域づくりの一環としたい。またケアマネジャー支援の一環として，服部包括と共催で弁護士をアドバイザーに月 1 回「服部・緑地ケアカフェ」と称し，座談会形式の学びの場を開始した。

多世代に向けたネットワーク構築継続のため，児童対象の認知症サポーター養成講座の開催や，地域の小学校や子ども食堂に出向くなどの活動を継続した。専門職向けに人権擁護や虐待などの研修を 2 回開催し，包括内においても人権擁護に関する相談に速やかに対応できるよう，情報共有と協議を徹底して行った。地域の通いの場づくりのため，「とよなかパワーアップ体操」の立ち上げを重点目標とし，地域住民が自助，互助の中で通いの場づくりと介護予防ができるよう，医療職中心に支援を行った。通いの場が地域に増えることで，介護保険に頼らない地域作りを目指している。現在 11 か所が通いの場として活動している。

■今後の展望

自立支援・重度化防止に向け，自立支援型ケアマネジメント会議の充実，医療・介護連携が強化できるようネットワーク作りや多職種連携のための働きかけ，専門職支援を継続する。また，高齢化率や独居率が上昇していることから相談件数の増加に伴い，認知症や権利擁護に関する内容が増えることが予想され，柔軟で迅速な対応が求められている。第 8 期計画に向けて高齢者がより暮らしやすい地域作りを目指したい。

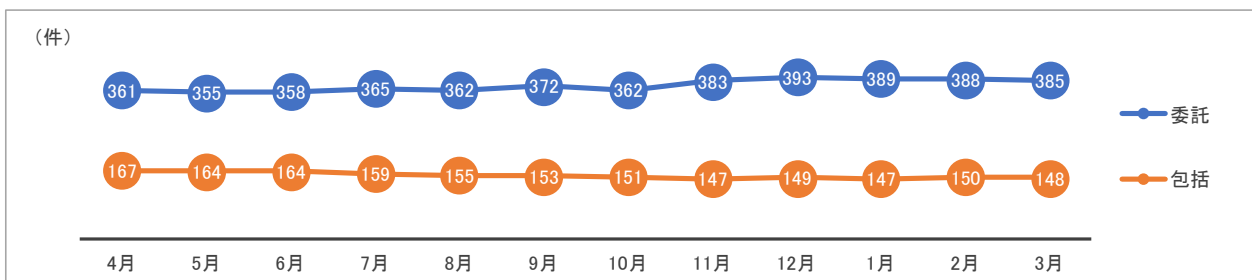


図 1. 2019 年度プラン件数

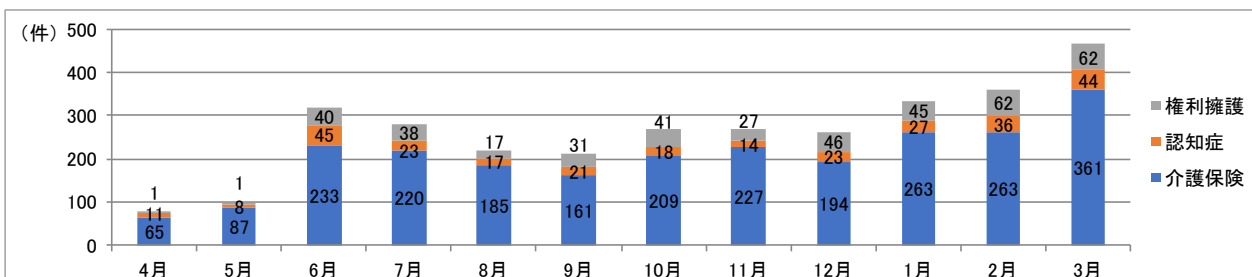


図 2. 2019 年度総合相談件数

障がい者施設あすなる

■スタッフ紹介

職員配置は、施設長 1 名、看護職員 2 名、医師 1 名（嘱託）、管理栄養士 1 名のほか、多機能型事業所は主任 1 名、副主任 1 名、生活支援員 13 名、生活介護は科長 1 名、主任 1 名、副主任 1 名、理学療法士 1 名、生活支援員 19 名、短期入所・日中一時支援事業は副主任 1 名、生活支援員 13 名、相談支援事業は副主任 1 名、相談支援専門員 5 名である。

■業務内容

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では作業訓練や社会生活訓練を行い、就労を目指している。生活介護では製麺、印刷、軽作業、清掃、洗車などの作業を通して、社会性の向上や作業の機会を提供している。

生活介護では、食事や入浴、運動及び創作活動、音楽、スノーブレン、感覚刺激などの余暇活動の提供と機能訓練などを実施している。

短期入所では、家族のレスパイトや緊急時などの理由による短期間の宿泊の場を提供している。日中一時支援事業では、家族のレスパイトや就労などの理由による一時預かりを行っている。

相談支援事業所では、障がい者・児の相談業務やサービス等利用計画の作成や生活全般における困りごとや悩みを聞き、不安解消に努めている。

■2019 年度のトピックス・実績

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では、社会生活訓練や日常生活訓練を取り入れた。職場実習では短期実習に 3 名、長期実習に 1 名参加し、9 月には 1 名が就職に繋がった。次年度から始まる法人内、高齢者施設の車椅子清掃の準備を行った。生活介護では、運動会を豊中市障害福祉センター内の体育館で実施した。また、あすなるミーティングを定例化し、利用者満足度の向上を図った。

生活介護では、利用者と活動内容を決め、新しいレクリエーションを行うことができた。レクリエーションや創作活動で制作した作品の展示会を開くことができた。また、クラブ活動の所属を 1 年とし、年間を通した支援に繋がった。

短期入所は、稼働率 92.9%となった。医療的ケアの必要な利用者を看護職員や相談支援専門員と連携を図り、3 名

受け入れた。緊急時の対応など、現場に即した部署内勉強会を年 6 回実施し、スキルアップを図った。日中一時では予約調整とスケジュールの工夫を行い、1 日平均利用者数は 9.0 名と前年度より 0.8 名増加した。

相談支援では、豊中市委託相談支援事業所として、一般相談は 264 件、サービス計画作成件数及びモニタリング件数は年間で 767 件、前年比 97.2%となった。活動実績は管理者が主任相談支援専門員の資格を取得したことで、特定事業所加算 I を算定し加算を増やすことができた。

あすなる開設 15 年の歩みとして、11 ケースの利用者支援をまとめたあすなる事例集 平成の轍「心の声に耳を傾けて」～ともに歩んだ日々～を発行した。

また、あいわ診療所にて嘱託医による市民健診・特定健診を開始し、あすなる利用者の健診 84 名、その他事業所利用者 40 数名を受け入れ、地域貢献に繋がった。

■今後の展望

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では、工賃に繋がる作業時間を増やし、作業の質も向上させ、利用者のニーズに合わせた就労に繋げていく。生活介護では各作業班の運営計画に沿った活動を提供し、生産活動と運動の両輪で利用者支援の充実を図る。また、あすなるミーティングも継続し、利用者主体の活動に繋げる。

生活介護では、引き続き活動の充実及び理学療法士を始めとする多職種との連携を行い、身体機能の維持と健康管理を行う。また、嘱託医や看護師との連携を強化し、疾病の早期発見、早期治療に繋げる。

サービス管理責任者を配置している多機能及び生活介護は次年度より、利用者主体の個別支援計画の作成や個別支援会議をサービス管理責任者が責任をもって開催する。

短期入所では、豊中市の緊急枠の借り入れ 1 床が終了となり定員 18 名となるため、ベットコントロールとキャンセル待ちの対応を確実にを行い、稼働率を上げる。

相談支援では、引き続き地域の相談窓口として役割を果たせるよう、専門研修の受講を通して相談員のスキルアップを図る。また、主任相談支援専門員として豊中市における主要会議の参加や他事業所との協働による社会資源の開発に携わる。継続して多機能型事業所や生活介護、短期入所の個別支援計画との連動を図っていく。

表 1. 多機能型事業所あすなろ（利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労継続支援B型	163	156	155	171	143	149	158	144	144	134	133	163	1,813
生活介護	1,355	1,313	1,282	1,411	1,227	1,237	1,310	1,253	1,267	1,157	1,215	1,312	15,339
合計	1,518	1,469	1,437	1,582	1,370	1,386	1,468	1,397	1,411	1,291	1,348	1,475	17,152

表 2. 多機能型事業所あすなろ（事業別平均工賃）

（単位：千円）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
就労継続支援B型	19,900	21,600	20,100	22,100	23,400	18,800	24,500	25,300	22,000	26,900	20,600	21,900	22,258
生活介護	7,900	8,800	7,400	10,900	8,900	6,700	4,900	9,100	11,400	7,900	7,600	11,400	8,575

表 3. あすなろ（生活介護）（障がい施設区分利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障がい支援区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい支援区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい支援区分3	42	43	45	45	47	39	45	48	42	40	33	37	506
障がい支援区分4	187	184	184	188	172	185	174	167	164	155	161	170	2,091
障がい支援区分5	430	435	412	431	416	412	458	423	433	404	418	425	5,097
障がい支援区分6	527	527	511	544	505	514	536	510	485	462	479	491	6,091
合計	1,186	1,189	1,152	1,208	1,140	1,150	1,213	1,148	1,124	1,061	1,091	1,123	13,785

表 4. あすなろ（短期入所）・日中一時支援事業あすなろ（利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所	818	817	769	780	733	771	800	806	807	720	781	789	9,391
日中一時	278	316	271	284	293	295	266	259	249	231	277	300	3,319
合計	1,096	1,133	1,040	1,064	1,026	1,066	1,066	1,065	1,056	951	1,058	1,089	12,710

表 5. 相談支援事業所あすなろ（相談受付件数）

（単位：件）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
成人	計画	26	11	22	28	18	14	23	22	23	16	30	23	256
	モニタ	42	37	33	43	38	40	31	33	41	36	27	40	441
児童	計画	2	1	2	2	5	2	3	2	1	3	1	3	27
	モニタ	4	3	4	1	4	5	3	4	4	5	1	5	43
合計	74	52	61	74	65	61	60	61	69	60	59	71	767	



愛仁会 本部

〒555-0001
大阪市西淀川区佃2丁目2番46号

URL:<http://www.ajinkai.or.jp/honbu/>

理念・モットー

<理念>

1. 広く社会のためにより良い医療サービスを提供し、健康で豊かな生活の増進に貢献する。
2. 法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る。
4. 医療人としての使命を自覚し、学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共にする。

<モットー>

貢献・創意・協調

2019年度活動状況

- 4月 入社式・新卒新入職員法人研修会、第13回消化器カンファレンス、看護師特定行為研修開講式、事務部期首講演会
- 5月 第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会プレセミナー、第62期看護・介護管理者期首研修会、第1回途中入職者研修会
- 6月 民間医局レジナビフェア 2019 大阪～後期研修(専門研修)プログラム～、第143回定時社員総会
- 7月 民間医局レジナビフェア 2019 大阪～臨床研修プログラム～、第4回愛仁会グループ整形外科勉強

会、情報処理技術者試験集合研修、第2回途中入職者研修会

- 8月 第69回日本病院学会、第10回愛仁会グループ外科勉強会、看護師特定行為研修、情報処理技術者試験集合研修、病院長・幹部職員セミナー、医療のTQM近畿ワークショップ
- 9月 看護師特定行為研修、事務部主任・副主任研修会、情報処理技術者試験集合研修
- 10月 第5回愛仁会グループ臨床研修医セミナー、事務部科・課長研修会、第1回愛仁会リハビリテーション医懇話会、第20回大阪病院学会
- 11月 第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 仙台、第3回途中入職者研修会、第14回愛仁会消化器カンファレンス
- 12月 第4回愛仁会グループ臨床工学技士研修会
- 2月 2019年度愛仁会グループ産婦人科講演会・合同カンファレンス、事務部部長・事務長研修会、第10回愛仁会臨床検査部門研修会
- 3月 2020年度愛仁会グループ役職者決意表明座談会、看護師特定行為研修修了式、第144回定時社員総会

2019年度総括・2020年度に向けて

第62期の本部は下記の8点を中心として活動を行った。

- ①特定医療法人蒼龍会との合併(2019/4)に伴う運営支援
- ②諸規程の見直し
- ③消費税増税(2019/10)への対応

- ④組織横断的活動への支援
- ⑤広報活動のリニューアル
- ⑥業務改善運動の見直し
- ⑦給与制度の改革
- ⑧必要利益の確保

①については、合併後のスムーズな運営を行うため、組織図の変更、管理部門の見直し、諸規程の統一化、預金口座の整理などを実施し、法人各施設と同様に外部監査を導入し、別途フォローアップ監査を実施して会計精度を向上させた。また、旧蒼龍会グループの施設を吹田エリアとして一括し、エリア内各施設間の連携などエリアマネジメントの概念を定着させることに努めた。

②については、従前から継続して行ってきたものであるが、処遇面を中心とした社員規約の改定、理事職務権限の見直しも含めた理事会規程の改定、本部組織も含めた施設組織規程の改定など、主に法人や施設運営管理に関わる規程について整理と見直しを行った。

③については、まず医療情報面では、診療報酬改定対応も含めて、ベンダーと協力し各種マスターの設定変更や見直しを実施し、また軽減税率への対応についても滞りなく行うことができた。また財務管理面では、高額医療機器予算の前倒し執行を行い、減税効果を得ることができたが、2%増税はキャッシュフローに大きな影響を及ぼす結果となった。

④については、診療部としては臨床研修医や専攻医の採用活動及びセミナー、外科・整形外科・リハビリテーション科医師の勉強会・懇話会、看護部としては自施設のSWOT分析を行う科長研修の実施、介護職員の集合教育の実施等、技術・事務部としては役職者研修のほか、放射線科、栄養管理科、臨床工学科の研修会、保育科の話し方教室・研修会を側面から支援した。また、セラピスト、検査技師に次いで放射線技師の部門協議会の立ち上げを行った（2020年度～）。

⑤については、法人広報誌「アイワタイムス」を法人ポータルサイト内で閲覧できるweb版にリニューアルし、

動画を配信できるようにしたので表現の幅が広がった。ポータルサイトの利用については、COVID-19下で開催できなかった2020年度の役職者決意表明式を座談会形式で配信するなどでも活用できた。

⑥については、働き方改革などの環境の変化を踏まえ、従前の上・下半期の年2回の活動を、2020年度から原則7～12月の年1回の活動とし、余裕を持った活動とwebを使ったリーダー・アドバイザー研修など教育制度の見直しも含めて質の面の充実を図り、より高いレベルでの活動を目指すこととした。

⑦については、能力評価による給与制度を取り入れることを前提に、職責給を新たに設け、基本給を職種別に固定した大幅な改革を行った。また、管理職給与についても、役職に応じた基本給に位置付け、職位手当と処遇を切り離れた制度に改めた。新制度については2020年度から実施するが、一般職については2年間、管理職については3年間の移行期間を経て最終形を目指す。また人事評価制度についても2020年度以降に見直す。

⑧については、各施設の活発な活動により増収減益傾向に歯止めがかかり、収入・利益ともに予算を上回ることができた。また、2021年度からの本格的な借入金の返済を前にして、経常利益の黒字転換が未だ実現できていない現状で、銀行との財務条項契約の見直し交渉は厳しい状況下であり、今年度のような活発な活動を継続する必要がある。2020年4月に予定されている診療報酬改定は急性期病院については追い風であると予測されるので、返済資金の安定した蓄えを実践していきたい。

最後に、年度最終四半期に発生したCOVID-19の全世界的流行は、法人にも大きな打撃をもたらした。各施設がCOVID-19の流行下で滞りなく診療や介護を行えるように、感染防止資材の確保や応援人員の手配などを行い側面から支援する一方で、感染面に留意しながら活動を行い、法人としての利益必要額を確保していかなければならない。2020年は色々な面で試練の一年となるであろうが、法人一丸となって対処していく所存である。

総務・学術人材開発グループ（総務担当）

■スタッフ紹介

担当理事：西岡百合子

部長：木田尚樹

主任：木村亮介，杉田幸代

副主任：濱西 隼

課員：有馬麻紀，田中葉月

■業務内容

働き方改革の一環として、職員の多様性を尊重しつつ組織としてのまとまりを持つ「共通言語の創造」を目指し、総務部主催行事の改善に取り組んだ。愛仁会の伝統的な行事として、年度末に実施していた「合同辞令会」を名称も新たに「役職者決意表明式」として開催準備したが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い開催を中止せざるを得なくなった。代替案として理事長と新任・昇任役職者数名との座談会を開催し、その様子をポータルサイトにてビデオ配信する（配信は2020年5月26日）。

消費税増税に対抗するために、各施設の冗費節減の一環として「法人一棟借住宅・寮入居状況調査による空き物件の見える化」を行い、遊休地の活用を推進した。また法人のスケールメリットをいかした一般管理費削減策として、エレベーター保守委託業者の一括変更を提案し委託費の大幅削減に繋がった。また、以前から導入していた水光熱費削減システムを新たに2施設に導入した。その他、収益性を踏まえた高額医療機器の適正導入や保守契約締結の適正化などを行った。

グローバル化に対応したベトナム国技能実習生の受け入れ支援として研修生宿舍の改修工事・備品整備を行った。

法人ガバナンス強化として、諸規定の整備、インシデント情報の共有化、本部BCPの策定などを行った。

■2019年度のトピックス・実績

1. 多様性を尊重した法人行事の改善企画

○2020年度愛仁会グループ役職者決意表明式企画立案

- ・意識調査を実施し、その結果を受け「新任役職者決意表明と、職員の一体感を醸成」、「時間短縮と懇親会費用圧縮」を両立させる企画を立案したが、新型コロナウイルス感染症防止の観点からやむを得ず中止となった。
- ・役職者決意表明式に代わる企画として、新任役員・管理

職・役職者が理事長を囲み座談会を開催しビデオ配信する。

2. コスト管理の強化（冗費節減）

○社宅管理・遊休地対策

法人一棟借住宅・寮入居状況調査による空き物件の見える化を行い、理事会で報告し遊休地の活用を推進した。

○賃貸物件の管理

高槻病院 底地賃貸借契約更新並びに賃料改定

○スケールメリットをいかした一般管理費削減策の実施

- ・水光熱費削減システムの導入

千船病院（2019年9月）、高槻病院（2019年6月）

- ・各施設エレベーター保守委託業者の変更を提案

日立ビルシステムは大幅値下げ提案により継続契約、

その他はジャパンエレベーターサービスに契約変更（エレベーター、エスカレーター、ダムウォーター計102台）

- ・愛仁会地域ケアセンターガス契約内容変更による削減

○委託費の改定対応

日清医療食品病院給食委託費用改定

高槻病院、明石医療センター、愛仁会リハビリテーション病院

3. 高額医療機器の導入・機器保守の契約

○納入価 500千円以上の医療機器の導入、年額 500千円以上の機器保守の契約

- ・千船病院

高額機器予算額 60,000千円、執行額 50,382千円

機器保守契約 2品目 41,950千円/年

- ・高槻病院

高額機器予算額 90,000千円、執行額 89,538千円

- ・明石医療センター

高額機器予算額 90,000千円、執行額 88,429千円

- ・井上病院

高額機器予算額 15,000千円、執行額 15,905千円

（超過分は次年度予算の先取り執行）

- ・尼崎だいもつ病院

高額機器予算額 5,000千円、執行額 400千円

- ・カーム尼崎健診プラザ

メンテナンス付きリース継続契約 1品目 1,852千円

- ・愛仁会看護助産専門学校
高額医療機器 1品目 910千円
- ＜高額機器予算総計＞
予算額 270,000千円 ・執行額 246,930千円
※エリア委員会、運営会決裁分 20万円以上を含む
- ＜法人予備費総計＞
予算額 150,000千円、執行額 129,476千円
- ＜特別予算総計＞
執行額 276,547,740円
- 法人加入保険管理
 - ・2020年度医師賠償責任保険更新
 - ・2020年度役員賠償責任保険更新
 - ・火災保険及び地震保険更新
 - ・自動車・原動機付自転車任意保険加入状況調査の実施
 - ・千船病院台風 21号被害修繕工事（損保利用）
 - ・明石医療センター外壁タイル補修工事（損保利用）
- 医業外収入の確保対策
 - ・コカ・コーラ自動販売機契約更新（法人一括契約）
- 4. 国際人材の採用と活用
 - ベトナム人介護研修生受入れサポート
 - ・APS ベトナム人研修生寮（サンフラワー南春日丘）へのセキュリティシステム導入
 - ・ベトナム人研修生宿舎としてレジデンス古曽部を活用するための改修工事と備品整備
- 5. 事務機能の強化
 - 秘書部門の強化
 - ・法人グループ秘書担当者情報交換会の開催
 - ・秘書検定試験 2級 1名合格
 - 接遇マナーの強化
 - 接遇マナー研修講師養成研修会開催
 - 大阪病院学会運営支援
 - 生長会との協働による学会運営支援金確保活動
- 6. 運営管理システムの充実とガバナンス強化
 - 諸規定の整備見直し
 - ・社員規約（A-2）・理事会規程（A-11）
 - ・理事会規程実施細則（A-12）
 - ・理事職務権限規程（A-14）
 - ・愛仁会本部の組織及び職務権限に関する規程（A-15）
（旧名称：本部管理部門組織規程）
 - ・施設組織規程（A-17）・施設組織規程細則（A-17-2）
 - ・稟議規程細則（A-19）・就業規則（B-1）
 - ・給与規程（B-2）

- ・廃止：住宅手当ならびに家族手当支給規程（B-5）
- 法人定款変更
 - ・海外における医療の普及又は質の向上に資する業務として「ベトナム国における医療人材育成に関する業務」を追加、ケアプランセンター愛仁会富田並びにヘルパーステーション愛仁会富田の開設場所変更、常務理事の定数の上限変更、介護職員養成研修事業を介護職員等養成研修事業に変更、公告の方法を官報掲載から電子公告に変更（2019年8月1日）
 - ・ケアプランセンターちぶね廃止、ケアプランセンター千船病院の開設場所変更（2020年5月1日）
- 親愛会活動
 - ・正会員数 5,816名（2020年3月31日時点）
 - ・医療費給付事業 総額 47,630千円 延受診者 8,826人
 - ・慶弔・見舞金給付事業 総額 12,055千円
- インシデントの共有による再発防止対策の実施
 - ・WCCへの「診療報酬・介護報酬インシデントフォルダ」を設置し、情報共有化による再発防止対策を実施
- 災害対策の実施
 - ・新型コロナウイルス感染症対応
感染防止対策、資材調達、学童保育等の情報共有推進
本部内「3密」防止対策の実施
 - ・本部 BCP 策定・災害対策マニュアル策定
BCP 委員会の設置、本部備蓄品の確保
第1回愛仁会ケアセンター防災講習会実施
- G20 大阪サミット開催への対応
 - 各施設診療・営業への対応調査と本部出勤体制の確立

■今後の展望

- ・部内での ICT の活用、シフト勤務の導入を推進し、職員それぞれの事情に応じ多様で柔軟な働き方を実現し、業務の効率化・合理化・生産性の向上に努める。
- ・材料費や一般管理費について更なる節減を進めるとともに、医療機器、車両、土地、建物などの資産有効活用についても施設と協力して実行する。
- ・接遇マナー研修講師養成プロジェクトの推進し、法人文化として「接遇」を定着させる。また秘書能力を有する事務職員の育成を支援する。
- ・法人のガバナンス強化とともに、ハラスメント対策の窓口としての機能を充実させる。

総務・学術人材開発グループ（学術人材開発担当）

■スタッフ紹介

担当理事：南 宏尚

部長代理：車田絵里子

課員：姥谷真裕子，鈴木彩子，加藤 彩，西川夢乃，
グエン ティ チャム

■業務内容・2019年度のトピックス・実績

1. 研修会

1) 入職時研修

新卒入職者 339 名が受講した。2019 年度は 2 日間同一会場内での開催としたことで効率的となり、昨年度と比べ費用削減となった。また、新たな試みとして、今期より認知症サポーター養成講座を研修プログラムに加え、入職時より認知症ケアへの理解を深める一助とした。途中入職者研修会は計 4 回開催し 182 名が受講した。第 4 回目(2/27)の研修会は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策のため、開催中止となった。次年度は開催方法を検討していきたい。

2. 職種別学術活動支援

1) 診療部

第 5 回愛仁会グループ臨床研修医セミナー (10/5) を開催した。研修医・指導医計 74 名の参加を得た。また、臨床研修医 (7/7)，専攻医 (6/2) の病院説明会における採用活動を支援した。専攻医は新専門医制度の登録スケジュールに則り、千船病院 4 診療科・高槻病院 6 診療科・明石医療センター 3 診療科が基幹プログラムとして 10 月からの専攻医の募集を行った。千船病院 (内科，小児科，産婦人科，麻酔科) の登録数は 14 名，高槻病院 (内科，小児科，外科，産婦人科，麻酔科，病理科) の登録数は 11 名，明石医療センター (内科，麻酔科，総合診療科) の登録数は 10 名であった。その他，第 4 回愛仁会グループ整形外科勉強会 (7/13)，第 10 回外科勉強会 (8/3) の開催を支援した。また，法人におけるリハビリテーション関係者が課題の検討などを通じてリハビリテーション医療の質を充実させることを目的に，新たに第 1 回リハビリテーション医懇話会 (10/26) の開催を支援した。顧問 愛仁会リハビリテーション病院リハビリテーション科 部長 住田幹男先生，代表世話人 愛仁会リハビリテーション病院 副院長 兒島正裕先生，世話人 高槻病院 副院長 樺篤先生，愛仁会リハビリテーション病院 院長 吉田和也先

生，尼崎だいもつ病院 院長 松森良信先生をメンバーとする世話人会を中心に開催，愛仁会グループのリハビリテーション科を含む医師・老健施設長・セラピストと，合わせて 31 名の参加を得た。本会が関係者のネットワーク形成の場として有用であるとの声が聞かれた。

2) 技術部

愛仁会グループ管理栄養士協議会 (5/16，6/10，12/3) の開催を支援した。昨年に引き続き人材育成を最重要課題とし，経験年数 5 年未満の職員を必須対象，その他上長が必要と判断する職員を対象に，臨床力・ビジネスマナーの向上を目的とした研修を行った。また，栄養指導や集団指導等の業務レベルから学会認定の資格取得レベル等を段階別に設定したキャリアパス設定に着手しており，次年度はそのキャリアパスを記したガイドラインを作成，法人横断的な人材育成を行っていく。

スペシャリスト技師育成にあたり，社会性や一定の技術力といった基礎を養成すること，かつ各施設の特色をいかした教育指針設定を目的に愛仁会グループ放射線科人材開発・教育協議会 (9/13，1/17) の開催を支援した。現教育体制の把握と施設間交流計画の策定，以後の方向性の整理を行った。次年度は「愛仁会グループ放射線部門協議会」発足の運びとなり，当会を協議の場としていく。

昨年度に引き続き高槻病院 イメージングリサーチセンター 主任部長 高橋 哲先生監修の下，愛仁会グループ放射線科高橋塾 (4/18，6/13) の開催を支援した。CT における管電圧設定の最適化をテーマにファントム検証・評価を行い，物理評価に対して造詣を深める場とした。その他，第 3 回愛仁会グループ放射線技師合同勉強会 (8/17)，第 4 回愛仁会グループ臨床高額技師研修会 (12/1) の開催を支援した。

3) 事務部

事務部期首講演会 (4/27) を開催した。千船病院 中山事務部長より「厚生労働省での経験」，愛仁会本部 人事グループ 橘部長より「働き方改革に伴う就業規則等の改定について」，総務担当理事，愛仁会リハビリテーション病院 西岡事務部長より「共通言語」の創造を目指して」，局長講演会「愛仁会グループの現状と中期計画」の 4 部構成とし，愛仁会グループ事務系副主任以上 182 名が参加した。他，主任・副主任研修 (9/7) テーマ：「働き方改革を考える (講師：千葉商科大学 国際教養学部専任講師 常

見陽平先生)」参加者 118 名、科（課）長研修（10/19）テーマ「～誰でもがイキイキと働ける職場づくりのために～（講師：公益財団法人 21 世紀職業財団 中崎郁子先生）」参加者 29 名、事務部長・事務長研修（2/15）テーマ：「～労務管理にまつわるトラブル対応の共有～（講師：御堂筋法律事務所 弁護士・パートナー 越本幸彦先生）」参加者 61 名。

総合職 7 名に対し総合職認定制度（最終 2018 年改定）に則り特命業務を設定し、2019 年 6 月・12 月に個別面談、2019 年 9 月には一堂に会しての上半期業務進捗報告会を行い、総合職所属施設の上長とともに業務進捗管理を行った。その内 2 名は 63 期より科（課）長職への昇任に至っている。なお、通年の特命業務進捗報告会を 2020 年 3 月開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため中止となった。

保育部門は、専門研修大会合同研修会 1 回、基礎講座 8 回の計 9 回を開催支援した。さらに、昨年度に引き続き、全 7 回の「保育士対象話し方教室（講師：言の葉 OFFICE かのん川邊暁美氏）」を開催した。昨年度の受講生が川邊先生とともに講師を務め、企画にも携わることでより現場に密着した研修となった。今年度の受講対象は各園で中心的立場にある階層（入職 5～15 年）の職員及び新任役職者とし、計 8 名が受講した。成果発表として最終回にスピーチコンテストを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、開催延期となった。次年度は保育士に限定せず、職種横断的な開催を検討する予定である。

4) 国際交流の推進

ベトナム国における一連の事業支援を目的に、2019 年 4 月 1 日付にて「技術・人文知識・国際業務」区分での在留資格を有するハノイ大学卒人材を採用した。APS 介護スキルラボ事業、ダナンドンア大学看護スキルラボ事業の安定稼働に向け、関係者訪越時・来日時における通訳や各種資料の翻訳を行った。加えて、ベトナム現地職員と緊密に互いの状況報告・情報交換をし、プロジェクトのメンバーが迅速な意思決定ができるよう、支援を行った。また、認知症患者家族及び関係者が抱く悩みや葛藤に焦点を絞った平易な表現のハンドブックが 2020 年初夏を発行目途としている。ベトナム ドンア大学より当ハンドブック越語訳版作成の打診があり、以後作成協力をしていく予定である。

3. 学会発表・論文投稿

第 69 回日本病院学会（8/1～2）は 25 題、第 13 回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会（2/29）は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、開催延期となった。

『愛仁会医学研究誌 Vol.51 2019』は原著 4 題、症例報告 12 題、短報 8 題、総説 1 題、紹介 16 題、計 41 題の掲載を予定している。前年度に発刊した Vol.50 2018 に投稿された原著、症例報告、短報論文の中から「金の鳩賞」1 題、「銀の鳩賞」3 題を選び、受賞者の施設に赴き表彰式を行い、その様子をアイワタイムスで動画配信した。

4. 広報活動

『年報 2018』より愛仁会ポータルサイトへの掲載に加え、CD-ROM を作成、外部広報への利便性を高めた。また、昨年に引き続き学術人材開発 Facebook では学術人材開発部の活動記事をアップし広報した。愛仁会本部受付に設置しているデジタルサイネージで引き続き愛仁会グループのイベントやトピック等の情報を上映し、来客者にご覧いただけるようにした。アイワタイムスを愛仁会ポータルサイト内で閲覧できる Web 版にリニューアルした。これにより動画が配信できるようになり、表現の幅が広がった。また、閲覧数が把握できるようになったことや、いいね！ボタン、コメント機能を活用することで、読者の反応が分かるようになった。各施設の広報誌を愛仁会ポータルサイトにアップし、全職員と共有した。行事等で撮影した写真を Office365 の OneDrive に保存、各施設と共有した。

デザイン制作では、ドンア大学プロジェクトのロゴ、第 6 回愛仁会グループリハビリテーション部門学術大会ポスター、看護師特定行為研修フォーラムポスターを制作した。また大阪医専講演、看護師特定行為研修フォーラム、看護介護管理職期首研修の理事長講演で使用する図表や動画を制作した。

■今後の展望

次年度は、愛仁会ポータルサイトへアイワタイムスやイベント・トピックスを活発に掲載することで、全職員に愛仁会ポータルサイト、広報の啓蒙を図る。また、ダイバーシティを事業計画に掲げ、事務部女性管理職育成に焦点をあて企画を行う。さらにインターンシップ等、学生教育へのサポートを行っていく。そして昨年に引き続き、国際事業をサポート、ベトナム国人材を介し、愛仁会グループにおける国際的事業支援を展開していく。

企画部・医療情報グループ（企画担当）

■スタッフ紹介

担当理事：伊藤成規

統括部長：中村達也

部長代理：荒尾雅一

部員：上田桃子

■業務内容

1. 第3期中期事業計画の管理

昨年度に策定した中期事業計画について、計画の実現性を高めるために KPI を設定する管理手法を取り入れた。

KPI 設定の対象病院は、法人全体の売上と利益への寄与度の大きさを考慮して、急性期3病院（千船病院、高槻病院、明石医療センター）とした。設定された KPI は急性期病院施設長会の報告事項として、毎月の管理ができるような仕組みも取り入れた。

2. ベンチマークに基づいた改善提案

DPC 対象病院に求められるアウトカムについて、全国の病院とのベンチマークを行うことで強みと弱みの抽出ができ、対象病院への情報共有及び改善の提案を行った。ベンチマークにはグローバルヘルスコンサルティング社のダッシュボード χ を使用した。

3. 重症度、医療・看護必要度の分析結果の情報提供

入院基本料1を算定している急性期3病院に対して、先述のダッシュボード χ を使った分析結果を提供し、改善の方法を提案した。また、中央社会保険医療協議会におい

て診療報酬改定の議論が進められる中、重症度、医療・看護必要度に関する情報を収集し、改定の議論に合わせたシミュレーションを作成した。

4. 2020年度の診療報酬改定への対応

2020年度の診療報酬改定にあたって、中央社会保険医療協議会の情報を適時収集し、法人内へ情報提供を行った。また、得られた情報に基づき必要な対策を提案した。診療報酬改定の項目や改定率が公開された後には、速やかに改定シミュレーションを行い、法人に与える影響を報告した。

5. 愛仁会総合健康センターとカーム尼崎へのFMS導入

愛仁会総合健康センターの課題であった検査機器の老朽化に対応すべく、臨床検査のFMS（Facilitate Management System）方式を導入した。FMSの導入は井上病院の先行事例もあるため、臨床検査部門協議会の協力を仰ぎ行った。機器の更新、保守、修理に要する費用を包括的な契約にまとめることで、合理化を図った。

■2020年度の展望

1. 次期中期事業計画の策定を企画

現在の中期事業計画は、医療系と介護系ともに2020年度で終了する。そのため、2020年度は次期中期事業計画を策定する年になる。次期の中期事業計画では、2つの新たな手法を取り入れていきたい。1つ目は任意の利益に目標額を設定すること、2つ目はその目標額を達成するためにKPIを管理していく手法である。

企画・医療情報グループ（医療情報担当）

■スタッフ紹介

担当理事：川口理作

統括部長：中村達也 部長代理：田中信吾

千船・だいもつ地区：渡邊謙太（課長）

千船地区：二上宏和（主任），段野香苗（副主任）

だいもつ地区：稲邑陽平

高槻地区：豊永 健（課長）（～6月）

森岡大貴（主任），土井善弘，三上 岳，山田タ子

明石地区：六車直樹（課長）（～6月）

豊永 健（課長）（7月～），三木紗知世（副主任）

前岡瑞希，藤澤かれん

吹田地区：吉岡 謙（主任）

本部：小西弘晃（主任），鳴尾 瞳

■業務内容、2019年度のトピックス・実績

1. 各施設 IT システム運用・管理

5月の改元及び10月の消費税増税と診療報酬改定については問題なくシステム対応を完了した。また、クラウド型電子カルテの品質改善・満足度向上対応として、6月末から7月にかけて各地区にフェーズ2と呼ばれる大規模な修正適用を実施した。以降も追加的な修正適用を実施し、レスポンスの安定化とシステム動作の安定化が図られた。高槻病院においては脳神経検査システムの更新を行った。愛仁会リハビリテーション病院においては薬剤部門システムのハードウェア更新を行った。明石医療センターにおいては南館ネットワークの更新及び栄養管理システムの更新を行った。カーム尼崎健診プラザにおいては放射線画像システムの更新を行った。明石医療センターの電子カルテ更新については計5回のWGを開催した。現行システムの保守延長が可能となったことから、来期に再度計画を策定することとなっている。吹田地区についても同様である。各施設のヘルプデスク業務では、全体で3,636件（前年比94.2%）の問い合わせに対応した。

2. 専門資格取得支援 ※（）内は全国合格率

昨年度に引き続き、情報処理技術者試験と医療情報技師の受験支援を行った。結果は下記のとおりである。

○IT パスポート試験

15名中6名合格，合格率40.0%（53.0%）

○基本情報技術者試験

3名中1名合格，合格率33.3%（28.5%）

○応用情報技術者試験

1名中0名合格，合格率0.0%（23.0%）

○医療情報技師 5名中1名合格，合格率20.0%（34.4%）

○上級医療情報技師

一次試験：2名中1名合格，合格率50.0%（20.6%）

二次試験：1名中0名合格，合格率0.0%（88.2%）

3. 働き方改革への対応

Teamsの活用促進と愛仁会ポータルサイトの充実に取り組んだ。Teamsについては施設でのワークショップを開催し、活用方法の提案や支援を行った。研修等が中止や延期となる中、ポータルサイトを活用したビデオ動画の配信や研修サイトの構築などにも対応した。

4. 医療・介護・在宅連携の推進

千船病院・尼崎だいもつ病院間で診療情報の相互共有を開始し、診療情報のタイムリーかつ詳細な共有や診療支援を行える環境を構築した。また、ヘルスケア分野でのICT活用の第一歩として、タブレット端末を活用した訪問看護向け記録システムの導入を行った。

5. データ活用機能の拡充

常務会・理事会の活動報告について、BIを活用し、資料作成に要する時間の削減と精度向上を実現した。BI活用推進人材の育成については、セミナー参加によるスキルアップを支援した。

6. IT統制の徹底

外部監査への対応として、財務監査における前回検出事項への対応を中心に、アクセス制御に関する事項や各種作業の真正性確保など、強化・適正化が進んだ。また、イントラ系管理について外部の情報セキュリティ診断を受診した結果、管理における課題が明確化された。

■今後の展望

2020年度は、働き方改革への対応としてICTを活用した支援、電子カルテ更新計画の策定、オンライン資格確認の整備、法人情報セキュリティ体制・システムの見直しと強化について特に注力して取り組む。

人事グループ・障がい者雇用推進センター

■スタッフ紹介

担当理事：家永徹也

部長：橋 宗一郎

課長：森田実千代，細尾 壮，小山修吾

主任：山本宗一郎，各務暢一

副主任：引地大祐，永谷いずみ，菅原隆志

職員：栩野朝香，竹岡友美，神例亜実，佐々木彩乃

樋口潤哉，富田有莉，大石千里，小畑陽平

■業務内容

1. 第62期人件費

第62期は，蒼龍会との事業統合に伴い総人員数は5,522名となり，前年対比で709名（14.7%）の増加となった。また総人件費は，38,643,750千円と前年対比で約55.6億円（16.8%）の増加となった。なお人件費率は退職金を除き，54.8%から54.4%と微減となった。蒼龍会との事業統合に伴い人件費は増加したものの，収入についても井上病院などの収入増が大きく寄与したことで，人件費比率が0.4%減少することとなった。

2019年4月の定期昇給では，4,498名に対して基本給総額1,151,074千円となり，改定率は1.5%と概ね例年通りであった。

賞与は，年3回（うち1回は人事評価特別賞与）支給を行い，総額5,334,125千円となり，事業統合による対象人数の増加の影響により前年比12.9%増となった。

2. 人材の確保

新卒採用者は322名，年度入職は，愛仁会が403名，愛和会55名の合計780名，年度退職は，愛仁会566名，愛和会73名の合計639名であった。看護職の退職者数は減少傾向にあるものの，介護職，看護助手，事務職については退職数が増加し，前年比で24.1%増となり，年度途中での採用数は19.6%増加することとなった。

新卒採用活動では，全職種合わせて外部就職説明会参加7回，養成校学内説明会参加19校，法人就職セミナー29回，選考試験49回を行った。看護職については，外部学生の採用数が減少したことにより，早期に選考会は終了してきたが，その他の医療専門職の応募者数は減少傾向にあり，結果的に選考回数を増やして長期的に対応しなければな

らない状況となっている。

3. 福利厚生

海外研修旅行は，今年度再開し，勤続20年はハワイへ20名が参加，勤続10年はオーストラリアへ3回に分かれて85名が参加した。永年勤続表彰は，表彰対象者数298名（21.1%増），表彰金額は41,600千円（26.3%増）となった。

■2019年度のトピックス・実績

1. 給与制度改定の実施

2020年4月新年度実施を目指し，給与制度の見直しを行った。働き方改革法案の実施に連動し，等級号数による給与制度から常勤職員の職責給の導入を実施し，経験や職務責任などの人事評価に基づく制度に変更した。人事評価制度の詳細については，2020年度に確定することで検討を継続している。

また，有給休暇取得促進のための制度改定の実施と打刻管理システムのバージョンアップを実施し，今後の医師の働き方改革での課題解決に向けて準備に入った。

社員制度関係では，継続的に議論してきた高齢者の研究手当に関する対応について，従来の規程を尊重しながら不明瞭な点について整備を行った。

2. 産学協働型授業等へ参加

武庫川女子大学・大阪薬科大学・大阪電気通信大学・藍野大学・森ノ宮医療大学・大阪医科大学他広域連携授業に今年度も参画し，「看護から見た多職種連携」をテーマとし，井上看護担当理事の協力の下，講演会・千船病院見学・グループワークを行い，学生から好評を得た。さらに昨年に引き続き，横浜市立大学・広島国際大学からインターンシップの学生を受け入れ，医療経営の実態について法人各施設での見学・説明を通じて学習の機会を提供するプログラムを実施した。

大阪府立病院機構との働き方改革関連法に関する勉強会を実施し，公立病院としての課題取り組みと法人取り組みを比較検討する場を設け，情報共有に努めた。

3. 健康保険組合設立の推進

愛仁会健康保険組合の設立に向けて，作業を進め厚生労働省への申請手続を行い，設立審査に向けて準備を進

めている。設立審査には1年以上の期間を有するが2021年4月設立を目指し行政機関との調整を進めている。

4. 障がい者雇用に向けた取り組み

障がい者の雇用推進については、積極的に障がい者が活躍できる法人内業務の発掘を進めるとともに、障がい者と職場を結びつける橋渡し役として、定期的に面談を行うなど対応を強化した。

■今後の展望

1. 医師の働き方改革への対応促進

医師の働き方改革については、状況分析などの課題へのアプローチが不十分な状況にあり、早期に対応を開始する必要がある。勤務時間の状況把握や具体的な働き方への検討など多岐にわたる課題への取り組みが必要となることから、各施設、企画部、医療情報部にも協力を得ながら課題解決に取り組みたい。

また、タスクシフトを実施していくには看護部をはじめ多職種での取り組みが不可欠であり、具体策の検討において協力をお願いしていきたい。

2. 人事評価制度の完成

2020年度から実施している新給与制度に関して、人事評価制度の具体的な見直しについては、具体的な内容を明示できていないため、2020年秋を目標に評価方法や評価項目などの整理を行った上で、新制度導入を行う。

新たな人事評価制度では、人材育成の視点を重視し職員が活躍し成長に繋がる制度を目指す。

3. 人的競争力の強化

法人を支える人材の質を高め、医療・福祉の質の向上を図り、アウトプットを重視した生産性向上を進めていくための諸施策の検討を行う。人員の適正配置や積極的なローテーションの実施などを計画的に進めるための基盤整備を早急に進めたい。

財 務 部

■スタッフ紹介

担当理事：松原正明
 部長：公文和彦
 課長：西田智香, 藪内 晋
 主任：前田侑希
 職員：中澤彩美
 職員：若槻くにこ
 職員：東郷邦博
 職員：木下亜樹

■部署概要

2019年度に取り組んだ主要な事業は次のとおりである。

1. 業務管理の徹底

①必要利益の確保

2019年度は決算整理前での減価償却前事業利益予算38億円確保を目指して業務管理に取り組んだ。上半期においては、旧蒼龍会との合併による資金繰管理及び消費税増税対策としての高額医療機器の前倒し執行を実施した。高額医療機器の前倒し執行により約300万の減税効果を得た。下半期においては、借入金返済における財務条項の見直しについて銀行との折衝を継続的に行った。結果として、決算整理前での収入予算消化率100.5%、事業利益予算消化率110.0%、減価償却前予算消化率113.4%、減価償却前利益額48億円となり、年度当初の目標は達成した。また、税金や人件費等の決算整理後の減価償却前利益は30億円であり、見直しされた銀行との財務条項をクリアした。今後の課題として、本格的な借入金の返済を見据え、早期に返済資金の蓄えとして法人の現預金100億円の確保を目指す必要がある。

2. 運営管理システムの充実

①コンプライアンス強化対策

2019年度は旧蒼龍会の合併に伴い、新たに11の会計単位が増加となった。本部財務部において内部牽制、経理レ

ベルの向上を目指すべく6月から2月にかけて各拠点を訪問し内部監査を実施した。その結果、外部監査受監がスムーズに進行することができ、少しずつではあるが質の向上が形になりつつある。

②外部監査受監対応

本年度の外部監査はリスク評価(7月～9月)、旧蒼龍会合併に伴う監査(8月～11月)、中間決算監査(11月)、期中監査(12月～3月)、期末決算監査(3月～5月)を法人全施設で受監した。監査の結果、監査法人から「無限定の監査意見」を得られることができた。但し、重要な検出事項ではないが再度、発生主義の徹底や債権管理及び現物管理の強化について指導を受けた。今後も継続的に出席者によるガバナンス機能の強化に向けた研修会等を実施し、法人内の外部監査に対する意識及び理解を浸透させていくことが最重要と考える。

■近況データの提示及び統計データの説明

2020年度予算

医業収入 前期実績比 101.7%

事業利益 前期実績比 100.2%

次年度は、医業収入予算63,898百万円、前期実績比1,081百万円(前年実績比1.7%増)の増収を見込む。他方、人件費は3.0%増、一般管理費は0.58%増が見込まれ、事業利益予算は前期実績比8百万円増の4,156百万円となるが、減価償却費は4,015百万円を見込み、経常利益予算はプラス679百万円を見込む。

■今後の展望

2020年度は、コロナウイルス流行により経営面の苦戦は必至である。一方では、財政としては2021年度始まる本格的な借入金の返済についての資金確保は最重要事項であるため、各施設の理解と協力の上、財務部としても十分な管理に努めていきたい。

表. 愛仁会 決算整理後収支実績推移

(単位：千円、%)

	第58期		第59期			第60期			第61期			第62期		
	(2015年度)	構成比	(2016年度)	構成比	前年比	(2017年度)	構成比	前年比	(2018年度)	構成比	前年比	(2019年度)	構成比	前年比
医業収入	35,750,694	100.0	51,292,406	100.0	143.5	53,275,445	100.0	103.9	53,784,215	100.0	101.0	63,800,400	100.0	118.6
診療原価	6,999,753	19.6	12,243,250	23.9	174.9	12,877,304	24.2	105.2	11,158,876	20.7	86.7	13,440,819	21.1	120.4
人件費	20,455,716	57.2	27,846,523	54.3	136.1	28,643,201	53.8	102.9	30,630,127	57.0	106.9	35,846,177	56.2	117.0
一般管理費	6,610,617	18.5	8,765,910	17.1	132.6	10,091,616	18.9	115.1	9,839,686	18.3	97.5	11,995,418	18.8	121.9
事業利益	1,684,608	4.7	2,436,723	4.8	144.6	1,663,324	3.1	68.3	2,155,526	4.0	129.6	2,517,986	3.9	116.8
医業外収入	747,367	2.1	1,092,899	2.1	146.2	1,309,879	2.5	119.9	1,066,448	2.0	81.4	1,160,388	1.8	108.8
医業外費用	350,579	1.0	600,483	1.2	171.3	609,654	1.1	101.5	602,669	1.1	98.9	611,670	1.0	101.5
償却前利益	2,081,396	5.8	2,929,139	5.7	140.7	2,363,549	4.4	80.7	2,619,305	4.9	110.8	3,066,704	4.8	117.1
減価償却費	1,526,772	4.3	2,792,822	5.4	182.9	4,283,810	8.0	153.4	4,780,958	8.9	111.6	4,496,409	7.0	94.0
経常利益	554,624	1.6	136,317	0.3	24.6	-1,920,261	-	-	-2,161,653	-	-	-1,429,705	-	-

資 材 部

■スタッフ紹介

資材担当理事 大石哲也

資材部部長 西川直樹

課長 齋藤直美

(千船) 上田愛果, 村上 遥, 森下勤子

(高槻) 山口美裕記, 辻まなみ, 新田 瞳, 中村満宏,
佐竹 陸

(本部) 森あかね, 攝津耕平, 上畑嘉子, 山脇由子

■業務内容

①医薬品・診療材料・検査試薬に関して

・発注 (医薬品 - 本部, 材料 - 施設), 入庫, 及び請求業務

②マスター管理

・新規採用品のマスター作成, マスター管理, 特定保守管理, 医療機器・毒劇物の帳簿管理

③資料作成

・実績表, 新規採用申請書の意見処理, 高薬価医薬品及び高額診療材料の差異調査, 価格交渉用分析資料, 見積依頼資料, 施設要望資料

④値交渉

・差益率の維持確保 (販売メーカー変更による値交渉, 償還段階価格変更に対する値交渉), 購入額削減の検討 (使

用量増加, 使用施設増加に対する値交渉)

・新規施設分の在庫金額確定等に関する薬品・診材の値交渉

・薬品妥結 : 9月末日, 3月末

⑤薬品・診材システムの安定稼働

⑥委員会開催 (法人薬事委員会, 法人診材委員会)

■2019年度のトピックス・実績

今年度はコロナウイルスによる診療材料の不足, 高騰が始まり 2020 年度にも影響が続く. 薬品はセファゾリン, タゾピペの欠品があり診療に混乱を与えた.

■今後の展望

2019 年度は薬価が 2 度改定. 2 度にわたり引き下げが止まらない. この傾向はまだ続くことは予想される. このような中, 値引率は何とか維持はできている. しかし, ここまで薬価が下がってくると値引率の維持は難しい. その反面キムリアのような薬が登場し, 値引が得られないような薬品が増えてきているのが現状である. 材料では明石の購入額が減少しているが, これは手術の実績が減少したためであり手術件数が回復すれば購入額は増加する. しかし増加のスピードは抑えたい.

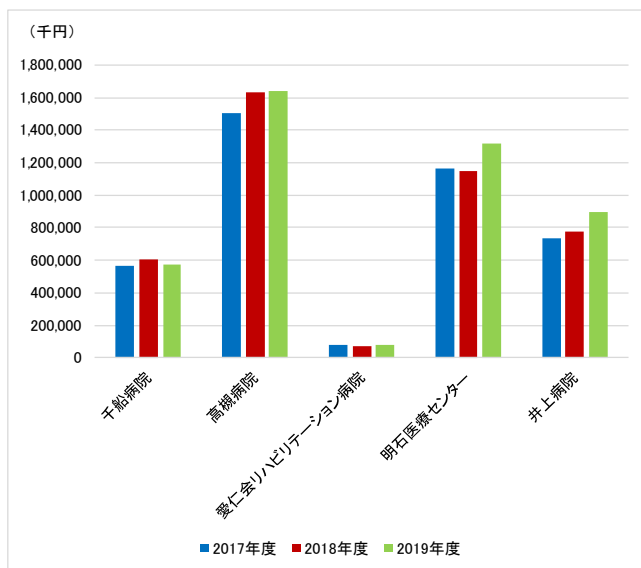


図 1. 医薬品購入額

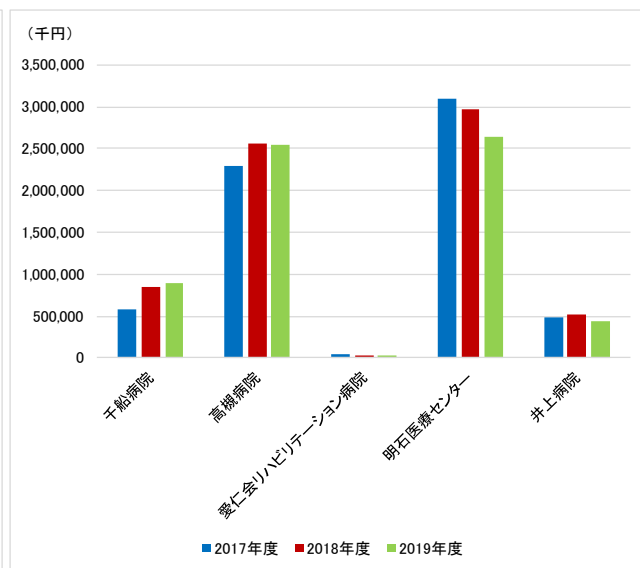


図 2. 診療材料購入額

看護部

■スタッフ紹介

看護担当特任理事：井上裕美子
 看護部長：平井智美，川口ひとみ（老健ケーアイ兼務）
 訪問看護担当看護部長：竹歳鈴子
 副看護部長：倉本孝子
 事務：牧野智香

■業務内容

生活と医療・福祉をつなぐ質の高い看護・介護の普及の推進と働き方改革関連法の成立により、労働環境の整備が求められている。超高齢化・少子化が進む中、あらゆる場や人に対する良質な看護・介護の提供に役立てるために主管会議及び諮問委員会で事業を実施した（表1）。

■2019年度のトピックス・実績

1. 看護職の働き方改革法案への対応

2019年4月1日、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律「働き方改革関連法」が施行された。特に「時間外労働の上限規制」と「有給休暇の確実な取得」の遵守に向け、時間外勤務命令簿、有給休暇管理簿、看護管理者が適正に労務管理できる「勤務時間管理実践マニュアル」の作成を行った。

アル」の作成を行った。

2. 看護部長及び副看護部長で構成する委員会を中心に、愛仁会キャリアラダーを作成した。
3. 人事交流制度においては18名が対象となり異動した。
4. 看護職の役割拡大が急速に進む中、看護師特定行為研修事業は4期目を迎えた。パッケージ化（在宅・慢性期領域、救急領域、術中麻酔管理領域）及び「感染に係る薬剤投与関連」、「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」を新たに申請した。第1回特定行為研修フォーラムを1月30日にきつこう会共催で実施した。
5. 看護管理者研修は、副主任・科長を対象に実施した。内容は、副主任は看護管理の基礎及びコンピテンシー・モデル、科長はSWOT分析手法を用いた組織分析である。
6. その他実績は表2～4に示す。

■今後の展望

法人内のあらゆる場において活躍できる人材の育成及び次世代を担う看護管理者育成が重要である。そのためには、愛仁会キャリアラダーの活用及びマネジメントラダーの作成と適正な能力評価の指標を用いた看護管理が必要である。

表1. 看護部事業

看護部長会	1. 看護職の働き方改革法案への対応 2. 労働基準法・就業規則を遵守したマネジメント
看護・介護管理者育成のあり方を考える会	1. 副主任研修の開催(2019年10月5日土曜日) 2. 管理職研修計画の作成(年3回程度開催)
介護福祉施設療養・援護科長会	1. 高齢者ケア施設で働く看護実践能力の育成システムの作成 2. 介護職の教育のあり方再構築
訪問看護活動の充実強化を考える会	訪問看護体制の強化
副看護部長会	1. 看護師ラダーシステムの整備と活用 2. 教育担当者研修(ステップⅠ・Ⅱ・Ⅲ)の開催と評価
医療安全管理室長会議	62期休止
助産師活動の充実強化を考える会	院内助産の活動データ収集と分析
特定看護師の活動検討会	特定行為実践における安全性の確保及び活動の充実
看護基礎教育と臨床現場のユニフィケーションの充実強化を考える会	実習指導者の指導力向上のための研修企画・実施・評価

表2. 看護師特定行為研修修了状況

区分別科目	呼吸管理	動脈血液ガス分析	創傷管理	透析管理	栄養水分管理	血糖コントロール	循環動態管理	皮膚損傷管理	ろう孔管理	長期呼吸	合計	(単位:名)
1期(2016)	3	3	3	3	2	2	2	3			21	21/12名
2期(2017)	1	1	2	1	3	3	2	0			13	13/11名*
3期(2018)	3	3	3	0	7	2	0	0	2	3	23	23/11名
4期(2019)	3	3	5	0	9	4	0	0	3	2	29	29/15名
計	10	10	13	4	21	11	4	3	5	5	86	86/49名

表3. 資格取得者と研修修了者

[資格取得・進学]	
分野	人数(名)
認定看護管理者	2
専門看護師	0
認定看護師	4
大学院	0

[研修修了者]	
研修名	人数(名)
新人看護職員臨床研修	160
新人看護職員臨床研修教育担当者研修	25
専任教員養成研修	1
教務主任養成講習会	1
実習指導者会	14

表4. 法人看護部主催 学会・研修会

学会・研修会名	開催日	参加者数(名)
愛仁会グループ看護・介護管理者期首研修会	5/25	360
看護・介護管理者(副主任)研修会	10/5	129
看護・介護管理者研修会	10/30	42
看護・介護管理者研修会	11/22	40
看護・介護管理者研修会	12/13	29
教育担当者研修STEPⅠ	2/29	2020年度に延期
教育担当者研修STEPⅡ	6/15	68
教育担当者研修STEPⅢ	9/28	25
第1回臨地実習指導者研修会	8/2	42
第2回臨地実習指導者研修会	11/30	40

介護福祉事業部

■スタッフ紹介

担当理事：山本欣宏

統括部長：坪 茂典

部長：川上直美

主任：木島慶一

■2019年度の実績

2019年度は、消費税増税に伴う10月の介護報酬改定対応、増税対策等、早期に情報収集・情報共有を行い、上半期にシミュレーションを実施し、各事業所とも対策検討とスムーズな運用ができた。また、人事部との連携により新たな特定処遇改善加算の導入ができた。

超強化型老健（老健5機能区分の最上位）を4月に老健だいもつが取得し、ユーアイ・ケアアイ・老健しんあい・きんもくせい・つくも合わせて6施設が超強化型老健を堅持できた。ひまわりも基本加算型を堅持できた。

新型コロナの影響により、特に通所系サービスでは、利用控えが多く発生し苦戦を強いられた。

ケアプランセンターでは、特定事業所加算Ⅳの取得に向けターミナル利用者への対応の強化が図られ、2020年度から愛仁会高槻・ケアアイ・だいもつ・あいわで算定が可能となった。

ヘルパーステーションでは、内部体制の強化を図り、特定事業所加算の取得に取り組んだ。

事務長会では、実地指導グループ、災害対策グループに分かれ対策について検討、マニュアル作りと意識強化を図った。旧蒼龍会の吸収合併の申請支援や基準遵守強化・各事業所支援として訪問による実施指導支援や申請書類等の確認及び助言を実施し質の向上に努めた。

看護部・人事部との連携強化、情報の共有化が進み施設間異動などがスムーズに対応できた。

新型コロナ対策、状況確認、衛生材料などの対応について、法人各部との連携、特に看護部・資材部との連携により事業所支援に取り組んだ。

■各エリア実績

1) 千船・おなじま地区での実績

在宅支援体制の見直しを検討し、ケアプランセンターちぶねとケアプランセンター千船病院を統合し、2020年5月からケアプランセンター千船病院として新たなスター

トを切ることとなった。

ユーアイ通所リハビリは、9月に定員を55名（5名増）とし、利用者を安定確保できた。

2) 高槻地区での実績

健康センターデイサービスとの連携強化及び一般管理費の削減を目的にケアプランセンター富田とヘルパーステーションを健康センター内に移転した。

3) 宝塚地区での実績

阪急山本駅前の『長尾支所跡地利活用事業』による「Waiwai コミュニティあいわ」が竣工し、地域3団体との連携による愛和会宝塚地域事業の新たなステージが始まった。

4) 豊中・吹田地区での実績

きんもくせい通所リハビリは、利用者増加対応として6月に定員を50名（10名増）に変更した。

5) 尼崎地区

通所リハビリ定員を10月に50名（5名増）に変更し、安定稼働に取り組んだ。老健だいもつは、4月より超強化型老健として稼働した。レジリエンスだいもつ、在宅サービスセンターも利用者を獲得できた。

■トピックス

「大阪APSコンソーシアム介護スキルラボ」の1期生ABクラスが4月に11月にはCDクラスそして2期生は、2020年2月に入国となり、愛仁会による入国後研修が無事終了した。

また、教育コンテンツのパッケージ化による収益確保としてVRベンチャーとの業務提携を進めた。

■今後の展望

介護福祉事業部は、企画・医療情報グループ介護福祉担当と組織変更されるが、新型コロナ対策を含め各事業所へのきめ細やかな支援の展開と環境の変化にシなやかに対応できる体制を築き、2021年4月の報酬改定対応と愛仁会グループ中期計画（2018～2020年度版）の2年目の評価に加え2021～2023年度版計画の作成を進める。

愛和会は、社会福祉事業としての本部機能の再構築について検討し、2020年4月より愛和会本部の内部体制を整え、本格的に始動する。

TQM推進室

■スタッフ紹介

担当理事 伊藤成規
部長代理 榎村忠浩
室長 北濃幹人

■業務内容

今年度の方針管理のテーマ数は、357題実施され、中間・期末の実績評価表を理事会・社員総会に提出した。

2020年度の事業計画策定にあたり、様式0（愛仁会グループ事業計画重点施策のゴール目標）のキーワードをブラッシュアップし、法人の方針管理についてベクトルの統一を図った。

業務改善ではグループ全体で上半期60題、下半期61題の合計121題の改善活動を実施し、ヒアリングや委員会の場を通じてアドバイス等の支援を行った。

QC手法について、問題解決型、課題達成型に加え、新しい取り組みとして施策実行型、未然防止型のQC手法による業務改善活動を試験的に実施した。

また、今年度は業務改善活動のあり方や進め方について抜本的な見直しを行った。近年の働き方改革などの環境変化やメリハリをつけた労務管理を行うため、年2回の活動から繁忙期を避け原則7月から12月の6か月を活動期間とし、年1回の活動とすることで余裕を持たせ、研修・教育を充実させることで質の向上を図り、より高いレベルの活動を目指すこととした。

様式A～Cの様式を見直し、データベース化しやすく改良し、リーダー研修等の研修資料をリバイスし、発信することで施設間の研修内容のバラつきを無くすようにした。

アドバイザー研修は2016年から休止となっていたが、2020年2月に開催を再開した。研修では新たな取り組みとして外部講師を招いた講義と、全国大会で優秀賞を受賞した施設による事例発表の二部構成とした。

■2019年度のトピックス・実績

- i) 第25回介護福祉施設合同業務改善発表会（上半期）
日 時：2019年9月28日（土）
場 所：愛和会ローズ・コミュニティ緑地
発表数：14テーマ
- ii) (社)医療のTQM推進協議会の教育担当事務局として教育セミナーの企画・運営を行った。

- ・第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 仙台 プレセミナー
日 時：2019年5月18日（土）

場 所：一橋講堂（東京都）

参加者：120名（45施設）

- ・第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 仙台 教育セミナー

日 時：2019年11月15日（金）

場 所：仙台サンプラザ（宮城県）

- ・入門セミナー 参加者134名
「伊達な改善！基本のキ 日常生活で耕す未来」
講師：岡田育子（社会医療法人 橋会）
- ・管理者・推進者セミナー 参加者87名
「TQMの概要」
講師：田中良一郎（医療法人宝生会 PL病院）

- iii) 2019年11月15日～16日、仙台で開催された『第21回フォーラム医療の改善活動全国大会』に愛仁会グループより3チームが発表し、下記2チームが優秀賞を獲得した。

- ・老健ケーアイ（高槻北地域包括支援センター）
- ・明石医療センター（産科病棟南2階）

- iv) 第5回医療のTQM・近畿ワークショップ

日 時：2019年8月31日（土）

場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階中講義室

参加者：101名

2019年の運営事務局担当として同ワークショップの企画・運営を行った。

- v) オーストラリアのコンサルタント会社 Shinka Management 社からヘルスケア部門 TQM 活動について見学依頼があり、高槻病院、愛仁会リハビリテーション病院の協力を得て実施した。

内 容：各施設の見学と愛仁会の TQM 活動の講義

日 時：2019年7月12日（金）

参加者：Shinka Management 社より社長他15名

■今後の展望

方針管理の次の課題は、事業計画のリンクなど制度自体の見直しと進捗管理や人事評価への反映である。

業務改善の課題は、2020年度からの「新体制」における各施設のスムーズな活動の支援と、「新様式」「新研修体制」の定着を通じ愛仁会グループの業務改善活動の質の向上と活性化を図っていく。

IV. 統計総括

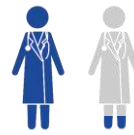
職員数合計

5,491人

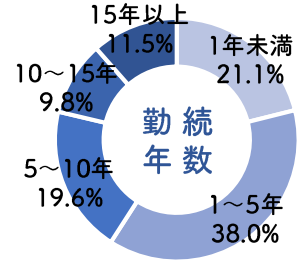
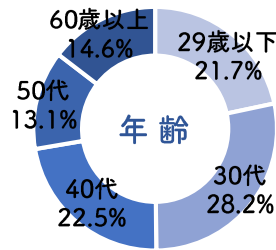
※愛仁会・愛和会における2020年3月31日現在
常勤職員の数

※その他…看護助手、検査助手等

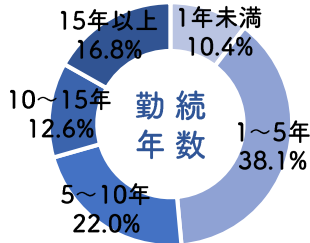
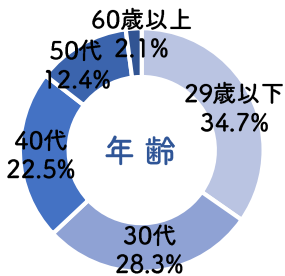
医師
521人



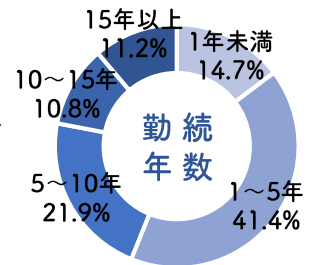
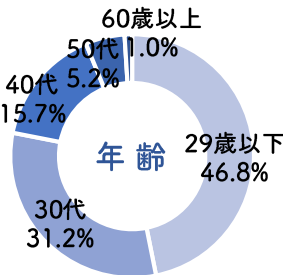
…500人



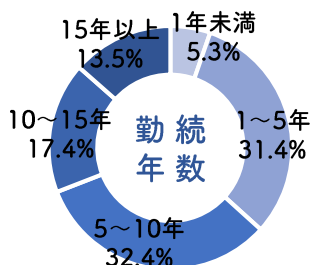
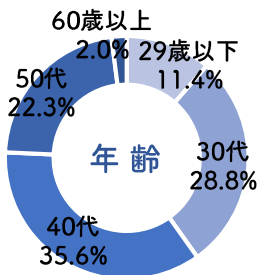
看護職
2,202人



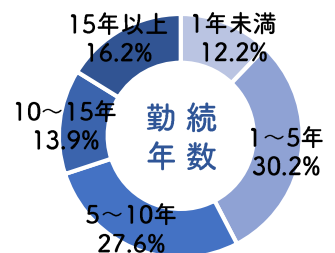
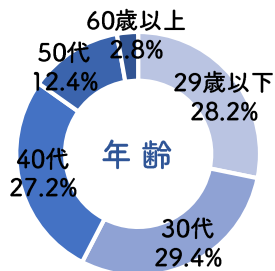
技術職
991人



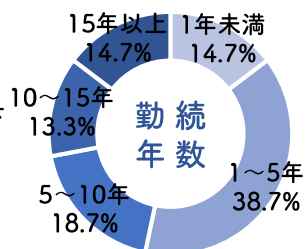
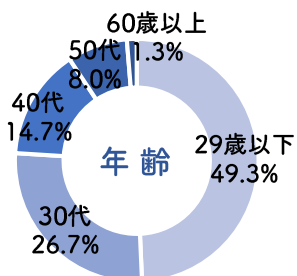
介護職
660人



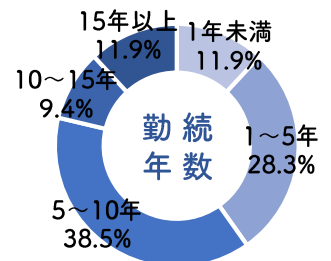
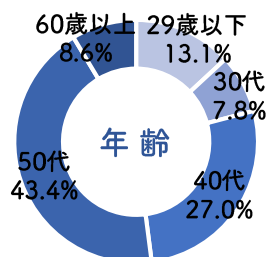
事務職
798人



保育士
75人



その他
244人



入院延べ患者数

104,918 人

1日平均入院患者数…287人

新入院患者数

10,348 人

退院患者数

10,381 人

入院平均単価

67,561 円

外来延べ患者数

213,928 人

1日平均外来患者数…882人

初診料算定 対象患者数

20,694 人

外来平均単価

9,922 円

平均在院日数

9.1 日

病床利用率

99.8 %

開業医紹介数

11,412 件

救急搬送数

5,671 件

延べ新生児数

8,728 人

死亡数

198 人

入院救急搬送数 外来救急搬送数

1,774 件

3,897 件

分娩数

1,861 人

剖検数

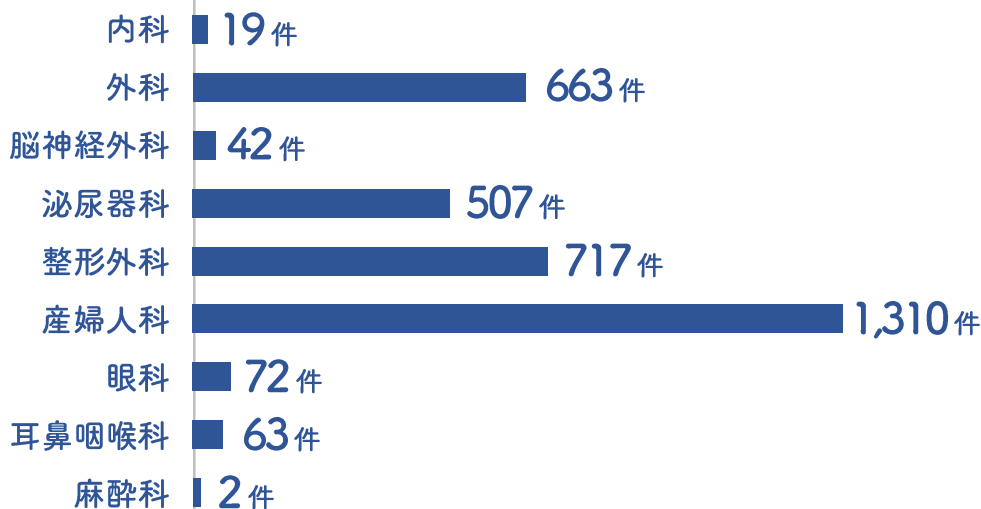
9 件

剖検率

4.5 %

手術件数

3,395 件



介護老人保健施設ユーアイ

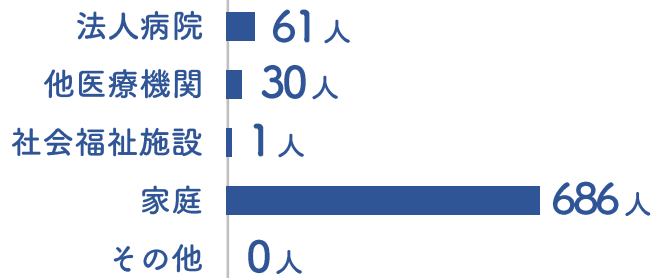
入所延べ人数

35,973 人

1日平均利用者数…98.3人
平均入所期間…4.3か月

新入所者数

778 人



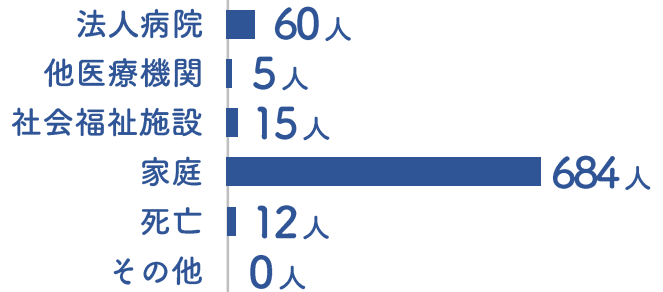
通所延べ人数

14,606 人

1日平均利用者数…47.1人

新退所者数

776 人



介護付有料老人ホーム スローライフおかじま

入居延べ人数

19,940 人

1日平均入居者数…54.5人

デイサービス延べ人数

7,183 人

1日平均デイサービス
利用者数…23.2人





尼崎だいもつ病院

入院延べ患者数

72,780 人

1日平均入院患者数…199人

新入院患者数

1,388 人

退院患者数

1,367 人

入院平均単価

37,546 円

外来延べ患者数

7,364 人

1日平均外来患者数…30人

初診料算定
対象患者数

618 人

外来平均単価

15,186 円

平均在院日数

51.8 日

病床利用率

101.6 %

開業医紹介数

1,576 件

死亡数

31 人

剖検数

0 件

剖検率

0 %



介護老人保健施設だいもつ

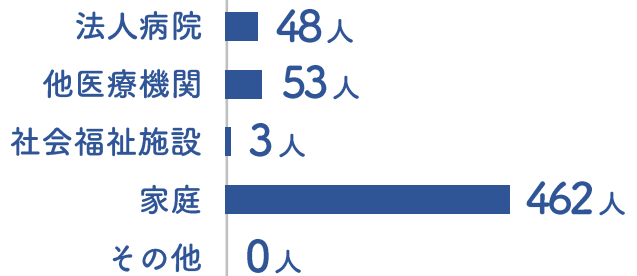
入所延べ人数

35,314 人

1日平均入所者数…96.5人
平均入所期間…4.7か月

新入所者数

566 人



新退所者数

562 人



高槻病院

入院延べ患者数

169,735 人

1日平均入院患者数…464人

新入院患者数

15,531 人

退院患者数

15,547 人

入院平均単価

79,847 円

外来延べ患者数

266,660 人

1日平均外来患者数…1,095人

初診料算定
対象患者数

24,713 人

外来平均単価

16,292 円

平均在院日数

9.9 日

病床利用率

88.3 %

開業医紹介数

29,239 件

延べ新生児数

8,816 人

死亡数

313 人

手術件数

6,025 件

分娩数

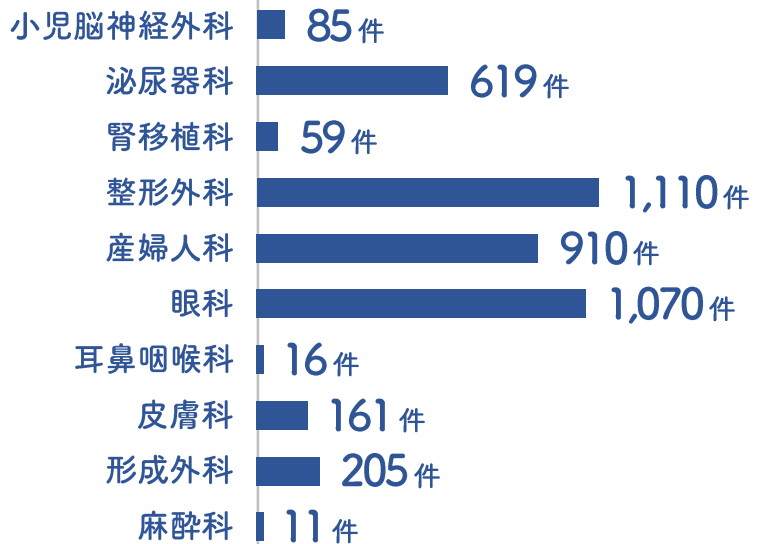
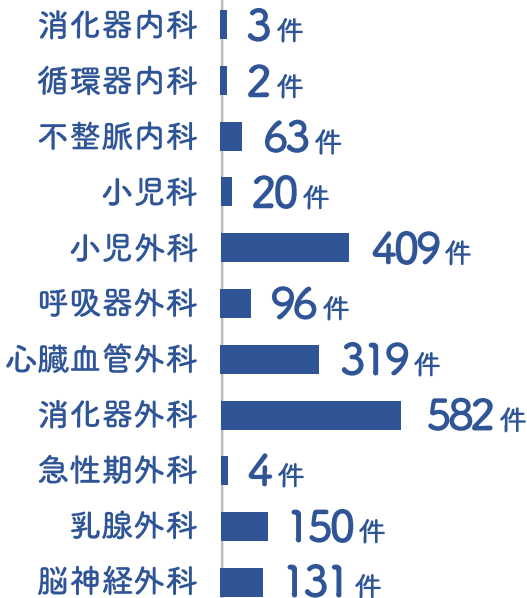
1,157 人

剖検数

6 件

剖検率

1.9 %



愛仁会リハビリテーション病院

入院延べ患者数

95,671 人

1日平均入院患者数…261人

外来延べ患者数

4,520 人

1日平均外来患者数…19人

新入院患者数

1,770 人

退院患者数

1,768 人

平均在院日数

53.1 日

病床利用率

100.7 %

入院平均単価

41,118 円

死亡数

0 人

初診料算定
対象患者数

287 人

外来平均単価

13,602 円

しんあい病院

外来延べ患者数

34,980 人

1日平均外来患者数…119人

初診料算定
対象患者数

2,206 人

外来平均単価

6,233 円



しんあいクリニック

入院延べ患者数

6,486 人

1日平均入院患者数…18人

新入院患者数

228 人

退院患者数

230 人

入院平均単価

12,720 円

外来延べ患者数

1,513 人

1日平均外来患者数…6人

初診料算定
対象患者数

236 人

外来平均単価

7,221 円

平均在院日数

27.3 日

病床利用率

94.8 %

介護老人保健施設ケーアイ

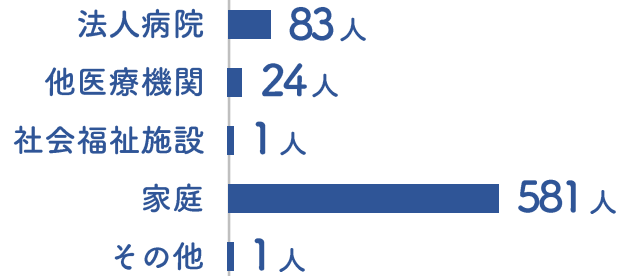
入所延べ人数

35,793 人

1日平均入所者数…97.8人
平均入所期間…2.9か月

新入所者数

690 人



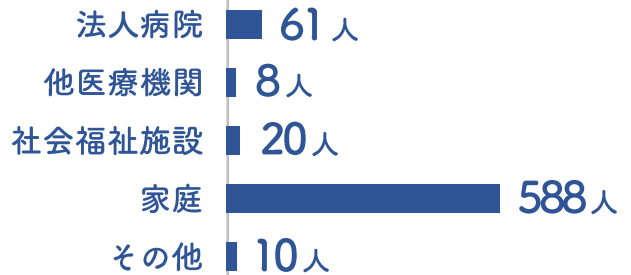
通所延べ人数

11,245 人

1日平均通所者数…31.1人
(日曜日営業)…18.4人

新退所者数

687 人



介護老人保健施設しんあい

入所延べ人数

24,269 人

1日平均入所者数…66.3人
平均入所期間…6.0か月

新入所者数

554 人



通所延べ人数

7,445 人

1日平均通所者数…28.9人

新退所者数

555 人



明石医療センター

入院延べ患者数

136,452 人

1日平均入院患者数…373人

新入院患者数

12,444 人

退院患者数

12,442 人

入院平均単価

79,023 円

外来延べ患者数

153,971 人

1日平均外来患者数…634人

初診料算定
対象患者数

24,510 人

外来平均単価

19,323 円

平均在院日数

10.0 日

病床利用率

97.6 %

開業医紹介数

14,558 件

救急搬送数

4,934 件

延べ新生児数

2,168 人

死亡数

373 人

入院救急搬送数 外来救急搬送数

2,838 件

2,096 件

分娩数

859 人

剖検数

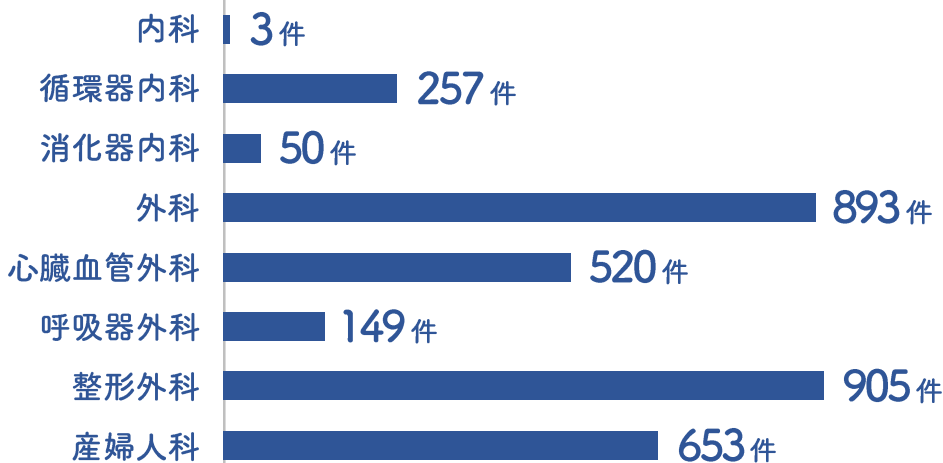
8 件

剖検率

2.1 %

手術件数

3,430 件



宝塚あいわ苑

入所延べ人数

26,036 人

1日平均入所者数…71.1人

通所延べ人数

11,312 人

1日平均通所者数…36.6人



あいわ結愛ガーデン

入所延べ人数

6,538 人

1日平均入所者数…17.9人

通所延べ人数

2,555 人

1日平均通所者数…7.1人

豊中あいわ苑

入所延べ人数

(特養及びショートステイ)

36,830 人

1日平均入所者数…100.6人

入所経路

ロング入所経路

老健施設 60人

家庭 904人

医療機関 0人

その他 22人

ロング入所地域

豊中市 701人

吹田市 142人

その他 143人



介護老人保健施設 きんもくせい

入所延べ人数

17,960 人

1日平均入所者数…
入所 48.4人, ショート 0.7人
平均入所期間…6.3か月

新入所者数

90 人

医療機関 33人

社会福祉施設 7人

家庭 28人

その他 22人

通所延べ人数

11,790 人

1日平均通所者数…38.0人

新退所者数

91 人

医療機関 15人

社会福祉施設 15人

家庭 42人

その他 16人

死亡 3人



井上病院

入院延べ患者数

38,594 人

1日平均入院患者数…105人

外来延べ患者数

57,180 人

1日平均外来患者数…195人

新入院患者数

2,155 人

退院患者数

2,177 人

平均在院日数

16.8 日

病床利用率

84.4 %

入院平均単価

48,671 円

開業医紹介数

2,309 件

初診料算定 対象患者数

6,578 人

外来平均単価

20,200 円

手術件数

757 件

外科 295 件

整形外科 181 件

泌尿器科 66 件

眼科 119 件

内科 20 件

血管外科 76 件

介護老人保健施設ひまわり

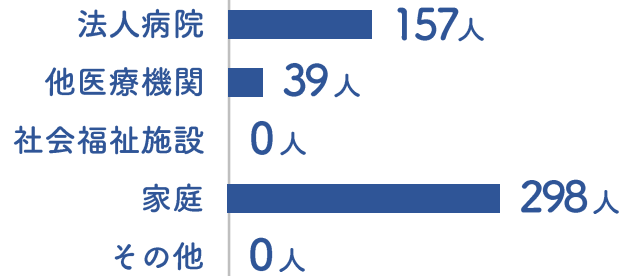
入所延べ人数

34,227 人

1日平均入所者数…93.5人
平均入所期間…5.2か月

新入所者数

494 人



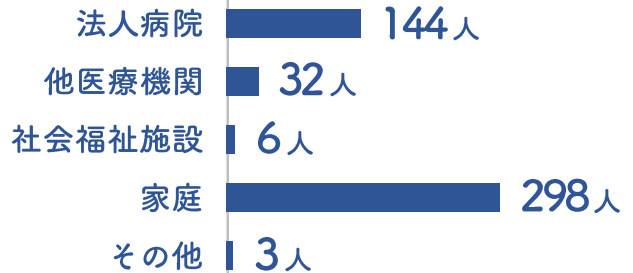
通所延べ人数

6,109 人

1日平均通所者数…19.7人

新退所者数

483 人



介護老人保健施設つくも

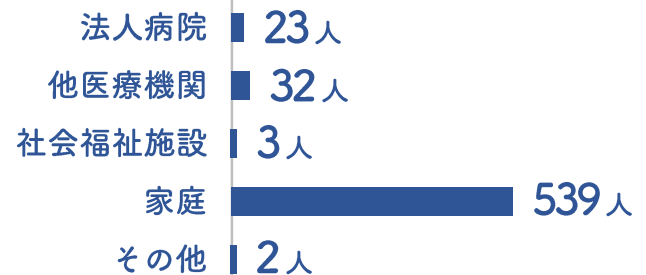
入所延べ人数

31,175 人

1日平均入所者数…85.2人
平均入所期間…8.7か月

新入所者数

599 人



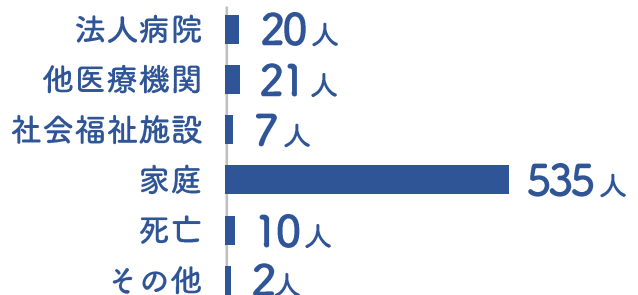
通所延べ人数

13,691 人

1日平均通所者数…44.2人

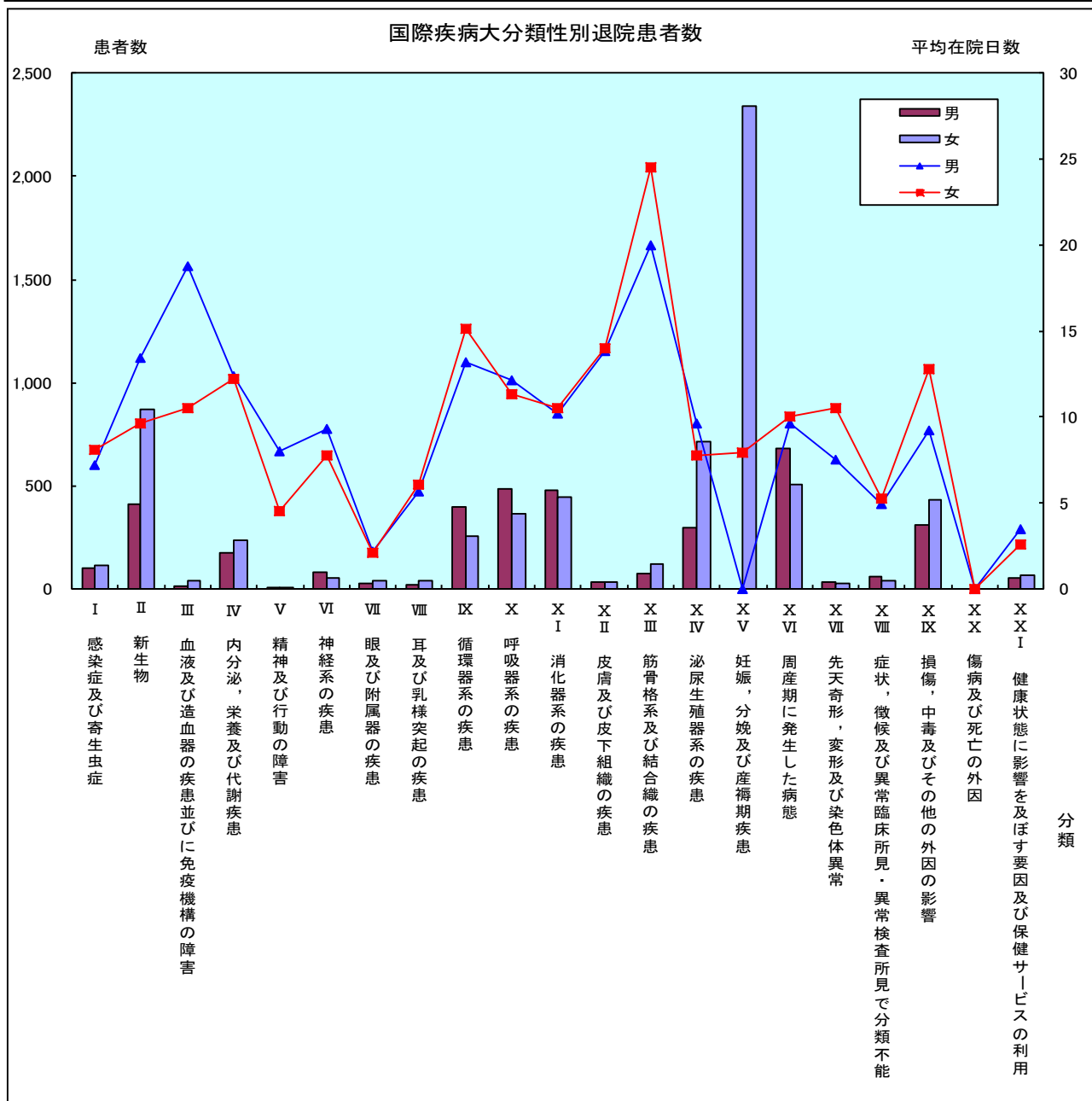
新退所者数

595 人



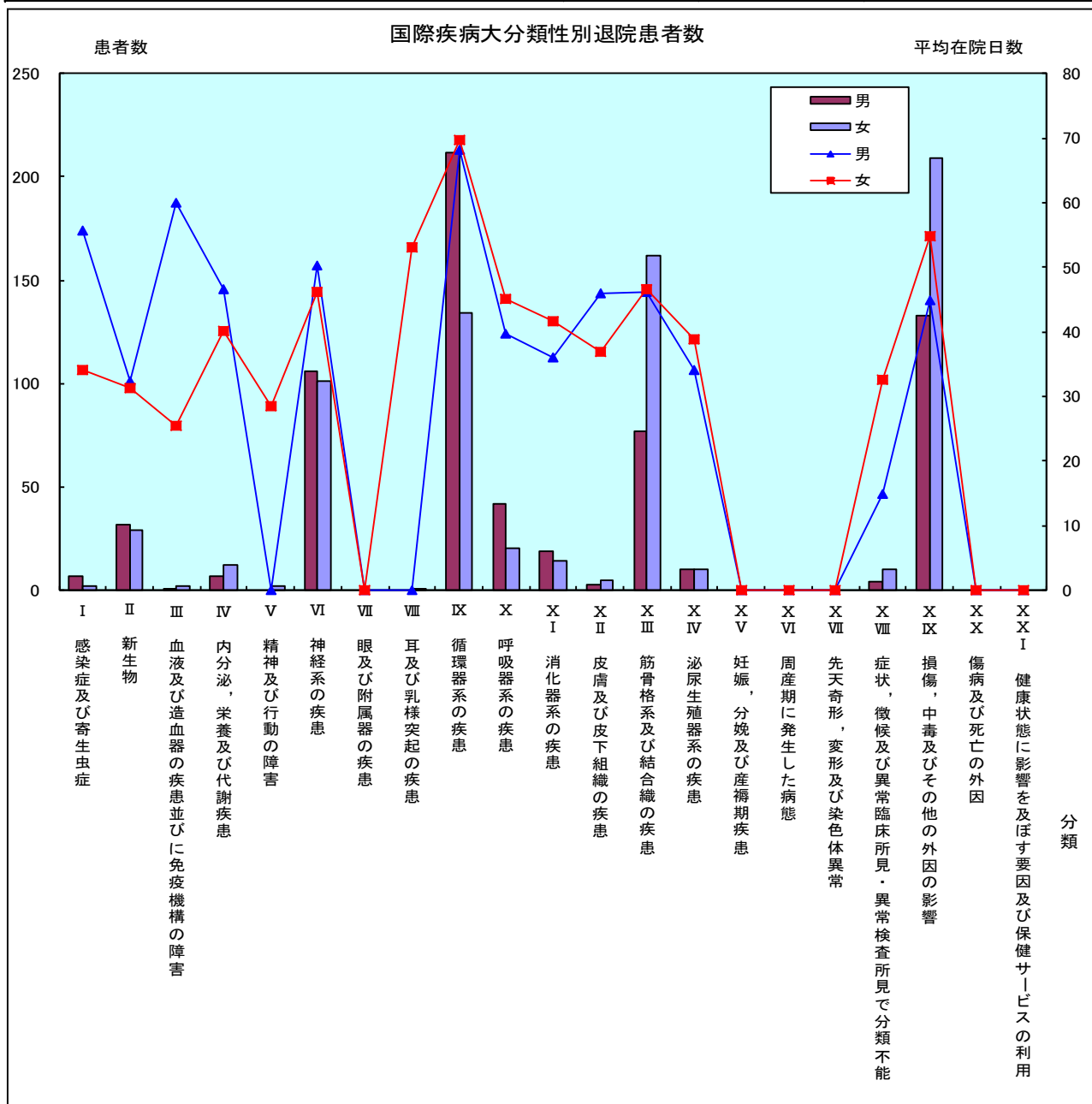
千 船 病 院 疾 病 統 計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	103	118	7	8	743	955	1,698
II 新生物	411	873	13	10	5,495	8,374	13,869
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	17	44	19	11	319	464	783
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	178	237	12	12	2,202	2,898	5,100
V 精神及び行動の障害	5	4	8	5	40	18	58
VI 神経系の疾患	80	51	9	8	745	398	1,143
VII 眼及び付属器の疾患	30	44	2	2	66	91	157
VIII 耳及び乳様突起の疾患	20	40	6	6	114	242	356
IX 循環器系の疾患	396	254	13	15	5,213	3,842	9,055
X 呼吸器系の疾患	488	366	12	11	5,921	4,127	10,048
XI 消化器系の疾患	482	447	10	11	4,902	4,707	9,609
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	32	34	14	14	442	477	919
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	73	124	20	25	1,457	3,039	4,496
XIV 泌尿生殖器系の疾患	298	717	10	8	2,869	5,577	8,446
XV 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	2,339	0	8	0	18,573	18,573
XVI 周産期に発生した病態	680	507	10	10	6,515	5,082	11,597
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	34	30	8	11	256	315	571
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	63	42	5	5	310	221	531
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	310	434	9	13	2,865	5,564	8,429
XX 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	53	65	4	3	188	168	356
計又は平均	3,753	6,770	11	10	40,662	65,132	105,794



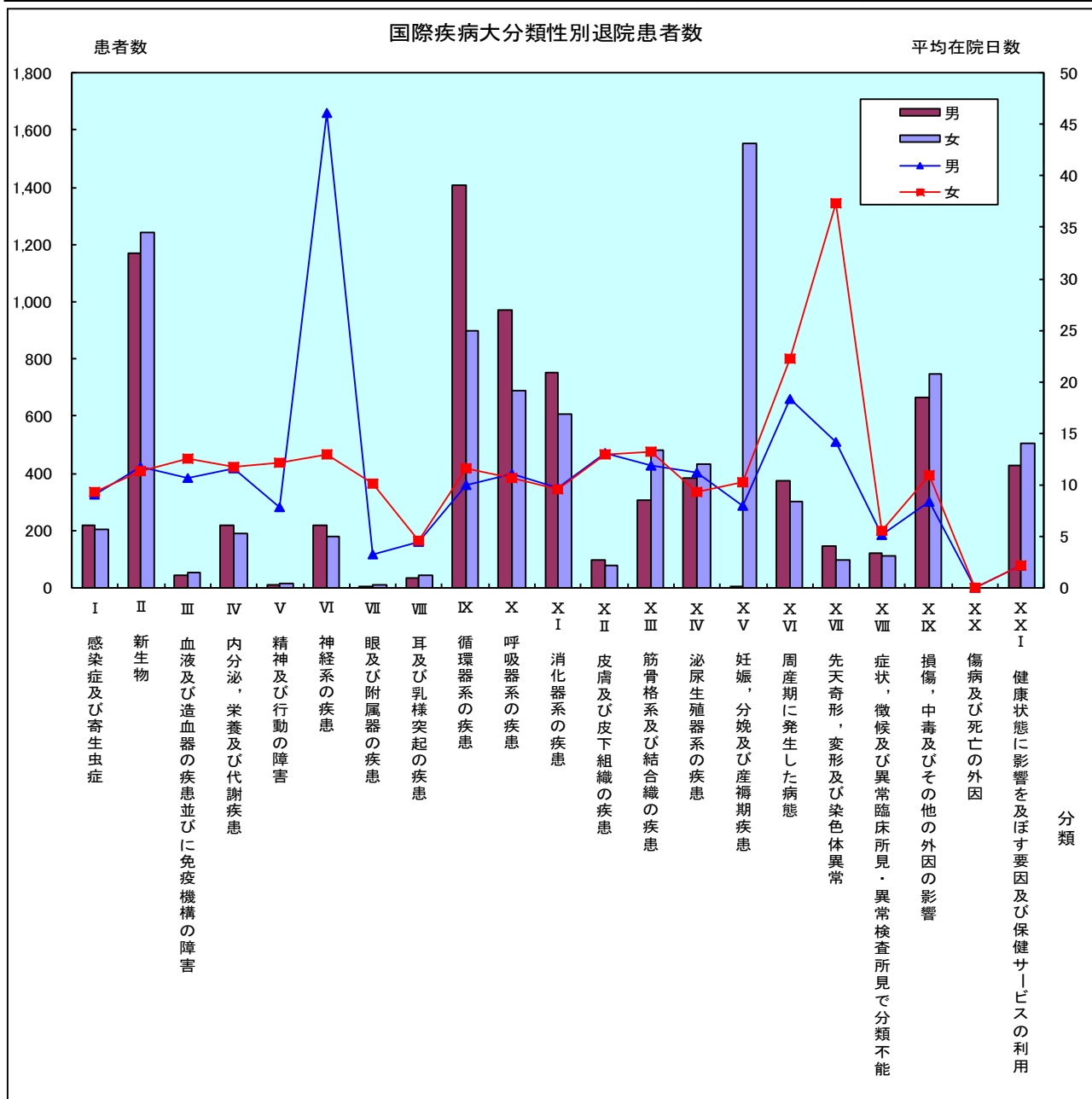
尼崎だいもつ病院疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	7	2	56	34	390	68	458
II 新生物	32	29	32	31	1,036	905	1,941
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1	2	60	26	60	51	111
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	7	12	47	40	326	482	808
V 精神及び行動の障害	0	2	0	29	0	57	57
VI 神経系の疾患	106	101	50	46	5,321	4,669	9,990
VII 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	1	0	53	0	53	53
IX 循環器系の疾患	212	134	68	70	14,433	9,330	23,763
X 呼吸器系の疾患	42	20	40	45	1,665	901	2,566
X I 消化器系の疾患	19	14	36	42	686	584	1,270
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	3	5	46	37	138	185	323
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	77	162	46	47	3,549	7,552	11,101
X IV 泌尿生殖器系の疾患	10	10	34	39	341	389	730
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	4	10	15	33	60	325	385
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	133	209	45	55	5,981	11,459	17,440
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0
計又は平均	653	713	52.0	51.9	33,986	37,010	70,996



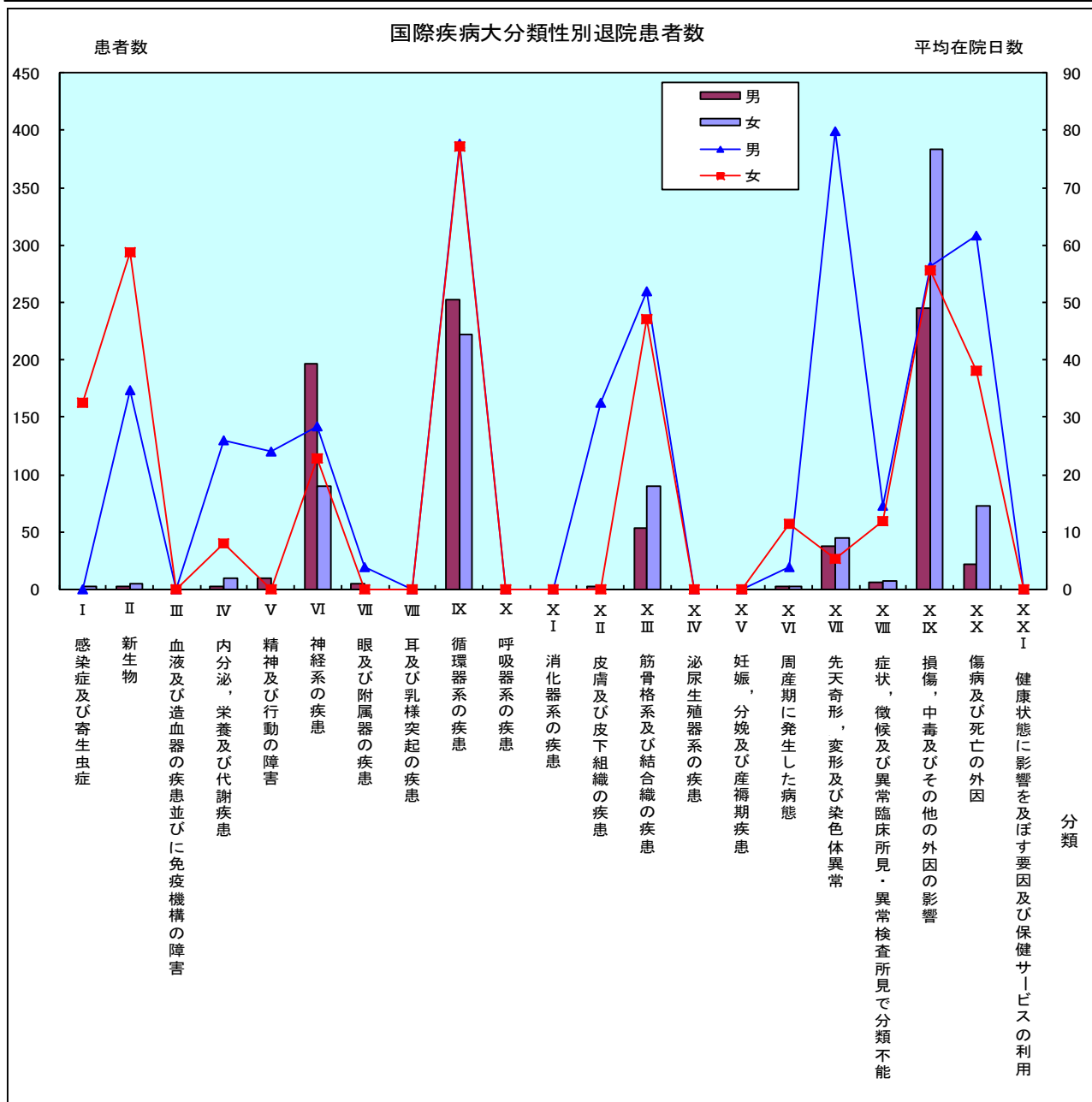
高槻病院 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	217	204	9	9	1,969	1,898	3,867
II 新生物	1,171	1,245	12	11	13,851	14,104	27,955
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	46	55	11	13	494	686	1,180
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	217	190	12	12	2,518	2,237	4,755
V 精神及び行動の障害	8	16	8	12	62	194	256
VI 神経系の疾患	218	182	46	13	10,054	2,373	12,427
VII 眼及び付属器の疾患	6	9	3	10	19	91	110
VIII 耳及び乳様突起の疾患	36	42	4	5	160	193	353
IX 循環器系の疾患	1,407	896	10	12	14,078	10,414	24,492
X 呼吸器系の疾患	973	691	11	11	10,752	7,425	18,177
X I 消化器系の疾患	751	607	10	10	7,262	5,819	13,081
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	95	79	13	13	1,241	1,029	2,270
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	306	483	12	13	3,635	6,378	10,013
X IV 泌尿生殖器系の疾患	385	432	11	9	4,294	4,033	8,327
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	1	1,555	8	10	8	15,796	15,804
X VI 周産期に発生した病態	373	301	18	22	6,818	6,678	13,496
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	144	97	14	37	2,051	3,623	5,674
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	121	111	5	6	623	619	1,242
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	664	749	8	11	5,587	8,133	13,720
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	425	507	2	2	931	1,118	2,049
計又は平均	7,564	8,451	11	11	86,407	92,841	179,248



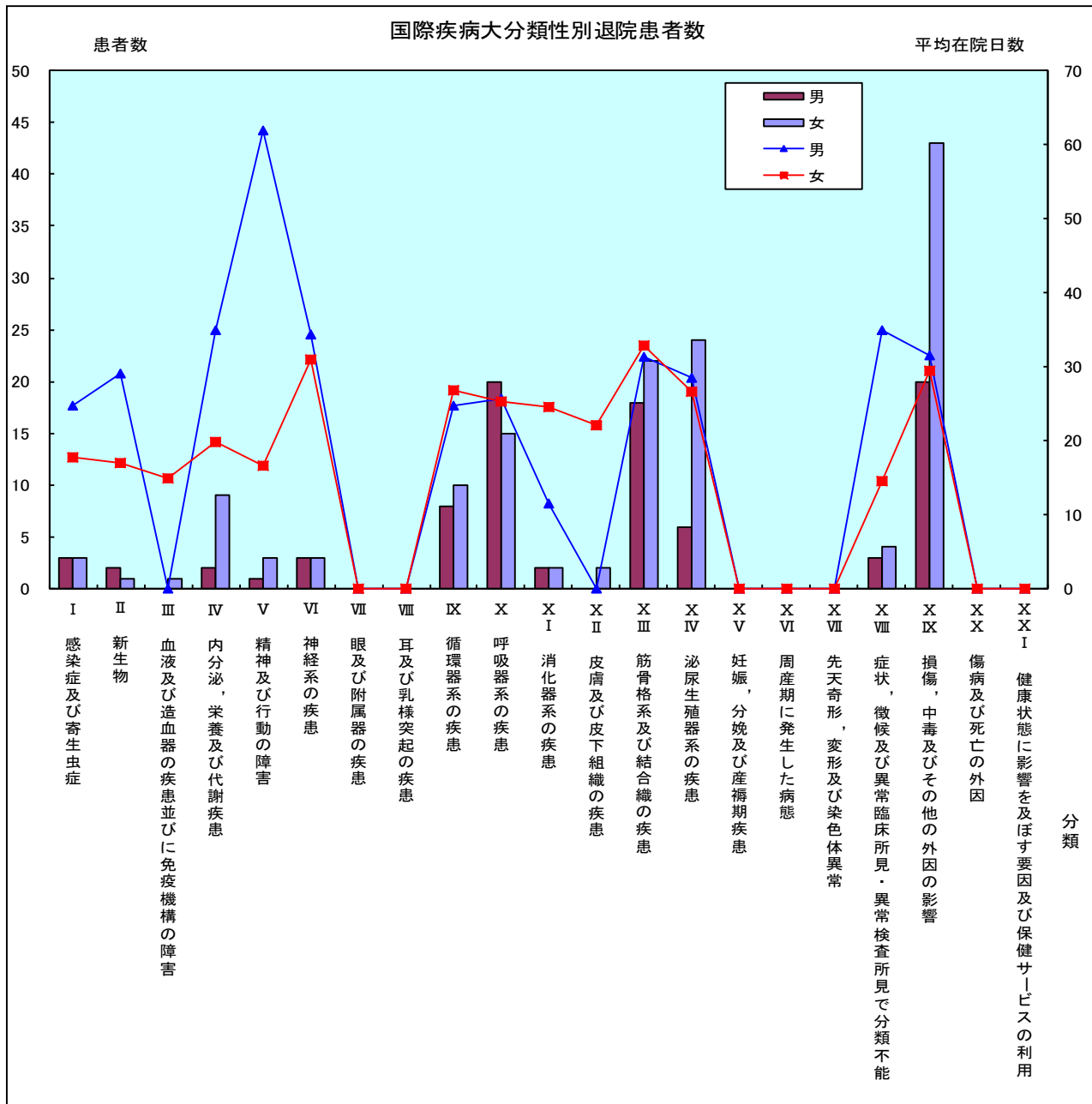
愛仁会リハビリテーション病院疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	0	2	0	33	0	65	65
II 新生物	3	5	35	59	104	294	398
III 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	0	0	0	0	0	0	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	3	10	26	8	78	79	157
V 精神及び行動の障害	10	0	24	0	240	0	240
VI 神経系の疾患	197	90	28	23	5,608	2,047	7,655
VII 眼及び付属器の疾患	5	0	4	0	19	0	19
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	252	222	78	77	19,580	17,158	36,738
X 呼吸器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X I 消化器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	2	0	33	0	65	0	65
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	53	90	52	47	2,753	4,243	6,996
X IV 泌尿生殖器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	2	3	4	11	8	34	42
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	38	45	80	5	3,030	238	3,268
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	6	7	15	12	88	84	172
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	245	383	56	55	13,809	21,244	35,053
X X 傷病及び死亡の外因	22	73	62	38	1,357	2,790	4,147
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0
計又は平均	838	930	56	52	46,739	48,276	95,015



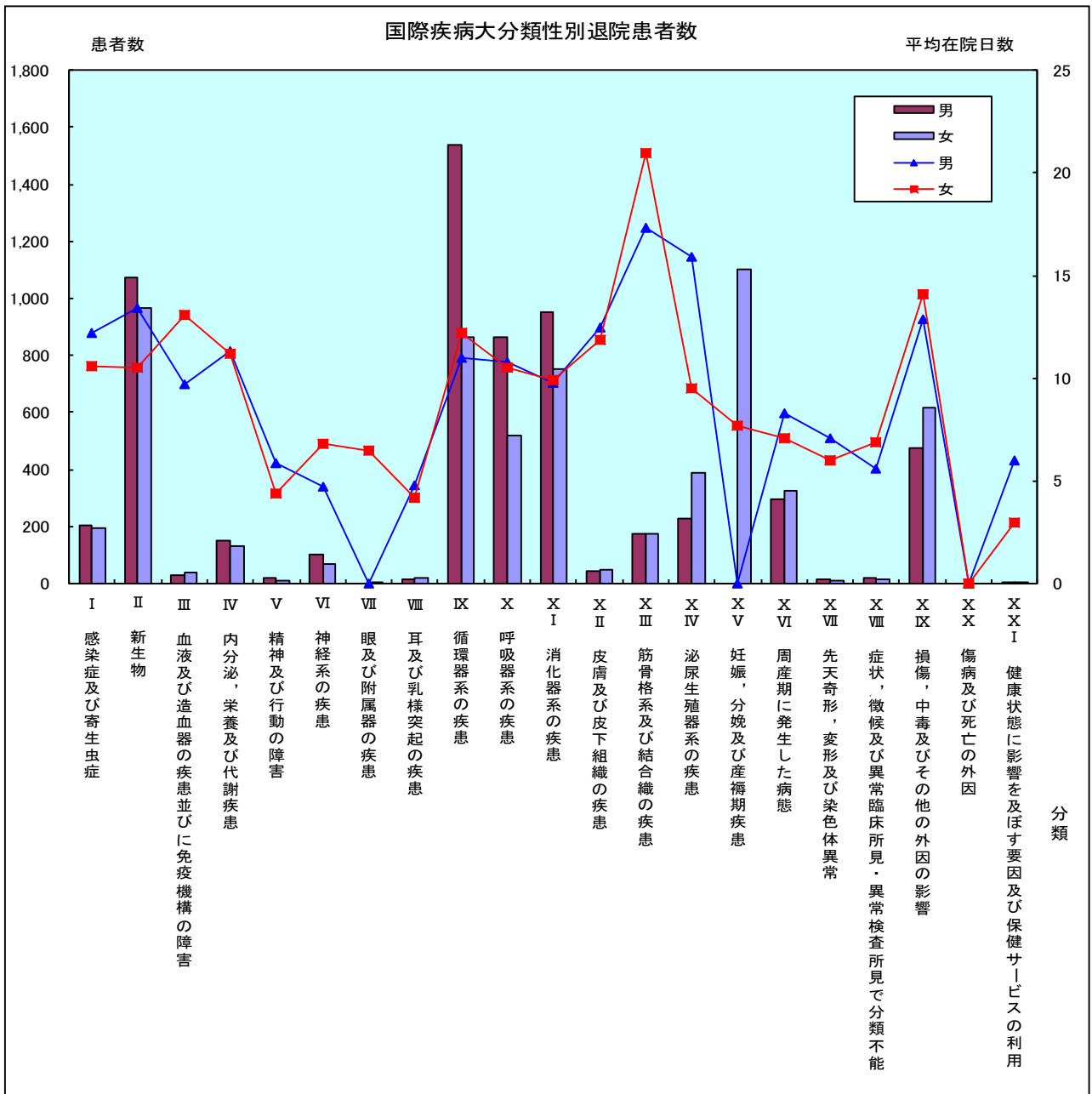
しんあいクリニック 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	3	3	25	18	74	53	127
II 新生物	2	1	29	17	58	17	75
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	1	0	15	0	15	15
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2	9	35	20	70	179	249
V 精神及び行動の障害	1	3	62	17	62	50	112
VI 神経系の疾患	3	3	34	31	103	93	196
VII 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	8	10	25	27	198	268	466
X 呼吸器系の疾患	20	15	26	25	512	379	891
XI 消化器系の疾患	2	2	12	25	23	49	72
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	0	2	0	22	0	44	44
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	18	22	31	33	565	723	1,288
XIV 泌尿生殖器系の疾患	6	24	29	27	171	637	808
XV 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
XVI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	3	4	35	15	105	58	163
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	20	43	32	29	632	1,265	1,897
XX 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0
計又は平均	88	142	29	27	2,573	3,830	6,403



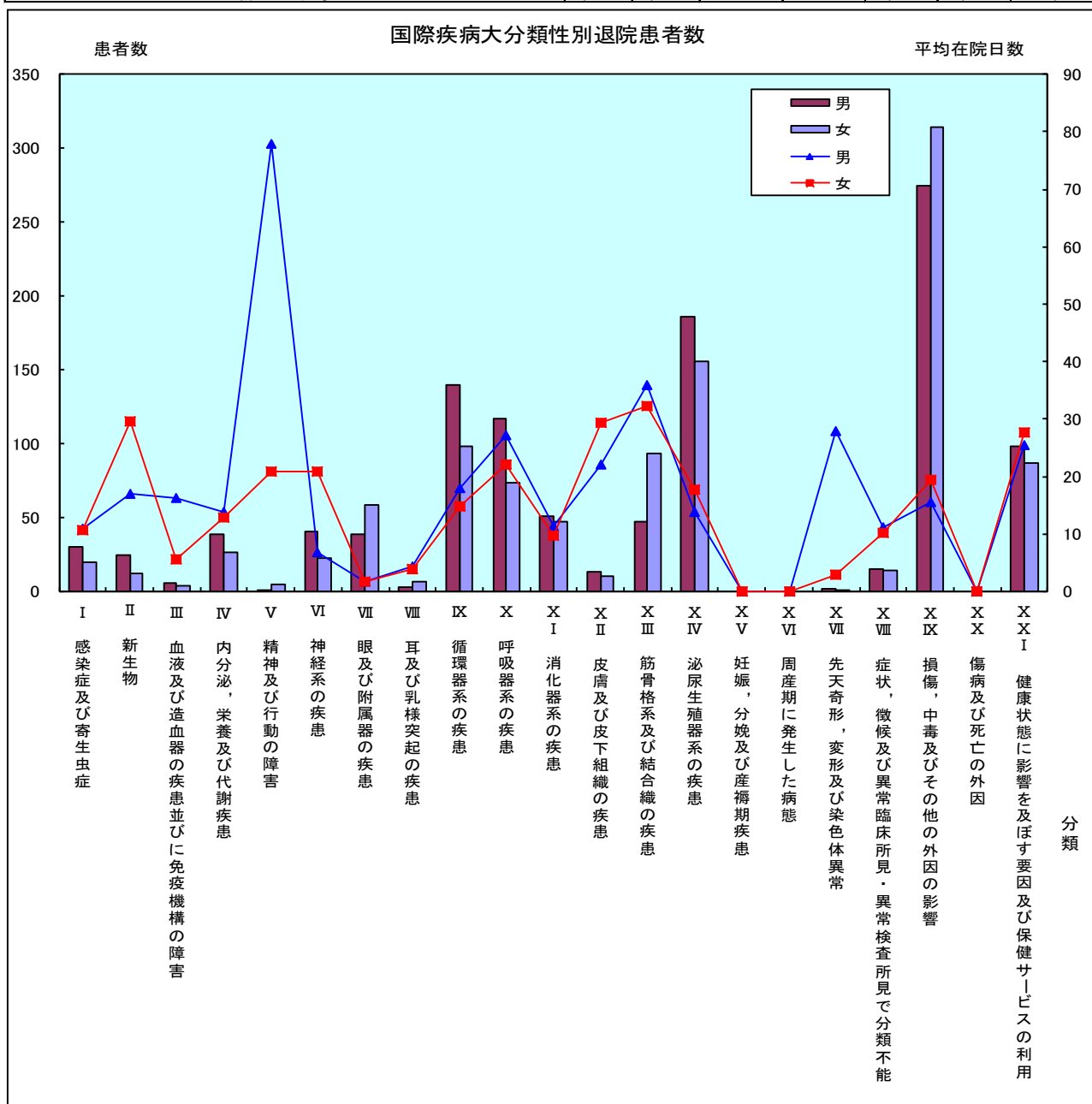
明石医療センター 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	204	193	12	11	2,484	2,046	4,530
II 新生物	1,072	966	13	11	14,387	10,152	24,539
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	27	40	10	13	262	524	786
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	152	129	11	11	1,720	1,445	3,165
V 精神及び行動の障害	19	11	6	4	113	48	161
VI 神経系の疾患	102	67	5	7	478	454	932
VII 眼及び付属器の疾患	0	2	0	7	0	13	13
VIII 耳及び乳様突起の疾患	14	18	5	4	67	75	142
IX 循環器系の疾患	1,541	866	11	12	16,955	10,572	27,527
X 呼吸器系の疾患	862	519	11	11	9,301	5,426	14,727
X I 消化器系の疾患	953	753	10	10	9,327	7,457	16,784
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	44	50	13	12	549	596	1,145
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	174	174	17	21	3,005	3,649	6,654
X IV 泌尿生殖器系の疾患	228	387	16	10	3,624	3,663	7,287
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	1,104	0	8	0	8,543	8,543
X VI 周産期に発生した病態	294	324	8	7	2,439	2,314	4,753
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	14	8	7	6	99	48	147
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	18	16	6	7	100	111	211
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	475	619	13	14	6,117	8,703	14,820
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1	1	6	3	6	3	9
計又は平均	6,194	6,247	9	9	71,033	65,842	136,875



井上病院 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	30	20	11	11	330	212	542
II 新生物	25	12	17	30	427	356	783
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6	4	16	6	98	22	120
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	39	26	14	13	542	335	877
V 精神及び行動の障害	1	5	78	21	78	105	183
VI 神経系の疾患	41	23	7	21	280	483	763
VII 眼及び付属器の疾患	39	59	2	2	69	107	176
VIII 耳及び乳様突起の疾患	3	7	4	4	13	28	41
IX 循環器系の疾患	140	98	18	15	2,513	1,459	3,972
X 呼吸器系の疾患	117	74	27	22	3,170	1,640	4,810
X I 消化器系の疾患	51	47	11	10	579	457	1,036
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	13	10	22	29	287	294	581
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	47	93	36	32	1,691	2,998	4,689
X IV 泌尿生殖器系の疾患	186	156	14	18	2,583	2,771	5,354
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	2	1	28	3	56	3	59
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	15	14	11	10	168	143	311
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	275	314	15	19	4,252	6,107	10,359
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	98	87	25	28	2,496	2,413	4,909
計又は平均	1,128	1,050	17	19	19,632	19,933	39,565



V. 業績集

愛仁会学術業績集基準(2019年)

・2019年4月1日～2020年3月31日に発行・発表されたものとする。

・法人外での実績を掲載する(愛仁会医学研究誌は含む)。

区分	基準	
1. 口頭発表 (外部発表)	指定講演	学会・学術研究会における特別講演・招待講演・教育講演など
	シンポジウム等	学会・各種学術研究会でのシンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップなどに準ずるもので発表
	一般講演	口頭・ポスターなどによる発表
	その他の講演	セミナー・研究会・懇話会・談話会・勉強会等
2. 論文発表	学術誌に掲載された原著・総説・症例報告	
	研究報告書・紀要論文	
	その他	学術誌に掲載された専門分野の解説・講座・シリーズ・特集・臨時増刊など
3. 著書発表	単独又は共著として発刊された著書(編者, 監修, 翻訳含む)	
4. その他	講師・司会・座長活動	学会, 研究会, セミナーでの発表及び講演会での講師, 司会又は座長の実績
	その他学術関連	業績として記録しておくにふさわしいもの ラジオ, テレビ, 週刊誌, 新聞, Web記事投稿, 受賞, 特許, 競争的資金など

千船病院

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	カテーテルアブレーション関連秋季大会2019	HDGC-LPMがアブレーションに有効であったVTストームの1例	'19/11	金沢市	診療部 循環器内科	足立和正
2	第12回植え込みデバイス関連冬季大会	ペーシング部位と効用/問題点	'20/2	名古屋市	診療部 循環器内科	足立和正
3	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	FSP27αは白色脂肪組織にオートファージによる脂肪分解を抑制する	'19/5	仙台市	診療部 糖尿病内分泌内科	中島進介
4	第224回日本内科学会近畿地方会	急性膵炎を併発し、著名な高血糖(2138mg/dl)を呈した高浸透圧高血糖症候群の1例	'19/6	大阪市	診療部 糖尿病内分泌内科	宮井佑也, 広中順也, 鷺見まどか, 佐藤洋幸, 松山温子, 高橋哲也, 名方勇介(消化器内科), 船津英司(消化器内科)
5	第40回日本肥満学会, 第39回肥満症治療学会学術集会	高度肥満患者におけるスリープ状胃切除術前後のグルカゴン負荷試験によるインスリン分泌能の検討	'19/11	東京都	診療部 糖尿病内分泌内科	大島令子, 高橋哲也, 中島進介, 佐藤洋幸, 北浜誠一(外科)
6	第226回日本内科学会近畿地方会	Raoultella ornithinolytica菌血症および腎膿瘍を併発したコントロール不良の2型糖尿病の1例	'19/12	大阪市	診療部 糖尿病内分泌内科	国本一輝, 大島令子, 佐藤洋幸, 中島進介, 高橋哲也, 藤田芳正(総合内科)
7	第9回肥満と消化器疾患研究会	当院における高度肥満症と逆流性食道炎の関連についての検討	'19/5	金沢市	診療部 消化器内科	板東正貴, 船津英司, 那賀川 峻, 鍋嶋克敏, 吉安孝介, 羽鳥広隆, 名方勇介, 北浜誠一(外科), 高橋哲也(糖尿病内科)
8	第102回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	当院における大腸憩室出血に対する内視鏡的止血術に関する検討	'19/7	大阪市	診療部 消化器内科	吉安孝介, 板東正貴, 鍋嶋克敏, 船津英司, 那賀川 峻
9	第111回消化器病学会近畿地方会	急性膵炎後、被包化膿壊死治療中にIgA血管炎による十二指腸狭窄をきたした1例	'19/10	大阪市	診療部 消化器内科	西川浩介, 那賀川 峻, 南條 望, 名方勇介, 羽鳥広隆, 板東正貴, 吉安孝介, 船津英司
10	第111回消化器病学会近畿地方会	注腸造影にて整備後再発を認めていない器質的疾患のない成人突発性腸重積の1例	'19/10	大阪市	診療部 消化器内科	南條 望, 那賀川 峻, 西川浩介, 名方勇介, 羽鳥広隆, 板東正貴, 吉安孝介, 船津英司
11	内科学会第227回近畿地方会	肝性脳症を契機に診断した脳腫瘍の1例	'20/3	京都市	診療部 消化器内科	黒川 晟, 名方勇介, 南條 望, 西川浩介, 羽鳥広隆, 板東正貴, 吉安孝介, 那賀川 峻, 船津英司
12	第1回認知症サポーター養成講座(スローライフおかじま)	認知症サポーター養成講座(スローライフおかじま職員向け)	'19/7	大阪市	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
13	日本透析医学会学術総会	維持血液透析患者における催眠薬と多剤併用薬内服による転倒リスクの検討～透析診療ネットワーク(AQuAH-D)を用いた他施設共同観察研究～	'19/6	横浜市	診療部 腎臓内科	中西昌平
14	神戸腎臓内科学術講演会	当院におけるパーサビブの使用経験	'19/8	神戸市	診療部 腎臓内科	中西昌平
15	西淀川薬病連携の会	糖尿病におけるSGLT2 Iの使い方について～腎臓内科の立場から～	'19/10	大阪市	診療部 腎臓内科	中西昌平
16	第49回日本腎臓学会西部学術大会	両側経皮的腎動脈形成術後の左腎動脈閉塞による蛋白尿、腎機能低下とARBで治療し得た1例	'19/10	高知市	診療部 腎臓内科	高木泰尚, 中西昌平, 宇高千恵, 服部英明

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
17	第226回日本内科学会近畿地方会	心臓転移を認めた肺扁平上皮癌の1剖検例	'19/12	大阪市	診療部 総合内科	尾上雲花, 二宮幸三, 依藤兼太郎, 藤田芳正, 尾崎正憲 (循環器内科), 渡邊隆弘 (病理診断科), 船田泰弘 (呼吸器内科)
18	第227回日本内科学会近畿地方会	血液培養にてAerococcus urinaeが検出された結石性腎盂腎炎の1例	'20/3	京都市	診療部 総合内科	宮井佑也, 依藤兼太郎, 二宮幸三, 藤田芳正, 尾崎正憲 (循環器内科), 新開康弘 (泌尿器科)
19	4th World Congress on Interventional Therapies for Type 2 Diabetes	SAFETY OF LAPAROSCOPIC SLEEVE GASTRECTOMY (LSG): INITIAL RESULTS FROM A SINGLE BARIATRIC FELLOWSHIP TRAINED SURGEON IN JAPAN	'19/4	New York, USA	診療部 外科	北浜誠一, 松下和子, 向井友一郎, 高橋哲也 (糖尿病内科), 佐藤洋幸 (糖尿病内科), 広中順也 (糖尿病内科)
20	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病に対する外科治療によるDTR-QOLの改善	'19/5	仙台市	診療部 外科	松下和子, 北浜誠一, 桃野鉄平, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎, 高橋哲也 (糖尿病内科), 佐藤洋幸 (糖尿病内科), 広中順也 (糖尿病内科)
21	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	千船病院における腹腔鏡下スリーブ術87例の手術成績	'19/5	仙台市	診療部 外科	北浜誠一, 桃野鉄平, 松下和子, 三原俊彦, 山元康義, 向井友一郎, 岡田憲幸, 高橋哲也 (糖尿病内科), 佐藤洋幸 (糖尿病内科), 広中順也 (糖尿病内科)
22	第9回近畿肥満外科治療研究会	肥満・糖尿病外科手術の適応 千船病院での110例を振り返って	'19/5	京都市	診療部 外科	北浜誠一
23	第5回明日からの循環器診療を考える会	減量・糖尿病外科の実際	'19/6	大阪市	診療部 外科	北浜誠一
24	IFSO INTERNATIONAL FEDERATION FOR THE SURGERY OF OBESITY AND METABOLIC DISORDERS	Medium Term Results of Laparoscopic Loop Duodenojejunal Bypass with Sleeve Gastrectomy (LDJB-SG) in Japan	'19/9	Madrid, Spain	診療部 外科	北浜誠一, 松下和子, 三原俊彦, 向井友一郎, 高橋哲也 (糖尿病内科), 佐藤洋幸 (糖尿病内科)
25	第40回日本肥満学会, 第37回肥満症治療学会学術集会	千船病院における肥満外科手術120例の治療成績	'19/11	東京都	診療部 外科	北浜誠一, 松下和子, 桃野鉄平, 三原俊彦, 山元康義, 向井友一郎, 大島令子 (糖尿病内科), 佐藤洋幸 (糖尿病内科), 中島進介 (糖尿病内科), 高橋哲也 (糖尿病内科)
26	第32回日本内視鏡外科学会総会	スリーブ状胃切除術後GERDに対する治療戦略	'19/12	横浜市	診療部 外科	北浜誠一, 松下和子, 桃野鉄平, 三原俊彦, 山元康義, 向井友一郎
27	第32回日本内視鏡外科学会総会	穿孔早期の大腸穿孔に対して腹腔鏡手術を行った2例	'19/12	横浜市	診療部 外科	桃野鉄平, 北浜誠一, 松下和子, 三原俊彦, 山元康義, 向井友一郎, 岡田憲幸
28	逆流性食道炎・ピロリUP TO DATE	胃食道逆流症, 咽喉頭逆流症 (LPRD) に対する外科治療の実際	'20/1	大阪市	診療部 外科	北浜誠一
29	第61回K-SOS会	千船病院 血管外科一年目の報告	'20/1	大阪市	診療部 外科	松尾辰朗
30	第11回肥満症総合治療セミナー	サポートグループの重要性	'20/2	福岡市	診療部 外科	北浜誠一
31	第9回 GI Symposium	GERD, 咽喉頭逆流症 (LPRD) の外科治療と適応	'20/2	神戸市	診療部 外科	北浜誠一
32	肥満外科手術セミナー	肥満・糖尿病外科治療におけるチームビルディングと臨床の実際	'20/2	東京都	診療部 外科	北浜誠一

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
33	第50回日本婦人科病理学会学術集会	子宮体部粘液性病変の1例	'19/6	富山市	診療部 病理診断科	名方保夫, 渡邊隆弘
34	第51回日本婦人科病理学会学術集会	多彩な組織像を示す平滑筋腫様の一例	'20/1	松山市	診療部 病理診断科	渡邊隆弘
35	第122回日本小児科学会学術集会	先行する呼吸器症状に乏しく、診断が遅れた重症心身障がい児の臍胸の一例	'19/4	金沢市	診療部 小児科	岩田康平, 牟禮岳男, 角谷哲基, 河野一誠, 佐浦龍太郎, 荻野加菜, 谷口公啓, 東口素子, 住吉倫卓, 甲斐智彦, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 五條あい, 水野洋介, 高寺明弘, 下村真由美, 西野昌光, 吉井勝彦
36	第327回NMCS例会	ビタミンB1欠乏による急性乳酸アシドーシスを呈した超早産児の1例	'19/4	大阪市	診療部 小児科	川村 葵
37	第277回日本小児科学会兵庫県地方会	直腸脱で発症した大腸ポリープによる腸重積症の1例	'19/5	神戸市	診療部 小児科	角谷哲基, 岩田康平, 牟禮岳男, 河野一誠, 佐浦龍太郎, 荻野加菜, 谷口公啓, 東口素子, 住吉倫卓, 甲斐智彦, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 五條あい, 水野洋介, 牟禮岳男, 高寺明弘, 下村真由美, 西野昌光, 吉井勝彦
38	第21回西淀小児科懇話会	GBS髄膜炎の一例	'19/6	大阪市	診療部 小児科	河野一誠
39	第21回西淀小児科懇話会	不明熱を呈し、副鼻腔炎と診断した2例	'19/6	大阪市	診療部 小児科	福田拓弥
40	第21回西淀小児科懇話会	突発性発疹による熱性痙攣後にTodd麻痺を来した3例	'19/6	大阪市	診療部 小児科	山本香織
41	第278回日本小児科学会兵庫県地方会	アルドステロン高値により診断に至った早産児の偽性低アルドステロン症1型の1例	'19/9	姫路市	診療部 小児科	角谷哲基, 牟禮岳男, 河野一誠, 武田紗季, 住吉倫卓, 榎本真由子, 藤坂方葉, 水野洋介, 下村真由美, 西野昌光, 吉井勝彦
42	第64回日本新生児成育医学会	チアミン投与により急性乳酸アシドーシスが改善した超低出生体重児の1例	'19/11	鹿児島市	診療部 小児科	川村 葵, 藤坂方葉, 牟禮岳男, 吉井勝彦, 西野昌光
43	第331回NMCS例会	対応に苦慮した未受診妊婦の4症例	'20/1	大阪市	診療部 小児科	住吉倫卓
44	第279回日本小児科学会兵庫県地方会	腋窩リンパ節炎・蜂窩織炎で受診し診断に難渋した川崎病の1例	'20/2	西宮市	診療部 小児科	川村 葵, 角谷哲基, 牟禮岳男, 河野一誠, 武田紗季, 住吉倫卓, 榎本真由子, 藤坂方葉, 水野洋介, 下村真由美, 西野昌光, 吉井勝彦
45	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	人工膝関節全置換術後疼痛と骨密度変化との関連性	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	鄭 克真, 養田正也, 松田 茂
46	第45回日本骨折治療学会	大腿骨骨幹部骨折の術後X線学的骨癒合においてmRUST, 渡部scoreは信頼性と妥当性のある評価法である	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	田中秀弥
47	大阪府私立病院協会 講演	放っておくと怖いお年寄りの関節痛～ここまで進んだコンピューター支援手術～	'19/7	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
48	大阪整形外科症例検討会	大腿骨頸部に前額面剪断型の不顕性骨折を認めた関節リウマチ患者の1例	'19/8	大阪市	診療部 整形外科	田中秀弥, 鄭 克真, 蓑田正也, 松田 茂
49	港区医師会 学術講演会	変形性膝関節症に対する治療up-to-date ～疼痛緩和の多面的アプローチ～	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
50	第133回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	多職種連携パス導入による大腿骨近位部骨折治療における影響	'19/9	神戸市	診療部 整形外科	蓑田正也
51	第133回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	より高い満足度を目指した人工膝関節手術	'19/9	神戸市	診療部 整形外科	鄭 克真, 蓑田正也, 田中秀弥, 松田 茂
52	ISTA'19	The influence of varus/valgus stresses on post-operative result in total knee arthroplasty-Kinematic analyses during computer assisted surgery	'19/10	Toronto, Canada	診療部 整形外科	鄭 克真, 田中秀弥, 蓑田正也, 松田 茂
53	第50回日本人工関節学会	Advanced Gap Sizerを用いた内側を回旋中心とした後顆の骨切りはTKAにおいて術后臨床成績に良好な影響を与える	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	鄭 克真, 田中秀弥, 蓑田正也, 松田 茂
54	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	産科疾患緊急度表を用いた参加救急症例対応のための迅速な連携構築の試み	'19/4	名古屋市	診療部 救急診療部	山下公子
55	2019年度課題別研修「ASEAN 災害医療, 救急医療」	災害医療における産科対応	'19/8	吹田市	診療部 救急診療部	山下公子
56	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2次救急病院における小児頭部外傷の診療体制	'19/10	東京都	診療部 救急診療部	山下公子
57	第25回日本災害医学会	災害時の緊急避妊	'20/2	神戸市	診療部 救急診療部	山下公子
58	第33回日本泌尿器内視鏡学会総会	愛仁会千船病院における接触式前立腺レーザー蒸散術(CVP)の初期経験	'19/4	京都市	診療部 泌尿器科	樋口喜英
59	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	開腹子宮筋腫核出後に生じた子宮仮性動脈瘤に対して子宮動脈塞栓術が有効であった一例	'19/4	名古屋市	診療部 産婦人科	太田真見子, 吉田茂樹, 嘉納 萌, 下川 航, 益子尚久, 成田 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 大木規義, 村越 誉, 岡田十三, 本山 寛
60	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	腹膜癌と結核性腹膜炎の鑑別に腹腔鏡手術が有用であった1例	'19/4	名古屋市	診療部 産婦人科	北口智美, 吉田茂樹, 嘉納 萌, 小川紋奈, 北井沙和, 嶋村卓人, 田中美喜歩, 田邊 文, 嘉納 萌, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三
61	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	妊娠糖尿病診断率に季節性変化があるか	'19/4	名古屋市	診療部 産婦人科	田邊 文, 岡田十三, 北口智美, 田中美喜歩, 細川雅代, 安田立子, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 誉, 本山 寛, 吉田茂樹
62	第18回兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会	da Vinci TLHに膜解剖理論は有効か?	'19/5	神戸市	診療部 産婦人科	大木規義, 村越 誉, 嶋村卓人, 山本貴子, 安田立子, 稲垣美恵子, 岡田十三, 吉田茂樹
63	日総研セミナー	胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	'19/5	東京都	診療部 産婦人科	岡田十三
64	第60回日本神経学会学術大会	〔教育プログラム〕頭痛を深めるー共存症/併存症から考える片頭痛の病態と臨床対応 女性診療科を併設する場合	'19/5	大阪市	診療部 産婦人科	稲垣美恵子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
65	兵庫県助産師職能集会	助産師の役割と院内助産システム	'19/6	神戸市	診療部 産婦人科	岡田十三
66	第11回関西腹腔鏡下婦人科悪性腫瘍会議	当院での腹腔鏡下悪性腫瘍手術の工夫	'19/7	大阪市	診療部 産婦人科	村越 誉, 大木規義
67	第55回日本周産期・新生児医学会学会学術集会	当院で経験した卵巣腫瘍合併妊娠手術症例の妊娠・分娩転帰に関する検討	'19/7	松本市	診療部 産婦人科	小川紋奈, 安田立子, 岡田十三, 村越 誉, 大木規義, 成田 萌, 益子尚久, 吉田茂樹
68	夏期位育会臨床セミナー	【話題提供講演】手術解剖学に基づく腹腔鏡下手術の言語化と定型化	'19/8	神戸市	診療部 産婦人科	大木規義, 山崎 亮, 河谷春那, 荻本圭祐, 小倉直子, 北 采加, 三木玲奈, 北口智美, 嶋村卓人, 田中美喜歩, 田邊 文, 加嶋洋子, 細川雅代, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹, 本山 覚
69	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	尿管損傷しない TLH定型化の試み	'19/9	京都市	診療部 産婦人科	大木規義, 山崎 亮, 荻本圭祐, 河谷春那, 小倉直子, 北 采加, 三木玲奈, 北口智美, 嶋村卓人, 田中美喜歩, 田邊 文, 山本貴子, 細川雅代, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
70	第43回日本女性栄養・代謝学会学術集会	糖尿病診断率に季節性変化があるか	'19/9	神戸市	診療部 産婦人科	田邊 文, 岡田十三, 北口智美, 田中美喜歩, 嶋村卓人, 細川雅代, 安田立子, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 誉, 本山 覚, 吉田茂樹
71	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	多量性器出血を主訴に発見され腹腔鏡下に摘出した腔平滑筋腫の一例	'19/9	京都市	診療部 産婦人科	田中美喜歩, 稲垣美恵子, 細川雅代, 山本貴子, 成田 萌, 安田立子, 大木規義, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
72	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	【招請講演】内視鏡手術, エキスパートの取り組み1婦人科医から見た骨盤解剖と手術戦略	'19/9	京都市	診療部 産婦人科	大木規義
73	第32回近畿内視鏡外科研究会	婦人科医から見た骨盤解剖と手術戦略	'19/9	大阪市	診療部 産婦人科	大木規義
74	第5回ALS0-Japan学術集会	助産師主導の分娩	'19/10	奈良市	診療部 産婦人科	岡田十三
75	第2回南大阪婦人科手術手技検討会	ロボット支援下腹腔鏡手術	'19/11	大阪市	診療部 産婦人科	村越 誉, 大木規義, 三木玲奈, 小倉直子, 河谷春那, 田邊 文, 北口智美, 小川紋奈, 北井沙和, 佐藤華子, 加嶋洋子, 佐伯信一朗, 細川雅代, 山崎 亮, 安田立子, 稲垣美恵子, 岡田十三, 本山 覚, 吉田茂樹
76	第34回日本女性医学学会総会	腹腔内に迷入したLNG-IUSの診断に3D構築画像が有用であった一例	'19/11	福岡市 神戸市	診療部 産婦人科	北井沙和, 村越 誉, 安田立子, 稲垣美恵子, 岡田十三
77	第47回日本頭痛学会	【ワークショップ】頭痛診療のクロス トーク・連携 月経時片頭痛の集学的治療	'19/11	浦和市 神戸市	診療部 産婦人科	稲垣美恵子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
78	エンドメトリオーシス・フォートラフ	妊娠期間中の内膜症性嚢胞の脱落膜化について	'19/12	大阪市	診療部 産婦人科	河谷春那, 稲垣美恵子, 前田哲雄, 三木玲奈, 小川紋奈, 北井沙和, 北口智美, 田邊文, 加嶋洋子, 佐伯信一朗, 佐藤華子, 細川雅代, 山崎亮, 大木規義, 安田立子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹, 本山 覚
79	第20回近畿産婦人科内視鏡手術研究会プログラム	ランチョンセミナー「子宮体癌のコツとピットホール」	'20/2	大阪市	診療部 産婦人科	大木規義
80	日本麻酔科学会第66回学術集会	リフレッシュコース「妊婦と抗凝固」講演	'19/5	神戸市	診療部 麻酔科	魚川礼子
81	日本麻酔科学会第66回学術集会	麻酔科専攻医の分娩時硬膜外鎮痛経験可能実数調査	'19/5	神戸市	診療部 麻酔科	魚川礼子
82	日本麻酔科学会第66回学術集会	プロポフォールはミトコンドリアの電子伝達系を介して代謝を解糖系にシフトさせ細胞死を誘導する	'19/5	神戸市	診療部 麻酔科	角 千里
83	日本麻酔科学会第65回関西支部学術集会	先天性アンチトロンビンⅢ欠損症における硬膜外麻酔の経験	'19/9	大阪市	診療部 麻酔科	魚川礼子
84	日本麻酔科学会第65回関西支部学術集会	僧帽弁形成術後の僧帽弁前尖の収縮期前方運動(SAM)に対して僧帽弁置換術を行った一例	'19/9	大阪市	診療部 麻酔科	清水定典
85	第123回日本産科麻酔学会学術集会	帝王切開術後2週間で子宮仮性動脈瘤をきたし救命し得た一例	'19/11	東京都	診療部 麻酔科	小林基子, 魚川礼子, 金岡由起, 大山泰幸, 星野和夫, 河野克彬
86	日本臨床麻酔学会第39回大会	硬膜穿刺後に頭蓋内硬膜下血腫を発症した帝王切開術の麻酔経験	'19/11	軽井沢市	診療部 麻酔科	金岡由起, 魚川礼子, 上北郁男, 大山泰幸, 星野和夫, 河野克彬
87	日本臨床麻酔学会第39回大会	腹腔鏡下子宮筋腫核出術における子宮筋層局所注入バソプレシン量と経皮的動脈血酸素飽和度低下についての検討	'19/11	軽井沢市	診療部 麻酔科	上北郁男, 金岡由起
88	第32回日本老年麻酔学会	大腿骨近位部骨折に対して準緊急手術を行う事ができなかった医学的要因の検討	'20/2	倉敷市	診療部 麻酔科	石村颯貴, 上北郁男
89	第32回日本老年麻酔学会	大腿骨近位部骨折に対して準緊急手術を行う事ができなかった社会的要因の検討	'20/2	倉敷市	診療部 麻酔科	安藤悠子, 上北郁男
90	第69回日本病院学会	呼吸器・循環器, 疾患を持つ患者におけるDNAR意思決定の現状	'19/8	札幌市	看護部 8階東病棟 看護科	安田理緒, 田頭彩加
91	第5回ALSO-JAPAN集会	シンポジウム 助産師主導の分娩	'19/10	生駒市	看護部 MFICU看護科	清水涼子
92	第20回大阪病院学会	A病院の救急センターへ救急車で来院した患者家族または付添い者のこころの変化	'19/10	大阪市	看護部 救急・内 視鏡セン ター看護科	友清美美, 岡本 恵
93	第20回大阪病院学会	ロボット支援手術下前立腺全摘除術を受けた患者の術後の排尿障害の実態	'19/10	大阪市	看護部 8階西病棟 看護科	西田悠人, 山田しのぶ
94	第7回大阪府看護学会	減量外来に通院する患者の実態調査～看護師の役割について考察する～	'19/12	大阪市	看護部 外来看護科	山田直子, 田崎勝子, 二宮夏代, 定松香代子, 北浜誠一
95	大阪母性衛生学会	妊娠各期の疼痛の変化と体操教室受講者の実態	'19/12	大阪市	看護部 産科病棟 看護科	戸嶋夏希, 涌嶋嘉子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
96	日本助産学会	当法人における院内助産の運営（第1報）～10年間の活動評価の結果から～	'20/3	新潟市	看護部 MFICU看護科	川又睦子, 長谷川聡子, 倉本孝子
97	日本助産学会	大阪府助産師会におけるアドバンス助産師育成支援の取り組み～開業助産師への支援実践報告～	'20/3	新潟市	看護部 院内助産・産科 外来看護科	上山直美, 岩島貴久美, 堀陽子, 涌嶋嘉子, 宮川 祐
98	第14回医療の質・安全学会学術集会	SBARの新しい評価方法による行動変容（データの可視化による教育強化）	'19/11	京都市	医療安全管理室	久保順子, 岡田十三
99	第13回日本緩和医療薬学会年会	看護学生に対する麻薬・危険ドラッグの意識調査	'19/5	千葉市	技術部 薬剤科	木村真策, 今市沙有美
100	第29回日本医療薬学会年会	AS活動開始後の効果と今後の課題	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	久保智士, 木村真策, 芦澤穂波, 土本寛子, 鶴崎 亮
101	第29回日本医療薬学会年会	認知症サポートチーム（DST）結成および活動開始後のDST介入による処方提案の変化	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	宮城 景, 高本早希, 北村悠里子, 木村真策
102	第29回日本医療薬学会年会	ASTおよび薬剤科介入によるMEPM使用量の変化	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	土本寛子, 原田千菜美, 芦澤穂波, 久保智士, 鶴崎 亮, 木村真策
103	第64回日本透析医学会学術集会・総会	Future Net Webtの系列施設間連携における不具合の報告	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	吉村健悟, 沖田新一, 木下 亮, 稔野益男, 宇高千恵, 中西昌平, 金 鐘一
104	第20回大阪病院学会	当院におけるホルマリンの適正管理について	'19/10	大阪市	技術部 検査科	井上弘規
105	脂質代謝を考える会	脂質異常症における食事療法	'19/7	大阪市	技術部 栄養管理科	田中理恵子
106	第4回肥満・糖尿病外科手術セミナー 第2部	術前・術後の栄養管理	'19/7	東京都	技術部 栄養管理科	志賀 孝
107	IFSO WORLD CONGRESS2019国際肥満代謝外科連盟世界会議	Evaluation of Nutrition Status post Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Japanese population	'19/9	マドリッド, スペイン	技術部 栄養管理科	田中理恵子, 志賀 孝, 向井友一郎, 高橋哲也, 北浜誠一
108	第40回日本肥満学会, 第37回肥満症治療学会学術集会	脳梗塞による高次機能障がいを伴う高度肥満患者に対し, 減量手術後の栄養指導が奏功した一例	'19/11	東京都	技術部 栄養管理科	森井梨恵, 田中理恵子, 奥村あゆ, 酒田藍子, 志賀 孝, 松下和子, 桃野鉄平, 加藤星河, 松山温子, 中島進介, 高橋哲也, 北浜誠一
109	第23回日本病態栄養学会年次学術集会	腹腔鏡下スリーブ術後1年の栄養評価と体組成変化	'20/1	京都市	技術部 栄養管理科	田中理恵子, 酒田藍子, 森井梨恵, 奥村あゆ, 志賀 孝
110	第20回認知症ケア学会	急性期病院の認知症ケアチームにおける院内デイケアの効果と課題	'19/5	京都市	技術部 リハビリテーション科	江崎ひかる, 安西直人, 沼田有紗, 水野紀恵, 栗岡美千代, 瀧本 裕
111	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	高齢心不全患者における入院期歩行速度に関わる因子の特性	'19/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	佐々木宏樹, 神谷亮平, 氏内康友, 尾崎正憲, 森沢知之, 宮本俊朗, 勝野朋幸, 玉木 彰
112	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	急性期心不全入院患者における急性期離床プログラムの達成率とその関連因子について	'19/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	氏内康友, 佐々木宏樹, 神谷亮平, 尾崎正憲
113	第40回日本肥満学会, 第37回肥満症治療学会学術集会	高度肥満症患者術後身体機能の変化	'19/11	東京都	技術部 リハビリテーション科	佐々木宏樹, 神谷亮平, 高橋哲也, 北浜誠一

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
114	第50回日本人工関節学会	当院における人口膝関節全置換術後リハビリテーションスケジュール改定に対する妥当性の調査	'20/2	福岡市	技術部 リハビリテーション科	山本恵造, 丸石義久, 井上健太, 神谷亮平, 鄭克真, 松田茂
115	第69回日本病院学会	事務職員の人材育成の取り組みについて	'19/8	札幌市	事務部 外来支援科	千草寛美
116	第69回日本病院学会	ICTを活用した研修会参加率向上の取り組みについて	'19/8	札幌市	事務部 医療秘書科	吹田裕子
117	第20回大阪病院学会	急性期病院から訪問診療へ-事務専任者配置の効果-	'19/10	大阪市	事務部 病棟支援科	大西由里子, 清水香織

論文発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	肥満症治療学展望	チーム医療コーナー: 理学療法士の視点 高度肥満症患者の6分間歩行距離に関する調査	7(3)	38-39, 2019	診療部 外科	北浜誠一
2	肥満症治療学展望	クリニカルカンファレンスから 家庭環境への介入が術前減量と血糖コントロールに有効であった2型糖尿病合併高度肥満症の一例	7(3)	40-41, 2019	診療部 外科	北浜誠一, 高橋哲也(糖尿病内科)
3	Breast Cancer	Prognostic significance of tumor-infiltrating lymphocytes may differ depending on Ki67 expression levels in estrogen receptor-positive/HER2-negative operated breast cancers	26	738-747, 2019	診療部 病理診断科	渡邊隆弘
4	Breast Cancer Research and Treatment	Diffuse distribution of tumor-infiltrating Lymphocytes is a marker for better prognosis and chemotherapeutic effect in triple-negative breast cancer	178	283-294, 2019	診療部 病理診断科	渡邊隆弘
5	Cancer Science	Significant association between high serum CCL5 levels and better disease-free survival of patients with early breast cancer	111	209-218, 2020	診療部 病理診断科	渡邊隆弘
6	ANTICANCER RESEARCH	Prognostic Significance of Neutrophil-to-lymphocyte Ratio in Luminal Breast Cancers With Low Levels of Tumour-infiltrating Lymphocytes	40	2871-2880, 2020	診療部 病理診断科	渡邊隆弘
7	J Obstet Gynaecol Res	Multi-institutional phase II study of neoadjuvant irinotecan and nedaplatin followed by radical hysterectomy and the adjuvant chemotherapy for locally advanced, bulky uterine cervical cancer: A Kansai Clinical Oncology Group study (KCOG-G1201)	45	671-678, 2019	診療部 産婦人科	村越 誉
8	日本頭痛学会誌	《総説》胎児と母体救命のために見逃せない頭痛	46	66-69, 2019	診療部 産婦人科	稲垣美恵子
9	産婦人科の進歩	【原著】術前のMRI検査によって卵巣の massive ovarian edema(MOE)と診断し腹腔鏡下捻転解除術で卵巣を温存した卵巣茎捻転の1例	71	109-115, 2019	診療部 産婦人科	嘉納 萌, 稲垣美恵子, 下川 航, 細川雅代, 成田 萌, 宮地真帆, 登村信之, 吉田茂樹
10	日本周産期・新生児医学学会雑誌	【原著】妊娠中に発見されたI C期上皮性卵巣癌合併妊娠2症例についての検討	56	2019	診療部 産婦人科	京本 萌, 安田立子, 小川紋奈, 村越 誉, 吉田茂樹
11	小児科	右下肢痛を主訴に受診し腰部MRIにて腸骨髄炎と診断した12歳男児	60 (11)	1545-1548, 2019	診療部 小児科	荻野加菜, 榎本真由子, 藤坂方葉, 水野洋介, 牟禮岳男, 下村真由美, 西野昌光, 吉井勝彦

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
12	愛仁会医学研究誌	発症早期と誤認した重症心身障がい児の膿胸の1例	51	17-20, 2020	診療部 小児科	岩田康平
13	愛仁会医学研究誌	発熱, 意識レベル低下で発症した急性巣状細菌性腎炎の小児2症例	51	21-23, 2020	診療部 小児科	古林真佐美
14	愛仁会医学研究誌	人工膝関節置換術後の大腿骨頸部に前額面剪断型の非外傷性不顕性骨折を認めた関節リウマチ患者の1例	51	24-26, 2020	診療部 整形外科	田中秀弥
15	Prehospital and Disaster Medicine	Vulnerability of Pregnant Women After a Disaster: Experiences After the Kumamoto Earthquake in Japan	34(5)	569-571, 2019	診療部 救急診療部	山下公子
16	麻酔	プロポフォールはミトコンドリアの電子伝達系を介して代謝を解糖系にシフトさせ細胞死を誘導する	68 増刊	225-230, 2019	診療部 麻酔科	角 千里
17	Plos One	Cancerous phenotypes associated with hypoxia-inducible factors are not influenced by the volatile anesthetic isoflurane in renal cell carcinoma.	14(4)	2019	診療部 麻酔科	角 千里
18	愛仁会医学研究誌	血液透析患者における血清アルカリホスファターゼアイソザイム活性と血液型との関連	51	1-4, 2020	診療部 内科	金 鐘一
19	愛仁会医学研究誌	減量外来における患者の実態調査	51	95-97, 2020	看護部 外来看護科	山田直子
20	愛仁会医学研究誌	検査技師による病棟業務への取り組み	51	98-99, 2020	技術部 検査科	岡本寛之
21	愛仁会医学研究誌	事務職員に対する自己課題設定型学習の導入について	51	100-102, 2020	事務部 医事科	千草寛美
22	愛仁会医学研究誌	ICTを活用した新たな研修システムの構築について	51	103-104, 2020	事務部 主任会	吹田裕子

著書発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
1	お母さんはだいじょうぶ	毎日新聞出版/東京		全頁 (監修), 2019	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
2	地域介護経営 介護ビジョン 2019年5月号	日本医療企画/東京	191号	82-83, 2019	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
3	助産サービスの提供体制 院内助産・助産師外来 [新版] 助産師業務要覧アドバンス編 (分担執筆)	日本看護協会出版会/東京	第3版 2020年 度版	60-67, 2020	診療部 産婦人科	岡田十三
4	産婦人科の実際 「産科関連疾患に対する緊急度の判定と必要な処置－ 産科関連疾患に対する緊急度表の作成－」	金原出版/東京	第68巻 第13号	1571- 1577, 2019	診療部 救急診療部	山下公子
5	臨床婦人科産科 産婦人科救急・当直対応マニュアル 【IV. 蘇生法・救急対処法】 救急で必要な薬剤	医学書院/東京	第73巻 第4号 別刷	368-374, 2019	診療部 救急診療部	山下公子
6	産科麻酔の疑問Q&A60 (分担執筆)	中外医学社/東京		115-117, 2019	診療部 麻酔科	魚川礼子
7	産科麻酔の疑問Q&A60 (分担執筆)	中外医学社/東京		41-43 105-107, 2019	診療部 麻酔科	角 千里

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
8	一步進んだ麻酔管理 常識は常に真実か? (分担執筆)	克誠堂出版/東京		169-178, 2019	診療部 麻酔科	角 千里
9	地域連携 入退院と在宅支援 「入院前カンファレンスから始まる情報共有と継続ケア」	日総研出版/大阪	第13巻 第1号	61-67, 2020	地域医療部 入退院支援センター ター科	大中湖月, 永田香織, 平尾裕実

その他 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第4回全国介護福祉総合フェスティバルinさいたま	映画「ばあばは、だいじょうぶ」 上映会&トークショー	'19/9	さいたま市	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
2	第61回 K-SOS会	総合司会	'20/1	大阪市	診療部 外科	向井友一郎
3	学校教育 (西淀中学校)	こころと体の健康講座	'19/12	大阪市	診療部 産婦人科	岡田十三
4	学校教育 (昇陽高校)	こころと体の健康講座	'19/12	大阪市	診療部 産婦人科	岡田十三
5	第20回近畿産婦人科内視鏡手術研究会プログラム	一般演題① (演題1-4) 座長	'20/2	大阪市	診療部 産婦人科	大木規義
6	第25回日本災害医学会	一般演題口演32 災害に関連する傷病管理 小児・周産期への対応 座長	'20/2	神戸市	診療部 救急診療部	山下公子
7	臨床音楽協会	女性の健康 講師	'19/10	オンデマンド	看護部 リソース ナース室	濱田恵美子
8	日本リハビリテーション看護学会 第31回学術大会	「リハビリテーション看護のラダー」 学会企画 座長	'19/11	東京都	看護部 看護部長室	後迫瑞穂
9	日本リハビリテーション看護学会 第31回学術大会	口演V「褥瘡・排泄障害に対する援助」 一般演題発表 座長	'19/11	東京都	看護部 看護部長室	後迫瑞穂
10	第7回大阪府看護学会	第5群「急性期-3・慢性期-3」 一般演題口演 座長	'19/12	大阪市	看護部 看護部長室	後迫瑞穂
11	第116回診療放射線技師画像解析セミナー (HITの会)	『EI値の注意点と実際の臨床への活用』 企画講演 座長	'19/5	大阪市	技術部 放射線科	橋本和樹
12	第116回診療放射線技師画像解析セミナー (HITの会)	総合司会	'19/5	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人
13	第117回診療放射線技師画像解析セミナー (HITの会)	『被ばく線量管理・記録の最新動向』 『キャノンメディカルシステムズが考える臨床ワークフローの改革について』 企画講演 座長	'19/8	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人
14	第2回「上方MAG.netCAMP」	婦人科DCE-MRIにおける高時間分解能撮影の有用性	'19/10	西宮市	技術部 放射線科	伊東直博
15	第11回大阪西部地域連携合同研究会	当院におけるDXAを含めたオープン検査の取り組み	'19/11	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人
16	第119回診療放射線技師画像解析セミナー (HITの会)	『造影剤のリスクマネジメントと適正使用について』 企画講演 座長	'20/2	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人

千船クリニック

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	多職種地域連携カンファレンス	肺癌末期の在宅看取りの一例	'19/5	尼崎市	愛仁会地域ケアセンター	北 智之
2	第64回日本透析医学会学術集会・総会	台風被害による停電を経験して～施設間連携を考える～	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	井伊貴史
3	西淀川区医師会 在宅チーム診療勉強会	意思決定支援において食支援が役立った在宅看取り症例	'19/7	大阪市	愛仁会地域ケアセンター	北 智之
4	ほんまるセミナー	ほんまるセミナー	'19/10	尼崎市	愛仁会地域ケアセンター	北 智之
5	多職種地域連携カンファレンス	3医療機関が関わり、看取った症例：尼崎だいたいもつ病院訪問診療の関わり	'19/10	尼崎市	愛仁会地域ケアセンター	北 智之
6	第20回大阪病院学会	透析患者におけるエコーを用いた当院の取り組み	'19/10	大阪市	技術部 臨床工学科	松尾 悠
7	第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	透析中の運動療法を始めて1年間の経過と今後の課題～理学療法士の配属がないクリニックでの試み～	'20/2	東京都	千船クリニック CKDセンター 看護科	角和敬子

介護老人保健施設ユーアイ

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第30回全国介護老人保健施設 記念大会 別府大分	ゆうゆう学校へ行こう！ ～施設でゆうゆう自適な Campus Life～	'19/11	別府市	療養科	中口愛里奈

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	公益社団法人大阪介護老人保 健施設協会「認知症予防～そ れぞれの対応～」	ゆうゆう学校へ行こう！ ～施設でゆうゆう自適な Campus Life～ (パネラー)	'20/1	大阪市	療養科	兵底裕美

カーム尼崎健診プラザ

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第60回日本人間ドック学会学術大会	LOX-indexと脳ドックの関連性	'19/7	岡山市	事業管理部 健診科	久徳智子
2	第60回日本人間ドック学会学術大会	LOX-indexと生活習慣の関連性	'19/7	岡山市	事業管理部 健診科	家城美波

尼崎だいもつ病院

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第5回地域包括ケア病棟研究大会	退院支援シートの作成と有用性	'19/7	東京都	看護部 四階病棟 看護科	加藤真一
2	第69回日本病院学会	回復期病院における歯科衛生士の活動の可視化	'19/8	札幌市	看護部 看護部長室	馬場久美子
3	2019年度兵庫県看護協会看護実践研究会	中途採用者の支援体制の構築	'19/11	神戸市	看護部 四階病棟 看護科	木下瑞恵
4	民間病院協会東阪支部看護研究発表会	神経難病患者と家族に関わる当院看護師の退院支援に関する現状	'19/11	尼崎市	看護部 三階病棟 看護科	満尾夏希
5	第27回日本慢性期医療学会	バイタル機器と電子カルテの連動	'19/12	大阪市	看護部 四階病棟 看護科	木下瑞恵
6	第31回兵庫県理学療法学会	当院地域包括ケア病棟の低栄養患者における在宅復帰率と身体機能面・ADLの関連性について	'19/7	神戸市	リハ技術部 理学療法科	椿 敬太
7	第69回日本病院学会	回復期脳卒中患者における歩行支援ロボットによる歩行練習の効果	'19/8	札幌市	リハ技術部 理学療法科	矢野正剛
8	第69回日本病院学会	回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーション栄養の取り組み	'19/8	札幌市	リハ技術部 理学療法科	岡原由香里
9	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	心不全治療後、地域包括ケア病棟にて退院支援を行い、継続的フォローアップをした症例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	魚本忍美
10	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	入院中に非麻痺側肩関節脱臼を受傷した為治療プログラムを再考した脳梗塞片麻痺の症例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	片岡 渉
11	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	介護不安がある家族に対して家族支援を重要視し、在宅復帰につなげた一症例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	本多里帆
12	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	リハビリテーション栄養に着目した結果、二次性サルコペニアの改善に至った一症例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	小谷秋桜
13	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	殿筋へのアプローチにより歩行能力が改善した小転子転位の大腿骨転子部骨折術後症例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	小山竜也
14	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	大腿骨頸部骨折術後、荷重時痛が強い症例に体重免荷式歩行器を私用し歩行自立した一例	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	宮田梨沙
15	第53回日本作業療法学会	回復期リハビリテーション病棟患者における在宅復帰に影響する社会的要因	'19/9	福岡市	リハ技術部 作業療法科	田淵晃人
16	FD研修会	「身体障害領域の臨床実習における診療参加型実習導入の実際」	'20/2	神戸市	リハ技術部 作業療法科	菊 修一郎
17	リハビリテーションケア研究大会	食道入口部開大と通過パターンを評価・訓練し三食経口摂取へ移行した症例	'19/11	金沢市	リハ技術部 言語療法科	谷 早彩

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
18	第3回日本老年薬学会学術大会	回診期病院における糖尿病回診チームの取り組みと結果	'19/5	名古屋市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
19	第69回日本病院学会	回復期病棟における病棟薬剤師としての介入	'19/8	札幌市	診療技術部 薬剤科	弓場優佳
20	第52回日本薬剤師会学術大会	「嚥下困難者への安全な服薬支援」の為に薬剤師・看護師・言語聴覚士によるワーキンググループの活動について	'19/10	下関市	診療技術部 薬剤科	大西暁枝
21	第29回日本医療薬学会年会	高齢糖尿病患者の薬物療法に対する回診チームと薬剤師の取り組みと結果	'19/11	福岡市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
22	第41回日本病院薬剤師会・近畿学術大会	回復期病棟における病棟薬剤師としての介入	'20/2	神戸市	診療技術部 薬剤科	弓場優佳
23	第41回日本病院薬剤師会・近畿学術大会	回復期リハビリテーション病院におけるベンゾジアゼピン系薬剤使用と高齢者の転倒の関連について	'20/2	神戸市	診療技術部 薬剤科	森 あさひ
24	第69回日本病院学会	高齢化社会における回復期病棟の管理栄養士の役割	'19/8	札幌市	診療技術部 栄養管理科	富山正俊
25	日本神経筋疾患 摂食・嚥下・栄養研究会	嚥下訓練食の活用状況と今後の展望について第一報	'19/10	岐阜市	診療技術部 栄養管理科	田中美穂

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の転倒分析	51	12-15, 2020	看護部 五階病棟 看護科	福元雅子
2	愛仁会医学研究誌	当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養障害とサルコペニア有症率との関係について	51	79-81, 2020	リハ技術部 理学療法科	福山純史

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	尼崎薬剤師会研修会	精神疾患患者について 演者	'19/12	尼崎市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
2	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2019 座長	'20/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	栢田隆利
3	兵庫県民間病院協会東阪支部看護部長会一般研修会	ルート管理について	'19/7	尼崎市	感染対策室	長友美緒
4	第42回ほんまる生き活きセミナー	これで安心！東京オリンピック・大阪万博の感染対策	'20/1	尼崎市	感染対策室	長友美緒

高槻病院

口頭発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	2ND AUSTRALASIAN DIAGNOSTIC ERROR IN MEDICINE CONFERENCE	Rare cause of cholecystitis	'19/4	Melbourne, Australia	診療部 総合内科	Saori Hirayama, Ayako Miki, Takahiko Tsutsumi
2	ACP(米国内科学会) 年次総会・講演会2019	IEPC主催ワークショップ - 機内アナウンス” Is there a doctor on board?” に自信をもって駆けつけることができるようになるセミナー	'19/6	京都市	診療部 総合内科	筒泉貴彦
3	第47回日本救急医学会	遅発性に発症した外傷性気胸の検討	'19/10	東京都	診療部 救急総合 診療科	橋高弘忠, 秋元 寛, 小畑仁司 ¹⁾ 1) 大阪府三島救命救急センター
4	第11回日本Acute Care Surgery 学会	鈍的鎖骨下動脈損傷に対するコイル塞栓術	'19/10	沖縄県国頭郡	診療部 救急総合 診療科	橋高弘忠, 秋元 寛, 亥野春香 ¹⁾ , 小畑仁司 ¹⁾ 1) 大阪府三島救命救急センター
5	第59回日本呼吸器学会	術前に確定診断に至った若年の硬化性肺炎上皮腫の一例	'19/4	東京都	診療部 呼吸器内科	福井崇文, 奥野恵子, 吉村遼佑, 小嶋真理子, 山田 潤, 小瀧みずき, 梅谷俊介, 中村美保, 船田泰弘, 大隈宏通 ¹⁾ , 椎名祥隆 ¹⁾ , 中村 速 ²⁾ , 伊倉義弘 ³⁾ 1) 呼吸器外科 2) 神戸大学附属病院 呼吸器外科 3) 病理診断科
6	第93回日本呼吸器学会近畿地方会	肺癌の脊椎浸潤が疑われた化膿性脊椎炎の一例	'19/7	京都市	診療部 呼吸器内科	小瀧みずき, 奥野恵子 ¹⁾ , 山岡貴志, 藤本昌大, 山田 潤, 福井崇文, 梅谷俊介, 中村美保, 上領 博, 船田泰弘 1) 兵庫県立淡路医療センター
7	第42回日本呼吸器内視鏡学会	3連続喀痰塗抹検査が陰性であった気管支結核の一例	'19/7	東京都	診療部 呼吸器内科	山田 潤, 中村美保, 小嶋真理子, 吉村遼佑, 小瀧みずき, 福井崇文, 梅谷俊介, 奥野恵子, 船田泰弘, 伊倉義弘 ¹⁾ 1) 病理診断科
8	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	非典型的な画像所見を呈した加湿器肺の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	山岡貴志, 藤本昌大, 中村美保, 山田 潤, 小瀧みずき, 福井崇文, 梅谷俊介, 上領 博, 船田泰弘
9	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	免疫不全をきたす基礎疾患のない慢性進行性肺アスペルギルス症の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	高宮 麗, 中村美保, 山岡貴志, 藤本昌大, 福井崇文, 山田 潤, 小瀧みずき, 梅谷俊介, 上領 博, 船田泰弘
10	第226回日本内科学会近畿地方会	結核性髄膜炎を発症した粟粒結核の一例	'19/12	大阪市	診療部 呼吸器内科	岩本陽菜, 福井崇文, 中村美保, 船田泰弘, 大隈宏通 ¹⁾ , 椎名祥隆 ¹⁾ , 伊倉義弘 ²⁾ 1) 呼吸器外科 2) 病理診断科
11	第97回日本消化器内視鏡学会	当院における表在性非乳頭部十二指腸腫瘍12例	'19/6	東京都	診療部 消化器内科	谷本直紀, 石田亮介, 池内愛実, 権田真知, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
12	UEGW2019 (United European Gastroenterology Week)	Hepatic portal venous gas: Its clinical features and optimal managements.	'19/10	Barcelona, Spain	診療部 消化器内科	Tatsuya Osuga, Masanori Gonda, Yoshihiro Ikura ¹⁾ , Kazunori Hasegawa, Takatoshi Nakashima 1) Pathology
13	第226回日本内科学会近畿地方会	潰瘍性大腸炎に対して顆粒球除去療法を施行し、化膿性血栓性静脈炎を来した1例	'19/12	大阪市	診療部 消化器内科	徳永貴史, 池内愛美, 谷本直紀, 鍋嶋克敏, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
14	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	右側結腸に発症した全周性潰瘍性病変を伴う虚血性大腸炎の1例	'20/1	大阪市	診療部 消化器内科	伊藤裕貴, 鍋嶋克敏, 徳永貴史, 池内愛美, 谷本直紀, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
15	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	減感作療法中に発症した好酸球性胃腸炎の1例	'20/1	大阪市	診療部 消化器内科	石原美崎, 徳永貴史, 池内愛美, 谷本直紀, 鍋嶋克敏, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
16	日本消化器病学会近畿支部第112回例会	肝粘液性囊胞性腫瘍 (MCN) の一例	'20/2	京都市 (中止で誌上発表)	診療部 消化器内科	金丸薫子, 徳永貴史, 池内愛美, 谷本直紀, 鍋嶋克敏, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
17	KCJL2019 近畿心血管治療ジョイントライブ	急性心筋梗塞治療時のステント留置により感染症冠動脈瘤を閉鎖できた症例	'19/4	大阪市	診療部 循環器内科	湯口 賢
18	第127回日本循環器学会近畿地方会	胸痛を契機に発見された巨大右室内腫瘍の一例	'19/6	京都市	診療部 循環器内科	上村航也, 佐野浩之, 中島健爾, 藤岡知夫, 竹内仁一, 朝倉絢子, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 佐々木 諭, 湯口 賢, 村井直樹, 安部博昭, 高岡秀幸, 岡 隆紀 ¹⁾ , 大北 裕 ¹⁾ 1) 心臓血管外科
19	OSAKA循環器漢方セミナー	循環器外来における漢方の使い道～漢方処方是我が身も助く～	'19/8	大阪市	診療部 循環器内科	安部博昭
20	第67回日本心臓病学会	胸痛を契機に発見された巨大右室内腫瘍の一例	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	上村航也, 佐野浩之, 中島健爾, 藤岡知夫, 竹内仁一, 朝倉絢子, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 佐々木 諭, 湯口 賢, 村井直樹, 安部博昭, 高岡秀幸, 岡 隆紀 ¹⁾ , 大北 裕 ¹⁾ 1) 心臓血管外科
21	第28回日本心血管インターベンション治療学会	RFR-FFR不一致例の検討	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	佐々木 諭, 高岡秀幸, 安部博昭, 中島健爾, 村井直樹, 湯口 賢, 松寺 亮
22	第225回近畿地方会 日本内科学会近畿支部主催	Stanford A型急性大動脈解離に右冠動脈の急性心筋梗塞を合併した1例	'19/9	大阪市	診療部 循環器内科	影山達也, 湯口 賢, 田中友望, 竹内仁一, 安部博昭
23	第23回日本心不全学会	PTTMで発症した術後26年の超遅発再発胃癌の一例	'19/10	広島市	診療部 循環器内科	湯口 賢

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
24	第128回日本循環器学会近畿地方会	非ST上昇型急性心筋梗塞を契機に発見されたANCA関連血管炎の一例	'19/11	大阪市	診療部循環器内科	竹内仁一, 佐久間大輝, 神末真由, 上村航也, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 佐々木 諭, 湯口 賢, 佐野浩之, 松寺 亮, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
25	第27回画論 The Best Image	心臓血管肉腫	'19/12	東京都	診療部循環器内科	佐野浩之
26	第33回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	当院におけるiFR使用	'20/1	豊中市	診療部循環器内科	松寺 亮, 佐久間大輝, 神末真由, 竹内仁一, 上村航也, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 佐々木 諭, 湯口 賢, 佐野浩之, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
27	第34回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	労作時胸部圧迫感で発見され単冠動脈症に対しPCIで血行再建を行った一例	'20/2	大阪市	診療部循環器内科	佐久間大輝, 神末真由, 竹内仁一, 上村航也, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 佐々木 諭, 湯口 賢, 佐野浩之, 松寺 亮, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
28	第34回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	左回旋枝・右冠動脈二枝CTO病変に対し, ステントレス治療を行った一例	'20/2	大阪市	診療部循環器内科	佐々木 諭, 佐久間大輝, 神末真由, 竹内仁一, 上村航也, 田中友望, 瀬戸悠太郎, 湯口 賢, 佐野浩之, 松寺 亮, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
29	第62回日本糖尿病学会	当院で経験した, SAPによる血糖管理を行った1型糖尿病合併妊娠の3例	'19/5	仙台市	診療部糖尿病内分泌内科	平賀千尋, 陳 慶祥, 山下みどり ¹⁾ , 富永洋一 ¹⁾ 看護部
30	第19回日本先進糖尿病治療研究会・第17回1型糖尿病研究会	当院で経験したSAPによる血糖管理を行った1型糖尿病合併妊娠の3例	'19/11	東京都	診療部糖尿病内分泌内科	陳 慶祥, 平賀千尋, 山下みどり ¹⁾ 看護部
31	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	初診時臨床症状に乏しかった高齢者劇症1型糖尿病の一例	'19/11	大阪市	診療部糖尿病内分泌内科	土肥周平, 平賀千尋, 陳 慶祥
32	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	SGLT2阻害薬により正常血糖糖尿病ケトアシドーシスを来した1型糖尿病の1例	'19/11	大阪市	診療部糖尿病内分泌内科	影山達也, 平賀千尋, 陳 慶祥
33	第226回日本内科学会近畿地方会	ACTH単独欠損症で腰椎圧迫骨折により副腎不全が顕在化し死亡した一例	'19/12	大阪市	診療部糖尿病内分泌内科	松田峻佑, 平賀千尋, 陳 慶祥
34	第22回日本内科学会近畿地方会(中止)	抗GAD抗体陽性で経過観察中のバセドウ病に発症した緩徐進行1型糖尿病の1例	'20/3	京都市	診療部糖尿病内分泌内科	浅井麻由, 平賀千尋, 陳 慶祥
35	第66回日本不整脈心電学会	Complex Fractionated Atrial Electrogram Guided Ablation-Further Learning More Refined Targets in AF Ablation	'19/7	横浜市	診療部不整脈内科	Kohei Yamashiro Chairs: Julien Seitz (Hospital Saint Joseph, France)
36	第66回日本不整脈心電学会	Oral Presentation 20 -AF Ablation/Ablation Index	'19/7	横浜市	診療部不整脈内科	Kohei Yamashiro, Chairs: Kikuya Uno
37	第66回日本不整脈心電学会	Long Duration Ablation on Left Ventricular Endocardium using Remote Magnetic Navigation System for Premature Ventricular Contraction from the Summit of Left Ventricle.	'19/7	横浜市	診療部不整脈内科	Soichiro Yamashita, Kohei Yamashiro

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
38	第66回日本不整脈心電学会	The Outcome of Catheter Ablation Guided by a Spatiotemporal Electrogram Dispersion Compared with an Autonomic Denervation in Patients with non-Paroxysmal Atrial Fibrillation.	'19/7	横浜市	診療部 不整脈内科	Soichiro Yamashita, Kohei Yamashiro
39	12th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session	Tachycardia ablation in ACHD using remote magnetic navigation.	'19/10	Bangkok, Thailand	診療部 不整脈内科	Kohei Yamashiro
40	カテーテルアブレーション関連秋季大会2019	再セッション時に初めて spatiotemporal electrogram dispersion ablation を施行した広範囲な低電位領域を有する再発性心房細動の2例	'19/11	金沢市	診療部 不整脈内科	坂田憲祐, 山下宗一郎, 山城荒平
41	カテーテルアブレーション関連秋季大会2019	Senning術後心房頻拍に対し、経大動脈逆行性アプローチでリモートマグネティックナビゲーションシステムを用いてカテーテルアブレーションを施行した2症例	'19/11	金沢市	診療部 不整脈内科	山城荒平, 山下宗一郎, 坂田憲祐
42	第64回日本透析医学会	血液透析患者におけるイバンドロネートの骨代謝への作用の検討 (会議録)	'19/6	横浜市	診療部 腎臓内科	平林 彩, 松崎慶一, 高橋利和
43	第93回大阪透析研究会	血液透析患者におけるイバンドロネートの骨代謝への作用の検討 (会議録)	'19/9	大阪市	診療部 腎臓内科	平林 彩, 松崎慶一, 高橋利和
44	日本内科学会第224回近畿地方会	バルプロ酸中止により症状の改善を認めた MELASの1例	'19/6	大阪市	診療部 神経内科	松村 考, 清家尚彦, 松下達生
45	日本内科学会第226回近畿地方会	失語・異常行動を伴った可逆性脳血管攣縮症候群 (Reversible cerebral vasoconstriction syndrome:RCVS) の30歳女性の1例	'19/12	大阪市	診療部 神経内科	金丸薫子, 清家尚彦, 松下達生
46	日本神経学会第115回近畿地方会	びまん性レビー小体型認知症 (Dementia with Lewy bodies:DLB) の経過中に過呼吸、痙攣発作をきたした76才女性例	'19/12	大阪市	診療部 神経内科	清家尚彦, 松下達生
47	Epilepsy Seminar	てんかん治療と臨床経験に基づくラコサミドの位置づけ	'20/1	大阪市	診療部 神経内科	清家尚彦, 松下達生
48	第45回日本保健医療社会学会	「病氣」でもなく、「健康」でもなくー現代社会における病い経験を捉える新たな概念の創出に向けてー	'19/5	調布市	診療部 精神科	話題提供者: 小林道太郎 (大阪医科大学) 鷹田佳典 (早稲田大学) 杉林 稔
49	生き活き研究会 第3回公開研究会	関節リウマチと家族と仕事	'19/5	高槻市	診療部 精神科	杉林 稔
50	第23回統合失調症臨床研究会	シンポジウム 統合失調症の現在・過去・未来	'19/6	名古屋市	診療部 精神科	杉林 稔
51	第114回臨床実践の現象学研究会	臨床復帰の現象学	'19/7	豊中市	診療部 精神科	杉林 稔
52	第7回臨床の記述研究会	過去6回の研究会を振り返って論点を整理する	'19/8	高槻市	診療部 精神科	杉林 稔
53	第16回日本質的心理学会	現代の病い経験を捉える新しい概念生成に関する現象学的研究ー多様なデータからの議論を通してー話題提供1 関節リウマチを抱える看護師の体験と実践	'19/9	東京都	診療部 精神科	杉林 稔
54	23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)	A Phenomenological Description of the Experience of Suffering from Long-term Chronic Disease: The Structure of Living with Illness (poster)	'20/1	Chiang Mai, Thailand	診療部 精神科	坂井志織 (首都大学東京), 細野知子 (日本赤十字看護大学), 小林道太郎 (大阪医科大学), 榎原哲也 (東京大学), 杉林 稔, ほか

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
55	対人援助職×哲学者×芸術家のための講義	村上式現象学記述のコツ 講義後対談	'20/1	大阪市	診療部 精神科	村上靖彦 (大阪大学), 杉林 稔
56	第120回臨床実践の現象学研究会	小児・新生児科熟練看護師による患児の非言語的メッセージ読み取り能力についての現象学的研究	'20/2	豊中市	診療部 精神科	杉林 稔
57	対人援助職×哲学者×芸術家のための講義	精神科医が哲学するとき、何が動き出すか	'20/3	大阪市	診療部 精神科	杉林 稔
58	日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会	大会企画シンポジウム③周産期からの虐待予防～周産期医療から地域保育所まで切れ目のない親子の関わりを考える～シンポジスト「心理社会的リスクを抱えた母子への関わり」	'19/12	神戸市	心理室	小寺智子
59	第108回日本病理学会	非アルコール性脂肪性肝疾患/脂肪性肝炎 (NAFLD/NASH) の病理	'19/5	東京都	診療部 病理診断科	伊倉義弘
60	JDDW 2019 KOBE	慢性肝疾患肝組織に含まれる血小板検査の意義について	'19/11	神戸市	診療部 病理診断科	伊倉義弘, 大須賀達也 (消化器内科), 岩井泰博
61	第58回日本臨床細胞学会秋期大会	非若年患者に生じた乳腺分泌癌の2例	'19/11	岡山市	診療部 検査科 病理診断科	仲谷武史, 平尾美智子, 飯塚梨沙, 井本智子, 谷口由美, 大久保貴子, 伊倉義弘, 岡部英俊, 岩井泰博
62	第122回日本小児科学会	20歳以降の医療的ケアを必要とする児(者)の在宅療養指導	'19/4	金沢市	診療部 小児科 外来小児病棟	四本由郁, 南 宏尚
63	第122回日本小児科学会	15年間診断出来なかった家族性地中海熱の1例	'19/4	金沢市	診療部 小児科 外来小児病棟	西田敬弘, 谷内昇一郎, 起塚 庸, 南 宏尚, 西小森陵太 ¹⁾ 1) 京都大学大学院医学研究科発達小児科学
64	第54回日本小児腎臓病学会	小児特発性ネフローゼ症候群におけるインフルエンザウイルスワクチン接種とネフローゼ病勢との関連: 多施設共同研究	'19/6	大阪市	診療部 小児科 外来小児病棟	石森真吾, 堀之内智子 ¹⁾ , 藤村順也 ²⁾ , 南川将吾 ³⁾ , 山村智彦 ³⁾ , 松野下夏樹 ⁴⁾ , 神吉直宙 ⁵⁾ , 小椋雅夫 ⁶⁾ , 貝藤裕史 ¹⁾ , 野津寛大 ³⁾ , 亀井宏一 ⁶⁾ , 石倉健司 ⁶⁾ , 飯島一誠 ³⁾ 1) 兵庫県立こども病院腎臓内科 2) 加古川中央市民病院小児科 3) 神戸大学大学院内科系講座小児科学分野 4) 北播磨総合医療センター小児科 5) 姫路赤十字病院小児科 6) 国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科
65	第66回日本小児保健協会学術集会	本人に対する診断名の告知が適切な支援に結び付いた8歳の自閉スペクトラム症の1例	'19/6	東京都	診療部 小児科 外来小児病棟	武井安津子
66	第55回日本小児放射線学会	異なる社会的対応を行った両側頭頂骨骨折の2乳児例	'19/6	神戸市	診療部 小児科 外来小児病棟	小山智史, 起塚 庸, 山根弘美, 大西 聡, 石森真吾, 内山敬達, 谷内昇一郎, 南 宏尚, 木本優希 ¹⁾ , 原田敦子 ¹⁾ , 宇都宮英綱 ²⁾ 1) 小児脳神経外科 2) 小児神経センター

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
67	第62回日本腎臓学会	小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査 (JP-SHINE study): インフルエンザウイルスワクチンによる再発現象効果	'19/6	名古屋市	診療部 小児科 外来小児病棟	石森真吾, 石倉健司 ¹⁾ , 佐藤 舞 ¹⁾ , 菊永香織 ²⁾ , 寺野千香子 ²⁾ , 濱崎祐子 ³⁾ , 安藤高志 ⁴⁾ , 伊藤秀一 ³⁾ , 本田雅敬 ²⁾ 1) 国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科 2) 東京都立小児総合医療センター腎臓内科 3) 東邦大学腎臓学講座 4) 日本臨床研究支援ユニット 5) 横浜市立大学発生成育小児医療学
68	第55回日本小児循環器学会	IVIG不適応型川崎病の治療方針; 冠動脈内径を参考にした3rd line治療の選択	'19/6	札幌市	診療部 小児科 外来小児病棟	大西 聡, 内山敬達
69	第68回日本アレルギー学会	重症FPISEの4例	'19/6	東京都	診療部 小児科 外来小児病棟	松井美樹, 榎本真宏, 仲宗根瑠花, 李 崇至, 起塚 庸, 谷内昇一郎
70	第120回近畿救急医学研究会	外傷を契機に化膿性閉鎖性筋炎および化膿性恥骨炎を認めた5歳男児例	'19/7	大阪市	診療部 小児科 外来小児病棟	篠本匡志, 起塚 庸, 大西 聡, 松井美樹, 岩田庸平, 岩森真吾, 内山敬達, 南 宏尚
71	第11回日本子ども虐待医学会	当院における2年間の小児熱傷136例の検討	'19/7	函館市	診療部 小児科 外来小児病棟	小野あずさ, 起塚 庸, 石森真吾, 橋倉尚美 ¹⁾ , 久保田美幸 ¹⁾ , 芝田祐子 ¹⁾ , 井本明奈 ¹⁾ , 内山敬達, 南 宏尚 1) 高槻病院 こどもと家族の支援センター
72	第43回日本遺伝カウンセリング学会	遺伝カウンセラー養成課程における医療的ケアを必要とする児の診療陪席実習の実践	'19/8	札幌市	診療部 小児科 外来小児病棟	四本由郁, 玉置知子, 長坂美和子, 小杉眞司
73	3rd Congress of joint European Neonatal Societies (jENS)	Impact of Ventilator-Associated Pneumonia on the Need for Home Oxygen Therapy in Preterm Infants Born at <26 Weeks Gestation	'19/9	Maastricht, Netherlands	診療部 小児科 外来小児病棟	Yuki Nakata, Makoto Tamura, Miwako Nagasaka, Yoshinori Katayama
74	IPNA2019	Prospective examination of relationship between clinical features and relapse of nephrotic syndrome after flu vaccines.	'19/10	Venice, Italy	診療部 小児科 外来小児病棟	S. Ishimori, T. Horinouchi ¹⁾ , J. Fujimura ²⁾ , S. Minamikawa ¹⁾ , T. Yamamura ¹⁾ , N. Matsunoshita ³⁾ , N. Kamiyoshi ⁴⁾ , M. Ogura ⁵⁾ , H. Kaito ⁶⁾ , K. Nozu ¹⁾ , K. Kamei ⁵⁾ , K. Ishikura ⁷⁾ , K. Iijima ¹⁾ 1) Kobe University Graduate School of Medicine 2) Kakogawa Central City Hospital 3) Kita-Harima Medical Center 4) Himeji Red Cross Hospital 5) National Center for Child Health and Development 6) Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 7) Kitasato University School of Medicine

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
75	第56回日本小児アレルギー学会	ゆずジュース摂取後にアナフィラキシーを呈した10歳男子例 Cit s 1と新しいユズ抗原の発見	'19/11	千葉市	診療部 小児科 外来小児病棟	松井美樹
76	第56回日本小児アレルギー学会	エピペン® を誤注射し高血圧を呈した2例の検討	'19/11	千葉市	診療部 小児科 外来小児病棟	小山智史, 谷内昇一郎, 石森真吾, 起塚庸, 内山敬達, 南 宏尚
77	第56回日本小児アレルギー学会	当科で経験したアナフィラキシー症例の検討・二相性反応について	'19/11	千葉市	診療部 小児科 外来小児病棟	李 崇至, 谷内昇一郎, 松井美樹, 多賀陽子, 郷間 環, 榎本真宏, 西野昌光 ¹⁾ 1) 千船病院小児科
78	第56回日本小児アレルギー学会	エピペンを誤注射し高血圧を呈した2例の検討	'19/11	千葉市	診療部 小児科 外来小児病棟	小山智史, 谷内昇一郎, 石森真吾, 起塚庸, 内山敬達, 南 宏尚
79	第52回日本小児呼吸器学会	難治性気管支喘息として加療されていたびまん性汎細気管支炎 (DPB) の14歳男児例	'19/11	鹿児島市	診療部 小児科 外来小児病棟	小山智史, 石森真吾, 大西 聡, 起塚庸, 内山敬達, 南 宏尚
80	第52回日本小児呼吸器学会	乳幼児後天性声門下腔嚢胞の4例	'19/11	鹿児島市	診療部 小児科 外来小児病棟	小野あずさ, 起塚庸, 石森真吾, 内山敬達, 高成田祐希, 服部健吾 ¹⁾ , 久松千恵子 ¹⁾ , 津川二郎 ¹⁾ , 西島栄治 ¹⁾ , 南 宏尚 1) 小児外科
81	第52回日本小児呼吸器学会	小児RSV感染症に対する体外式持続陰圧換気(Continuous negative extrathoracic pressure: CNEP)の検討	'19/11	鹿児島市	診療部 小児科 外来小児病棟	石森真吾, 大西 聡, 起塚庸, 内山敬達, 南 宏尚
82	第38回大阪食物アレルギー懇話会	食物負荷試験用加熱乾燥粉末 (たまこな) の開発	'19/5	大阪市	診療部 小児科	榎本真宏, 谷内昇一郎, 西野昌光, 岡藤郁夫, 田中裕也, 笠井和子, 高松伸枝
83	高槻市教育委員会主催研修会	食物アレルギーの最近の話題	'19/5	高槻市	診療部 小児科	谷内昇一郎
84	高槻市医師会学校医師会講演会	最近の食物アレルギー話題とエピペンの適正使用について	'19/7	高槻市	診療部 小児科	谷内昇一郎
85	乳幼児健康診査に関する連絡会	乳幼児の食物アレルギーの治療～最新の知見	'19/12	高槻市	診療部 小児科	谷内昇一郎
86	第122回日本小児科学会	Advanced care planを用いたNICUにおける集中治療と緩和医療との両立について	'19/4	金沢市	診療部 新生児科	池上等, 南 宏尚, 武井安津子, 片山義規, 菊池新, 岸上 真, 長坂美和子, 田村 誠, 自見仁美, 中田有紀, 米田徳子, 松井美樹, 仲宗根瑠花
87	IPOKRa TES Japan 2019 conference	Effect of Oral Care on the Incidence of Early-Onset Ventilator-Associated Pneumonia in Preterm Infants	'19/05	高松市	診療部 新生児科	Yoshinori Katayama
88	2019 European Human Genetics Conference	Trigonocephaly associated with chromosomal abnormality	'19/06	Gothenburg, Sweden	診療部 新生児科	Miwako Nagasaka, Yuka Yotsumoto, Atsuko Harada, Tomoko Tamaoki
89	第55回日本周産期・新生児医学会学術集会	臍帯ヘルニアと心室憩室を合併した上腹部Heteropagusの1例	'19/07	松本市	診療部 新生児科	岩淵瀬怜奈, 岸上 真
90	とことん新生児セミナー2019	フォローアップ健診のコツ～発達障害を中心に	'19/09	大阪市	診療部 新生児科	武井安津子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
91	第34回日本母乳哺育学会	正期産単胎児の退院時母乳栄養に関連する周産期因子の検討	'19/09	岡山市	診療部 新生児科	菊池 新
92	第34回日本母乳哺育学会	当院NICUにおける早産児の経口哺乳確立と母乳率の検討	'19/09	岡山市	診療部 新生児科	菊池 新
93	第70回大阪小児保健研究会	本人に対する診断名の告知が適切な支援に結び付いた8才の自閉スペクトラム症の1例	'19/09	大阪市	診療部 新生児科	武井安津子
94	3rd jENS Congress of joint European Neonatal Societies	Effect of Oral Care on the Incidence of Early-Onset Ventilator-Associated Pneumonia in Preterm Infants	'19/09	Maastricht, Netherlands	診療部 新生児科	Yoshinori Katayama
95	3rd jENS Congress of joint European Neonatal Societies	Impact of Ventilator-Associated Pneumonia on the Need for Home Oxygen Therapy in Preterm Infants Born at < 26 Weeks Gestation	'19/09	Maastricht, Netherlands	診療部 新生児科	Yuki Nakata, Makoto Tamura, Miwako Nagasaka, Yoshinori Katayama
96	第32回日本新生児慢性肺疾患研究会	デキサメサゾン投与にて片側巨大嚢胞性病変の改善を認めた極低出生体重児の一例	'19/10	東京都	診療部 新生児科	長坂美和子, 西田敬弘, 池上等
97	第1回高槻病院 CLoMiPレベルⅢ認証研修	フィジカルアセスメント新生児	'19/10	高槻市	診療部 新生児科	片山義規
98	第18回日本新生児黄疸管理研究会	母乳育児を支援するための新生児黄疸の知識	'19/10	神戸市	診療部 新生児科	片山義規
99	第64回日本人類遺伝学会	当科で遺伝学的に診断を確定したCFC症候群5例の臨床像	'19/11	長崎市	診療部 新生児科	長坂美和子, 森貞直 ^{1,2)} , 飯島一誠 ¹⁾ 1) 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 2) 兵庫県立こども病院臨床遺伝科
100	The 3rd Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatology	Effect of Oral Care on the Incidence of Early-Onset Ventilator-Associated Pneumonia in Preterm Infants	'19/11	鹿児島市	診療部 新生児科	Yoshinori Katayama
101	第64回日本新生児成育医学会	急性期に重篤な神経学的合併症のない超早産児の暦3歳までの発達経過	'19/11	鹿児島市	診療部 新生児科	長坂美和子, 片山義規, 岸上 真, 菊池 新, 池上等
102	第64回日本新生児成育医学会・学術集会	超早産児における気胸の管理方法の解析	'19/11	鹿児島市	診療部 新生児科	岸上 真, 片山義規
103	第2回大阪発達障がい支援ネットワーク研究会	神経発達症の子どもをもつ家族の支援について～小児科医の立場から	'20/1	高槻市	診療部 新生児科	武井安津子
104	第41回日本小児腎不全学会	生後1か月時に拡張型心筋症に伴うショックにより末期腎不全に至り、持続血液透析導入後に腹膜透析に移行した1例	'19/6	高知市	診療部 小児科 PICU	松井美樹, 石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸
105	第27回小児集中治療ワークショップ	緊急症例に対するチームダイナミクス的重要性 ～異物による気道救急に陥った11ヶ月女児例を通して～	'19/9	大阪市	診療部 小児科 PICU	起塚 庸, 大西 聡, 李 崇至, 土居ゆみ, 田原慎太郎, 津川二郎, 岡本光正
106	第27回大阪小児科医会救急・新生児研修会	様々な呼吸補助装置	'19/9	大阪市	診療部 小児科 PICU	起塚 庸
107	第27回小児集中治療ワークショップ	当院PICU開設後に声門下腔狭窄症に対して喉頭気管部分切除・甲状軟骨気管吻合術 (partial cricotracheal resection, PCTR) を実施した15例の検討	'19/10	大阪市	診療部 小児科 PICU	藤崎拓也, 起塚 庸, 大西 聡, 篠本匡志, 高成田祐希 ¹⁾ , 服部健吾 ¹⁾ , 久松千恵子 ¹⁾ , 津川二郎 ¹⁾ , 西島栄治 ¹⁾ , 土居ゆみ ²⁾ , 南 宏尚 1) 小児外科 2) 麻酔科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
108	第54回日本小児腎臓病学会	メチシリン耐性Staphylococcus lugdunensisによるUro-sepsisに至った新生児例	'19/11	大阪市	診療部 小児科 PICU	近藤 淳, 石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸
109	第119回日本外科学会	合併症の低減を目指した腹腔鏡下噴門形成術に併施する胃瘻造設術の方法	'19/4	大阪市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治, 高見澤滋 ¹⁾ 1) 長野県立こども病院外科
110	第56回日本小児外科学会	南アフリカ Red cross war memorial children's hospital での臨床経験	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	服部健吾
111	第56回日本小児外科学会	声門下腔狭窄症に対する手術術式の検討	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	津川二郎, 渡部 彩, 服部健吾, 岡本光正, 西島栄治
112	第14回日本小児耳鼻咽喉科学会	小児の気管切開管理: 術後合併症対策と気管狭窄疾患での気管切開管理の問題点	'19/5	福岡市	診療部 小児外科	津川二郎
113	第56回日本小児外科学会	当院における小児縦隔気腫例の検討	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	田中聡志, 服部健吾, 津川二郎, 岩瀬瀬玲奈, 渡辺 彩, 岡本光正, 西島栄治
114	第56回日本小児外科学会	腫瘍形成性虫垂炎に対する待機的虫垂切除は本当に患者にとって良いのか?	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	渡部 彩, 服部健吾, 岡本光正, 津川二郎, 西島栄治
115	第56回日本小児外科学会	自生体臍帯ヘルニアの内容物に寄生体由来と考えられる腸管様構造物を認めた上腹部heteropagusの一例	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	岩瀬瀬玲奈, 服部健吾, 津川二郎, 田中聡志, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治
116	第56回日本小児外科学会	ステロイド潰瘍の穿孔が原因と考えられた新生児胃穿孔の一例	'19/5	久留米市	診療部 小児外科	銭谷成剛, 服部健吾, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治, 津川二郎
117	第33回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	思春期にストーマ再造設を行った総排泄腔外反症の1例	'19/6	岡山市	診療部 小児外科	津川二郎, 服部健吾, 根岸 睦 ¹⁾ , 西島栄治 1) 高槻病院皮膚・排泄ケア認定看護師
118	第43回大阪小児栄養消化器病懇話会	直腸模様閉鎖に原因不明の消化管通過障害を伴い腹腔鏡検査を行なった低出生体重児の一例	'19/6	大阪市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 高成田祐希, 久松千恵子, 西島栄治
119	北摂小児科疾患セミナー	小児の慢性便秘症に対する外科治療と高槻病院の便秘外来での取り組み	'19/8	豊中市	診療部 小児外科	津川二郎
120	第42回日本膵・胆管合流異常研究会	胎児診断症例に対する腹腔鏡下胆道拡張症手術: 術後に乳び腹水をきたした1例	'19/9	仙台市	診療部 小児外科	高成田祐希, 服部健吾, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治, 佐藤正人 ¹⁾ 1) 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院小児外科
121	第82回小児外科わからん会	膿胸の治療方針について ウロキナーゼ胸腔内投与の方法と, 手術の適切なタイミングとは?	'19/9	大阪市	診療部 小児外科	高成田祐希, 服部健吾, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治
122	第82回小児外科わからん会	Abdominoscrotal hydroceleに対する腹腔鏡手術 これでもいいのか?	'19/9	大阪市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 高成田祐希, 久松千恵子, 西島栄治
123	第35回日本小児外科学会秋季シンポジウム	腹部コンパートメント症候群の治療戦略としての持続陰圧閉鎖療法 新生児への適用	'19/10	大阪市	診療部 小児外科	服部健吾, 高成田祐希, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治, 高見澤 滋 ¹⁾ , Alp Numanoglu ²⁾ 1) 長野県立こども病院外科 2) Division of Pediatric Surgery, Red Cross War Memorial Children's Hospital

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
124	第30回日本小児呼吸器外科研究会	声門下嚢胞の手術術式と適応に関する検討	'19/10	大阪市	診療部 小児外科	高成田祐希, 服部健吾, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治
125	第55回日本小児外科学会近畿地方会	直腸模様閉鎖に原因不明の消化管通過障害を伴い腹空鏡検査を行なった低出生体重児の一例	'19/8	奈良市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 高成田祐希, 久松千恵子, 西島栄治
126	第55回日本小児外科学会近畿地方会	舌根部甲状舌管嚢胞の1例	'19/8	奈良市	診療部 小児外科	高成田祐希, 服部健吾, 久松千恵子, 津川二郎, 西島栄治
127	高槻病院周産期懇話会	非胆汁性嘔吐を主訴に搬送入院となった腸回転異常症の1例	'19/10	高槻市	診療部 小児外科	津川二郎
128	第30回日本小児外科QOL研究会	成人医療における小児外科の関わり-嚥下機能低下例を通じて-	'19/11	伊勢市	診療部 小児外科	久松千恵子, 高成田祐希, 服部健吾, 津川二郎, 西島栄治
129	第32回日本内視鏡外科学会	術前超音波検査は先天性横隔膜ヘルニアに対する内視鏡手術の適応基準に資するか	'19/12	横浜市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 高見澤滋 ¹⁾ 1) 長野県立こども病院
130	第36回日本呼吸器外科学会	アクアマンティス・バイポーラシステムを使用し良好な経過を得た難治性気胸の1例	'19/5	大阪市	診療部 呼吸器外科	大隈宏通, 椎名祥隆
131	第60回日本肺癌学会	診断に難渋した肺原発筋上皮腫の1例	'19/12	大阪市	診療部 呼吸器外科	大隈宏通, 椎名祥隆, 船田泰弘
132	AORTIC ASIA 2019	Siriraj Aortic Symposium-Management of infected aortic aneurysm and fistula	'19/4	Bangkok	診療部 心臓・大血管センター	Prof. Yutaka Okita
133	AORTIC ASIA 2019	Neurological outcome post aortic arch surgery	'19/4	Bangkok	診療部 心臓・大血管センター	Prof. Yutaka Okita
134	AORTIC ASIA 2019	Plenary VII-Chronic B dissection: Open repair is the gold standard	'19/4	Bangkok	診療部 心臓・大血管センター	Prof. Yutaka Okita
135	第30回日本医学会総会2019 中部	セッション 超高齢者への医療の挑戦と限界	'19/4	名古屋市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
136	The 21st South China International Congress of Cardiology (SCC)	Surgical Management for Difficult Aortic Root Infections	'19/4	Baiyun District, China	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
137	KCJL2019 近畿心血管治療ジョイントライブ2019	KCJL2019 Surgical プログラム ビデオライブ - 胸腹部大動脈瘤II型の手術手技を徹底的に学ぼう	'19/4	大阪市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
138	AATS (American Association For Thoracic Surgery) 99th Annual Meeting	Session: Aortic Root Surgery	'19/5	Toronto, Canada	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
139	AATS (American Association For Thoracic Surgery) 99th Annual Meeting	Session: Arch and Descending Aorta: Evidence Base	'19/5	Toronto, Canada	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
140	AATS (American Association For Thoracic Surgery) 99th Annual Meeting	Presentation: Open Arch Replacement Results and Techniques	'19/5	Toronto, Canada	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
141	第47回日本血管外科学会	How to be accepted by the journal?	'19/5	名古屋市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
142	第62回関西胸部外科学会	大動脈弓部置換術における脳保護法	'19/6	徳島市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
143	EACTS Aortic Valve Repair Summit	Valve-sparing aortic root reimplantation and bicuspidization in monocuspid aortic valve.	'19/6	Brussels, Belgium	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
144	The 2nd Asian Cardio-aortic Live-surgery Symposium	Total Arch Replacement -Live	'19/8	東京都	診療部 心臓・大血管センター	Dr. Yutaka Okita・Communicator: Dr. Shin Yamamoto (Kawasaki Saiwai Hospital)
145	第67回日本心臓病学会	活動性感染症心内膜炎の手術時間	'19/9	名古屋市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
146	The 51st Annual Meeting of the Korean Society for Thoracic and Cardiovascular Surgery	Role of open surgery in the era of endovascular.	'19/10	Changwon, Korea	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
147	33rd EACTS Annual Meeting	Japan made frozen elephant trunk. Multi-center trial of total arch replacement in patients with aortic arch aneurysm and dissection: J-ORCHESTRA study.	'19/10	Lisbon, Portugal	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
148	Surgery of The Thoracic Aorta TENTH POSTGRADUATE COURSE	Japan made frozen elephant trunk. Multi-center trial of total arch replacement in patients with aortic arch aneurysm and dissection: J-ORCHESTRA study.	'19/11	Bologna, Italy	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
149	Surgery of The Thoracic Aorta TENTH POSTGRADUATE COURSE	How to prevent brain embolism during aortic arch surgery.	'19/11	Bologna, Italy	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
150	AATS/JATS Aortic Symposium in Kyoto 2019	Total arch replacement from the left posterolateral thoracotomy	'19/11	Kyoto, Japan	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
151	第10回日本心臓弁膜症学会	大動脈弁尖数異常に対する手術戦略	'19/11	東京都	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕
152	第50回日本心臓血管外科学会	大動脈弁形成術の標準化: Tips & Pitfalls	'20/3	福島市	診療部 心臓・大血管センター	大北 裕, 岡 隆紀, 常深孝太郎, 川端 良
153	第62回関西胸部外科学会	尖弁による大動脈弁閉鎖不全症, 胸部大動脈瘤に対し, 自己弁温存大動脈基部再建術および弓部大動脈置換術を施行した一例	'19/6	徳島市	診療部 心臓血管外科	常深孝太郎, 岡 隆紀, 大北 裕
154	第62回関西胸部外科学会	右総頸動脈閉塞を来た Stanford A型急性大動脈解離症例に対して腕頭動脈への早期選択的灌流が奏功した1手術例	'19/6	徳島市	診療部 心臓血管外科	常深孝太郎, 川端 良, 岡 隆紀, 大北 裕
155	27th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery	The USEFULLNESS OF THE LAPAROSCOPIC OPERATIONS FOR ILEUS	'19/6	Sevilla, Spain	診療部 心臓血管外科	Kentaro Kawasaki, Riki Asakura, Kohta Yamada, Yoshiyuki Ohwada, Masayoshi Hosono, Taro Okazaki, Tetsuya Ienaga
156	第17回日本ヘルニア学会	術前診断できTAPPで修復を行った女性の膀胱ヘルニアの1例	'19/5	四日市	診療部 消化器外科	川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 坂本一喜 ¹⁾ 1) なんば坂本外科クリニック

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
157	第17回日本ヘルニア学会	交通外傷による骨盤骨折が契機となり発症した左外鼠径ヘルニアの一例	'19/5	四日市	診療部 消化器外科	細野雅義, 山田康太, 朝倉 力, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎, 家永徹也
158	第56回日本小児外科学会	自生体臍帯ヘルニアの内容物に寄生体由来と考えられる腸管様構造物を認めた上腹部 heteropagusの一例	'19/5	久留米市	診療部 消化器外科	岩瀬瀬玲奈, 服部健吾, 津川二郎, 田中聡志, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治
159	第27回ヨーロッパ内視鏡外科学会	The usefulness of the laparoscopic operations for ileus	'19/6	Barcelona, Spain	診療部 消化器外科	Kentaro Kawasaki, Riki Asakura, Kota Yamada, Yoshiyuki Owada, Masayoshi Hosono, Taro Okazaki, Tetsuya Ienaga
160	第41回日本癌局所療法研究会	UFT/LV内服療法が奏功した90歳を超えるS状結腸癌術後肝移転の1例	'19/6	岡山市	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
161	第74回日本消化器外科学会	膝癌との鑑別が困難であったIgG4関連自己免疫性膵炎の1例	'19/7	東京都	診療部 消化器外科	岡崎太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 川崎健太郎, 家永徹也
162	第55回日本周産期・新生児医学会	臍帯ヘルニアと心室憩室を合併した上腹部 heteropagusの一例	'19/7	松本市	診療部 消化器外科	岩瀬瀬玲奈, 岸上 真 ¹⁾ , 池上 等 ¹⁾ , 中田有紀 ¹⁾ , 長坂美和子 ¹⁾ , 菊池 新 ¹⁾ , 武井安津子 ¹⁾ , 片山義規 ¹⁾ , 南 宏尚 ¹⁾ , 津川二郎 ²⁾ , 西島栄治 ²⁾ 1) 小児科 2) 小児外科
163	第3回神戸肝胆膵外科ビデオクリニック	内視鏡技術認定医合格ビデオ	'19/8	神戸市	診療部 消化器外科	岡崎太郎
164	日本消化器病学会近畿支部第111回例会	診断に難渋した腹膜悪性中皮腫の一例	'19/10	大阪市	診療部 消化器外科	松田峻佑, 川崎健太郎, 細野雅義, 山田康太, 岩瀬瀬玲奈, 田中聡志, 大和田善之, 岡崎太郎, 家永徹也
165	日本消化器病学会近畿支部第111回例会	下部消化管内視鏡の前処置で、大腸癌イレウスを発症した穿孔性直腸癌の1例	'19/10	大阪市	診療部 消化器外科	林 裕之, 大和田善之, 川崎健太郎, 田中聡志, 岩瀬瀬玲奈, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
166	第81回日本臨床外科学会	3年間腹痛と嘔吐を繰り返し、巨大腫瘤として発見されたメッケル憩室の1例	'19/11	高知市	診療部 消化器外科	田中聡志, 岩瀬瀬玲奈, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
167	第81回日本臨床外科学会	小腸腫瘍が先進部となり腸重積をきたした一例	'19/11	高知市	診療部 消化器外科	岩瀬瀬玲奈, 川崎健太郎, 朝倉 力, 田中聡志, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
168	第81回日本臨床外科学会	腹腔鏡で切除した空腸異所性膵の1例	'19/11	高知市	診療部 消化器外科	石原美崎, 川崎健太郎, 朝倉 力, 岩瀬瀬玲奈, 田中聡志, 細野雅義, 大和田善之, 岡崎太郎, 家永徹也
169	第81回日本臨床外科学会	後腹膜嚢胞性中皮腫に対して腫瘍摘出術を施行した一例	'19/11	高知市	診療部 消化器外科	伊藤裕貴, 細野雅義, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
170	第81回日本臨床外科学会	盲腸軸捻転症に対し緊急回盲部切除術を施行した一例	'19/11	高知市	診療部 消化器外科	土肥周平, 朝倉 力, 細野雅義, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎, 家永徹也

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
171	第32回日本内視鏡外科学会	当院における鼠経ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術（TAPP）の有用性の検討	'19/12	横浜市	診療部 消化器外科	細野雅義, 田中聡志, 岩淵瀬怜奈, 大和田善之, 岡崎太郎, 川崎健太郎
172	第32回日本内視鏡外科学会	妊娠33週の妊婦に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した1例	'19/12	横浜市	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 細野雅義, 岡崎太郎
173	第27回日本乳癌学会総会	腫瘍径3cm以下の乳がんにおいて多発腋窩リンパ節転移を来した症例の検討	'19/7	東京都	診療部 乳腺外科	下山京子, 三成善光, 伊倉義弘
174	第27回日本乳癌学会総会	豊胸術後に発生した葉状腫瘍の術後再発と非浸潤政乳管癌の同時合併の1例	'19/7	東京都	診療部 乳腺外科	三成善光, 下山京子, 伊倉義弘, 溝口 綾
175	第47回日本小児神経外科学会	術後合併症に難渋した乳児期発症頭蓋咽頭腫の一例	'19/6	新潟市	診療部 脳神経外科	宇津木玲奈, 木本優希, 福屋章悟, 有田英之, 前野和重, 宇都宮英綱 ¹⁾ , 大西 聡 ²⁾ , 原田敦子 ³⁾ 1) 小児神経センター 2) 小児科 3) 小児脳神経外科
176	第14回小児神経放射線研究会	類皮腫と髄膜瘤を合併したRetained medullary cord の一例	'19/10	小平市	診療部 脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子 ¹⁾ , 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 岡部英俊 ²⁾ , 宇都宮英綱 ²⁾ 1) 小児脳神経外科 2) 帝京大学医学部放射線科学講座
177	第37回日本こども病院神経外科医会	類皮腫と髄膜瘤を合併したRetained medullary cord の一例	'19/11	宇部市	診療部 脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子 ¹⁾ , 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 岡部英俊 ²⁾ , 宇都宮英綱 ³⁾ 1) 小児脳外科 2) 病理診断科 3) 帝京大学医学部放射線科学講座
178	2019 SNO Annual Meeting	Prognostic role of TERT promoter mutations improves the stratification of IDH-mutated lower grade glioma.	'19/11	Phoenix, USA	診療部 脳神経外科	Hideyuki Arita, Yuko Matsushita ¹⁾ , Makoto Ohno ¹⁾ , Yohei Miyake ²⁾ , Kuniaki Saito ³⁾ , Shota Tanaka ⁴⁾ 1)Department of Neurosurgery and Neuro-Oncology, National Cancer Center Hospital 2)Saitama Medical University International Medical Center 3)Kyorin University Faculty of Medicine 4)Department of Neurosurgery, University of Tokyo
179	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会	多発性pial AVFを認めたCapillary malformation-arteriovenous malformationの一例	'19/11	福岡市	診療部 脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子 ¹⁾ , 藤永貴大, 有田英之, 前野和重 1) 小児脳神経外科
180	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会	視認性を向上するためのプラチナコーティングステントの開発	'19/11	福岡市	診療部 脳神経外科	前野和重, 藤永貴大, 宇津木玲奈, 有田英之, 堀内一臣 ¹⁾ , 渡辺善一郎 ¹⁾ , 渡邊一夫 ¹⁾ 1) 総合南東北病院 脳神経外科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
181	第37回日本脳腫瘍学会	IDH変異型腫瘍におけるTERT変異の分子マーカーとしての意義の検討	'19/12	七尾市	診療部 脳神経外科	有田英之, 大野 誠 ¹⁾ , 中村大志 ²⁾ , 中村大志 ³⁾ , 田中將太 ⁴⁾ , ほか 1) 関西中枢神経腫瘍分子 診断ネットワーク 2) 横浜市立大学脳神経外 科 3) 東京大学脳神経外科 4) 埼玉医科大学国際医療 センター脳脊髄腫瘍科
182	3rd Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery	Usefulness of MRI Scan for Diagnosing Child Head Trauma	'19/5	Incheon, Korea	診療部 小児脳神経外科	Yuki Kimoto, Reina Utsugi, Kazushige Maeno, Yo Okizuka, Hidetsuna Utsunomiya, Atsuko Harada
183	第39回日本脳神経外科コンgres総会	頭蓋縫合早期癒合症に対する手術手技	'19/5	横浜市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 久徳茂雄 ¹⁾ 1) 市立奈良病院再建形成外科
184	第61回日本小児神経学会	小児科医のための神経画像2019 脳形成とその異常 画像所見が類似する奇形とその鑑別診断	'19/5	名古屋市	診療部 小児脳神経外科	宇都宮英綱
185	第47回日本小児神経外科学会	当院における脊髄髄膜瘤の診断, 治療, 機能予後の現状	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 宇津木玲奈 ¹⁾ , 木本優希 ¹⁾ , 有田英之 ¹⁾ , 前野和重 ¹⁾ , 宇都宮英綱 ²⁾ 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター
186	第47回日本小児神経外科学会	当院小児頭部外傷におけるMRIの有用性における脊髄髄膜瘤の診断, 治療, 機能予後の現状	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	木本優希 ¹⁾ , 宇津木玲奈 ¹⁾ , 有田英之 ¹⁾ , 前野和重 ¹⁾ , 宇都宮英綱 ²⁾ , 原田敦子 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター
187	第47回日本小児神経外科学会	術後合併症に難渋した乳児期発症頭蓋咽頭腫の一例	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 木本優希, 福屋章悟, 有田英之, 前野和重, 宇都宮英綱 ¹⁾ , 大西 聡 ²⁾ , 原田敦子 ³⁾ 1) 小児神経センター 2) 小児科 3) 小児脳神経外科
188	第36回日本二分脊椎研究会	当院における成人二分脊椎患者の現状	'19/7	仙台市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 阪本大輔 ¹⁾ , 山中 巧 ²⁾ , 北野元裕 ³⁾ , 百瀬 均 ⁴⁾ 1) 兵庫医科大学脳神経外 科 2) 京都府立医大脳神経外 科 3) 大阪医療センター整形 外科 4) 星が丘医療センター泌 尿器科
189	第15回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後のヘルメット治療の適応	'19/7	府中市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 久徳茂雄 ¹⁾ , 高松亜子 ²⁾ , 金子 剛 ²⁾ , 上田晃一 ³⁾ 1) 市立奈良病院再建形成外科 2) 国立成育医療研究センター形成外科 3) 大阪医科大学形成外科
190	第15回Craniosynostosis研究会	骨切り術を行わなかった多縫合症の一例	'19/7	府中市	診療部 小児脳神経外科	中村夏樹, 宇津木玲奈, 原田敦子, 久徳茂雄 ¹⁾ , 上田晃一 ²⁾ 1) 市立奈良病院再建形成外科 2) 大阪医科大学形成外科
191	第15回Craniosynostosis研究会	頭位性斜頭との鑑別が困難であった片側ラムダ縫合早期癒合症の一例	'19/7	府中市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 久徳茂雄 ¹⁾ , 上田晃一 ²⁾ 1) 市立奈良病院再建形成外科 2) 大阪医科大学形成外科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
192	第78回日本脳神経外科学会	当院における二分脊椎患者の移行期医療	'19/10	大阪市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 藤永貴大 ¹⁾ , 宇津木玲奈 ¹⁾ , 有田英之 ¹⁾ , 前野和重 ¹⁾ , 阪本大輔 ²⁾ , 山中 巧 ³⁾ , 北野元裕 ⁴⁾ , 百瀬 均 ⁵⁾ 1) 脳神経外科 2) 兵庫医科大学脳神経外科 3) 京都府立医科大学脳神経外科 4) 大阪医療センター整形外科 5) 星が丘医療センター泌尿器科
193	第66回日本小児神経学会 近畿地方会	偶発的に認めた頭蓋骨腫瘍性病変から McCune-Albright症候群を疑った12歳男児 例	'19/10	大阪市	診療部 小児脳神経外科	土肥周平, 宇津木玲奈, 大西 聡 ¹⁾ , 石森真吾 ¹⁾ , 起塚 庸 ¹⁾ , 伊倉義弘 ²⁾ , 玉置知子 ³⁾ , 原田敦子 ³⁾ 1) 小児科 2) 病理診断科 3) 遺伝医療部門
194	第14回小児神経放射線研究会	類皮腫と髄膜瘤を合併したRetained medullary cordの一例	'19/10	小平市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 岡部英俊, 宇都宮英綱
195	第37回日本こども病院神経外科 医会	類皮腫と髄膜瘤を合併したRetained medullary cordの一例	'19/11	宇部市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 岡部英俊, 宇都宮英綱
196	第26回日本神経内視鏡学会	乳児における脳室内嚢胞に対する内視鏡 的開窓術	'19/11	横浜市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 宇津木玲奈 ¹⁾ , 藤永貴大 ¹⁾ , 有田英之 ¹⁾ , 前野和重 ¹⁾ , 西山健一 ²⁾ 1) 脳神経外科 2) 新潟医療センター脳神経外科
197	第12回日本水頭症脳脊髄液学会	硬膜下腹腔シャント術後にpericatheter cystを形成した一例	'19/11	東京都	診療部 小児脳神経外科	大熊尚美, 宇津木玲奈, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重, 宇都宮英綱 ¹⁾ , 原田敦子 1) 帝京大学放射線科学講座
198	ミシガン頭蓋骨形状矯正ヘル メット フォローアップ研修	当院におけるヘルメット治療の現状と問 題点	'19/11	東京都	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
199	第35回NPO法人日本脳神経血 管内治療学会	多発性pial AVFを認めたCapillary malformation-arteriovenous malformationの一例	'19/11	福岡市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子 ¹⁾ , 藤永貴大, 有田英之, 前野和重 1) 小児脳神経外科
200	第43回日本脳神経外傷学会 (誌上開催)	2歳未満の頭蓋骨骨折の検討 特別企画	'20/3	箱根町	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 木本優希, 宇津木玲奈, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重
201	第43回日本脳神経外傷学会 (誌上開催)	小児頭蓋骨骨折の臨床像 (一般口演)	'20/3	箱根町	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 藤永貴大, 宇津木玲奈, 有田英之, 前野和重, 宇都宮英綱, 原田敦子
202	第132回中部日本整形外科災 害外科学会	Fixed Lateral Oxford (FLO) UKAの使用 経験-特に大腿骨外側顆部との適合性に関 して	'19/4	津市	診療部 整形外科	平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一
203	第132回中部日本整形外科災 害外科学会・学術集会	両側同時TKAとmobile bearing UKAを施行 した症例の術後可動域の比較	'19/4	津市	診療部 整形外科	平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一
204	第132回中部日本整形外科災 害外科学会・学術集会	内側型変形性膝関節症に対する人工膝関 節置換術の短期治療成績の検討 TKA vs UKA	'19/4	津市	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 藤田雅広, 飛田祐一, 岡本剛治, 平中崇文
205	第132回中部日本整形外科災 害外科学会・学術集会	両側同時TKAとmobile bearing UKAを施行 した症例の術後可動域の比較	'19/4	津市	診療部 整形外科	平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
206	第132回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	専門医獲得のための取り組み 当院における整形外科研修の試み	'19/4	津市	診療部 整形外科	平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一
207	The 16th Hong Kong International Orthopaedic Forum	Oxford UKA in Japan - result better than fixed bearing UKA?	'19/4	Hong Kong	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
208	The 16th Hong Kong International Orthopaedic Forum	Unicompartmental knee replacement: Asia's perspective	'19/4	Hong Kong	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
209	第92回日本整形外科学会学術総会	人工膝単顆置換術における残存前十字靭帯機能が術後患者立脚型評価に与える影響	'19/5	横浜市	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 西田亮太, 尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 藤田雅広, 藤代高明, 岡本剛治, 箱木知也
210	20th Congress of the European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFORT2019)	Accuracy and Learning Curve of The Accelerometer-Based Portable Computer Navigation in Total Hip Arthroplasty using Anterolateral Supine Approach: A Single-Surgeon Series	'19/6	Lisbon, Portugal	診療部 整形外科	Takaaki Fujishiro, Takafumi Hiranaka, Shingo Hashimoto ¹⁾ , Shinya Hayashi ¹⁾ , Ryosuke Kuroda ¹⁾ 1)Department of Orthopaedic Surgery Kobe University Graduate School of Medicine
211	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	改良型 subvastus approach (under vastus approach) の工夫-関節包の完全修復法	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka, Yuichi Hida, Takaaki Fujishiro, Masahiro Fujita, Kyohei Takase, Yuma Onoi, Ryota Nishida, Koji Okamoto
212	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	変形性膝関節症に対する脂肪組織由来再生幹細胞 (ADRC) の短期治療成績 (Short-term Clinical Outcomes and Second-Look Arthroscopic Findings of Cartilage after Administration of Adipose-Derived Regenerative Cells (ADRCs) in Knee Osteoarthritis) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Onoi Yuma, Fujita Masahiro, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki, Hiranaka Takafumi
213	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	脛骨の外側壁は脛骨の前後軸の信頼できる指標である (The lateral tibial wall is a reliable bony landmark for both coronal and sagittal alignment of knee arthroplasties) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Hiranaka Takafumi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki, Fujita Masahiro, Takase Kyohei, Onoi Yuma, Nishida Ryota, Okamoto Koji
214	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	UKAはTKAより術後膝が本当によく曲がるのか? (第一報) 同一患者での比較 (Unicompartmental knee arthroplasty leads to a greater postoperative flexion angle compared to total knee arthroplasty: a comparison between knees in individual patients) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Nagata Naosuke, Hiranaka Takafumi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki, Fujita Masahiro, Takase Kyohei, Onoi Yuma, Nishida Ryota, Okamoto Koji
215	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	UKAはTKAより術後膝が本当によく曲がるのか? (第二報) 異なる患者での比較 (Unicompartmental knee arthroplasty leads to a greater postoperative flexion angle compared to total knee arthroplasty: a comparison between patients) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Anjiki Kensuke, Hiranaka Takafumi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki, Fujita Masahiro, Takase Kyohei, Onoi Yuma, Nishida Ryota, Okamoto Koji
216	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	脛骨大腿関節と外側人工膝単顆置換術の関係性 (Relationship between patellofemoral joint and lateral unicompartmental knee arthroplasty) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Fujita Masahiro, Hiranaka Takafumi, Onoi Yuma, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
217	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	脛骨成分の回転アライメントは外側人工膝関節片側置換術 (UKA) の転帰に影響を及ぼすのか (Does the rotational alignment of the tibia component influence the outcome of lateral unicompartmental knee arthroplasty?) (英語)	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	Mai Brang, Hiranaka Takafumi, Fujita Masahiro
218	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	外側人工膝単顆置換術の術後短期成績	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 尾ノ井勇磨, 藤田雅広, 藤代高明
219	第45回日本骨折治療学会	ハンズオンセミナー2 「TresLockを用いた大腿骨頸部・頸基部骨折に対する骨接合術」	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
220	第45回日本骨折治療学会	当院における逆行性髄内釘を用いた高齢者大腿骨遠位部骨折の治療成績	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	安喰健祐, 脇 貴洋, 黒島康平, 矢野智則, 松島真司
221	第45回日本骨折治療学会	TresLock-a novel implant for hip fractureurs Concept of development and postoperative 3D-CT analysis	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
222	第45回日本骨折治療学会	大腿骨頸部骨折に対する Dual SC Screw	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
223	第45回日本骨折治療学会	ハンズオンセミナー2 TresLock を用いた大腿骨頸部・頸基部骨折に対する骨接合術	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
224	眉山学術シンポジウム	特別講演1. 当院における人工股関節手術と静脈血栓塞栓症対策	'19/8	徳島市	診療部 整形外科	藤代高明
225	Zimmer Biomet Institute Total Knee Replacement Workshop	Current developments in Total Knee Arthroplasty	'19/10	Ho Chi Minh City, Vietnam	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
226	Zimmer Biomet Institute Total Knee Replacement Workshop	How to Extend Longevity in TKA	'19/10	Ho Chi Minh City, Vietnam	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
227	Zimmer Biomet Institute Total Knee Replacement Workshop	Development in Total Knee Arthroplasty & Technical Tips for Total Knee Arthroplasty	'19/10	Ho Chi Minh City, Vietnam	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
228	Zimmer Biomet Institute Total Knee Replacement Workshop	Live Surgery Demonstration: Why the New Knee? (Persona-1 case)	'19/10	Ho Chi Minh City, Vietnam	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka, Tran Dang Khoa (Chief of Lower Limb Department, Hospital for Traumatology & Orthopaedics)
229	Mobile UKA Cadaver Workshop Agenda	Introduction Indications and Contraindications of Mobile UKA, Surgical Pearls of component placement in coronal plane Radiographic Findings Mobile UKA in SONK patients: Surgical Tips and guidelines Complication management Surgical Techniques: Pearls and Pitfalls	'19/10	台中, 台湾	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka
230	茨木市医師会学術勉強会	人工関節手術 Up to Date	'19/10	茨木市	診療部 整形外科	平中崇文

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
231	第46回日本股関節学会	同一術者によるALS approachを用いたTHAにおけるステム挿入に伴う合併症の検討	'19/10	宮崎市	診療部 整形外科	藤代高明, 平中崇文, 岡本剛治, 田中聡一, 橋本慎吾 ¹⁾ , 林 申也 ¹⁾ , 黒田良祐 ¹⁾ 1) 神戸大学大学院医学系 研究科・外科系講座・整形 外科
232	第50回日本人工関節学会	腸骨大腿靭帯および恥骨大腿靭帯を温存した人工股関節全置換術における脚長およびオフセットの検討	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	藤代高明, 平中崇文, 田中聡一, 橋本慎吾 ¹⁾ , 林 申也 ¹⁾ , 黒田良祐 ¹⁾ 1) 神戸大学大学院整形外 科
233	第50回日本人工関節学会	Oxford mobile bearing UKAにおける大腿骨コンポーネントの設置位置への髓内ロッドの影響	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	田中聡一, 平中崇文, 琴浦 健, 北澤大也, 長田尚介, 安喰健祐, 藤代高明, 岡本剛治
234	第50回日本人工関節学会	人工膝関節全置換術施行例における前十字靭帯と外側脛骨大腿関節軟骨の状態についての検討	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	琴浦 健, 平中崇文, 田中聡一, 藤代高明, 安喰健祐, 長田尚介, 北澤大也, 岡本剛治
235	第50回日本人工関節学会	Oxford Cementless UKA術後脛骨骨折と脛骨形状との関係における多施設研究	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文, 吉田研二郎 ¹⁾ , 道下和彦 ²⁾ , 西村岳洋 ³⁾ , 新田真吾 ⁴⁾ , 高柴賢一郎 ⁵⁾ , 吉川 遼 1) 整形外科吉田クリニック 2) 地域医療機能推進機構 湯河原病院 整形外科 3) 市立吹田市民病院 整 形外科 4) あんしん会あんしん病 院 整形外科 5) 相生会福岡みらい病院 人工関節センター
236	第50回日本人工関節学会	外側単顆型人工膝関節置換術における脛骨の垂直方向の骨切り位置と膝蓋腱との関係	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	北澤大也, 琴浦 健, 長田尚介, 安喰健祐, 田中聡一, 藤代高明, 岡本剛治, 平中崇文
237	第50回日本人工関節学会	単顆型人工膝関節置換の術後可動域は術前可動域やその他術前因子から予測できるか	'20/2	福岡市	診療部 整形外科	安喰健祐, 琴浦 健, 北澤大也, 長田尚介, 田中聡一, 藤代高明, 岡本剛治, 平中崇文
238	第53回日本臨床腎移植学会	移植腎生検の276件の検討	'19/4	東京都	診療部 腎移植科	客野宮治, 今村亮一 ¹⁾ , 阿部豊文 ¹⁾ , 高原史郎 ²⁾ , 右梅貴信 ³⁾ 1) 大阪大学医学部泌尿器 科 2) 関西メディカル病院腎 センター 3) 高槻病院泌尿器科
239	第118回日本皮膚科学会	初診時, 蜂窩織炎との鑑別が困難であった壊死性筋膜炎の5例	'19/6	名古屋市	診療部 皮膚科	大桑慎子, 菊澤亜夕子, 高山恵律子, 筒美貴彦 ¹⁾ , 瀬戸英伸 1) 総合内科
240	第43回日本小児皮膚科学会	幼児に生じた上肢帯状疱疹の1例	'19/7	さいたま市	診療部 皮膚科	菊澤亜夕子, 大桑慎子, 瀬戸英伸
241	第70回日本皮膚科学会中部支部	急速な転機で死亡したAeromonas caviaeによる壊死性軟部組織感染症の1例	'19/10	金沢市	診療部 皮膚科	菊澤亜夕子, 大桑慎子, 瀬戸英伸
242	第140回近畿産科婦人科学会	妊孕性温存療法を受けた子宮体癌患者の分娩時子宮摘出について考える 帝切時に腹腔内への再発が確認された1例	'19/6	大阪市	診療部 産婦人科	加藤大樹, 大石哲也, 柴田貴司, 神谷亮雄, 西川茂樹, 中後 聡, 小辻文和

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
243	第140回近畿産科婦人科学会	Swansea Criteriaで判断したAFLPの2例 数日続く消化器症状は要注意	'19/6	大阪市	診療部 産婦人科	中後 聡, 徳田妃里, 飯塚徳昭, 柴田貴司, 細野佐代子, 神谷亮雄, 福岡泰教, 西川茂樹, 小寺知揮, 加藤大樹, 大石哲也, 小辻文和
244	第140回近畿産科婦人科学会	胎盤早期剥離における羊水腔内出血の発 症機序	'19/6	大阪市	診療部 産婦人科	神谷亮雄, 中後 聡, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 飯塚徳昭, 小辻文和
245	第140回近畿産科婦人科学会	イブニングセミナー2 「帝王切開」 (1) 帝王切開の歴史～先人の偉業を偲び 今を思う～	'19/6	大阪市	診療部 産婦人科	小辻文和
246	第61回日本婦人科腫瘍学会	子宮平滑筋肉腫9例の転帰	'19/7	新潟市	診療部 産婦人科	大石哲也, 飯塚徳昭, 小寺知揮, 細野佐代子, 柴田貴司, 加藤大樹
247	第61回日本婦人科腫瘍学会	子宮体部病変を伴い原発性子宮内膜癌を 模倣した子宮頸部胃型腺癌の1例	'19/7	新潟市	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 小寺知揮, 細野佐代子, 柴田貴司, 加藤大樹, 大石哲也
248	第61回日本婦人科腫瘍学会	妊孕性温存後の子宮体癌患者の分娩時子 宮摘出について考える — 帝切時に腹腔内再発を確認した1例—	'19/7	新潟市	診療部 産婦人科	加藤大樹, 大石哲也, 柴田貴司, 神谷亮雄, 西川茂樹, 中後 聡, 小辻文和
249	第55回日本周産期・新生児医 学会	Swansea Criteriaを用いた急性妊娠脂肪 肝の診療経験～数日続く消化器症状は要 注意	'19/7	松本市	診療部 産婦人科	中後 聡, 徳田妃里, 柴田貴司, 細野佐代子, 福岡泰教, 西川茂樹, 小寺知揮, 大石哲也, 小辻文和
250	第32回日本内視鏡外科学会	卵管・子宮頸管同時妊娠の一例～治療方 針選択における考え方	'19/12	横浜市	診療部 産婦人科	加藤大樹, 小寺知揮, 舟田里奈
251	第42回日本産婦人科手術学会 第8回日本婦人科ロボット手 術学会	私たちの行うNTR: “恥骨脛部筋膜巻出し 法”は臍尖部の吊り上げは不要である	'20/2	京都市	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和
252	第42回日本産婦人科手術学会 第8回日本婦人科ロボット手 術学会	直腸陰瘻・第4度会陰裂傷の修復～骨盤臓 器脱の後陰壁形成を応用する手技～	'20/2	京都市	診療部 産婦人科	小辻文和, 大石哲也
253	第73回日本臨床眼科学会	多焦点眼内レンズ Mixed EDoFの有効性	'19/10	京都市	診療部 眼科	清水一弘, 宮本麻起子, 丸山会里, 許勢文誠, 奥田吉隆, 渡邊浩子, 池田恒彦 ¹⁾ 1) 大阪医科大学
254	27th ISMRM Annual Meeting & Exhibition	Imaging for Surgery, Focal Therapy & Radiation Treatment Planning	'19/5	Montreal, Canada	診療部 放射線イ メージン グリサー チセン ター	Satoru Takahashi
255	第24回日本心臓血管麻酔学会	冠動脈肺動脈瘻に対してCABG施行後、LAD の閉塞を来し、再度CABGを施行した一例	'19/9	京都市	診療部 麻酔科	原田みどり, 小野嘉史, 田原慎太郎, 三宅隆一郎, 中島正順
256	第65回関西支部学術集会	特発性血小板減少性紫斑病を合併した妊 婦において、免疫グロブリン製剤併用の 血小板輸血にも関わらず血小板数の改善 が乏しかった症例	'19/9	大阪市	診療部 麻酔科	三島洋輝, 西田隆也, 原田みどり, 田原慎太郎, 中島正順
257	第13回北大阪先天性心疾患 フォーラム	講演1: 先天性心疾患児の心臓カテーテル 検査 ～麻酔科医による全身麻酔?	'19/9	高槻市	診療部 麻酔科	土居ゆみ
258	2019 Annual Meeting of the American Society of Anesthesiologists	Spurious Hyperchloremia in Surgery Due To Potassium Bromide	'19/10	Orland, USA	診療部 麻酔科	Yumi Doi
259	第25回日本小児麻酔学会	乳児の喉頭微細術に対するプロポフォール による自発呼吸温存全静脈麻酔	'19/11	米子市	診療部 麻酔科	中山莉子, 土居ゆみ, 齊藤健一, 棚田和子, 丸川愛子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
260	第47回小児神経外科学会	選択性緘黙を伴う失語症を呈した5歳児に対する言語療法士の関わり	19/06	新潟市	診療部 リハビリ テーション 科	俵屋章則, 櫻 篤
261	第47回小児神経外科学会	障害受容が困難であったため理学療法介入に難渋した重度片麻痺の8歳女児例	19/06	新潟市	診療部 リハビリ テーション 科	山崎元晴, 櫻 篤
262	第25回心臓リハビリテーション学術集会	術前栄養状態が術後心リハに及ぼす影響	19/07	大阪市	診療部 リハビリ テーション 科	清水和也, 櫻 篤
263	第31回大阪府理学療法学術大会	臥位用自転車エルゴメーター使用時の膝伸展角度の違いが下肢筋活動に及ぼす影響	19/07	大阪市	診療部 リハビリ テーション 科	堀 草太, 櫻 篤
264	第5回日本呼吸ケアリハビリテーション学会近畿支部	酸素療法下での運動療法と電気刺激療法が奏功した高齢Ⅱ型呼吸不全患者の一例	19/07	神戸市	診療部 リハビリ テーション 科	山田美穂, 櫻 篤
265	第3回日本脳神経外科認知症学会シンポジウム	認知症の非薬物療法	19/09	つくば市	診療部 リハビリ テーション 科	櫻 篤
266	第4回日本心臓血管管理学療法学術大会	当院心不全患者の早期歩行開始が及ぼす影響の検討	19/09	宜野湾市	診療部 リハビリ テーション 科	丸本翔馬, 櫻 篤
267	第78回日本脳神経外科学会	サルコペニアと認知症	19/10	大阪市	診療部 リハビリ テーション 科	櫻 篤
268	第7回日本運動器理学療法学術大会	人工膝関節置換術後テーピング治療の効果検証	19/10	岡山市	診療部 リハビリ テーション 科	向井拓也, 櫻 篤
269	第2回がん理学療法部門研究会	脳転移による右片麻痺及び腫瘍の左房内浸潤を認めた肺癌患者に対する理学療法法の一例	19/10	さいたま市	診療部 リハビリ テーション 科	井上知哉, 櫻 篤
270	第38回日本認知症学会学術集会シンポジウム	脳神経外科と認知機能障害 “水頭症, 頭部外傷, 脳血管障害と関係する認知症と脳神経外科”	19/11	東京都	診療部 リハビリ テーション 科	櫻 篤
271	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	当院初期もの忘れ外来を受診した高齢女性における社会的フレイルについて-居住世帯と社会的孤立の関連-	19/11	新潟市	診療部 リハビリ テーション 科	村川佳太, 櫻 篤
272	第29回呼吸ケアリハビリテーション学会	人工呼吸器装着患者に対する鎮痛・鎮静プロトコルの効果	19/11	名古屋市	診療部 リハビリ テーション 科	清水和也, 櫻 篤
273	第29回呼吸ケアリハビリテーション学会	人工呼吸器装着患者におけるせん妄発症が及ぼす影響	19/11	名古屋市	診療部 リハビリ テーション 科	石本恵一, 櫻 篤
274	第3回日本リハビリテーション医学会 秋季学術大会	当院婦人科癌患者における長期入院患者の特性と関連因子の検討	19/11	静岡市	診療部 リハビリ テーション 科	井上知哉, 櫻 篤
275	第6回日本小児理学療法学会学術大会	在宅人工呼吸器を導入した児への自宅退院に向けた理学療法士の役割-医療的ケアの高い重症児が家族と自宅で生活するために-	19/11	福岡市	診療部 リハビリ テーション 科	山崎元晴, 櫻 篤

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
276	第10回日本腎臓リハビリテーション学術集会	外来透析患者への運動療法の効果の検証	'20/02	東京都	診療部 リハビリ テーショ ン科	本郷裕士, 櫻 篤
277	第8回日本脳神経HAL研究会	人工膝関節置換術後の身体機能, 動作能力に対してロボットスーツHAL®単関節タイプを用いた効果	'20/02	太宰府市	診療部 リハビリ テーショ ン科	堀江知穂, 櫻 篤
278	第4回日本心臓リハビリテーション学会 近畿地方会	ICU-AWと不整脈により心リハに難渋した心筋梗塞後の心破裂症例	'20/02	神戸市	診療部 リハビリ テーショ ン科	竹本堅一, 櫻 篤
279	第9回日本がんリハビリテーション研究会	当院における骨転移キャンサーボードの現状把握と検討	'20/02	名古屋市	診療部 リハビリ テーショ ン科	藤崎あずさ, 櫻 篤
280	第47回日本集中治療医学会学術集会	当院PICUでの離床と運動機能の回復との関係	'20/03	名古屋市	診療部 リハビリ テーショ ン科	飯塚崇仁, 櫻 篤
281	第47回日本集中治療医学会学術集会	人工呼吸器装着患者に対する複数人介入の効果	'20/03	名古屋市	診療部 リハビリ テーショ ン科	清水和也, 櫻 篤
282	第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	ストーマ周囲のヘルニア様腹部膨隆における3つの管理困難因子	'19/5	奈良市	看護部 リソース ナース室	根岸 睦
283	第33回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	新生児集中治療室 (NICU) ・新生児治療回復室 (GCU) に入院する児の, 医療関連機器圧迫創傷発生の実態調査	'19/6	岡山市	看護部 リソース ナース室	根岸 睦
284	第33回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	思春期にストーマ再造設を行った総排泄腔外反症の1例	'19/6	岡山市	看護部 リソース ナース室	根岸 睦
285	第47回日本小児神経外科学会学術集会	脊髄髄膜瘤患児の神経因性膀胱に対して導尿指導確立に向けたGCUの取り組み	'19/6	新潟市	看護部 GCU看護科	富満聡子
286	第55回日本小児循環器学会・学術集会	当院における小児心臓カテーテル検査の現状と課題	'19/6	札幌市	看護部 PICU看護科	藤見絵理
287	第6回日本手術看護学会近畿地区大会	ベテラン看護師の外回り看護ケアの構成要素	'19/6	奈良市	看護部 手術室・ 中材看護科	三宅 智
288	第64回日本透析学会学術集会	透析患者の体重管理に関する体験～子どもを抱えて調子を余儀なくされた男性患者について～	'19/6	横浜市	看護部 血液浄化 センター 看護科	辻 あけみ
289	第11回日本子ども虐待医学会学術集会	アトピー性皮膚炎の憎悪を繰り返したネグレクトの1事例～社会的入院の課題と支援～	'19/7	函館市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
290	京都腹膜透析地域連携の会勉強会	外来で出会う気になる親子「よくある体重増加不良」	'19/8	札幌市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
291	日本小児看護学会第29回学術集会	入院時支援加算・入退院支援加算を取るための工夫	'19/8	札幌市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
292	第69回日本病院学会	人工膝関節患者の術前から退院に至るまでの心理的变化	'19/8	札幌市	看護部 8階南病棟 看護科	不動紫織
293	第69回日本病院学会	急性期病棟におけるAYA世代の終末期看護に対する看護師が抱える倫理的ジレンマ	'19/8	札幌市	看護部 5階南病棟 看護科	塚本友恵

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
294	第23回日本看護管理学会学術集会	より患者に寄り添うことができる看護提供体制の検討～「固定チームナーシング+部屋別受持ち」への体制変更による効果～	'19/8	新潟市	看護部 8階東病棟 看護科	大澤繭子
295	第29回日本外来小児科学会年次集会	電話相談で救急車要請を案内した事例対応の分析～2017年度大阪府小児救急電話相談の報告より～	'19/8	福岡市	看護部 救急センター看護科	山崎祐嗣
296	第27回小児集中治療ワークショップ	最重症の被虐待児ケアの特殊性と課題	'19/10	大阪市	看護部 リソース ナース室	久保田美幸
297	第20回大阪病院学会	小児における院内トリアージが外観評価の実態と今後の課題	'19/10	大阪市	看護部 救急センター看護科	大村亜衣里
298	第20回大阪病院学会	タイのサミティヴェート病院での活動	'19/10	大阪市	看護部 看護部長室	川上一美
299	第20回大阪病院学会	手指消毒薬使用量から看護実践者と看護管理者の感染管理行動について考える	'19/10	大阪市	看護部 感染対策室	鳴美英智
300	第7回大阪府看護学会	PICU内における末梢点滴固定法変更に伴う前後比較	'19/12	大阪市	看護部 PICU看護科	藤見絵理
301	日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会	子ども虐待における看護師の教育Part II 院内における看護師の役割	'19/12	神戸市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
302	第15回関西キヤノンCTユーザー会	ユーザー発表「不整脈に対するカテーテルアブレーション術前CT」	'19/9	大阪市	技術部 放射線不整脈センター	伊澤一郎
303	Kansai Comprehensive Cardiac Imaging 3rd meeting	第2部講演「不整脈に対するカテーテルアブレーションにCT画像を活かす」	'19/9	大阪市	技術部 放射線不整脈センター	伊澤一郎
304	第58回日本臨床細胞学会秋期大会	当院で遭遇した乳腺分泌癌の2例	'19/11	岡山市	技術部 検査科	仲谷武史
305	第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	冠動脈バイパス手術後の透析患者の血液透析とリハビリテーション	'20/2	東京都	技術部 臨床工学科	前田美由紀
306	第47回小児神経外科学会	障害受容が困難であったため理学療法介入に難渋した重度片麻痺の8歳女児例	'19/6	新潟市	技術部 リハビリテーション科	山崎元晴
307	第47回小児神経外科学会	選択性緘黙を伴う失語症を呈した5歳児に対する言語療法士の関わり	'19/6	新潟市	技術部 リハビリテーション科	俵屋章則
308	第31回大阪府理学療法学術大会	臥位用自転車エルゴメーター使用時の膝伸展角度の違いが下肢筋活動に及ぼす影響	'19/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	堀 草太
309	第25回心臓リハビリテーション学術集会	術前栄養状態が術後心リハに及ぼす影響	'19/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	清水和也
310	第5回日本呼吸ケアリハビリテーション学会近畿支部	酸素療法下での運動療法と電気刺激療法が奏功した高齢II型呼吸不全患者の一例	'19/7	神戸市	技術部 リハビリテーション科	山田美穂
311	第4回日本心臓血管管理学療法学術大会	当院心不全患者の早期歩行開始が及ぼす影響の検討	'19/9	宜野湾市	技術部 リハビリテーション科	丸本翔馬

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
312	第7回日本運動器理学療法学会	人工膝関節置換術後テーピング治療の効果検証	'19/10	岡山市	技術部 リハビリ テーション 科	向井拓也
313	第2回がん理学療法部門研究会	脳転移による右片麻痺及び腫瘍の左房内浸潤を認めた肺腺癌患者に対する理学療法法の一例	'19/10	さいたま市	技術部 リハビリ テーション 科	井上知哉
314	第29回呼吸ケアリハビリテーション学会	人工呼吸器装着患者に対する鎮痛・鎮静プロトコルの効果	'19/11	名古屋市	技術部 リハビリ テーション 科	清水和也
315	第29回呼吸ケアリハビリテーション学会	人工呼吸器装着患者におけるせん妄発症が及ぼす影響	'19/11	名古屋市	技術部 リハビリ テーション 科	石本恵一
316	第3回日本リハビリテーション医学会 秋季学術大会	当院婦人科癌患者における長期入院患者の特性と関連因子の検討	'19/11	静岡市	技術部 リハビリ テーション 科	井上知哉
317	第6回日本小児理学療法学会学術大会	在宅人工呼吸器を導入した児への自宅退院に向けた理学療法士の役割—医療的ケアの高い重症児が家族と自宅で生活するために—	'19/11	福岡市	技術部 リハビリ テーション 科	山崎元晴
318	第34回大阪府作業療法士学会	自閉症スペクトラムをもちキランバレー症候群を発症した患者に対して、趣味的活動を通して、車椅子座位での経口摂取に繋がった症例	'19/12	狭山市	技術部 リハビリ テーション 科	渡辺佳那栄
319	第34回大阪府作業療法士学会	孫へのプレゼント作りが生活意欲の向上に寄与した症例	'19/12	狭山市	技術部 リハビリ テーション 科	高井満里奈
320	第6回日本サルコペニア・フレイル学会	当院初期もの忘れ外来を受診した高齢女性における社会的フレイルについて—居住世帯と社会的孤立の関連—	'19/11	新潟市	技術部 リハビリ テーション 科	村川佳太
321	第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	外来透析患者への運動療法の効果の検証	'20/2	東京都	技術部 リハビリ テーション 科	本郷裕士
322	第47回日本集中治療医学会学術集会	当院PICUでの離床と運動機能の回復との関係	'20/3	名古屋市	技術部 リハビリ テーション 科	飯塚崇仁
323	第47回日本集中治療医学会学術集会	人工呼吸器装着患者に対する複数人介入の効果	'20/3	名古屋市	技術部 リハビリ テーション 科	清水和也
324	第8回日本脳神経HAL研究会	人工膝関節置換術後の身体機能、動作能力に対してロボットスーツHAL®単関節タイプを用いた効果	'20/2	福岡市	技術部 リハビリ テーション 科	堀江知穂
325	第4回日本心臓リハビリテーション学会 近畿地方会	ICU-AWと不整脈により心リハに難渋した心筋梗塞後の心破裂症例	'20/2	京都市	技術部 リハビリ テーション 科	竹本堅一
326	第9回日本がんリハビリテーション研究会	当院における骨転移カンサーボードの現状把握と検討	'20/2	名古屋市	技術部 リハビリ テーション 科	藤崎あずさ
327	第10回日本腎臓リハビリテーション学会 学術集会	栄養食事指導を中心に腎臓リハビリカンファレンスに参加して	'20/2	東京都	技術部 栄養管理 科	伴 真澄

論文発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	Intern Med.	Impact of the Hospitalist System in Japan on the Quality of Care and Healthcare Economics.	58(23)	3385-3391, 2019	診療部 総合内科	Osamu Hamada ^{1,2)} , Takahiko Takahiko ^{1,2)} , Ayako Tsunemitsu ^{1,2)} , Takafumi Fukui ³⁾ , Toshio Shimokawa ⁴⁾ , Yuichi Imanaka ²⁾ 1)Department of General Internal Medicine, Takatsuki General Hospital 2)Department of Healthcare Economics and Quality Management, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine Kyoto University 3)Department of Respiratory Medicine, Takatsuki General Hospital 4)Clinical Study Support Center, Wakayama Medical University
2	Hospitalist	【抗血小板薬, 抗凝固薬のすべて】抗血小板薬, 抗凝固薬の投与をいつ控えるべきか 血小板減少, 肝障害, 腎障害など出血のリスクがある場合に考慮すべきこと (原著論文/症例報告)	7(3)	553-568, 2019	診療部 総合内科	恒光綾子, 笹木 晋
3	愛仁会医学研究誌	Atypical Manifestation of Spinal Cord Compression: Conus Medullaris Syndrome	51	27-30, 2020	診療部 呼吸器内科	福井崇文
4	心臓	プロモクリプチン療法を行い両心室機能の改善経過を観察しえた周産期心筋症の1例 (原著論文/症例報告)	51(11)	1159-1165, 2019	診療部 循環器内科	朝倉絢子, 佐野浩之, 中島健爾, 上村航也, 村井直樹, 安部博昭, 高岡秀幸
5	精神科治療学	【臨床に役立つ精神病理学】精神症状の「記述」ということ (解説/特集)	34(6)	621-626, 2019	診療部 精神科	杉林 稔
6	日本病跡学雑誌	庄野潤三のサルトグラフィ (原著論文)	98	46-54, 2019	診療部 精神科	杉林 稔
7	日本病跡学雑誌	少し異なる色あいの糸	98	2-3, 2019	診療部 精神科	杉林 稔
8	臨床実践の現象学	母であり看護師である女性が関節リウマチを患うこと	3(2)	15-27, 2020	診療部 精神科	杉林 稔, 小林道太郎(大阪医科大学), 坂井志織 (首都大学東京)
9	内科	【肝臓病の未来-ウイルス性肝炎から脂肪肝と肝がんの時代へ】C型肝炎 HCV排除は肝がんを抑制するのか 外来でのフォローはどうするか	123(5)	1081-1085, 2019	大阪市立大学 肝胆膵病態内科学 病理診断科	榎本 大 ¹⁾ , 伊倉義弘, 田守昭博 ¹⁾ , 河田則文 ¹⁾ 1) 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学
10	周産期医学	【これでわかる 新生児呼吸管理】在宅呼吸管理 在宅酸素療法 (解説/特集)	49(4)	600-603, 2019	診療部 小児科 外来小児病棟	四本由郁, 南 宏尚

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
11	日本小児救急医学会雑誌	多彩で重篤な臨床症状を呈した溶血性尿毒症候群の4歳男児例 (原著論文/症例報告)	18(3)	370-374, 2019	診療部 小児科 外来小児 病棟	大西 聡, 石河慎也, 起塚 庸, 内山敬達, 津川二郎, 岡 隆紀, 土居ゆみ, 西島栄治
12	European Medical Journal	Immunotherapy and Oral Immunotherapy with Omalizumab for Food Allergies	4(4)	63-70, 2019	診療部 小児科	Shoichiro Taniuchi, Msahiro Enomoto, Hirotaka Minami
13	アレルギーの臨床	小児アレルギー疾患における生物学的製剤の今後の展望	32	144-151, 2019	診療部 小児科	谷内昇一郎, 榎本真宏
14	アレルギーの臨床	オマリズマブ併用経口免疫療法の有効性と安全性 (解説/特集)	39	543-545, 2019	診療部 小児科	谷内昇一郎, 榎本真宏
15	アレルギーの臨床	鶏卵アレルギーに対する経口負荷試験-経口免疫療法用の加熱全卵粉末「たまごな」の研究開発 (解説)	39	563-564, 2019	診療部 小児科	榎本真宏, 谷内昇一郎, 田中裕也, 笠井和子, 西野昌光, 高松伸枝, 岡藤郁夫
16	小児科臨床	トマト摂取によって全身性即時型アレルギー症状を呈した2症例 (原著論文/症例報告)	72	1667-1670, 2019	診療部 小児科	中井陽子, 畑埜泰子, 副島和彦, 高橋雅也, 笹井みさ, 木野 稔, 成田宏史, 岡崎史子, 門間敬子, 谷内昇一郎, 金子一成
17	日本周産期・新生児医学会雑誌	アンバウンドビリルビンが1.0 μ g/dL以上に上昇した在胎週数36週以上の新生児の臨床的特徴	55(1)	123-128, 2019	診療部 新生児科	東條龍之介, 菊池 新, 片山義規
18	日本母乳哺育学会雑誌	母乳育児を支援するための新生児黄疸の知識	13(1)	48-55, 2019	診療部 新生児科	片山義規
19	愛仁会医学研究誌	FreeStyleリブレによるFlash Glucose Monitoringを実施した高インスリン性低血糖症の1例	51	31-34, 2020	診療部 新生児科	西田敬弘
20	小児救急医学会雑誌	多彩で重篤な臨床症状を認めた溶血性尿毒症症候群の1男児例	18(3)	370-374, 2019	診療部 小児科 PICU	大西 聡 ^{1,2)} , 石河慎也 ¹⁾ , 起塚 庸 ^{1,2)} , 内山敬達 ¹⁾ , 津川二郎 ³⁾ , 岡 隆紀 ⁴⁾ , 土居ゆみ ⁵⁾ , 西島栄治 ³⁾ 1) 小児科 2) PICU 3) 心臓血管外科 4) 小児外科 5) 麻酔科
21	脳と発達	中心髄質静脈の血栓化をきたし痙攣で発症した髄質静脈奇形の1例	51(4)	37-41, 2019	診療部 小児科 PICU	仲宗根瑠花 ¹⁾ , 宇都宮英綱 ²⁾ , 影山 悠 ³⁾ , 原田敦子 ³⁾ , 福屋章悟 ⁴⁾ , 前野和重 ⁴⁾ , 来田路子 ¹⁾ , 大西 聡 ¹⁾ , 起塚 庸 ¹⁾ , 南 宏尚 ¹⁾ 1) 小児科 2) 放射線科 3) 小児脳外科 4) 脳神経外科
22	小児耳鼻咽喉科	小児気管切開の手技と合併症 up to date 小児の気管切開管理 術後合併症対策と気道狭窄疾患での気管切開管理の問題点 (解説)	40(3)	193-198, 2019	診療部 小児外科	津川二郎
23	小児内科	【小児の救急・搬送医療】病態と疾患 呼吸器 気胸・縦隔気腫 (解説/特集)	51巻増刊	504-508, 2019	診療部 小児外科	西島栄治
24	小児外科	【そこが知りたいシリーズ: 手術が必要な局所解剖(頭頸部・胸部編)】大動脈吊り上げ術(気管軟化症) (解説/特集)	51(8)	803-807, 2019	診療部 小児外科	西島栄治
25	Eur J Vasc Endovasc Surg.	Some Comments From the East on the European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) & the European Society for Vascular Surgery (ESVS) Consensus Document for Treatment of Aortic Arch Pathologies	57(2)	161-162, 2019	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
26	Ann Cardiothorac Surg.	Surgery for Acute Proximal Non-Communicating Aortic Dissection Without Intimal Tears (Intramural Hematoma)	8(5)	570-573, 2019	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
27	Semin Thorac Cardiovasc Surg.	Opinion: Aortic Graft Infection-Any Guidelines or Just Surgeon's Experience Lines!	31(4)	674-678, 2019	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita, Katsuhiko Yamanaka ¹⁾ , Kenji Okada ¹⁾ 1) Kobe University Graduate School of Medicine
28	癌と化学療法	UFT/LV内服療法により長期病勢コントロールが得られた90歳代S状結腸癌術後肝移転の1例 (原著論文/症例報告)	46(13)	2149-2151, 2019	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 田中聡志, 岩淵瀬怜奈, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
29	日本ヘルニア学会誌	術前診断できTAPP法で修復した女性の膀胱ヘルニアの1例 (原著論文/症例報告)	5(2)	42-48, 2019	診療部 消化器外科	朝倉 力, 川崎健太郎, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 坂本一喜 ¹⁾ 1) なんば坂本外科クリニック
30	日本臨床外科学会誌	15年間診断されず腹痛発作に対し3回の腹部手術を受けた家族性地中海熱の1例 (原著論文/症例報告)	80(10)	1909-13, 2019	診療部 消化器外科	川崎健太郎, 山田康太, 朝倉 力, 大和田善之, 岡崎太郎, 家永徹也
31	愛仁会医学研究誌	小腸脂肪腫が先進部となり腸重積を来した1例	51	35-38, 2020	診療部 消化器外科	岩淵瀬怜奈
32	脳血管内治療	多発性pial AVFを認めたCapillary malformation-arteriovenous malformationの1例 (会議録/症例報告)	4巻 Suppl.	S376, 2019	診療部 脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 藤永貴大, 有田英之, 前野和重
33	脳と発達	小児科医のための神経画像2019 脳形成とその異常 画像所見が類似する奇形とその鑑別診断 (会議録)	51巻 Suppl.	S185, 2019	診療部 小児脳神経外科	宇都宮英綱
34	脳神経外科ジャーナル	特集にあたって 小児脳神経外科	28	187, 2019	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
35	小児の脳神経	編集後記	44	386, 2019	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
36	J Arthroplasty	Valgus Subsidence of the Tibial Component Caused by Tibial Component Malpositioning in Cementless Oxford Mobile-Bearing Unicompartmental Knee Arthroplasty	34(12)	3054-3060, 2019	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Nakanishi Y, Takayama K, Kuroda R, Matsumoto T
37	J Arthroplasty	Adequate Positioning of the Tibial Component Is Key to Avoiding Bearing Impingement in Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty	34(11)	2606-2613, 2019	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Takayama K, Tsubosaka M, Kuroda R, Matsumoto T
38	Regen Ther.	Second-look arthroscopic findings of cartilage and meniscus repair after injection of adipose-derived regenerative cells in knee osteoarthritis: Report of two cases	11	212-216, 2019	診療部 整形外科	Onoi Y, Hiranaka T, Nishida R, Takase K, Fujita M, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K
39	Eur J Orthop Surg Traumatol.	A subcutaneous arthroscopic portal closure technique without thread exposure	30(2)	383-385, 2019	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Fujishiro T, Anjiki K, Nagata N, Kitazawa D, Kotoura K, Okamoto K
40	J Knee Surg.	Approximately 30% of Functioning Anterior Cruciate Ligaments Are Sacrificed for Knee Arthroplasty		DOI:10.1055/s-0039-1683928. Epub ahead of print, 2019	診療部 整形外科	Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Kamenaga T, Kikuchi K, Yoshikawa R, Tachibana S, Okamoto K

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
41	Knee	Rotational position of the tibial component can decrease bony coverage of the tibial component in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty	26(2)	459-465, 2019	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K
42	J Orthop Sci.	Evaluation of the accuracy of acetabular cup orientation using the accelerometer-based portable navigation system	13-Oct	S0949-2658(19)30287-8, 2019	診療部 整形外科	Hayashi S, Hashimoto S, Takayama K, Matsumoto T, Kamenaga T, Fujishiro T, Hiranaka T, Niikura T, Kuroda R
43	J Orthop Sci.	Intraoperative pelvic movement is associated with the body mass index in patients undergoing total hip arthroplasty in the supine position	25(3)	446-451, 2020	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hayashi S, Hashimoto S, Takayama K, Fujishiro T, Hiranaka T, Kuroda R, Matsumoto T
44	J Orthop Surg (Hong Kong)	Accuracy of cup orientation and learning curve of the accelerometer-based portable navigation system for total hip arthroplasty in the supine position	27(2)	2309499019848871., 2019	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hayashi S, Hashimoto S, Matsumoto T, Takayama K, Fujishiro T, Hiranaka T, Niikura T, Kuroda R
45	Clin Orthop Surg.	A Modified Under-Vastus Approach for Knee Arthroplasty with Anatomical Repair of Soft Tissue	11(4)	490-494, 2019	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Fujishiro T, Anjiki K, Nagata N, Kitazawa D, Kotoura K, Okamoto K.
46	骨折	大腿骨近位部骨折に対するTresLockの適合性と臨床成績に関する検討(原著論文)	41(2)	490-493, 2019	診療部 整形外科	吉川 遼, 平中崇文, 飛田祐一, 立花章太郎
47	別冊整形外科	【整形外科診療における最先端技術】手術支援 術中画像支援 整形外科手術におけるスマートグラス導入の試み	75	190-193, 2019	診療部 整形外科	平中崇文
48	関節外科	人工関節置換術のインプラントと術式の選択 - 「UKA」	38(3)	48-55, 2019	診療部 整形外科	平中崇文
49	Orthopaedics	【人工膝関節片側置換術】外側UKAのコツと問題点(解説/特集)	32(6)	78-86, 2019	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文
50	骨折	単純X線写真による大腿骨頸部前捻角測定法の考案(原著論文)	41(3)	1212-1214, 2019	診療部 整形外科	立花章太郎, 平中崇文, 吉川 遼, 飛田祐一
51	骨折	撚りワイヤーを用いた鋼線締結法後の抜釘後の抜釘後にワイヤー残存を認めた2例(原著論文/症例報告)	41(3)	1137-1139, 2019	診療部 整形外科	吉川 遼, 平中崇文, 飛田祐一, 立花章太郎
52	骨折	大腿骨近位部骨折に対するTresLockの適合性と臨床成績に関する検討	41(2)	490-493, 2019	診療部 整形外科	吉川 遼, 平中崇文, 飛田祐一, 立花章太郎
53	日本人工関節学会誌	Mobile型人工膝単顆置換術の術後中期成績(原著論文)	49	333-334, 2019	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 西田亮太, 尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 藤田雅広, 藤代高明, 岡本剛治
54	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	Oxford UKAにおけるjoint line orientation angle (JLOA)内方傾斜とfemoral component伸展設置の関係(原著論文)	62(6)	1041-1042, 2019	診療部 整形外科	西田亮太, 飛田祐一, 岡本剛治, 平中崇文
55	日本医用画像工学会大会予稿集	手術器具検出を用いた整形外科手術の工程認識における最適なData Augmentationの検討	38	492-497, 2019	診療部 整形外科	西尾祥一, Hossain Belayat, 八木直美, 新居 学, 平中崇文, 小橋昌司
56	JOSKAS	人工膝単顆置換術における前十字靭帯の状態と術後患者立脚型評価との関連性(原著論文)	44(3)	814-820, 2019	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 立花章太郎, 菊池健一, 亀長智幸, 藤代高明

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
57	JOSKAS	単純X線写真による大腿骨頸部前捻角測定法の考案 (原著論文)	44(3)	814-820, 2019	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 立花章太郎, 菊池健一, 亀長智幸, 藤代高明
58	JOSKAS	膝アライメントと足関節・足部変形との関係について	44(1)	74-75, 2019	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨, 立花章太郎, 菊池健一, 亀長智幸, 飛田祐一, 藤代高明, 平中崇文
59	J Orthop Surg (Hong Kong)	Morphometric analysis of medial and lateral tibia plateau and adaptability with Oxford partial knee replacement in a Japanese population	28(2)	230949902 0919309., 2020	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K
60	臨床整形外科	人工膝関節全置換術施行例における前十字靭帯と外側大腿脛骨関節軟骨の状態についての検討 (原著論文)	55(2)	155-159, 2020	診療部 整形外科	琴浦 健, 田中聡一, 岡本剛治, 藤代高明, 安喰健祐, 長田尚介, 北澤大也, 平中崇文
61	骨折	大腿骨転子部骨折後のCT評価において頸部前捻角は臥位Budin撮影と比較して過少評価され得る (原著論文)	42(2)	523-527, 2020	診療部 整形外科	西田亮太, 平中崇文, 尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 飛田祐一
62	骨折	外側大腿皮神経麻痺を合併した上前骨棘裂離骨折に対し観血的治療を行った1例 (原著論文)	42(2)	464-466, 2020	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨, 飛田祐一, 西田亮太, 高瀬恭平, 藤田雅弘, 平中崇文
63	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	MicroplastyによるOxford UKAにおいて大腿骨後顆骨切り量は薄く大腿骨コンポーネントは伸展位設置となる傾向がある (原著論文)	63(1)	71-72, 2020	診療部 整形外科	北澤大也, 岡本剛治, 平中崇文
64	愛仁会医学研究誌	オックスフォード型単顆膝人工関節置換術の術後合併症とその対策	51	61-63, 2020	診療部 整形外科	琴浦 健
65	J Dermatol	Two cases of aplasia cutis congenita with hair collar signs and macrophage hyperplasia.	46(8)	734-738, 2019	診療部 皮膚科 病理診断科	高山恵律子, 原田敦子, 伊倉義弘, 瀬戸英伸
66	日本小児皮膚科学会雑誌	水痘ワクチンの関与が示唆された幼児帯状疱疹の1例 (原著論文/症例報告)	39(1)	61-65, 2020	診療部 皮膚科	菊澤亜夕子, 大桑慎子, 瀬戸英伸
67	日本小児皮膚科学会雑誌	初診時, 蜂窩織炎との鑑別が困難であった壊死性筋膜炎の5例 (会議録/症例報告)	129(5)	1165, 2019	診療部 皮膚科	大桑慎子, 菊澤亜夕子, 高山恵律子, 筒泉貴彦, 瀬戸英伸
68	日本形成外科学会誌	体表上の皮膚結節と索状構造で連続していた脊髄脂肪腫の1例 (原著論文/症例報告)	39(7)	315-321, 2019	診療部 形成外科	千田恵理奈, 木本優希, 岡部英俊, 原田敦子, 黒川憲史, 宇都宮英綱
69	J Obstet Gynaecol Res.	Gastric-type endocervical adenocarcinoma with uterine corpus involvement mimicking primary endometrial carcinoma.	45(7)	1414-1417, 2019	診療部 産婦人科 病理診断科	Kamiya A, Ikura Y, Iizuka N, Yokokawa T, Kato H, Oishi T
70	J Obstet Gynaecol Res.	A disadvantage of cesarean section en caul: Umbilical velamentous insertion, a risk factor and proposed mechanism of neonatal anemia.	46(1)	173-175, 2020	診療部 産婦人科	Shibata T, Nakago S, Nishikawa S, Fukuoka Y, Iizuka N, Kotsuji F
71	J Obstet Gynaecol Res.	Malignant Lymphoma of the Ovary: A Diagnostic Pitfall of Intraoperative Consultation.	39(1)	79-83, 2020	診療部 産婦人科	Iizuka N, Ikura Y, Fukuoka Y, Shibata T, Okamoto M, Kamiya A, Oishi T, Kotsuji F, Iwai Y
72	臨床画像	【症候別画像診断プロトコル】ルーチン化すべきDual-energy CTプロトコルとそのポイント 泌尿器 (解説/特集)	35巻4 月増刊	182-183, 2019	診療部 放射線イ メージ ングリ サーチ セン ター	高橋 哲
73	臨床画像	【症候別画像診断プロトコル】疾病診断 (症候別) 血尿 [CT・MRI] (解説/特集)	35巻4 月増刊	36-37, 2019	診療部 放射線イ メージ ングリ サーチ セン ター	高橋 哲

No.	掲載誌名	表 題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著 者
74	日独医報	【画像検査の賢い選択 検査A and/or検査B】前立腺がん 臨床意義のある病変を選び出し、多様な治療戦略から適切な治療法を選択するための画像の役割 (解説/特集)	63(2)	162-172, 2019	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
75	臨床画像	【前立腺癌の画像診断update】マルチパラメトリックMRIを用いた前立腺癌の腫瘍検出/局在診断 (PI-RADS v2を含む) (解説/特集)	35(5)	508-520, 2019	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
76	産婦人科の実際	【産婦人科診療decision makingのためのMRI・CT】単純MRI, 造影MRI (解説/特集)	68(7)	687-692, 2019	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
77	腎臓内科・泌尿器科	【腎泌尿器手術の新しいテクノロジー】Dual-energy CT その原理と技術, 泌尿器科疾患への応用法	10(5)	405-411, 2019	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
78	Japanese Journal of Diagnostic Imaging	前立腺MRI PI-RADS V2.1にみる撮像と読影のminimum requirement	38(1)	2187-266X, 2020	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
79	Urology Today	実践マニュアル PI-RADS V2.1 による前立腺癌検出の現状	27(1)	27-30, 2020	診療部 放射線イメージングリサーチセンター	高橋 哲
80	Ambulatory Surgery	Preoperative Anxiety and Volume and Acidity of Gastric Fluid in Paediatric Patients undergoing Ambulatory Surgery	26(1)	17-20, 2020	診療部 麻酔科	Y. Doi, R. Unita, Y. Hamasaki
81	Dementia Japan	脳神経外科と認知機能障害 水頭症, 頭部外傷, 脳血管障害と関係する認知症と脳神経外科 (会議録)	33(4)	501, 2019	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤
82	第3回「もの忘れ外来診療のためのエッセンシャル」講習会講演集	認知症の非薬物治療		59-72, 2019	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤
83	第3回日本脳神経外科 認知症学会 学術総会講演集電子ジャーナル http://jsnd2019.umin.jp/proceedings/files/proceedings_20200312.pdf	認知症の非薬物療法 Nonpharmacological intervention (NPI) for patient		15-18, 2019	診療部 リハビリテーション科	櫻 篤
84	愛仁会医学研究誌	GCU看護師による瓶哺乳介助の観察・評価の現状	51	64-68, 2020	看護部 GCU看護科	安村 歩
85	愛仁会医学研究誌	当院PICU における早期離床の効果について	51	5-7, 2020	技術部 リハビリテーション科	飯塚崇仁
86	愛仁会医学研究誌	当院初期もの忘れ外来受診者における社会的孤立と歩行評価の関係と有用性	51	8-11, 2020	技術部 リハビリテーション科	村川佳太
87	周産期医学	家族とのコミュニケーション: ディベロップメンタルケアから家族と赤ちゃんの心を育む	49(12)	1609-1612, 2019	心理室	大城昌平 (聖隷クリストファー大学), 鈴木佳子, 小寺智子, 坂口隼 (都立墨東病院)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
88	愛仁会医学研究誌	災害時における緊急連絡体制の導入	51	105-106, 2020	事務部 管理科	足立 聡

著書発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
1	在宅酸素療法 小児科診療 小児呼吸器疾患のファーストタッチから専門診療へ	診断と治療社/東京	82	101-107, 2019	診療部 新生児科	南 宏尚
2	呼気CO測定 周産期医学 新生児黄疸を再び考える	東京医学社/東京	49	153-155, 2019	診療部 新生児科	片山義規
3	在宅酸素療法 周産期医学 これでわかる, 新生児呼吸管理	東京医学社/東京	49	600-603, 2019	診療部 新生児科	四本由郁, 南 宏尚
4	【ルチーン徹底見直し 厳選! 新生児の必須検査 基準値一覧つき】 血液ガス検査 (解説/特集) with NEO	メディカ出版/大阪	32	651-660, 2019	診療部 新生児科	池上 等
5	【新生児医療67の臨床手技とケア】 (第2章) 治療・検査の手技 【動・静脈ルートの確保】 臍動・静脈カテーテル (解説/特集) with NEO	メディカ出版/大阪	2019秋 季増刊	65-69, 2019	診療部 新生児科	岸上 真
6	光線療法 小児科診療 小児の診療手技	診断と治療社/東京	38	469-473, 2019	診療部 新生児科	片山義規, 李 容桂
7	黄疸のある児 ペリネイタルケア 新生児の観察と見きわめ・介入ポイント	メディカ出版/大阪	38	469-473, 2019	診療部 新生児科	片山義規
8	NICUにおける感染抑制 人工呼吸器関連肺炎対策	東京医学社/東京	49	865-867, 2019	診療部 新生児科	片山義規
9	筋ジストロフィーと遺伝カウンセリング 最新小児・周産期遺伝医学研究と遺伝カウンセリング	メディカルドゥ/大阪		174-180, 2019	診療部 新生児科	長坂美和子
10	小児科診療ガイドライン -最新の診療指針-	総合医学社/東京	第4版	77-82, 2019	診療部 小児外科	西島栄治
11	小児創傷・オストミー・失禁(WOC)管理の実践	東京医学社/東京	改訂版	8-12, 2019	診療部 小児外科	西島栄治
12	Hirschsprung's Disease and the Allied Disorders: Status Quo and Future Prospects of Treatment	Springer/ドイツ	1st ed	111-117, 2019	診療部 小児外科	西島栄治
13	新NS Now No. 19 Advanced 神経内視鏡手術	株式会社メジカルビュー社/東京	第1版, 第1刷	116-123, 2019	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 久徳茂雄
14	脳神経外科速報 2019年増刊 専門医なら知っておきたい疾患別・術式別脳神経外科手術合併症の回避・対処法 Q&A 156	株式会社メディカ出版/大阪		240-245, 2019	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
15	母乳育児支援のスタッフ教育への取り組み方 With Neo スタッフ教育について組織でどう取り組むか	メディカ出版/大阪	第32巻 3号	130-134, 2019	看護部 BST委員会	森口紀子
16	小児看護臨時増刊号 「一般病院における小児の入退院支援」	へるす出版/東京	第42巻 8号	910-917, 2019	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
17	こどもセルフケア不足看護理論 第6章 こどものセルフケアに着目した看護展開の展開事例 第10章 こどもからのSOSを支援する看護の役割	医学書院/東京	第1版 第1刷	201-205, 2019	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
18	INFECTION CONTROL Practical特集5 看護補助者の業務にあったうまい教え方	メディカ出版/大阪	第28巻 10号	41-47, 2019	看護部 感染対策 室	鳴美英智

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
19	医学情報誌「医薬の門」 シリーズ「全腎医療」を实践 ～地域密着型病院にしかできない医療の重要性～	鳥居薬品/東京	第59巻 4号	2-5, 2019	看護部 血液浄化 センター 看護科	堀之内 泉, 西山育美, 石井美和子, 辻あけみ
20	京都腹膜透析地域連携の会勉強会	へるす出版/東京	第43巻 2号	202-211, 2020	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	ACP Internal Medicine Meeting 2019	Impact of the hospitalist system in Japan on quality of care and healthcare economics	'19/4	Pennsylvania, USA	診療部 総合内科	Osamu Hamada ^{1,4)} , Takahiko Tsutsumi ^{1,4)} , Ayako Miki ^{1,4)} , Takafumi Fukui ²⁾ , Toshio Shimokawa ⁴⁾ 1)Department of General Internal Medicine Takatsuki General Hospital 2)Department of Respiratory Medicine Takatsuki General Hospital 3)Clinical Study Support Center Wakayama Medical University 4)Department of Healthcare Economics and Quality Management Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine Kyoto University
2	2ND AUSTRALASIAN DIAGNOSTIC ERROR IN MEDICINE CONFERENCE	See What You Really Want to See: A Teachable Case of Diagnostic Delay	'19/4	Melbourne, Australia	診療部 総合内科	Ryotaro Niwa, Osamu Hamada, Shota Isashiki, Takahiko Tsutsumi
3	第22回日本臨床救急医学会	病院前救急 (ドクター, ヘリ等) ① 座長	'19/6	和歌山市	診療部 総合救急 医療セン ター	秋元 寛
4	第11回日本Acute Care Surgery学会	一般演題: 口演3 Trauma Surgery 腸管・腸間膜損傷 座長	'19/10	沖縄県国頭郡	診療部 総合救急 医療セン ター・急 性期外科	秋元 寛
5	第47回日本救急医学会	セッション 口演25 消化管1 司会	'19/10	東京都	診療部 総合救急 医療セン ター	秋元 寛, 切刀主税 ¹⁾ 1) 杏林大学 救急医学
6	第14回豊橋ハートセンターアドバンスド・アブレーションコース	Electro-Anatomy of the Heart for Catheter Ablation 講演と技術指導	'19/6	豊橋市	診療部 不整脈内 科	山城荒平
7	カテーテルアブレーション関連秋大会2019	カテーテルアブレーションライブセミナー ライブ中継一福井大学医学部附属病院 コメンテーター	'19/11	金沢市	診療部 不整脈内 科	山城荒平, 蜂谷 仁, 水野祐八, 深水誠二
8	カテーテルアブレーション関連秋大会2019	カテーテルアブレーション委員会公開研究会 合併症③ 座長	'19/11	金沢市	診療部 不整脈内 科	丹野 郁, 山城荒平
9	神戸アブレーションライブカンファレンス2019	術後心房頻拍に対する Rhythmia Guided RF ablation ライブコメンテーター	'19/12	神戸市	診療部 不整脈内 科	山城荒平
10	第12回植込みデバイス関連冬大会	CRT設定と問題点 座長	'20/2	名古屋	診療部 不整脈内 科	山城荒平, 吉賀康裕 (山 口大学大学院医学系研究科器 官病態内科学講座)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
11	第64回日本透析医学会	CVD/心血管イベント セッション 座長	'19/6	横浜市	診療部 腎臓内科	高橋利和
12	第93回大阪透析研究会	一般演題 貧血 座長	'19/9	大阪市	診療部 腎臓内科	高橋利和
13	グランヴィアてんかんセミナー	てんかん治療 Update	'19/10	大阪市	診療部 神経内科	松下達生
14	Epilepsy Seminar	てんかん治療と臨床経験に基づくラコサミドの位置づけ	'20/1	大阪市	診療部 神経内科	松下達生
15	進行期パーキンソン病の病態と治療 Webセミナー	進行期パーキンソン病の病態と治療	'20/2	大阪市	診療部 神経内科	松下達生
16	第23回統合失調症臨床研究会	布コラージュ ワークショップ 座長	'19/6	名古屋市	診療部 精神科	杉林 稔
17	第66回日本病跡学会総会	一般演題セッション1A 座長	'19/7	京都市	診療部 精神科	杉林 稔
18	第7回臨床の記述研究会	小児がんの子を持つ親と小児科医へのインタビューからわかること 座長	'19/8	高槻市	診療部 精神科	杉林 稔
19	第22回北摂四医師会神経精神医学研究会	一般演題 座長	'19/10	高槻市	診療部 精神科	杉林 稔
20	精神病理コロック 2019/2020	一般演題1 座長	'20/2	東京都	診療部 精神科	杉林 稔
21	第55回日本周産期・新生児医学会	一般演題（口演）血液・代謝疾患 座長	'19/7	松本市	診療部 新生児科	南 宏尚
22	第64回日本新生児成育医学会	呼吸1 座長	'19/11	鹿児島市	診療部 新生児科	南 宏尚, 中村公紀
23	第33回日本小児救急医学会	神経 座長	'19/6	さいたま市	診療部 小児科 PICU	起塚 庸
24	第14回JaMSCAN事例検討会	BEAMS Stage 3 ファシリテーター	'19/11	福岡市	診療部 小児科 PICU	起塚 庸
25	第28回小児集中治療ワークショップ	ECMO 座長	'19/9	大阪市	診療部 小児科 PICU	起塚 庸
26	第55回日本小児外科学会近畿地方会	セッションII：胸部・呼吸器 座長	'19/8	奈良市	診療部 小児外科	津川二郎
27	PS-PIC2019 OSAKA	セッション8 [手術・周術期管理/終末期・倫理]	'19/10	大阪市	診療部 小児外科	座長：辻尾有利子（京都府立医科大学附属病院 看護部PICU），久松千恵子 コメンテーター：中澤貴良佳（Royal Children's Hospital/Monash Children's Hospital）
28	第30回日本小児呼吸器外科研究会	セッション3 [声門下狭窄・嚢胞] 座長	'19/10	大阪市	診療部 小児外科	津川二郎
29	第30回小児外科QOL研究会	一般演題：退院・在宅支援1 座長	'19/11	伊勢市	診療部 小児外科	久松千恵子

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
30	The 9th New Horizon in Cardiac Surgery	Session 5 - Aortic Valve: Minimally Invasive Cardiac Surgery (Moderator)	'19/10	Seoul, Korea	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita, Cheol-Hyun Chung (Univ. of Ulsan)
31	33rd EACTS Annual Meeting	Session: Do you like the elephant frozen?	'19/10	Lisbon, Portugal	診療部 心臓・大血管センター	Moderator: Christian Etz, Jean Bachet Speaker: Maximilian Kreibich, Alessandro Leone, Yutaka Okita, Wei-Guo Ma, Carlo Mariani, Bowen Zhang, Zsuzsanna Amold, Akihiro Yoshitake, Eduard Charchyan
32	第39回日本脳神経外科コンgres総会 ビデオ教育セミナー	頭蓋縫合早期癒合症に対する手術手技講師	'19/5	横浜市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
33	第47回日本小児神経外科学会	一般口演2 神経管閉鎖不全 座長	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	加藤美穂子, 原田敦子
34	第47回日本小児神経外科学会	ランチョンセミナー4 頭蓋骨縫合早期癒合症手術における骨切りのデザインとビットフォール 講師	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
35	小児神経外科教育セミナー2019	水頭症・頭蓋骨内嚢胞性疾患 講師	'19/6	新潟市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
36	愛媛大学医学部学生講義	小児脳神経外科 講師	'19/6	東温市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
37	第78回日本脳神経外科学会	一般口演22「小児水頭症・奇形」 座長	'19/10	大阪市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
38	第66回日本小児神経学会近畿地方会	偶発的に認めた頭蓋骨腫瘍性病変からMcCune-Albright症候群を疑った12歳男児例	'19/10	大阪市	診療部 小児脳神経外科	土肥周平, 宇津木玲奈, 大西 聡 ¹⁾ , 石森真吾 ¹⁾ , 起塚 庸 ¹⁾ , 伊倉義弘 ²⁾ , 玉置知子 ³⁾ , 原田敦子 ³⁾ 1) 小児科 2) 病理診断科 3) 遺伝医療部門
39	第14回小児神経放射線研究会	セッションD. 脳外科的疾患 座長	'19/10	小平市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 堤 義之
40	第37回日本こども病院神経外科医会	セッションV 頭蓋骨疾患・頭蓋骨形成術 座長	'19/11	宇部市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
41	高槻市 子どもの健康講座	子どもの頭部外傷 頭をぶつけた時の対処 講師	'19/11	高槻市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
42	ミシガン頭蓋骨形状矯正ヘルメット フォローアップ研修	各施設の現状と問題点	'19/11	東京都	診療部 小児脳神経外科	高橋麻由(田辺中央病院脳神経外科), 原田敦子
43	POLAR Instructional Course smith & nephew 主催	POLAR Instructional Course 講師	'19/4	Singapore	診療部 整形外科	藤代高明
44	第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS2019)	一般口演 17 UKA1 座長	'19/6	札幌市	診療部 整形外科	平中崇文
45	第45回日本骨折治療学会	JSFR2019] 医工連携セッション 手術を変えてみませんか? そのアイデアで Inspire your idea!, Change the surgery! 座長	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
46	第45回日本骨折治療学会	医工連携セッション 手術を変えてみませんか? そのアイデアで Inspire your idea! Change the surgery! 座長	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文, 五谷寛之(静岡理工科大学手微小外科先端医工学/大阪掖済会病院)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
47	第46回日本臨床バイオメカニクス学会	シンポジウム2 大腿骨骨折におけるバイオメカニクス 座長	'19/11	久留米市	診療部 整形外科	白濱正博(久留米大学医学部 整形外科学教室), 平中崇文
48	第78回日本医学放射線学会	泌尿器2 その他 座長	'19/4	横浜市	診療部 放射線イ メージン グリーサ ー チセン ター	高橋 哲
49	The 7th Asian Congress of Abdominal Radiology 2019	「“Asian Prostate Imaging Working Group (APIWG)”」APIWG Symposium Prostate Imaging Network or Research in Asia (Speaker)	'19/5	Chengdu, China	診療部 放射線イ メージン グリーサ ー チセン ター	Satoru Takahashi
50	The 7th Asian Congress of Abdominal Radiology 2019	「“Asian Prostate Imaging Working Group (APIWG)”」Future of APIWG Symposium Future of APIWG (Speaker)	'19/5	Chengdu, China	診療部 放射線イ メージン グリーサ ー チセン ター	Satoru Takahashi
51	The 75th Korean Congress of Radiology and Annual Delegate Meeting of The Korean Society of Radiology	How to prevent pathological upstage from cT1 to pT3a renal cell carcinoma in the era of robotic-assisted partial nephrectomy. (Speaker)	'19/9	Seoul, China	診療部 放射線イ メージン グリーサ ー チセン ター	Satoru Takahashi
52	Dr. L. Helmers' Pediatric Anesthesia Fellowship Lecture Series	PBLD: Ambulatory Surgery for a Child with Recent Upper Respiratory Infection (URI) Visiting Professor from Japan	'19/10	Iowa, USA	診療部 麻酔科	Dr. Yumi Doi
53	第25回日本小児麻酔学会	シンポジウム3 小児麻酔におけるプロポフォールの使用 座長	'19/11	米子市	診療部 麻酔科	香川哲郎(兵庫県立こども 病院麻酔科) 土居ゆみ
54	第25回日本小児麻酔学会	若手研究奨励賞演題1 小児において高流量酸素鼻カヌラは有効か?~周術期のリスクと共に考える~	'19/11	米子市	診療部 麻酔科	演者: 篠崎奈可 座長: 土居ゆみ
55	認知症連携カンファレンス in 高知	フレイル・サルコペニアと認知症診療	'19/6	高知市	診療部 リハビリ テーシ ョン科	樺 篤
56	第3回日本脳神経外科認知症学会 もの忘れ診療にたずさわる脳神経外科医に向けたそのエッセンスの修得および再確認のための講習会	認知症の非薬物療法 -予防的介入も含めて-	'19/9	つくば市	診療部 リハビリ テーシ ョン科	樺 篤
57	第1回愛仁会リハビリテーション医懇話会	急性期病院のリハビリテーション科医として	'19/10	大阪市	診療部 リハビリ テーシ ョン科	樺 篤
58	大阪医科大学学生講義	嚥下障害	'19/11	高槻市	診療部 リハビリ テーシ ョン科	樺 篤
59	第11回関西脳神経外科認知症研究会	故関西医大脳神経外科名誉教授河本圭司先生と関西脳神経外科認知症研究会の歩み	'19/12	大阪市	診療部 リハビリ テーシ ョン科	樺 篤
60	第8回兵庫県腎不全看護研究会	笑顔で答える3/100の効果~エムラクリームに寄せる期待~	'19/7	神戸市	看護部 血液浄化 センター 看護科	西山育美
61	公益社団法人大阪府看護協会2019年度研修	「診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント」講師	'19/7	大阪市	看護部 ICU看護科 救急セン ター看護 科	木村ルミ子, 山崎祐嗣

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
62	日本小児看護学会第29回学術集会	テーマセッション 「気になる親子」	'19/8	札幌市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
63	第5回ELNEC-Jコアカリキュラム エンド・オブ・ライフ・ ケア看護師教育プログラム	「モジュール2：痛みのマネジメント」 「モジュール3：症状マネジメント」	'19/8	高槻市	看護部 6階東病棟 看護科 リソース ナース室	山本 直, 中川純子
64	第2回日本呼吸器看護研究会 「呼吸器看護の輪」～繋がる・ つなげるストーク～	セミナー企画「知って得する！NPPV・ HNFCの使い方」～	'19/9	吹田市	看護部 7階南病棟 看護科	原田雅美
65	京都腹膜透析地域連携の会勉強会	「足病変」について	'19/9	京都市	看護部 血液浄化 センター 看護科	西山育美
66	日本呼吸ケア・リハビリテーション 学会学術集会	医療技術の進歩と呼吸ケアの新たな展開	'19/11	名古屋市	看護部 7階南病棟 看護科	原田雅美
67	第1回関西糖尿病看護ケアセミナー グループワーク	血糖パターンマネジメントの実際～数字 から患者の生活を紐解く“ワザ”～	'19/11	大阪市	看護部 外来看護 科	山下みどり
68	ストーマケアセミナー	ストーマケアについて講演	'19/12	大阪市	看護部 リソース ナース室	根岸 睦
69	大阪小児在宅医療連携協議会	第10回大阪小児在宅医療を考える会	'20/1	大阪市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
70	チームで支える乳がん治療in 高槻	院内連携, 薬薬連携について	'20/1	高槻市	看護部 外来看護 科	溝口 綾
71	医療的ケア児等支援者報告会	大阪府医療的ケア児等支援者養成研修 (フォローアップ研修)	'20/2	大阪市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
72	第22回新生児呼吸療法モニタ リングフォーラム	企画セッション3 『超低出生体重児, 超早産児の循環管理 —脳血流を含んでのケア方法—』講演	'20/2	大町市	看護部 NICU看護 科	井上裕美
73	医療的ケア児等支援者報告会	「小児在宅医療を支える看護師の実践・ 知ってほしいこと」	'20/2	大阪市	看護部 リソース ナース室	橋倉尚美
74	新生児蘇生法研修会	新生児蘇生法「スキルアップ」Sコース NCPR認定事業	'20/2	神戸市	看護部 5階東病棟 看護科	野島奈明
75	Kansai Comprehensive Cardiac Imaging 2nd meeting	第1部 放射線部門 CT関連 座長	'19/4	大阪市	技術部 放射線不 整脈セン ター	伊澤一郎
76	第15回関西キヤノンCTユー ザー会	特別講演「THE大血管CT」 座長	'19/9	大阪市	技術部 放射線不 整脈セン ター	伊澤一郎

愛仁会リハビリテーション病院

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院の脊髄梗塞患者に対する回復期リハビリテーション治療成績	'19/6	神戸市	診療部 リハビリテーション科	松岡美保子
2	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	脳血管疾患等の入院患者における回復期リハビリテーションの実績指数予測の検討	'19/6	神戸市	診療部 リハビリテーション科	磯山浩孝
3	13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine	Validity of Cognitive Functional Independence Measure Cutt-off points for Independence Walking Recovery in Elderly Patient with Hip Fracture after Surgery	'19/6	神戸市	診療部 リハビリテーション科	磯山浩孝
4	第45回日本重症心身障害学会学術集会	動く医療的ケア児4症例の在宅療養支援の現状報告	'19/9	岡山市	診療部 リハビリテーション科	李 容桂
5	令和元年度大阪府障がい者地域医療ネットワーク推進事業実施連絡会研修会	就学前の小児脊髄損傷患者のリハビリテーションについて～事例を通して～	'19/9	大阪市	診療部 リハビリテーション科	和田佳子
6	第78回日本脳神経外科学会学術集会	ITB療法で異常な発汗が改善した脳卒中の3例	'19/10	大阪市	診療部 リハビリテーション科	砂田一郎
7	第21回日本骨粗鬆症学会学術集会	50歳以上の患者の250HD濃度	'19/10	神戸市	診療部 リハビリテーション科	清水富男
8	第54回脊髄障害医学会	当院退院後の在宅頸髄損傷患者の生活状況	'19/10	秋田市	診療部 リハビリテーション科	松岡美保子
9	第9回大阪ショートステイ連絡協議会公開講演会	動く医療的ケア児4症例の在宅療養支援の現状報告	'19/10	高槻市	診療部 リハビリテーション科	寺田明佳
10	大阪府医師会医学会総会	回復期リハビリテーション病院での瘻縮治療	'19/11	大阪市	診療部 リハビリテーション科	砂田一郎
11	第3回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	早期に復職できた自己免疫性辺縁系脳炎の回復期リハビリテーション経験	'19/11	静岡市	診療部 リハビリテーション科	福田和浩
12	第3回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	高齢脊髄損傷患者の特徴-全国脊髄損傷データベースからの分析- (シンポジウム)	'19/11	静岡市	診療部 リハビリテーション科	松岡美保子
13	第32回日本老年泌尿器科学会	排尿自立支援チームの1年の歩み	'19/6	旭川市	看護部 リソースナース室	前岸知香
14	第28回日本意識障害学会	回復期リハビリテーション病棟における意識障害患者の背面開放座位ケア ～離床ケアに対する看護師の認識の変化～	'19/7	東京都	看護部 五階東病棟看護科	廣本寿江
15	第69回日本病院学会	長期医療的入院を継続した児のハツ外出に繋がった活動範囲の拡大にむけたアプローチ	'19/8	札幌市	看護部 六階病棟看護科	宮田美津子
16	第20回大阪病院学会	看護師特定行為研修修了者の活動実態から考える課題	'19/10	大阪市	看護部	作山美香

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
17	第20回大阪病院学会	患者の食事姿勢を整える食事ケアの推進～リンクナースを活用した組織的取り組み～	'19/10	大阪市	看護部 リソース ナース室	馬嶋きみ代
18	第20回大阪病院学会	ICFの概念を活用した看護計画立案～導入に向けた取り組みと今後の課題～	'19/10	大阪市	看護部 四階西病棟 看護科	奥村洋子
19	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019	チームケアにより阿部式BPSDスコアが改善した一症例～BPSD（認知症の行動・心理）症状のある患者を通して～	'19/11	金沢市	看護部 5階西病棟 看護科	辻 沙織
20	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019	睡眠障害がある患者の生活リズムの改善	'19/11	金沢市	看護部 六階病棟 看護科	井上ひろ子
21	第6回AIJINKAI脳卒中セミナー	理学療法士に問う 歩行再建のみでよいのか？	'19/6	高槻市	リハ技術部	大垣昌之
22	一般社団法人高槻市理学療法士会 設立記念講演会	理学療法士の過去・現在・未来～地域の中での役割～	'19/6	高槻市	リハ技術部	大垣昌之
23	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	リハビリテーション専門病院の急変時対応～過去2年間の救急コールの傾向から～	'19/6	神戸市	リハ技術部	大垣昌之
24	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	大阪府北部地震における災害リハビリテーションについて～地域へのつなぎ方に関する一考察～	'19/6	神戸市	リハ技術部	大垣昌之
25	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニアを有する骨関節疾患患者の身体機能変化の特徴と関連因子	'19/6	神戸市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
26	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院回復期病棟に入棟した脳卒中患者のリハビリテーション実績指数に関わる要因	'19/6	神戸市	リハ技術部 理学療法科	上原光司
27	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	回復期脳卒中後片麻痺患者の歩行自立度と筋力および筋量との関連	'19/6	神戸市	リハ技術部 理学療法科	阿河由巳
28	第35回日本義士装具学会学術大会	どうするフォローアップ～装具外来から見えてきた現状と課題～	'19/7	仙台市	リハ技術部	大垣昌之
29	第35回日本義肢装具学会学術大会	車いすシーティングにて食事姿勢の改善に繋がった一例～当院車いす検討会の取り組み	'19/7	仙台市	リハ技術部 作業療法科	黒田健太
30	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	回復期リハビリテーションにおける心疾患を有する脳血管疾患患者の体成分の変化と関連因子の検討	'19/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
31	第31回大阪府理学療法学術大会	再発性脳梗塞患者に対して装具再作製をおこない歩行獲得に至った一症例	'19/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	西川加与
32	第31回大阪府理学療法学術大会	CIDP患者に対し歩行改善を図り短期間で歩行能力の向上に至った一症例	'19/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	中舛糧千
33	第31回大阪府理学療法学術大会	半側空間無視を有する患者に対して運動療法と環境調整を行い、病棟内杖歩行自立に至った一症例	'19/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	坂本百合子
34	第31回大阪府理学療法学術大会	右肺部分切除術中における心筋梗塞発症患者へのCPX施行例～活動量・不安抑うつに着目～	'19/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	濱口祐衣

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
35	第31回大阪府理学療法学会	Push upによる屋外階段昇降を獲得し外出自立に至った脊髄梗塞患者の一症例	'19/7	大阪市	リハ技術 部 理学療法 科	友景祐貴
36	第31回大阪府理学療法学会	超高齢サルコペニアを含む2症例に対する集団起立運動の取り組み	'19/7	大阪市	リハ技術 部 理学療法 科	今井彩菜
37	第69回日本病院学会	当院におけるサルコペニアに対する理学療法士の取り組み～理学療法時間内に集団起立を開始して～	'19/8	札幌市	リハ技術 部 理学療法 科	今井彩菜
38	第69回日本病院学会	多施設での情報交換を通じて療法士の教育を本気で考える	'19/8	札幌市	リハ技術 部 教育研修 科	白井宏樹
39	第53回作業療法学会	健常者における箸操作能力の測定－3条件（利き手，補助具使用，非利き手）設定にて－	'19/9	福岡市	リハ技術 部 作業療法 科	後藤 華
40	第53回作業療法学会	高位脊髄損傷者が主体となれる生活を目指して－スマートスピーカがもたらす可能性－	'19/9	福岡市	リハ技術 部 作業療法 科	赤穂善行
41	第6回日本予防理学療法学会 学術大会	回復期リハビリテーション病棟に入院した高齢患者における口腔内状態と運動機能の関連	'19/10	広島市	リハ技術 部 理学療法 科	上原光司
42	第3回日本リハビリテーション 医学会秋季学術集会	左手の病的把握現象と脳梁離断症状を呈した一症例の回復期リハビリテーションの経験	'19/11	静岡市	リハ技術 部 言語療法 科	石井和樹
43	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 金沢 2019	在宅装具利用者に対する地域連携～装具外来を通してみる現状と課題～	'19/11	金沢市	リハ技術 部 理学療法 科	常盤尚子
44	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 金沢 2019	回復期病院で電気刺激療法を併用した反復的課題指向型アプローチを実施し上肢機能向上を認めた一事例	'19/11	金沢市	リハ技術 部 作業療法 科	谷口陽太郎
45	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 金沢 2019	Wallenberg症候群にて嚥下障害を呈した一例に対する回復期リハビリテーションの過程	'19/11	金沢市	リハ技術 部 言語療法 科	小島諒子
46	実践！下肢装具・義足 リハ ビリテーションセミナー2019	免荷期間を経て仮義足へ移行し社会復帰につないだ症例を経験して	'19/11	大阪府	リハ技術 部 理学療法 科	常盤尚子
47	大阪府理学療法士会マネジ メント研修	マネジメント再考	'19/12	大阪市	リハ技術 部	大垣昌之
48	第1回全国装具連携の会合同 大会 シンポジウム	装具連携の取り組みと現状，そして今後の展望	'20/1	福岡市	リハ技術 部	大垣昌之
49	大阪府理学療法士会第1回北 支部新人症例発表大会	延髄外側梗塞によりlateropulsionを呈し，杖歩行獲得に難渋した一例	'20/2	吹田市	リハ技術 部 理学療法 科	渡邊千裕
50	大阪府理学療法士会第1回北 支部新人症例発表大会	多発外傷により脊髄不全麻痺を呈し，ADL獲得に難渋した症例	'20/2	吹田市	リハ技術 部 理学療法 科	池田瑞穂
51	第69回日本病院学会	当院におけるビデオウロダイナミクス検査の取り組み～事前エコー検査の有用性～	'19/8	札幌市	診療技術 部 放射線科	高橋大造
52	第20回大阪病院学会	当院における薬剤総合調整加算の現状	'19/10	大阪市	診療技術 部 薬剤科	若林沙季

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
53	第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会	当院における薬剤総合調整加算への取り組みと効果	'20/2	神戸市	診療技術部 薬剤科	若林沙季
54	第20回大阪病院学会	地域交流スペース「愛仁会ふれあい広場」活動報告～地域との連携・協働を目指して～	'19/10	大阪市	事務部 愛仁会ふれあい広場事務局	松原健一
55	第20回大阪病院学会	新規導入された歯科診療における医事科支援の確立	'19/10	大阪市	事務部 医事科	松田翔子
56	第20回大阪病院学会	大阪府北部地震の経験を踏まえた災害対策の検討～当院における防災意識の改善～	'19/10	大阪市	事務部 管理科	井上良夫
57	障がい者地域医療ネットワーク推進事業実施連絡会研修会	小児の脊髄損傷者支援に関する地域連携について	'19/9	大阪市	地域医療部 医療福祉相談科	琴浦友理
58	第20回大阪病院学会	当院における前方連携の取り組み	'19/10	大阪市	地域医療部 地域医療連携科	杉本奈央
59	第47回日本小児神経外科学会	頭位性頭蓋変形に対する理学療法士の関与の有用性の検討	'19/6	新潟市	高槻在宅サービスセンター 在宅支援科	山下真人
60	第4回日本心身管理理学療法学会学術大会	回復期病院における個別介入を主とした少回数心臓リハビリテーション外来継続患者の傾向と運動機能の改善率	'19/9	那覇市	高槻在宅サービスセンター 在宅支援科	畠田沙耶
61	第3回高槻市研究発表会	利用者視点でサービス担当者会議を開催しよう	'19/12	高槻市	高槻在宅サービスセンター ヘルパー・ケアプラン科	田中 剛
62	第48回日本医療福祉設備学会	客観的指標を用いた清掃委託業者へのインスペクション	'19/11	東京都	院内感染対策室	市橋卓浩
63	第69回日本病院学会	脳血管疾患等の入院患者における回復期リハビリテーション病棟FIM実績指数予測の検討	'19/8	札幌市	診療情報管理室	金子百合恵

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	Journal of Clinical rehabilitation	脳梁離断症状の回復過程に注意障害が影響した1例	29	203-207, 2019	診療部 リハビリテーション科	福田和浩
2	日本脊髄障害医学会誌	退院後脊髄尊書患者における主観的生活満足度の調査	32	98-100, 2019	診療部 リハビリテーション科	松岡美保子
3	日本脊髄障害医学会誌	当院を退院した脊髄損傷患者の排便に関する調査	32	84-85, 2019	診療部 リハビリテーション科	藤井優子
4	Journal of Clinical rehabilitation	栄養障害のある入院患者の体組成の推移分析～栄養と運動が体組成におよぼす効果について	28	401-406, 2019	診療部 リハビリテーション科	磯山浩孝

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
5	愛仁会医学研究誌	メトホルミン長期投与下に発症した亜急性性連合性脊髄変性症の1例	51	39-42, 2020	診療部 リハビリテーション科	清水洋志
6	Journal of Periodontal Research	Identification of genetic risk factors of aggressive periodontitis using genomewide association studies in association with those of chronic periodontitis	54	199-206, 2019	診療部 歯科	北垣次郎太
7	脳の看護実践	在宅復帰を促すケア～看護にリハビリテーションを取り入れる～注意・記憶障害がある場合	4(4)	2019	看護部 リソースナース室	前岸知香
8	リハビリナース	長期にわたる介護生活を受け入れる家族への退院支援	12(1)	75, 2019	看護部 四階西病棟看護科	奥村洋子
9	愛仁会医学研究誌	当院におけるクリニカルラダー作成の取り組み	51	107-108, 2020	看護部	福井希代子
10	脳の看護実践	運動機能がある場合の食事動作の獲得と代償手段	4(1)	48-53, 2019	リハ技術部 作業療法科	田邊晃平
11	感染と消毒	回復期リハビリテーション病院におけるICT活動	26(2)	37, 2019	院内感染対策室	市橋卓浩

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第17回高槻・島本嚙下栄養研究会	在宅医療・栄養管理 座長	'19/7	高槻市	診療部 リハビリテーション科	福田和浩
2	関西監査法人協議会設立40周年記念講演会	超高齢化社会と認知症	'19/9	大阪市	診療部 リハビリテーション科	砂田一郎
3	第9回大阪ショートステイ連絡協議会公開講演会	基調講演I(高田 哲): 学校における医療的ケア, 基調講演II(荒井 洋): 脳性麻痺に対する包括的介入 座長	'19/10	高槻市	診療部 リハビリテーション科	李 容桂
4	第9回大阪ショートステイ連絡協議会公開講演会	総合討論: 重症児・医療的ケア児へのライフステージに応じた支援 座長	'19/10	高槻市	診療部 リハビリテーション科	和田佳子
5	第20回脊損尿路管理研修会	脊損の障害学と尿路管理	'19/11	飯塚市	診療部 リハビリテーション科	松岡美保子
6	脳卒中勉強会	愛仁会リハビリテーション病院におけるリハビリについて	'19/12	高槻市	診療部 リハビリテーション科	砂田一郎
7	看護師特定行為研修フォーラム	特定行為研修の意義～活かすも生かすもあなた次第～	'20/1	大阪市	看護部	作山美香
8	第46回日本脳神経看護研究会	特別企画 市民公開セミナー	'19/10	大阪市	看護部 リソースナース室	前岸知香
9	第6回地域理学療法学会学術大会	一般口述9 病院・施設	'19/12	京都市	リハ技術部	大垣昌之
10	第6回地域理学療法学会学術大会	教育講演4	'19/12	京都市	リハ技術部	大垣昌之

介護老人保健施設ケーアイ

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第19回大老協懇話会（事例発表会）	利用者様とごご家族にわかりやすいリハビリを提供する為に～多職種協働の取り組みから得たこと～	'19/7	大阪市	リハビリテーション科	西田明日香
2	第30回全国介護老人保健施設記念大会 別府大分	利用者にとって安全な環境を提供しよう～片付け忘れのヒヤリハットをなくす取り組み～	'19/11	別府市	療養科	曾根真菜美
3	令和元年度認知症地域支援推進員新任者研修	認知症介護指導者と協働した小学校講座カリキュラムづくり	'19/8	福岡市	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之
4	令和元年度認知症地域支援推進員現任者研修	認知症介護指導者と協働した小学校講座カリキュラムづくり	'19/10	岡山市	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之
5	第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in仙台	認知症カフェを地域で新たに展開しよう！～誰もが住み慣れた地域の中で、生き生きと暮らせることを目指して～	'19/11	仙台市	高槻北地域包括支援センター	水野 悠

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	第20回大老協懇話会（誌上発表）	当施設における過去3年間のインシデント・アクシデント報告の傾向をみる		8, 2020	療養科	堂野前慎也
2	愛仁会医学研究誌	居室リハビリテーションを継続的に行うために仕組みを見直した取り組み	51	109-110, 2020	療養科	横手宏紀

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第30回全国介護老人保健施設記念大会 別府大分	日常ケアとリスク軽減	'19/11	別府市	療養科	川口ひとみ

愛仁会看護助産専門学校

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	看護学生の自己効力感に対するエンパ ワメント研修の効果	51	85-87, 2020	看護教育 部 看護学科	真島久美子
2	愛仁会医学研究誌	助産師教育における入学前課題の効果	51	126-127, 2020	助産教育 部 助産学科	武田麻美

愛仁会総合健康センター

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第6回高槻糖尿病ケアチーム勉強会	自験例におけるGLP-1RAの腎保護作用に関する検討	'19/6	高槻市		富永洋一
2	第60回日本人間ドック学会学術大会	特定保健指導実施率向上に向けての取り組み	'19/7	岡山市	事業管理部 健診科	田辺 司
3	第60回日本人間ドック学会学術大会	胃X線検査時における発砲顆粒再投与に関する一考察	'19/7	岡山市	事業管理部 健診科	古川勝治

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	特定保健指導初回支援の利用率を増やす取り組み	51	123-125, 2020	事業管理部 健診科	小嶋友美

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第18回高槻生活習慣病研究会	循環器内科医から見たメトフォルミンとDPP-4阻害薬の有用性 座長	'19/6	高槻市		富永洋一
2	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	SMBG・CGM・リアルタイムCGM 1 座長	'19/11	大阪市		富永洋一
3	第6回結果にコミットしたチーム医療	糖尿病治療の近未来（特別講演）/患者さんが前向き思考になる指導のポイント（パネルディスカッション） 総合座長	'19/11	高槻市		富永洋一

愛仁会看護助産専門学校

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	看護学生の自己効力感に対するエンパ ワメント研修の効果	51	85-87, 2020	看護教育部 看護学科	真島久美子
2	愛仁会医学研究誌	助産師教育における入学前課題の効果	51	126-127, 2020	助産教育部 助産学科	武田麻美

明石医療センター

口頭発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	WONCA2019	Skin-to-renal pelvis distance can predict the sensitivity of costobral angle knock pain in patients with acute focal bacterial nephritis.	'19/5	京都市	診療部 総合内科	金子昌裕
2	WONCA2019	Heckerling's criteria used in a Japanese primary care setting to distinguish community-acquired pneumonia.	'19/5	京都市	診療部 総合内科	石丸直人
3	APSR2019 (第24回アジア太平洋呼吸器学会)	PREDICTING ATYPICAL PATHOGENS IN COMMUNITY-ACQUIRED PNEUMONIA : EPIDEMIOLOGICAL STUDY OF RESPIRATORY TRACT INFECTION USING MULTIPLEX PCR ASSAYS	'19/11	ハノイ, ベトナム	診療部 総合内科	石丸直人
4	Diagnostic Error in Medicine	Delayed symptoms of miliary tuberculosis in 90-year-old Japanese woman with fever after hospitalization	'19/11	ワシントン, アメリカ	診療部 総合内科	官澤洋平
5	Diagnostic Error in Medicine	Delayed diagnosis of linezolid-induced lactic acidosis by searsh satisficing and limited knowledge.	'19/11	ワシントン, アメリカ	診療部 総合内科	水木真平
6	日本プライマリケア連合学会第33回近畿地方会	活動報告：栄養サポートチームによるリフィーディング症候群予防食提供の実績	'19/12	姫路市	診療部 総合内科	官澤洋平
7	第226回日本内科学会近畿地方会	座骨神経痛を契機に診断した仙腸関節炎の1例	'19/12	大阪市	診療部 研修医	川村達也
8	第59回日本呼吸器学会学術講演会	抗MAC抗体（キャピリアMAC抗体ELISA）の抗体価と肺MAC症の診断及び臨床像についての検討	'19/4	東京都	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
9	第131回兵庫県肺癌懇話会	免疫チェックポイント阻害薬 iAEをどう見つけるか～臨床経験を踏まえて～	'19/6	神戸市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
10	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	気管支肺胞洗浄液のフローサイトメトリー分析が有用であった成人T細胞白血病（ATL）の再発肺病変の1例	'19/7	東京都	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
11	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	術後20年で気管支内転移を認めた前立肺癌の1例	'19/7	東京都	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
12	第93回日本呼吸器学会近畿地方会	薬剤リンパ球刺激試験（DLST）により原因薬剤を推定できたイブプロフェンによる薬剤性肺炎の1例	'19/7	京都市	診療部 研修医	樺田高浩
13	第93回日本呼吸器学会近畿地方会	症候性筋サルコイドーシスの一例	'19/7	京都市	診療部 呼吸器内科	高宮 麗, 富岡洋海（西市民病院との共同）
14	第93回日本呼吸器学会近畿地方会	ペムプロリズマブで副腎不全を発症した非小細胞肺癌の2症例	'19/7	京都市	診療部 呼吸器内科	藤本昌大
15	Non Communicable Disease Conference in Akashi	息切れへの積極的アプローチ～IPFとCOPDの早期発見と重症化予防のために～	'19/7	明石市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
16	第6回神戸呼吸器内科勉強会	右大量胸水の精査中に診断された横隔膜交通症の1例	'19/7	神戸市	診療部 研修医	尾本仁那
17	第6回神戸呼吸器内科勉強会	薬剤リンパ球刺激試験（DLST）により原因薬剤を推定できたイブプロフェンによる薬剤性肺炎の1例	'19/7	神戸市	診療部 研修医	樺田高浩
18	兵庫県鍼灸師会 夏期大会	「最新の肺がん診療 -ここまで進歩した肺がん治療-	'19/8	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
19	高砂市医師会生涯教育研修会	AMRをふまえた外来呼吸器感染症治療の実際	'19/8	高砂市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
20	オフエブ座談会in兵庫	IPF診療の課題を考える	'19/8	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
21	GSK Asthma Seminar in 舞子ピラ	咳を伴う疾患をどのように診療するか -ガイドラインから我流処方箋まで-	'19/9	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
22	第34回明石呼吸器懇話会	呼吸器疾患における症例検討	'19/10	明石市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
23	第34回明石呼吸器懇話会	呼吸器疾患における症例検討	'19/10	明石市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
24	Asthma Symposium in 淡路	重症喘息へのアプローチ	'19/10	洲本市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
25	第13回神戸内科学セミナー	同時期に大量血胸で発見された血縁者のOsler病の二例	'19/10	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡本真理子
26	第29回びまん性肺疾患勉強会	両肺の多発浸潤影があり、一部増大を認めたIgG4高値の一例。両側末梢優位嚢胞性変化フォロー中に診断された強皮症の症例	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	池田美穂
27	第29回びまん性肺疾患勉強会	高IgG4血症を伴った小粒状影の症例	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
28	第124回日本結核病学会近畿支部学会	間質性肺炎に対する免疫抑制療法中に発症した非結核性抗酸菌性腱鞘滑膜炎の1例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
29	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	化学療法施行後1年で細胞性免疫低下によるニューモシスチス肺炎を発症した播種性非結核性抗酸菌症の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
30	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	局所麻酔下胸腔鏡で横隔膜交通症が同定できた、原発性胆汁性肝硬変における胆性境水の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	池田美穂
31	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	仮面尿崩症を呈した肺腺癌の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	橋本梨花
32	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	ローヤルゼリーストロンGRによる薬剤性肺障害の一例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	川口亜記
33	第94回日本呼吸器学会近畿地方会	同時期に血胸で発症し緊急手術を要したOsler病の親子例	'19/11	大阪市	診療部 呼吸器内科	岡本真理子
34	第43回Kobe Chest Disease Conference	COPDについて増悪アウトカム、ACOを中心にステロイドを考える～	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
35	第43回Kobe Chest Disease Conference	肺癌治療中に内分泌異常を来した、診断に苦慮した3例	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	村上翔子
36	第60回日本肺癌学会学術集会	Pembrolizumab初回投与後に致死的心筋炎を発症したEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の1例	'19/12	大阪市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
37	Seaside Interstitial Lung Disease Seminar	当院におけるIPF診療の現状	'19/12	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
38	第51回神戸肺癌カンファレンス	両側胸膜直下の嚢胞性病変が認められた1例	'19/12	神戸市	診療部 呼吸器内科	村上翔子
39	産業医講習会	じん肺の画像診断 -石綿関連疾患を含めて-	'20/2	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
40	EuroPCR2019	impact of OCT-guided PCI on clinical outcomes in comparison between patients with and without diabetes mellitus	'19/5	パリ, フランス	診療部 循環器内科	黒田 優
41	第127回日本循環器学会近畿地方会	家族性高コレステロール血症 (FH) を背景に合計6枝の病変を呈した親子の症例	'19/6	京都市	診療部 循環器内科	近都正幸
42	第83回日本循環器学会学術集会	Impact of Quadripolar Left Ventricular Leads in Cardiac Resynchronization Therapy from Long Term outcomes	'19/7	横浜市	診療部 循環器内科	松浦岳司
43	第66回日本不整脈心電学会学術大会	Usefulness of Implantable Loop Recorder in detecting arrhythmic or non-arrhythmic events with unexplained syncope;from long term follow-up	'19/7	横浜市	診療部 循環器内科	松浦岳司
44	第66回日本不整脈心電学会学術大会	A Case of Upgrade to Cardiac Resynchronization Therapy with His Bundle Pacing from Right Ventricular Pacing.	'19/7	横浜市	診療部 循環器内科	鈴木雄也
45	ESC2019	New continuous glucose monitoring reveals hypoglycemia risk in both diabetic and nondiabetic patients with acute myocardial infarction	'19/8	パリ, フランス	診療部 循環器内科	黒田 優
46	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	A case of acute occlusion of Viabahn stent graft which was bail-out by Fogarty catheter and high-pressure ballooning	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	河田正仁
47	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	・No complications within 30days in 74 consecutive patients treated with TAVI ・ Impact of OCT-guided PCI using a specific stent optimization strategy on Clinical Outcomes in Comparison between Patients with and without Diabetes Mellitus.	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	黒田 優
48	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	Two cases of May-Thurner syndrome successfully treated by balloon angioplasty and catheter directed thrombolysis through the popliteal vein without stenting.	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	野田 翼
49	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	Fever up after deployment of VIABAHN	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	近都正幸
50	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	パイアパーステントグラフトの閉塞に対してdistal protection 下の血栓吸引とバルーン拡張でbail-outした1例	'19/9	名古屋市	診療部 循環器内科	藤岡知夫
51	第225回日本内科学会近畿地方会	メトホルミン, SGLT2阻害薬内服中に乳酸アシドーシスを来した高齢者糖尿病の1例	'19/9	大阪市	診療部 循環器内科	片平龍太郎
52	第23回日本心不全学会学術集会	A case of acromegaly found with hypertrophic cardiomyopathy	'19/10	広島市	診療部 循環器内科	近都正幸
53	第66回日本不整脈心電学会学術大会	Single center initial experiences of the device extraction with the excimer laser sheath and the Needle's Eye Snare.	'19/10	横浜市	診療部 循環器内科	平山恭孝
54	CCT2019	Fire session 笑えるか笑えないかは結果次第 珍Complication Session	'19/10	神戸市	診療部 循環器内科	野田 翼
55	カテーテルアブレーション関連連秋季大会2019	心房細動 (AF) アブレーション後にfocal atrial tachycardia (AT) を認めた2症例	'19/11	金沢市	診療部 循環器内科	平山恭孝
56	ストラクチャークラブライブデモンストレーション2019	No complications within 30days in 74 consecutive patients treated with TAVI	'19/11	仙台市	診療部 循環器内科	黒田 優

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
57	第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT2019)	腹部大動脈末端の慢性閉塞に対してステント留置による血管内治療にて治癒した一例	'19/11	豊橋市	診療部 循環器内科	藤岡知夫
58	第128回日本循環器学会近畿地方会	左室流出路狭窄から中部狭窄に移行し、2回のPTSMAで治療した閉塞性肥大型心筋症の1例	'19/11	大阪市	診療部 循環器内科	野田 翼
59	第33回CVIT近畿地方会	一般口演10：SHD	'20/1	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
60	第33回CVIT近畿地方会	PTSMAにて著明が改善を認めたSAMに伴うMRの症例	'20/1	大阪市	診療部 循環器内科	近都正幸
61	すこやか広場	逆流性食道炎	'19/6	明石市	診療部 消化器内科	ペンスレイマン・ヤハヤ
62	明石播磨消化管研究会	直腸GISTに対して内視鏡的粘膜下層及び内輪筋層合併切除を行った1例	'19/7	明石市	診療部 消化器内科	中井達也
63	第102回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会	胃ESD穿孔後4年目で再発をきたした進行胃癌の一例	'19/7	大阪市	診療部 消化器内科	中井達也
64	すこやか広場	急性膵炎から慢性膵炎	'19/9	明石市	診療部 消化器内科	古松恵介
65	United European Gastroenterology UEG week	COMPARING THE SAFETY AND EFFICACY OF COLD SNARE POLYPECTOMY FOR SMALL COLORECTAL NEOPLASMS TO EMR AND CONVENTIONAL POLYPECTOMY	'19/10	バルセロナ, スペイン	診療部 消化器内科	ペンスレイマン・ヤハヤ
66	第111回日本消化器病学会 近畿支部例会	可動性に富む肝外発育型肝細胞癌の1例	'19/10	大阪市	診療部 消化器内科	中井達也
67	神戸大学肝臓研究会 (Liver Forum)	E型肝炎の疾病から学ぶ	'19/10	神戸市	診療部 消化器内科	大西紘平
68	すこやか広場	脂肪肝から肝硬変・肺がんへ	'19/12	明石市	診療部 消化器内科	孝橋信哉
69	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	直腸GISTに対して内視鏡的粘膜下層及び内輪筋層合併切除を行った1例	'20/1	大阪市	診療部 消化器内科	中井達也
70	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	内視鏡的粘膜切除術(EMR)にて止血が得られた大量血便を伴った早期大腸癌の一例	'20/1	大阪市	診療部 消化器内科	大西紘平
71	第13回東播・淡路胆膵研究会	膵癌治療の最近の話題	'20/1	神戸市	診療部 消化器内科	古松恵介
72	神戸大学消化器内科同門会	当院で経験した胆嚢出血の2症例	'20/2	神戸市	診療部 消化器内科	大西紘平
73	神戸消化管研究会	当院における上部消化管出血の現状とPPI投与の必要性の検討	'20/2	神戸市	診療部 消化器内科	中井達也
74	すこやか広場	過敏性腸症候群	'20/2	明石市	診療部 消化器内科	大西紘平
75	第27回神戸・透析と情報懇話会	血圧管理に難渋した糖尿病性腎症患者の治療	'19/5	神戸市	診療部 腎臓内科	米倉由利子
76	第62回日本腎臓学会学術総会	ネフローゼ症候群におけるコレステロール, コリンエステラーゼの変化と臨床的特徴	'19/6	名古屋市	診療部 腎臓内科	後藤公彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
77	第3回Kobe Master Class for GIM	無症候性高尿酸血症 ミニレクチャー「ガイドライン改訂のポイント」	'19/7	神戸市	診療部 腎臓内科	米倉由利子
78	第4回神戸大学腎臓内科学術研究会	片側大量胸水を呈したCKD患者の一例	'19/8	神戸市	診療部 腎臓内科	寺田菜々子
79	第9回国際腹膜透析学会アジア太平洋大会	A case of eosinophilic peritonitis in a long-term peritoneal dialysis patient successfully treated with oral steroid therapy.	'19/9	名古屋市	診療部 腎臓内科	大田健人
80	兵庫県PD Up to dateセミナー	腹膜透析導入後4年で好酸球性腹膜炎を発症し、ステロイド投与が奏功した一例	'20/1	神戸市	診療部 腎臓内科	大田健人
81	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	非糖尿病患者における体格指数や体組成指標と日内血糖変動指標との関連	'19/5	仙台市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	中村友昭
82	第225回日本内科学会近畿地方会	ニボルマブによるirAEでSchmidt症候群を合併した症例	'19/9	大阪市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	辻本泰貴
83	第225回日本内科学会近畿地方会	メトホルミン、SGLT2阻害薬内服中に乳酸アシドーシスを来した高齢者糖尿病の一例	'19/9	大阪市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科 総合内科	片平龍太郎
84	第40回日本肥満学会学術集会	非糖尿病患者におけるBMIや腹囲、体脂肪率と日内血糖変動指標との関連	'19/11	東京都	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	中村友昭
85	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	ソフトドリンク多飲による糖尿病性ケトアシドーシスに非閉塞性腸管虚血を合併した一例	'19/11	大阪市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	辻本泰貴
86	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	インスリン分泌、感受性/抵抗性指標と種々の血糖変動指標との関連に関する検討	'19/11	大阪市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	中村友昭
87	第29回臨床内分泌代謝UPTODATE	中枢性尿崩症で発症し原因疾患の同定に難渋した67歳男性の症例	'19/11	高知市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	辻本泰貴
88	第30回日本間脳下垂体腫瘍学会	中枢性尿崩症で発症し1年半で汎下垂体機能低下症を来したIgG41関連下垂体炎の1例	'20/2	東京都	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	千原和夫
89	第20回日本内分泌学会近畿地方会	2年間以上形態学的変化のなかった肺腫瘍が原因であった異所性ACTH症候群の一例	'20/2	京都市	診療部 糖尿病・ 内分泌内科	辻本泰貴
90	第277回日本小児科学会兵庫県地方会	転倒後に発症したと考えられた母児間輸血症候群の1例	'19/5	神戸市	診療部 小児科	大西徳子, 藤井順子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
91	第349回東播小児臨床談話会	アシクロビルにより血球減少をきたした水痘罹患ネフローゼ症候群の一例	'19/5	明石市	診療部 小児科	尾本仁那, 藤井順子, 大西徳子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
92	第57回日本小児歯科学会大会	先天性歯を出生直後に抜歯し3年間経過観察を行った1例	'19/6	札幌市	診療部 小児科	春木隆伸, 横山直樹
93	中外社内勉強会	大腸癌治療の最近の話題	'19/5	大阪市	診療部 外科	豊川晃弘
94	2019年明石医療センター薬剤部勉強会	大腸癌治療の最近の話題	'19/6	明石市	診療部 外科	豊川晃弘

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
95	大鵬薬品社内勉強会	大腸癌治療の最近の話題	'19/7	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
96	2019年度明石医療センター地域医療連携の会	外科診療の深化と診療体制の充実	'19/9	明石市	診療部 外科	豊川晃弘
97	第1回神戸消化器癌フォーラム	下部消化管腹腔鏡手術における当院の取り組み	'19/9	神戸市	診療部 外科	福田善之
98	令和元年 明石市薬剤師会学術研修会	大腸癌の薬物療法	'19/9	明石市	診療部 外科	豊川晃弘
99	令和 胃癌免疫療法セミナー	切除不能StageIV胃癌に対し、Nivolumabを使用した1例	'19/10	神戸市	診療部 外科	水田憲利
100	令和元年度兵庫県・明石市健康大学講座	大腸がん～診断から最新の治療法まで～	'19/10	明石市	診療部 外科	豊川晃弘
101	明石内視鏡外科カンファレンス	腹腔鏡下直腸癌手術手技	'19/10	明石市	診療部 外科	水田憲利
102	中外社内研修会	切除不能大腸癌診療における現状と課題	'19/11	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
103	第81回日本臨床外科学会総会	異動盲腸を伴う盲腸軸捻転症に対し、緊急手術で治療しえた1例	'19/11	高知市	診療部 外科	水田憲利
104	第81回日本臨床外科学会総会	当院で経験した胃原発気管支原性嚢胞の1例	'19/11	高知市	診療部 外科	安藤正恭
105	第81回日本臨床外科学会総会	緊急手術にて加療し得たMeckel憩室穿孔の一例	'19/11	高知市	診療部 外科	中西 崇
106	JDDW2019	第1空腸動脈領域に生じた仮性動脈瘤に対する塞栓術後に、手術加療を施行しえた胃癌の1例	'19/11	神戸市	診療部 外科	水田憲利
107	第11回膵臓内視鏡外科研究会	腹腔鏡下膵体尾部切除術における脾臓受動の工夫	'19/12	横浜市	診療部 外科	沢 秀博
108	第32回日本内視鏡外科学会	肥満患者における腹腔鏡下膵体尾部切除術時の脾臓周囲の工夫	'19/12	横浜市	診療部 外科	沢 秀博
109	第32回日本内視鏡外科学会	腹腔鏡下Ladd手術にて治療し得た成人発症腸回転異常症の1例	'19/12	横浜市	診療部 外科	水田憲利
110	武田薬品医学教育会	切除不能大腸癌診療における実際と緩和ケアについて	'19/12	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
111	第142回山陽循環器病談話会	術中左房解離を呈した1例	'19/4	加古川市	診療部 心臓血管 外科	当广 遼
112	AATS Mitral Conclave2019	One Year Result Of A Modified Loop Technique (Loop-in-Loop Technique) For All Kinds Of Degenerative Mitral Value Insufficiency	'19/5	ニュー ヨーク, アメリカ	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
113	第47回日本血管外科学会学術総会	真腔形態から見た急性A型大動脈解離術後に下行大動脈偽腔開存を有する症例の遠隔期成績	'19/5	名古屋市	診療部 心臓血管 外科	渡邊俊貴
114	第67回神戸心臓外科研究会	経カテーテル大動脈留置術前に発症した心タンポナーデの一例	'19/5	神戸市	診療部 心臓血管 外科	渡邊俊貴

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
115	第62回関西胸部外科学会学術集会	B型大動脈解離に対しPETTICOAT法を施行した2例	'19/6	徳島市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
116	第62回関西胸部外科学会学術集会	僧帽弁形成術後の再手術から考える理想的な初回僧帽弁形成	'19/6	徳島市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
117	神戸医療産業都市推進機構 第26回医療機器等事業化促進 プラットフォームセミナー (第3回薬機法勉強会「デジタルヘルスと法規制」)	医療現場からみたITベンチャー	'19/6	神戸市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
118	第24回日本冠動脈外科学会学術大会	セッション：Off-the-job Training	'19/7	金沢市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
119	第24回日本Advanced Heart & Vascular Surgery / OPCAB研究会	ディベート「MICSの展望～最適なMICS手術のアプローチは?～」直視下MICSでもその低侵襲性は損なわれない。	'19/7	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
120	第4回日本低侵襲手術学会学術集会	Left atrial intramural hematoma caused by mitral valve plasty and left atrial Cryo-MAZE via right minithoracotomy.	'19/7	東京都	診療部 心臓血管外科	当廣 遼
121	第4回日本低侵襲手術学会学術集会	僧帽弁輪形成および三尖弁輪形成を併施した3D胸腔鏡下心房中隔欠損孔閉鎖	'19/7	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
122	第67回日本心臓病学会学術集会	ケースカンファレンス【弁膜症】	'19/9	名古屋市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
123	第143回山陽循環器病談話会	ベントール術後右冠動脈瘤を呈したマルファン症候群の一例	'19/9	加古川市	診療部 心臓血管外科	吉谷信幸
124	第72回日本胸部外科学会	後尖病変に対する僧帽弁形成におけるnon resection policyの正当性	'19/10	京都市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
125	第8回国際人工臓器学会学術大会・第57回日本人工臓器学会	The cutting edge of minimally invasive mitral valve surgery in Japan	'19/11	大阪市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
126	第68回神戸心臓外科研究会	心室中部閉塞性肥大型心筋症による難治性心室頻拍に対し、心外膜アブレーション及び心筋切除術が著効した1例	'19/11	神戸市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
127	第31回関東心臓外科手術手技研究会	失敗しない胸腔鏡下僧帽弁形成	'19/11	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
128	第5回東部Heart Network Conference	胸腔鏡下アプローチでも妥協しない僧帽弁形成術	'19/11	福岡市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
129	第2回兵庫県血管内治療カンファレンス	SMA分枝解離を伴ったPETTICOAT TEVARで悩んだ症例	'19/11	神戸市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
130	第10回日本心臓弁膜症学会	Avalus生体弁の初期血行動態成績	'19/11	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
131	第32回日本内視鏡外科学会総会	胸腔鏡下弁膜症手術の普及状況	'19/12	横浜市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
132	広島MICSシンポジウム	待ったなし！胸腔鏡下僧帽弁形成術の標準術式化	'20/1	広島市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
133	第82回兵庫血管外科研究会	診断に難渋した下腸間膜動脈瘤の一例	'20/1	神戸市	診療部 心臓血管外科	三里卓也
134	The Society of Thoracic Surgeons (STS) 56th Annual Meeting	講師として参加	'20/1	ニューオリンズ, アメリカ	診療部 心臓血管外科	岡本一真

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
135	28th Congress of the Asian Society for Cardiovascular & Thoracic Surgery	Two-years result of left atrial cryoablation concomitant with mitral valve surgery via right minithoracotomy	'20/2	チェンマイ, タイ	診療部 心臓血管外科	岡本一真
136	第50回心臓血管外科学会学術集会	Type2エンドリーク予防目的の術中腰動脈塞栓を施行した腹部ステントグラフト内挿術	'20/3	福島市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
137	第119回日本外科学会定期学術集会	当院におけるデジタル胸腔ドレナージシステム (Thopaz) の有用性の検討	'19/4	大阪市	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
138	第36回日本呼吸器外科学会総会・学術総会	横隔膜より出欠を認めた突発性血胸の1例	'19/5	大阪市	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
139	第36回日本呼吸器外科学会総会・学術総会	デジタル胸腔ドレナージシステムによる肺切術後の胸腔内圧設定についての検討	'19/5	大阪市	診療部 呼吸器外科	内田孝宏
140	第60回日本肺癌学会学術集会	原発巣不明縦隔リンパ節癌の1切除例	'19/12	大阪市	診療部 呼吸器外科	内田孝宏
141	第132回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	閉鎖性下肢骨折に対する急性期創外固定法:Aachen algorithmを用いて	'19/4	津市	診療部 整形外科	脇 貴洋
142	第132回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	手術治療を要した両側踵骨骨折の一例	'19/4	津市	診療部 研修医	長 陽二郎
143	第132回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	当院における後果骨片を伴った足関節果部骨折の治療成績	'19/4	津市	診療部 整形外科	黒島康平
144	第132回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	当院における四肢壊死性筋膜炎の治療経験	'19/4	津市	診療部 整形外科	安喰健佑
145	20th European Congress of Trauma & Emergency Surgery	Optimal treatment for unstable distal clavicular fractures using a novel plate, "Scorpion Plate" and "Scorpion Neo Plate", without crossing acromioclavicular joint	'19/5	ブラハ, チェコ	診療部 整形外科	脇 貴洋
146	第92回日本整形外科学会学術総会	Trabecular-metalコンポーネントによるPS型セメントレス人工関節置換術の短期治療成績	'19/5	横浜市	診療部 整形外科	安喰健佑
147	第45回日本骨折治療学会	Hansson PinLocを用いた大腿骨頸部骨折の骨接合術の治療成績 (前向き調査での中期報告)	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	松島真司
148	第45回日本骨折治療学会	・Aachen algorithm を用いた閉鎖性下肢骨折に対する急性期創外固定法 ・Fix and treat! : 外傷整形外科医による2次骨折予防～骨粗鬆症回診の導入～	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	脇 貴洋
149	第45回日本骨折治療学会	大腿骨転しか骨折に対するロングガンマネイルの治療成績	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	黒島康平
150	第45回日本骨折治療学会	当院における逆行性髓内釘を用いた60歳以上の高齢者大腿骨遠位部骨折の治療成績	'19/6	福岡市	診療部 整形外科	安喰健佑
151	第133回中部日本整形外科・災害外科学会	大腿骨頸部骨折におけるHansson Pinlocを用いた骨接合症例での合併症についての検討	'19/9	神戸市	診療部 整形外科	脇 貴洋
152	第133回中部日本整形外科・災害外科学会	当院における小児上腕骨顆上骨折の治療成績	'19/9	神戸市	診療部 整形外科	重本理花
153	ORTHOPAEDIC-TRAUMA - ASSOCIATION	Optimal intramedullary nailing for trochanteric fractures:The importance of distal locking screw and reduction position	'19/9	デンバー, アメリカ	診療部 整形外科	脇 貴洋

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
154	第21回日本骨粗鬆症学会	Fix&treat! - 外傷整形外科医の二次骨折予防：骨粗鬆症ソロ回診と大腿骨近位部骨折術後フォローでのゾレドロン酸（リクラスト）導入による薬剤adherence向上の可能性 -	'19/10	神戸市	診療部 整形外科	脇 貴洋
155	第71回日本産科婦人科学会学会術講演会	造影MRI検査で診断に至らなかった産褥卵巣静脈血栓症	'19/4	名古屋市	診療部 産婦人科	中川公平
156	2019年度位育会臨床セミナー	妊娠32週で血胸を発症し緊急帝王切開術、胸腔鏡下血腫除去術を施行した1例	'19/8	神戸市	診療部 産婦人科	北井沙和
157	第43回日本女性栄養・代謝学会学会術集会	診断に苦慮した産褥卵巣静脈血栓症	'19/9	神戸市	診療部 産婦人科	中川公平
158	第22回愛仁会グループ産婦人科講演会 合同カンファレンス	原発性卵巣癌との鑑別が困難であった悪性リンパ腫の2症例	'20/2	大阪市	診療部 産婦人科	田中美喜歩
159	日本心臓血管麻酔学会	胸部B型大動脈解離に対するステントグラフト内挿術施行後に逆行性A型大動脈解離を合併した一例	'19/9	京都市	診療部 麻酔科	松岡基行
160	日本心臓血管麻酔学会	術中経食道心エコーにおいても二尖弁との鑑別に苦慮した大動脈一尖弁の症例	'19/9	京都市	診療部 麻酔科	小野嘉史
161	公益社団法人日本麻酔科学会第65回関西支部学会術集会	妊娠中に肺動脈血栓の出血による血胸を起こした1例	'19/9	大阪市	診療部 麻酔科	小野嘉史
162	第47回集中治療医学会学会術集会・プレングレブPCASセミナー・ICD講習会	TAVI術後に生じた心室中部閉塞症による血行動態悪化に対し、TTEが治療方針決定に有用であった一例	'20/3	名古屋市	診療部 麻酔科	服部洋一郎
163	第47回集中治療医学会学会術集会・プレングレブPCASセミナー・ICD講習会	Impella挿入後の大動脈弁損傷に対してsurgical aortic valve replacementを施行し、救命し得た一例	'20/3	名古屋市	診療部 麻酔科	小野嘉史
164	第62回日本糖尿病学会年次集会アボットジャパン展示ブース スモールセミナー	FreeStyleリブレを活用した療養指導のPoint～症例を通して～	'19/5	仙台市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
165	TSUNAGU for Diabetes (発表)	話すことからはじめよう！～やる気と行動につなげる関わり～	'19/6	神戸市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
166	大正メディカルセミナー in 高知	やる気と行動につなげる関わり～看護師が行う血糖コントロール～	'19/6	高知市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
167	第69回日本病院学会	血糖コントロールにおける特定行為の活用～認定看護師だからできるインスリン調整～	'19/8	札幌市	看護部 3階病棟看護科	○津崎好美, 作山美香
168	日本糖尿病教育・看護学会	フットケアの知識と技術の向上を目指して～地域交流の輪を広げる活動～	'19/9	千葉市	看護部 南3階病棟看護科	○丸尾 遥, 津崎好美
169	日本糖尿病教育・看護学会	看護師特定行為と患者の自己効力を高めるアプローチ～看護師の行う血糖コントロール～	'19/9	千葉市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
170	第1回西播磨下肢救済ネットワーク～足病・フットケア講習会～	フットケアの知識と技術の向上を目指して～地域交流の輪を広げる活動～	'19/10	姫路市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
171	第141回糖尿病教), 教育学習研究会 (トップセミナー) 第180回IIDES糖尿病研究会, 第115回CDE兵庫県連合会研究会～合同研究会～	やる気と行動につなげる関わり～Flash Glucose Monitoringを活用した療養指導～	'19/10	神戸市	看護部 3階病棟看護科	津崎好美
172	日本手術看護学会	術後回復室での疼痛コントロールの実態調査	'19/10	岡山市	看護部 手術中材看護科	○前川優莉菜, 西田 茜, 鎌田愛理, 加藤理利子, 中谷昌平
173	日本心不全学会	NYHA心機能分類Ⅲ慢性心不全患者への家事動作に着目した支援～作業療法士との連携による生活指導の実施～	'19/10	広島市	看護部 3階病棟看護科	前田京子

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
174	日本看護学会	他部署応援に行く救急外来看護師の感情常態に及ぼす要因	'19/10	名古屋市	看護部 救急内視鏡センター	○東 美紀, 北山未由樹, 西田千春, 海士部博子
175	第21回フォーラム「医療の改善活動」	パースサポートの充実化を図ろう	'19/11	仙台市	看護部 南2階病棟 看護科	岡村真央
176	兵庫県看護協会看護実践研究会	後期高齢患者が開心術を受けるにあたっての意思決定に影響した要因	'19/11	神戸市	看護部 南3階病棟 看護科	○竹村友亜, 神田裕子, 山根佳奈, 安達左陽華, 大西恒毅
177	日本環境感染学会	当院における針刺しの実態と取り組みの成果	'20/2	横浜市	感染管理室	西野雅美
178	日本助産師学会学術集会	当法人における院内助産の運営～A病院での院内助産開設から2年を振り返る～	'20/3	新潟市	看護部 南2階病棟 看護科	○村田佐登美, 峯岸美恵子, 倉本孝子
179	医療薬学フォーラム2019 第27回クリニカルファーマシーシンポジウム	明石市の保険薬局における抗菌薬処方への対応についての現状調査	'19/7	広島市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
180	第4回明石薬業連携研修会	明石市の保険薬局における抗菌薬処方への対応についての現状調査の報告	'19/9	明石市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
181	第29回日本医療薬学会年会	より良い薬物治療を提供するために伝わる記録を書くためのコツ もう悩まない「A（アセスメント）」の記載のコツ より良い薬物治療を提供するために伝わる記録を書くためのコツ （オーガナイザー、座長も兼務） もう悩まない「A（アセスメント）」の記載のコツ	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
182	第29回日本医療薬学会年会	薬剤師における外来化学療法室での専従体制の評価	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	小川智孝
183	第29回日本医療薬学会年会	若年者と高齢者間におけるバンコマイシンの初回投与設計に関する検討	'19/11	福岡市	技術部 薬剤科	高田容希
184	第41回日本病院薬剤師会 近畿学術大会	明石医療センター6階病棟におけるポリファーマシーへの取り組み	'20/2	神戸市	技術部 薬剤科	中村綾花
185	第41回日本病院薬剤師会 近畿学術大会	アブレーション短期入院患者に対する薬剤師による術後介入の充実化の検討	'20/2	神戸市	技術部 薬剤科	吉本佳那子
186	第41回日本病院薬剤師会 近畿学術大会	手術室の薬品管理における薬剤師の介入による効果	'20/2	神戸市	技術部 薬剤科	中嶋みなみ
187	臨床画像研究会 若葉会 第11回	極める！画像診断30	'19/4	小野市	技術部 放射線科	黒田大輔
188	臨床画像研究会 若葉会 第11回	極める！画像診断30	'19/4	小野市	技術部 放射線科	宮座千絵
189	JRC	透析患者におけるREACT法の有用性	'19/4	横浜市	技術部 放射線科	佃 将行
190	BASIC MRI	SNRについて	'19/9	神戸市	技術部 放射線科	久森克利
191	126回関西IVR撮像技術研究会	非造影下肢MRAにおけるcompressed SENCEの有用性	'19/10	大阪市	技術部 放射線科	佃 将行
192	はりまCT	認知症画像検査の実際	'19/11	明石市	技術部 放射線科	久森克利

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
193	第89回神戸臨床心エコー図研究会	血栓と腫瘍性病変との鑑別が困難であったcalcified amorphous tumorの一例	'19/6	神戸市	技術部 検査科	木村彩乃
194	第69回日本病院学会	当院でのEBUS-TBNAにおける迅速細胞診の運用と有用性について	'19/8	札幌市	技術部 検査科	佐川聖羅
195	兵庫県臨床検査技師会 第29回東播地区研究発表会	縦隔炎から中毒性表皮壊死症を引き起こした一例	'20/2	加古川市	技術部 検査科	泰間大地
196	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	AMI後、自転車エルゴメーターによる負荷量調整が運動耐容能改善につながった一例	'19/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	井ノ元宏希
197	Medtronic Optimaizing Perfusion Conference	経皮的送血カニューレの流量特性	'19/8	東京都	技術部 臨床工学科	柴田康成
198	Kobe Perfusion Conference	右開胸MICSでの送血カニューレトラブル	'19/8	神戸市	技術部 臨床工学科	柴田康成

論文発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	Internal medicine	Kikyo-to vs. Placebo on Sore Throat Associated with Acute Upper Respiratory Tract Infection: A Randomized Controlled Trial.	58	2459-2465, 2019	診療部 総合内科	石丸直人
2	Cogent Medicine	A comprehensive view to reflection on the palliative care approach for family medicine residents: A modified Delphi method.	6	1-51, 2019	診療部 総合内科	石丸直人(共著)
3	Internal medicine	Syphilitic Cervicitis with Cervical Cancer Presenting as Oropharyngeal Syphilis.	58	2251-2255, 2019	診療部 総合内科	石丸直人
4	European journal of rheumatology	Recurring Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome in a Patient With Polymyositis/Systemic Sclerosis Overlap Syndrome Triggered by Scleroderma Renal Crisis	6	158-160, 2019	診療部 総合内科 初期研修医	小島正樹
5	Journal of infection and chemotherapy	Cryptococcus endocarditis: A case report and review of the literature.	25	901-905, 2019	診療部 総合内科	中島隆弘
6	Le infezioni in medicina	Necrotizing fasciitis and sepsis caused by Aeromonas hydrophila.	27	429-435, 2019	診療部 総合内科	辻本泰貴
7	Internal medicine	Japanese Spotted Fever with Hemophagocytic Lymphohistiocytosis.	59	445-451, 2019	診療部 総合内科	金子昌裕
8	Journal of the American Podiatric Medical Association	Gout in the Flexor Hallucis Longus Tendon Mimicking Cellulitis: A Case Report.	110	Article 8, 2020	診療部 総合内科	大西 潤
9	愛仁会医学研究誌	メトホルミン, GLT2 阻害薬内服中に乳酸アシドーシスを来した高齢者2型糖尿病の1例	51	43-45, 2020	診療部 総合内科	片平龍太郎
10	Clin Med Insights Blood Disord.	Effects of Serum Albumin Levels on Antithrombin Supplementation Outcomes Among Patients With Sepsis-Associated Coagulopathy: A Retrospective Study.	Vol. 12	1-6, 2019	診療部 救急科	蛭名正智
11	気管支学	尿毒症性胸膜炎患者における局所麻酔下胸腔鏡検査による胸膜病変の検討	41(3)	233-238, 2019	診療部 呼吸器内科	梅澤佳乃子, 大西 尚, 湯村真沙子, 藤井真央, 吉崎飛鳥, 川本めぐみ, 尾野慶彦, 堂國良太, 吉村 将

No.	掲載誌名	表 題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著 者
12	呼吸臨床	両側肺野にすりガラス陰影が出現し肺水腫との鑑別を要した異所性肺石灰化症の1例	3(6)	1/7-7/7, 2019	診療部 呼吸器内科	二ノ丸 平, 島田天美子, 岩本夏彦, 藤本昌大, 高宮 麗, 川口亜記, 池田美穂, 島山由記久, 岡村佳代子, 吉村 将, 大西 尚
13	Respirology Case Reports	Primary pleural synovial sarcoma with repeated resection leading to long-term survival	7(8)	2019	診療部 呼吸器内科	Naoko Katsurada, Hisashi Ohnishi, Miho Ikeda, Naoe Jimbo, Yukihisa Hatakeyama, Kayoko Okamura
14	Cancer Management and Research	A multi-center, Phase II trial of nab-paclitaxel and gemcitabine in patients with non-small-cell lung cancer previously treated with platinum-based chemotherapy	11	7135-7140, 2019	診療部 呼吸器内科	Tachihara M, Kiriu T, Hata A, Hatakeyama Y, Nakata K, Nagano T, Yamamoto M, Kobayashi K, Ohnishi H, Katakami N, Nishimura Y
15	In Vivo	A Cross-sectional Survey of the Clinical Manifestations and Underlying Illness of Cough	33	543-549, 2019	診療部 呼吸器内科	Otoshi T, Nagano T, Funada Y, Takenaka K, Nakata H, Ohnishi H, Nishiuma T, Nakajima T, Kageshita T, Tsuchiya T, Yamamoto M, Kobayashi K, Nishimura Y
16	Respiratory Medicine Case Reports	Endobronchial metastases 20 years after prostate cancer excision	27	https://doi.org/10.1016/j.rmcr.2019.100858 , 2019	診療部 呼吸器内科	Hatakeyama Y, Yoshimura S, Ninomaru T, Fujimoto S, Takamiya R, Okamura K, Sano N, Ohnishi H
17	Dig Endoscopic	Endoscopic Submucosal Dissection of a Rectal Gastrointestinal Stromal Tumor close to the dentate line	32	49-51, 2020	診療部 消化器内科	Ishida T, Furumatsu K
18	Journal of Bone and Mineral Metabolism	Effects of Lanthanum Carbonate on Bone Markers and Bone Mineral Density in Incident Hemodialysis Patients	37(6)	1075-1082, 2019	診療部 腎臓内科	後藤公彦
19	腎と透析87巻別冊 腹膜透析2019 別冊	腹膜透析導入後4年で好酸球性腹膜炎を発症し, ステロイド投与が奏功した一例	87巻別冊	120-121, 2019	診療部 腎臓内科	大田健人
20	Clinical Pediatric Endocrinology	Responses to the Letter to the Editor "Does Growth-Hormone Treatment Affect Patients With and Without a Mitochondrial Disorder Differentially?" (Vol. 27, No. 2, P. 107-108, 2018)	27(3)	201-202, 2019	診療部 糖尿病・内分泌内科	Yokoya S, Hasegawa T, Ozono K, Tanaka H, Kanzaki S, Tanaka T, Chihara K, Jia N, Child CJ, Ihara K, Funai J, Iwamoto N, Seino Y
21	Endocrine	Effects of exenatide and liraglutide on postchallenge glucose disposal in individuals with normal glucose tolerance	64(1)	43-47, 2019	診療部 糖尿病・内分泌内科	Hirota Y, Matsuda T, Nakajima S, Takabe M, Hashimoto N, Nakamura T, Okada Y, Sakaguchi K, Ogawa W
22	Journal of Diabetes Investigation	Relationship between glycosylated hemoglobin level and duration of hypoglycemia in type 2 diabetes patients treated with sulfonylureas: A multicenter cross-sectional study	11(2)	417-425, 2020	診療部 糖尿病・内分泌内科	Matsuoka A, Hirota Y, Takeda A, Kishi M, Hashimoto N, Ohara T, Higo S, Yamada H, Nakamura T, Hamaguchi T, Takeuchi T, Nakagawa Y, Okada Y, Sakaguchi K, Ogawa W
23	Endocrine Journal	Relation between HOMA-IR and insulin sensitivity index determined by hyperinsulinemic-euglycemic clamp analysis during treatment with a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor	Online ahead of print		診療部 糖尿病・内分泌内科	So A, Sakaguchi K, Okada Y, Morita Y, Yamada T, Miura H, Otowa-Suematsu N, Nakamura T, Komada H, Hirota Y, Tamori Y, Ogawa W

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
24	愛仁会医学研究誌	起立性調節障害の疑いで精査した結果もやもや病と診断された14歳男児例	51	50-52, 2019	診療部 小児科	権東雅宏
25	日外科系連合会誌	術前に診断し腹腔鏡下手術を施行した子宮広間膜裂孔ヘルニア嵌頓の2例	44	850-856, 2019	診療部 外科	豊川晃弘
26	Oncology	Validity of Laparoscopic Gastrectomy in the Elderly.	99	87-92, 2019	診療部 外科	Akihiro Toyokawa
27	J Gastrointest Oncol	Decreased percentage of neutrophil is a predict factor for the efficacy of trifluridine and tipiracil hydrochloride for pretreated metastatic colorectal cancer	10	878-885, 2019	診療部 外科	Akihiro Toyokawa
28	明石市薬剤師会会報	大腸癌の薬物療法	11	1, 2019	診療部 外科	豊川晃弘
29	とけい草	低侵襲手術（腹腔鏡手術）とは	99	1, 2019	診療部 外科	豊川晃弘
30	愛仁会医学研究誌	進行再発大腸がんへの薬物療法の変遷と進化	51	89-93, 2020	診療部 外科	豊川晃弘
31	Heart Lung	A tale of two sisters with hypertrophic cardiomyopathy and recurrent embolism: When is the optimal timing of the intervention for left atrial appendage?	48(3)	198-200, 2019	診療部 心臓血管外科	Kimura M, Kohno T, Makino S, Okuda S, Nawata K, Yanagisawa R, Kojima H, Nishiyama T, Aizawa Y, Yuasa S, Murata M, Maekawa Y, Okamoto K, Shimizu H, Fukuda K
32	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Right heart failure caused by direct pressure of distal arch aneurysm.	67(2)	263-265, 2019	診療部 心臓血管外科	Sugiyama H, Tohma R, Misato T, Okamoto K, Hayashi T, Tobe S, Matsuo T, Tsunemi K, Oka T, Tanimura N.
33	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	A rare post-lobectomy complication of right-to-left shunt via foramen ovale		2019	診療部 心臓血管外科	Arai N, Kawachi R, Nakazato Y, Tachibana K, Nagashima Y, Tanaka R, Okamoto K, Kondo H.
34	胸部外科	僧帽弁形成術における人工腱索再建	72(8)	575, 2019	診療部 心臓血管外科	岡本一真
35	日本心臓血管外科学会雑誌	心臓血管低侵襲治療2018年の進歩	48(6)	442-448, 2019	診療部 心臓血管外科	岡本一真
36	The Journal of heart and lung transplantation	Development of a transplant injection device for optimal distribution and retention of human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes.	38(2)	203-214, 2019	診療部 心臓血管外科	Tabei R, Kawaguchi S, Kanazawa H, Tohyama S, Hirano A, Handa N, Hishikawa S, Teratani T, Kunita S, Fukuda J, Mugishima Y, Suzuki T, Nakajima K, Seki T, Kishino Y, Okada M, Yamazaki M, Okamoto K, Shimizu H, Kobayashi E, Tabata Y, Fujita J, Fukuda K.
37	愛仁会医学研究誌	Evolut Rによる経カテーテルの大動脈弁留置術後狭心症に対して経皮的冠動脈インターベンションに難渋した家族性高コレステロール血症の1例	51	46-49, 2020	診療部 循環器内科	河田正仁, 鈴木雄也, 近都正幸, 小平睦月, 宮崎裕一郎, 野田翼, 松浦岳司, 黒田優, 平山恭孝, 足立和正, 松浦啓
38	日呼外会誌	縦隔鏡下に手術を施行した中縦隔発生気管支原性嚢胞の1例	33	93-96, 2019	診療部 呼吸器外科	田内俊輔, 内田孝宏, 戸部智

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
39	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	当院における後果骨片を伴った足関節果部骨折の治療成績	62(5)	951-952, 2019	診療部 整形外科	黒島康平
40	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	当院における四肢壊死性筋膜炎の治療経験	62(4)	721-722, 2019	診療部 整形外科	安喰健佑
41	骨折	後方アプローチを用いた脛骨高原骨折の手術治療 後外側アプローチの可能性	41(3)	997-1001, 2019	診療部 整形外科	脇 貴洋
42	骨折	転位型大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の治療成績 ハンソンピンとハンソンピンロックの前向き調査での比較	41(3)	901-905, 2019	診療部 整形外科	松島真司
43	骨折	鎖骨遠位端骨折の手術加療 スコーピオンプレートおよびスコーピオンネオプレートの検討	41(2)	417-420, 2019	診療部 整形外科	田中秀弥
44	愛仁会医学研究誌	産科病棟とNICUの連携と母親の満足度の実態調査	51	69-72, 2020	看護部 GCU看護科	藤原佳世
45	愛仁会医学研究誌	婦人科腹腔鏡下載石位手術における術前加温の有用性について	51	73-75, 2020	看護部 手術中材 看護科	中谷昌平
46	愛仁会医学研究誌	慢性心不全看護認定看護師が行った末期心不全患者への意思決定支援	51	111-112, 2020	看護部 3階病棟看護科	前田京子
47	雑誌 ApoTalk	地域保険薬局と連携して取り組む感染対策・抗菌薬適正使用	63	2-4, 2019	技術部 薬剤科	寺沢匡史
48	愛仁会医学研究誌	マニュアルトレース法による左室駆出率計測における検者間誤差の縮小の試み	51	76-78, 2020	技術部 検査科	赤尾 梢
49	愛仁会医学研究誌	経カテーテル大動脈弁置換術のリードチームにおける臨床工学技士の役割	51	113-114, 2020	技術部 臨床工学科	福井謙治
50	愛仁会医学研究誌	「重症度, 医療・看護必要度II」への移行に向けて	51	115-116, 2020	事務部 医事科	目次紗希
51	愛仁会医学研究誌	臨床心理士による周産期のこころのケアを始めて	51	117-118, 2020	地域医療部 医療福祉 相談室	松本千佳

著書発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
1	トッランナーの感染症外来診療術 第3章 外来エマージェンシー「感染性心内膜炎」	医学書院/東京	第1版	231-236, 2019	診療部 総合内科	中島隆弘
2	1 感染症 第III章 感染症各論 第5節 ウイルス感染症 呼吸器感染症	南江堂/東京	第1版	137-142, 2019	診療部 総合内科	河野 圭(編集)
3	内科外来に来るコンサルトが必要な疾患 若年者の嚥下時痛 これって危ない咽頭痛?耳鼻咽喉科コンサルトのポイントは? Medicina	医学書院/東京	56(8)	1256-1258, 2019	診療部 総合内科	官澤洋平
4	内科エマージェンシー Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	7(4)	645-936, 2019	診療部 総合内科	石丸直人(編集)
5	ウイルス性出血熱	医学書院/東京	第8版	1300-1301, 2020	診療部 総合内科	河野 圭(編集)
6	ビタミンC (特集 症例から学ぶ栄養素欠乏) - (Pitfall)に気をつけたい, 微量元素・ビタミン欠乏) 治療	南山堂/東京	102(2)	180-183, 2020	診療部 総合内科	水木真平

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
7	ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト. Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	19;7(1)	毎号連載中, 2019-2020	診療部 総合内科	石丸直人
8	ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト. Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	19;7(1)	毎号連載中, 2019-2020	診療部 総合内科	官澤洋平
9	抗血小板薬, 抗凝固薬のすべて 抗凝固薬をいっとうやっつけて使うのか Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	7(3)	475-491, 2019	診療部 総合内科	世戸博之
10	病院総合医チームPresents 実践!使える論文My Top 5: 高齢者入院診療編	プライマリ・ケア: 実践誌/大阪	5(2)	64-66, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平
11	Hospitalist 2019年4号 特集: 内科エマージェンシー	MEDSiメディカル・サイエンス・インターナショナル出版/東京	初版	703-715, 2020	診療部 救急科	井上 彰
12	周産期医学【新生児黄疸を再び考える】 ビリルビンにかかわる検査 ビリルビン測定法	東京医学社/東京	49(2)	156-158, 2019	診療部 小児科	横山直樹
13	SHDインターベンションコンプリートガイド 心室中隔欠損症 (VSD)	医学書院/東京	-	264-267, 2019	診療部 心臓血管外科	岡本一真
14	SHDインターベンションコンプリートガイド 心房中隔欠損症 (ASD)	医学書院/東京	-	293-296, 2019	診療部 心臓血管外科	岡本一真
15	いまさら聞けない心臓血管外科基本手技 胸骨正中切開から視野の展開まで: 成人	南江堂/東京	-	16-18, 2020	診療部 心臓血管外科	岡本一真
16	シンプルでわかりやすい 薬歴・指導記録の書き方	南山堂/東京	第1版	2019	技術部 薬剤科	寺沢匡史

その他 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第10回日本プライマリケア連合学会学術大会	高齢者心不全ってどうする? 病院総合医が教えます! 明日から使えるエビデンス集 講師	'19/5	京都市	診療部 総合内科	官澤洋平
2	米国内科学会 (ACP) 日本支部年次総会講演会2019	Point of Care Ultrasound (POCUS) 肺エコーを用いた呼吸不全へのアプローチ 講師	'19/6	京都市	診療部 総合内科	官澤洋平
3	米国内科学会 (ACP) 日本支部年次総会講演会2019	Point of Care Ultrasound (POCUS) 肺エコーを用いた呼吸不全へのアプローチ 講師	'19/6	京都市	診療部 総合内科	水木真平
4	総合診療専門医の養成	救急ポートフォリオ 講師	'19/6	高島市	診療部 総合内科	石丸直人
5	スキルアップセミナー 淡路医療センター	総合内科ってどんなところ?	'19/7	洲本市	診療部 総合内科	木南佐織
6	第48~50, 53回CPVS (Clinical Physiology of Vital Signs)	バイタルサイン講習会 講師	'19/7	岡山市, 明石市, 埼玉市	診療部 総合内科	河野 圭
7	明石レジデントフォーラム	プライマリ・ケアでの不眠・うつ	'19/7	明石市	診療部 総合内科	石丸直人
8	明石レジデントフォーラム	腸腰筋血腫をきたした第XIII因子欠乏症の症例	'19/7	明石市	診療部 総合内科	金子昌裕

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
9	第31回学生・研修医のための 家庭医療学夏季セミナー	後期研修紹介ポスターセッション	'19/8	静岡市	診療部 総合内科	石丸直人
10	第17回秋季生涯教育セミナー	病院と在宅で総合診療医が診る誤嚥性肺炎．秋季生涯教育セミナー 講師	'19/9	大阪市	診療部 総合内科	官澤洋平
11	糖尿病合併症予防セミナー	糖尿病腎症重症化予防のための薬剤選択と地域連携 座長	'19/11	明石市	診療部 総合内科	木南佐織
12	第5回明石薬業連携研修会	ポリファーマシーへのアプローチと実際	'19/11	明石市	診療部 総合内科	世戸博之
13	日本プライマリケア連合学会 第33回近畿地方会	第6群 教育・研究 口演座長	'19/12	姫路市	診療部 総合内科	石丸直人
14	第6回救急×緩和ケアセミナー	肝硬変の終末期 講師	'19/12	福岡市	診療部 総合内科	官澤洋平
15	第6回救急×緩和ケアセミナー	肝硬変の終末期 講師	'19/12	福岡市	診療部 総合内科	水木真平
16	第15回若手医師のための家庭 医療学冬期セミナー	プレセミナー2「糖尿病でプロコン！～病院総合医が議論します～」．第15回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 講師	'20/2	東京都	診療部 総合内科	官澤洋平
17	第25回日本災害医学会総会・ 学術集会	一般演題ポスター52「法・制度・資格 災害拠点病院 その他」 座長	'20/2	神戸市	診療部 救急科	井上 彰
18	Lung Cancer Seminar in AKASHI	座長	'19/4	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
19	第41回播但画像診断会	①症例検討②当院における最新の放射線 治療 座長	'19/6	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
20	pneumonitis Management Academy in Hyogo	①放射線治療の適応と照射範囲への工夫 ②肺臓炎/放射線性肺臓炎の管理ポイント ディスカッサント	'19/6	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
21	Non Communicable Disease Conference in Akashi	座長	'19/7	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
22	第12回明石レジデントフォー ラム	座長	'19/7	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
23	Lung Disease Forum	「EGFR陽性肺癌治療」～治療の選択肢を どのように伝えるか？～ 座長	'19/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
24	第6回神戸呼吸器内科勉強会	座長	'19/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
25	第20回神戸COPD研究会	COPD合併肺癌症例に対する肺切除 座長	'19/8	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
26	神戸新聞 カルテQ&A	長引くセキ 投稿	'19/8	-	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
27	Lung Cancer Seminar in AKASHI	Closing Remarks	'19/10	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
28	Scientific Exchange Meeting in Akashi	重症喘息と合併する鼻副鼻腔炎の対処法 ～臨床の立場から 座長	'19/10	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
29	Akashi Medical Conference on Lung Cancer	免疫チェックポイント阻害薬を化学療法 併用療法を使いこなす 座長	'19/11	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
30	第12回播磨喘息連携研究会	最新のCOPD治療戦略～新しいトリプル吸入薬をどう使うか 座長	'19/11	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
31	第132回兵庫県肺癌懇話会	座長	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
32	Chugai Lung Cancer Symposium in KOBE	当院におけるNSCLCの報告 座長	'19/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
33	Seaside Interstitial Lung Disease Seminar	当院におけるIPF診療の現状 座長	'19/12	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
34	第51回神戸肺癌カンファレンス	①肺癌 最近の話題 最適な治療を届けるために～当院の現状から～②症例検討 座長	'19/12	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
35	神戸肺高血圧症講演会	肺動脈性肺高血圧症の診断と治療～千葉大学の症例をふまえて～ 座長	'20/2	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
36	KCJL2019	Theme Live Theater, デジタルポスターセッション「EVT1」 コメンテーター	'19/4	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
37	豊橋ライブ	The Proctor Live コメンテーター	'19/6	豊橋市	診療部 循環器内科	黒田 優
38	第66回日本不整脈心電学会学術大会	Rapid Firing Session 25:VT/VF 座長	'19/7	横浜市	診療部 循環器内科	足立和正
39	12th ASIA PACIFIC HEART RHYTHM SOCIETY SCIENTIFIC SESSION	Managing CIEDs outside EP lab 座長	'19/10	バンコク, タイ	診療部 循環器内科	足立和正
40	第34回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	コメンテーター	'20/2	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
41	第12回東播・淡路胆膵研究会	当院におけるnab-PTXの使用経験 座長	'19/7	明石市	診療部 消化器内科	古松恵介
42	神戸CAPDナースカレッジ基礎コース	PD合併症, 体液管理 講師	'19/9	神戸市	診療部 腎臓内科	米倉由利子
43	明石地区の腎臓病を考える会	病診連携で乗り切るCKD-DKD対策 座長	'19/12	神戸市	診療部 腎臓内科	米倉由利子
44	第46回日本神経内分泌学会学術集会	特別功労賞受賞	'19/10	東京都	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
45	第15回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー	講師	'20/2	東京都	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴
46	第349回東播小児臨床談話会	アシクロビルにより血球減少をきたした水痘罹患ネフローゼ症候群の一例 その他 司会	'19/5	明石市	診療部 小児科	権東雅宏
47	第6回神戸西地域小児疾患研究会 特別講演	BFH施設における母乳育児支援 その他 座長	'19/11	神戸市	診療部 小児科	横山直樹
48	第1回神戸消化器癌フォーラム	大腸癌に対する最新集学的治療	'19/9	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
49	明石内視鏡外科カンファレンス	腹腔鏡下直腸癌手術手技	'19/10	明石市	診療部 外科	豊川晃弘

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
50	西明石胃癌カンファレンス	これからの胃癌化学療法を考える	'19/11	明石市	診療部 外科	豊川晃弘
51	加古川・高砂・明石消化器癌セミナー	胃癌治療ガイドライン第5版2018について	'19/11	加古川市	診療部 外科	豊川晃弘
52	Akashi Medical Conference on Colorectal Cancer	BESTな大腸癌治療を目指して	'19/12	明石市	診療部 外科	豊川晃弘
53	第12回ストラクチャークラブ・ジャパン 近畿・中四国支部会	Sapien (S3 alternative)	'19/4	松山市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
54	KCJL Surgical ランチョンセミナー	ロボットでの僧帽弁形成の手技 座長	'19/4	大阪市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
55	KCJL Surgical	ディベートセッション「この症例どうする？」 座長	'19/4	大阪市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
56	KCJL Surgical	Evening Hans-On Seminar「末梢吻合」インストラクター	'19/4	大阪市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
57	第24回日本冠動脈外科学会学会術集会	Off the Job Training インストラクター	'19/7	金沢市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
58	第4回日本低侵襲心臓手術学会学術集会	3. ドライラボ・ライブデモンストレーション	'19/7	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
59	第67回日本心臓病学会学術集会	JCCケースカンファレンス【地域医療/実地医家活動委員会企画】関西チーム(弁膜症)	'19/9	名古屋市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
60	CCT2019	MICSの展望～最適なMICS手術のアプローチは？ 座長	'19/10	神戸市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
61	CCT2019	Surgical Live Demonstration 1 手術室コメンテーター	'19/10	神戸市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
62	CCT2019	Case presentation 座長	'19/10	神戸市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
63	第72回日本胸部外科学会定期学術集会	ポスター55(成人心臓) 僧帽弁1 座長	'19/10	京都市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
64	ストラクチャークラブライブデモンストレーション2019	TAVI合併症セッション「最恐のナイトメアはだれだ？」 コメンテーター	'19/11	仙台市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
65	第2回兵庫県血管内治療カンファレンス	教育講演 座長	'19/11	神戸市	診療部 心臓血管外科	林 太郎
66	第10回日本心臓弁膜症学会	大動脈弁3・先天性 座長	'19/11	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
67	第32回日本内視鏡外科学会	胸腔鏡下弁膜症手術プログラムの立ち上げ 座長	'19/12	横浜市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
68	第32回日本内視鏡外科学会	胸腔鏡下弁膜症手術プログラムの立ち上げ	'19/12	横浜市	診療部 心臓血管外科	岡本一真
69	PCR Tokyo Valve 2020	Selection of the 2020 best clinical cases 座長	'20/2	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真
70	PCR Tokyo Valve 2020	Heart team for the structural heart disease コメンテーター	'20/2	東京都	診療部 心臓血管外科	岡本一真

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
71	ASCVTS 2020	Techno Camp	'20/2	Thailand, Chiang Mai	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
72	神戸医療産業都市推進機構	アドバイザー	-	-	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
73	TV CM	Medical Note	-	https://medicalnote.co.jp/special/index.html	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
74	Journal of Thoracic Disease	Editorial Board	-	-	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
75	AME Medical Journal	Editorial Board	-	-	診療部 心臓血管 外科	岡本一真
76	あすか製薬 社内研修会	子宮筋腫の診断と治療	'19/7	神戸市	診療部 産婦人科	宮原義也
77	2019年度位育会臨床セミナー	一般口演 座長	'19/8	神戸市	診療部 産婦人科	宮原義也
78	令和元年度明石医療センター 地域医療連携の会	当院における産婦人科救急の現況	'19/9	明石市	診療部 産婦人科	宮原義也
79	令和元年度 明石健康大学講座	産婦人科救急について	'19/10	明石市	診療部 産婦人科	宮原義也
80	2019年度明石産婦人科医会	特別講演 座長	'19/11	明石市	診療部 産婦人科	宮原義也
81	第3回明石薬薬連携研修会	司会	'19/6	明石市	技術部 薬剤科	小椋千絵
82	第4回AKASHI Pharmacy Director Seminar	グループディスカッション ファシリテーター (内容：施設間薬剤情報提供書について)	'19/9	明石市	技術部 薬剤科	小椋千絵
83	第4回明石薬薬連携研修会	腎機能障害患者を護れ 司会・座長	'19/9	明石市	技術部 薬剤科	小椋千絵
84	富山県病院薬剤師会中堅薬剤師 等育成研修会	薬学的観点に基づいた伝わる指導記録の書き方 指導記録から簡単に行うオーデジット ～後輩薬剤師への薬学的ケアと記録の教育～	'19/9	富山県中 新川郡	技術部 薬剤科	寺沢匡史
85	富山県病院薬剤師会中堅薬剤師 等育成研修会	副作用発生時に薬剤師がすべき対処法 ～薬剤性肝障害の事例から～	'19/9	富山県中 新川郡	技術部 薬剤科	寺沢匡史
86	第5回明石薬薬連携研修会	どうしてますか？ポリファーマシー 座長	'19/11	明石市	技術部 薬剤科	小椋千絵
87	金城学院大学 薬学部 実務実 習事前学習	POS (Problem Oriented System) 問題志向型システム～薬物治療に貢献できる臨床薬剤師を目指して～	'19/12	名古屋市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
88	第318回はりまCT	急性脳梗塞	'19/5	明石市	技術部 放射線科	久森克利
89	第320回はりまCT	腰痛と戦う	'19/9	明石市	技術部 放射線科	久森克利
90	近畿心血管ジョイントライブ	当院のOJT Guide PCIへの取り組み	'19/4	大阪市	技術部 臨床工学科	福井謙治

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
91	第18回播磨インターベンション研究会	MEのTAVIへの関わりについて	'19/6	姫路市	技術部 臨床工学科	福井謙治
92	OCT WorkShop	当院におけるOCT GuidePCIへの取り組み	'19/6	明石市	技術部 臨床工学科	松本竜也
93	OCT WorkShop	臨床工学技士も簡単OCT	'19/8	岡山市	技術部 臨床工学科	福井謙治
94	OCT WorkShop	臨床工学技士も簡単OCT	'19/9	山陽小野 田市	技術部 臨床工学科	福井謙治
95	OCT WorkShop	当院におけるOCT GuidePCIへの取り組み	'19/10	明石市	技術部 臨床工学科	松原竜也
96	阪神Yesclubmeeting	症例検討会 コメンテーター	'19/11	大阪市	技術部 臨床工学科	浅川瑞大

井上病院

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第64回日本透析医学会学術集会・総会	透析患者のサルコペニックオベシティと生命予後についての検討	'19/6	横浜市	診療部 内科	辻本吉広
2	The 9th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis (APCM-ISPDP 2019)	A case of tuberculous peritonitis in PD patient one year after cardiac tamponade	'19/9	名古屋市	診療部 内科	辻本吉広
3	透析診療を考える会	運動と栄養で改善する透析患者の予後-カルニチンの効果も含めて-	'19/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
4	キッセイ薬品(株)社内研修会	腎不全患者の管理と施設としての取り組みについて	'19/10	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
5	令和元年度大阪府医師会医学総会	透析患者のサルコペニックオベシティと生命予後についての検討	'19/11	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
6	エベレンゾWEBシンポジウム	透析患者の腎性貧血の新たな治療選択肢～当院におけるエベレンゾの位置づけ～	'20/2	WEB	診療部 内科	辻本吉広
7	地域で腎臓を守るための研究会	eGFR15からのCKDチーム介入は正解だったのか	'19/5	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
8	第64回日本透析医学会学術集会・総会	重篤な経過をたどった血液透析患者、菌性感染症の2例	'19/6	横浜市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
9	キッセイ薬品(株)社内研修会	透析治療におけるリン管理について	'19/7	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充
10	CKD学術連携フォーラム2019	当院におけるCKD保存期治療・連携について	'19/8	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
11	第93回大阪透析研究会	重篤な経過をたどった血液透析患者深頸部感染症の2例	'19/9	大阪市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
12	北摂PDセミナー「腹膜透析地域連携勉強会」	井上病院における腹膜透析療法	'19/10	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
13	井上病院地域連携の集い	明日を変える！腎臓病治療～CKDチームの紹介～	'19/11	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
14	ホスレノール WEBカンファレンス -CKD患者の重症化予防とQOL維持向上のために腎臓病・透析専門病院が今、すべきこと-	チーム医療で取り組むCKDの早期発見・重症化予防	'19/12	WEB	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
15	腎性貧血治療Up To Date	当院における腎性貧血の治療について	'20/2	大阪市	診療部 腎臓内科	一居 充
16	大塚製薬株式会社 社内研修会	多発性のう胞腎外来の立ち上げ～現在そしてこれから～	'20/3	豊中市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
17	糖尿病性腎臓病の治療戦略	当院での糖尿病治療の取り組み	'19/5	吹田市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
18	第56回欧州腎臓学会議/欧州透析移植学会議	Oxidative stress as a predictor of mortality and cardiovascular events in hemodialysis patients:the DREAM cohort study	'19/6	ブタペスト, ハンガリー	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
19	第64回日本透析医学会学術集会・総会	膝伸展筋力の経年変化に関連する因子の特定と予後への影響	'19/6	横浜市	診療部 糖尿病内科	宮部美月

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
20	第64回日本透析医学会学術集会・総会	血液透析患者におけるd-ROMsと予後との関連（DREAMコホート）	’19/6	横浜市	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
21	第3回糖尿病地域勉強会	当院のインスリン治療の現状	’19/7	吹田市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
22	第93回大阪透析研究会	膝伸展筋力変化に関連する因子の検討と予後への影響	’19/9	大阪市	診療部 糖尿病内科	宮部美月
23	糖尿病腎臓連携セミナー	当院での糖尿病治療の取り組み	’19/9	大阪市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
24	第25回北摂糖尿病臨床カンファレンス	少量インスリン治療の必要性を再考する～当院における分泌低下型2型糖尿病の経験～	’19/10	吹田市	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
25	第26回北摂糖尿病臨床カンファレンス	GLP-1受容体作動薬による臨床効果について	’19/10	吹田市	診療部 糖尿病内科	土蔵尚子
26	睡眠時無呼吸セミナー CKD、糖尿病におけるあらたな非薬物療法について	糖尿病・CKDにおける睡眠時無呼吸症候群（SAS）の重要性	’19/10	吹田市	診療部 糖尿病内科	土蔵尚子
27	第39回日本マグネシウム学会学術集会	透析患者の血清マグネシウム濃度と骨密度、筋肉量及び筋肉との関係について	’19/11	大阪市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
28	糖尿病Web講演会	腎不全患者の糖尿病治療	’19/11	WEB	診療部 糖尿病内科	木津あかね
29	キッセイ薬品（株）社内研修会	腎不全における血管石灰化とリン吸着薬の使い分けのポイント	’19/11	大阪市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
30	Meet the Specialist in KOBE	CKD合併糖尿病における治療戦略	’19/11	神戸市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
31	第10回大阪副甲状腺ホルモン研究会学術集会プログラム	糖尿病血液透析患者における持続血糖モニタリングによる血糖評価	’20/1	大阪市	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
32	糖尿病性腎臓病の治療戦略	当院での糖尿病治療の取り組み	’20/2	吹田市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
33	第62回日本甲状腺学会学術集会	橋本病による甲状腺機能低下症の治療が、CKDの進行阻止に寄与したと考えられる1例	’19/10	前橋市	診療部 消化器内科	大野恭太
34	北摂泌尿器科連合医会	井上病院における泌尿器科診療	’20/2	吹田市	診療部 泌尿器科	大北恭平
35	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病透析患者でのリラグルチドの効果の検討	’19/5	仙台市	診療部 透析内科	下村菜生子
36	第64回日本透析医学会学術集会・総会	血液透析患者でのスクロオキシ水酸化鉄の使用報告～炭酸ランタンからの切り替えを中心に～	’19/6	横浜市	診療部 透析内科	福永 慎
37	北大阪学術講演	誤嚥性肺炎とチーム医療	’19/7	大阪市	診療部 透析内科	下村菜生子
38	第93回大阪透析研究会	透析患者と非透析患者の誤嚥性肺炎の比較	’19/9	大阪市	診療部 透析内科	下村菜生子
39	透析診療 Thinking-up party II	当院におけるNSTの取り組みについて	’19/10	大阪市	診療部 透析内科	下村菜生子
40	ホスレノール WEBカンファレンス -CKD患者の重症化予防とQOL維持向上のために腎臓病・透析専門病院が今、すべきこと-	リハビリテーション栄養からアプローチする透析患者のQOL改善	’19/12	WEB	診療部 透析内科	下村菜生子
41	透析血管症セミナー	基礎からわかる シェント管理とPTA治療～腎性貧血管理も踏まえて～	’19/6	橿原市	診療部 放射線科	森本 章

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
42	第64回日本透析医学会学術集会・総会	シースワイヤーによるpull-through法による非血栓性閉塞治療	'19/6	横浜市	診療部 放射線科	森本 章
43	第14回広島透析療法セミナー	その触診, 自己流と違いますか? ~ここまでわかる触診による診断~	'19/8	広島市	診療部 放射線科	森本 章
44	第4回和歌山若手腎臓内科医の会	基礎からわかるシャント管理とPTA治療	'19/8	和歌山市	診療部 放射線科	森本 章
45	第23回日本アクセス研究会学術集会・総会	自己血管内シャントの血栓閉塞VAIVT後の開存期間の検討	'19/9	横浜市	診療部 放射線科	森本 章
46	第13回彩の国Vascular Accessを考える会	放射線科医?としてのVAIVTの工夫	'20/2	川崎市	診療部 放射線科	森本 章
47	第24回学術大会日本心臓血管麻酔学会	低心機能を呈した維持透析患者に対してデスクメドミジンと神経ブロックを用い安全に麻酔管理を行えた2症例	'19/9	京都市	診療部 麻酔科	坂本 元
48	日本臨床麻酔学会第39回大会	無換気導入法の検討~急速導入にマスク換気は不要である~	'19/11	北佐久郡	診療部 麻酔科	稲田拓治
49	第64回日本透析医学会学術集会・総会	前腕ループグラフト老朽化に対する皮弁形成グラフト置換術の有効性	'19/6	横浜市	診療部 外科	藤原一郎
50	第47回日本血管外科学会学術総会, 第29回日本血管外科学会教育セミナー	透析患者の救肢をめざす distal bypass と graft failure への対応	'19/5	名古屋市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
51	第64回日本透析医学会学術集会・総会	透析患者CLIに対する救肢をめざす distal bypassとgraft rescue	'19/6	横浜市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
52	第93回大阪透析研究会	透析専門病院における血管外科医の役割	'19/9	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
53	第60回日本脈管学会総会	透析患者CLIに対する治療戦略	'19/10	新宿区	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
54	Lilly RA Web Conference	JAK1/2阻害剤がもたらすリウマチ治療のパラダイムシフト~PRO改善のリアルワールド~	'19/4	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
55	第3回JAK seminar in NIIGATA	JAK1/2阻害剤がもたらすリウマチ治療のパラダイムシフト~PRO改善のリアルワールド~	'19/4	新潟市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
56	北大阪リウマチセミナー	JAK1/2阻害剤がもたらすリウマチ治療のパラダイムシフト~PRO改善のリアルワールド~	'19/5	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
57	リウマチ治療における5Star Therapy	リウマチ治療における5Star Therapy	'19/5	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	Baricitinib Forum in 盛岡	JAK1/2阻害剤がもたらすリウマチ治療のパラダイムシフト~PRO改善のリアルワールド~	'19/5	盛岡市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
59	萩市医師会学術講演会「第6回萩市リウマチを語る会」	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'19/6	萩市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
60	第3回北河内整形外科セミナーセッション③	医療倫理からみる骨関節疾患の治療~整形外科医を中心に~	'19/6	枚方市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
61	OA, RA, ポロシスを考える会	RA治療における薬剤選択	'19/6	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
62	寝屋川骨粗鬆症治療連携セミナー	病診連携なくして骨粗鬆症治療なし	'19/6	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
63	第1回骨粗鬆症地域連携の会	脆弱性骨折なき令和を目指して	'19/7	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
64	Mochida ファーマシーセミナー	痛みなき令和を目指して	'19/7	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
65	ビタミンDフォーラム in 三島	ビタミンDによる高齢者のTotal Management	'19/7	茨木市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
66	Lilly RA Speakers' Conference	PRO改善のリアルワールド	'19/7	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
67	北摂骨粗鬆症診療ネットワーク	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブ200例の投与経験から～	'19/8	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
68	RA Web Seminar	AI（オートインジェクター）がもたらす 令和の新時代リウマチ治療	'19/8	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
69	市民公開講座 最新の関節リウマチ治療	関節リウマチで困ることのない“令和” を目指して	'19/8	箕面市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
70	第7回プライマリーの会	関節リウマチで困る事のない“令和”を 目指して	'19/8	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
71	井上病院研修会	再生医療への挑戦	'19/8	吹田市	診療部 高槻病院 副院長 整形外科	平中崇文
72	第93回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロ モソズマブの短期有効性・安全性の検討	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
73	Golimumab Expert Seminar in 南大阪	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'19/9	堺市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
74	ならきたIBDセミナー	RA領域でのシンボニーの使い所	'19/9	奈良市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
75	潰瘍性大腸炎治療の最適化を 考える会	寛解導入から寛解維持をもたらすハイブ リットステラジー	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
76	JAK Positioning Conference	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療の パラダイムシフト～PRO改善のリアル ワールド～	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
77	トレムフィア Webセミナー	乾癬で困る事なき令和を目指して ～整形外科の立場から～	'19/9	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
78	炎症性疾患を多面的に考える 会	寛解導入から寛解維持をもたらすハイブ リットステラジー	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
79	Osaka JAK Conference	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療の パラダイムシフト～PRO改善のリアル ワールド～	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
80	堺市IBD病診連携の会	RA領域における抗体製剤の使い分けと使 い方	'19/9	堺市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
81	関節リウマチ Clinical Seminar	AI（オートインジェクター）がもたらす 令和の新時代、令和のリウマチ治療	'19/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
82	オレンシアインターネット講 演会	令和新時代のリウマチ治療における5 Star Therapy	'19/9	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
83	第21回日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロ モソズマブ投与の安全性	'19/10	神戸市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
84	JAK Expert Seminar in Osaka	新時代、令和から始まるリウマチ治療の パラダイムシフト～PRO改善のリアル ワールド～	'19/10	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
85	リウマチエリアWEBセミナー	令和新時代のリウマチ治療における5 Star Therapy	'19/10	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
86	第19回きみさらず整形外科研究会	倫理から考える整形外科医が主導するリウマチ治療	'19/10	木更津市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
87	Careram Internet Cluster Seminar	csDMARDsの主役交代？継続？	'19/10	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
88	RA Conference in Himeji	JAK1/2阻害剤がもたらすリウマチ治療のパラダイムシフト	'19/10	姫路市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
89	RA トータルケア勉強会	新時代、令和から始まるリウマチ治療のパラダイムシフト～PRO改善のリアルワールド～	'19/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
90	井上病院地域連携の集い	井上病院における骨粗鬆症の取り組み	'19/11	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
91	RA Web Seminar	AI（オートインジェクター）がもたらす新時代、令和のリウマチ治療	'19/11	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
92	紀州リウマチカンファレンス	AI（オートインジェクター）がもたらす新時代、令和のリウマチ治療	'19/11	和歌山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
93	Tremfya Web Seminar	乾癬で困る事なき令和を目指して～整形外科医の立場から～	'19/11	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
94	Lilly RA Web Conference	新時代、令和から始まるリウマチ治療のパラダイムシフト～PRO改善のリアルワールド～	'19/11	神戸市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
95	大阪Osteoporosis Premium Seminar	脆弱性骨折なき令和を目指して～ロモズマブ250例の投与経験から～	'19/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
96	市民公開講座 最新の関節リウマチ治療	関節リウマチで困ることのない“令和”を目指して	'19/11	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
97	第12回近卒10年会	新時代、令和から始まるリウマチ治療のパラダイムシフト～PRO改善のリアルワールド～	'19/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
98	Simponi RA Web Seminar	PRO向上を目指したBSS (Bio Select Strategy)	'19/11	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
99	膝関節、脆弱性骨折の予防と治療	脆弱性骨折・関節が壊れることのない令和をめざして	'19/12	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
100	IBD Biologics Meeting in 神戸	RAとUCはBiologicsで“ONE TEAM”になれるか？	'19/12	神戸市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
101	市民公開講座 最新の関節リウマチ治療	関節リウマチで困ることのない“令和”を目指して	'19/12	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
102	オレンシアインターネット講演会	令和新時代のリウマチ治療における5 Star Therapy	'20/1	WEB	診療部 整形外科	佐藤宗彦
103	平成31年度大阪府病院薬剤師会第11支部研修会	痛みなき令和を目指して～神経障害性疼痛の診断と治療を中心に～	'20/1	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
104	整形外科RAカンファレンス	AI（オートインジェクター）がもたらす新時代、令和のリウマチ治療	'20/1	仙台市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
105	IBD shared decision makingの実践	リウマチ領域のBio選択と患者教育	'20/1	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
106	Golimumab User's Meeting ～Best Useを考える～	AI（オートインジェクター）がもたらす新時代、令和のリウマチ治療	'20/1	草津市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
107	第2回備後リウマチ地域連携の会	AI（オートインジェクター）がもたらす新時代、令和のリウマチ治療	'20/2	福山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
108	PsA最新治療戦略	関節症性乾癬 治療戦略 -整形外科医の立場から-	'20/2	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
109	第69回日本病院学会	長期腹膜透析患者が体験した血液透析移行に関する思いのプロセス	'19/8	札幌市	看護部 透析棟6階	井本芙美
110	第93回大阪透析研究会	当院におけるオーバーナイト透析の現状	'19/9	大阪市	看護部 透析棟3階	佐藤祐子
111	第20回大阪病院学会	外界からの聴覚刺激を音楽により遮断したリラクセス効果の検証	'19/10	大阪市	看護部 病棟5階	片岡珠美
112	第25回腹膜透析医学会学術集会・総会	慢性腎臓病患者の療法選択を支えるチーム医療	'19/11	広島市	看護部 PDセンター・訪問看護	竿谷留美
113	第25回腹膜透析医学会学術集会・総会	長期PD患者のHD移行について考える	'19/11	広島市	看護部 PDセンター・訪問看護	上田恵利子
114	第25回腹膜透析医学会学術集会・総会	PDからHDへ移行した患者が体験した思いのプロセス	'19/11	広島市	看護部 PDセンター・訪問看護	山崎由美
115	第29回日本臨床工学会	給水管熱洗の有効性	'19/5	岩手市	技術部 臨床工学科	村田哲平
116	第29回日本臨床工学会	UMT-Yでのメディカルエンジニア育成の経験	'19/5	岩手市	技術部 臨床工学科	東田直樹
117	第64回日本透析医学会学術集会・総会	HIDECとダイラケミル-100Xの防食性比較	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	村田哲平
118	第64回日本透析医学会学術集会・総会	台風21号による停電のため支援透析をした経験～受ける側と送る側～	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	安田春樹
119	第64回日本透析医学会学術集会・総会	大阪北部地震を経験して	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	渡邊直美
120	第64回日本透析医学会学術集会・総会	オーバーナイト透析導入の経験	'19/6	横浜市	技術部 臨床工学科	益田 翼
121	第93回大阪透析研究会	当院で実施した睡眠時無呼吸症候群簡易検査の結果報告	'19/9	大阪市	技術部 臨床工学科	角井弘嗣
122	睡眠時無呼吸セミナー CKD, 糖尿病におけるあらたな非薬物療法について	当院で実施した睡眠時無呼吸症候群(SAS)簡易検査の結果報告	'19/10	吹田市	技術部 臨床工学科	角井弘嗣
123	第20回大阪病院学会	病棟薬剤業務アウトカム獲得に向けた業務日誌の改訂	'19/10	大阪市	技術部 薬剤科	佐武喜美子
124	第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会	病棟薬剤業務アウトカム獲得に向けた業務日誌の改訂	'20/2	神戸市	技術部 薬剤科	佐武喜美子
125	2019 ISN World Congress of Nephrology	Difficulty in ADL and Falls in Hemodialysis patients in comparison with non renal patients	'19/4	メルボルン, オーストラリア	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
126	第64回日本透析医学会学術集会・総会	大腿部筋断面積が顕著に低下する血液透析患者の臨床的特徴	'19/6	横浜市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
127	第93回大阪透析研究会	血液透析患者のサルコペニアを予防する身体活動量の検討	'19/9	大阪市	技術部 リハビリテーション科	山澤侑香

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
128	第6回日本糖尿病理学療法学会	血液透析患者のサルコペニアを予防する身体活動量の検討	'19/9	沖縄市	技術部 リハビリテーション科	山崎勇人
129	第39回日本マグネシウム学会学術集会	高齢血液透析患者における血清Mgと身体機能との関連	'19/11	大阪市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
130	第10回透析運動療法研究会	外来血液透析患者に対して足部の運動を実施した効果について	'20/2	郡山市	技術部 リハビリテーション科	李 寿恵
131	第10回透析運動療法研究会	血液透析患者におけるサルコペニアと歩数の関連	'20/2	郡山市	技術部 リハビリテーション科	山澤侑香
132	第10回透析運動療法研究会	血液透析患者の転倒と認知機能の関連	'20/2	郡山市	技術部 リハビリテーション科	川端みづき
133	大阪北部 新人症例発表会	心肺蘇生後の長期臥床利用者の外出が可能となった一症例	'20/2	摂津市	技術部 リハビリテーション科	芦田征丈
134	第64回日本透析医学会学術集会・総会	外来維持血液透析患者の食事摂取状況について	'19/6	横浜市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
135	第7回日本腎栄養代謝研究会学術集会・総会	慢性腎臓病の栄養管理実践とEvidenceの構築	'19/7	名古屋市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
136	第69回日本病院学会	外来維持血液透析患者の栄養教育の拡充を目指して	'19/8	札幌市	技術部 栄養管理科	柳川瀬裕美
137	第93回大阪透析研究会	独居・同居でみた血液透析患者の栄養・食事摂取状況について	'19/9	大阪市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
138	第39回日本マグネシウム学会学術集会	血液透析患者の血清Mgと栄養状態及び栄養・食事摂取状況について	'19/11	大阪市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
139	第93回大阪透析研究会	骨折と骨密度の関係	'19/9	大阪市	技術部 放射線科	田中伸一
140	第20回大阪病院学会	当院透析患者における無症候性脳血管障害の現状	'19/10	大阪市	技術部 放射線科	坂本 光
141	第14回医療の質安全学会	安全管理室企画プロジェクトチーム活動に伴うメンバーの意識変化～透析室失血事故防止プロジェクトチームを企画して～	'19/11	京都市	医療安全管理室	榎本 拓
142	第64回日本透析医学会学術集会・総会	携帯端末を利用した災害時透析支援システムの構築	'19/6	横浜市	事務部 経営管理科	金谷甲輝

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	繰り返す人工血管内シャントの血栓閉塞に対してPTFEパッチ形成術が有効であった1例	51	53-56, 2020	診療部 内科	福永 慎
2	臨床透析	視覚障害	1巻, Vol. 36 (1)	17-21, 2019	診療部 眼科	壇上陽子

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
3	Annals of Clinical Biochemistry	Superiority of glycated albumin over glycated haemoglobin as indicator of glycaemic control and predictor of all-cause mortality in patients with type 2 diabetes mellitus receiving peritoneal dialysis	56 (6)	684-691, 2019	診療部 糖尿病内科	宮部美月
4	腎と透析	VAINT困難症例でのガイドワイヤー操作	87巻別冊	19-22, 2019	診療部 放射線科	森本 章
5	麻酔	バルーン大動脈弁形成術(BAV)の麻酔経験—鎮静と全身麻酔—	68 (10)	1073-1078, 2019	診療部 麻酔科	坂本 元
6	愛仁会医学研究誌	音楽により外界からの聴覚刺激を遮断したリラクセス効果の検証	51	82-84, 2020	看護部 病棟5階	片岡珠美
7	愛仁会医学研究誌	外来透析室の看護師からみた血液透析療法を受ける患者の自己管理に必要な知識とは	51	119-122, 2020	看護部 透析棟2階	穴畑弘子
8	愛仁会医学研究誌	両下腿切断後、自宅内歩きと段差昇降獲得に至った血液透析患者の1症例	51	57-59, 2020	技術部 リハビリテーション科	山崎勇人
9	大阪透析研究会会誌	血液透析患者におけるサルコペニアと身体活動量の関連	38 (1)	21-25, 2020	技術部 リハビリテーション科	山澤侑香
10	大阪透析研究会会誌	維持血液透析患者の栄養評価および栄養・食事摂取状況について	37 (2)	133-138, 2019	技術部 栄養管理科	山本祐子

著書発表 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
1	腹膜透析2019	東京医学社	腎と透析 第87巻別冊	142-143, 2019	診療部 内科	辻本吉広, 藤原木綿子, 下村菜生子
2	腹膜透析ガイドライン2019	医学図書出版	第1版 第1刷	2019	診療部 内科	辻本吉広
3	ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護8 腎/泌尿器/内分泌・代謝	メディカ出版	第1版 第1刷	43-55, 2020	診療部 内科	辻本吉広
4	透析フロンティア	メディカルレビュー社	Vol. 29 No. 3 2019August/No. 136	2-6, 2019	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
5	透析VAIVT2019	アクセス・ケイ	2019	78-80, 2019	診療部 放射線科	森本 章, 山村みどり, 福永 慎, 三木優子, 藤原一郎, 辻本吉広
6	月刊薬事	じほう	2020 Vol. 62 No. 3	100-107, 2020	技術部 薬剤科	高岸ひろみ

その他 (2019/4/1~2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	多発性嚢胞腎についてよくわかるサイト	大塚製薬ADPKDサイト	'19/4	WEB	診療部 内科	辻本吉広, 藤原木綿子
2	糖尿病性腎臓病の治療戦略	特別講演 座長	'19/5	吹田市	診療部 内科	辻本吉広

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
3	地域で腎臓を守るための研究会	総合司会	'19/5	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
4	第3回Osaka Nephrology Forum	座長	'19/6	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
5	第3回糖尿病地域勉強会	Opening Remarks, 総合司会	'19/7	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
6	北大阪学術講演	座長	'19/7	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
7	アステラスメディカルネット	「FOCUS(フォーカス)」取材	'19/7	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
8	CKD学術連携フォーラム2019	総合司会	'19/8	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
9	CKD/糖尿病合併症連携研究会2019	特別講演 座長	'19/8	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
10	第93回大阪透析研究会ラン チョンセミナー7	座長	'19/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
11	The 9th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis (APCM- ISPD 2019)	座長	'19/9	名古屋市	診療部 内科	辻本吉広
12	透析診療を考える会	基調講演 座長	'19/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
13	第25回北摂糖尿病臨床カン ファレンス	総合司会	'19/10	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
14	北摂PDセミナー「腹膜透析地 域連携勉強会」	特別講演 座長	'19/10	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
15	北摂糖尿病懇話会2019	総合司会	'19/10	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
16	豊能医療圏CKDカンファレン ス	座長	'19/10	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
17	第5回北大阪フットケア勉強 会	開会の挨拶	'19/10	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
18	睡眠時無呼吸セミナー CKD, 糖尿病におけるあらたな非薬 物療法について	一般演題 座長	'19/10	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
19	透析診療 Thinking-up party II	特別講演 座長	'19/10	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
20	ホスレノール WEBカンファ レンス -CKD患者の重症化予 防とQOL維持向上のために腎 臓病・透析専門病院が今、す べきこと-	司会	'19/12	WEB	診療部 内科	辻本吉広
21	糖尿病性腎臓病の治療戦略	Opening Remarks	'20/2	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
22	第10回透析運動療法研究会	座長	'20/2	郡山市	診療部 内科	辻本吉広
23	1300万人の国民病！あなたの 腎臓を振り返ろう	初期の腎臓病について	'19/7	吹田市	診療部 腎臓内科	一居 充

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
24	アステラスメディカルネット	「FOCUS(フォーカス)」取材	'19/7	吹田市	診療部 腎臓内科	一居 充
25	アステラスメディカルネット	「FOCUS(フォーカス)」取材	'19/7	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
26	令和元年度 医学研究助成	慢性腎臓病患者（非透析）における腎臓リハビリテーションの有効性についての検証	'19/7	大阪難病財団	診療部 腎臓内科	一居 充
27	睡眠時無呼吸セミナー CKD, 糖尿病におけるあらたな非薬物療法について	特別講演 座長	'19/10	吹田市	診療部 循環器内科	高井栄治
28	Meet the Specialist in KOBE	コメンテーター	'19/11	神戸市	診療部 循環器内科	木津あかね
29	BSコンテンツ講演	「スクロオキシ水酸化鉄を使用している血液透析患者の臨床的検討」	'19/6	吹田市	診療部 透析内科	福永 慎
30	糖尿病性腎臓病の治療戦略	特別講演座長	'20/2	吹田市	診療部 透析内科	下村菜生子
31	第23回日本アクセス研究会学術集会・総会	座長	'19/9	横浜市	診療部 透析内科	森本 章
32	大阪ライフサポート協会AHA BLS ACLSコース講習会	BLS・ACLSインストラクター	'19/6	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
33	大阪ライフサポート協会AHA (ACLS) コース講習会	BLS・ACLSインストラクター	'19/6	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
34	大阪ライフサポート協会AHA (ACLS) コース講習会	BLS・ACLSインストラクター	'19/9	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
35	第5回北大阪フットケア勉強会	Opening Remarks	'19/10	吹田市	診療部 血管外科	谷村信宏
36	第5回北大阪フットケア勉強会	特別講演 座長	'19/10	吹田市	診療部 血管外科	谷村信宏
37	大阪ライフサポート協会AHA BLSコース講習会	BLS・ACLSインストラクター	'19/10	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
38	高槻透析セミナー	学術講演 座長	'19/11	高槻市	診療部 血管外科	谷村信宏
39	大阪ライフサポート協会AHA (ACLS) コース講習会	BLS・ACLSインストラクター	'19/11	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
40	大阪ライフサポート協会心肺蘇生・AED講習会	講師	'19/11	大阪市	診療部 血管外科	谷村信宏
41	井上腎友会・家族会令和元年学習会開催	透析患者様の健康寿命延伸をチーム医療でサポートする(脊椎, 関節, 骨, 運動の観点から)	'19/6	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
42	Simponi Seminar for Health Care Professional in 大阪	コメンテーター	'19/7	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
43	Mochida ファーマシーセミナー	座長	'19/7	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
44	第2回Baricitinib expert meeting	座長	'19/7	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
45	Osaka Osteoporosis Management Seminar	基調講演 座長	'19/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
46	Total Care Support Seminar ～フレイルと骨粗鬆症～	座長	'19/12	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
47	HUMIRA RA Meet The Expert in 北大阪	座長	'20/1	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
48	平成31年度腎疾患研究助成	慢性腎臓病患者における運動療法を含む 腎臓リハビリテーションの効果の検証	'19/5	大阪腎臓 バンク	技術部 リハビリ テーショ ン科	李 寿恵

介護老人保健施設つくも

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第19回大老協懇話会（事例発表会）	重度認知症利用者の口腔ケア～職員の口腔ケアへの意識付けを目指して～	'19/7	大阪市	療養科	中村一成, 川寄久美子, 円館尚子
2	高齢者の特徴と老化のポイント研修会（大老協主催）	高齢者がかかりやすい病気	'19/10	大阪市	施設長	揖場和子
3	第20回大阪病院学会	高齢者介護施設の新人看護師配置の課題	'19/10	大阪市	療養科	大西ついで子
4	第30回老年医学近畿地方会	老健施設における慢性腎不全の看取りからの学び	'19/11	京都市	施設長	揖場和子
5	大阪府理学療法士協会 大阪北支部新人症例発表会	右変形性膝関節症に対する運動療法で立位の耐久性が向上し、家事動作を再獲得した症例	'20/2	摂津市	リハビリテーション科	坂口菜穂

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第19回大老協懇話会（事例発表会）	【演題発表座長】 接遇・運営分野	'19/7	大阪市	施設長	揖場和子
2	第19回大老協懇話会（事例発表会）	【シンポジウム座長】 在宅支援・在宅復帰の取り組み	'19/7	大阪市	事務科	松本庸介

社会福祉法人 愛和会(宝塚地区)

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	愛仁会医学研究誌	4DAS導入による機能訓練への意識の変化	51	130-132, 2020	宝塚あい わ苑デイ サービス センター	後藤友希恵

社会福祉法人 愛和会(豊中地区)

著書発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁, 年	部署	著者
1	あすなろ事例集 平成の轍(わだち) 「心の声に耳を傾けて」～ともに歩んだ日々～	社会福祉法人 愛和会	300	52, 2019	障がい者施設あすなろ, 障がい支援科	石井伸幸他20名 監修:安藤 忠

愛仁会本部

口頭発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	「YCU病院経営プログラム」 安全管理学・ガバナンス講義	愛仁会の事務系人材育成	'19/5	横浜市	理事長	内藤嘉之
2	京都大学医学部附属病院 実 践的医療経営プロフェッショ ナル教育事業KUMAHOPE 第2回 市民公開講座	事務系人材育成で病院が変わる	'19/10	京都市	理事長	内藤嘉之
3	第39回医療情報学連合大会 (第20回日本医療情報学会学 術大会)	DWHとBIツールを活用した診療科別原価 計算の構築	'19/11	千葉市	企画・医 療情報グ ループ 医療情報 担当	田中信吾
4	公益社団法人横浜市病院協会 主催第21回学術講演会	成長戦略としての事務系人材育成	'19/11	横浜市	理事長	内藤嘉之

論文発表 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	掲載誌名	表題	巻号No.	掲載頁, 年	部署名	著者
1	横浜市病院協会報	成長戦略としての事務系人材育成	64	11-15, 2020	総務担 当, 学術 人材開発 担当 理 事長	濱西 隼, 車田絵里子, 内藤嘉之
2	愛仁会医学研究誌	障がい者雇用率を法定基準まで引き上 げ, 一般職員と障がい者が協同して働け る職場作りの取り組み	51	128-129, 2020	障がい者 雇用推進 センター	菅原隆志

その他 (2019/4/1～2020/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	Phase3 presents 医療機関向 け 情報ネットワークセミ ナー	病院における病院情報システムの過去～ 現在～未来 (IoTの可能性)	'19/7	大阪市	企画・医 療情報グ ループ 医療情報 担当	田中信吾
2	医療経営士・介護福祉経営 士・栄養経営士 関西支部合 同研究会	医療・介護現場のICT・IoT	'19/10	大阪市	企画・医 療情報グ ループ 医療情報 担当	田中信吾
3	第21回フォーラム「医療の改 善活動」全国大会 in 仙台	シンポジウム「医療のTQM推進を考える II 看護生産方式」座長	'19/11	仙台市	TQM担当理 事	伊藤成規
4	第21回フォーラム「医療の改 善活動」全国大会 in 仙台	改善事例発表 審査基準A 審査員	'19/11	仙台市	企画・医 療情報グ ループ 内部監 査・ TQM担当	榎村忠浩
5	第21回フォーラム「医療の改 善活動」全国大会 in 仙台	改善事例発表 審査基準B 審査員	'19/11	仙台市	企画・医 療情報グ ループ 内部監 査・ TQM担当	北濃幹人

愛仁会教育研修委員会

委員長 南 宏尚

委員 植田みゆき, 尾形秀子, 岡村稔子, 小田明美, 越智文雄
神谷亮平, 北郷操子, 小杉 正, 作山美香, 柴崎里美,
台野悦子, 筒井詠子, 寺崎玲子, 富田昌代, 中川文子,
中西昌平, 平中崇文, 森本 章, 横山直樹

(50音順)

年報 2019

発行日 2020年10月1日

発行所 社会医療法人愛仁会 愛仁会本部
学術人材開発部

〒555-0001 大阪府大阪市

西淀川区佃2丁目2番46号

TEL (06) 6375-0660 FAX (06) 6375-0560

<http://www.aijinkai.or.jp>